静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第207集

秋葉林遺跡 I

第二東名No.25地点

(旧石器時代～縄文時代草創期編)

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

沼津市－2

(第1分冊)

2009

中日本高速道路株式会社東京支社

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第207集

秋葉林遺跡 I

第二東名No.25地点

（旧石器時代～縄文時代草創期編）

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

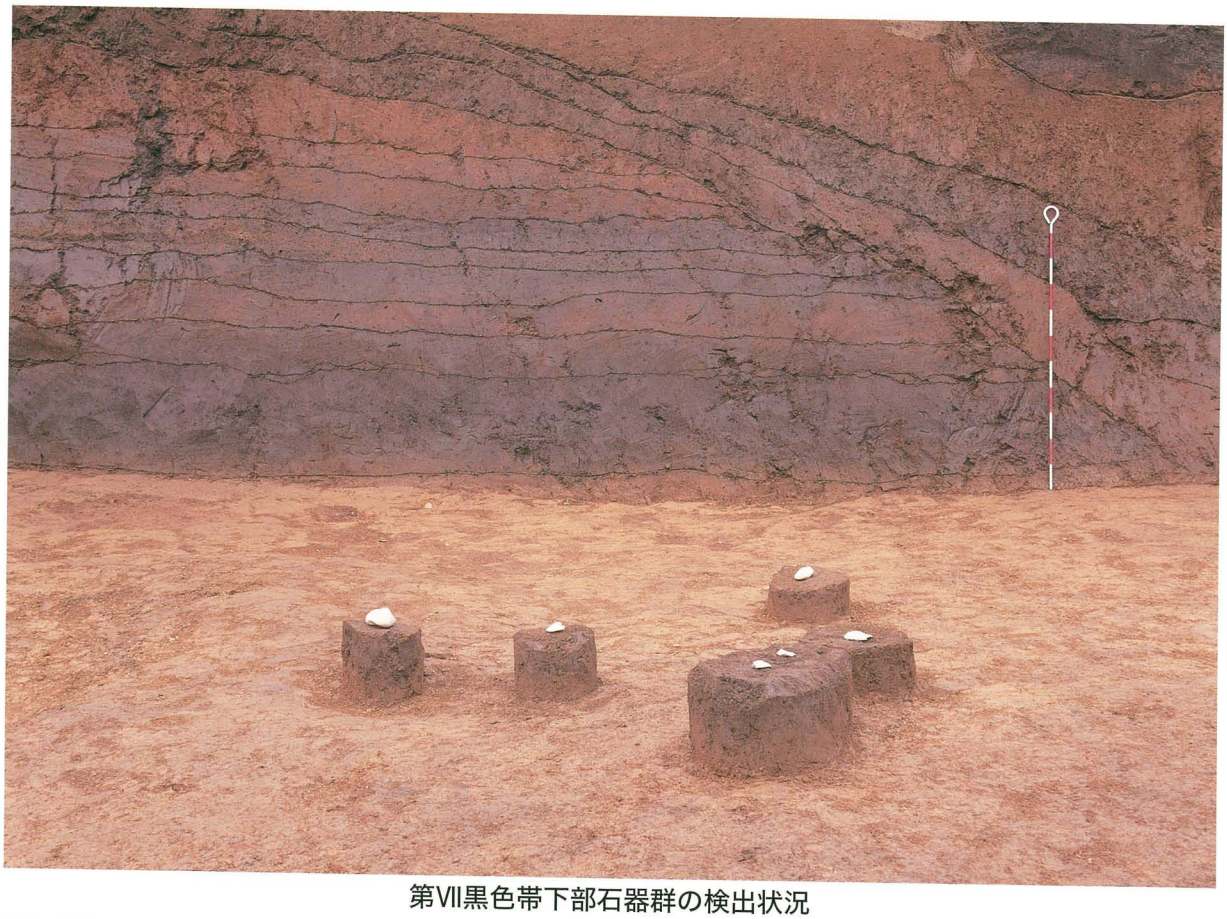
沼津市－２

（第１分冊）

２００９

中日本高速道路株式会社東京支社

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所



第Ⅶ黒色帯下部石器群の検出状況

第Ⅶ黒色帯下部石器群

序

第二東名高速道路の建設に伴って静岡県内では多くの埋蔵文化財発掘調査が行われました。静岡県東部の愛鷹山東南麓では旧石器時代から縄文時代の遺跡が多数存在することが知られており、第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財包蔵地における発掘調査によってさらに多くの貴重な遺跡が追加されました。

平成19年3月、沼津市に所在する元野遺跡（第二東名No.19地点）の調査報告書を刊行しました。今回報告する秋葉林遺跡（同No.25地点）は沼津市の調査報告としてはそれに続くものです。研究上でたいへん重要な遺構と遺物が大量に出土したため、後期旧石器時代初頭から縄文時代草創期編と縄文時代早期から古墳時代編とに分けて報告することになりました。

この成果が研究者や愛好家に資料として有効に活用されることを期待するとともに、幅広く一般の方々からのご理解も得られればと願っております。

現地調査および資料整理にあたり中日本高速道路株式会社東京支社（旧日本道路公団静岡建設局）、静岡県教育委員会、ほか多数の機関とご助言をくださった方々に厚く感謝の意を表します。

平成21年6月

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所　長　　天野　忍

例　言

1．本書は静岡県沼津市青野字秋葉林831他に所在する秋葉林遺跡の旧石器時代初頭から縄文時代草創期の遺構と遺物の発掘調査報告書である。なお、本書は第1分冊と第2分冊によって構成されており、本冊はその第1分冊である。

2．発掘調査は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本道路高速道路株式会社横浜支社沼津工事事務所（当時）の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成11年1月から同3月までに行った確認調査の結果を受け、平成11年4月から平成12年10月および平成18年4月から同6月まで実施した。

3．資料整理は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成13年8月から平成14年3月と、平成19年10月から平成21年6月まで実施した。

4．調査・整理体制とそれぞれの実施期間は以下の通りである。

平成10年度

（確認調査その1） 平成11年1月～同3月

所長　斎藤忠　　副所長　池谷和三　　常務理事兼総務部長　三村田昌昭　　調査研究部長　石垣英夫　　調査研究部次長兼調査研究1課長　栗野克己　　調査研究2課長　佐野五十三　　調査研究3課長　渡瀬治　　調査研究4課長　橋本敬之　　総務課長　初鹿野英治　　主任調査研究員　前嶋秀張　調査研究員　濱田由美子　岩本貴　高野穂多果

（確認調査その2） 平成11年3月

所長　斎藤忠　　副所長　池谷和三　　常務理事兼総務部長　三村田昌昭　　調査研究部長　石垣英夫　　調査研究部次長兼調査研究1課長　栗野克己　　調査研究2課長　佐野五十三　　調査研究3課長　渡瀬治　　調査研究4課長　橋本敬之　　総務課長　初鹿野英治　　主任調査研究員　前嶋秀張　調査研究員　濱田由美子　岩本貴　高野穂多果

平成11年度

（本調査Ⅰ期） 平成11年4月～同7月

所長　斎藤忠　　副所長　山下晃　　常務理事兼総務部長　伊藤友夫　　総務課長　鈴木敏雄　　調査研究部長　佐藤達雄　　調査研究部次長　佐野五十三　　調査研究1課長　及川司　　調査研究2課長　遠藤喜和　　主任調査研究員　前嶋秀張　　調査研究員　井上隆　富永樹之　鈴木康之

（本調査Ⅱ期） 平成11年6月～同12年6月

所長　斎藤忠　　副所長　山下晃　　常務理事兼総務部長　伊藤友夫　　総務課長　鈴木敏雄　　調査研究部長　佐藤達雄　　調査研究部次長　佐野五十三　　調査研究1課長　及川司　　調査研究2課長　遠藤喜和　　主任調査研究員　前嶋秀張　　調査研究員　井上隆　富永樹之　鈴木康之

（確認調査その3） 平成11年11月～同12月

所長　斎藤忠　　副所長　池谷和三　　常務理事兼総務部長　三村田昌昭　　調査研究部長　石垣英夫　　調査研究部次長兼調査研究1課長　栗野克己　　調査研究2課長　佐野五十三　　調査研究3課長　渡瀬治　　調査研究4課長　橋本敬之　　総務課長　初鹿野英治　　主任調査研究員　前嶋秀張　調査研究員　濱田由美子　岩本貴　高野穂多果

平成12年度

（本調査Ⅲ期） 平成12年1月～同10月（10月は拡張部の追加調査）

所長　斎藤忠　　副所長　山下晃　　常務理事兼総務部長　伊藤友夫　　総務課長　鈴木敏雄　　調査研究部長　佐藤達雄　　調査研究部次長　佐野五十三　　調査研究1課長　及川司　　調査研究2課長　遠藤喜和　　主任調査研究員　前嶋秀張　　調査研究員　井上隆　鈴木康之　岩名健太郎

平成18年度（平成18年4月～同6月）

（本調査Ⅳ期）

所長　斎藤忠　　常務理事兼総務部長　平松公夫　　総務部次長兼総務課長　鈴木大二郎　　調査研究部長　石川基久　　調査研究部次長兼調査課長　及川司　　調査研究部次長　佐野五十三　稲葉保幸　　主任調査研究員　中鉢賢治　調査研究員　木崎道昭

平成19年度（平成19年8月～平成20年3月）

（資料整理）

所長　斎藤忠　　常務理事兼事務局長　清水哲　　事務局次長兼総務課長　大場正夫　　事務局次長兼調査課長　及川司　　事務局次長　佐野五十三　稲葉保幸　　保存処理室長　西尾太加二　　調査研究員　遠藤圭一

平成20年度（平成20年5月～平成21年3月）

（資料整理）

所長兼常務理事　清水哲　　次長兼総務課長　大場正夫　次長兼事業係長　稲葉保幸　　次長兼調査課長　及川司　　保存処理室長　西尾太加二　　常勤嘱託員　阿部敬

平成21年度（平成21年4月～平成21年6月）

（資料整理）

所長兼常務理事　天野忍　　次長兼総務課長　村松享　　次長兼事業係長　稲葉保幸　　次長兼調査課長　及川司　　次長兼東部調査係長　中鉢賢治　　保存処理室長　西尾太加二　　常勤嘱託員　阿部敬

5．発掘調査における掘削業務と測量業務の大部分は以下の業者に委託した。

平成10年度（確認調査その1）　測量業務　株式会社イビソク

平成10年度（確認調査その2）

平成11年度（本調査Ⅰ期）　測量業務　アジア航測株式会社

平成11年度（本調査Ⅱ期）　測量業務　アジア航測株式会社

平成11年度（確認調査その3）　測量業務　加藤建設株式会社

平成11年度（本調査Ⅲ期）掘削業務　拓和産業株式会社　　測量業務　アジア航測株式会社

平成12年度（本調査Ⅲ期）掘削業務　拓和産業株式会社　　測量業務　アジア航測株式会社

平成18年度（本調査Ⅳ期）掘削業務　株式会社植松建設　　測量業務　加藤建設株式会社

6．石器実測及びトレースは、大部分の打製石斧・接合資料・剥片石器類、一部の礫石器類を株式会社ラングと株式会社東京航業研究所に委託し、ほかは当財団で行った。

7．本書の編集と執筆は阿部が行った。

8．発掘調査および資料整理において以下の方々に御指導を賜った。厚く御礼申し上げる。

安斎正人　池谷信之　出穂雅美　尾田織好　小田寛貴　叶内敦子　国武貞克　小崎晋　佐藤宏之　里田保文　芝康次郎　白石浩之　高尾好之　高橋啓一　仲田大人　役重みゆき　山岡拓也　（五十音順・敬称略）

9．発掘調査資料は静岡県教育委員会が保管している。

凡　例

1．調査区の方眼設定は、国土座標（平面直角座標Ⅷ系）の（-94500．28680）を（A．0）と設定した。ただし、座標は平成15年度改訂以前の旧座標を使用している。
2．グリッドは10m×10mである。各グリッドの呼称は、該当するグリッド南西角の座標名称を採用している。
3．出土遺物は5桁の通し番号を付して取り上げ、これを遺物番号とした。遺物番号と本報告書掲載番号の対応関係は出土石器属性表を参照のこと。
4．石器の実測は原則として第三角投影図法に準拠した。
5．石器の分類は以下のとおりである。砕片：最大長10㎜未満の剥片類とした。石刃：長さが幅の2倍以上ある剥片類とした。細石刃：石刃のうち幅が5㎜未満のものとした。礫石器：剥離痕、敲打痕、研磨痕（擦痕）のうち原則として1つ以上が認められるもの。
6．石器実測図の研磨痕（擦痕）はトーンを入れて表現した。
7．石器実測図の縮尺は以下の通り。
　二次加工石器類、剥片類、石核：2/3
　磨石・敲石類・石皿・台石：1/3
8．礫群実測図の縮尺は1/20、1/40のいずれかである。
9．第4章と第5章の石器分布図の縮尺は以下の通り。なお、1/2400と1/250の図には垂直分布を表していない。
　各文化層全体の石器分布および礫分布：1/2400
　石器集中・礫群：1/250、1/100、1/50のうち1つまたは2つ
10．色彩に関する記号は、新版『標準土色帳』（農林水産省技術会議事務局監修1992）に準拠した。
11．石器集中は、個体別資料や接合資料の検討とは無関係に、5点以上の石器が集中して検出されていることを基準として設定した。石器集中の番号（「石器集中○」）は、異なる文化層を横断して連番を付した。
12．礫群は3点以上の大型礫が集中して検出されていることを基準に設定した。礫群の番号（「○号礫群」）は発掘調査で図を記録した順に付した。整理作業段階で抽出した礫群にはそれに続く番号を付した。
13．文化層は、安定的な礫群の主要な包含層を基準として、層位の低い方から順に設定し、番号を付した。

秋葉林遺跡Ⅰ

－第１分冊－

目　次

巻頭図版
序
例言・凡例
目次

第１章　調査に至る経緯……1

第２章　調査の方法と経過……3

第１節　調査の方法……3
第２節　調査の経過……3
第３節　報告書の作成……13

第３章　遺跡の環境……57

第１節　地理環境……57
第２節　歴史環境……57

第４章　旧石器時代の遺構と遺物……65

概要
第１節　第Ⅰ文化層（第Ⅶ黒色帯下部を中心とする遺構と遺物）……66
概要
１．石器集中……66
２．出土石器の検討……66
３．その他の遺物……70
第２節　第Ⅱ文化層（第Ⅲスコリア帯b1から同s1を中心とする遺構と遺物）……73
概要
１．石器集中……75
２．出土石器の検討……94
３．礫群……107
第３節　第Ⅲ文化層（第Ⅲ黒色帯を中心とする遺構と遺物）……111
概要
１．石器集中……111
２．出土石器の検討……111
第４節　第Ⅳ文化層（第Ⅱ黒色帯上部を中心とする遺構と遺物）……117
概要

１．石器集中……117
２．出土石器の検討……124
第５節　第Ｖ文化層（ニセローム層下部を中心とする遺構と遺物）……127
概要
礫群……127
第６節　第Ⅵ文化層（第Ⅰ黒色帯を中心とする遺構と遺物）……129
概要
１．石器集中……129
２．出土石器の検討……129
３．礫群……129
第７節　第Ⅶ文化層（休場層直下黒色帯上部を中心とする遺構と遺物）……134
概要
１．石器集中……136
２．出土石器の検討……153
３．礫群……162
第８節　第Ⅷ-Ｘ文化層（休場層を中心とする遺構と遺物）……174
概要
１．第1地区の石器群……176
２．第2地区の石器群……186
３．第3地区の石器群……191
４．第4地区の石器群……215
５．第5地区の石器群……224
６．第6地区の石器群……239
７．第7地区の石器群……246
８．第8地区の石器群……249
９．第9地区の石器群……263
10．第10地区の石器群……271
11．第11地区の石器群……281
12．第12地区の石器群……291
13．第13地区の石器群……297
14．第14地区の石器群……306
15．第15地区の石器群……332
16．第16地区の石器群……335
17．第17地区の石器群……338
18．第18地区の石器群……342
19．第19地区の石器群……345
20．その他の石器群……348
21．礫群……352

挿図目次

第 1 図 秋葉林遺跡と周辺の第二東名関連遺跡の調査範囲……4
第 2 図 グリッドの設定……5
第 3 図 調査区の設定……6
第 4 図 テストピットの配置……7
第 5 図 トレンチの配置……8
第 6 図 セクション図の配列……12
第 7 図 トレンチとテストピットのセクション（1）……14
第 8 図 トレンチとテストピットのセクション（2）……15
第 9 図 トレンチとテストピットのセクション（3）……16
第 10 図 トレンチとテストピットのセクション（4）……17
第 11 図 トレンチとテストピットのセクション（5）①……18
第 12 図 トレンチとテストピットのセクション（5）②……19
第 13 図 トレンチとテストピットのセクション（6）①……20
第 14 図 トレンチとテストピットのセクション（6）②……21
第 15 図 トレンチとテストピットのセクション（7）……22
第 16 図 トレンチとテストピットのセクション（8）……23
第 17 図 トレンチとテストピットのセクション（9）……24
第 18 図 トレンチとテストピットのセクション（10）……25
第 19 図 トレンチとテストピットのセクション（11）……26
第 20 図 トレンチとテストピットのセクション（12）……27
第 21 図 トレンチとテストピットのセクション（13）……28
第 22 図 トレンチとテストピットのセクション（14）……29
第 23 図 トレンチとテストピットのセクション（15）……30
第 24 図 トレンチとテストピットのセクション（16）……31
第 25 図 トレンチとテストピットのセクション（17）……32
第 26 図 トレンチとテストピットのセクション（18）……33
第 27 図 トレンチとテストピットのセクション（19）……34
第 28 図 トレンチとテストピットのセクション（20）……35
第 29 図 トレンチとテストピットのセクション（21）……36
第 30 図 トレンチとテストピットのセクション（22）……37
第 31 図 トレンチとテストピットのセクション（23）①……38
第 32 図 トレンチとテストピットのセクション（23）②……39
第 33 図 トレンチとテストピットのセクション（24）①……40
第 34 図 トレンチとテストピットのセクション（24）②……41
第 35 図 トレンチとテストピットのセクション（25）①……42
第 36 図 トレンチとテストピットのセクション（25）②……43
第 37 図 トレンチとテストピットのセクション（26）①……44
第 38 図 トレンチとテストピットのセクション（26）②……45
第 39 図 トレンチとテストピットのセクション（27）①……46
第 40 図 トレンチとテストピットのセクション（27）②……47

第41図 トレンチとテストピットの
セクション（28）……48
第42図 トレンチとテストピットの
セクション（29）……49
第43図 トレンチとテストピットの
セクション（30）……50
第44図 トレンチとテストピットの
セクション（31）……51
第45図 トレンチとテストピットの
セクション（32）……52
第46図 トレンチとテストピットの
セクション（33）……53
第47図 トレンチとテストピットの
セクション（34）……54
第48図 トレンチとテストピットの
セクション（35）……55
第49図 トレンチとテストピットの
セクション（36）……56
第50図 基本層序と文化層……56
第51図 周辺の主要遺跡分布……58
第52図 第Ⅰ文化層　石器分布……67
第53図 第Ⅰ文化層　石器集中1
器種別分布……68
第54図 第Ⅰ文化層　石器集中1
石材別分布……69
第55図 第Ⅰ文化層の石器群（1）……70
第56図 第Ⅰ文化層の石器群（2）……71
第57図 BBVI-SCⅢs2　礫分布……72
第58図 第Ⅱ文化層　石器分布……74
第59図 第Ⅱ文化層　石器集中2-4
器種別分布……76
第60図 第Ⅱ文化層　石器集中2-4
石材別分布……77
第61図 第Ⅱ文化層　石器集中2
器種別分布……78
第62図 第Ⅱ文化層　石器集中2
石材別分布……79
第63図 第Ⅱ文化層　石器集中3
器種別分布……80
第64図 第Ⅱ文化層　石器集中3
石材別分布……81
第65図 第Ⅱ文化層　石器集中4
器種別分布（上）・石材別分布（下）……82
第66図 第Ⅱ文化層　石器集中5-9
器種別分布……84
第67図 第Ⅱ文化層　石器集中5-9
石材別分布……85
第68図 第Ⅱ文化層　石器集中5
器種別分布（上）・石材別分布（下）……86
第69図 第Ⅱ文化層　石器集中6
器種別分布（上）・石材別分布（下）……87
第70図 第Ⅱ文化層　石器集中7
器種別分布……88
第71図 第Ⅱ文化層　石器集中7
石材別分布……89
第72図 第Ⅱ文化層　石器集中5・6・8
器種別分布……90
第73図 第Ⅱ文化層　石器集中5・6・8
石材別分布……91
第74図 第Ⅱ文化層　石器集中9
器種別分布……92
第75図 第Ⅱ文化層　石器集中9
石材別分布……93
第76図 第Ⅱ文化層の石器群（1）……95
第77図 第Ⅱ文化層の石器群（2）……97
第78図 第Ⅱ文化層の石器群（3）……98
第79図 第Ⅱ文化層の石器群（4）……100
第80図 第Ⅱ文化層の石器群（5）……101
第81図 第Ⅱ文化層の石器群（6）……102
第82図 第Ⅱ文化層の石器群（7）……103
第83図 第Ⅱ文化層の石器群（8）……104
第84図 第Ⅱ文化層の石器群（9）……105
第85図 第Ⅱ文化層の石器群（10）……106
第86図 第Ⅱ文化層の石器群（11）……107
第87図 第Ⅱ文化層　礫分布……108
第88図 第Ⅱ文化層　18号礫群……109
第89図 第Ⅱ文化層　20号礫群……109
第90図 第Ⅱ文化層　その他の石器と礫分布
……110
第91図 第Ⅲ文化層　石器分布……112
第92図 第Ⅲ文化層　石器集中10
器種別分布……113

第 93 図 第Ⅲ文化層　石器集中10
石材別分布……114
第 94 図 第Ⅲ文化層の石器群（1）……115
第 95 図 第Ⅲ文化層の石器群（2）……116
第 96 図 第Ⅳ文化層　石器分布……118
第 97 図 第Ⅳ文化層
器種別分布（上）・石材別分布（下）……119
第 98 図 第Ⅳ文化層　石器集中11
器種別分布……120
第 99 図 第Ⅳ文化層　石器集中11
石材別分布……121
第100図 第Ⅳ文化層　石器集中12
器種別分布……122
第101図 第Ⅳ文化層　石器集中12
石材別分布……123
第102図 第Ⅳ文化層の石器群（1）……125
第103図 第Ⅳ文化層の石器群（2）……126
第104図 第Ⅴ文化層　19号礫群……127
第105図 第Ⅴ文化層　礫分布……128
第106図 第Ⅵ文化層　石器分布……130
第107図 第Ⅵ文化層　石器集中13
器種別分布（上）・石材別分布（下）……131
第108図 第Ⅵ文化層の石器群……132
第109図 第Ⅵ文化層　2号礫群……132
第110図 第Ⅵ文化層　礫分布……133
第111図 第Ⅶ文化層　石器分布……135
第112図 第Ⅶ文化層　石器集中14
器種別分布……137
第113図 第Ⅶ文化層　石器集中14
石材別分布……138
第114図 第Ⅶ文化層　石器集中15
器種別分布……140
第115図 第Ⅶ文化層　石器集中15
石材別分布……141
第116図 第Ⅶ文化層　石器集中16
器種別分布……142
第117図 第Ⅶ文化層　石器集中16
石材別分布……143
第118図 第Ⅶ文化層　石器集中17
器種別分布……144
第119図 第Ⅶ文化層　石器集中17
石材別分布……145
第120図 第Ⅶ文化層　石器集中18・19
器種別分布（上）・石材別分布（下）……147
第121図 第Ⅶ文化層　石器集中18
器種別分布……148
第122図 第Ⅶ文化層　石器集中18
石材別分布……149
第123図 第Ⅶ文化層　石器集中19
器種別分布……150
第124図 第Ⅶ文化層　石器集中19
石材別分布……151
第125図 第Ⅶ文化層　石器集中20
器種別分布（上）・石材別分布（下）……152
第126図 第Ⅶ文化層の石器群（1）……154
第127図 第Ⅶ文化層の石器群（2）……156
第128図 第Ⅶ文化層の石器群（3）……158
第129図 第Ⅶ文化層の石器群（4）……159
第130図 第Ⅶ文化層の石器群（5）……160
第131図 第Ⅶ文化層の石器群（6）……162
第132図 第Ⅶ文化層　礫分布……163
第133図 第Ⅶ文化層
39号・40号・41号礫群の分布……164
第134図 第Ⅶ文化層　39号礫群……165
第135図 第Ⅶ文化層　40号礫群……166
第136図 第Ⅶ文化層　41号礫群……166
第137図 第Ⅶ文化層　44号・45号・47号・
54号・55号礫群の分布……167
第138図 第Ⅶ文化層　44号礫群……168
第139図 第Ⅶ文化層　45号・54号・
55号礫群……168
第140図 第Ⅶ文化層　47号礫群……169
第141図 第Ⅶ文化層　5号礫群の分布……170
第142図 第Ⅶ文化層　5号礫群……171
第143図 第Ⅶ文化層　51号・52号・
53号礫群の分布……172
第144図 第Ⅶ文化層　51号礫群……172
第145図 第Ⅶ文化層　52号礫群……173
第146図 第Ⅶ文化層　53号礫群……173
第147図 第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器分布……175

第148図 第1地区　第Ⅷ文化層　器種別分布 ……177
第149図 第1地区　第Ⅷ文化層　石材別分布 ……178
第150図 第1地区　第Ⅷ文化層　石器集中23 器種別分布……180
第151図 第1地区　第Ⅷ文化層　石器集中23 石材別分布……181
第152図 第1地区　第Ⅷ文化層の石器群（1） ……182
第153図 第1地区　第Ⅷ文化層の石器群（2） ……184
第154図 第1地区　第Ⅷ文化層の石器群（3） ……185
第155図 第2地区　第Ⅷ-Ｘ文化層 器種別分布……187
第156図 第2地区　第Ⅷ-Ｘ文化層 石材別分布……188
第157図 第2地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の 石器群……190
第158図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層 器種別分布……192
第159図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層 石材別分布……193
第160図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層 石器集中31・32　器種別分布……195
第161図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層 石器集中31・32　石材別分布……196
第162図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の 石器群（1） ……198
第163図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の 石器群（2） ……201
第164図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の 石器群（3） ……204
第165図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の 石器群（4） ……205
第166図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の 石器群（5） ……207
第167図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の 石器群（6） ……208
第168図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の 石器群（7） ……209
第169図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の 石器群（8） ……210
第170図 第3地区　第Ⅷ文化層　石器集中33 器種別分布（上）・石材別分布（下）……211
第171図 第3地区　第Ⅷ文化層の石器群（1） ……212
第172図 第3地区　第Ⅷ文化層の石器群（2） ……213
第173図 第3地区　第Ⅷ文化層の石器群（3） ……214
第174図 第4地区　第Ⅸ文化層　器種別分布 ……216
第175図 第4地区　第Ⅸ文化層　石材別分布 ……217
第176図 第4地区　第Ⅸ文化層　石器集中34 器種別分布……218
第177図 第4地区　第Ⅸ文化層　石器集中34 石材別分布……219
第178図 第4地区　第Ⅸ文化層の石器群（1） ……221
第179図 第4地区　第Ⅸ文化層の石器群（2） ……223
第180図 第5地区　第Ⅷ文化層　器種別分布 ……225
第181図 第5地区　第Ⅷ文化層　石材別分布 ……226
第182図 第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中35 器種別分布……228
第183図 第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中35 石材別分布……229
第184図 第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中36 器種別分布……230
第185図 第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中36 石材別分布……231
第186図 第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中37 器種別分布（上）・石材別分布（下）……232
第187図 第5地区　第Ⅷ文化層の石器群（1） ……234

第188図 第5地区　第Ⅷ文化層の石器群（2）……237
第189図 第5地区　第Ⅷ文化層の石器群（3）……238
第190図 第5地区　第Ⅷ文化層の石器群（4）……239
第191図 第6地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
器種別分布（細石刃石器群を除く）……240
第192図 第6地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
石材別分布（細石刃石器群を除く）……241
第193図 第6地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
細石刃石器群　器種別分布……242
第194図 第6地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
細石刃石器群　石材別分布……243
第195図 第6地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群
……245
第196図 第7地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
器種別分布……247
第197図 第7地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
石材別分布……248
第198図 第7地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群
……249
第199図 第8地区　第Ⅸ文化層　器種別分布
……250・251
第200図 第8地区　第Ⅸ文化層　石材別分布
……252・253
第201図 第8地区　第Ⅸ文化層　石器集中30
器種別分布……255
第202図 第8地区　第Ⅸ文化層　石器集中30
石材別分布……256
第203図 第8地区　第Ⅸ文化層の石器群（1）
……258
第204図 第8地区　第Ⅸ文化層の石器群（2）
……259
第205図 第8地区　第Ⅸ文化層の石器群（3）
……260
第206図 第8地区　第Ⅸ文化層の石器群（4）
……261
第207図 第9地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
器種別分布……264
第208図 第9地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
石材別分布……265
第209図 第9地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（1）……267
第210図 第9地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（2）……269
第211図 第9地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（3）……270
第212図 第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
器種別分布……272
第213図 第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
石材別分布……273
第214図 第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
細石刃石器群の分布……274
第215図 第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（1）……276
第216図 第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（2）……277
第217図 第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（3）……279
第218図 第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（4）……280
第219図 第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（5）……281
第220図 第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
器種別分布……283
第221図 第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
石材別分布……284
第222図 第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
細石刃石器群　器種別分布……285
第223図 第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
細石刃石器群　石材別分布……286
第224図 第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（1）……288
第225図 第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（2）……289
第226図 第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の
石器群（3）……290
第227図 第12地区　第Ⅷ-Ｘ文化層
器種別分布……292

第228図 第12地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層
石材別分布……293
第229図 第12地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層
細石刃石器群　器種別分布（上）・
石材別分布（下）……294
第230図 第12地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層の石器群
……296
第231図 第13地区　第Ⅷ文化層　器種別分布
……298
第232図 第13地区　第Ⅷ文化層　石材別分布
……299
第233図 第13地区　第Ⅷ文化層の石器群（1）
……301
第234図 第13地区　第Ⅷ文化層の石器群（2）
……303
第235図 第13地区　第Ⅷ文化層の石器群（3）
……304
第236図 第13地区　第Ⅹ文化層
細石刃石器群の分布……305
第237図 第13地区　第Ⅹ文化層の石器群……305
第238図 第14地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層
器種別分布（ホルンフェルス製石器群と
細石刃石器群を除く）……310
第239図 第14地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層
石材別分布（ホルンフェルス製石器群と
細石刃石器群を除く）……311
第240図 第14地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層
ホルンフェルス製石器群　器種別分布……312
第241図 第14地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層
細石刃石器群　器種別分布……313
第242図 第14地区の石器群（1）……314
第243図 第14地区の石器群（2）……316
第244図 第14地区の石器群（3）……318
第245図 第14地区の石器群（4）……320
第246図 第14地区の石器群（5）……321
第247図 第14地区の石器群（6）……322
第248図 第14地区の石器群（7）……323
第249図 第14地区の石器群（8）……324
第250図 第14地区の石器群（9）……325
第251図 第14地区の石器群（10）……326
第252図 第14地区の石器群（11）……327
第253図 第14地区の石器群（12）……328
第254図 第14地区の石器群（13）……329
第255図 第14地区の石器群（14）……330
第256図 第14地区の石器群（15）……331
第257図 第15地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層
器種別分布……333
第258図 第15地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層
石材別分布……334
第259図 第15地区の石器群……335
第260図 第16地区　器種別分布……336
第261図 第16地区　石材別分布……337
第262図 第16地区の石器群……338
第263図 第17地区　器種別分布……339
第264図 第17地区　石材別分布……340
第265図 第17地区の石器群……341
第266図 第18地区　器種別分布……342
第267図 第18地区　石材別分布……343
第268図 第18地区の石器群……344
第269図 第19地区の石器群……345
第270図 第19地区　器種別分布……346
第271図 第19地区　石材別分布……347
第272図 その他の石器群……349
第273図 第Ⅷ文化層　礫分布……353
第274図 第Ⅷ文化層　49号礫群……354
第275図 第Ⅷ文化層　38号礫群……354
第276図 第5地区　4号・6号・7号・
9号・10号礫群の分布……355
第277図 第Ⅷ文化層　4号礫群……356
第278図 第Ⅷ文化層　6号礫群……356
第279図 第Ⅷ文化層　7号礫群……357
第280図 第Ⅷ文化層　9号礫群……357
第281図 第Ⅷ文化層　10号礫群……358
第282図 第Ⅷ文化層　22号礫群……359
第283図 第Ⅷ文化層　25号礫群……359
第284図 第Ⅷ文化層　29号礫群……360
第285図 第1地区　第Ⅷ文化層15号・
16号・17号礫群の分布……361
第286図 第Ⅷ文化層　15号礫群……363
第287図 第Ⅷ文化層　17号礫群……363
第288図 第Ⅷ文化層　16号礫群……363
第289図 第Ⅷ文化層　37号礫群……364

第290図 第Ⅸ文化層　礫分布……365
第291図 第Ⅸ文化層　48号礫群……366
第292図 第Ⅸ文化層　50号礫群……366
第293図 第Ⅸ文化層　43号礫群……367
第294図 第Ⅸ文化層　42号礫群……367
第295図 第4地区　第Ⅸ文化層
8号・11号・12号礫群の分布……368
第296図 第Ⅸ文化層　8号礫群……369
第297図 第Ⅸ文化層　11号礫群……369
第298図 第Ⅸ文化層　12号礫群……369
第299図 第Ⅸ文化層　13号礫群……370
第300図 第Ⅸ文化層　14号礫群……371
第301図 第Ⅸ文化層　3号礫群……372
第302図 第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層
23号・24号・25号礫群の分布……373
第303図 第Ⅸ文化層　23号礫群……375
第304図 第Ⅸ文化層　24号礫群……375
第305図 第Ⅸ文化層　26号礫群……375
第306図 第Ⅸ文化層　27号礫群……376
第307図 第Ⅸ文化層　28号礫群……376
第308図 第Ⅸ文化層　1号礫群……377
第309図 第Ⅸ文化層　36号礫群……377
第310図 第Ⅸ文化層　34号礫群……378
第311図 第Ⅸ文化層　30号礫群……378
第312図 第Ⅹ文化層　礫分布……379
第313図 第Ⅹ文化層　46号礫群……380
第314図 第Ⅹ文化層　35号礫群……381
第315図 第Ⅹ文化層　33号礫群……381
第316図 第Ⅹ文化層　31号礫群……381
第317図 第Ⅹ文化層　32号礫群……381
第318図 第Ⅷ-Ⅹ文化層　その他の礫分布……382

挿表目次

表1　本調査期間……9
表2　沼津周辺の主要遺跡一覧……59
表3　遺構と遺物の概要……65
表4　第Ⅰ文化層　石器集中1　石器組成……66
表5　第Ⅱ文化層　石器組成……73
表6　第Ⅱ文化層　石器集中2　石器組成……75
表7　第Ⅱ文化層　石器集中3　石器組成……75
表8　第Ⅱ文化層　石器集中4　石器組成……75
表9　第Ⅱ文化層　石器集中5　石器組成……83
表10 第Ⅱ文化層　石器集中6　石器組成……83
表11 第Ⅱ文化層　石器集中7　石器組成……83
表12 第Ⅱ文化層　石器集中8　石器組成……83
表13 第Ⅱ文化層　石器集中9　石器組成……83
表14 第Ⅲ文化層　石器集中10　石器組成……111
表15 第Ⅳ文化層　石器組成……117
表16 第Ⅳ文化層　石器集中11　石器組成……117
表17 第Ⅳ文化層　石器集中12　石器組成……117
表18 第Ⅵ文化層　石器組成……129
表19 第Ⅵ文化層　石器集中13　石器組成……129
表20 第Ⅶ文化層　石器組成（1）……134
表21 第Ⅶ文化層　石器組成（2）……134
表22 第Ⅶ文化層　石器集中14　石器組成……136
表23 第Ⅶ文化層　石器集中15　石器組成……139
表24 第Ⅶ文化層　石器集中16　石器組成……139
表25 第Ⅶ文化層　石器集中17　石器組成……145
表26 第Ⅶ文化層　石器集中18　石器組成……146
表27 第Ⅶ文化層　石器集中19　石器組成……146
表28 第Ⅶ文化層　石器集中20　石器組成……146
表29 第1地区　第Ⅷ文化層　石器組成……176
表30 第1地区　第Ⅷ文化層　石器集中23
石器組成……179
表31 第2地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成……186
表32 第2地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中24
石器組成……186
表33 第2地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中25
石器組成……186
表34 第3地区　第Ⅷ-Ⅸ文化層　石器組成……191
表35 第3地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層　石器集中31
石器組成……194

表36 第3地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層　石器集中32
石器組成……197
表37 第3地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層　石器集中33
石器組成……197
表38 第4地区　第Ⅸ文化層　石器組成……215
表39 第4地区　第Ⅸ文化層　石器集中34
石器組成……220
表40 第5地区　第Ⅷ文化層　石器組成……224
表41 第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中35
石器組成……227
表42 第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中36
石器組成……227
表43 第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中37
石器組成……227
表44 第6地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成……239
表45 第7地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層　石器組成
……246
表46 第8地区　第Ⅸ文化層　石器組成……254
表47 第8地区　第Ⅸ文化層　石器集中30
石器組成……254
表48 第9地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成……263
表49 第9地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中38
石器組成……266
表50 第9地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中39
石器組成……266
表51 第10地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成…271
表52 第10地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中40
石器組成……275
表53 第10地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中41
石器組成……275
表54 第11地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成…282
表55 第11地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中42
石器組成……282
表56 第11地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中43
石器組成……282
表57 第11地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　細石刃石器群
石器組成……282
表58 第12地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成…291
表59 第12地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中44
石器組成……291
表60 第13地区　第Ⅷ・Ⅹ文化層　石器組成‥297
表61 第13地区　第Ⅷ文化層　石器集中21
石器組成……300
表62 第13地区　第Ⅷ文化層　石器集中22
石器組成……300
表63 第14地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成 (1)
……307
表64 第14地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成 (2)
……307
表65 第14地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中26
石器組成……308
表66 第14地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中27
石器組成……308
表67 第14地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中28
石器組成……309
表68 第14地区　細石刃石器群　石器組成……309
表69 第15地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中29
石器組成……332
表70 第16地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成…335
表71 第17地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成…338
表72 第18地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成…343
表73 第19地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成…345
表74 その他の石器群　石器組成……349
表75 旧石器時代石器群　接合資料
器種組成……350

写真図版目次

巻頭図版　第Ⅶ黒色帯下部石器群の検出状況
第Ⅶ黒色帯下部石器群

第１章　調査に至る経緯

混雑する東名・名神高速道路の抜本的な対策として昭和62年の道路審議会において第二東名・第二名神の建設が建議された。その後、第4次全国総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道路建設法の一部改正等を経て、平成元年1月に開催された第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において飛島村～神戸市間の第二名神とともに、横浜市から東海市に至る延長約270㎞の第二東名高速道路の基本計画が策定された。静岡県内においては東西に貫く形となり、その延長は約170㎞に及ぶ。この基本計画の策定を受けて静岡県は平成元年12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置し、教育委員会文化課もメンバーとして参加した。

その後、第二東名の基本計画については、文化財を含む環境影響調査等が行われ、ほかの公共事業や地域開発計画との調整をはかった上、平成3年9月24日には静岡県長泉町～引佐町の都市計画決定告示がなされた。

こうした環境影響調査と並行する形で、埋蔵文化財の分布状況の把握作業もなされている。第二東名建設に関する調査の指示を受けた日本道路公団は平成4年2月17日付けで文化庁へ通知を行うとともに、平成4年5月11日付けで日本道路公団東京第一建設局長から静岡県教育委員会教育長宛に、長泉町～引佐町間の埋蔵文化財分布調査の手続きの依頼を行った。また、平成4年8月27日付けで日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務局長から静岡県教育委員会教育長宛に、「第二東名自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」の照会がなされている。これを受けて県教育委員会は平成4年9月29日に関係市町村教育委員会を集めて第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を開催するとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在についての照会を行った。踏査結果については、各市町村教育委員会からの回答をもとに協議を行い、県教育委員会が取りまとめたものを平成5年3月18日付けで静岡県教育委員会教育長から日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所等宛に回答がなされている。この時点での調査対象箇所は136カ所、調査対象総面積が1,453,518㎡となっている。

その後、長泉町～引佐町間については、平成5年11月19日付けで日本道路公団に施行命令が出された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局および静岡県土木部高速道路建設課、静岡県教育委員会文化課で埋蔵文化財調査の進め方について協議が行われた。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について協議されるとともに、発掘調査の実施については日本道路公団が財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所へ委託することが確認された。しかしながら、第二東名建設に伴う埋蔵文化財調査については、短期間に膨大な調査量が想定されるため調査体制をどのように確保するかが大きな課題となった。

さらに平成6年度には、県教育委員会文化課職員が上記の調査対象箇所について具体的な調査を進めるための状況調査を行うとともに、前年に示されたパーキングエリア・サービスエリア予定地についての踏査を当該市町村教育委員会に依頼、年度末にはその報告ととりまとめがなされた。こうした状況調査や新たな踏査結果をもとに見直しがされた結果、この段階での調査対象地点は133箇所、調査対象総面積は1,286,759㎡となった。

平成7年度後半には、路線の一部では幅杭の打設が開始され、埋蔵文化財の調査の開始についてもかなり見通しが出てきた。こうした状況の中で、第二東名建設にかかる埋蔵文化財の取り扱いを協議する場として、日本道路公団静岡建設所（平成6年2月設置）と県教育委員会文化課による「第二東名関連埋蔵文化財連絡調整会議」が設置され、第1回の協議が平成7年12月13日に行われた。これ以降、細かい埋蔵文化財の取り扱いについてはこの会議で協議することとなった。なお、日本道路公団静岡建設所は平成8年7月1日をもって日本道路公団静岡建設局に改組された。

平成8年度には、第二東名建設にかかる埋蔵文化財の調査の実施が具体化し、日本道路公団静岡建設局と静岡県教育委員会は、平成8年9月24日付けで第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いについての確認書を締結した。さらに調査実施機関である財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所を入れた3者は平成8年9月25日付けで第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査実施方法等について定めた協定書を締結し、平成8年度内に一部埋蔵文化財の調査に着手していくこととなった。年度後半には、掛川市倉真のNo.94地点、浜北市大平のNo.136地点およびNo.137地点の確認調査が実施された。その後、平成9年度からは、発掘調査も本格化し、県内各地において確認調査から順次着手した。

一方、長泉町～御殿場市間についても日本道路公団に対し、平成9年1月31日付けで施行命令が出されている。この区間については、建設省の立会いにより平成6年度後半に踏査が行われ、調査対象地点のリストアップが行われたが、調査開始を受けて再度、平成10年9月2日付けで日本道路公団静岡建設局より静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」の照会がなされた。これをうけて、県教育委員会文化課は、関係する市町村教育委員会に平成10年9月25日付で再踏査の依頼をするとともに、10月2日には踏査の実施に関する打ち合わせを行った。11月上旬には長泉町、裾野市、御殿場市教育委員会から踏査結果についての報告がなされ、県教育委員会文化課がそれを取りまとめ、平成10年12月17日付けで県教育長から日本道路公団静岡建設局長宛の回答を行った。この区間で埋蔵文化財調査の対象となった箇所は21地点、調査総面積は108,734㎡であった。関係者協議の結果、これらの調査対象地点についても、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施することとし、平成11年3月5日付けで協定変更を行った。

なお、第二東名にかかる埋蔵文化財の調査は関係者協議の結果、基本的には本線およびサービスエリア・パーキングエリア、排土処理場について財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施、工事用道路および取り付け道路部分については、当該市町村教育委員会が対応することとしたが、調査の進展に伴う調査量の増大に財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所の体制が追いつかないため、本線部分の一部についても沼津市や静岡市、浜北市、裾野市、富士市の各教育委員会に対応していただくとともに、特に東部地域を中心に民間の発掘調査支援機関の導入を図った。

このような経緯の中、沼津市域における第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、秋葉林遺跡（第二東名No.25地点）の調査も行われた。

（及川司・野田正人2007『佛ヶ尾遺跡』を改変）

第２章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

ほかの第二東名関連遺跡（第1図）と同様に遺跡全体を統一された座標上で扱うため南北方向にアルファベット、東西方向にアラビア数字を付した10m四方のグリッドを設定し、日本測地系の平面直角座標第Ⅷ系の旧基準（X, Y）＝（-94500.0, 28680.0）上を原点（A,0）とした（第2図）。グリッド・ラインの交点は、この座標を南西角とする10m四方の範囲の名称（グリッド）としても用いた。例えば交点（X, Y）=（A, 1）を南西角とする10m×10mの範囲は「A1グリッド」とし、（A, -1）の場合は「A-1グリッド」とした。

調査対象面積は63240㎡である。調査区は、愛鷹山麓の南へ下る数条の尾根とその間の谷とを含む範囲に立地していたため、調査上の便宜を図る為に第3図に示すような23区の調査区を設定し、調査の進展に応じて順次発掘を行った（次節参照）。

遺物の取り上げ位置と地形は光波で測定し、上記座標に標高値（Z座標）を加えて記録した。地形測量は遺構検出面での測量を基本とし、等高線は航空測量による原地形を参考に推測で引いた。しかしながら、結果的に遺構の微細実測図との間で齟齬が各所に生じてしまった。標高のズレは補正しようがなかったが、ともかく地形の表現は必要と思われたので、本書には航空測量と推定による等高線をそのまま掲載してある。

各種座標の管理には株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を用いた。各遺構面は縮尺20分の1ないし10分の1を基本として手実測した。

遺構と遺物の写真撮影は6×6判と6×7判白黒フィルム、さらに35㎜判白黒・カラーフィルムを併用した。遺構は適宜タワーを設置して高所からの撮影につとめた。また、遺跡全体を俯瞰する写真は6×6判カラーフィルムを用いラジコンヘリによって空中撮影した。

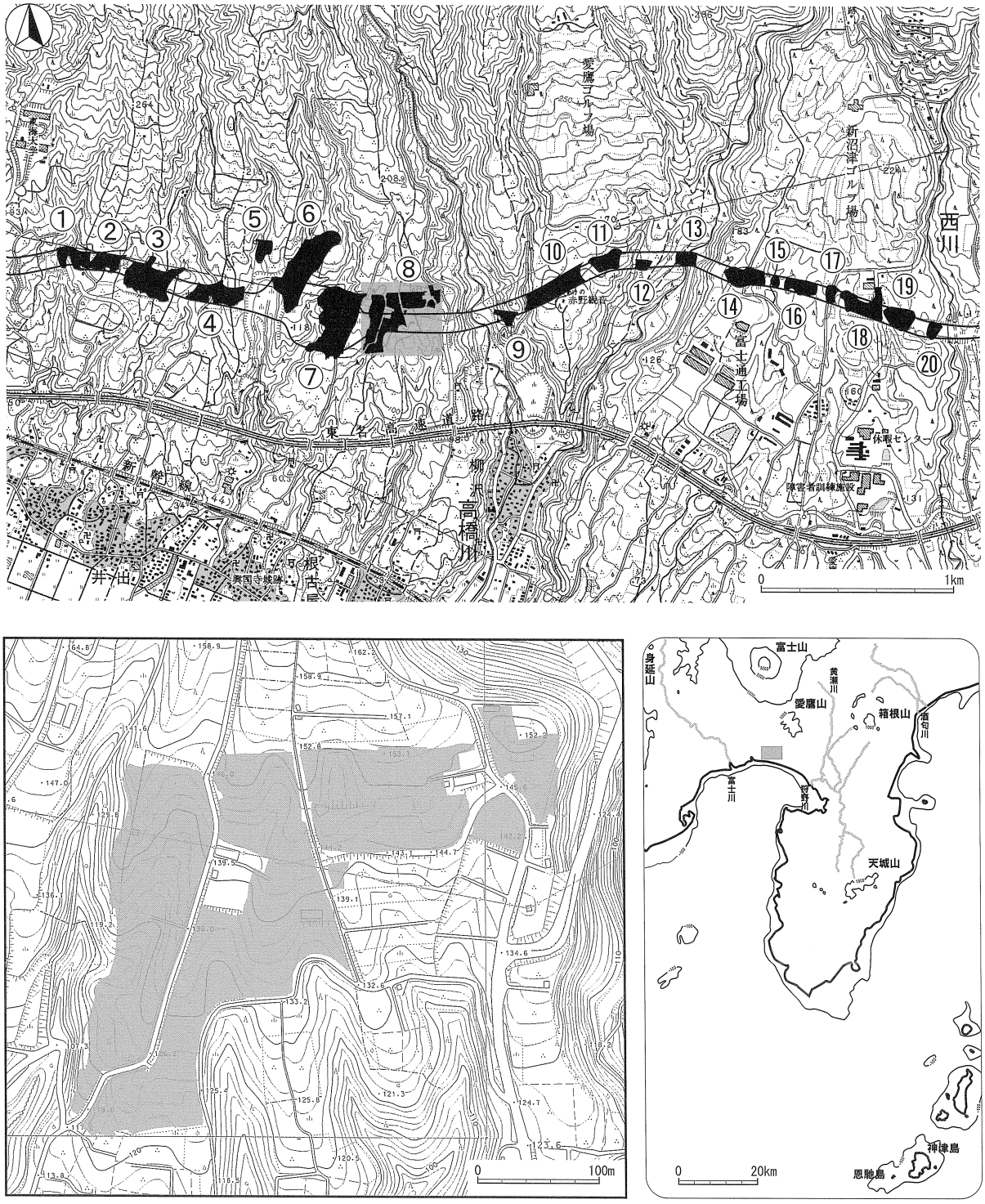
第２節　調査の経過

１．確認調査

確認調査は本調査（Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期）の事前調査という位置づけで3度行った。ただし、本調査Ⅰ期の途中に確認調査その2が始まるといったように、確認調査のなかには本調査の期間と重複して行われたものもある。

（１）確認調査その1

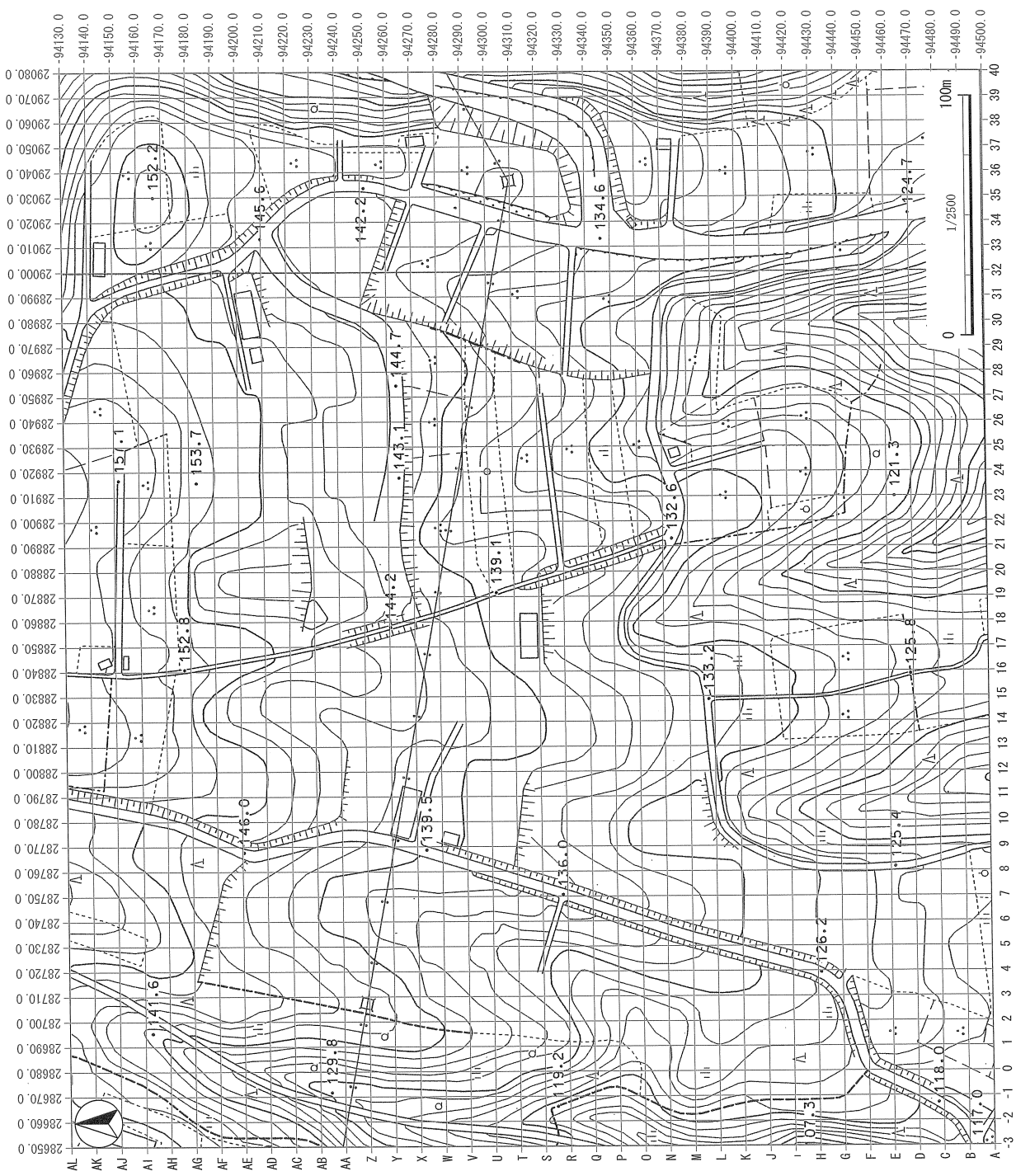
平成11年1月から3月まで、1区から11区について、テストピットおよびトレンチ調査を行った。調査対象面積は33,343㎡である。3m四方のテストピット（第4図）と調査区域の尾根を横断する幅2mのトレンチ（第5図）とを設定し、表土を深さ20㎝まで重機で掘削したのち人力で掘り下げた。テストピットは深さ2.5m（第Ⅶ黒色帯付近）まで、トレンチは表土から深さ20㎝までそれぞれ掘り下げた。この調査によって、奈良時代(ないしそれ以降)、古墳時代、弥生時代、縄文時代、旧石器時代それぞれの遺構および遺物が順次検出されたため、本調査（Ⅰ期）を行うことになった。



第1図　秋葉林遺跡と周辺の第二東名関連遺跡の調査範囲

（2）確認調査その2

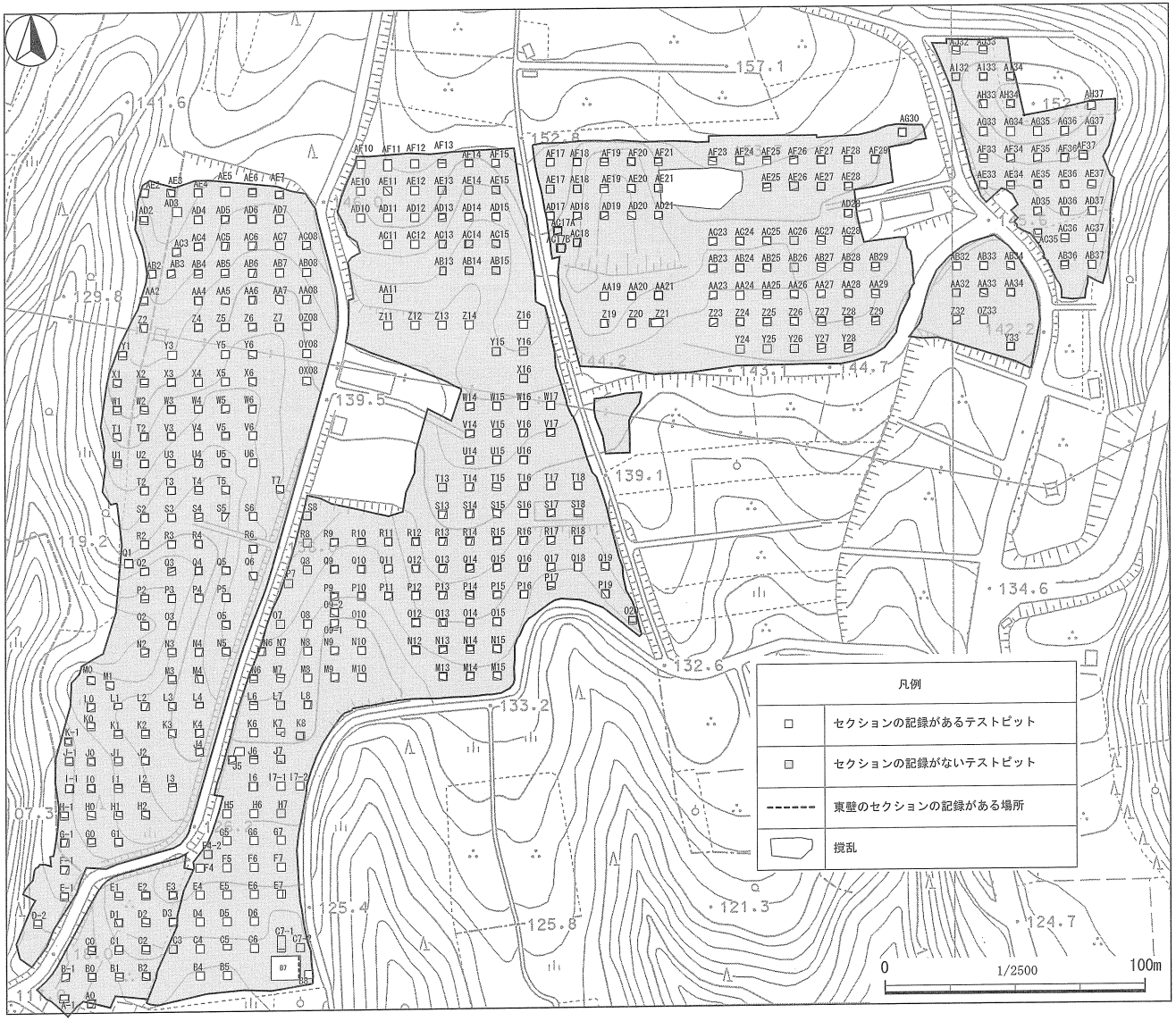
平成11年3月に行った。7区と4区の南端を対象にしてトレンチ調査およびテストピット調査を行った。尾根を東西に横断する幅2mのトレンチを2箇所、3m四方のテストピットを2箇所設定した。結果として歴史時代から古墳時代の遺構と遺物、および縄文時代から旧石器時代の遺構と遺物をそれぞれ確認した。遺構は実測図を作成し、テストピットは土層断面図を作成し、写真撮影を行った。



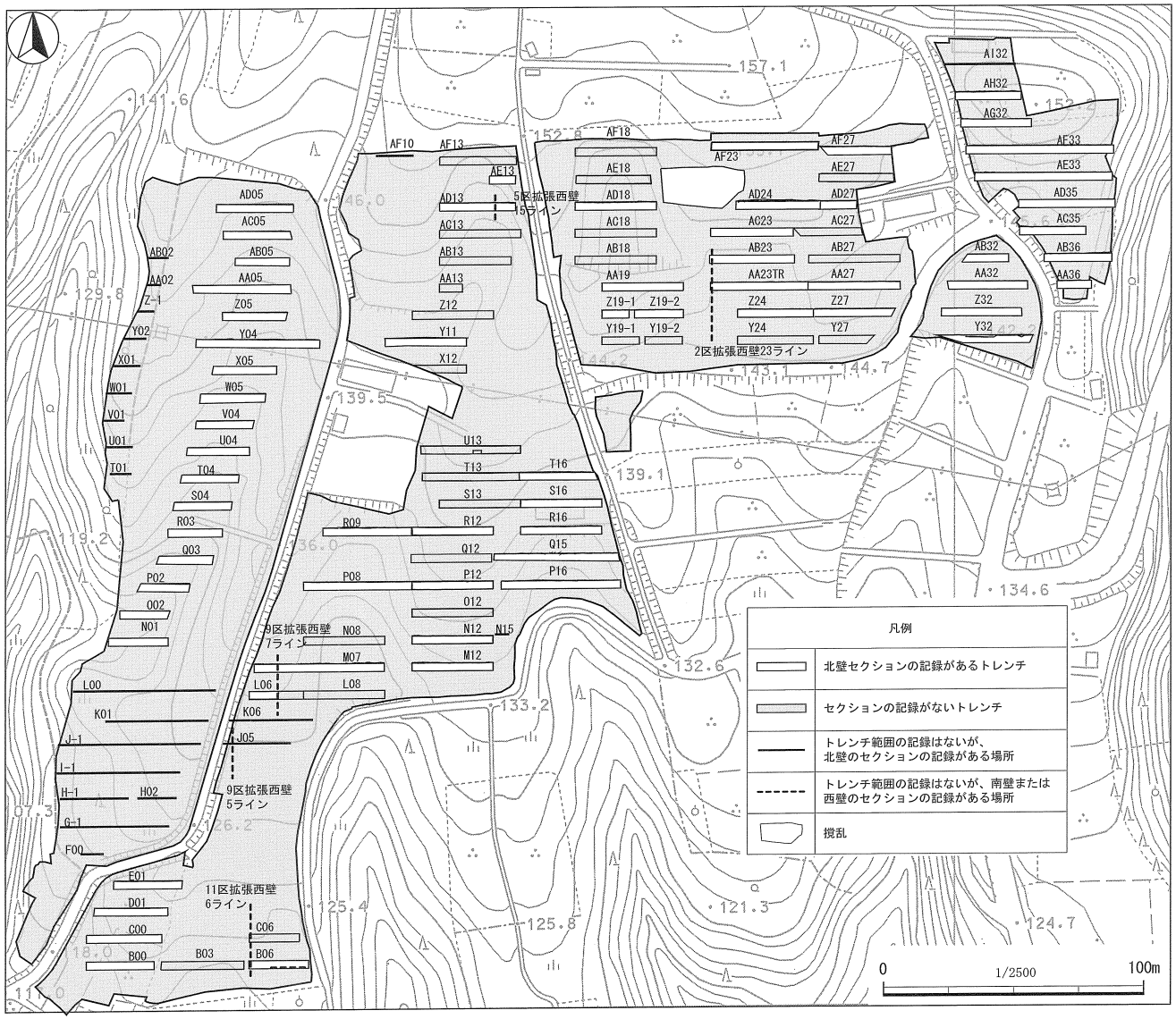
第2図　グリッドの設定

1区
2区
3区
4区
5区
6区
7区
8区
9区
10区
11区
12区
13区
14区
15区北
15区南
16区
17区
18区
19区
20区
21区
22区
23区
0
100m
1/2500

第3図　調査区の設定



第4図　テストピットの配置


凡例
北壁セクションの記録があるトレンチ
セクションの記録がないトレンチ
トレンチ範囲の記録はないが、北壁のセクションの記録がある場所
トレンチ範囲の記録はないが、南壁または西壁のセクションの記録がある場所
撹乱
0
1/2500
100m
5区拡張西壁 15ライン
2区拡張西壁23ライン
9区拡張西壁 7ライン
9区拡張西壁 5ライン
11区拡張西壁 6ライン

第5図　トレンチの配置

（３）確認調査その3

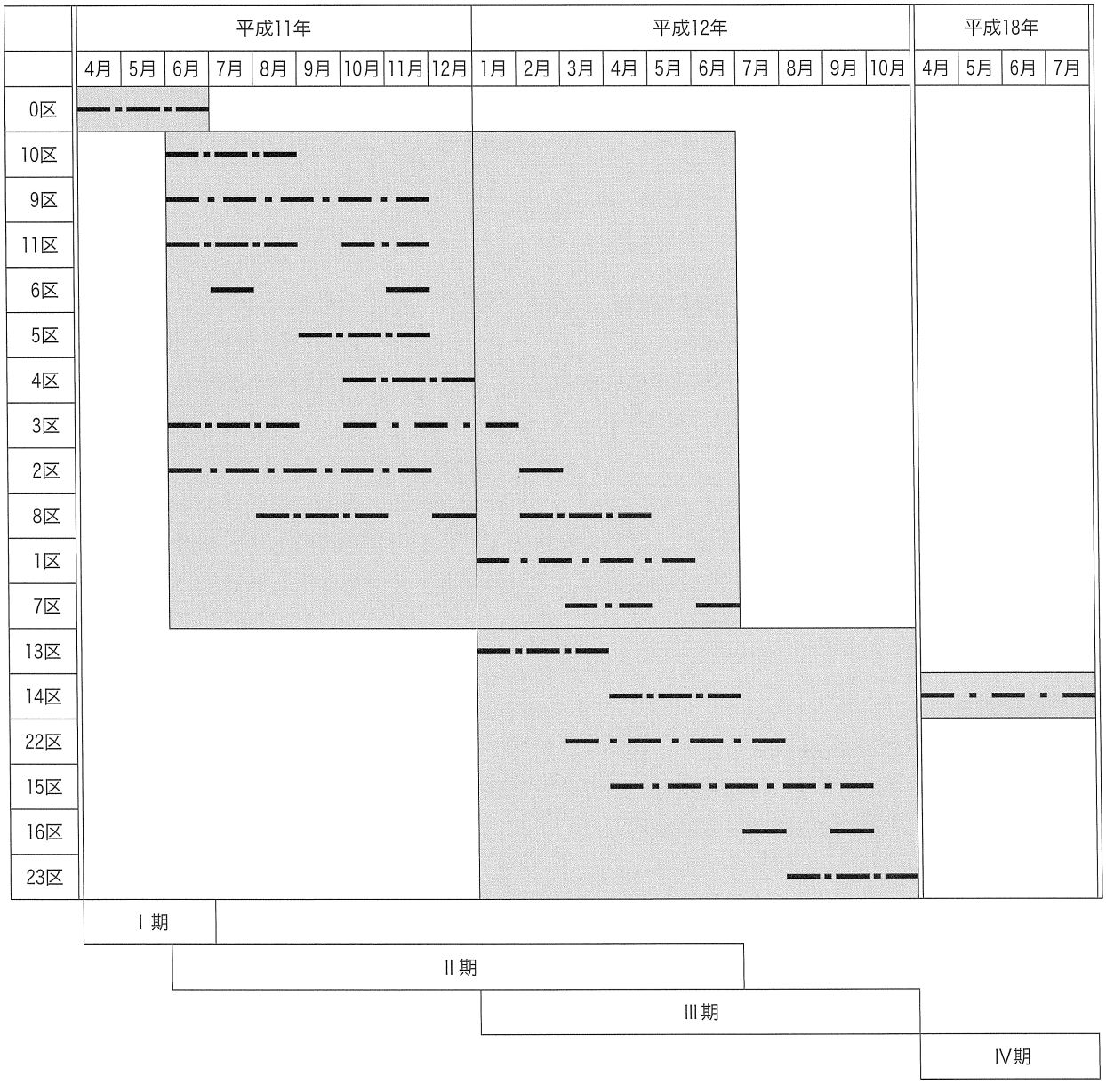
平成11年11月から12月まで、本調査Ⅱ期と平行しながら行った。対象となった調査区は13区から15区で、幅2mのトレンチ16箇所と3m四方のテストピット21箇所を設定した。11月2日から9日まで草木の伐採と重機によるトレンチ表土の掘削作業を行った。12月3日まで精査作業を行った。15日から28日にかけて15区南側の表土を重機で剝ぎ、さらに人力で抜根・精査と掘削を行った。12月の4週目には埋め戻して調査を終了した。古墳時代の古墳の石室、周溝、土器のほか、縄文時代の土器と石器、旧石器時代の石器が検出された。遺物は出土位置を記録し、遺構と土層断面については実測図を作成しつつ、必要に応じて写真撮影を行った。

２．本調査

確認調査の成果を受けて本調査を行った。調査区は1区から23区まで分け、用地買収の進捗度に応じて順次調査を行うことになった（表1）。

表1　本調査期間

期間は月単位



（１）本調査Ⅰ期

確認調査その1の成果を受けて、平成11年4月から7月まで行った。調査範囲は4区と5区に挟まれた範囲である（調査区名は設定しなかった）。

（２）本調査Ⅱ期

確認調査その2の成果を受けて、本調査Ⅰ期とほぼ平行しながら、平成11年6月から平成12年6月まで行った。調査範囲は1区から11区である。表土は重機で掘削し、その排土はクローラーダンプを使用して用地内の他所へ搬出した。人力で精査を行ったのち、幅3mのトレンチを設定し、人力で次の調査面の上面まで掘り下げた。遺構や遺物が検出されない場合は、重機によりトレンチ間を掘削した。YL以下の旧石器時代の調査は3m四方のテストピットを設定し、第Ⅵ黒色帯まで人力で掘削した。

（３）本調査Ⅲ期

確認調査その3の成果を受けて、本調査Ⅱ期とほぼ平行しながら、平成12年1月から10月まで行った。調査範囲は13区から16区と22区および23区である。

調査は概ね当初の計画に沿って順調に進められたが、9月下旬に22区のBBⅦで後期旧石器時代最古と推定される石器群が検出されたため、10月2日に協議して、10月23日まで作業を延長し拡張部（360㎡）の調査を行うことにした。当該石器群の包含層までの中間層（層厚1.8m）は重機で掘削し、その後、人力に切り替えて精査した。遺物の検出状況と土層の写真撮影を行い、遺物を取り上げた後、埋め戻して作業を終了した。

（４）本調査Ⅳ期

平成18年4月から6月まで行った。調査範囲は、遺跡の西端に位置する尾根上にあたり、本調査Ⅰ期からⅢ期を通じてJRの電線鉄塔が立っていた部分である。4月下旬より人力で表土除去を行い、5月上旬より縄文時代から旧石器時代の遺構・遺物検出を開始した。同中旬から休場層中の礫群を調査し、下旬から休場層直下黒色帯から第Ⅰ黒色帯の調査を行った。6月上旬も引き続きこの層準の調査を行った。同中旬にはテストピットを4箇所設定し、ニセローム層以下の掘削を開始したが、遺物は検出されなかった。このため、同下旬には調査を終了、撤収した。これにより秋葉林遺跡の調査は全て終了した。

調査では古墳時代から平安時代のものと推測される土師器片と縄文時代の土坑と石器、旧石器時代の礫と石器が検出された。縄文時代以降の遺物はすべて、休場層にまで及んでいた攪乱のために表土から出土した。

３．資料整理

本調査Ⅳ期終了後に資料整理を行った。期間は次の通り。

平成19年8月～平成21年6月（「旧石器時代～縄文時代草創期編」）

平成21年4月～（「縄文時代早期～古墳時代編」）

４．層序と文化層

愛鷹山南麓における土壌堆積状況は一般に良好とは謂いがたい。本遺跡の調査範囲でも例外ではなく、特に休場層から栗色土層（KU）は薄く、分層が困難だった。しかし、BBO以下の層準は比較的良好であり、十分な厚みをもっていた。礫群及び石器群の集中部も縄文時代の遺構・遺物と混在していなかったため、時期的な比較に耐えうる資料体を構成している。

土層断面（以下セクションとする）の記録は、休場層上面ないし下面まで掘り下げたトレンチと、それ以下の層準を中心とするテストピットの北壁からとり、また、適宜、その他の壁も記録した。第7-49図はこれらの記録である。参照しやすいようにインデックスを第6図に提示した。

全体に尾根部の堆積は良好であり、逆に谷部は土壌の流出が著しく、まともな層序をなしている場所は少ない。尾根部でも、全てが良好という訳ではなく、なだらかな立地にも関わらず上下の攪乱が大きかった場所もある。これは後代の古墳等による攪乱作用と推測される。したがって旧石器時代の遺物も上下の移動が大きく、とくに大きな影響を受けていると思われる休場層の文化層設定は困難を極めた。

第50図に表した標準土層は本遺跡の特定の場所から採取されたものではなく、各地区において確認された最も良好な層序を組み合わせてつくった理想的な土層である。

第1層は黒色を呈する表土である。

第2層は黒色土層である。本遺跡での略称は「UK」とする。

第3層は新期スコリアを含む層である。本遺跡での略称は「NSC」とする。

第4層は2800年前に噴出したとされる天城カワゴ平パミスを含む層である。本遺跡での略称は「KGP」とする。

第5層は黒色土層である。本遺跡での略称は「クロ」とする。

第6層は暗褐色土層である。本遺跡での略称は「AN」とする。

第7層はKUである。栗色土層である。

第8・9層はFBである。富士黒色土層である。上部を8層、下部を9層とする。

第10層はZNである。上位のFB下部と下位のYLUの間の漸移層である。

第11層はYLUである。休場層上層にあたる。YLs1が確認されない場合は、休場層上部（またはYL上部）と呼称する。休場層上部は第Ｘ文化層の主要な包含層である。ただし石器群は休場層の上部から下部の間に大きく拡散し、場合によってはFBにも広がっているため、層序と文化層の対応関係は曖昧である。愛鷹・箱根地域では一般的に尖頭器石器群と細石刃石器群が多く出土する層準である。

第12層はYLs1である。休場層スコリア帯1である。確認できた地点は大変限られている。

第13層はYLMである。休場層中層にあたる。YLs1およびYLs2が確認されない場合は、休場層中部(またはYL中部)とし、YLMという略称は用いない。休場層中部は第Ⅸ文化層の礫群および石器群の主要な包含層である。ただし石器群は休場層の上部から下部の間に大きく拡散し、場合によってはFBにも広がっているため、層序と文化層の対応関係は曖昧である。

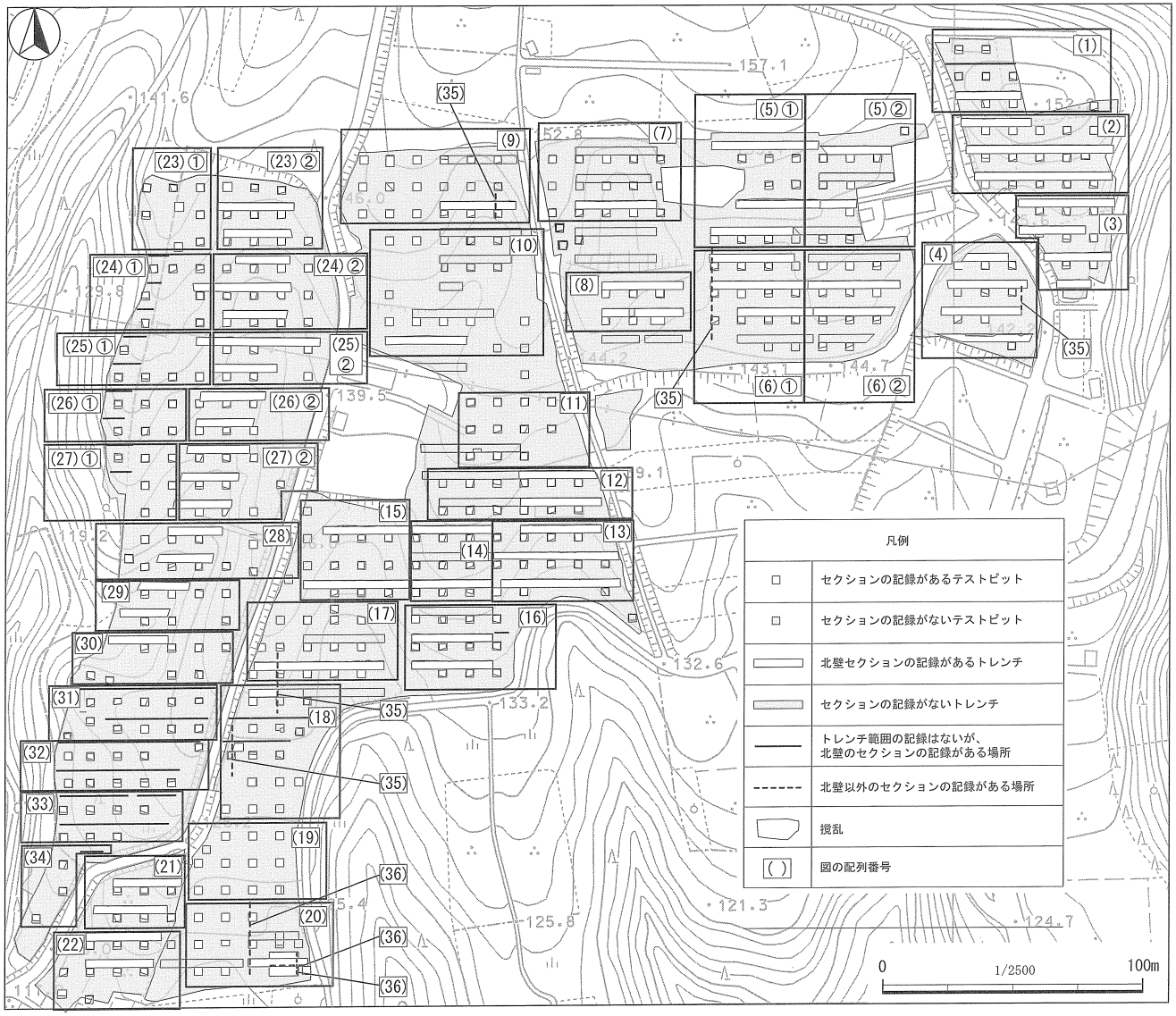
第14層はYLs2である。休場層スコリア帯2である。確認できた地点は大変限られている。

第15層はYLLである。休場層下層にあたる。YLs2が確認されない場合は、休場層下部（YL下部）とし、YLLという略称は用いない。YLLを識別できた調査区は限られている。休場層下部は第Ⅷ文化層の礫群および石器群の主要な包含層である。

第16層はBBOである。休場層直下黒色帯である。本層の上部は第Ⅶ文化層の礫群および石器群の主要な包含層である。

第17層はSCⅠである。第Ⅰスコリア層である。

第18層はBBⅠである。第Ⅰ黒色帯である。第Ⅵ文化層の礫群および石器群の主要な包含層準である。



第6図　セクション図の配列

第19層はNLである。ニセローム層である。約28000年前に噴出したとされる姶良Tn火山灰の濃集層準である。箱根山西麓などでは、より下部に濃集することが多い。第Ｖ文化層の礫群は下部で検出された。

第20層はBBⅡである。第Ⅱ黒色帯である。第Ⅳ文化層の礫群および石器群の主要な包含層である。

第21層はSCⅡである。第Ⅱスコリア層である。

第22層はBBⅢである。第Ⅲ黒色帯である。第Ⅲ文化層の礫群および石器群の主要な包含層である。

第23層は第Ⅲスコリア帯スコリア1（SCⅢs1）相当層である。第Ⅱ文化層の礫群と石器群の主要な包含層である。

第24層は第Ⅲスコリア帯黒色帯1（SCⅢb1）である。第Ⅱ文化層石器群の主要な包含層である。

第25層は第Ⅲスコリア帯スコリア2（SCⅢs2）相当層である。

第26層は第Ⅲスコリア帯黒色帯2（SCⅢb2）相当層である。

第27層は第Ⅲスコリア帯スコリア3（SCⅢs3）から同黒色帯3（SCⅢb3）相当層である。

第28層は第Ⅲスコリア帯スコリア4（SCⅢs4）から同黒色帯（SCⅢb4）相当層である。

第29層は第Ⅲスコリア帯スコリア5（SCⅢs5）相当層である。

第30層はBBⅣである。第Ⅳ黒色帯である。

第31層はスコリア質土層である。本遺跡では第Ⅳ黒色帯下位のスコリア質土層はすべて「KSC」とする。

第32層はBBⅤである。第Ⅴ黒色帯である。

第33層はスコリア質土層である。本遺跡では「KSC」とする。

第34層はBBⅥである。第Ⅵ黒色帯である。

第35層はスコリア質土層である。本遺跡では「KSC」とする。

第36層はBBⅦである。第Ⅶ黒色帯である。下部でスコリア包含密度が高くなる。第Ⅰ文化層石器群の主要な包含層はこの層の下部である。愛鷹箱根で現在知られている石器群包含層準の最下部である。

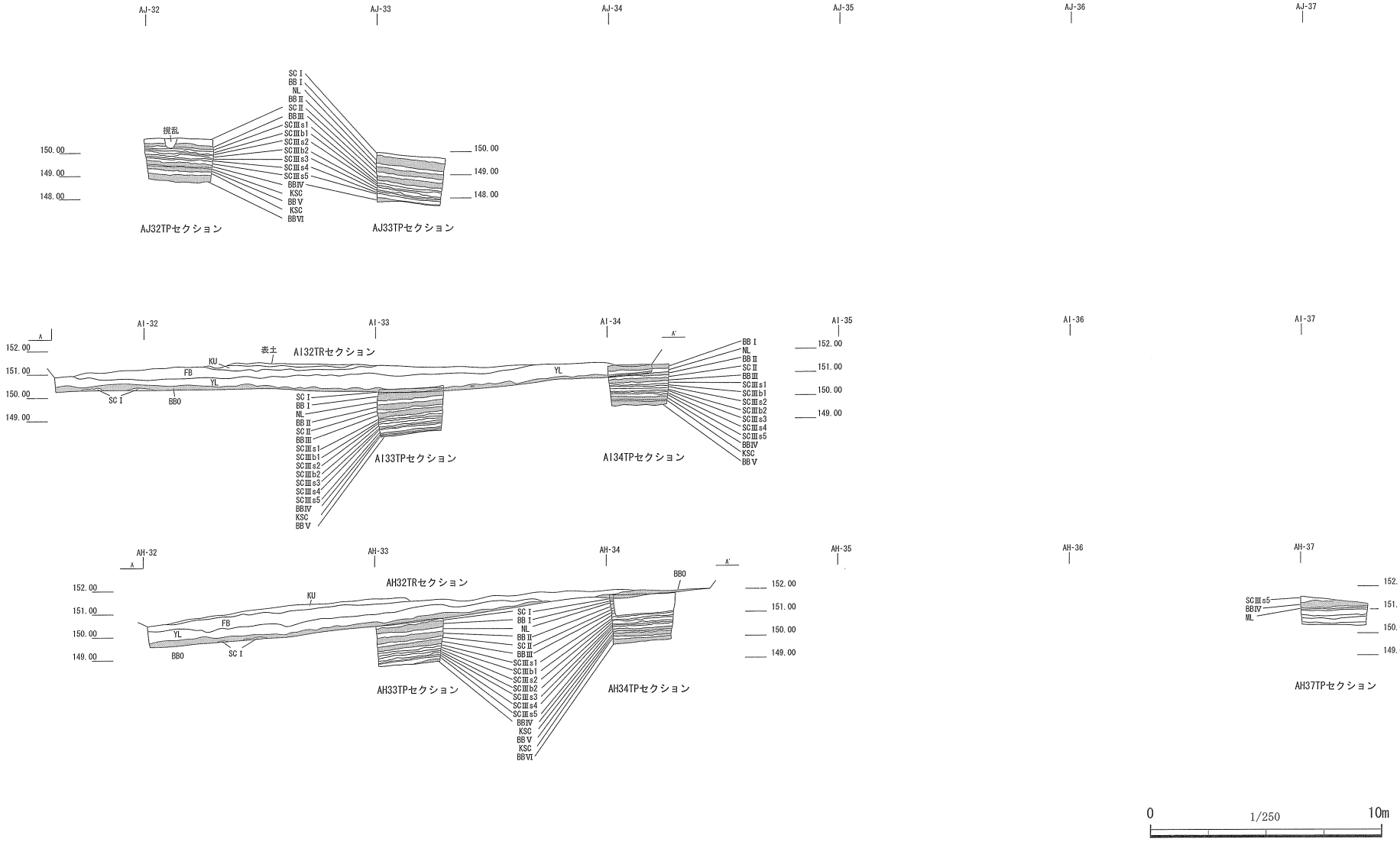
第37層はスコリア質土層である。本遺跡では「KSC」とする。

第38層は中部ロームである。

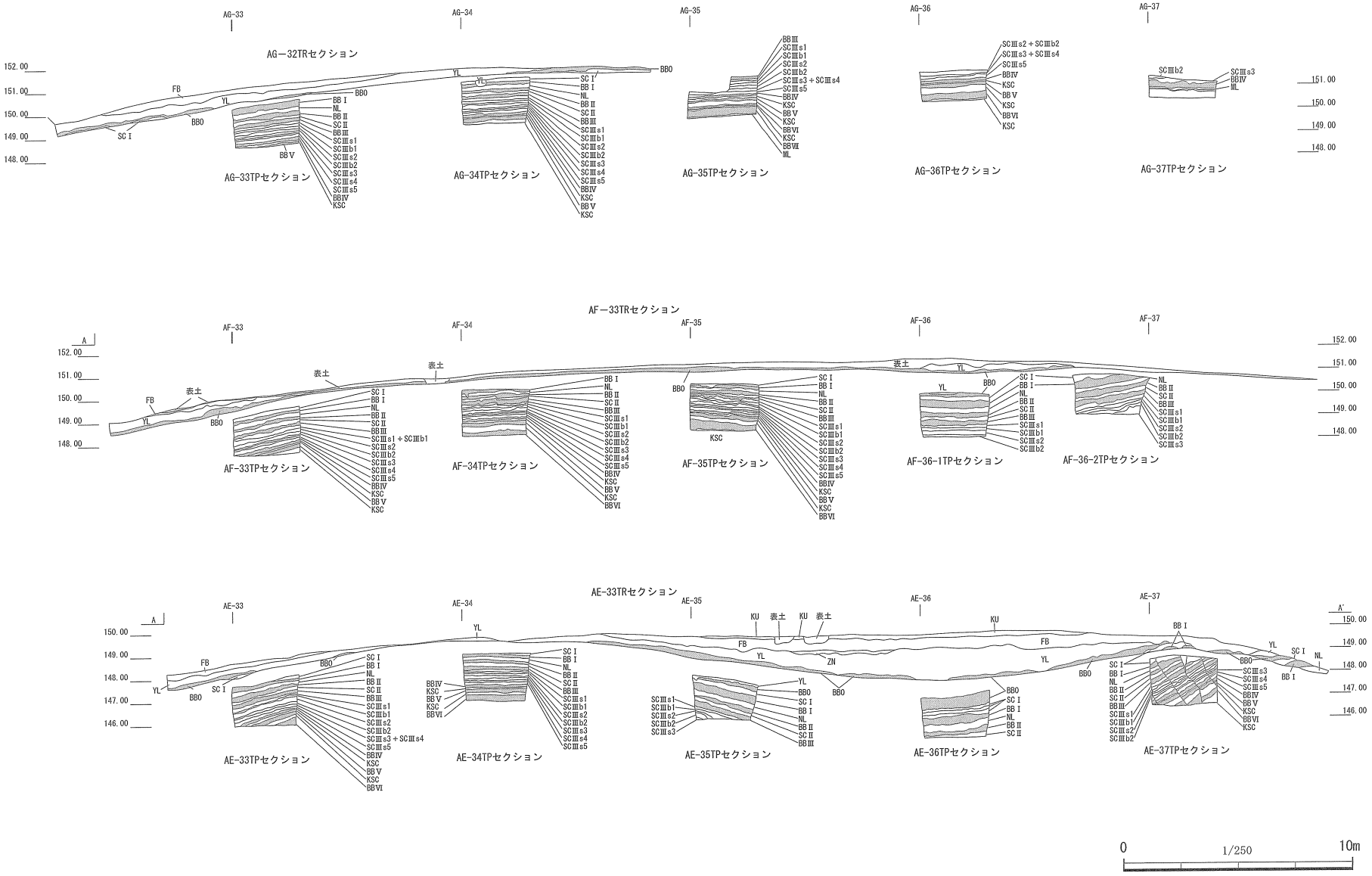
以上のほかに、特定の堆積物に同定できないスコリア層などは「SC」あるいは単に「スコリア」と称している。また、愛鷹ロームの標準土層中にあてはまる層と見なされても、質的に異なる複数の層が認められる場合は「(1)」・「(2)」や「A」・「B」などとして区別している場合がある（例えば「YL（1)」)。

第３節　報告書の作成

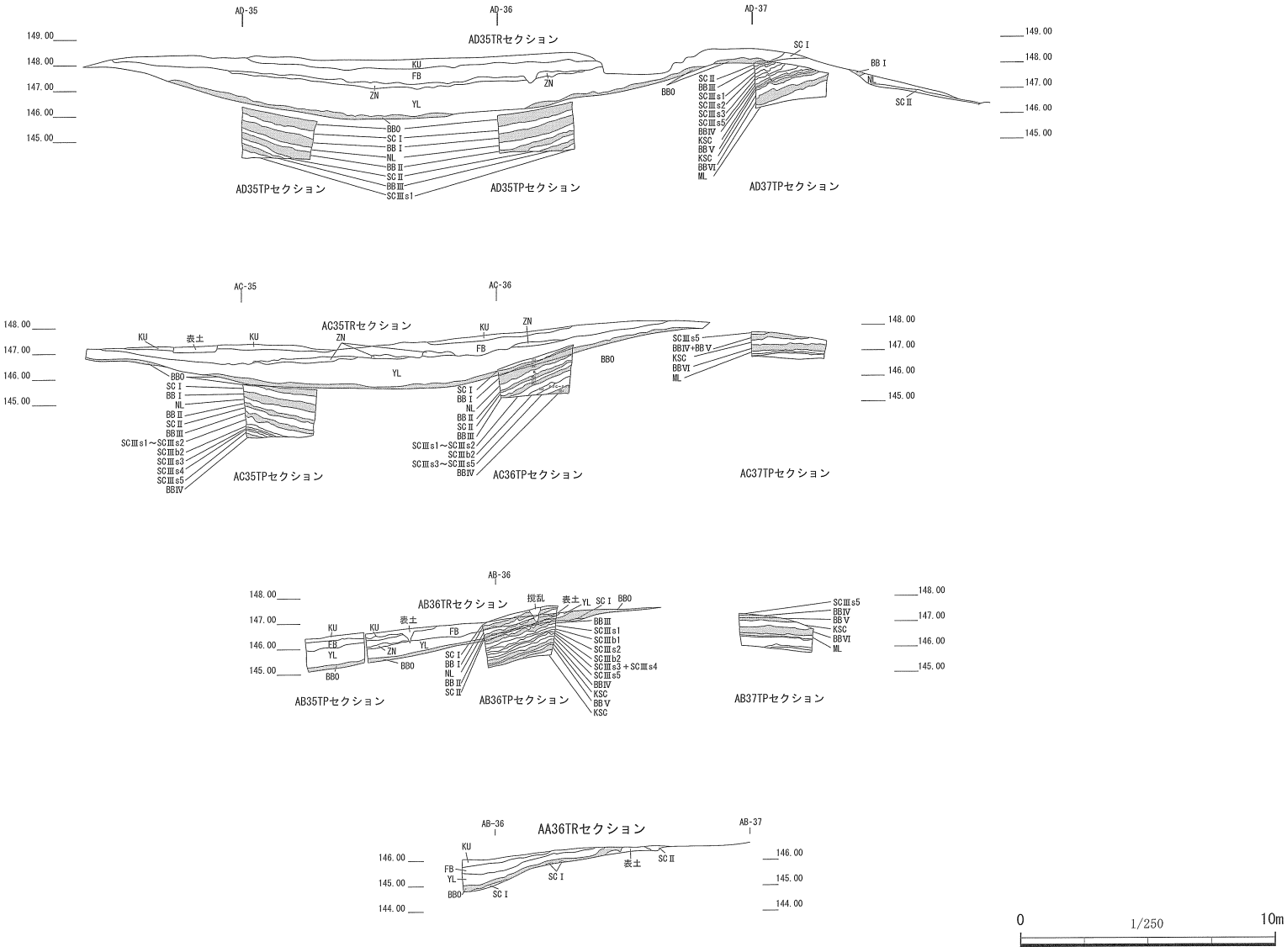
資料整理は平成19年8月から平成21年6月まで、洗浄と注記と石材分類を基礎整理棟で、接合作業と実測ほか編集から校正までを長泉地区事務所でそれぞれ実施した。黒曜石産地分析は、沼津工業高等専門学校（当時）の望月明彦氏に依頼して蛍光X線分析を行って頂いた。分析対象資料は、BBⅠからZNまでのほぼ全点と、FB以上の主要なトゥール（石鏃等）である。石器実測およびトレースは、礫石器類（磨石、敲石、石皿、台石、礫器）を当研究所で行い、剥片石器類および石核、およびそれらの接合資料と一部の礫石器類（礫器）を株式会社東京航業研究所と株式会社ラングに委託した。



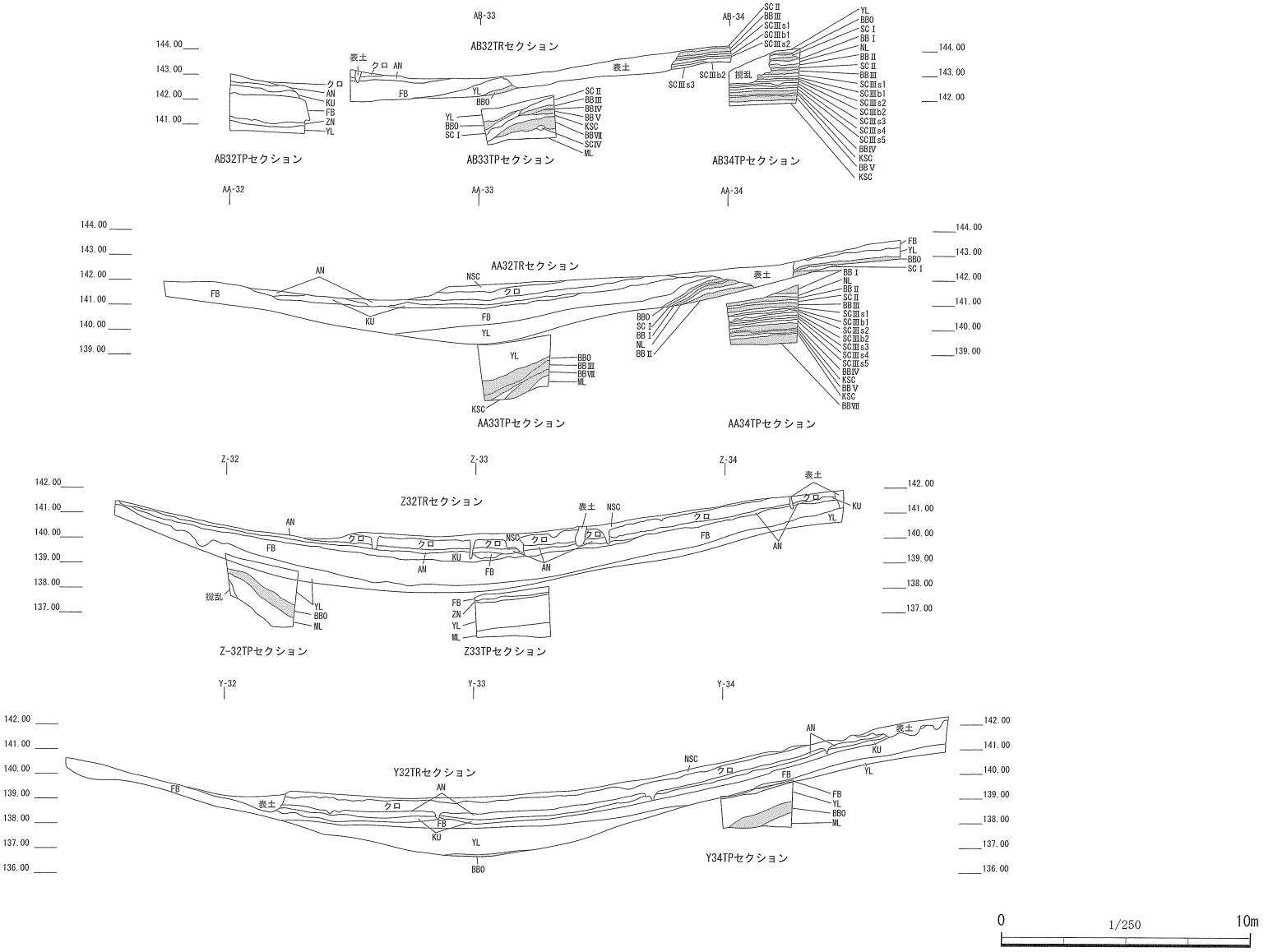
第7図　トレンチとテストピットのセクション（1）



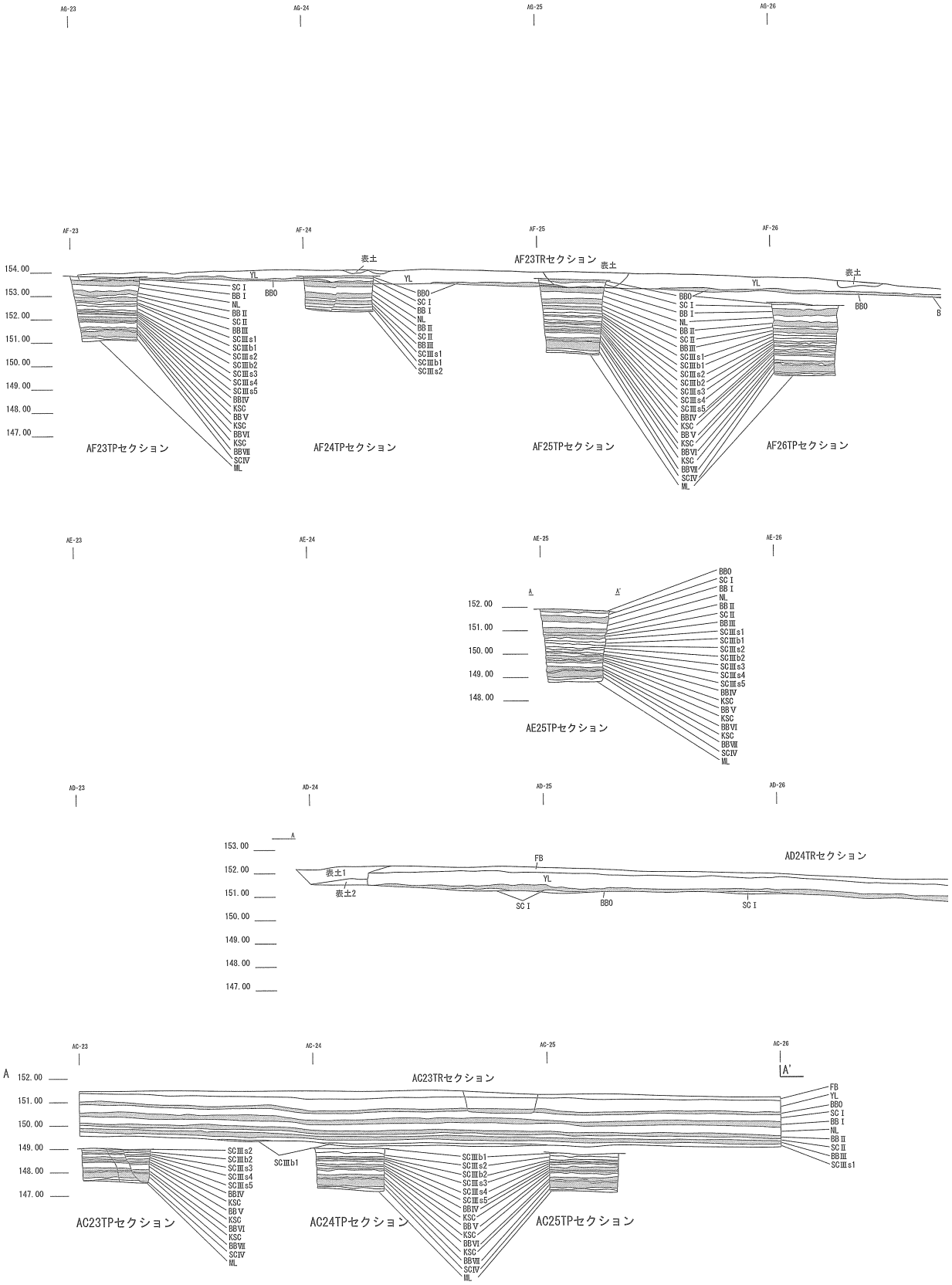
第8図　トレンチとテストピットのセクション（2）



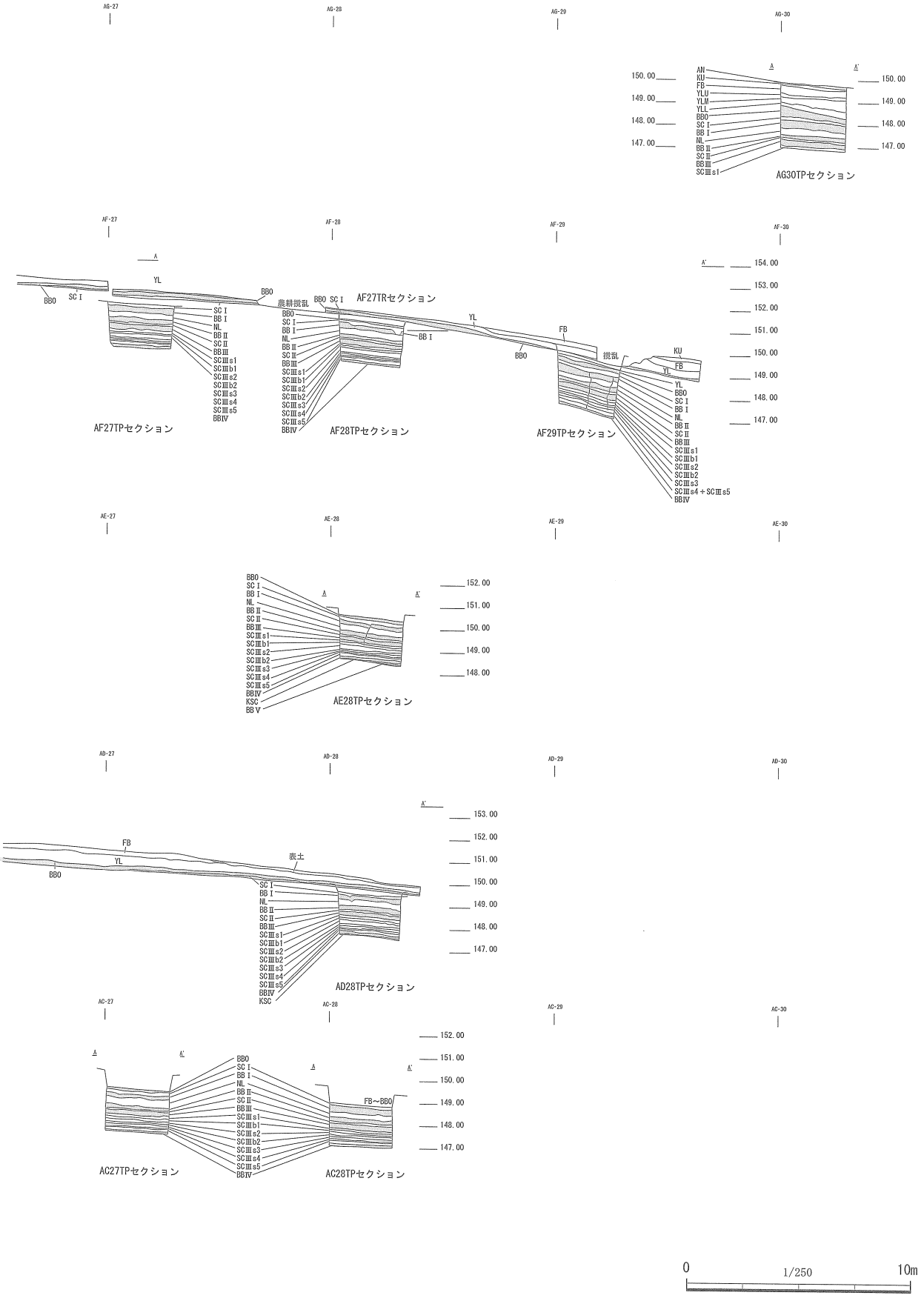
第9図　トレンチとテストピットのセクション（3）



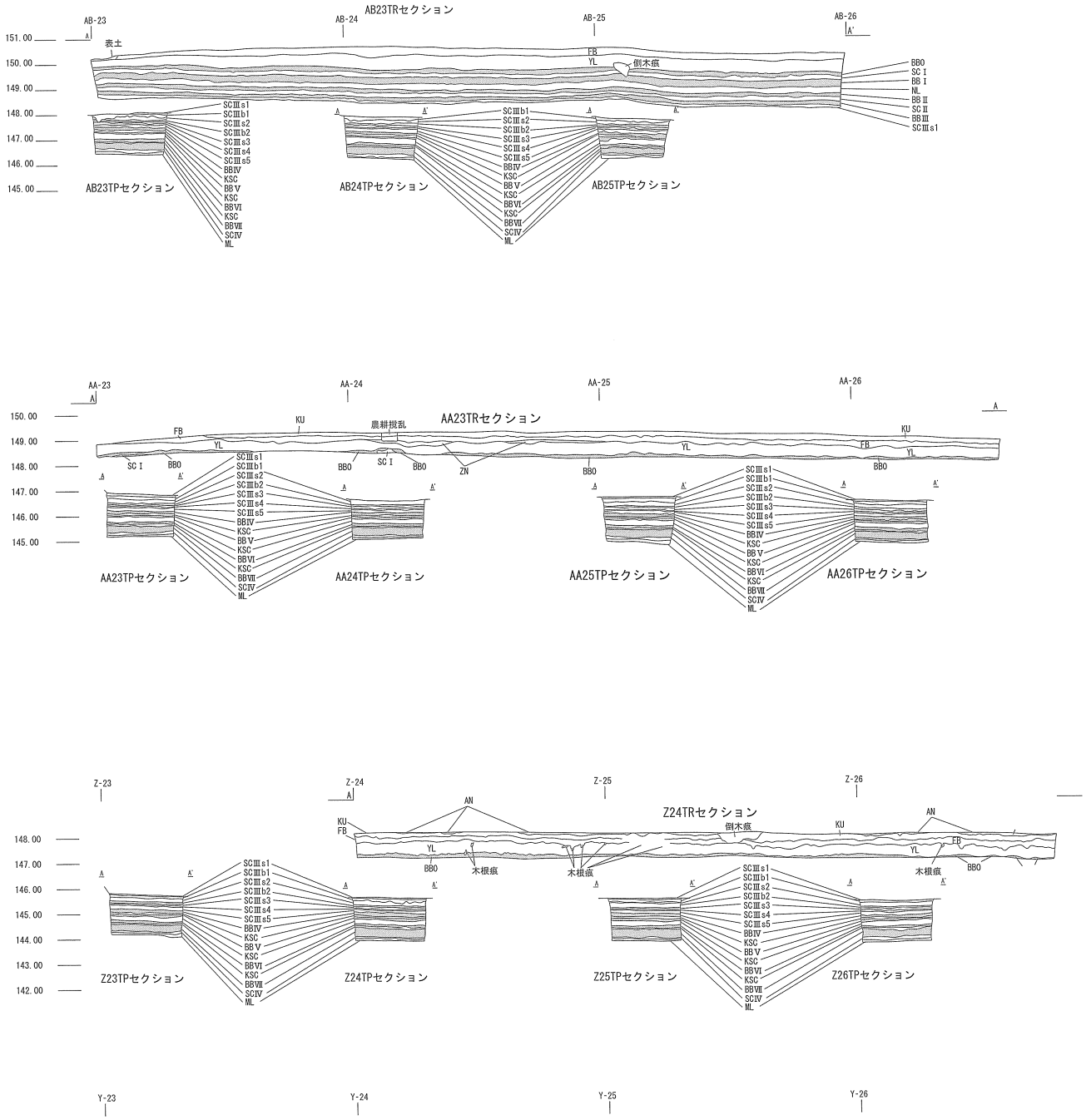
第10図　トレンチとテストピットのセクション（4）



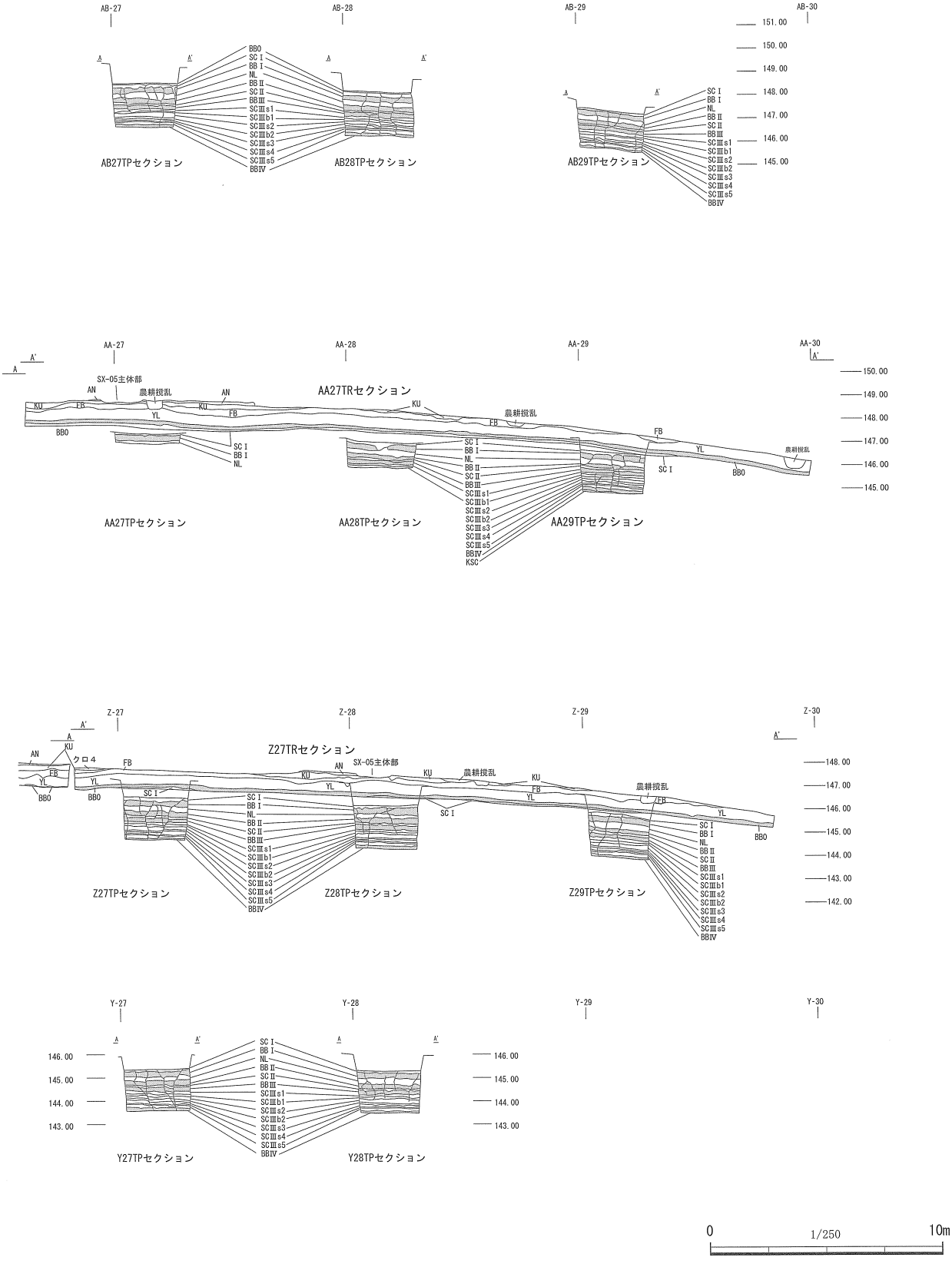
第11図　トレンチとテストピットのセクション（5）①



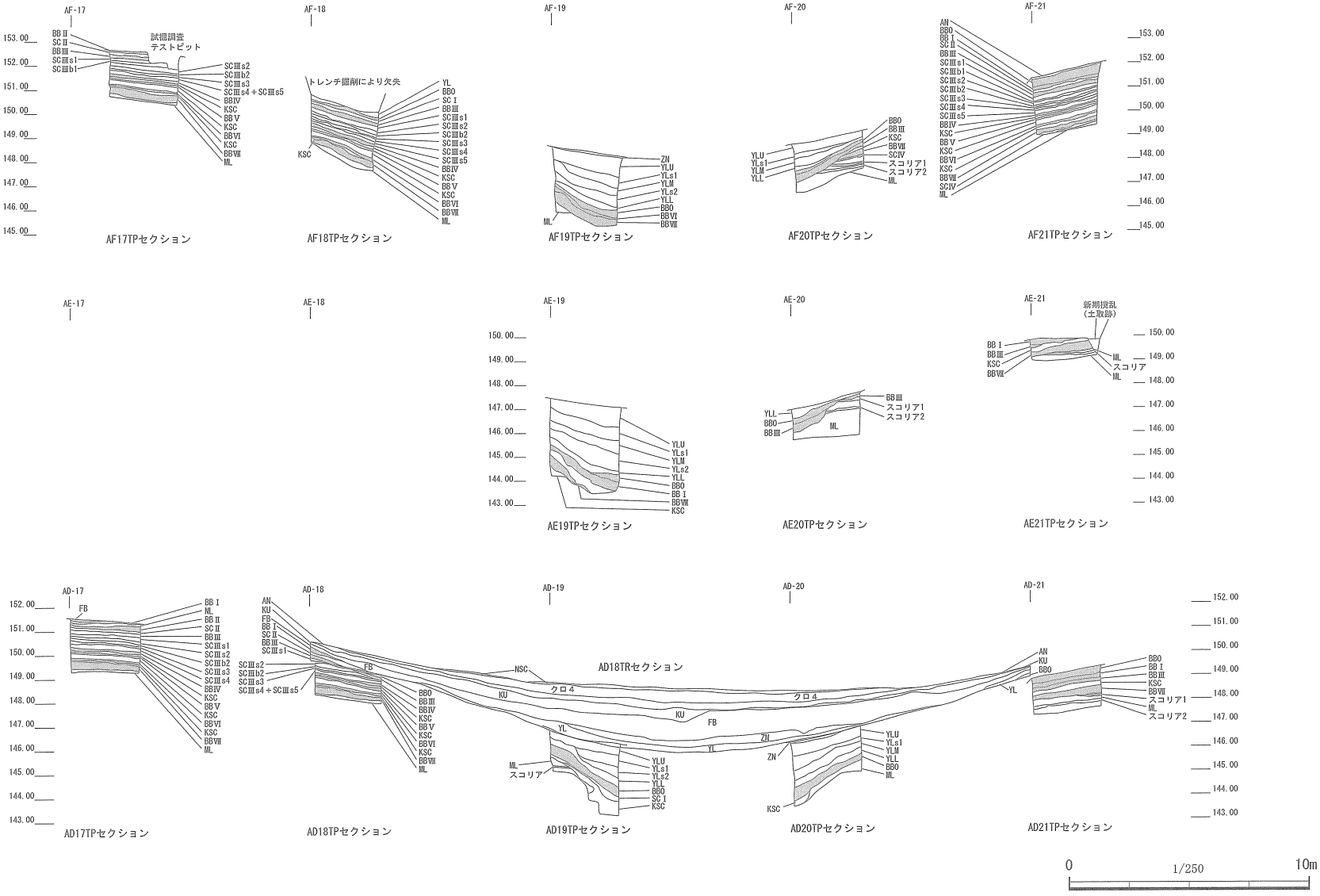
第12図　トレンチとテストピットのセクション（5）②



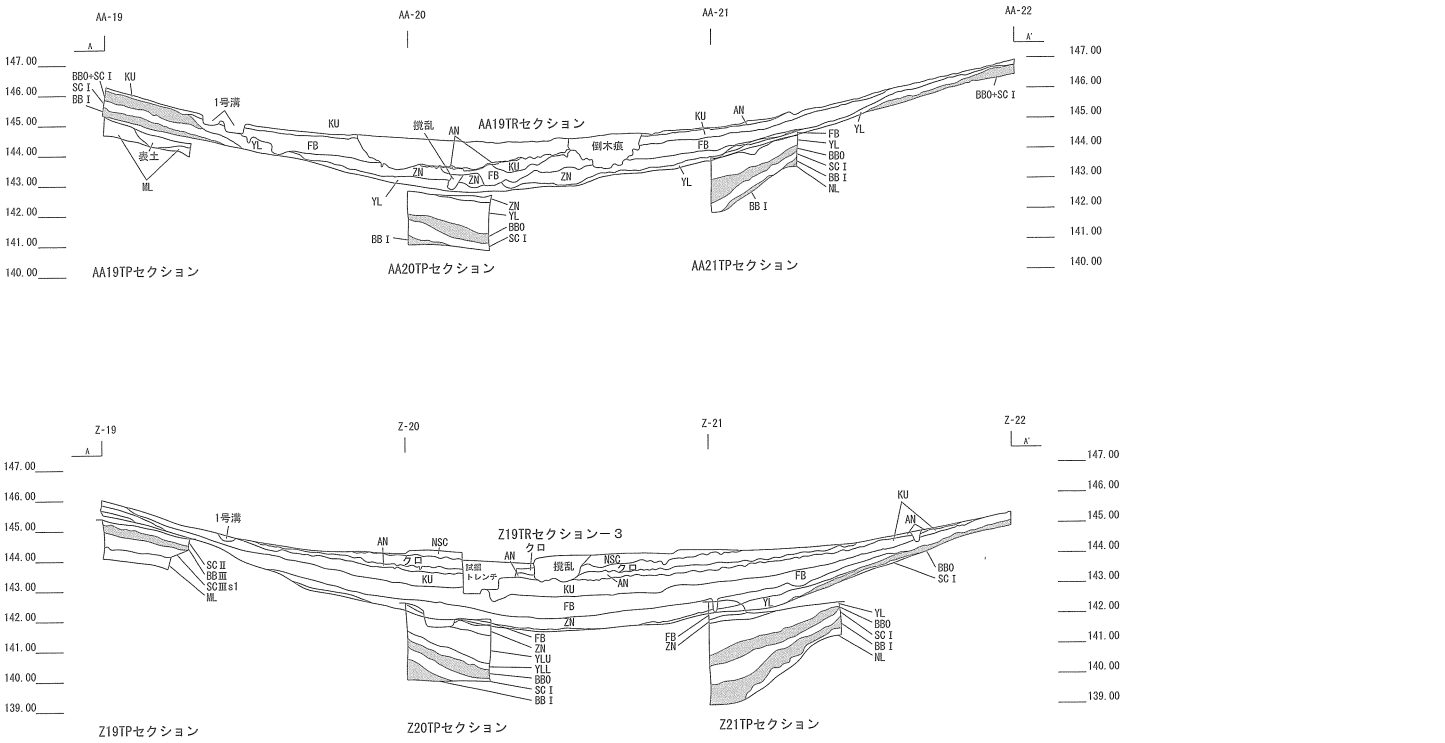
第13図　トレンチとテストピットのセクション（6）①



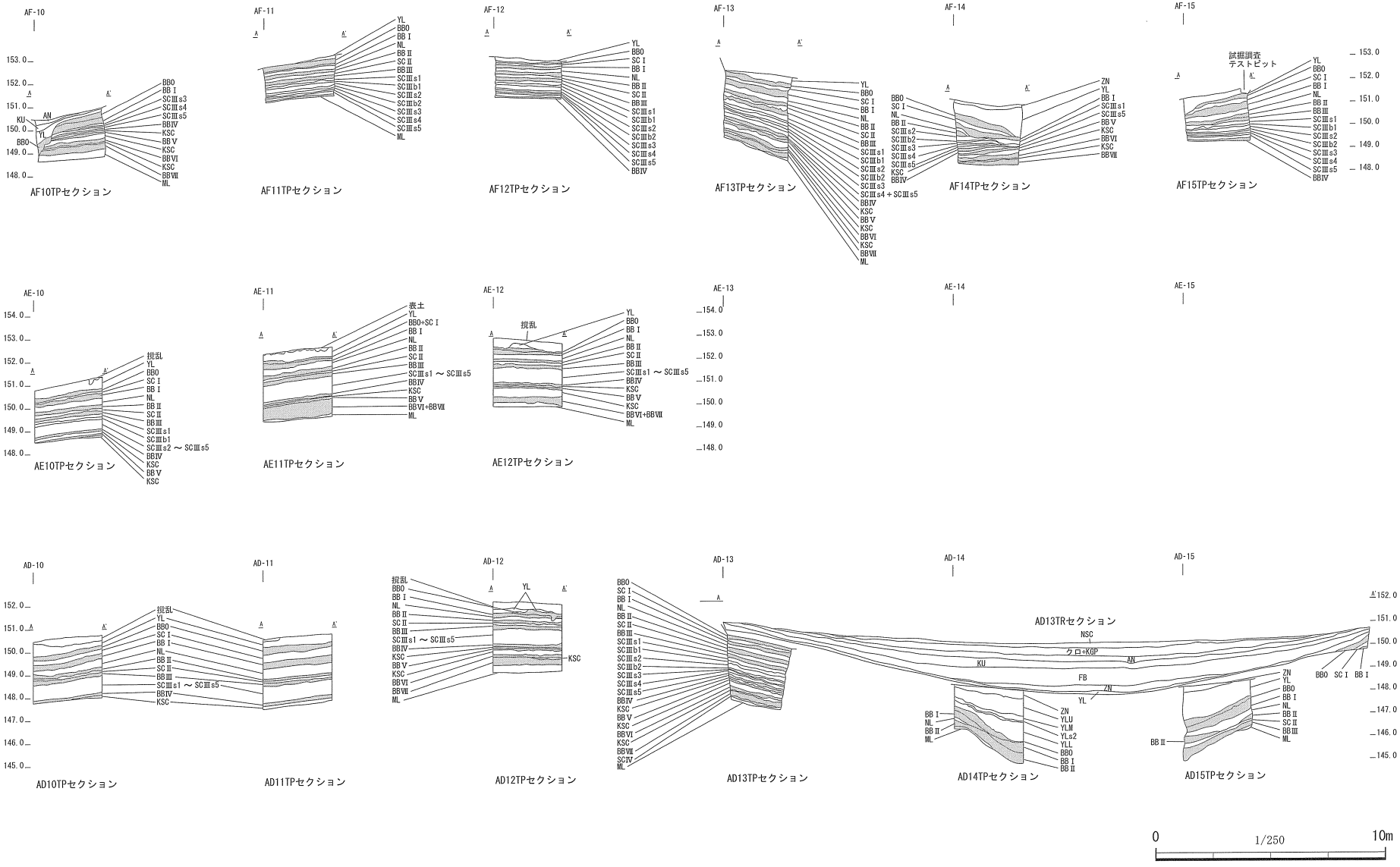
第14図　トレンチとテストピットのセクション（6）②



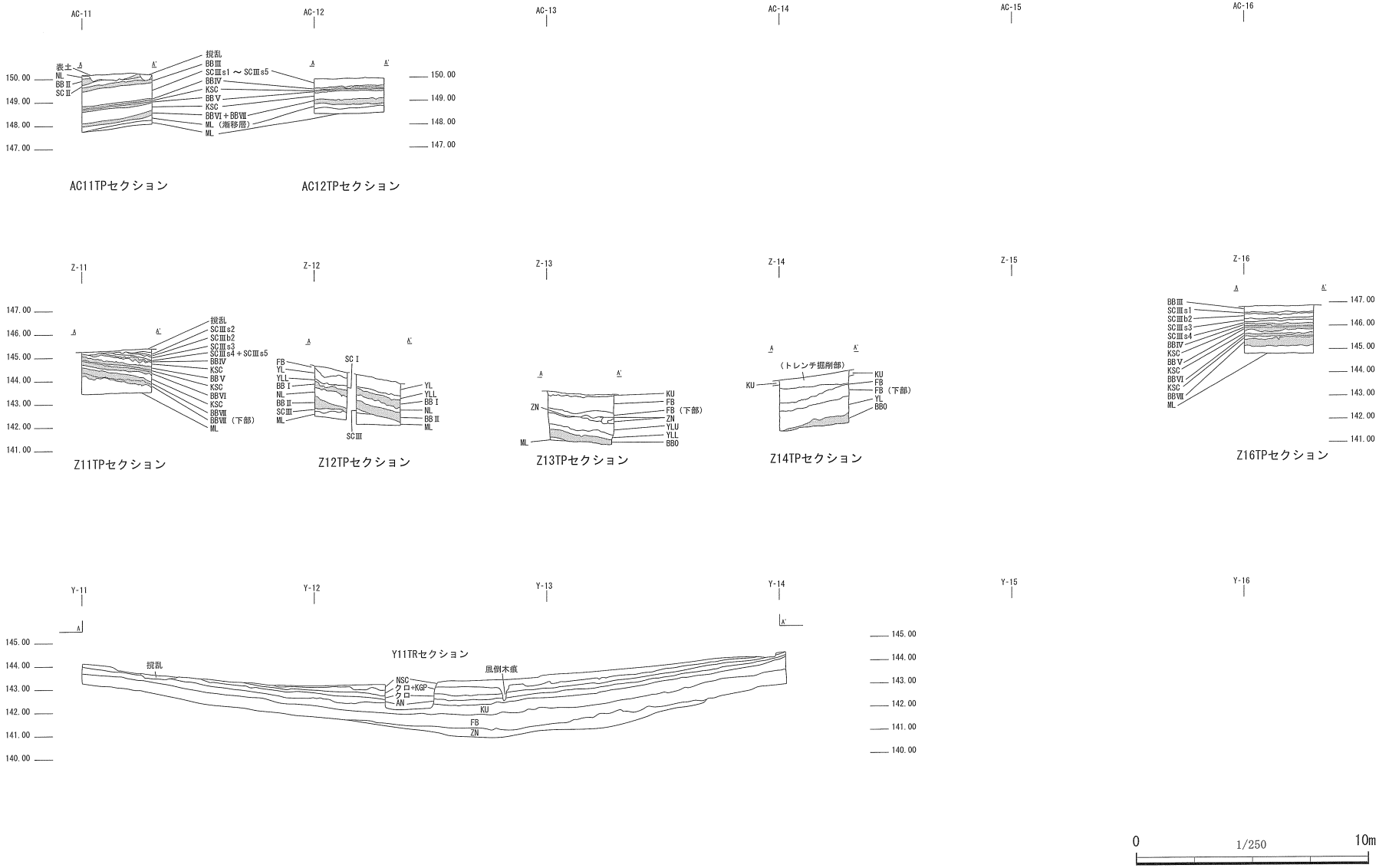
第15図　トレンチとテストピットのセクション（7）



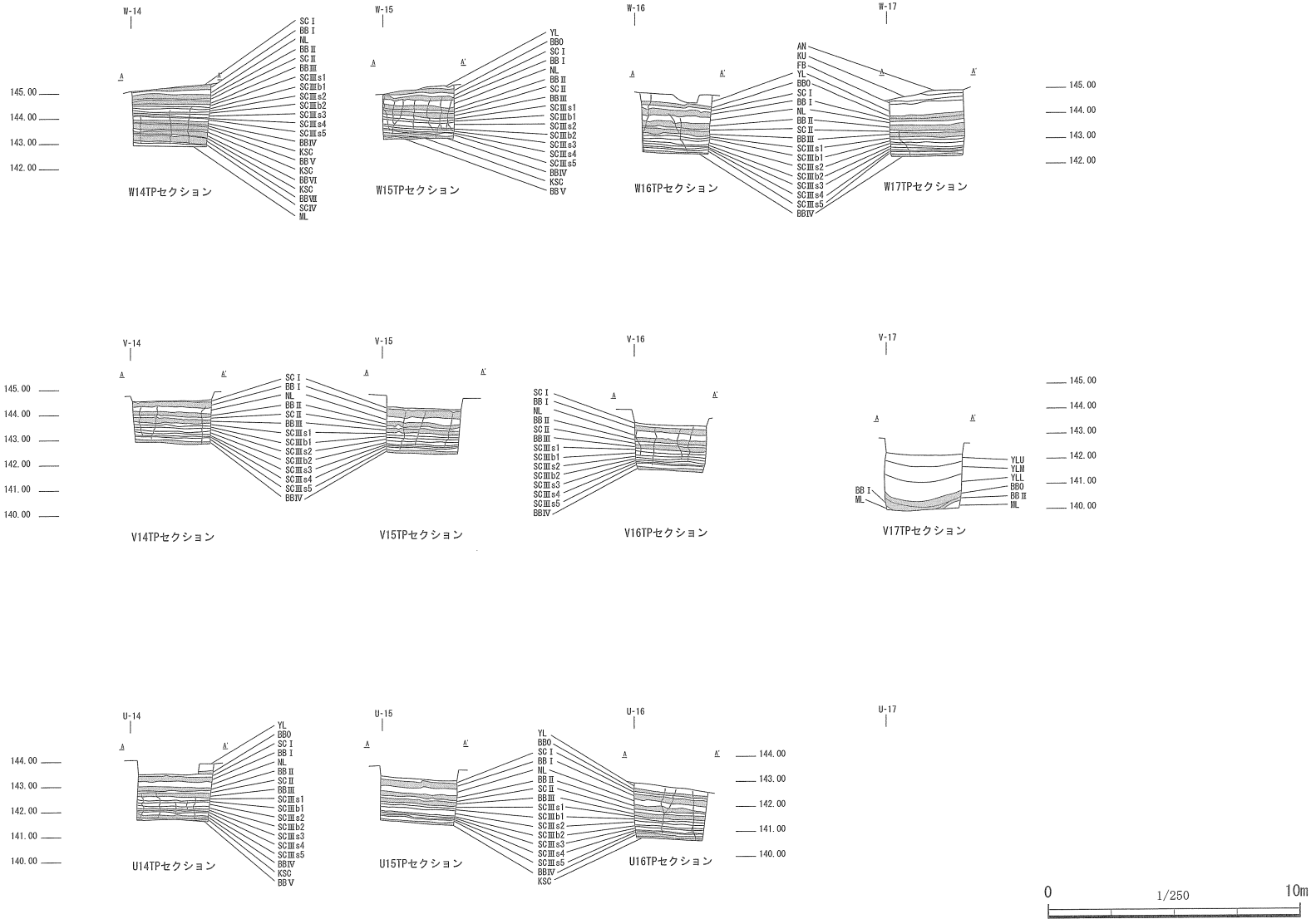
第16図　トレンチとテストピットのセクション（8）



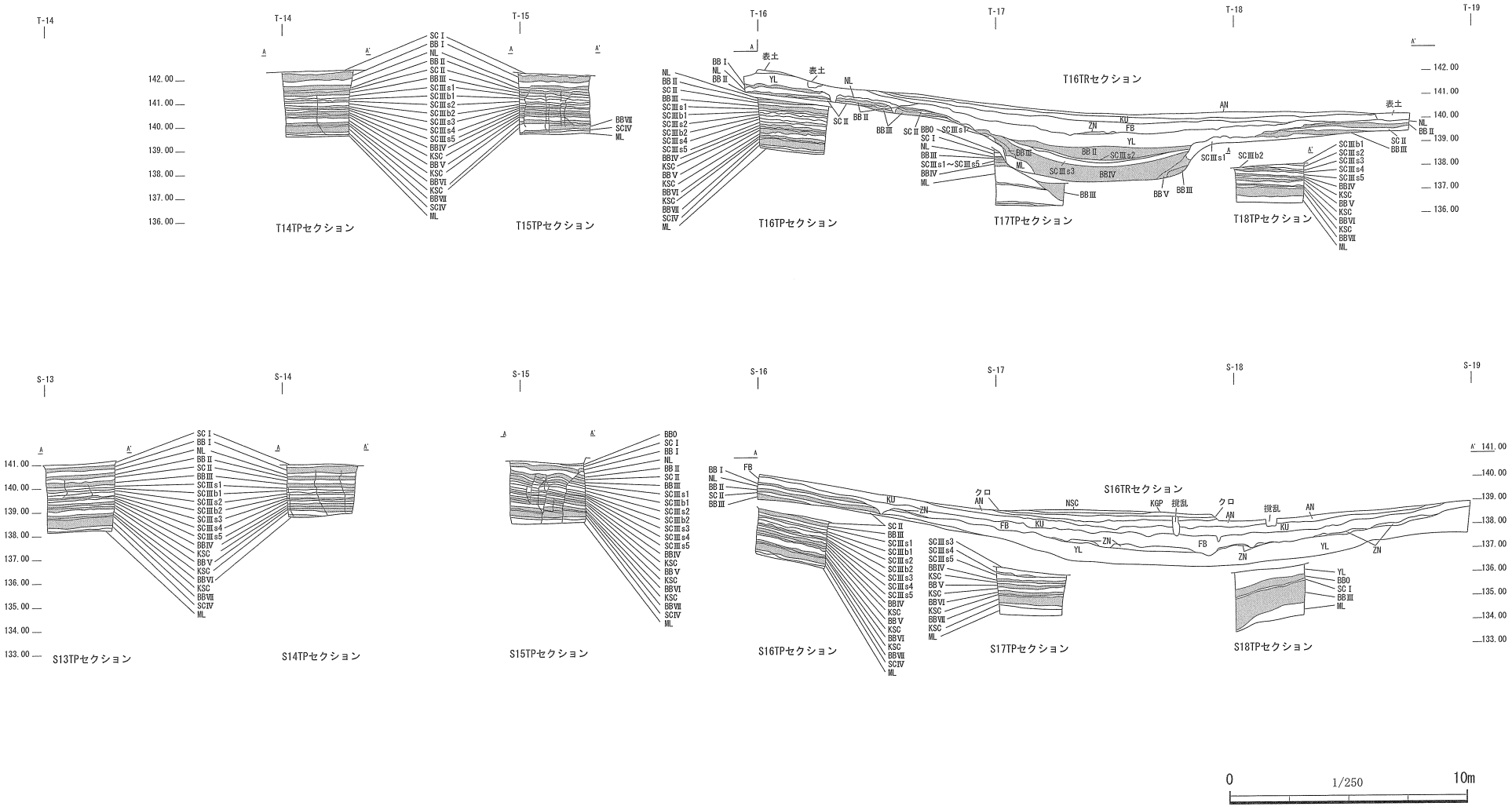
第17図　トレンチとテストピットのセクション（9）



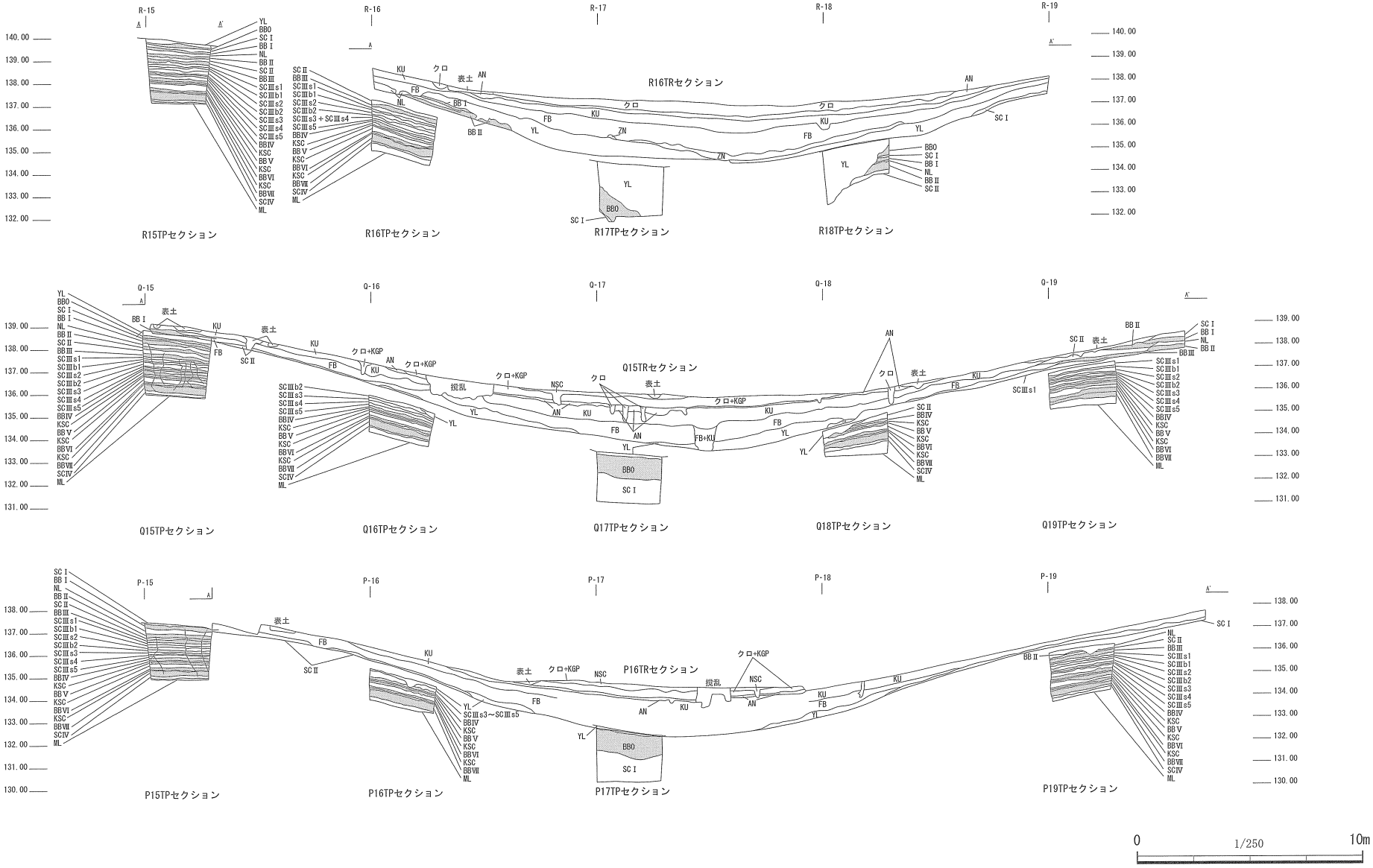
第18図　トレンチとテストピットのセクション（10）



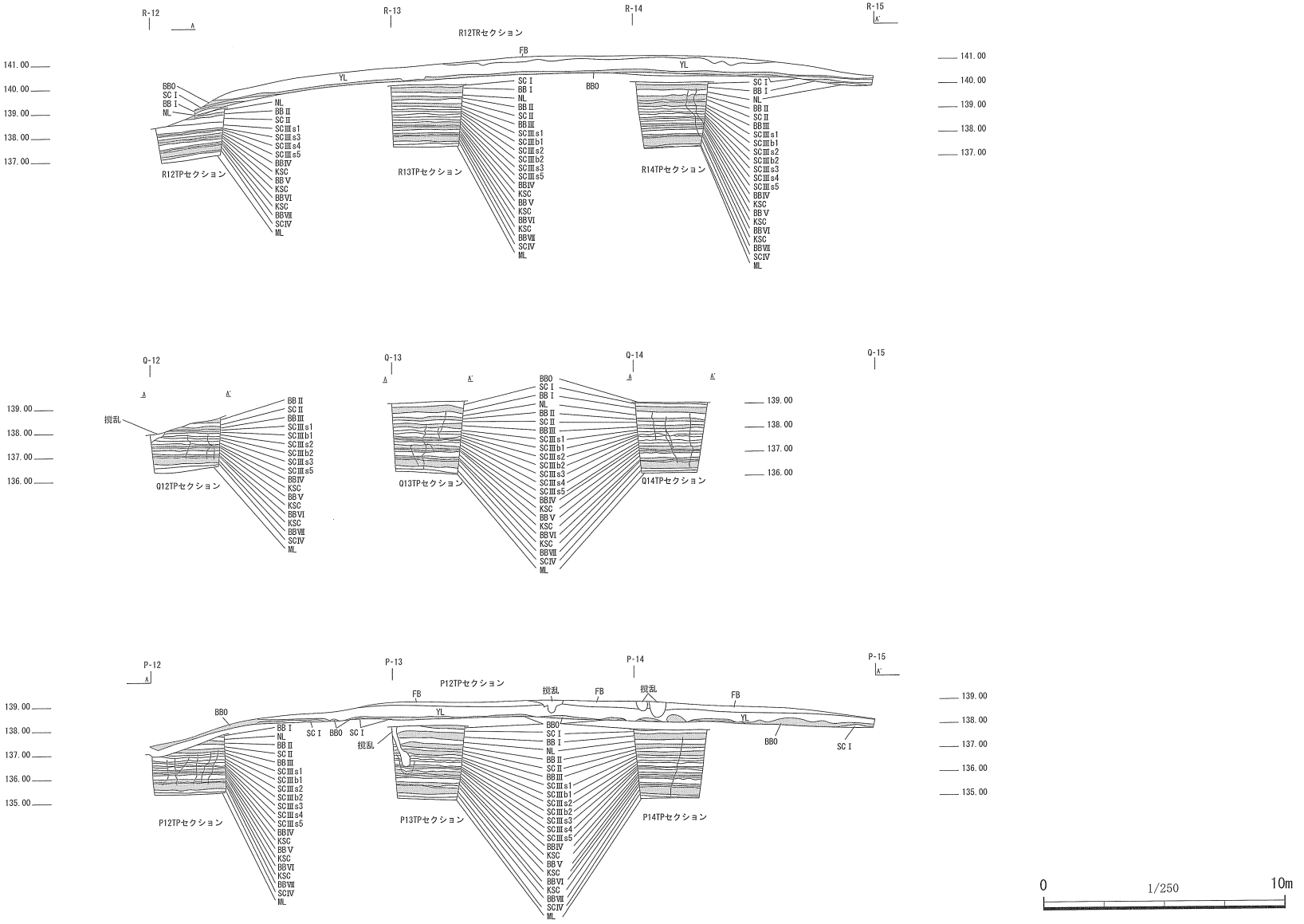
第19図　トレンチとテストピットのセクション（11）



第20図　トレンチとテストピットのセクション（12）

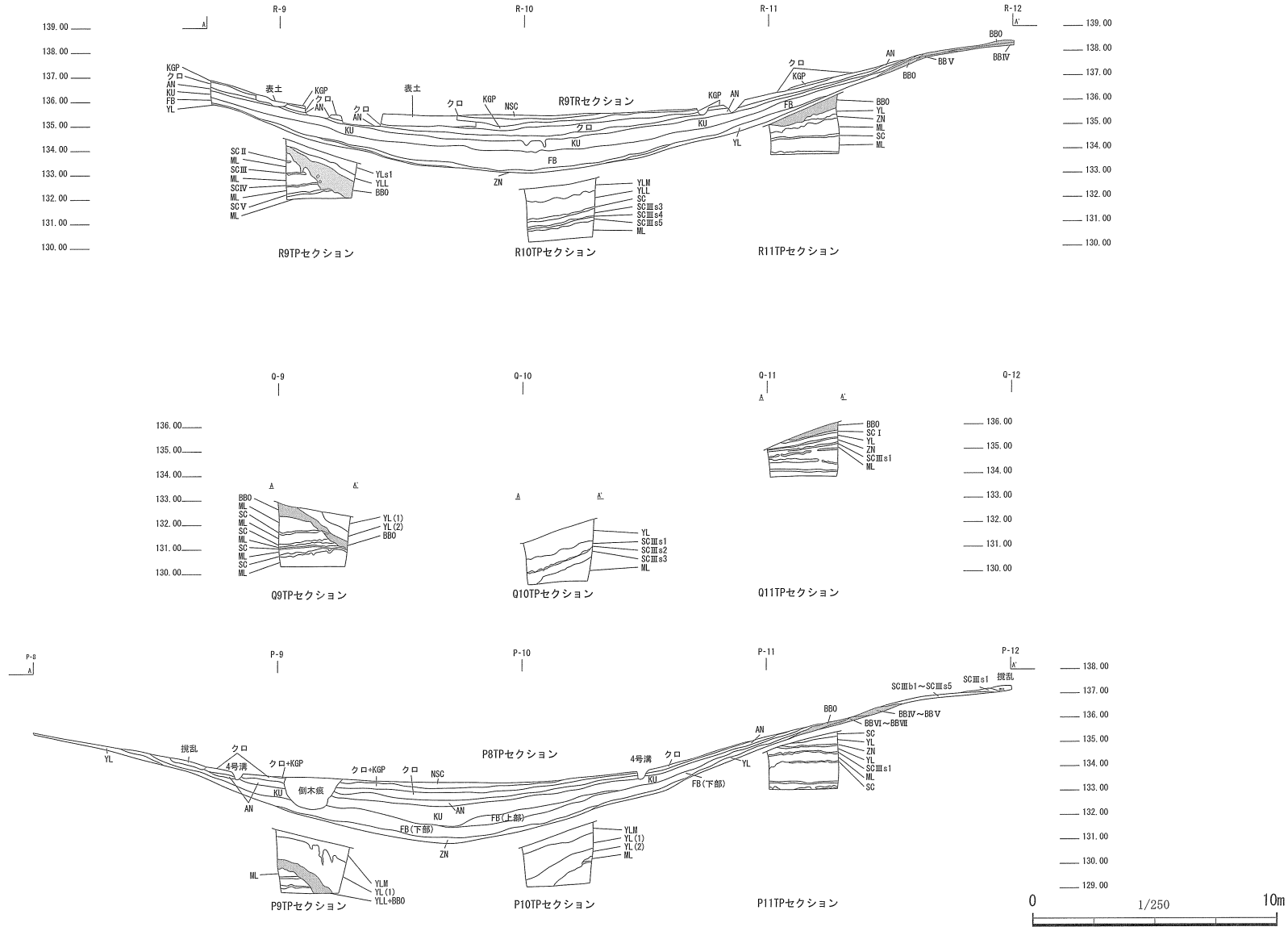


第21図　トレンチとテストピットのセクション（13）

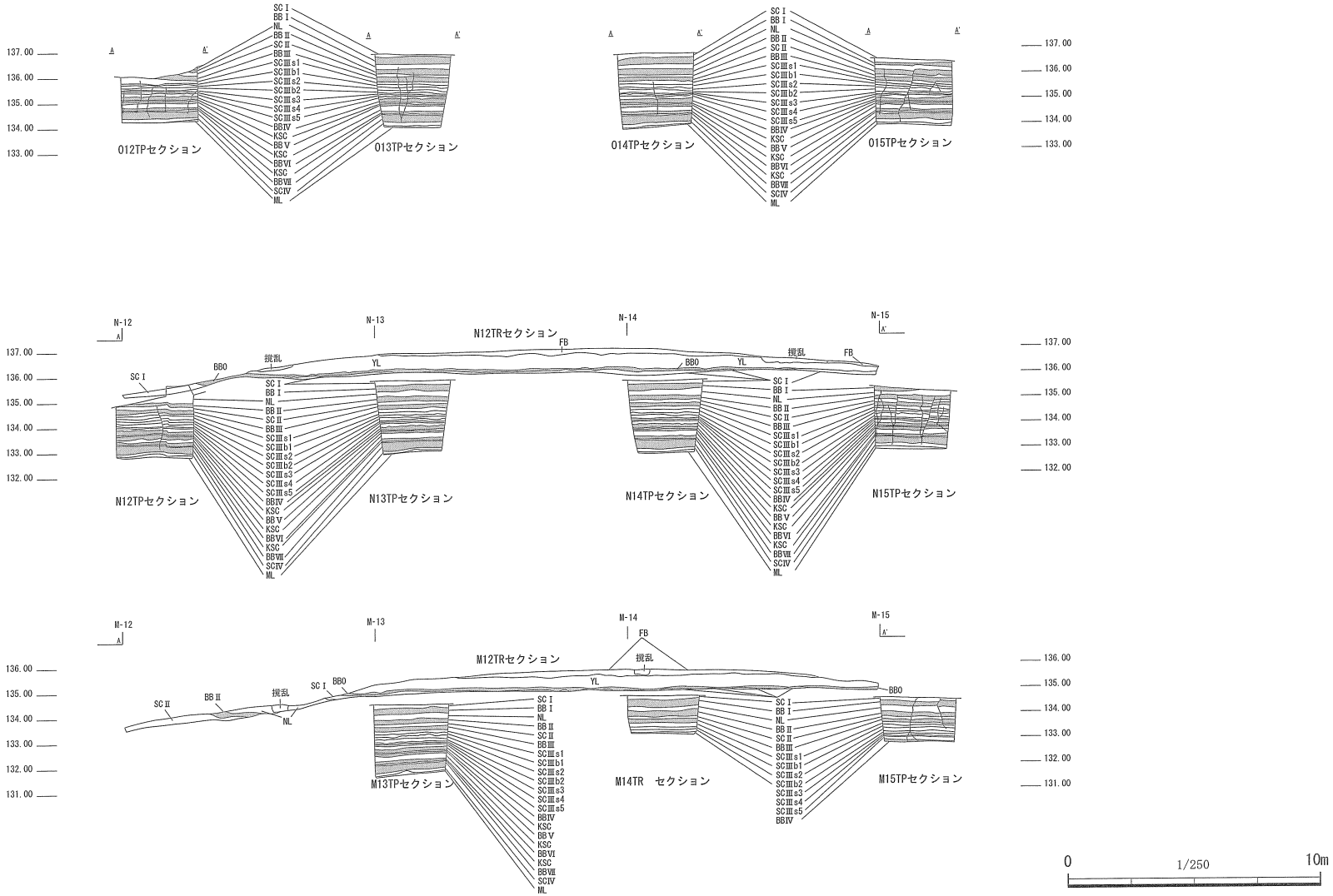


第22図　トレンチとテストピットのセクション（14）

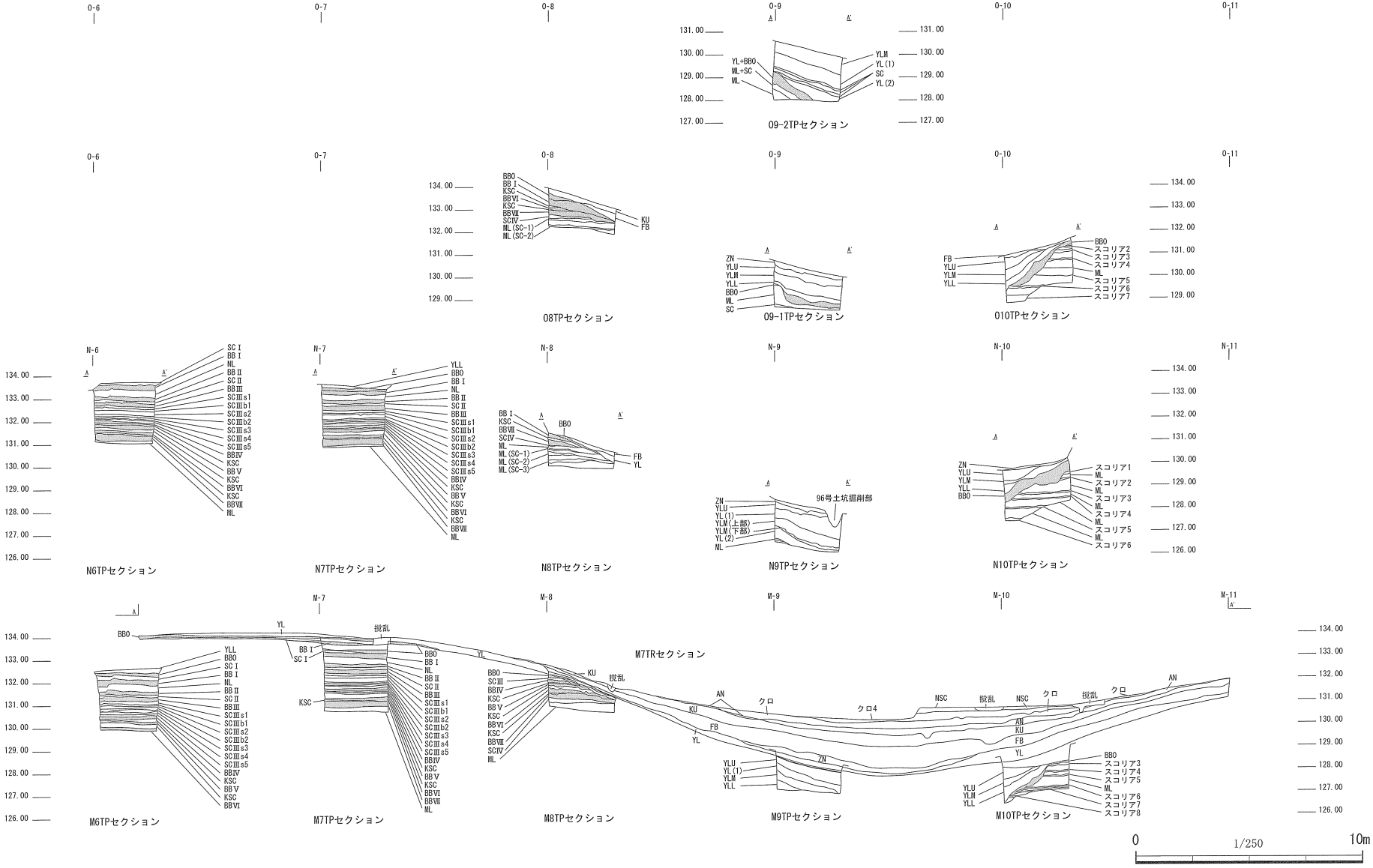
0　1/250　10m



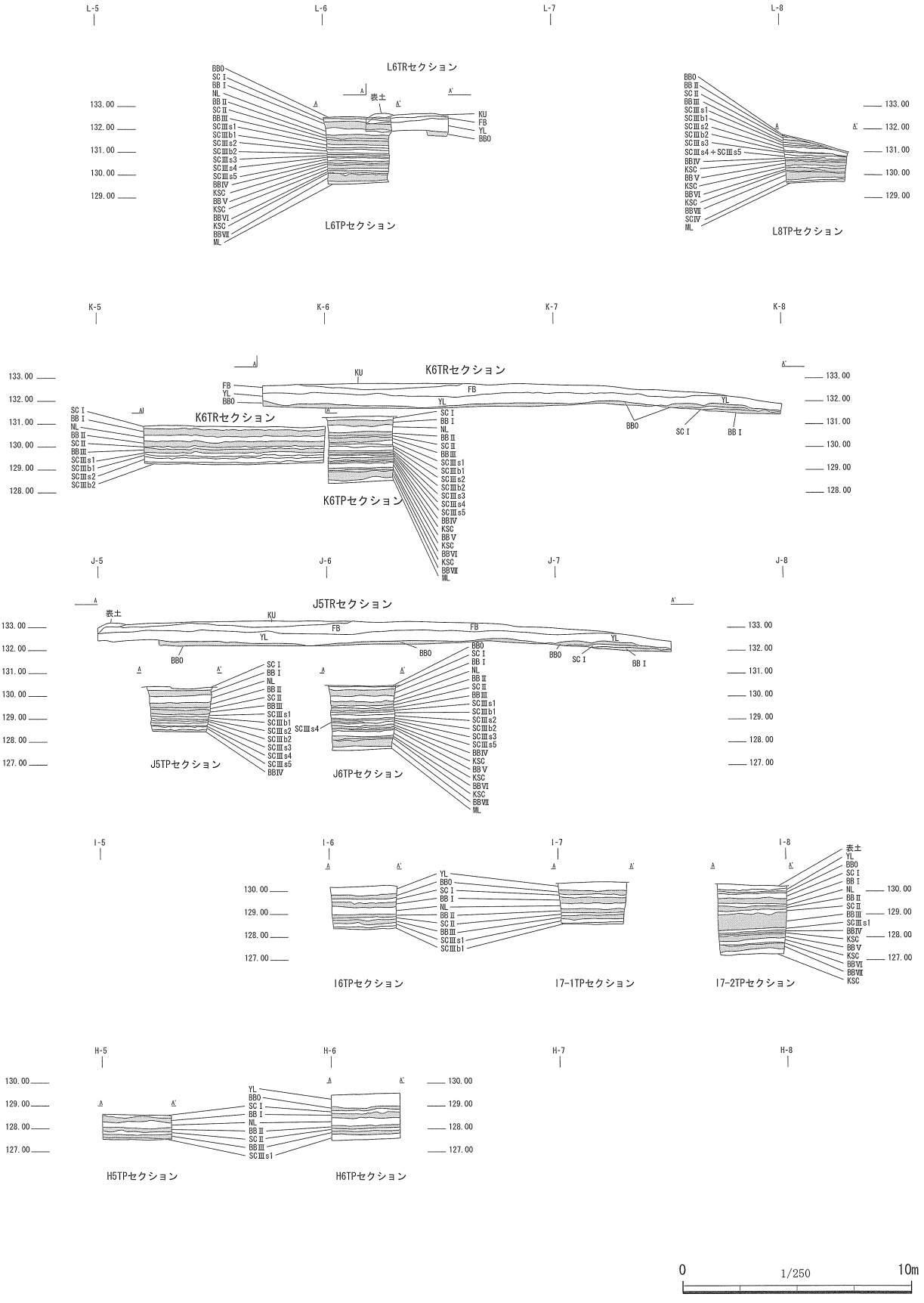
第23図　トレンチとテストピットのセクション（15）



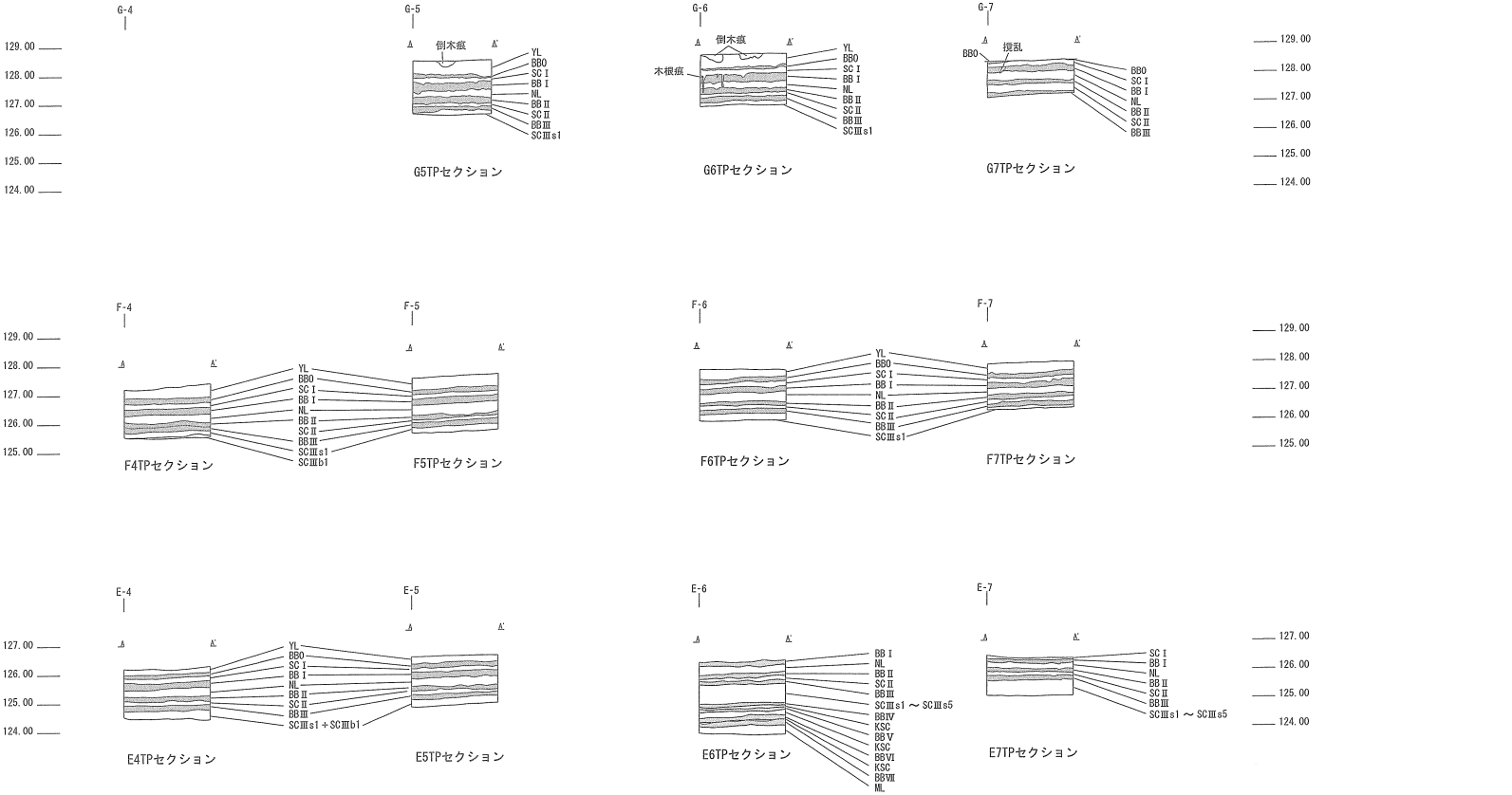
第24図　トレンチとテストピットのセクション（16）



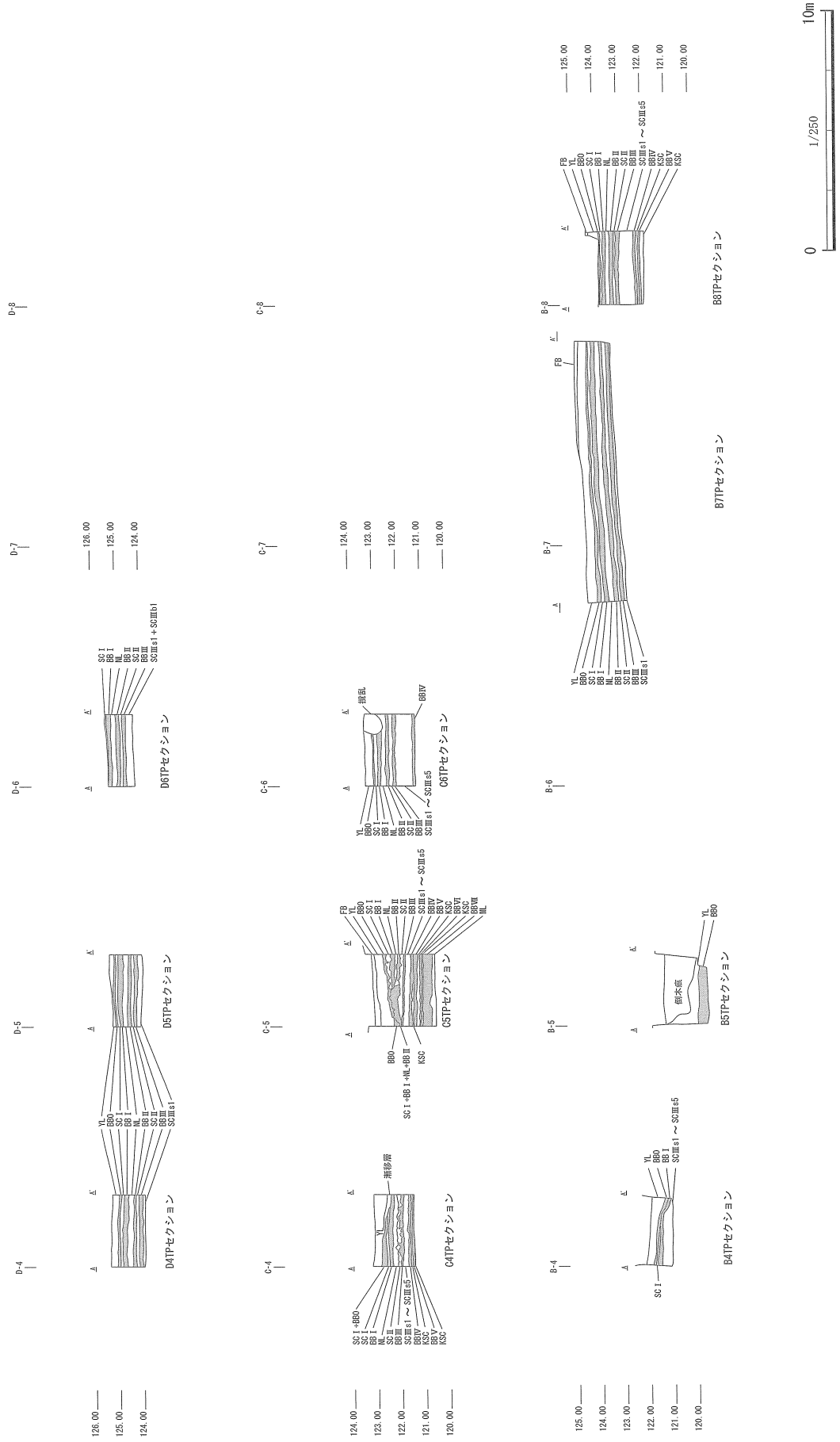
第25図　トレンチとテストピットのセクション（17）



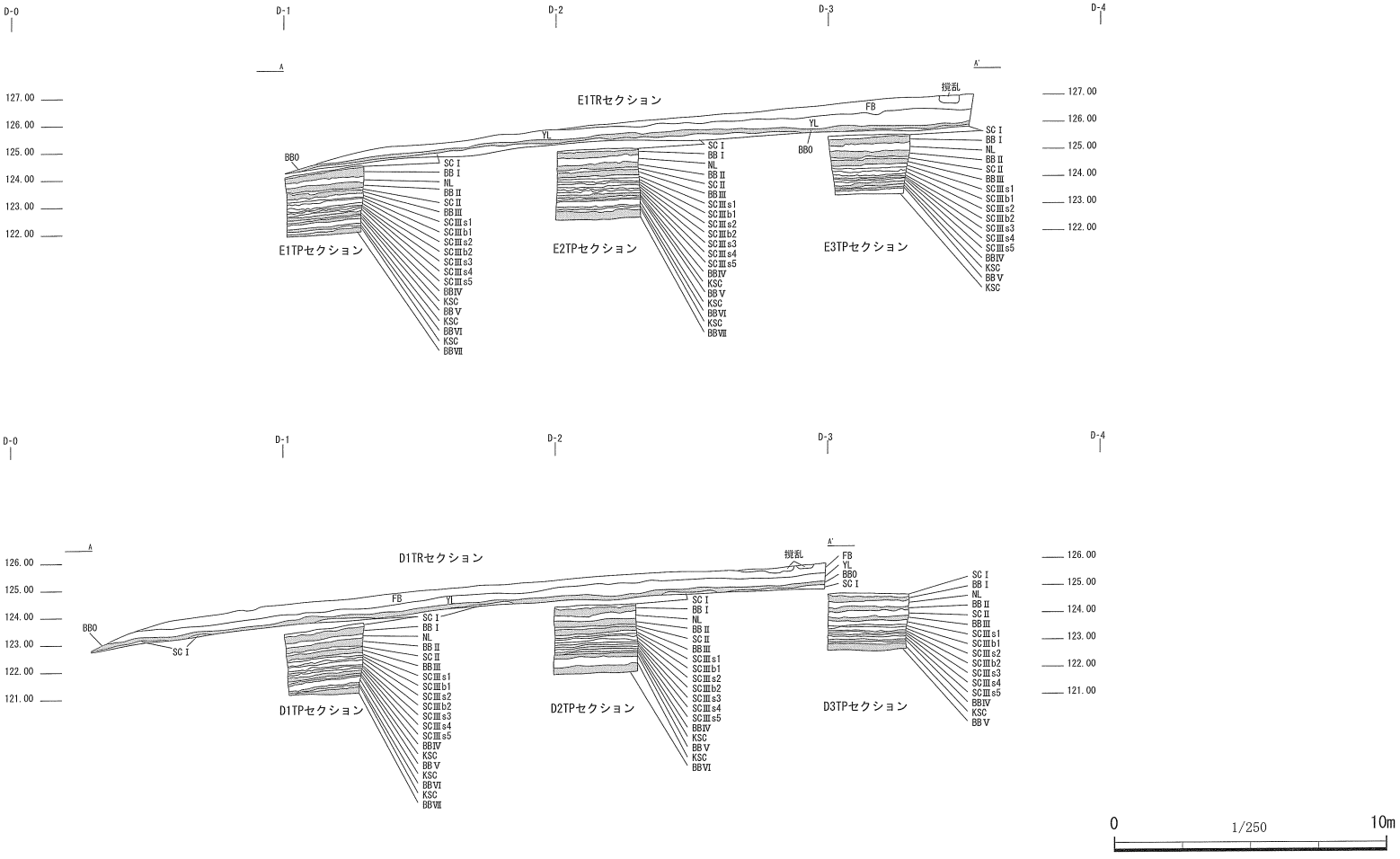
第26図　トレンチとテストピットのセクション（18）



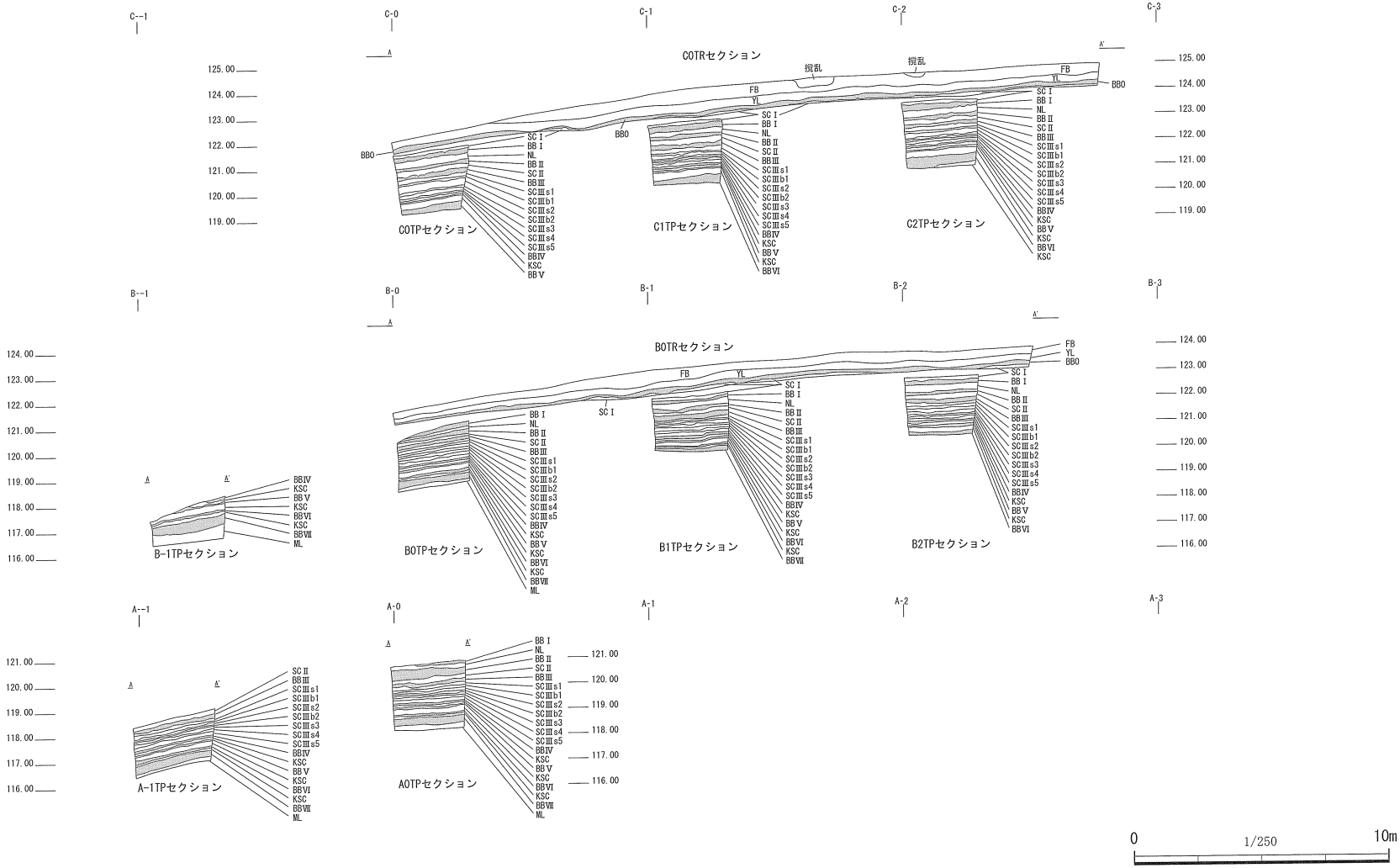
第27図　トレンチとテストピットのセクション（19）



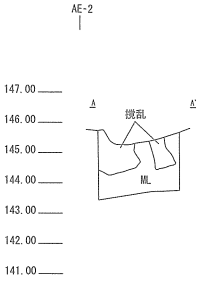
第28図　トレンチとテストピットのセクション（20）



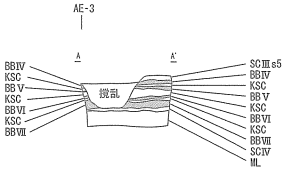
第29図　トレンチとテストピットのセクション（21）



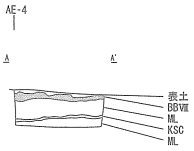
第30図　トレンチとテストピットのセクション（22）



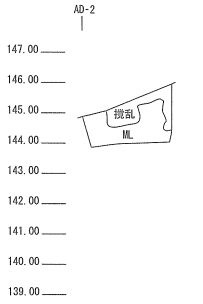
AE2TPセクション



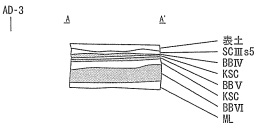
AE3TPセクション



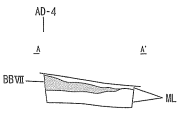
AE4TPセクション



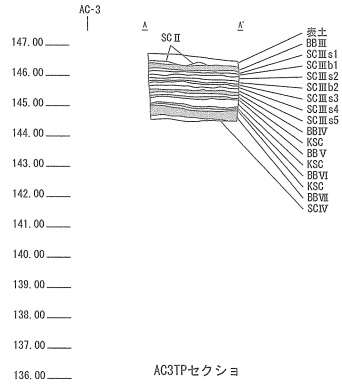
AD2TPセクション



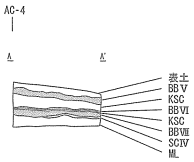
AD3TPセクション



AD4TPセクション

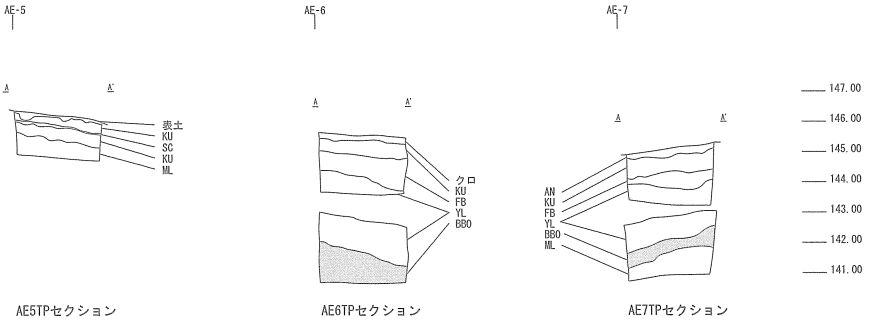


AC3TPセクショ

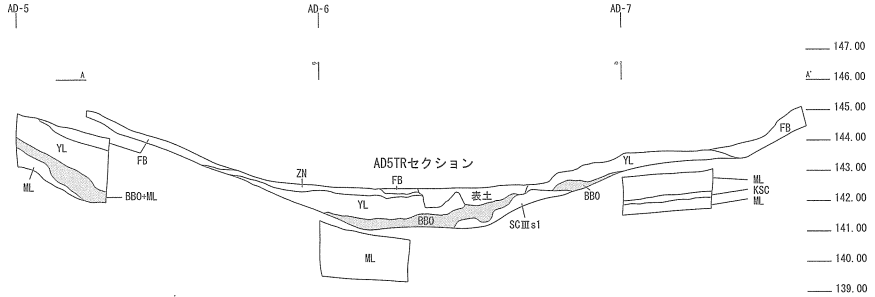


AC4TPセクション

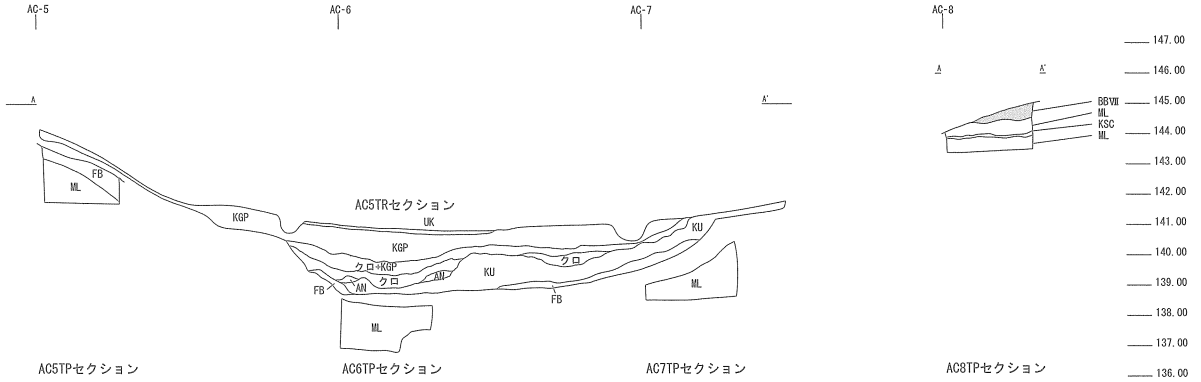
第31図　トレンチとテストピットのセクション（23）①



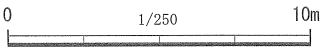
AE5TPセクション　　AE6TPセクション　　AE7TPセクション



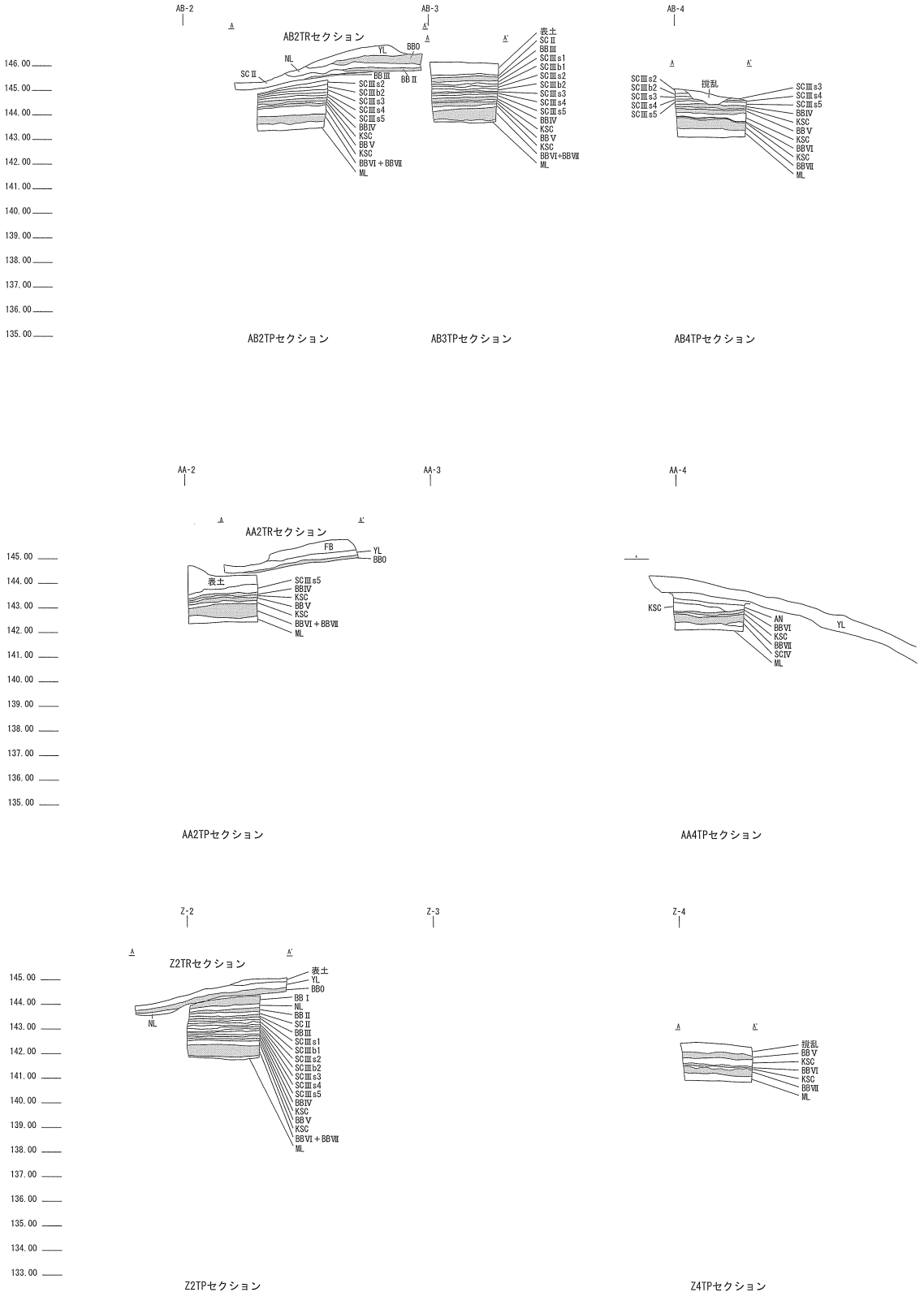
AD5TPセクション　　AD6TPセクション　　AD7TPセクション



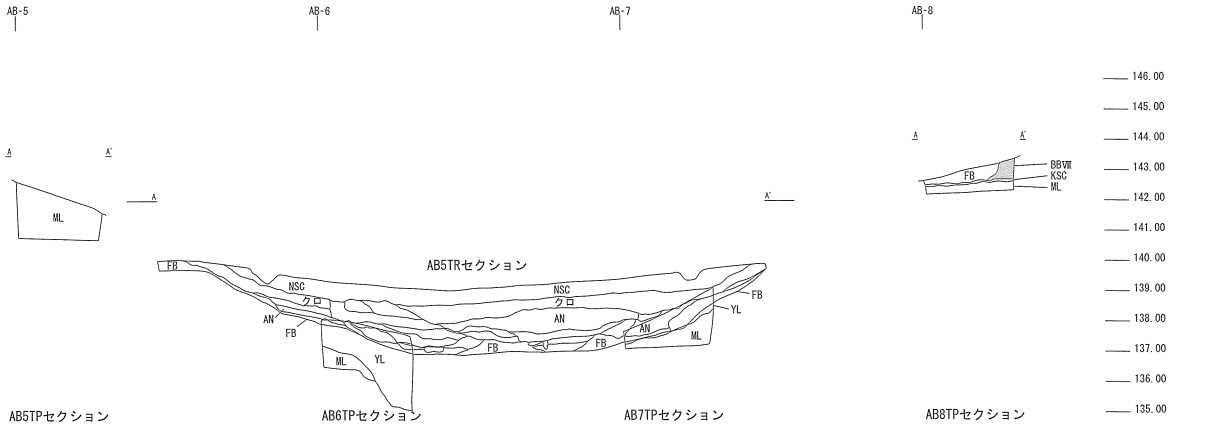
AC5TPセクション　　AC6TPセクション　　AC7TPセクション　　AC8TPセクション

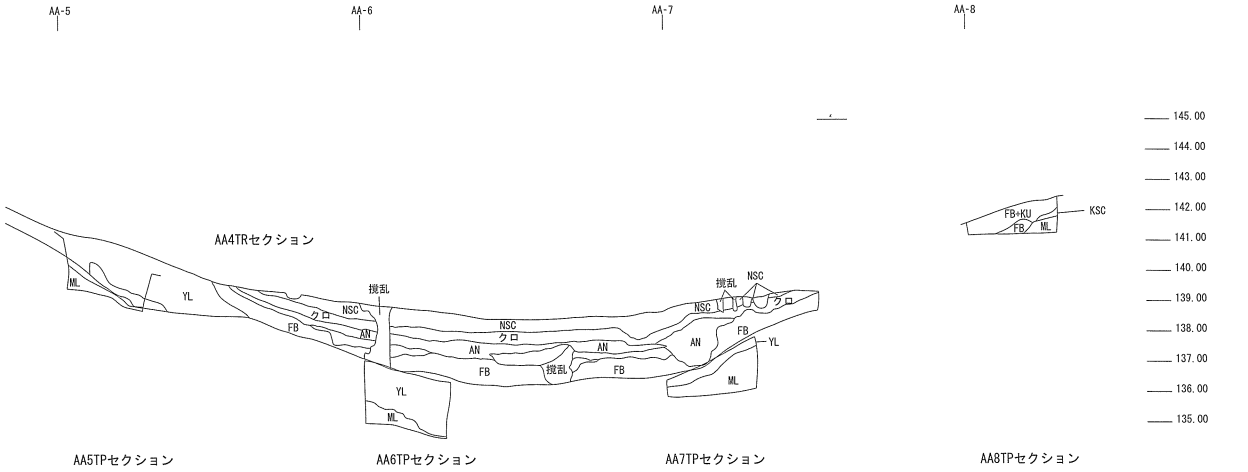


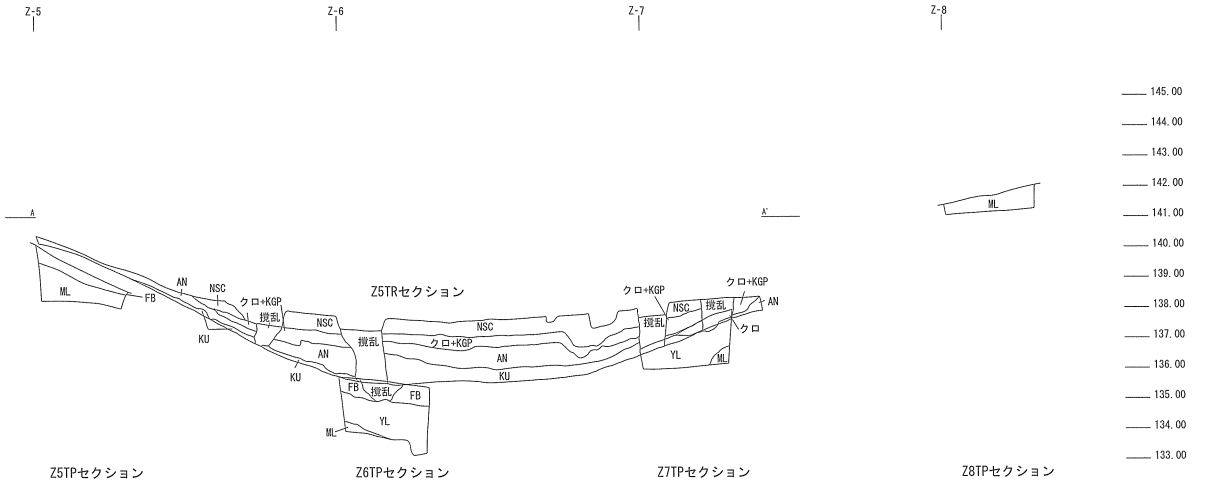
第32図　トレンチとテストピットのセクション（23）②

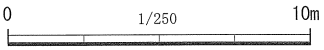


第33図　トレンチとテストピットのセクション（24）①

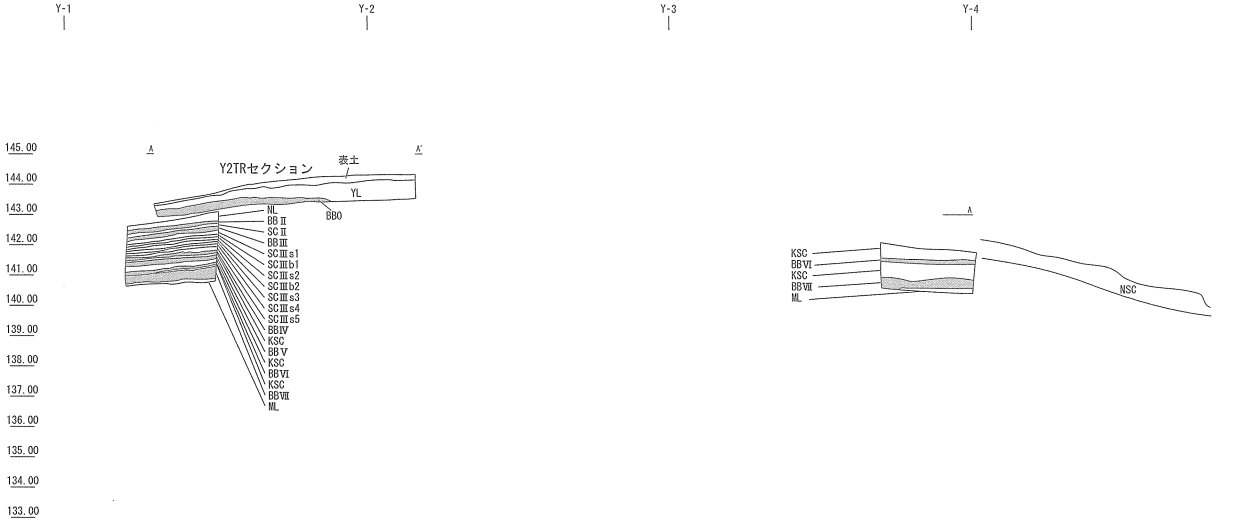






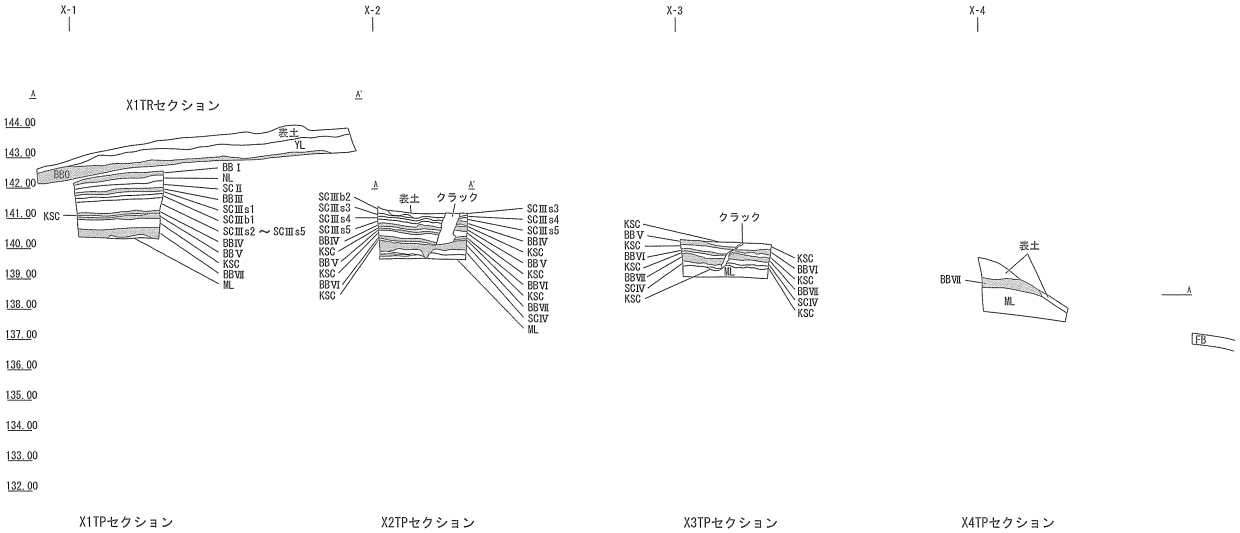


第34図　トレンチとテストピットのセクション（24）②



Y1TPセクション

Y3TPセクション



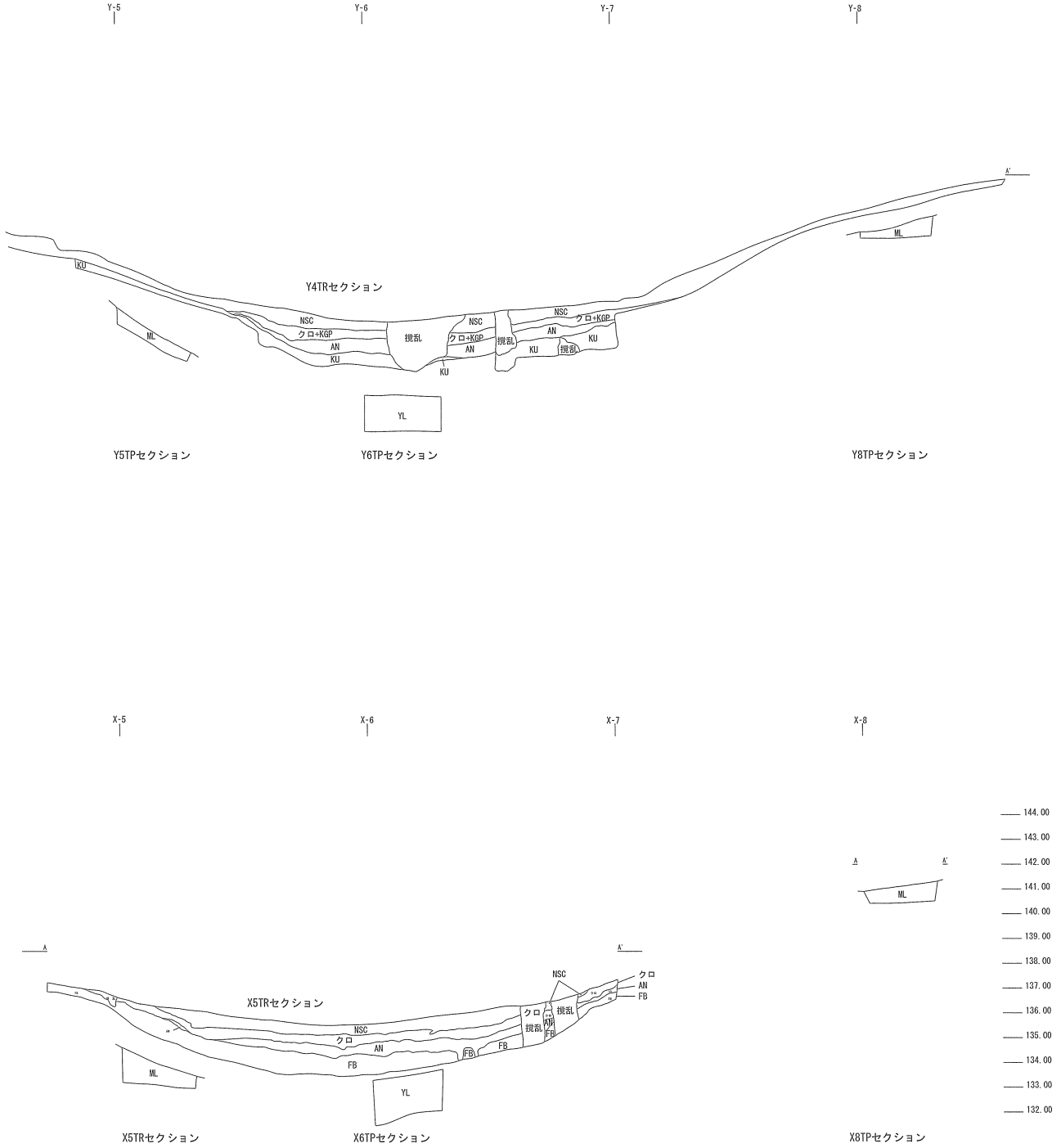
X1TPセクション

X2TPセクション

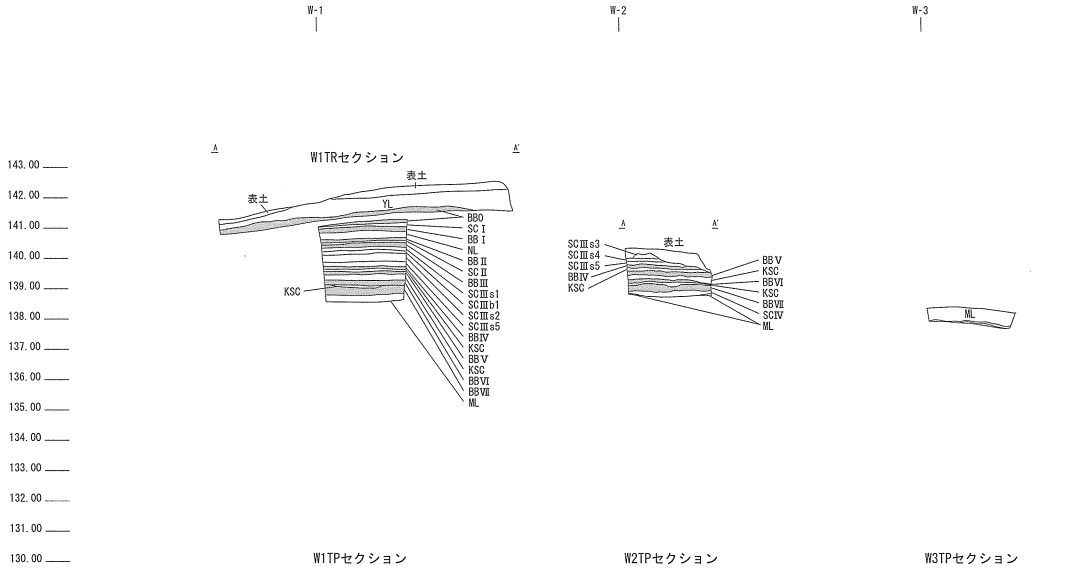
X3TPセクション

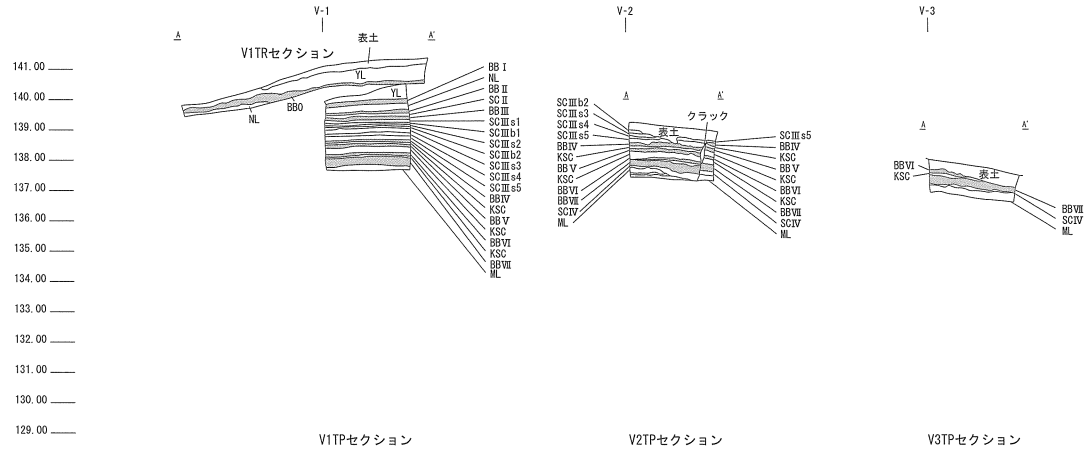
X4TPセクション

第35図　トレンチとテストピットのセクション（25）①

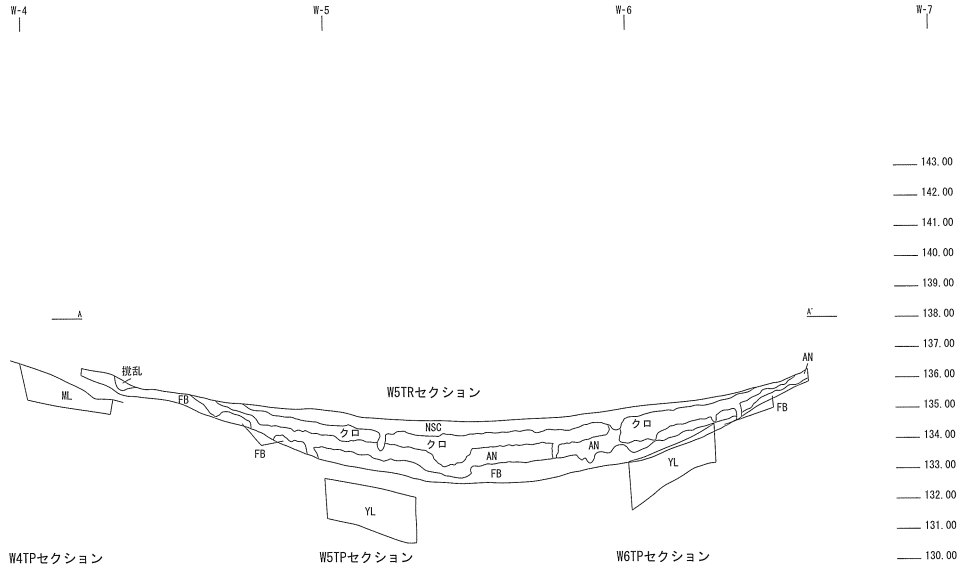


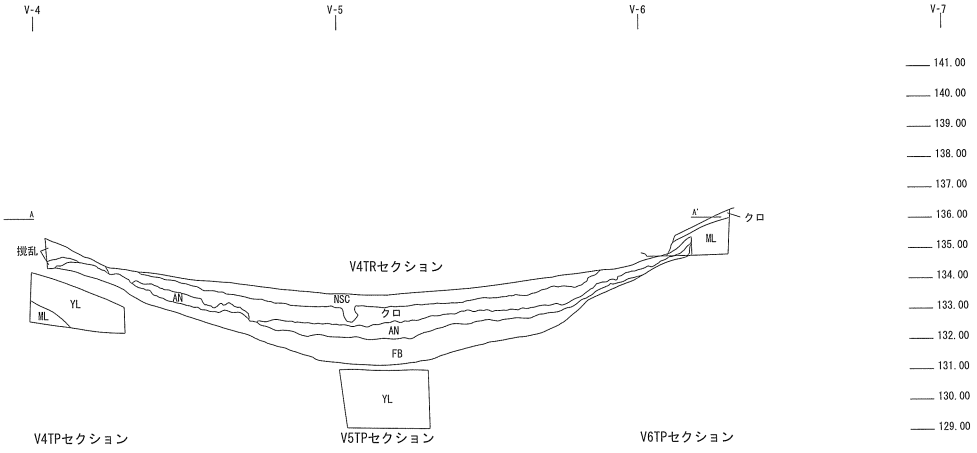
第36図　トレンチとテストピットのセクション（25）②

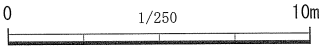




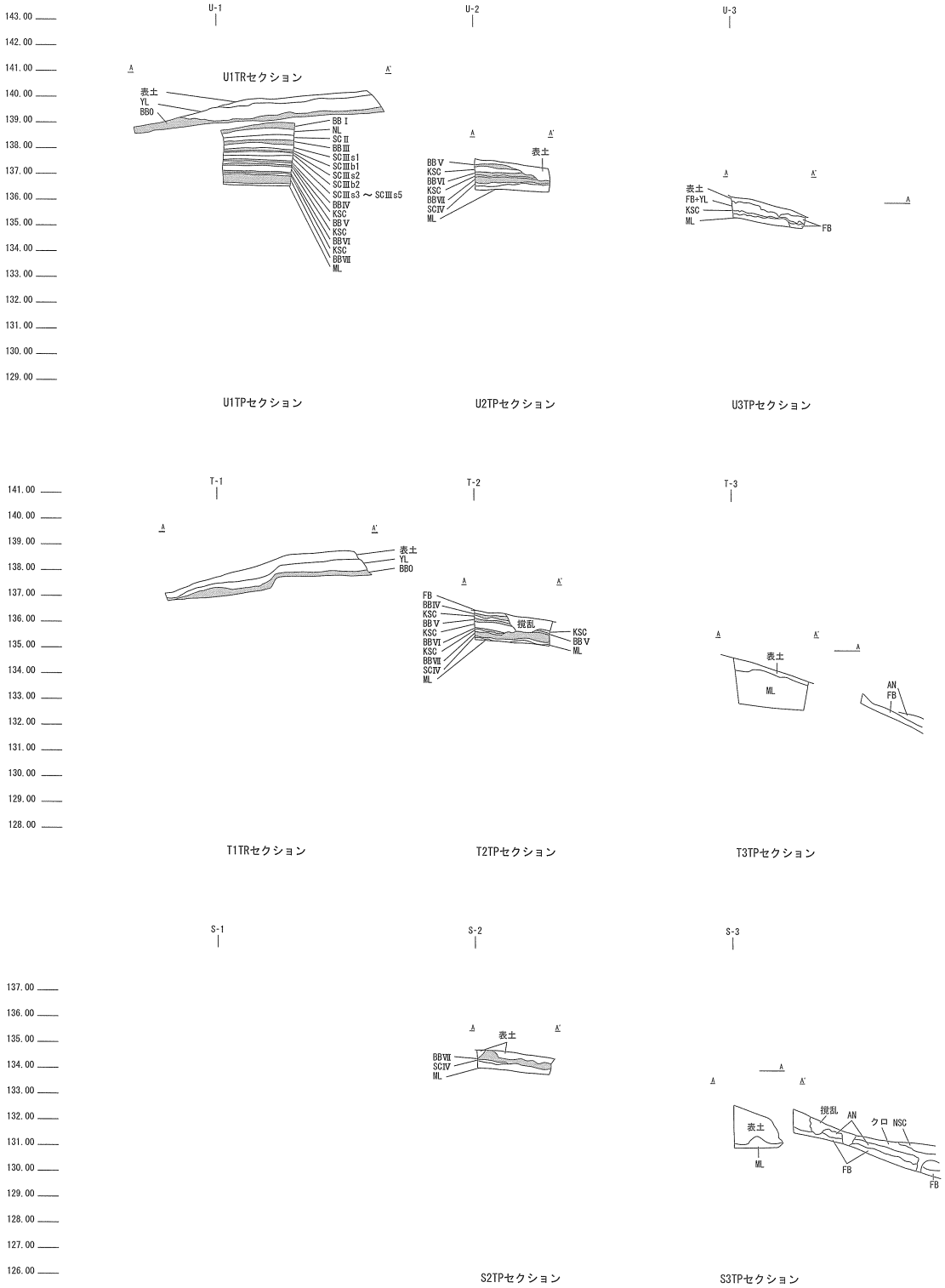
第37図　トレンチとテストピットのセクション（26）①



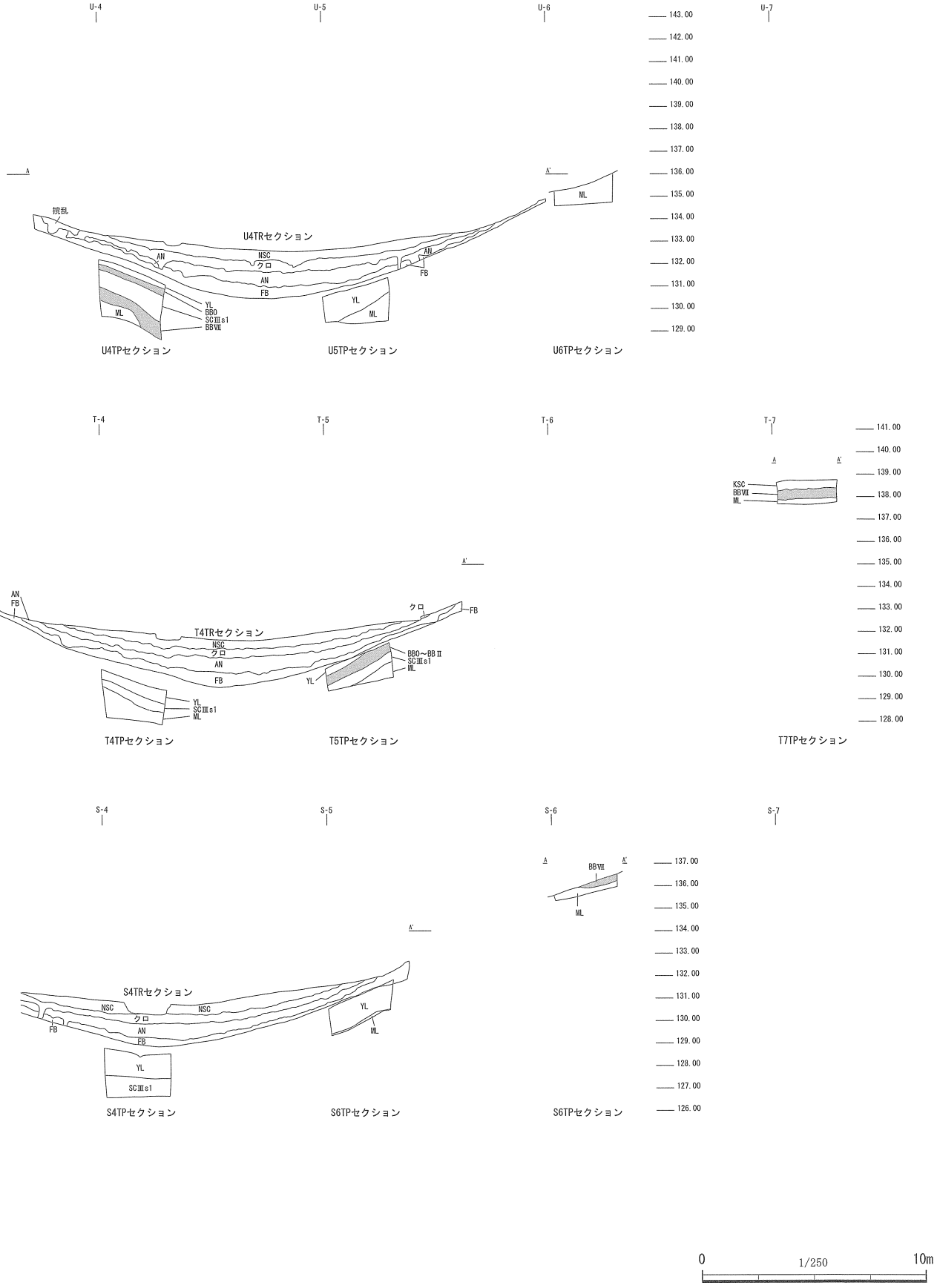




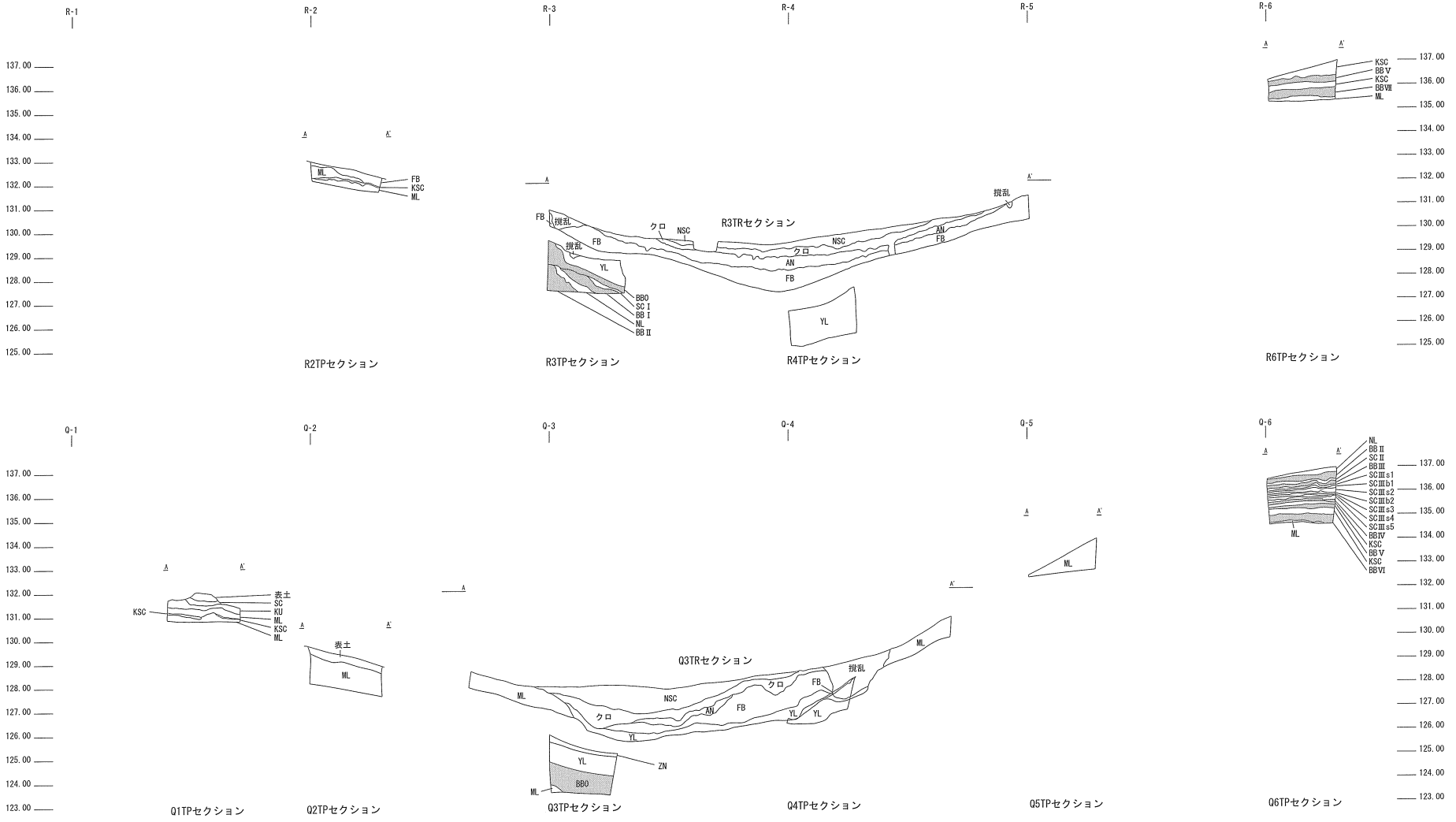
第38図　トレンチとテストピットのセクション（26）②



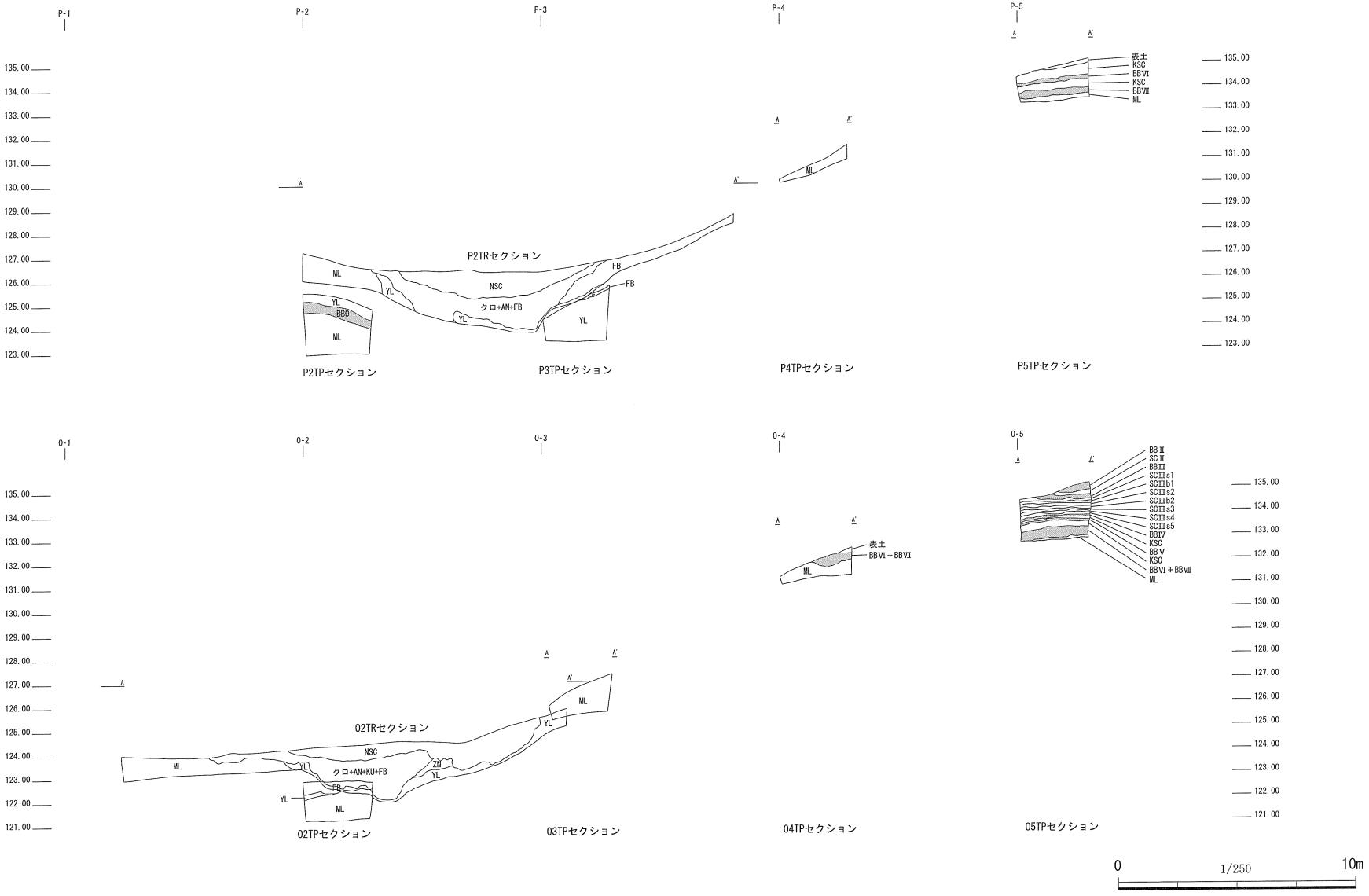
第39図　トレンチとテストピットのセクション（27）①



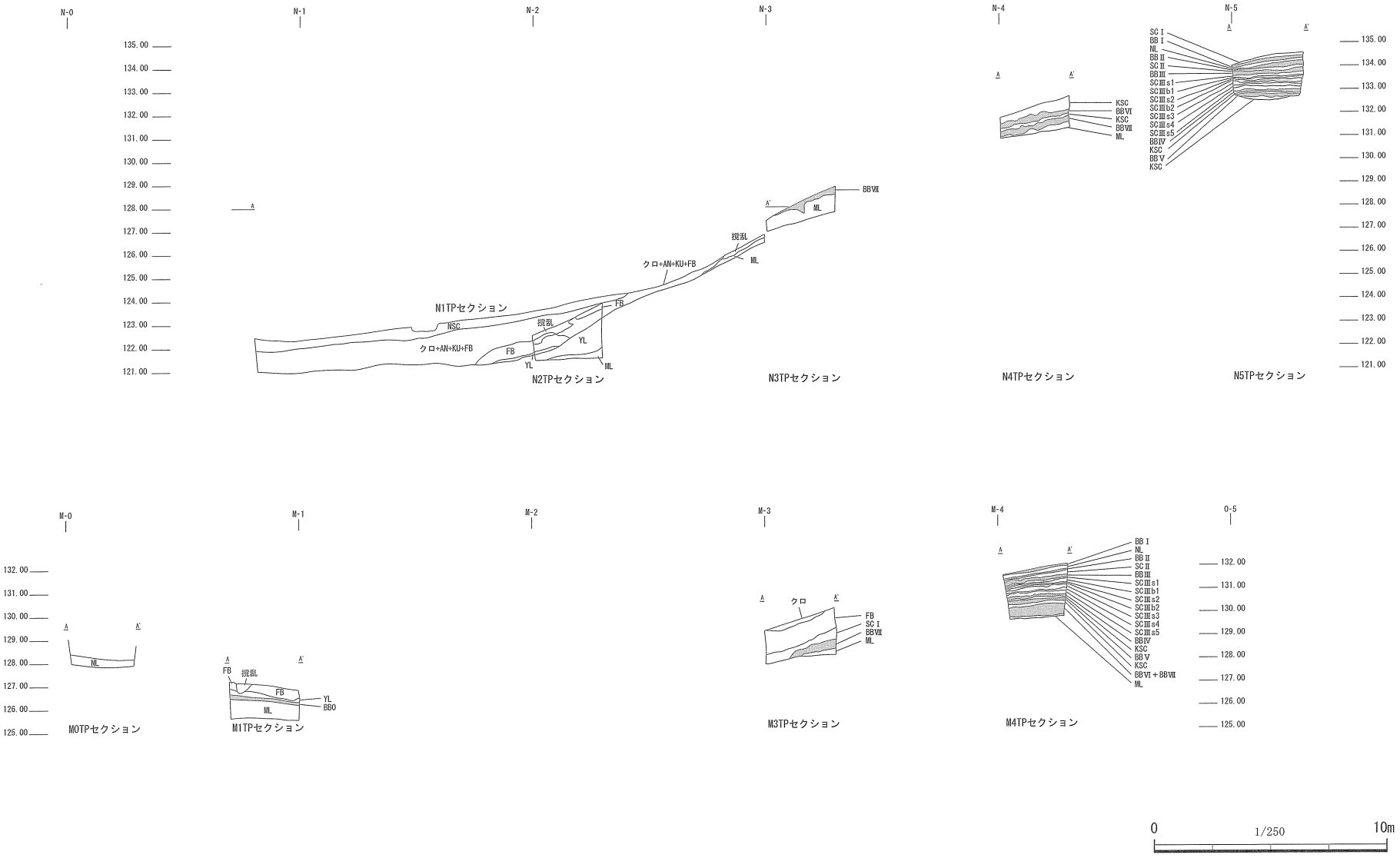
第40図　トレンチとテストピットのセクション（27）②



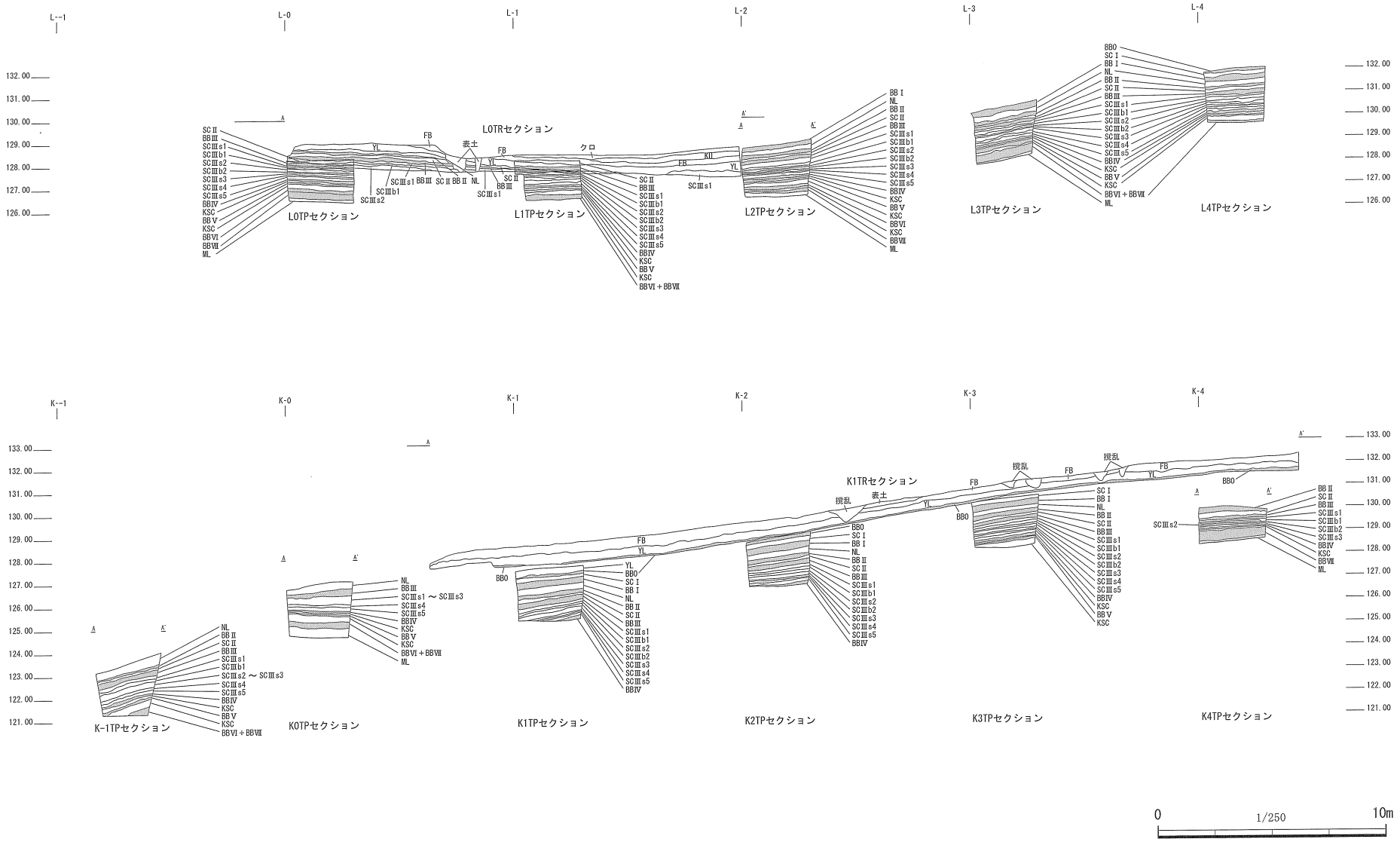
第41図　トレンチとテストピットのセクション（28）



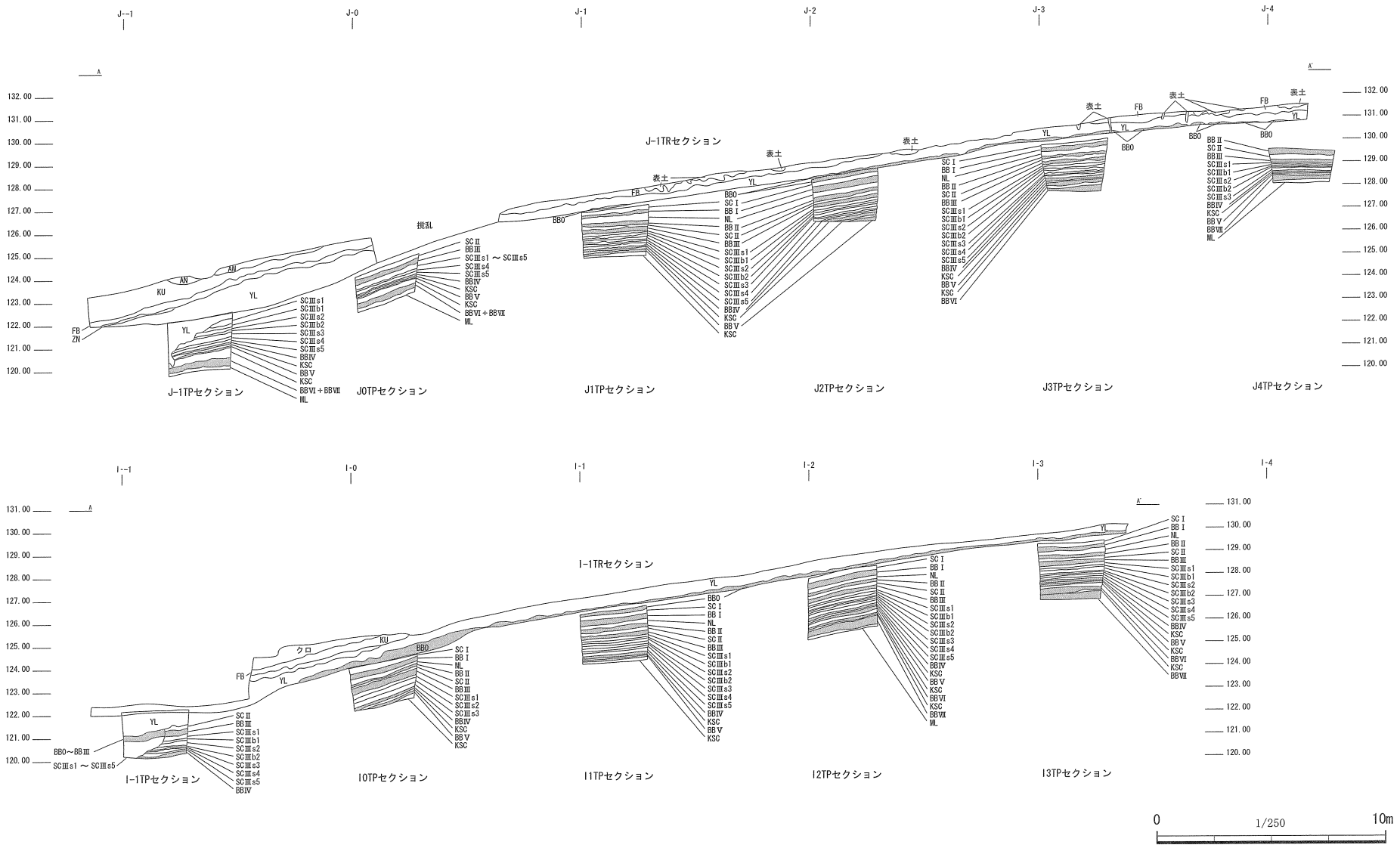
第42図　トレンチとテストピットのセクション（29）



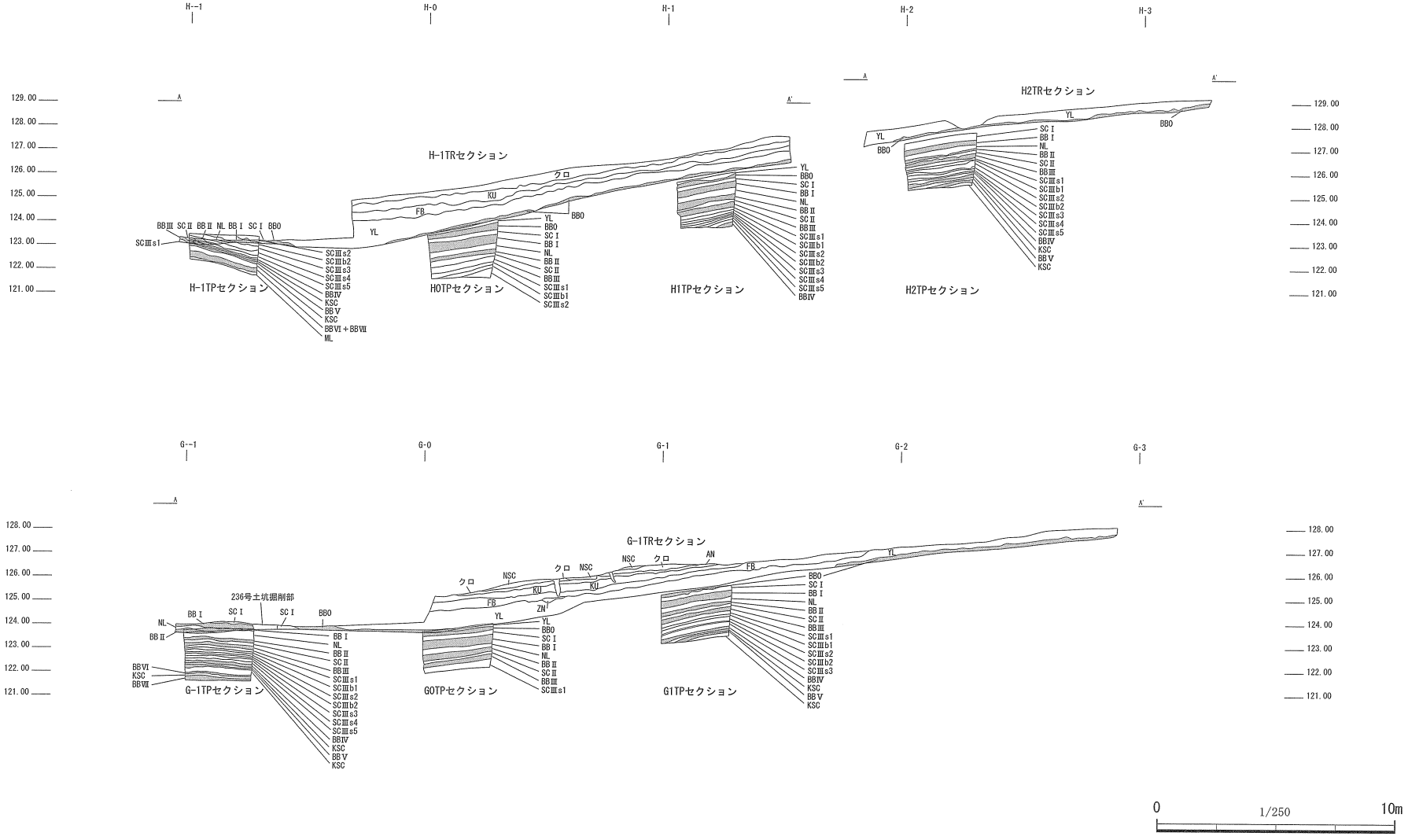
第43図　トレンチとテストピットのセクション（30）



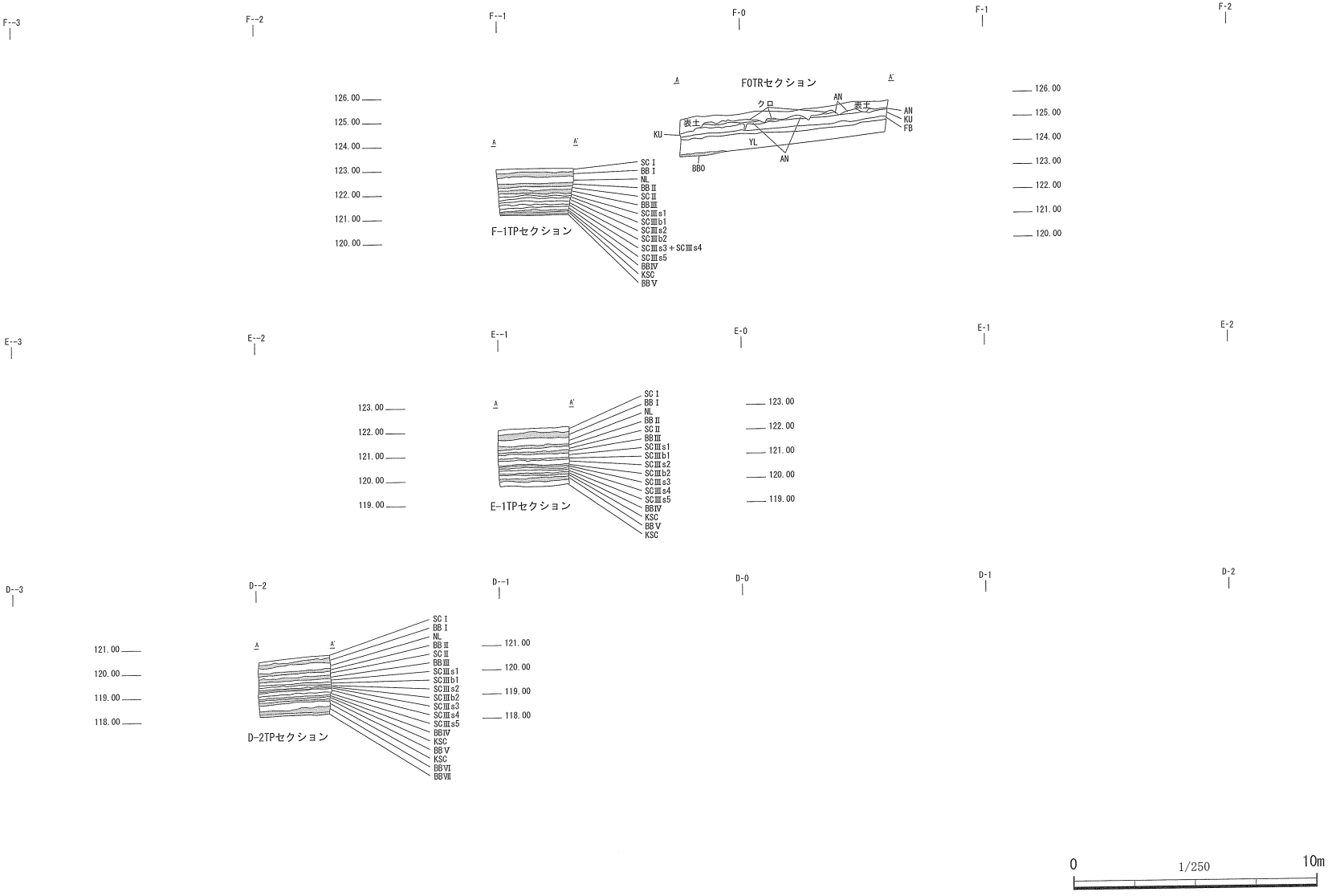
第44図　トレンチとテストピットのセクション（31）



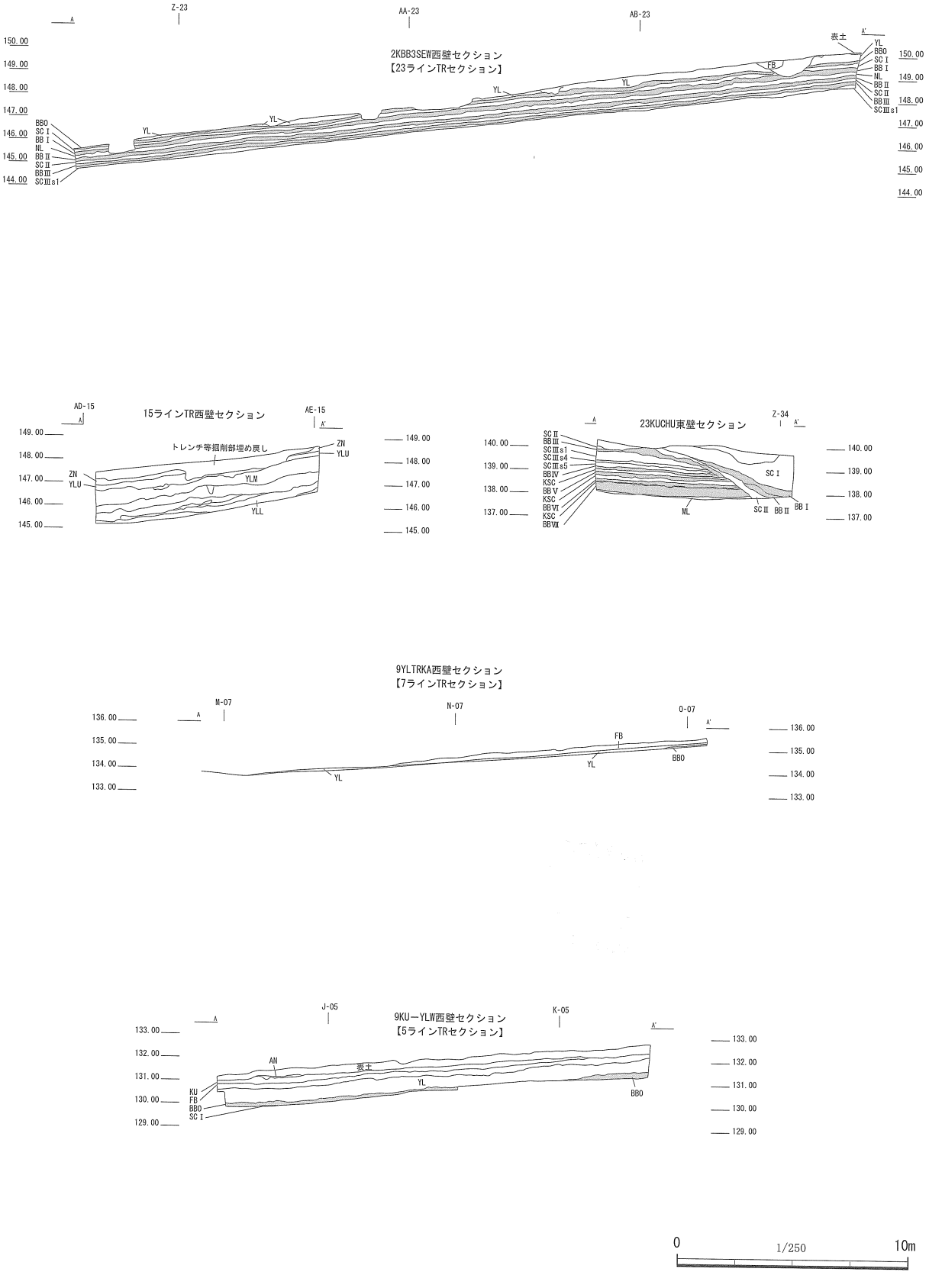
第45図　トレンチとテストピットのセクション（32）



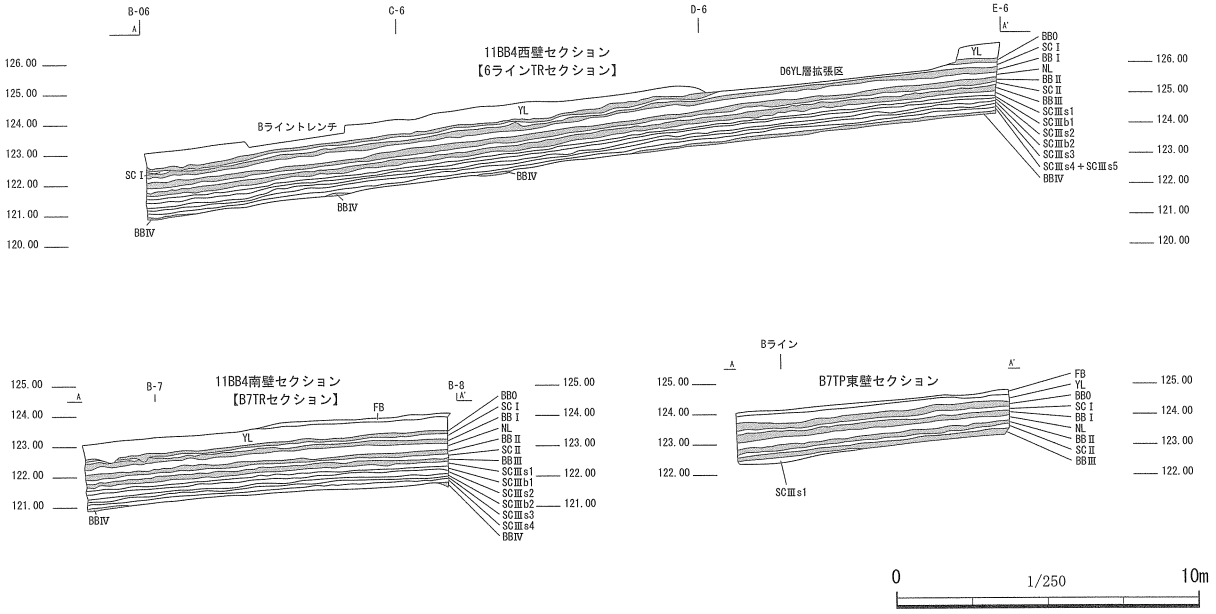
第46図　トレンチとテストピットのセクション（33）



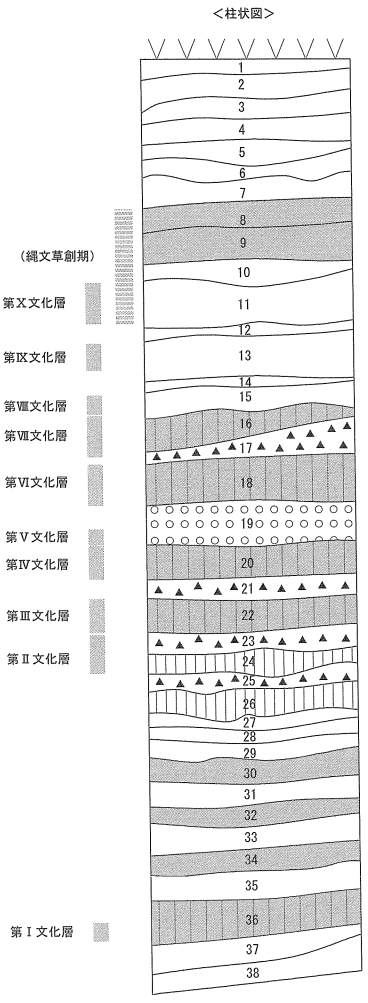
第47図　トレンチとテストピットのセクション（34）



第48図　トレンチとテストピットのセクション（35）



第49図　トレンチとテストピットのセクション（36）



＜層名＞		＜略称＞
1	表土	表土
2	黒色土層	UK
3	新期スコリア層	NSC
4	カワゴ平パミスを含む層	KGP
5	黒色土層	クロ
6	暗褐色土層	AN
7	栗色土層	KU
8	富士黒色土層（上部）	FB(上部)
9	富士黒色土層（下部）	FB(下部)
10	漸移層	ZN
11	休場層上層	YLU
12	休場層中スコリア1	YLs1
13	休場層中層	YLM
14	休場層中スコリア2	YLs2
15	休場層下層	YLL
16	休場層直下黒色帯	BBO
17	第Ⅰスコリア層	SC I
18	第Ⅰ黒色帯	BB I
19	ニセローム層	NL
20	第Ⅱ黒色帯	BB II
21	第Ⅱスコリア層	SC II
22	第Ⅲ黒色帯	BB III
23	第Ⅲスコリア帯スコリア1	SCIIIs1
24	第Ⅲスコリア帯黒色帯1	SCIIIb1
25	第Ⅲスコリア帯スコリア2	SCIIIs2
26	第Ⅲスコリア帯黒色帯2	SCIIIb2
27	第Ⅲスコリア帯スコリア3	SCIIIs3
28	第Ⅲスコリア帯スコリア4	SCIIIs4
29	第Ⅲスコリア帯スコリア5	SCIIIs5
30	第Ⅳ黒色帯	BBIV
31	褐色スコリア層	KSC
32	第Ⅴ黒色帯	BB V
33	褐色スコリア層	KSC
34	第Ⅵ黒色帯	BBVI
35	褐色スコリア層	KSC
36	第Ⅶ黒色帯	BBVII
37	第Ⅳスコリア層	KSC
38	中部ローム	ML

第50図　基本層序と文化層

第３章　遺跡の環境

第１節　地理環境

愛鷹山は約40万年前から10万年前に活動していた成層火山である。約10万年前、現在の袴腰岳付近から噴出したと考えられる桃沢川火砕流や、最新の噴出物である長窪火砕流は、南東麓において火山麓扇状地を形成し、傾斜の比較的緩やかな台地の基盤を構成している。

この基盤の上には古富士火山起源の火山灰が殆どを占めるといわれるローム層が堆積し、愛鷹ローム層と呼ばれている。愛鷹ローム層は最大約10mに及ぶ厚い層で、地質学的に上部・中部・下部の3つに分類される。上部愛鷹ローム層は、関東地方の立川ロームに対比されており、火山灰の降下が休止した時期にイネ科の植物が繁茂してできた腐食土壌といわれている黒色帯と、細粒火山灰が多く含まれるスコリア層とが交互に堆積し、地質学的・考古学的編年の有用な指標となっている。

古富士火山の活動は後期更新世末期から完新世初頭に活発化し、現在の富士山に近い状態を形成する。この際、数度にわたり多量の溶岩が噴出し、東西に広く流出したが、障壁となった愛鷹山の南側への影響は少なかった。

秋葉林遺跡（第二東名No.25地点）は、JR原駅から北へ約3.6㎞離れた愛鷹山南麓の標高約120-150mに立地し、古富士火山の溶岩流の影響が少なかった地域に含まれ、愛鷹山から流れる複数の沢筋によって刻まれた尾根と浅い埋没谷にまたがる広範囲の遺跡である。

第２節　歴史環境

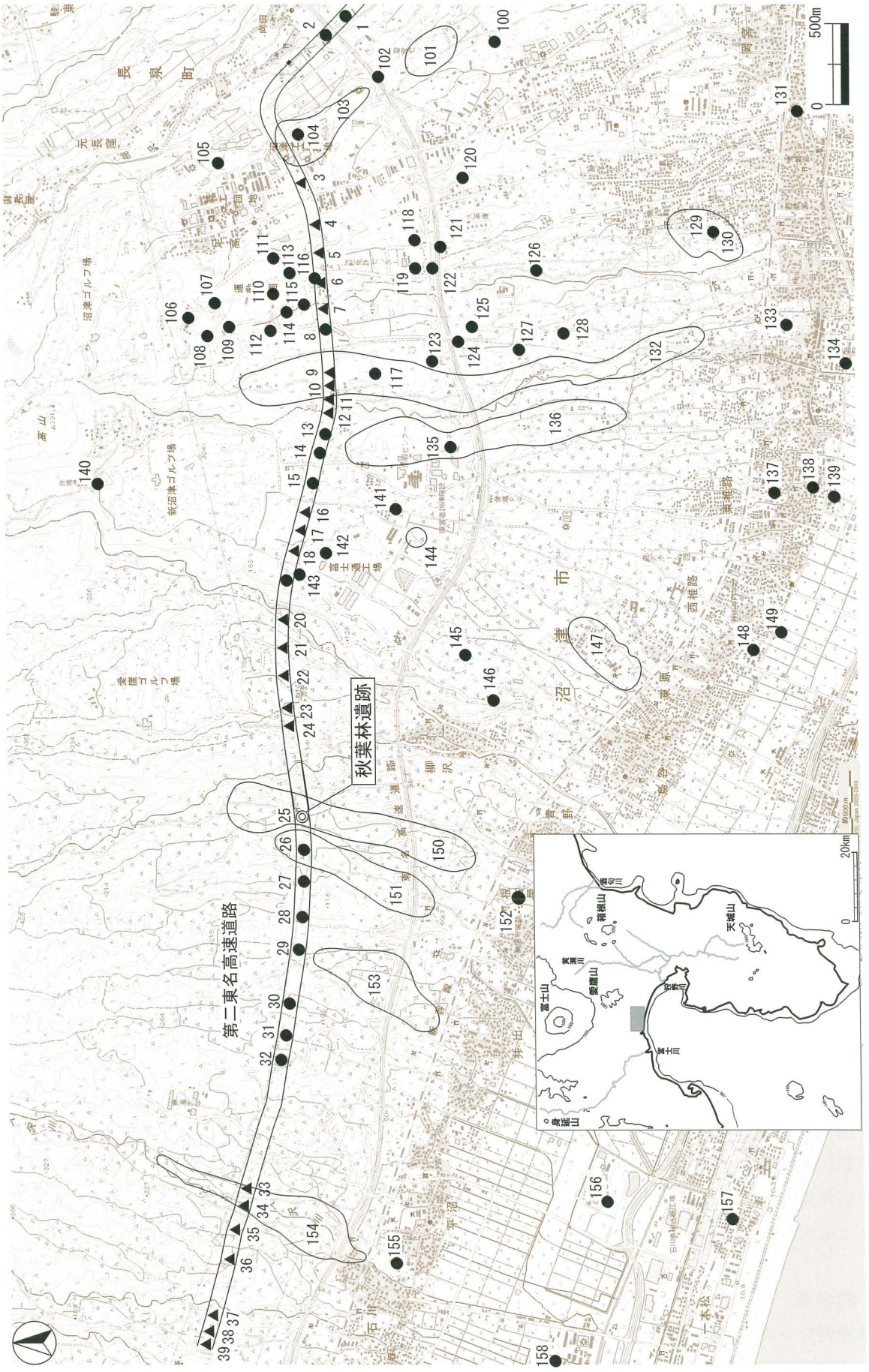
愛鷹山東南麓の高橋川と桃沢川に挟まれた一帯は沼津市街から近いため、1980年代から周辺地域に先駆けて土地開発が進んだ。開発に伴って行われた発掘調査で、旧石器時代、縄文時代、古墳時代の遺跡が高い密度で立地していることがわかった。これに対して、高橋川以西の愛鷹山南麓では開発が少なく、墳丘を残す古墳のほかは遺跡の存在が余り知られていなかった。しかし、近年の第二東名建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の進展に伴い、高橋川西岸から富士市域にも遺跡が濃密に分布していることが明らかになった（第51図、表2)。ここでは周辺の旧石器時代から縄文時代草創期について概観する。

１．旧石器時代

現在のところ、中部愛鷹ロームから発見された遺構と遺物は極めて少なく、ほとんどが上部愛鷹ロームで発見されている。いずれも後期旧石器時代の所産と考えられている。以下の記述では、便宜的に愛鷹・箱根山麓標準土層の第Ⅶ黒色帯からニセローム層下部（姶良Tn火山灰の主要包含層）までの遺構・遺物を前半期、ニセローム層上部から休場層上部の遺構・遺物およびそれ以上に含まれる関連石器群を後半期として扱う。

（１）前半期

上部愛鷹ロームの下底部に位置づけられた第Ⅶ黒色帯は後期旧石器時代初頭の石器群が包含される層である（AMS法で32,060±170BP（IAAA-10714）：第二東名No.26地点出土炭化物)。同層の上部では、元野



第51図　周辺の主要遺跡分布

表2　沼津周辺の主要遺跡一覧

番号	遺跡名	時代
1	桜畑上遺跡	旧石器・縄文・中世・近世
2	西山遺跡	旧石器・縄文
3	尾上第1遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
4	二ツ洞遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
5	植出北遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
6	中見代第Ⅰ遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
7	西洞遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
8	西洞遺跡	旧石器・縄文・古墳
9	八兵衛洞B遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
10	八兵衛洞A遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
11	八兵衛洞C遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
12	八兵衛洞D遺跡	旧石器・縄文
13	イタドリ遺跡	旧石器・縄文
14	イタドリ遺跡	旧石器・縄文
15	元野第Ⅳ遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
16	土橋第Ⅰ遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
17	土橋第Ⅱ遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
18	土橋第Ⅲ遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
19	元野遺跡	旧石器・縄文
20	井戸川遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
21	井戸川西遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
22	第二東名No.22地点	(遺跡なし)
23	赤野遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
24	内山遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
25	**秋葉林遺跡**	**旧石器・縄文・古墳・奈良・平安・中世**
26	的場遺跡・的場古墳群	旧石器・縄文・弥生・古墳・平安
27	測ヶ沢遺跡	旧石器・縄文・中世・近世
28	鎌沢遺跡	旧石器・縄文
29	銭神遺跡	旧石器・縄文・古墳～平安
30	茗荷沢遺跡	旧石器・縄文
31	藤ボサ遺跡	旧石器・縄文・古墳～中世
32	藤ボサ遺跡	旧石器・縄文・奈良
33	大沢遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)

*1～39は第二東名建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

番号	遺跡名	時代
34	石川古墳群	旧石器・縄文・古墳
35	小坂上遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
36	長坂遺跡	(沼津市教育委員会により調査中)
37	神ヶ沢第Ⅱ遺跡	縄文
38	神ヶ沢古墳群	縄文
39	矢川上C遺跡・船津古墳群	旧石器・縄文・古墳
100	丸尾遺跡	縄文（中）
101	清水柳古墳群	古墳
102	清水柳遺跡	旧石器・縄文
103	清水柳北古墳群	古墳
104	清水柳北遺跡	旧石器・縄文（草・早・前）
105	尾上イラウネ遺跡	旧石器・縄文（早）
106	葛原沢第Ⅱ遺跡	古墳
107	土手上遺跡	旧石器・縄文（早）
108	葛原沢遺跡	旧石器・縄文・古墳・奈良・平安
109	葛原沢第Ⅳ遺跡	旧石器・縄文（草・早・前）
110	広合遺跡	旧石器・縄文（中）
111	二ツ洞遺跡	旧石器・縄文（中）
112	西洞遺跡	縄文（早）・古墳
113	尾上広合遺跡	縄文・集落跡
114	中見代第Ⅱ遺跡	旧石器・縄文（早）
115	中見代第Ⅰ遺跡	旧石器・縄文（早・中）・弥生
116	広合南遺跡	縄文
117	八兵衛屋敷遺跡	弥生（後）・古墳
118	植出遺跡	弥生
119	北神馬土手北遺跡	縄文（早）・弥生（後）
120	尾上馬牧土手遺跡	縄文（早）・弥生（後）
121	二本松遺跡	弥生
122	北神馬土手遺跡	弥生（後）
123	尾上Ⅲ橋遺跡	縄文（早）・弥生（後）
124	尾上Ⅲ橋遺跡	縄文（早）・弥生（後）
125	大曲遺跡	縄文・弥生
126	木戸上遺跡	縄文・古墳

番号	遺跡名	時代
127	築地鼻北遺跡	縄文（早）
128	築地鼻遺跡	縄文（早）・弥生（後）
129	長塚古墳	古墳
130	東沢田古墳群	古墳
131	御鼈免遺跡	古墳
132	八兵衛屋敷古墳群	古墳
133	尾崎遺跡	古墳
134	子ノ神古墳	古墳
135	西大曲遺跡	旧石器・縄文（早）
136	馬見塚古墳群	古墳
137	芝切遺跡	弥生
138	久保遺跡	弥生（後）
139	春ノ木遺跡	弥生（後）・古墳
140	休場遺跡	旧石器・縄文（早）
141	元野第Ⅲ遺跡	旧石器・縄文（早・中）
142	元野第Ⅱ遺跡	縄文（早）
143	元野馬牧土手遺跡	江戸
144	四ツ塚古墳群	古墳
145	大芝原遺跡	縄文（中）
146	大廓遺跡	旧石器・縄文（中）・古墳
147	東原古墳群	古墳
148	東久保遺跡	弥生（後）
149	目黒身遺跡	弥生（後）・古墳・律令
150	根古屋古墳群	古墳
151	的場古墳群	古墳
152	興国寺城跡	戦国
153	井出古墳群	古墳
154	石川古墳群	古墳
155	平沼吹上遺跡	縄文～古墳
156	雌鹿塚古墳	弥生（後）
157	雄鹿塚古墳	弥生（中・後）・古墳
158	鳥沢遺跡	縄文（後）・古墳・律令

遺跡（柴田・小崎ほか2008）、中見代第Ⅱ遺跡（高尾1988）、子ノ神遺跡（石川・北川1982）で礫や剝片類が出土しているが、台形様石器や石斧はいまのところない。秋葉林遺跡第Ⅰ文化層の石器群は石核または礫器と剝片類とからなる。最近、向田A遺跡（富樫・中村2007）の同層からナイフ形石器の一部と推測される黒曜石製の二次加工石器が単独出土したが、折損しているので評価が難しい。

第Ⅵ黒色帯から第Ⅳ黒色帯にかけては、台形様石器と石斧が多く見られる。関東・中部・東北地方ではこの時期に石刃石器群を伴っていたが、愛鷹・箱根地域では極めて発達が弱い。生業技術に何らかの相違があったものと推測される。剝片石器の石材には中部高地や神津島の黒曜石が用いられ、この時期に海上航路を含む両産地の往還移動が行われていたことを示している。

環状に配された石器ブロック群が発達するのもこの時期である。環状ブロック群は列島に広く認められるが、とりわけ中部地方から関東地方にかけてよく発達し、狩猟採集民の民族誌モデルからの類推で、季節的に移動する集団の冬期のキャンプ地ではないかともいわれている。愛鷹山麓では土手上遺跡の調査で類似するブロック群が報告されている（高尾1988）。その他、当該時期の遺跡としては、中見代第Ⅰ遺跡（高尾1989）、清水柳北遺跡（関野・鈴木ほか1990）、二ッ洞遺跡（山本・仲間1993）、西洞遺跡b区（笹原芳1999）などがある。

第Ⅳ黒色帯の上位にあたる第Ⅲスコリア帯スコリア5から3の遺跡は少ない。多数のスコリア層が観察されているが、堆積期間が短かったのかもしれない。再び遺跡がみられるようになるのは第Ⅲスコリア帯3上位の第Ⅲスコリア帯黒色帯2および同スコリア2からであり、向田A遺跡の石器群がこの層位を主体に包含される。本格的に増加が見られるのは同層上位にあたる第Ⅲスコリア帯黒色帯1および同スコリア1からである。第Ⅵ黒色帯から第Ⅳ黒色帯期に比べて台形様石器と石斧が乏しく、逆に石刃石器群が著しく発達する。中見代第Ⅱ遺跡が代表的である。

第Ⅲ黒色帯の遺跡は多い。基本的には第Ⅲスコリア帯期と同種の石器群が認められるが、ホルンフェルスに代わって天城柏峠産黒曜石を消費する地点が多く、その石材消費量において突出した遺跡が出現する点でも特徴のある時期である。例えば清水柳北遺跡中央尾根、中見代第Ⅰ遺跡第Ⅲ文化層、上松沢平遺跡第Ⅱ文化層で同石材の消費規模の大きなブロックが発見されている。ほかに、信州系黒曜石の消費が突出する柏葉尾遺跡（池谷・殿岡1996）のような特異な遺跡もある。

第Ⅲ黒色帯は列状配置した土坑群が検出されることでも知られている。箱根山西南麓では初音ヶ原遺跡群がよく知られており、愛鷹山麓でも塚松遺跡（藁科・三好ほか2008）のほか、まだ本報告されていない富士石遺跡（同No.142地点）、東野遺跡（同No.143-1地点）、渕ヶ沢遺跡（同No.27地点）、鎌沢遺跡（同No.28地点）でも土坑群が検出された。これらは陥し穴として罠猟に利用されたと考えられており、研究者間でも意見の一致を見ている。しかしその利用形態に関しては種々の見解が提示されており（佐藤2002、稲田2004、今村2004、など）、現在も議論が続いている。

第Ⅱ黒色帯の遺跡も第Ⅲ黒色帯と並んで多い。しかし天城柏峠産黒曜石の消費は再び減少し、ホルンフェルスの割合が高くなる。同層の上部において小型石器の生産が増大する。陥し穴の構築も殆どなされない。こうした状況は姶良Tn火山灰の包含層であるニセローム層の下部でも余り変化がない。西洞遺跡b区や清水柳北遺跡東尾根が代表的である。

（２）後半期

後半期石器群の推移は中村雄紀（2005・2006）によく纏められているので、以下の石器群の編年的位置づけはそれに準ずる。

第Ⅰ黒色帯から第Ⅰスコリア帯では信州系黒曜石の消費による石刃製ナイフ形石器類のほか、掻器の発達が著しい。ほかに桜畑上遺跡BBⅠ下部（望月・森嶋2003）、尾上イラウネ北遺跡、陣馬上B遺跡第Ⅰ

文化層（廣瀬・片平1994）でも当該時期の石器群が検出されている。最近では梅ノ木沢遺跡（笹原2009）で多量の掻器が出土し、当該時期の特徴をよく示している。武蔵野台地編年でいうところのⅤ層下部段階並行と考えられている。

休場層直下黒色帯は列島一般に地域化現象の著しい時期にあたり、近畿地方に出自する国府系石器群が社会的交通網の発達に促されて広く拡散する。本地域は北海道と東北地方太平洋側、鹿児島県西部とならび、国府系石器群の影響が極めて少ない地域の一つであった（ただし朝鮮半島方面から拡散したといわれる角錐状石器は1点から数点発見されることがある）。国府系石器群の影響関係の希薄さが、むしろ愛鷹・箱根地域の集団の置かれた社会的状況を表している。実際、信州方面での石材採取は中部高地の南側の石材に著しく依存し、国府系石器群との接触を可能にするはずの北側の産地で石材を採取する傾向に乏しい。子ノ神遺跡第Ⅱ文化層やイラウネ遺跡第Ⅱ文化層が代表的である。武蔵野台地編年のⅤ層上部段階の石器群を含むものと考えられている。

休場層は遺物の上下移動が大きく、遺物集中地点の抽出や文化層の区分が難しい。このため、後半期の大半が含まれる休場層石器群の編年は関東地方西部の層位編年に大きく依存している。

休場層下層または下部からも角錐状石器の検出が続く。しかしその一方で、信州系黒曜石製の石刃石器群の構成比率が増大することから、この層には武蔵野台地編年Ⅴ層上部・Ⅳ層下部から砂川期並行の石器群が累積していると推測される。また、片面ないし両面加工尖頭器が出現し始める。ただし中部高地を介して関東方面と情報交通関係の象徴ともいえる樋状剝離を施す尖頭器の検出は少なく、中部高地を隔てる地域間の社会的逕庭はやはり大きかったと推測される。Ⅴ層上部・Ⅳ層下部段階並行では中見代第Ⅱ遺跡（前掲）と子ノ神遺跡第Ⅲ文化層（前掲）が代表的である。これらに西大曲遺跡（鈴木1980）や寺林遺跡第Ⅲ文化層（笹原ｷ2003）が続き、砂川期並行段階として広合遺跡e区（池谷・高尾ほか1991）、二ツ洞遺跡a区（同前）などが挙げられている（中村前掲）。

休場層中層または中部からは、特定の石器製作地点を起点とした移動・居住戦略が一般化し、尖頭器の生産と小型剝片製石器群の生産が広く行われる。二次加工石器類の遺跡間での組成比率が大きく異なるといわれている。尾上イラウネ遺跡（関野1981）や拓南東遺跡（高尾1998）などが代表的である。

休場層上層または上部堆積期でも中部高地への巡行は続いているが、神津島への渡航がより頻繁になる。この時期に出現した細石刃石器群は後者で産出する黒曜石で作られることが多い。神津島産黒曜石の消費は関東地方西部でも共に本格化したようであり、伊豆半島を隔てた東西で共通の傾向となっている。島嶼部の黒曜石が利用されるのはおそらく漁撈の重要性が増大したためと想像できるが、残念ながら漁撈そのものの存在を示唆する物的証拠は未だ得られておらず、この件については今後の大きな課題とされている。細石刃が多量に出土した沼津市休場遺跡は、愛鷹地域における旧石器研究の嚆矢であるとともに、我が国の細石刃石器群研究の基礎となった。元野遺跡や中見代第Ⅲ遺跡も重要である。

２．縄文時代草創期

休場層上層の上位に堆積する富士黒色土層との間に漸移層がある。この層からは、縄文時代草創期の土器や、休場層のものとは異なる形態の尖頭器が出土する。尖頭器の出土遺跡は実に多いが、その全体像はまだ詳らかではない。利用石材にはガラス質黒色安山岩、ホルンフェルス、神津島産黒曜石が多く、旧石器時代とは異なり信州系黒曜石製のものが著しく少ない特徴があるようだ。

以下では草創期土器群が出土した遺跡について簡単に触れることとし、便宜的に隆起線文土器期を草創期前半とし、爪形文土器から多縄文土器並行期を同後半として扱う。

（１）前半

沼津市葛原沢第Ⅳ遺跡（池谷2001）では住居跡に隆起線文土器と尖頭器類が伴っていた。沼津市拓南東遺跡（高尾1998）、中見代第Ⅰ遺跡（高尾1989）、尾上イラウネ遺跡（関野1981）、旧・中伊豆町（伊豆市）甲之背遺跡（関野ほか1996）、富士川町駿河小塚遺跡（秋本1995）でも隆起線文土器が検出されている。どの遺跡でも尖頭器類が検出されており、特に甲之背遺跡では尖頭器製作工程の初期段階にあたる内容が伴っていた。しかし、旧石器時代以来の尖頭器石器群の継続性や、堆積状況の悪さから、有舌尖頭器と一部の特徴的な形態の尖頭器以外は具体的な内容が把握しにくく、当該時期の実態解明にとって障害となっているのも確かである。

（２）後半

葛原沢第Ⅳ遺跡（前掲）の住居跡から押圧縄文土器と尖頭器類が出土した。草創期後半の住居跡が検出された遺跡はほかに芝川町大鹿窪遺跡（小金澤2003）しかなく、どちらも大変貴重である。住居跡に伴わない例では、沼津市清水柳北遺跡、築地鼻北遺跡（坂本1985）、丸尾Ⅱ遺跡（石川・北川1982）、中見代第Ⅰ遺跡、尾上イラウネ遺跡、旧・大仁町（伊豆の国市）仲道A遺跡（漆畑・鳥海1986）で側面圧痕文や絡条帯圧痕文・刺突文を施す土器、富士宮市若宮遺跡（馬飼野・伊藤1983）や伊東市三の原遺跡（山浦・山形1991）で表裏縄文またはそれに類する土器が出土している。また最近、丸尾北遺跡にも該期の土器が出土しているらしく、公表が俟たれる。特徴的な石器として、「神津島産黒曜石を石材とした身の厚い尖頭器」があげられている（池谷2007）。

参考文献

秋元真澄 1995『駿河小塚遺跡　静岡県における先土器文化の研究』芝川町教育委員会。

池谷信之 1996『土手上遺跡（d・e-1区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

池谷信之 1998『土手上遺跡（d・e-2区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

池谷信之 2001『葛原沢第Ⅳ遺跡（a・b区）発掘調査報告書1』沼津市教育委員会。

池谷信之 2007「石器製作と土器製作の転換点」『公開シンポジウム　縄文文化の成立－草創期から早期へ－　予稿集』、78-91頁。

池谷信之・殿岡崇浩 1996『柏葉尾遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

池谷信之・高尾好之・山本恵一 1991『広合遺跡（e区）・二ツ洞遺跡（a区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

石川寛・北川恵一 1982『子ノ神・大谷津・山崎Ⅱ・丸尾Ⅱ』沼津市教育委員会。

稲田孝司 2004「後期旧石器時代の狩猟と動物群」『文化の多様性と比較考古学』、1-10頁、考古学研究会。

今村啓爾 2004「箱根山麓先土器時代陥し穴の使用法」『考古学研究』第51巻第1号、18-33頁、考古学研究会。

漆畑稔・鳥海嘉奈子 1986『仲道A遺跡』大仁町教育委員会。

小金澤保雄 2003『大鹿窪遺跡・窪B遺跡』芝川町教育委員会。

坂本眞美 1985『築地鼻北遺跡発掘調査概報』沼津市教育委員会。

佐藤宏之 2002「日本列島旧石器時代の陥し穴猟」佐々木史郎(編)『先史狩猟採集文化研究の新しい視野』、83-108頁、国立歴史民族博物館。

笹原千賀子 2003『寺林遺跡・虎杖原古墳』静岡県埋蔵文化財調査研究所。

笹原千賀子 2009『梅ノ木沢遺跡Ⅱ』静岡県埋蔵文化財調査研究所。

笹原芳郎 1999『西洞遺跡（b区-1）発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

柴田亮平・小崎晋・前嶋秀張・矢島一・及川司 2008『元野遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。

鈴木裕篤 1980『西大曲遺跡発掘調査概報』沼津市教育委員会。

関野哲夫 1981『尾上イラウネ遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

関野哲夫・川口平次郎・三重和憲 1996『甲之背遺跡』中伊豆町教育委員会。

関野哲夫・鈴木裕篤・関本光泰・一杉高徳 1990『清水柳北遺跡発掘調査報告書　その2』沼津市教育委員会。

高尾好之 1987『広合遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

高尾好之 1988『土手上・中見代第Ⅱ・第Ⅲ遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

高尾好之 1989『中見代第Ⅰ遺跡』沼津市教育委員会。

高尾好之 1998『拓南東遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

高尾好之 2006「東海地方の地域編年」安斎正人(編)『旧石器時代の構造変動』、62-102頁、同成社。

富樫孝志・中村雅之 2007『向田A遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。

中村雄紀 2005「愛鷹・箱根山麓における「ナイフ形石器終末期」の遺跡群」『石器文化研究』12、121-146頁、石器文化研究会。

中村雄紀 2006「後期旧石器時代後半期の居住形態の地域的様相―愛鷹・箱根第3期・第4期の遺跡群―」『東京大学考古学研究室紀要』第20号、1-36頁、東京大学考古学研究室。

廣瀬高文・片平剛 1994『平畦遺跡・陣馬上B遺跡』長泉町教育委員会。

馬飼野行雄・伊藤昌光 1983『若宮遺跡』富士宮市教育委員会。

望月由佳子・森嶋富士夫 2003『大岡元長窪線関連遺跡Ⅰ』静岡県埋蔵文化財調査研究所。

山浦清・山形真理子 1991『三の原遺跡』立教学院三の原遺跡調査団。

山本恵一・鈴木武幸 1995『土手上遺跡（b・c区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

山本恵一・仲間三千彦 1993『二ッ洞遺跡（b・c区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会。

藁科泰裕・三好元樹・山下忠男・荻野正裕・小林奈緒子・佐藤里夏 2008『裾野市富沢・桃園の遺跡群』静岡県埋蔵文化財調査研究所。

第４章　旧石器時代の遺構と遺物

概要

後期旧石器時代から縄文時代草創期の礫群と石器群は層位、型式、石材、母岩などに基づいて10枚の文化層に分けた。NL以下で計5文化層（第Ⅰ-Ⅴ文化層）、NL上位でも計5文化層（第Ⅵ-Ⅹ文化層）である（表3）。いずれも後期旧石器時代に帰属する。

前半期にあたるNL以下の5文化層は礫群と石器集中とが層位によく対応していたので分離が容易であった。反対に、後半期にあたるNL上位5枚は異なる時期の石器群が同じ場所に何度も重畳するうえ、土壌中での上下動が大きかったので文化層分離が困難だった。文化層設定の目安として比較的安定した礫群に準拠したが、石器集中によっては帰属すべき文化層の候補が複数存在することもしばしばであった。このような石器集中は、たとえば「第Ⅷ・Ⅸ文化層」といったようなあいまいな表現にとどめざるを得なかったが、一部については時期を推定することができた。この点に関しては次章で解説する。

各文化層における主要な層位、石器集中数、礫群数、主要石器群を下の表（表3）にまとめた。以下、古い方から順に報告する。

表3　遺構と遺物の概要

標準土層	文化層	礫群数	石器集中数	石器数	主要器種
BBⅦ	第Ⅰ文化層	0	1	6	剝片、石核or礫器
BBⅥ					
BBⅤ					
BBⅣ					
SCⅢ5-3					
SCⅢb2-s2					
SCⅢb1-s1	第Ⅱ文化層	4	8	327	ナイフ形石器類
BBⅢ	第Ⅲ文化層	2	1	108	削器、二次加工剝片
SCⅡ					
BBⅡ	第Ⅳ文化層	0	2	42	削器
NLb（AT）	第Ⅴ文化層	1	0	0	
NLa					
BBⅠ	第Ⅵ文化層	1	1	15	剝片
SCⅠ					
BB0	第Ⅶ文化層	12	7	296	ナイフ形石器類、角錐状石器、削器類
YLL	第Ⅷ文化層	14	-	-	ナイフ形石器類、削器類
YLs2					
YLM	第Ⅸ文化層	18	-	-	ナイフ形石器類、尖頭器類、細石刃、削器類
YLs1					
YLU	第Ⅹ文化層	5	-	-	ナイフ形石器類、尖頭器類、細石刃、削器類

注：第Ⅷ文化層から第Ⅹ文化層の石器群は混合しているものが多いため、明確な石器集中数と石器数は不明。

第１節　第Ⅰ文化層
(第Ⅶ黒色帯下部を中心とする遺構と遺物)

概要

調査区東部のZ33/34グリッドの小さな尾根に挟まれた谷のなかに分布する(第52図)。第Ⅶ黒色帯(以後、BBⅦと表記する)下部を中心に石器6点と礫1点が検出された(表4)。1箇所の石器集中を構成する(石器集中1)。二次加工剥片、剥片、石核で構成される。石材は全てホルンフェルスである。

表4　第Ⅰ文化層　石器集中1　石器組成

	ホルンフェルス
二次加工剥片	1
剥片	3
石核	2
計	6

１．石器集中（第53・54図）

石器集中1

石器集中が1箇所確認された(石器集中1)。石器組成は文化層の組成と同じである。すべてホルンフェルスである。なお、近くに重さが約2.7kgの礫(遺物番号29441)が1点だけ検出された。礫は周囲に全く見当たらないので異様な出土状況にみえる。表面はゴツゴツして平滑でなく、敲打痕や研磨痕も認められない。

２．出土石器の検討（第55・56図）

二次加工剥片（4）

4はホルンフェルス製の二次加工剥片である。交互剥離過程によって生産した一般的剥片の左縁辺の突端部に小さな二次的剥離痕が観察される。微小なので使用痕かもしれない。

剥片（1-3）

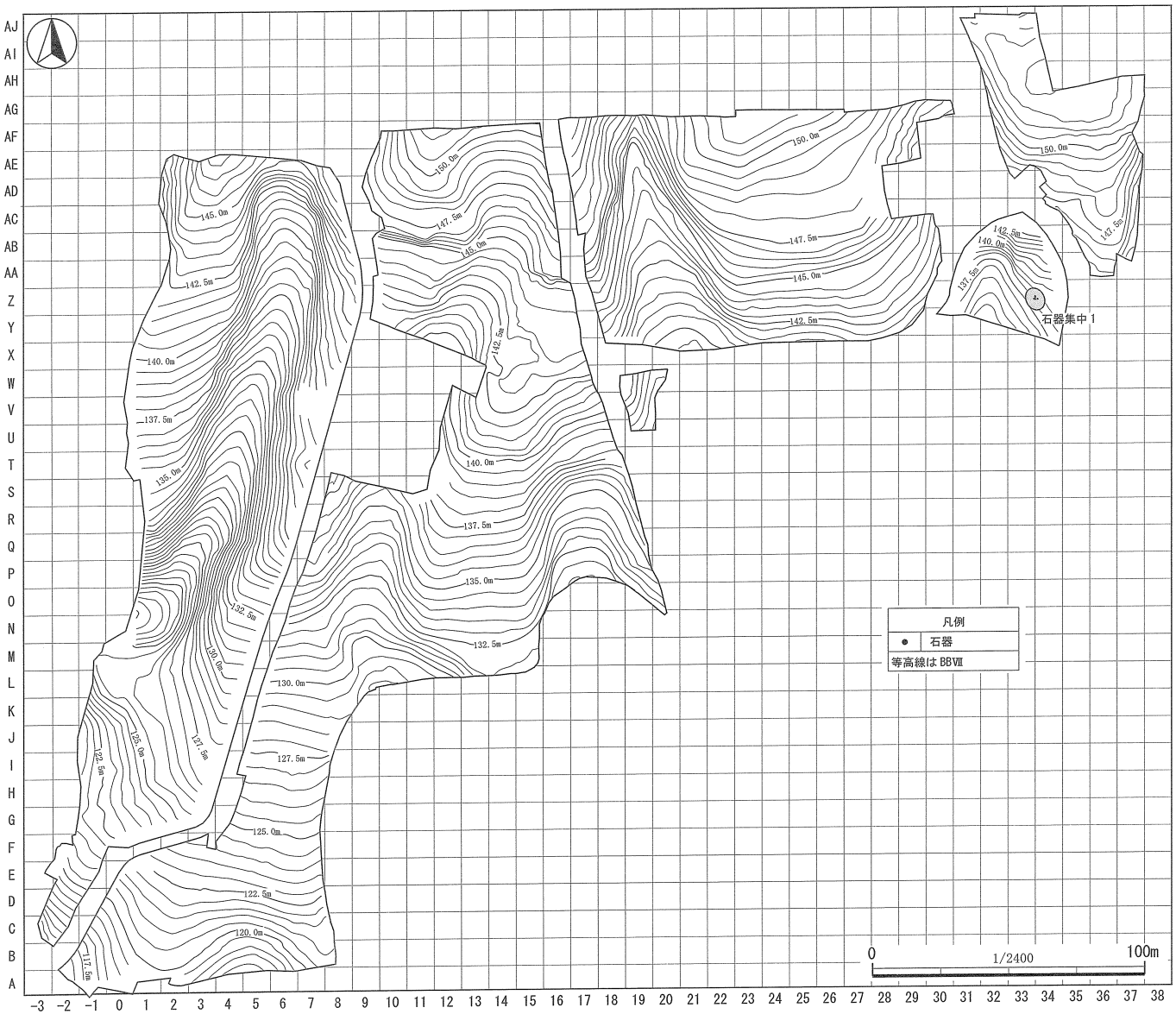
1はホルンフェルス製の剥片である。90度の打面転移を介在する剥離過程によって生産した一般的剥片である。打面は平滑な自然面である。自然面剥片剥離時に節理に沿って打点から半分に割れてしまっている。

2はホルンフェルス製の剥片である。亜円礫の長軸端部に作業面を設定して打点を左右に振りながら後退する剥離過程によって生産した一般的剥片である。打面と側縁を囲うようにして自然面を残していることから、この剥片は亜円礫端部の作業面全体を輪切りにするようにして取ったものと推測される。打面側の剥離が一切みられないことから、打面調整や交互剥離過程は介在しなかった可能性が高い。

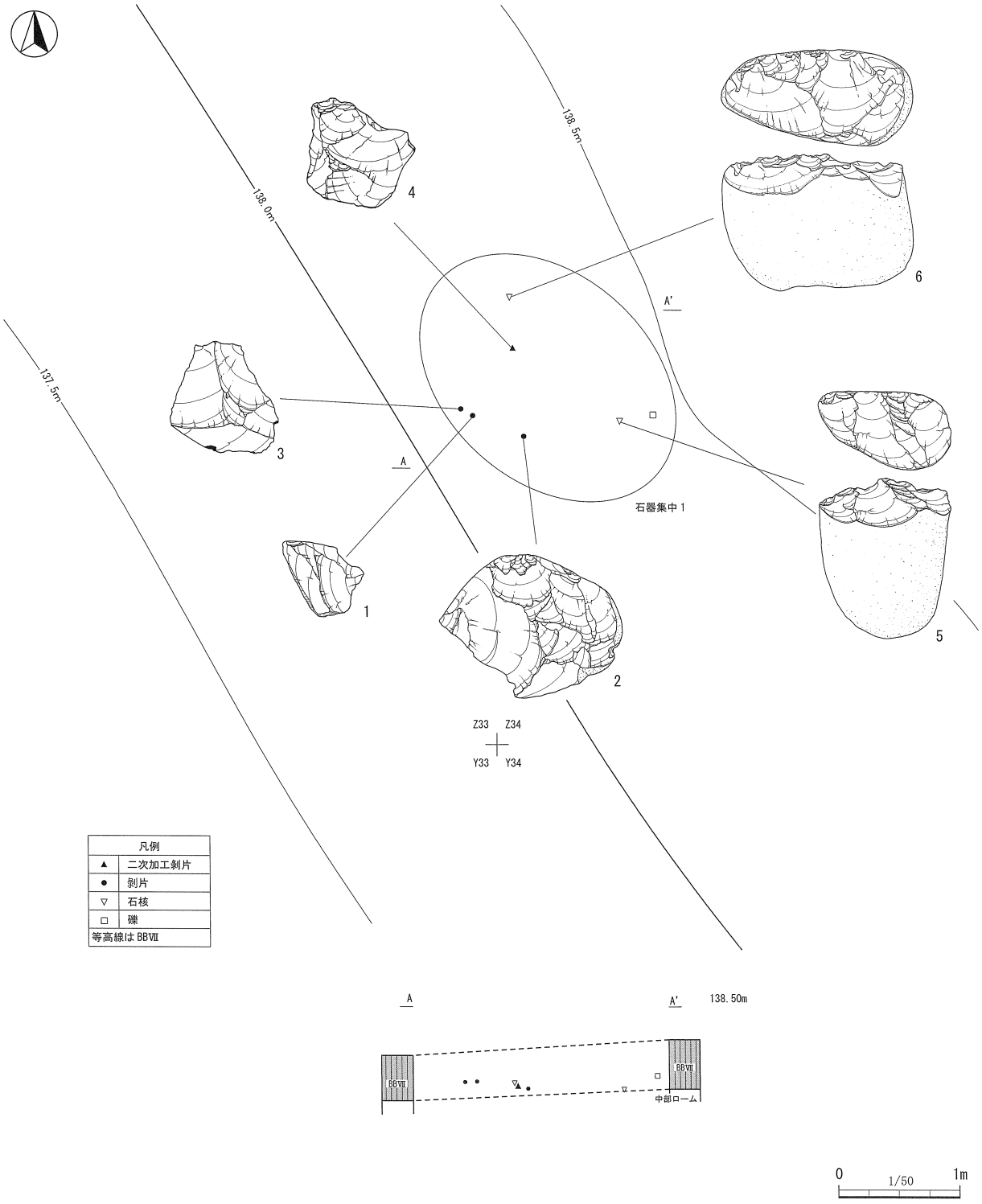
3はホルンフェルス製の剥片である。同一方向に連続的に剥離する過程によって生産した一般的剥片である。発掘時に末端を折損した。

石核（5・6）

5はホルンフェルスの石核(または片刃礫器)である。亜円礫の長軸の一端に作業面を設定し、比較的平滑な自然面を打面として、打点を左右に振りながら連続的に片面剥離を行う。刃部形成の可能性もある。

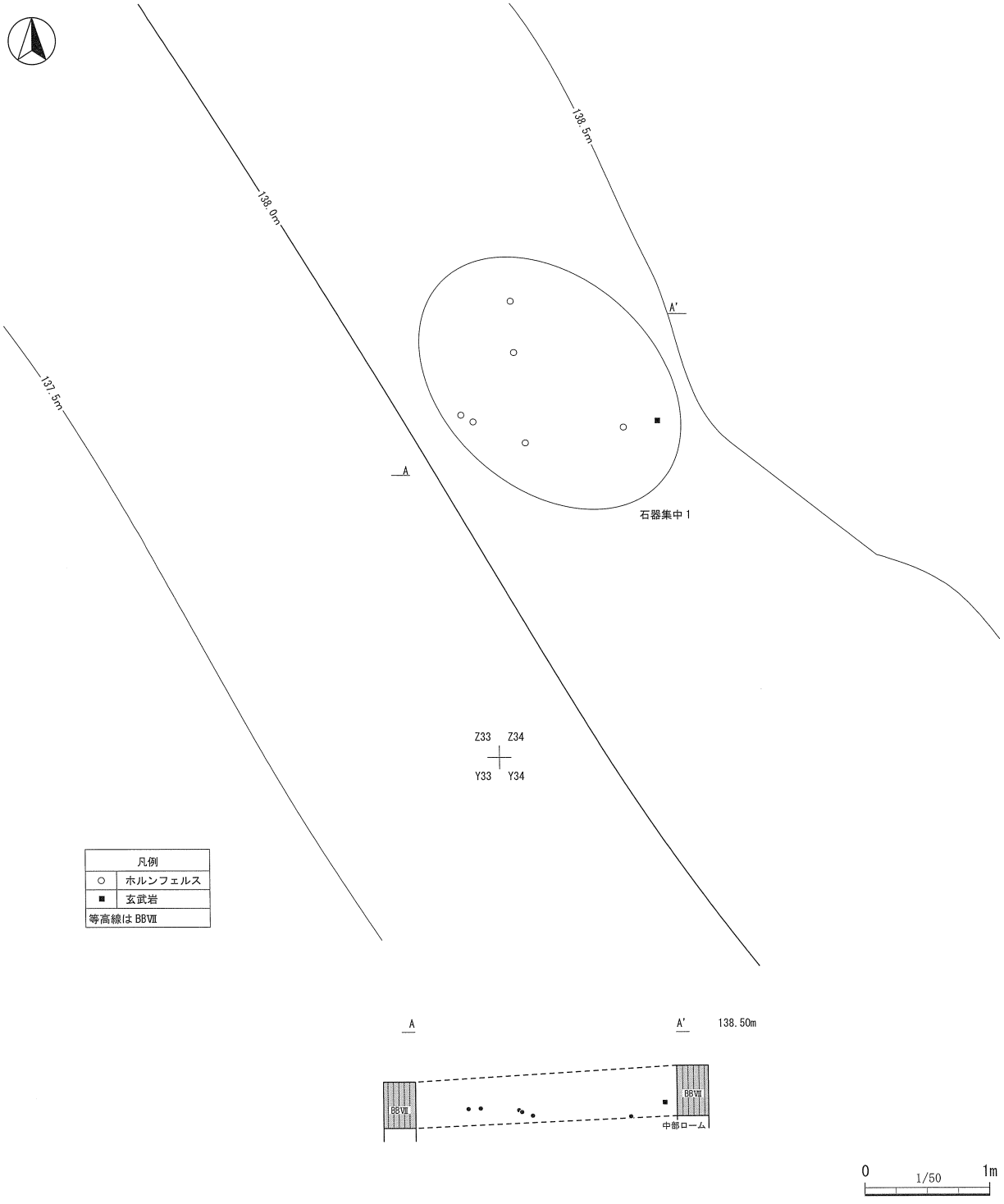


第52図　第Ⅰ文化層　石器分布

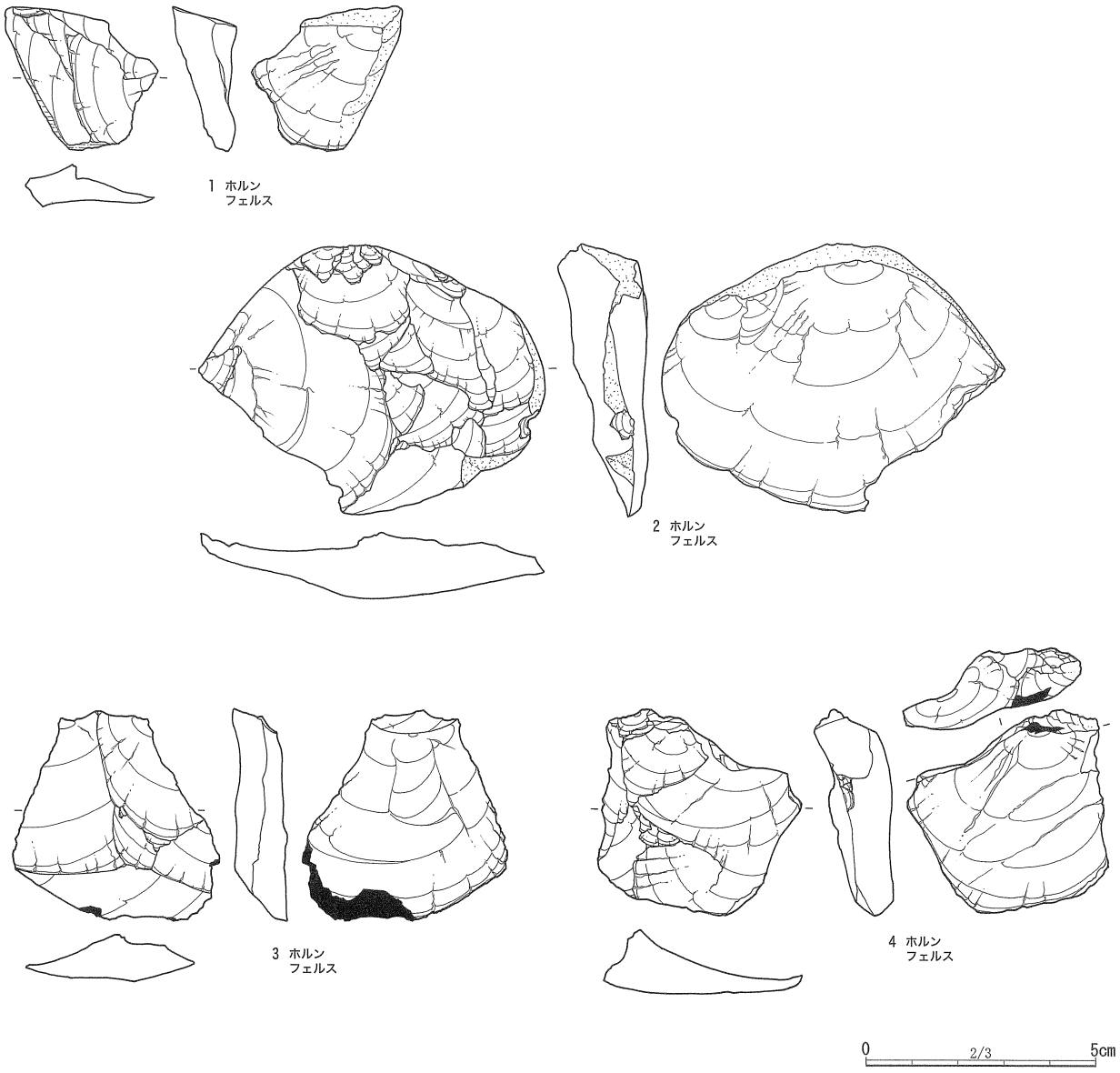


第53図　第Ⅰ文化層　石器集中1　器種別分布

6はホルンフェルスの石核（または片刃礫器）である。亜円礫の一端に作業面を設定し、比較的平滑な自然面を打面として、打点を左右に振りながら連続的な片面剥離を行う。刃部形成の可能性もある。部分的に打面側も剥離している（上面右）。



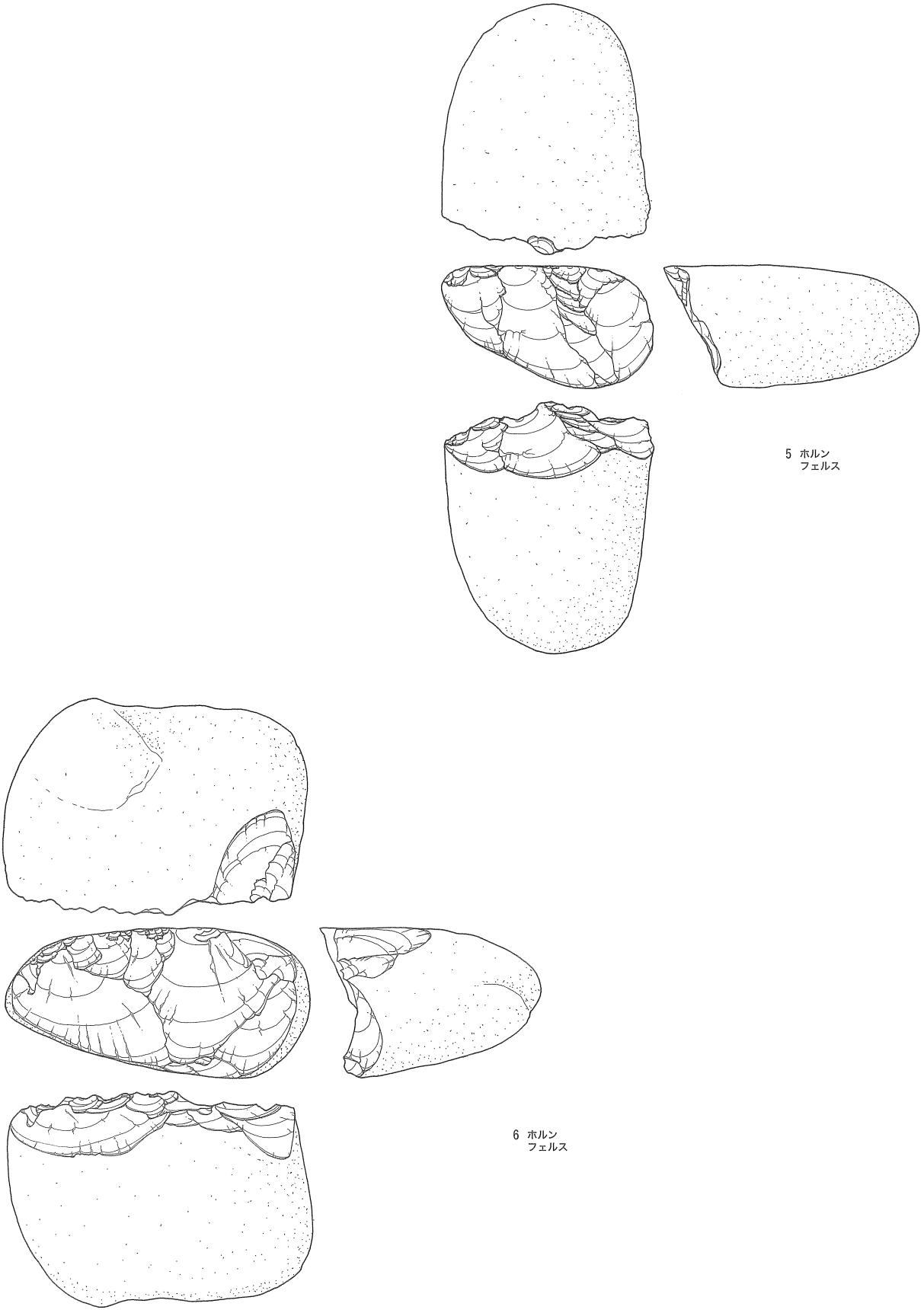
第54図　第Ⅰ文化層　石器集中1　石材別分布



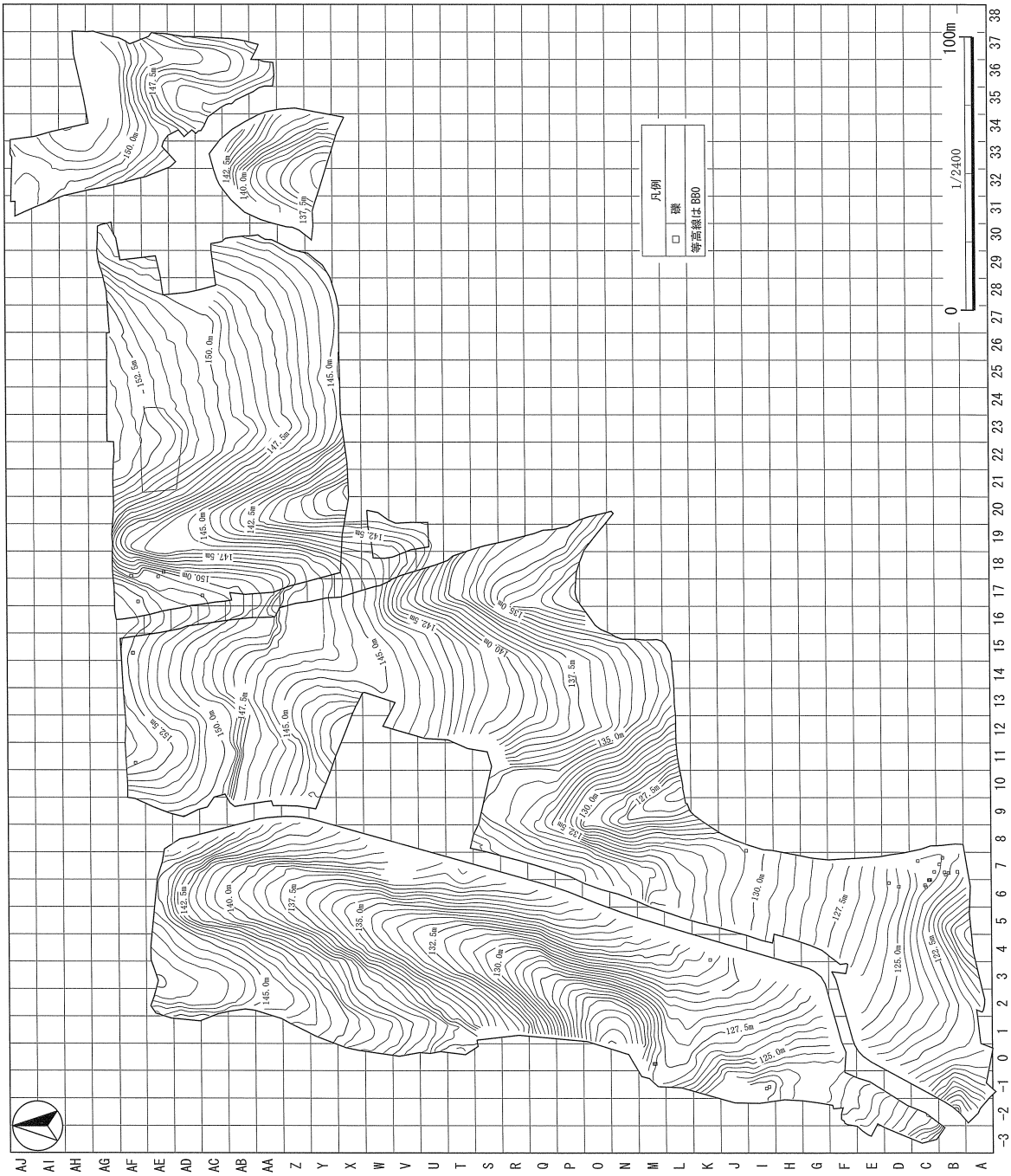
第55図　第Ⅰ文化層の石器群（1）

３．その他の遺物（第57図）

第Ⅰ文化層の包含層準よりも上位にあたる第VI黒色帯（BBVI）から第Ⅲスコリア帯スコリア2までの間では剝片石器が皆無であったが、礫が散漫に分布する状況が確認された。調査区南部のB6/7グリッドを中心とする範囲などである。礫が小さいことや集中密度が低いことから礫群とはみなさなかった。



第56図　第Ⅰ文化層の石器群（2）



第57図　BBVI-SCIIIs2　礫分布

第２節　第Ⅱ文化層
(第Ⅲスコリア帯bl から同sl を中心とする遺構と遺物)

概要

第Ⅲスコリア帯（以後、SCⅢと表記する）上部にあたるSCⅢbl-slを中心として、石器327点と礫56点が検出された。石器集中は8箇所である。取り上げ時はBBⅢ出土が多いとされていたが、垂直分布上では、より下位のSCⅢbl-slが中心であった（ただし、本文と属性表では取り上げ層位で記載した)。おそらくBBⅢとSCⅢsl・blにまたがっていたと推測されるが、2基の礫群がともにSCⅢslで検出されたこともあり、本石器群はSCⅢbl-slを中心とする石器群と捉えることにした。

石器群は2区（石器集中2-4）と15区南（石器集中5-9）に離れて分布する（第58図)。二つ以上の谷を挟んだ異なる尾根上で240mも離れていることから、形成機会が異なっていたと推測される。前者は調査区東部AA-AC23-25グリッドの幅広い尾根の上に分布し、3箇所（石器集中2-4）の石器集中と礫群2基（18・20号礫群）とで構成される（第59・60図)。後者は調査区南西部L-0・1グリッドとJ・K3・4グリッドの細い尾根上に分布し、大きくみて5箇所の石器集中（石器集中5-9）で構成される（第66・67図)。

第Ⅱ文化層全体の構成器種は、背部加工ナイフ形石器1点、端削器2点、彫器1点、二次加工剥片3点、微細剥離痕剥片4点、石刃8点、剥片266点、砕片21点、楔形石器6点、石核15点である。

構成石材はホルンフェルス295点（90.2%)、諏訪星ヶ台産黒曜石17点（5.2%)、ガラス質黒色安山岩4点、蓼科冷山産黒曜石3点、箱根畑宿産黒曜石2点、細粒安山岩2点、などが組成する（表5)。ホルンフェルスが多くなるのは愛鷹・箱根地域の第Ⅲスコリア帯上部期における一般的特徴である。しかし、第2石材が信州系黒曜石（諏訪星ヶ台群と蓼科冷山群で20点）となる点は珍しい。

表5　第Ⅱ文化層　石器組成

	黒曜石			流紋岩	ガラス質	細粒	輝石	硬質細粒	細粒	ホルン	計
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	箱根畑宿		黒色安山岩	安山岩	安山岩	凝灰岩	砂岩	フェルス	
背部加工ナイフ形石器		1									1
端削器				1						1	2
彫器	1										1
二次加工剥片	1									2	3
微細剥離痕剥片	2									2	4
石刃										8	8
剥片	2	2	2		4	1	1	1	1	252	266
砕片	5									16	21
楔形石器	6										6
石核						1				14	15
計	17	3	2	1	4	2	1	1	1	295	327

第58図　第Ⅱ文化層　石器分布

１．石器集中（第61-65・68-75図）

石器集中2から9までの8箇所を抽出した。石器集中間の集合的単位としては、石器集中2-4、石器集中5-8、石器集中9の3つにわけられる。全ての石器集中でホルンフェルスが第1石材である。

石器集中2（第61・62図、表6）

AB-23グリッドに分布する。SCⅢs1を中心に包含される石器集中2-4のうち最も西に位置し、隣接する石器集中3との間でホルンフェルスの接合資料が1例確認された（接合34）。

石器数は20点である。端削器1点、二次加工剥片2点、微細剥離痕剥片1点、石刃2点、剥片11点、砕片1点、楔形石器1点、石核1点が組成する。

構成石材はホルンフェルス14点、諏訪星ヶ台産黒曜石5点、蓼科冷山産黒曜石1点である。計20点と少ないながら、信州産黒曜石の高い点は特徴的である。

第1石材のホルンフェルスは半割円礫を持ち込んで剥片剥離を行っているものがあり、その石核が1点ある。厚手の剥片の打面からバルブ部を剥離して刃部を作出した端削器が組成する。

第2石材の諏訪星ヶ台産黒曜石製の石器群はどれも非常に小型である。一部に両極剥離で得られたと推測される剥片の腹面を剥がした痕跡が認められる。何らかの二次加工石器の調整剥片かもしれない。この層準で平坦剥離の卓越する台形様石器群が検出されたことはないので、おそらくホルンフェルス製端削器のような加工具類の調整剥片ではないかと推測される。蓼科冷山産黒曜石製石器は小型剥片である。

表6　第Ⅱ文化層　石器集中2　石器組成

	黒曜石		ホルンフェルス	計
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山		
端削器			1	1
二次加工剥片	1		1	2
微細剥離痕剥片	1			1
石刃			2	2
剥片	1	1	9	11
砕片	1			1
楔形石器	1			1
石核			1	1
計	5	1	14	20

表7　第Ⅱ文化層　石器集中3　石器組成

	黒曜石		ホルンフェルス	計
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山		
背部加工ナイフ形石器		1		1
微細剥離痕剥片	1		2	3
剥片	1		20	21
砕片	3			3
楔形石器	3			3
石核			1	1
計	8	1	23	32

表8　第Ⅱ文化層　石器集中4　石器組成

	黒曜石		ホルンフェルス	計
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山		
剥片		1	5	6
砕片	1			1
楔形石器	1			1
石核			1	1
計	2	1	6	9

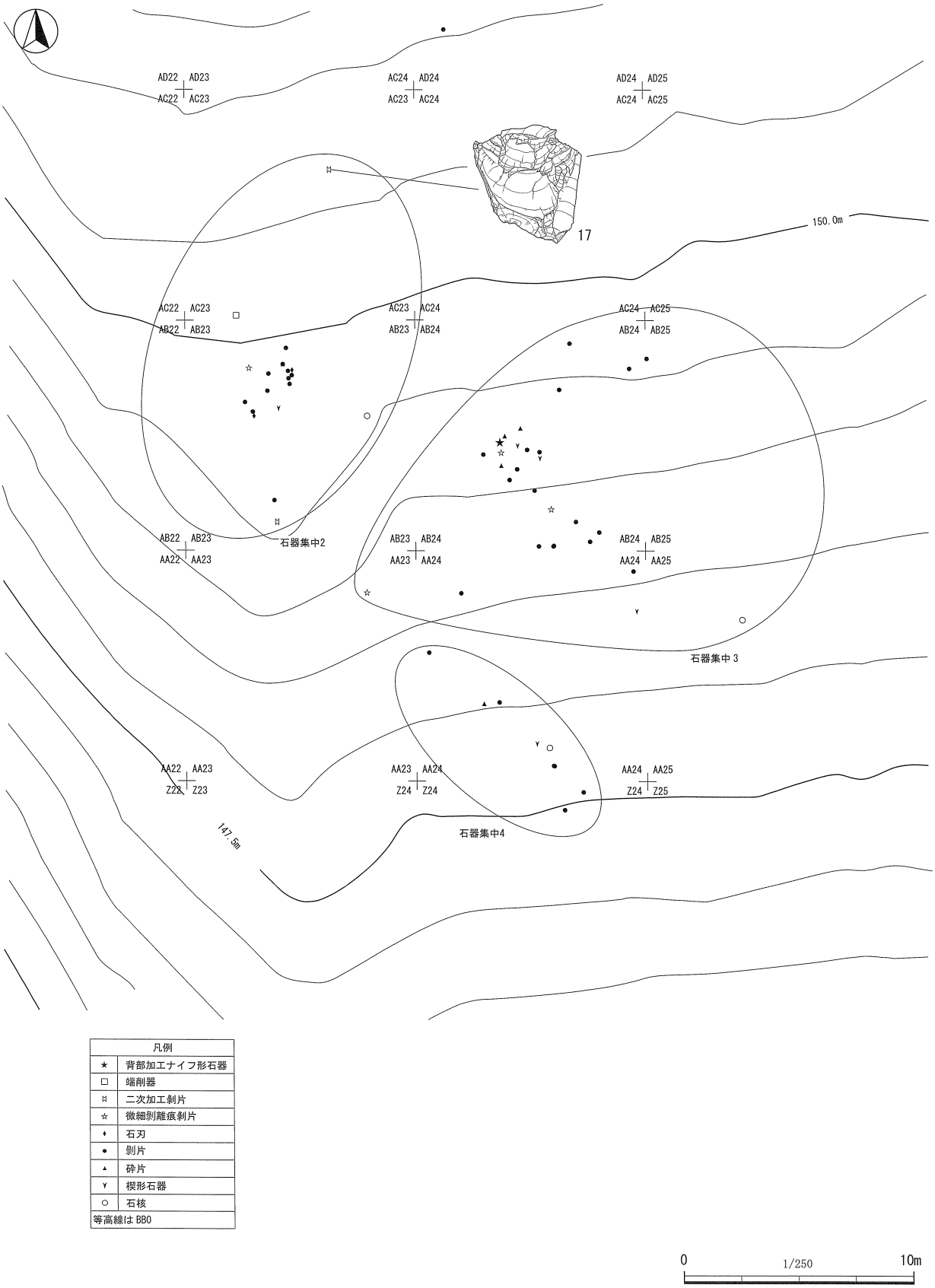
石器集中3（第63・64図、表7）

AB24グリッドを中心に分布する。SCⅢb1-s1を中心に包含される。石器集中2-4のうち中央に位置し、隣接する石器集中2との間でホルンフェルスの接合資料が1例確認された（接合34）。

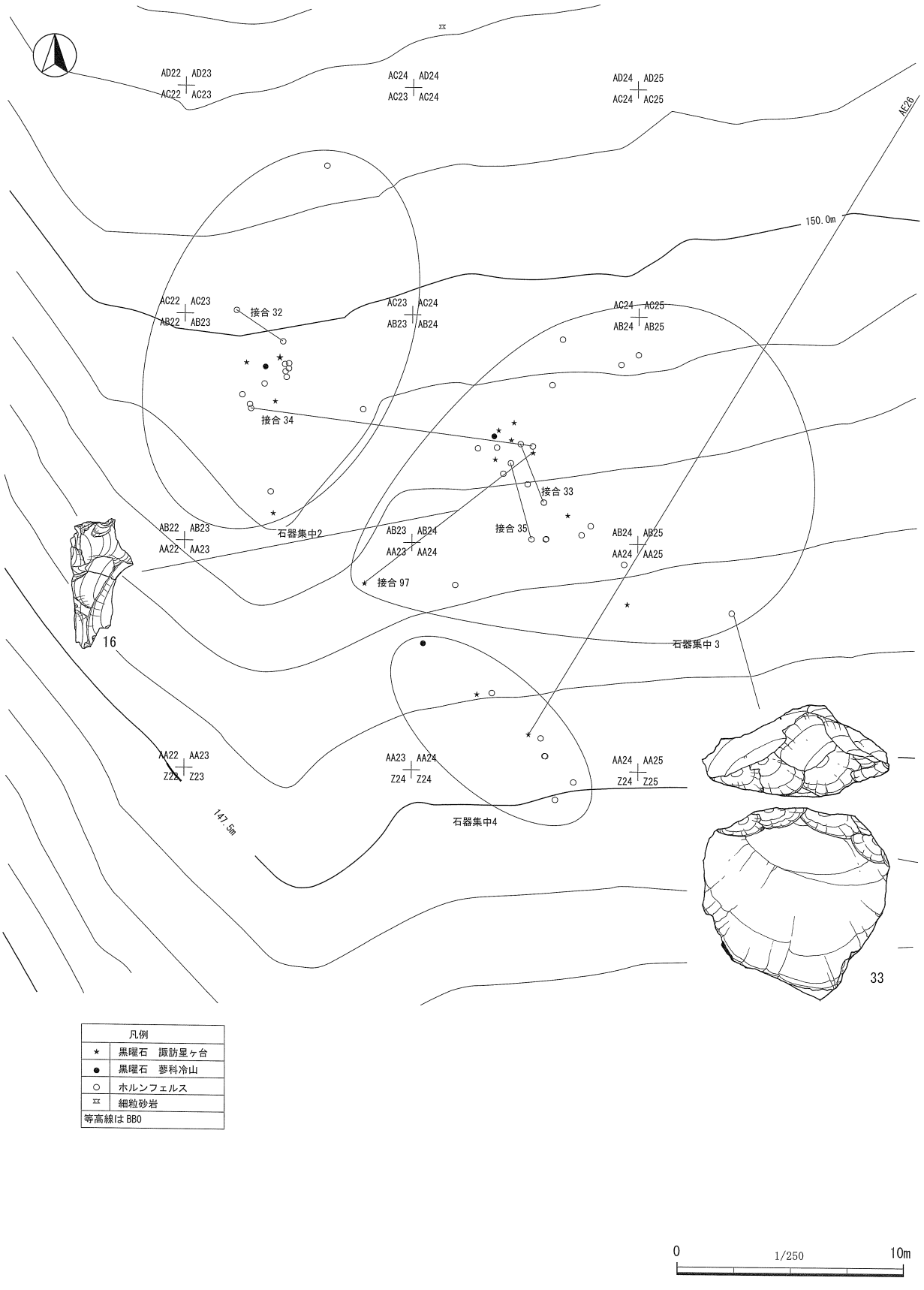
石器数は32点である。構成器種は背部加工ナイフ形石器1点、微細剥離痕剥片3点、剥片21点、砕片3点、楔形石器3点、石核1点である。背部加工ナイフ形石器は蓼科冷山産黒曜石製の単体搬入品である。

構成石材はホルンフェルス23点、諏訪星ヶ台産黒曜石8点、蓼科冷山産黒曜石1点である。ホルンフェルスには少なくとも2個体ある。石核が1点組成されるが、厚手剥片素材であることから同個体の消費の最終段階とは思われない。もう一方の個体は自然面が大きく付いた厚手剥片が残されているのみで、こちらの消費も限定的である。

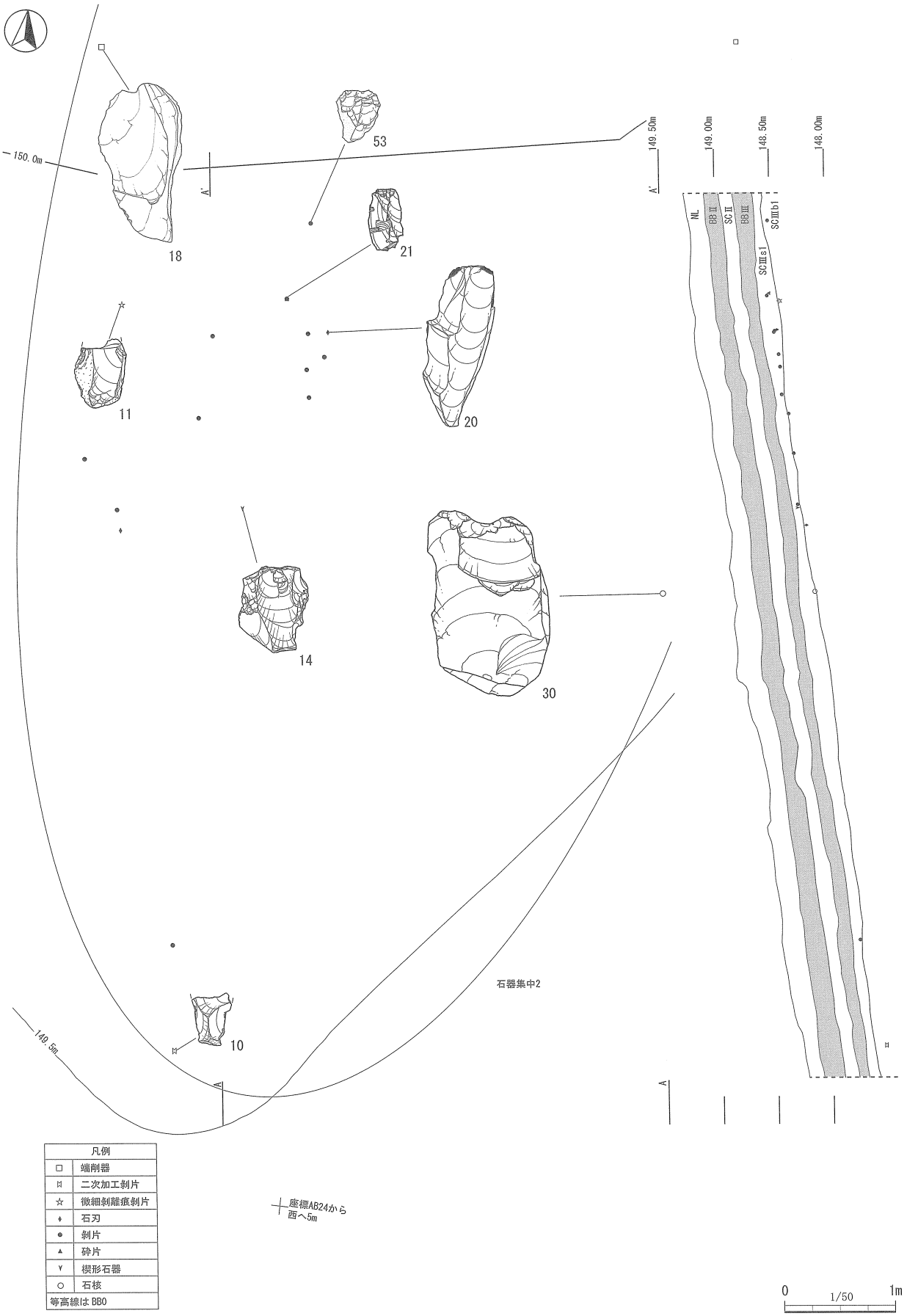
諏訪星ヶ台産黒曜石は両極技法による小型剥片生産に供されたようである。楔形石器が組成する。



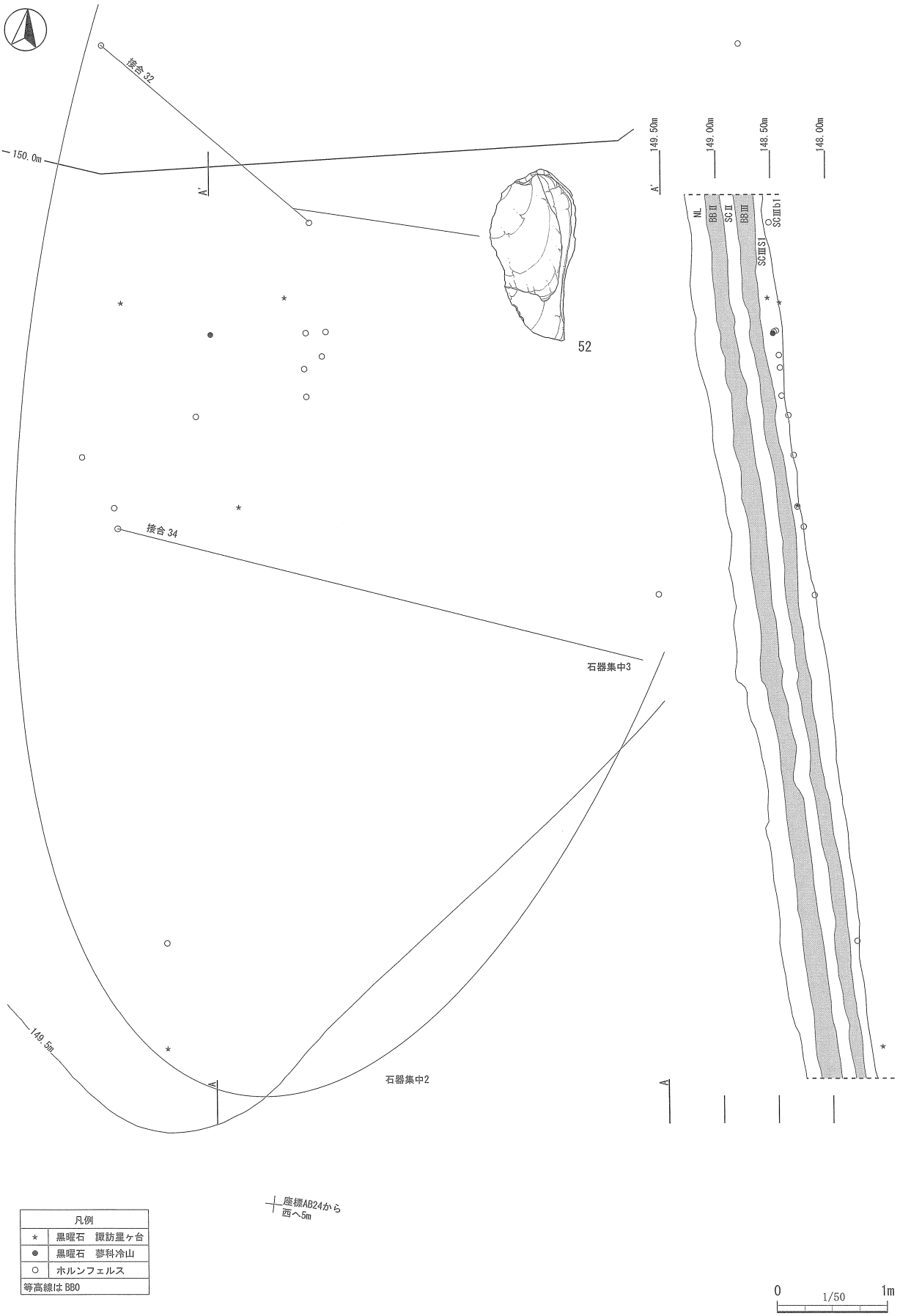
第59図　第Ⅱ文化層　石器集中2-4　器種別分布



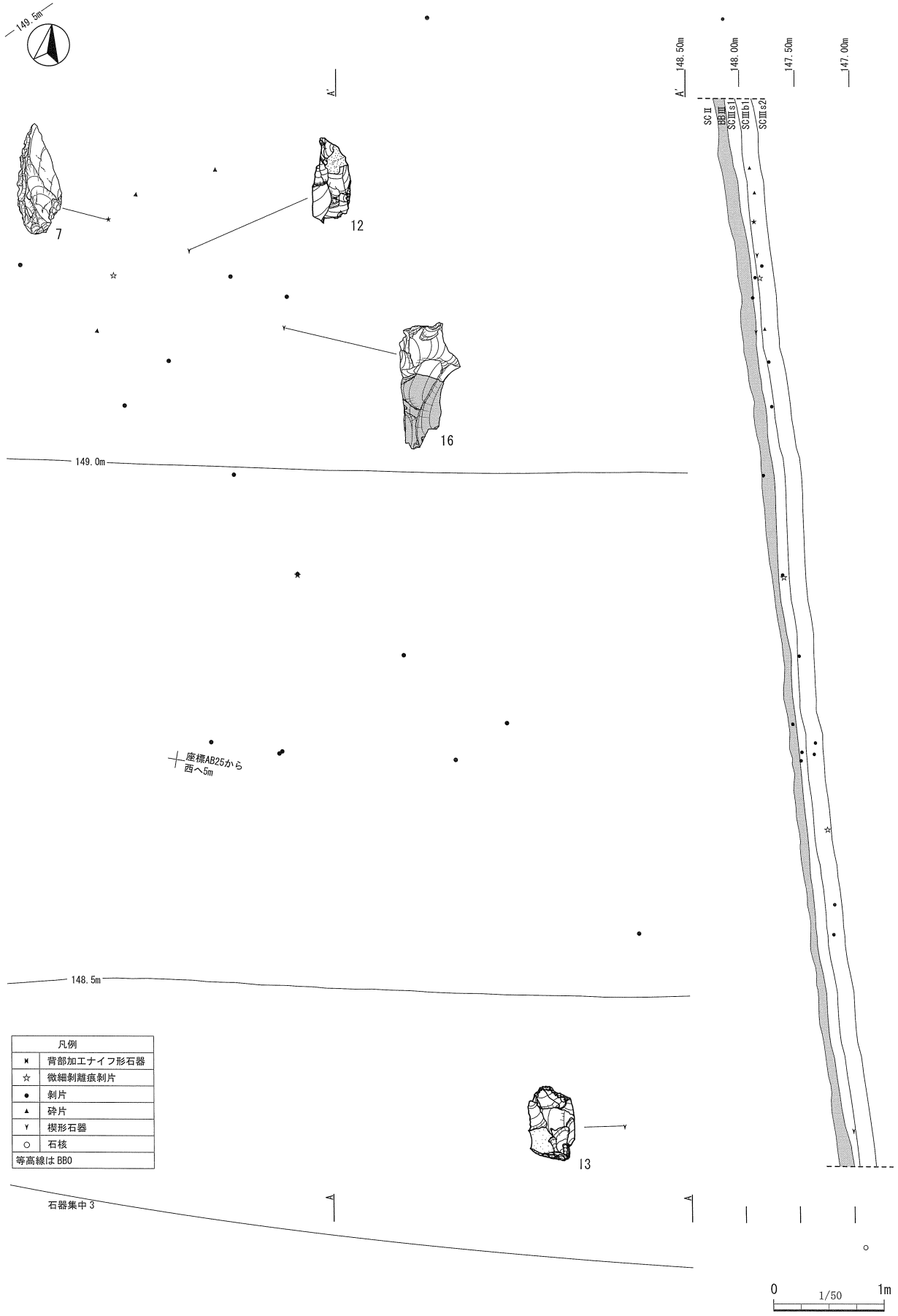
第60図　第Ⅱ文化層　石器集中2-4　石材別分布



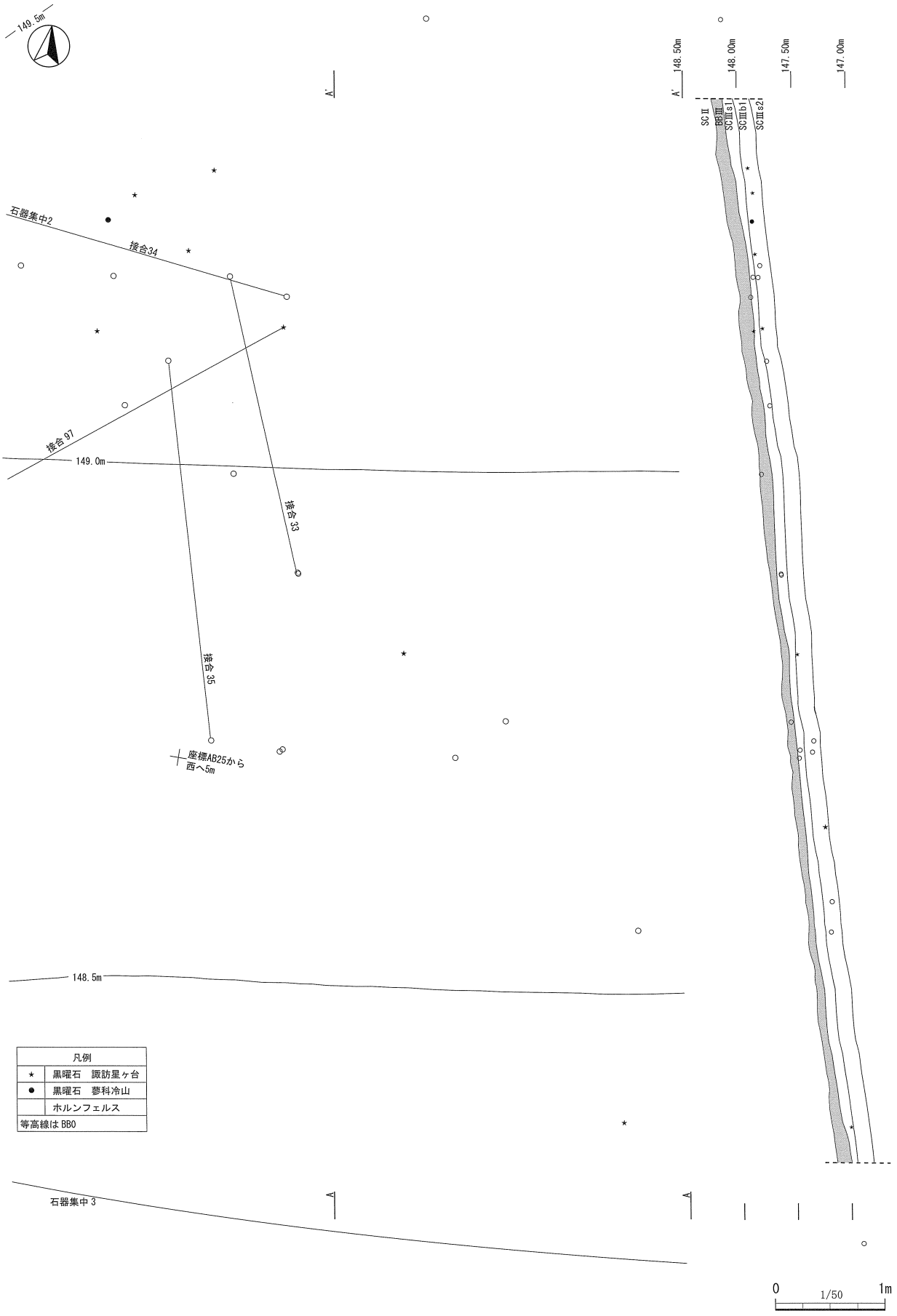
第61図　第Ⅱ文化層　石器集中2　器種別分布



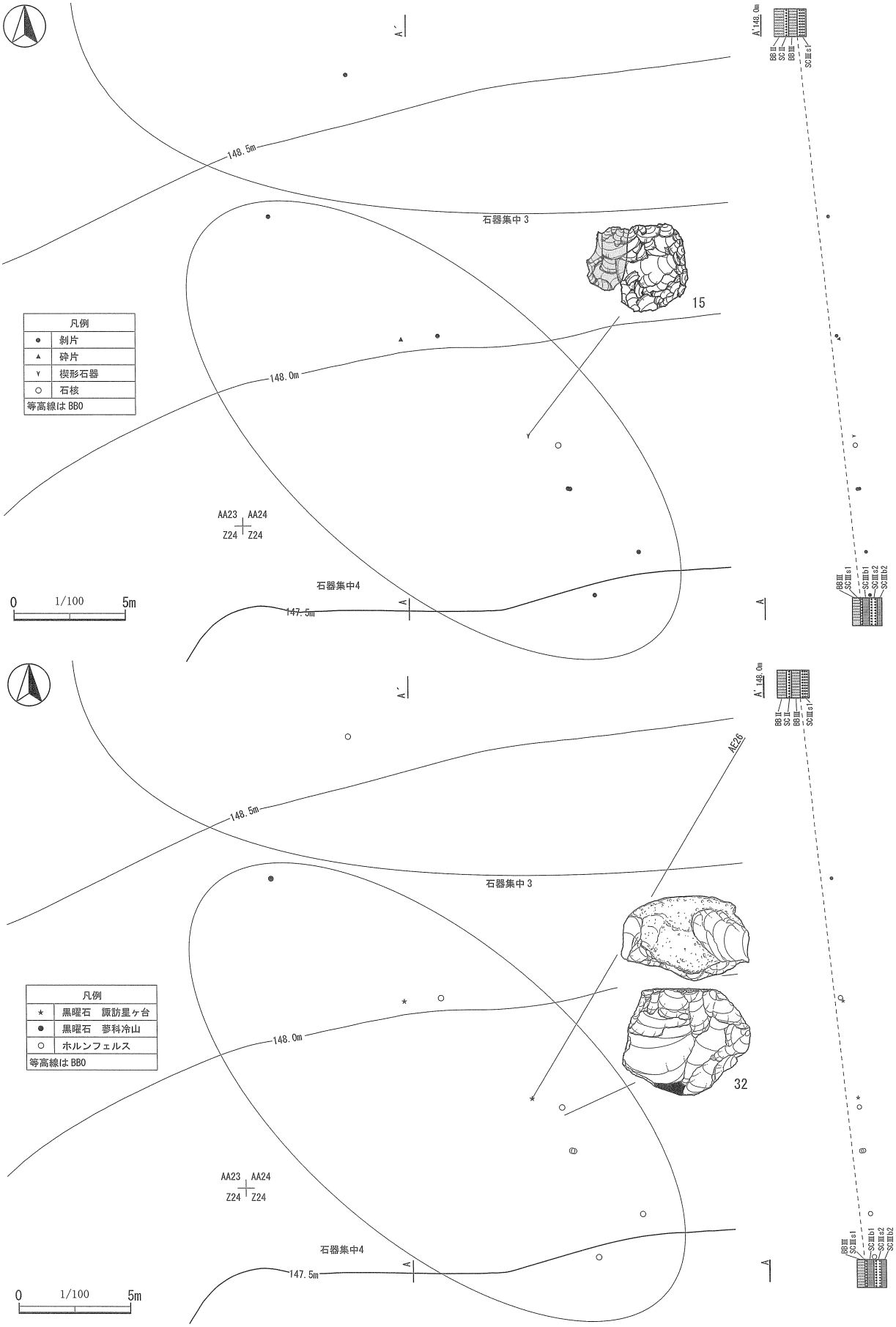
第62図　第Ⅱ文化層　石器集中2　石材別分布



第63図　第Ⅱ文化層　石器集中3　器種別分布



第64図　第Ⅱ文化層　石器集中3　石材別分布



第65図　第Ⅱ文化層　石器集中4　器種別分布（上）・石材別分布（下）

石器集中4（第65図、表8）

AA24グリッドを中心に分布する。SCⅢb1-s1を中心に包含される。石器集中2-4のうち最も南に位置するが、隣接する石器集中との間に接合資料がない。

石器数は9点である。構成器種は剥片6点、砕片1点、楔形石器1点、石核1点である。

構成石材はホルンフェルス6点、諏訪星ヶ台産黒曜石2点、蓼科冷山産黒曜石1点である。諏訪星ヶ台産黒曜石は楔形石器の組成からも分かるように両極技法による小型剥片生産と関連する。ホルンフェルスは限定的に消費される。

石器集中5（第68図、表9）

L0グリッドに分布し、SCⅢs1を中心に包含される。石器集中5-7のうち最も西に位置し、隣接する石器集中8との間にホルンフェルス製石器群の接合資料が3例確認された（接合43・47・52）。

石器数は34点である。構成器種は端削器1点、彫器1点、二次加工剥片1点、剥片28点、砕片1点、石核2点である。

構成石材はホルンフェルス31点、諏訪星ヶ台産黒曜石1点、ガラス質黒色安山岩1点、流紋岩1点である。

石器集中6（第69図、表10）

L1グリッドに分布し、SCⅢb1-s1を中心に包含される。石器集中内部にホルンフェルス製石器群の接合資料が2例確認された（接合52・63）ほか、隣接する石器集中8との間にもホルンフェルス製石器群の接合資料が1例確認された（接合62）。

石器数は33点である。構成器種は石刃1点、剥片26点、砕片3点、石核3点である。石刃が1点あるが、集中部内に積極的な石刃生産痕跡は認められない。

構成石材はホルンフェルス31点、箱根畑宿産黒曜石1点、ガラス質黒色安山岩1点である。箱根畑宿産黒曜石製剥片が1点だけあるが、小型品である。ガラス質黒色安山岩は大型の剥片の単体品である。

石器集中7（第70・71図、表11）

L1グリッドに分布し、SCⅢb1-s1からBBⅢに跨がって包含される。垂直分布上でかなり下にあるようにみえる石器群は、土層模式図の記録場所との標高差があるためで、実際にはSCⅢ上部の出土である。他方、SCⅢs1からBBⅢに分布する石器のうちいくらかは、上位の第Ⅲ文化層から出土している。しかしBBⅢのもの

表9　第Ⅱ文化層　石器集中5　石器組成

	黒曜石 諏訪星ヶ台	流紋岩	ガラス質黒色安山岩	ホルンフェルス	計
端削器		1			1
彫器	1				1
二次加工剥片				1	1
剥片			1	27	28
砕片				1	1
石核				2	2
計	1	1	1	31	34

表10　第Ⅱ文化層　石器集中6　石器組成

	黒曜石 箱根畑宿	ガラス質黒色安山岩	ホルンフェルス	計
石刃			1	1
剥片	1	1	24	26
砕片			3	3
石核			3	3
計	1	1	31	33

表11　第Ⅱ文化層　石器集中7　石器組成

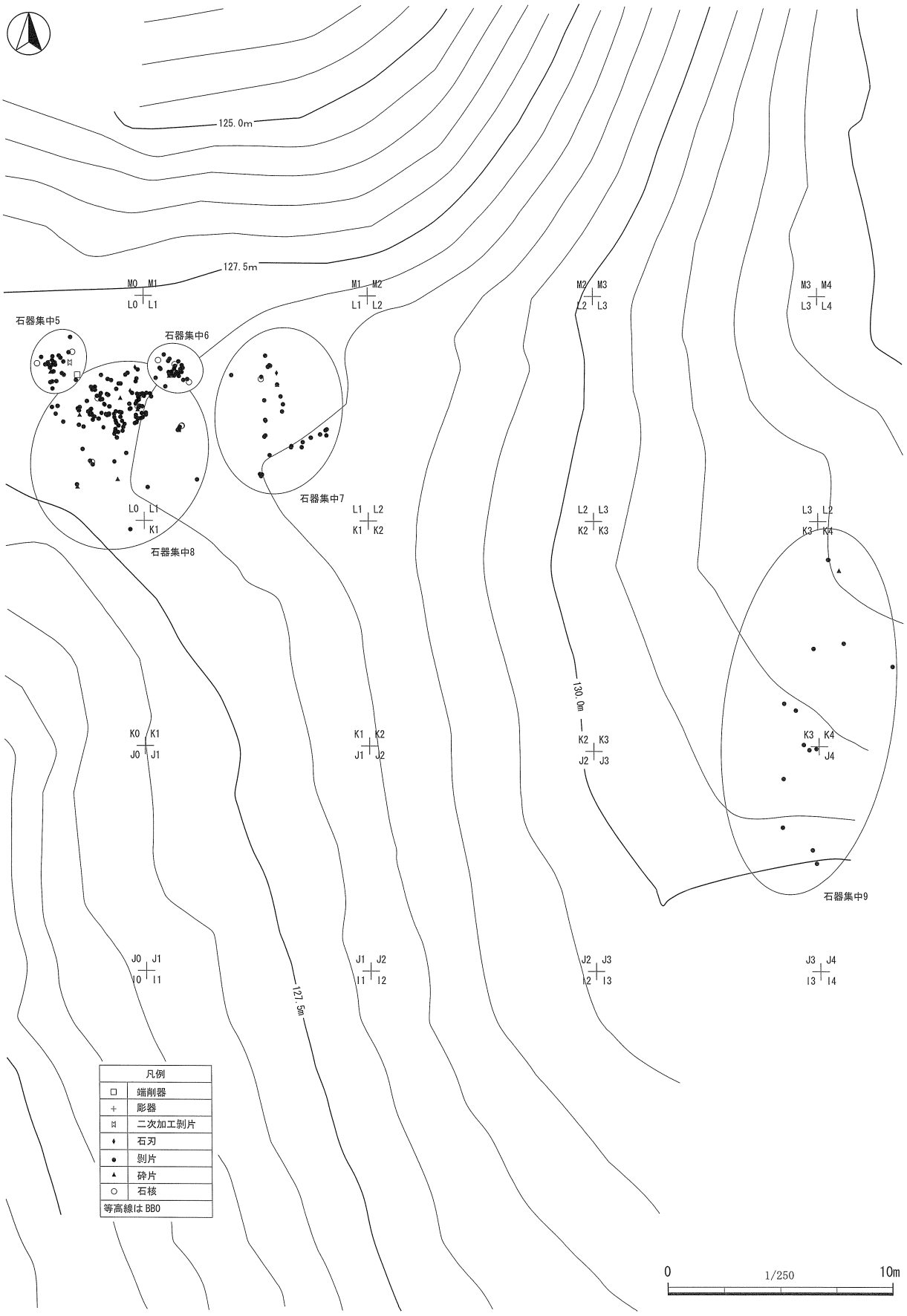
	黒曜石 箱根畑宿	ホルンフェルス	計
石刃		2	2
剥片	1	29	30
砕片		1	1
石核		1	1
計	1	33	34

表12　第Ⅱ文化層　石器集中8　石器組成

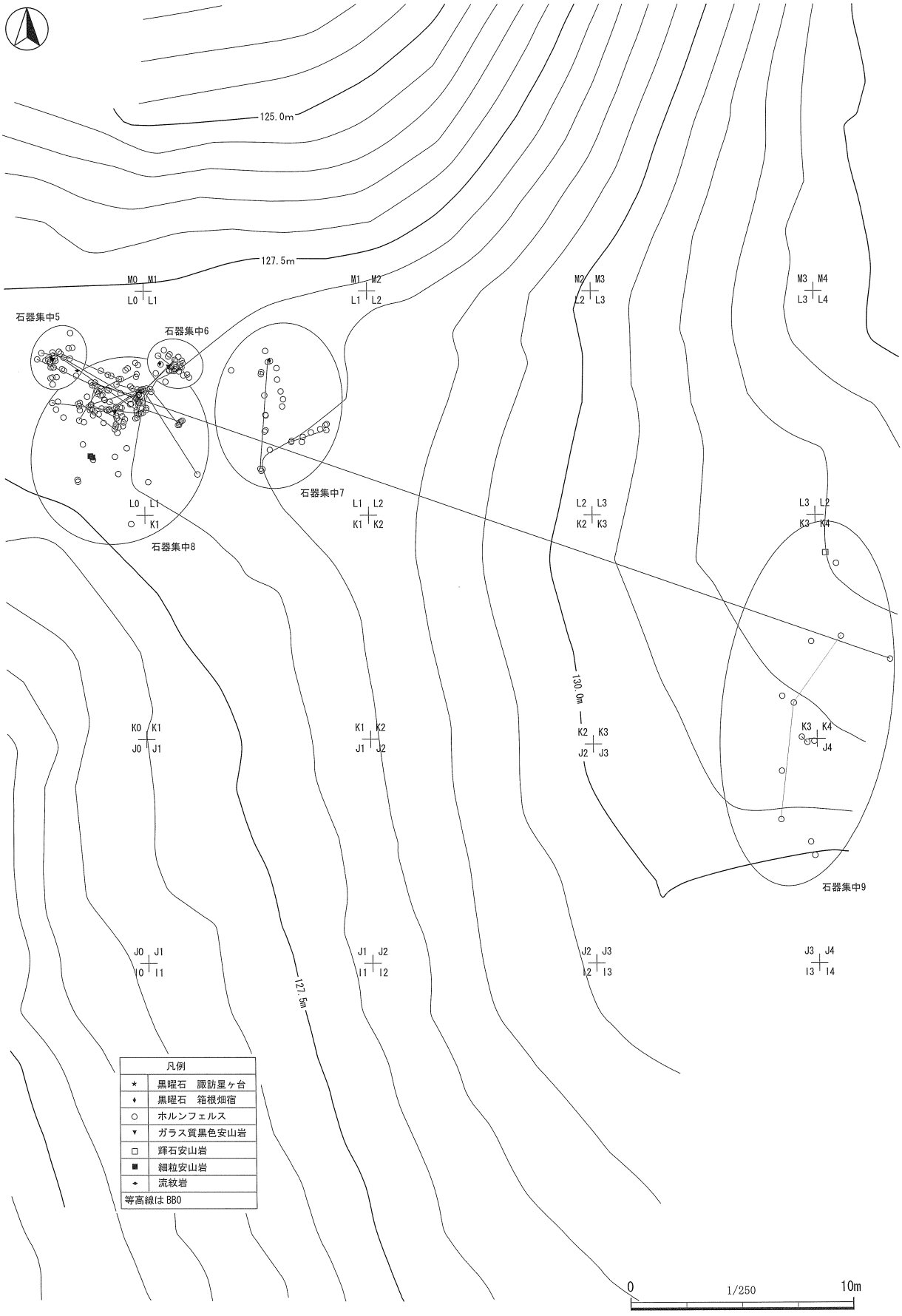
	ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	ホルンフェルス	計
石刃			2	2
剥片	1	1	119	121
砕片			10	10
石核		1	5	6
計	1	2	136	139

表13　第Ⅱ文化層　石器集中9　石器組成

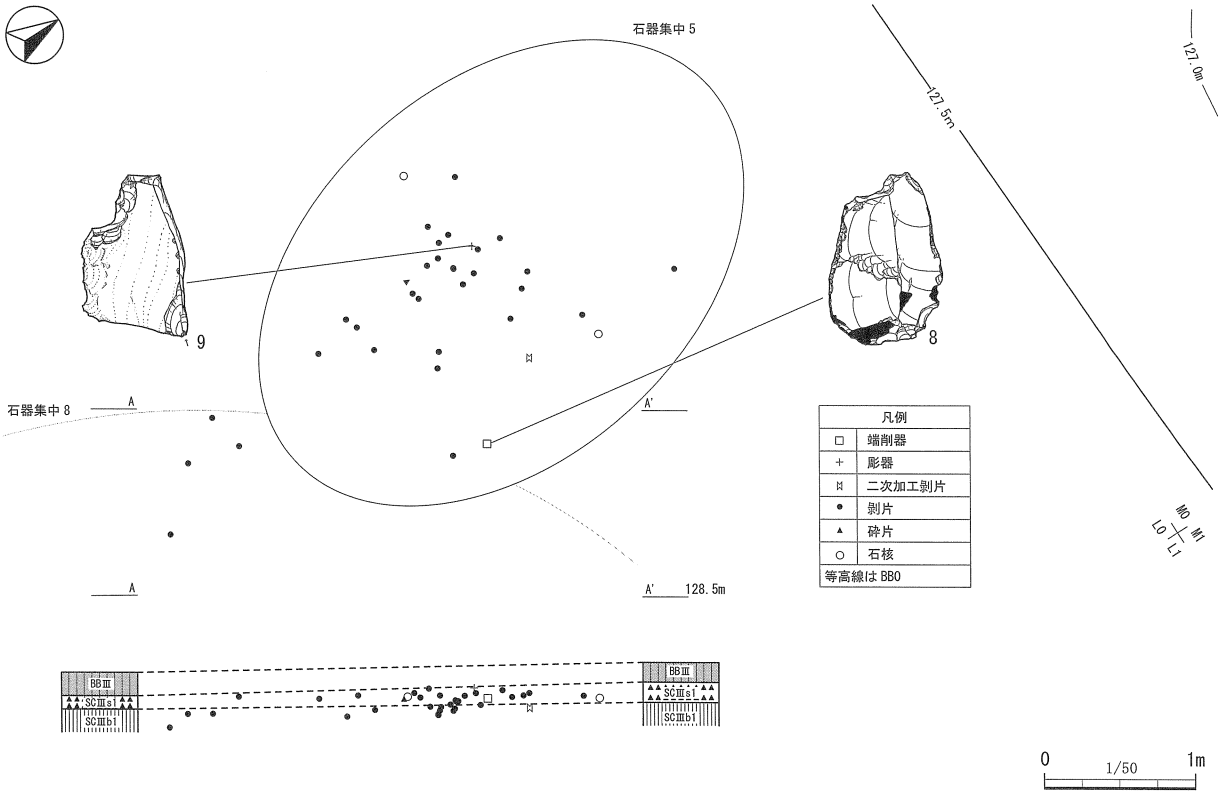
	輝石安山岩	ホルンフェルス	計
剥片	1	17	17
砕片		1	1
計	1	18	18

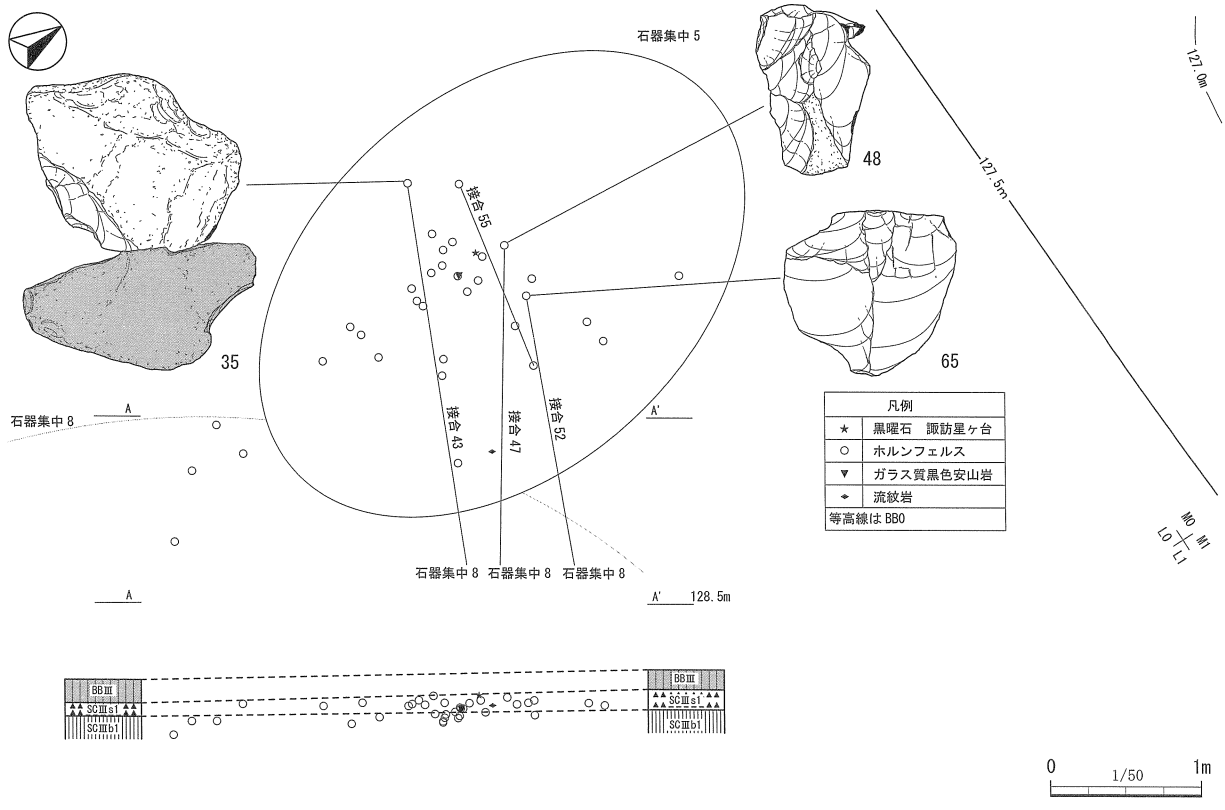


第66図　第Ⅱ文化層　石器集中5-9　器種別分布

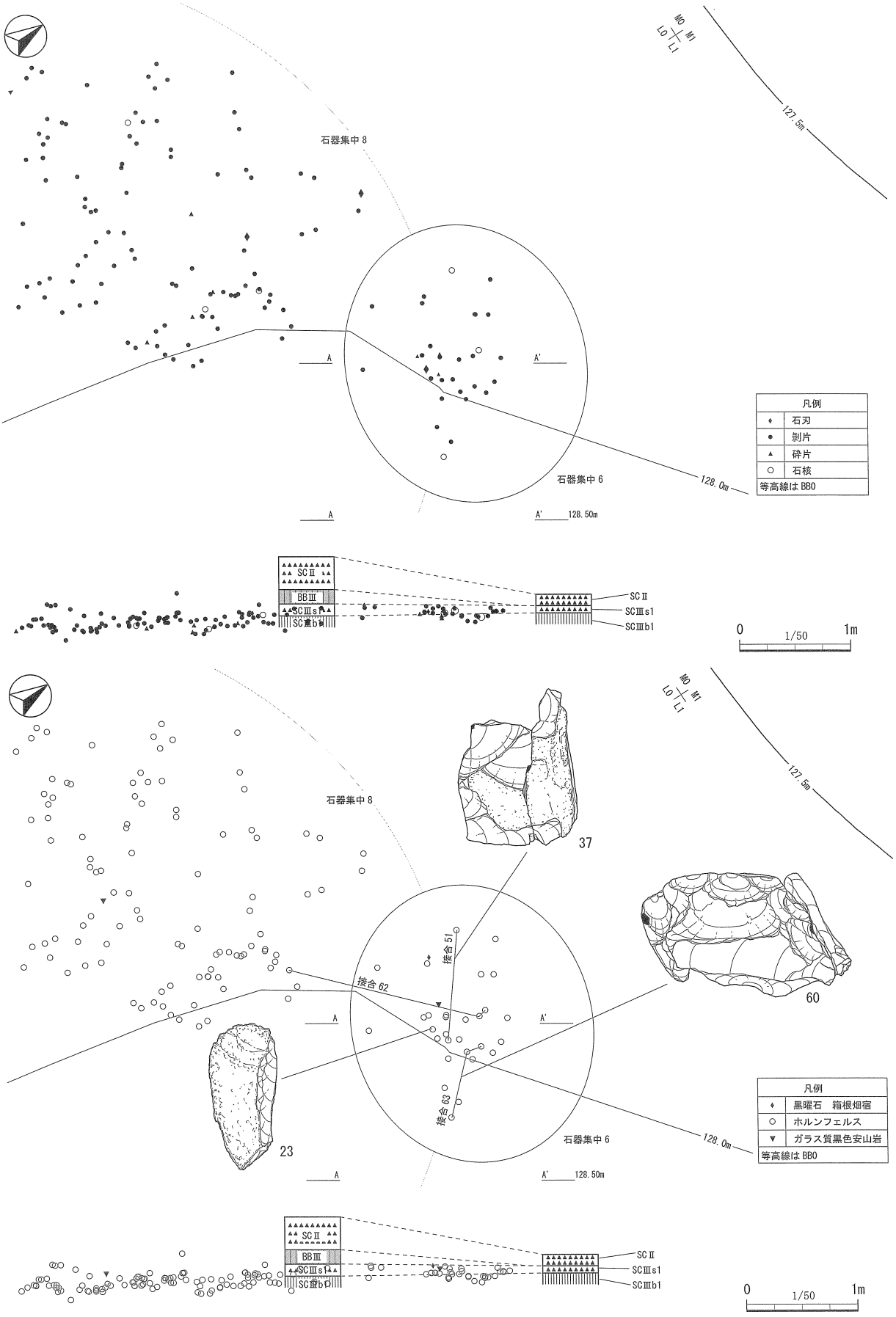


第67図　第Ⅱ文化層　石器集中5-9　石材別分布

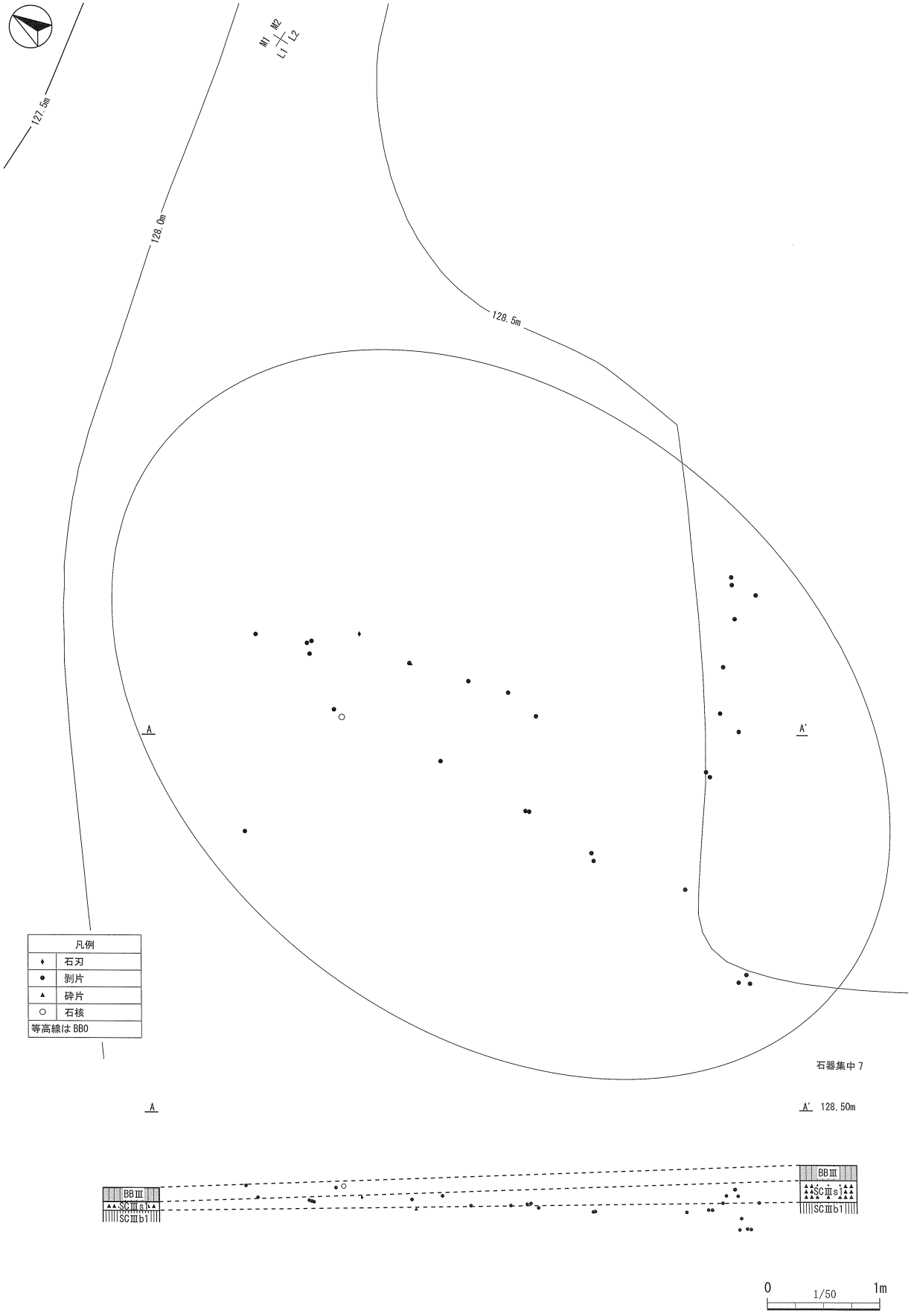




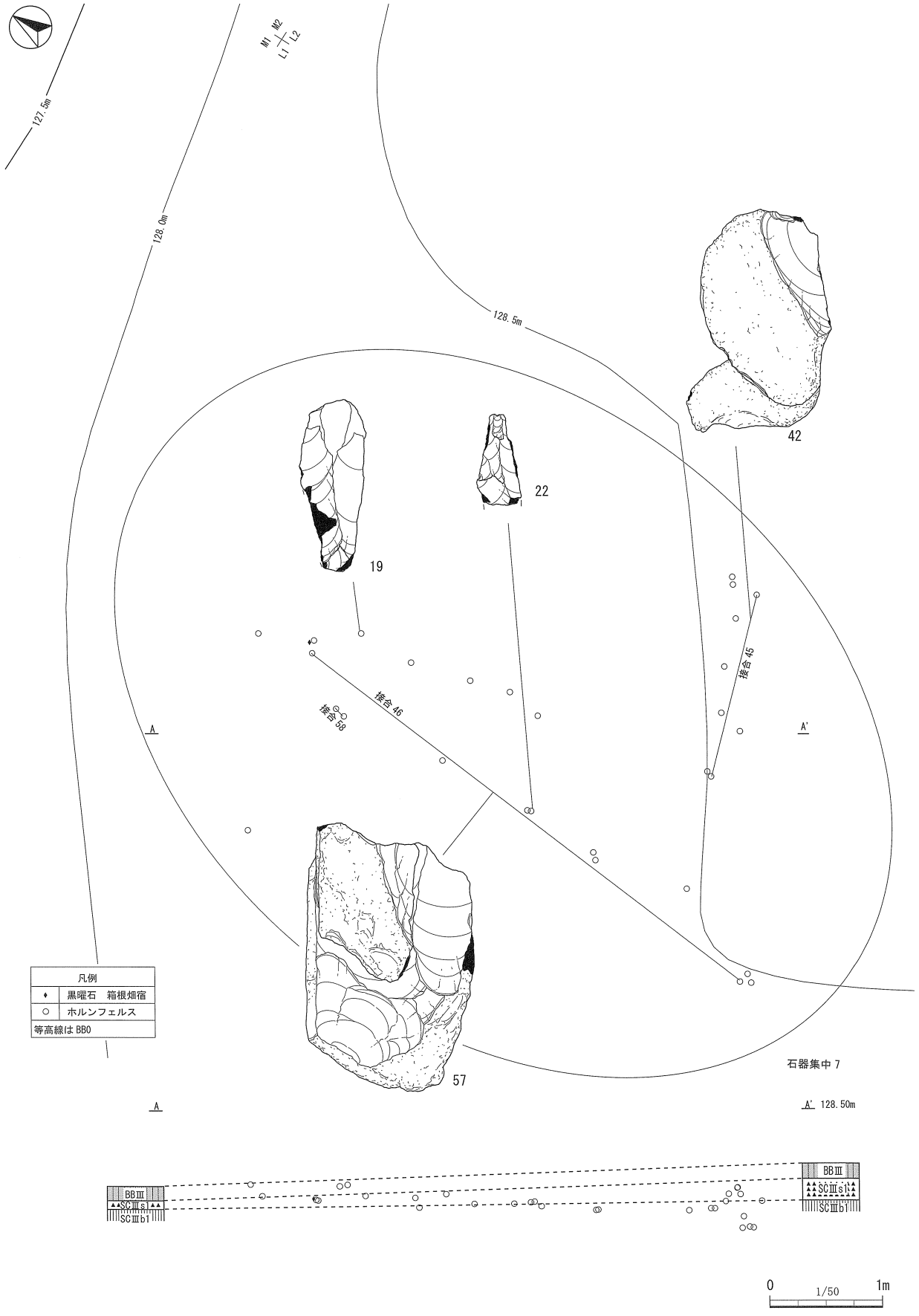
第68図　第Ⅱ文化層　石器集中5　器種別分布（上）・石材別分布（下）



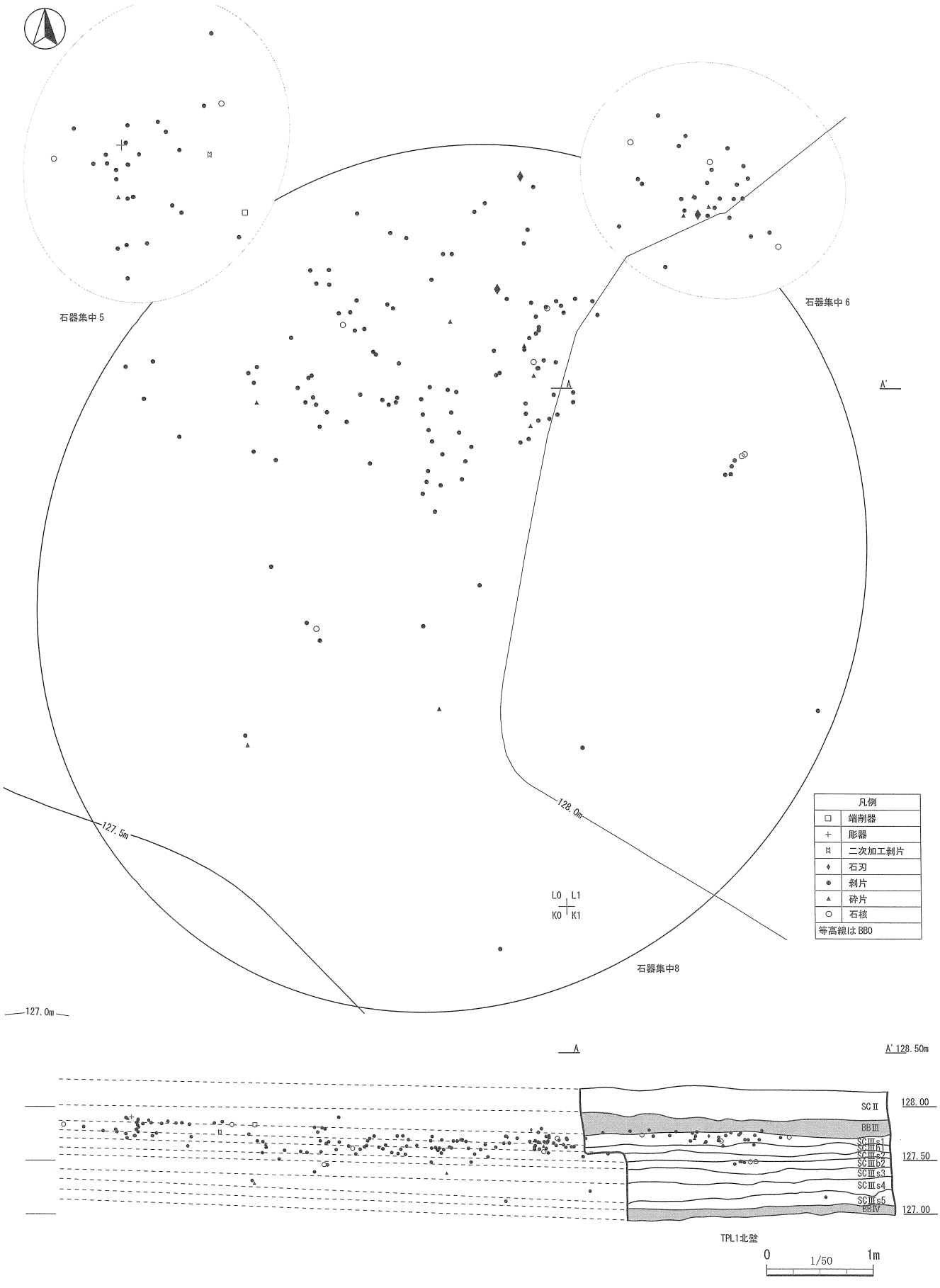
第69図　第Ⅱ文化層　石器集中6　器種別分布（上）・石材別分布（下）



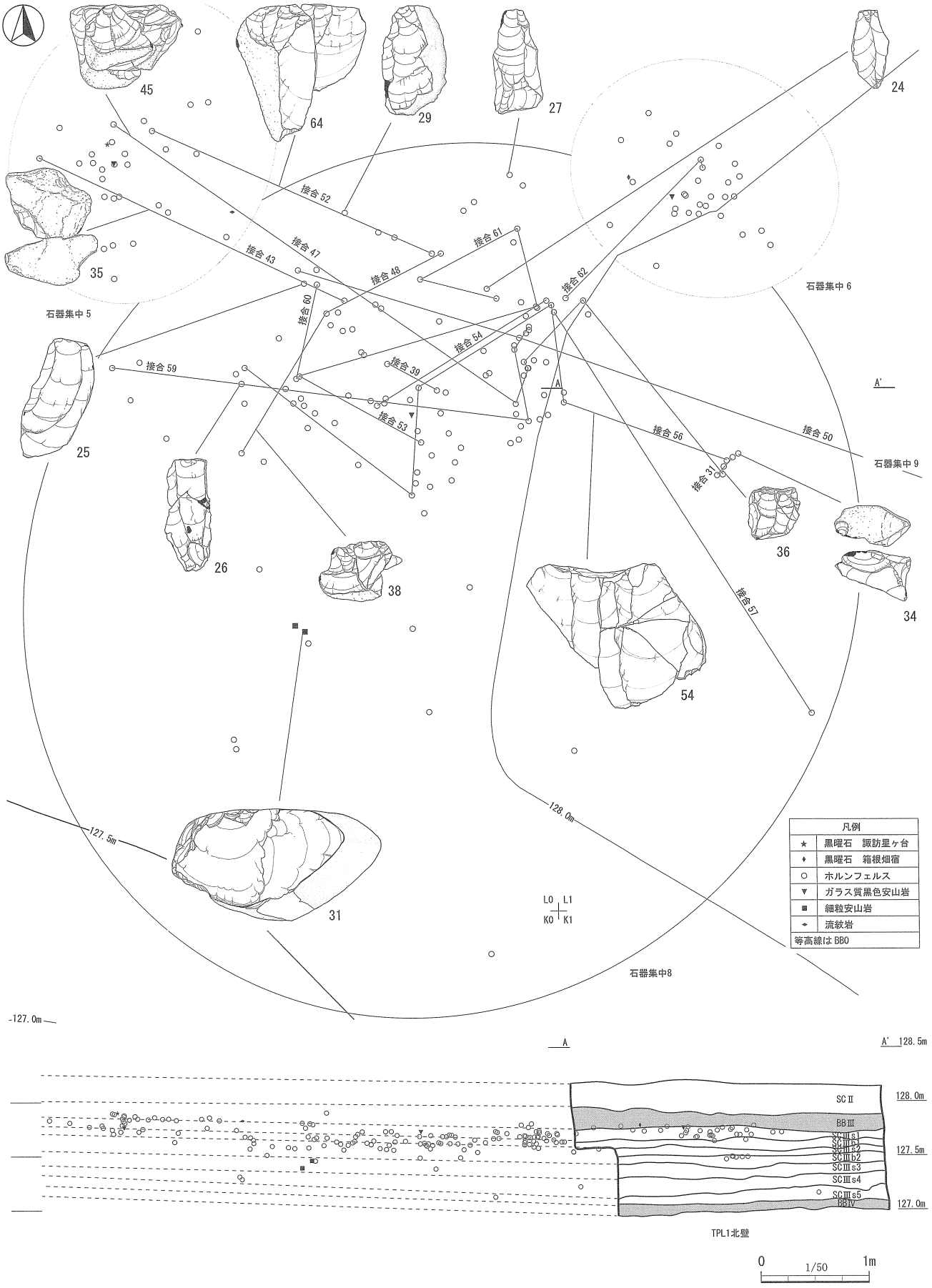
第70図　第Ⅱ文化層　石器集中7　器種別分布



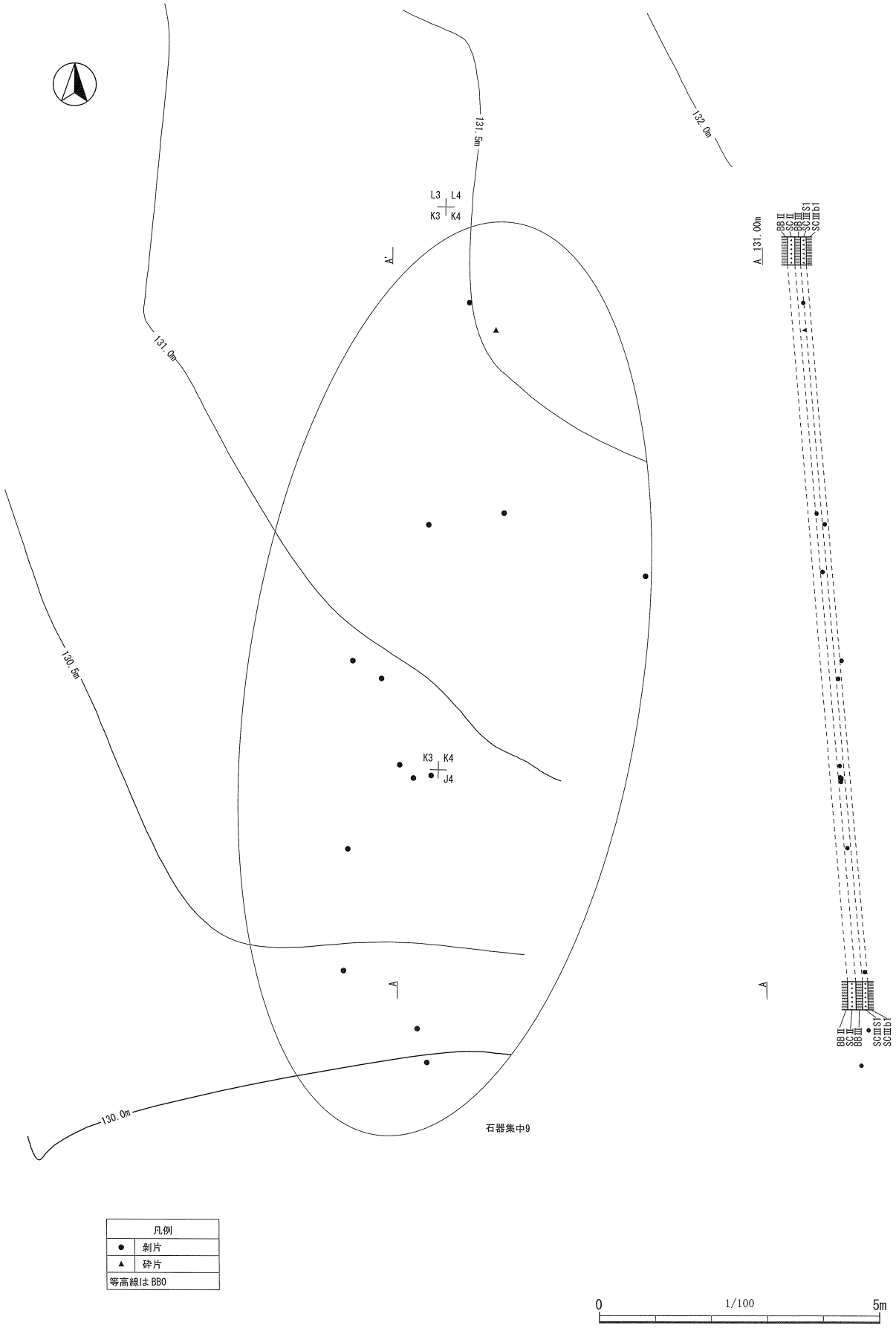
第71図　第Ⅱ文化層　石器集中7　石材別分布



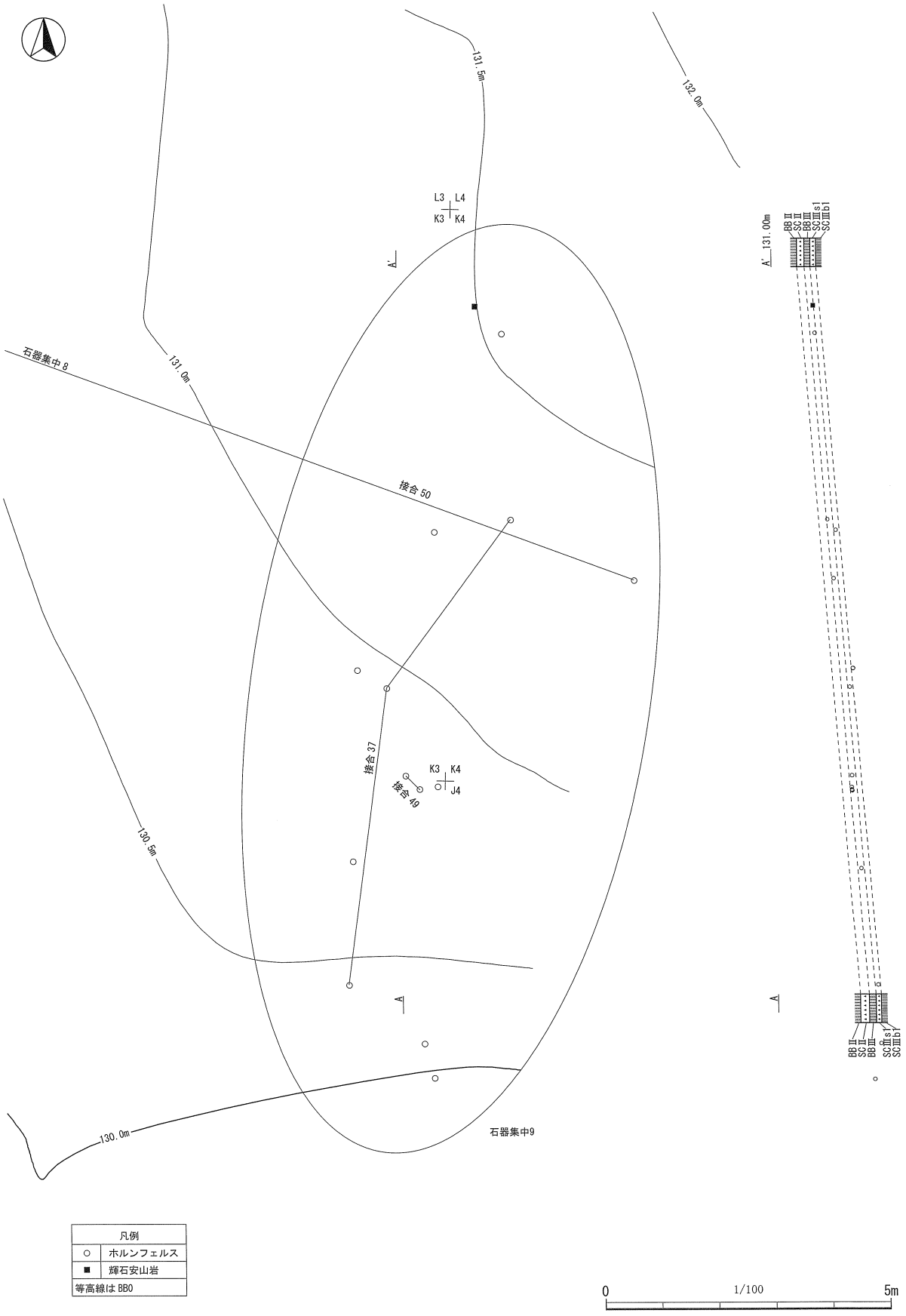
第72図　第Ⅱ文化層　石器集中5・6・8　器種別分布



第73図　第Ⅱ文化層　石器集中5・6・8　石材別分布



第74図　第Ⅱ文化層　石器集中9　器種別分布



第75図　第Ⅱ文化層　石器集中9　石材別分布

をほかと分離できる根拠に乏しかったので、平面的な集中密度を優先させて第Ⅱ文化層に帰属させた。よって、本石器集中は、SCⅢb1-s1を中心に包含される一群と、SCⅢs1-BBⅢを中心に包含される一群との複合的な石器集中といえるかもしれない。ホルンフェルス製石器群の接合資料3例が確認されたが、近接する石器集中5・6・8・9との間に接合関係はない。

石器数は34点である。構成器種は石刃2点、剥片30点、砕片1点、石核1点である。構成石材はホルンフェルス33点、箱根畑宿産黒曜石1点である。箱根畑宿産黒曜石は石器集中6にもあるが別個体である。

石器集中8（第72・73図、表12）

L0グリッドを中心に分布し、SCⅢb1とs1に跨がって包含される。垂直分布図上ではかなり下の層位に石器が投影されているが、おそらく地形が南へ傾斜していたためそう見えるものと思われる。

石器数は139点である。構成器種は石刃2点、剥片121点、砕片10点、石核6点である。点数が多い割に二次加工石器類が全くない。石刃も多くはないが、縦長剥片はあるので、いくらかが持ち出されてしまったのかもしれない。構成石材はホルンフェルス136点、細粒安山岩2点、ガラス質黒色安山岩1点であり、圧倒的にホルンフェルスが多い。石器集中内部の接合資料がホルンフェルス製8例、石器集中5との間に3例、石器集中6との間に1例確認された。

石器集中9（第74・75図、表13）

J3・4-K3・4グリッドに拡散し、SCⅢs1を中心に包含される。投影図ではSCⅢb1-s1からBBⅢに跨がっているようにみえるが、これは斜面を斜め方向から投影したためと思われる。

石器数は18点である。構成器種は剥片17点、砕片1点である。構成石材はホルンフェルス17点、輝石安山岩1点である。ホルンフェルスには少なくとも2個体あり、ひとつは背面全体が自然面となる厚手剥片の接合資料、もうひとつは剥片とその接合資料で構成される。接合資料は石器集中内部で2例、石器集中8との間で1例確認された。いずれもホルンフェルス製である。

石器集中外（第90図）

C7グリッドとその周囲で、ホルンフェルス製石刃、ガラス質黒色安山岩製剥片、礫が散発的に検出された。

２．出土石器の検討（第76-86図）

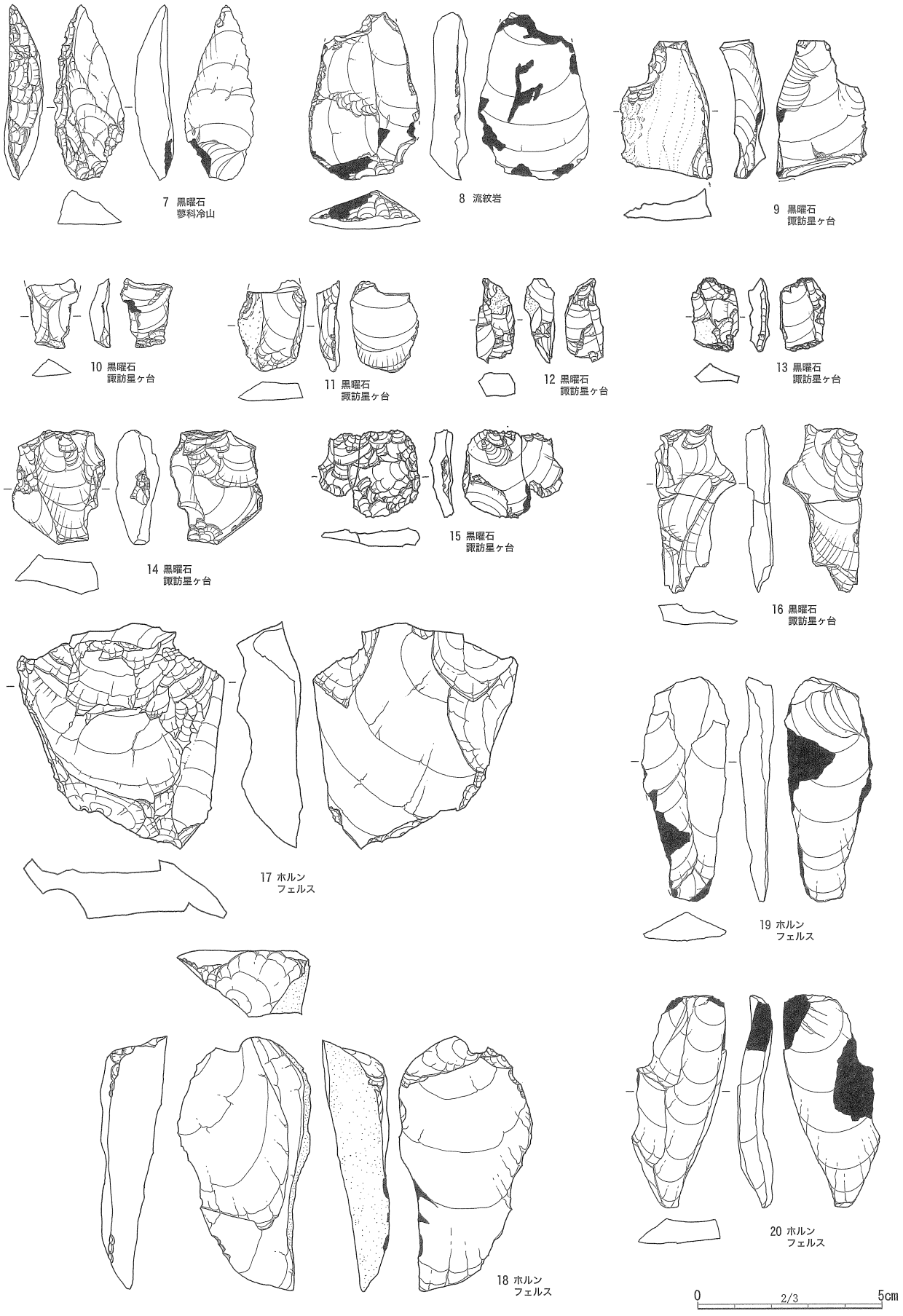
ナイフ形石器（7）

7はBBⅢで検出された蓼科冷山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左縁辺を急角度な鋸歯状剥離で切り取って側縁を整形して、尖頭部を作出する。基部は、発掘時に欠損したので明瞭に観察することはできない。左側縁の鋸歯状調整は当該期よりもBBO段階以降に一般化する傾向があるので、この石器の存在はいささか異質である。

端削器（8・18）

8はBBⅢで検出された流紋岩製の端削器である。打面が壊れた厚手の縦長剥片端部にやや鋸歯状の刃部を作出する。また、左縁辺を中心に微細剥離痕が連続的に観察される。

18はBBOで検出されたホルンフェルス製の端削器である。接合資料の一部である（接合32）。検出層位が高いが、接合資料のもう一方がSCⅢで検出されたので低いほうに帰属させた。自然面の付いた厚手の縦長剥片の打面及びバルブを剥離して刃部を作出する。剥片はこの刃部を作出する際に排出されたものである。左縁辺には使用によるものと推測される不規則な微細剥離痕が連続する。



第76図　第Ⅱ文化層の石器群（1）

彫器（9）

9はBBⅢで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の彫器である。自然面が大きく残る剥片の右側縁と末端を折り取り、末端から彫刀面を作出する。

二次加工剥片（10・17）

10はSCⅢs1で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の二次加工剥片である。縦長剥片の端部裏面に二次加工を施す。打面部が折れている。

17はSCⅢs1で検出されたホルンフェルス製の二次加工剥片である。厚手剥片の左縁辺末端側に交互剥離を施す。

楔形石器（12-16）

12はBBⅢで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の楔形石器である。長軸の両端から両極剥離によると推測される剥離痕が多数観察される。

13はSCⅢs1で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の楔形石器である。

14はSCⅢs1で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の楔形石器である。両極剥離を加える。

15はSCⅢs1で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の楔形石器である。小型剥片の表裏に、両極剥離によると推測される上下左右からの二次的な平坦剥離が観察される。

16はBBⅢで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の楔形石器と微細剥離痕剥片の接合資料である(接合97)。二次的な剥離痕が打面部から表裏に及んでおり、両極剥離によるものと推測される。

微細剥離痕剥片（11・16）

11はSCⅢs1で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。剥片の右縁辺に微細剥離痕が観察される。

16はSCⅢs1・BBⅢで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片と楔形石器の接合資料である。

石刃（19・20・22-24・27・28）

19はBBⅢで検出されたホルンフェルス製の石刃である。同一方向からの連続剥離過程で生産する。打面部の表面が風化で剥がれている。

20はBBⅢで検出されたホルンフェルス製の石刃である。打点から縦に半割しているが、これは剥片剥離時のものと推測される。

22はBBⅢで検出されたホルンフェルス製の石刃である。小型で、端部が折れている。

23はBBⅢで検出されたホルンフェルス製の石刃である。背面に自然面を大きく残すが、端部は収斂する。

24はBBⅢで検出されたホルンフェルス製の石刃である。比較的薄手で、端部は収斂する。

27はBBⅢで検出されたホルンフェルス製の石刃である。ただし、側面を見れば分かるように、中央の稜が非常に高くなっており、道具そのもの、あるいは道具の素材となりうるようなものではない。求心剥離過程や交互剥離過程で石核にできた張り出し部を側方から除去したものである可能性が高い。

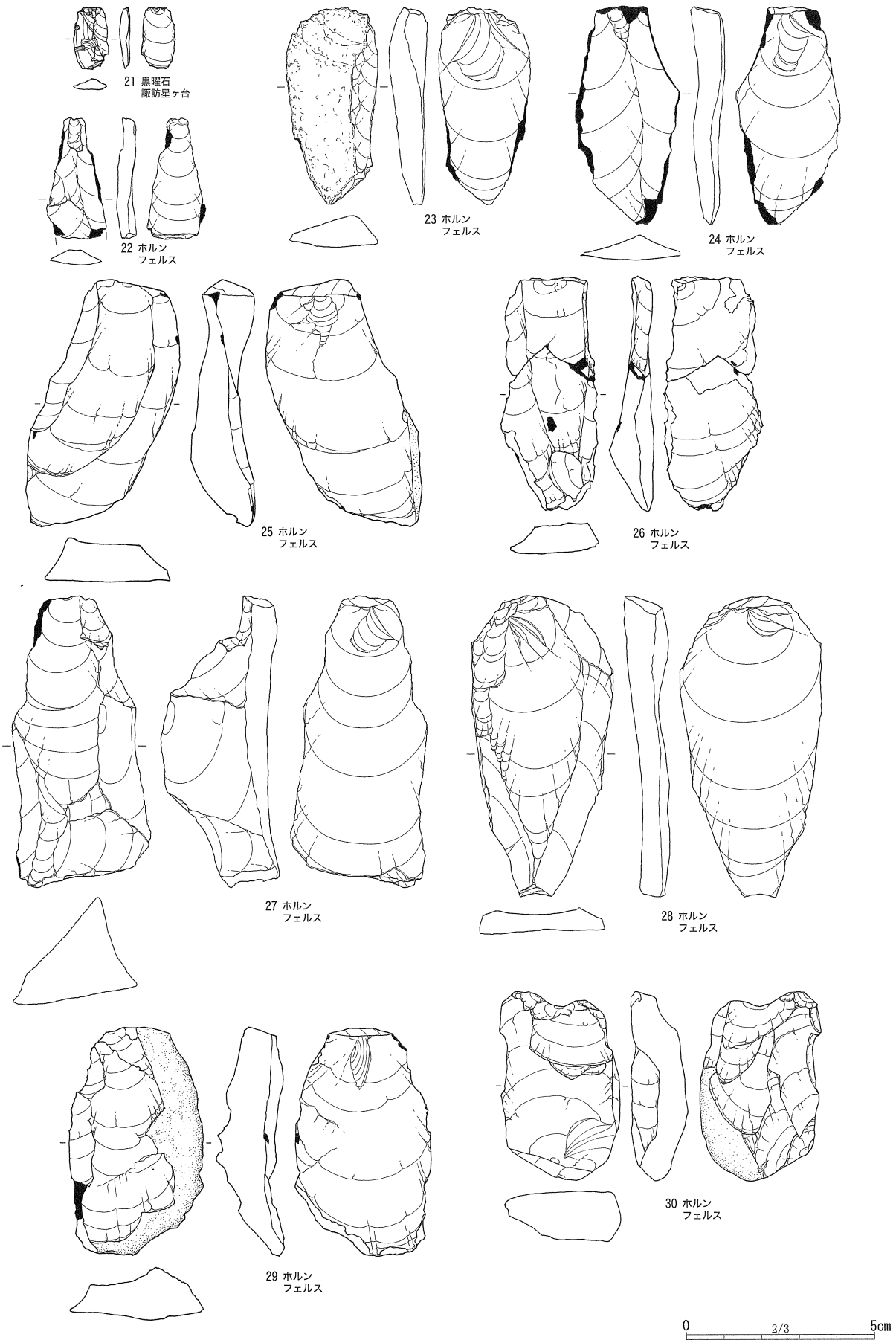
28はSCⅢs3で検出されたホルンフェルス製の石刃である。大型でねじれが少なく左右の対称性も強い。端部が収斂する。

剥片（21・25・26・29）

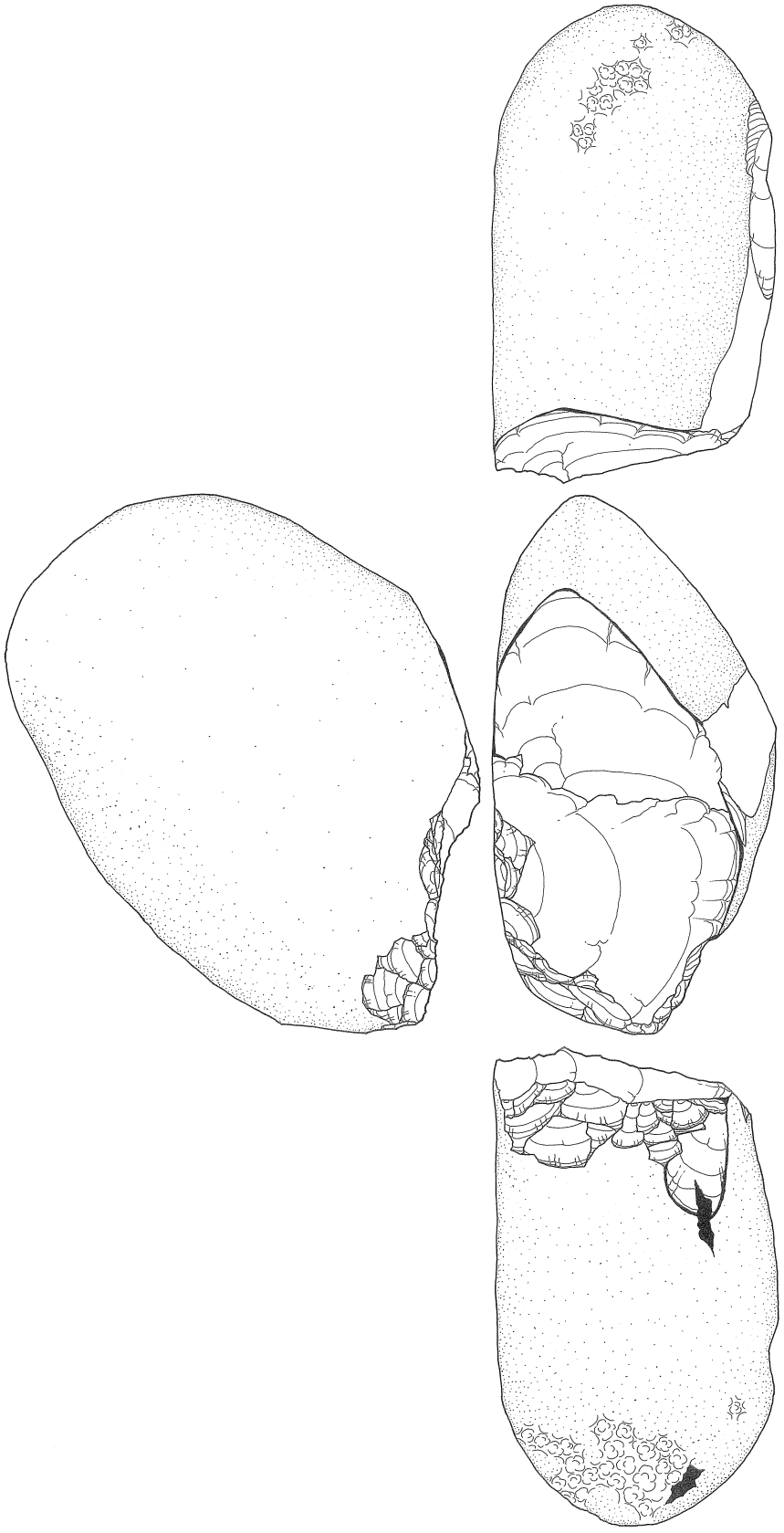
21はBBⅢで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の剥片である。剥離面のリングがつまっており、また背面にポジ面が残っていることから、剥片の腹面から両極剥離でとられたものと推測される。

25はBBⅢで検出されたホルンフェルス製の剥片である。単打面で、厚手の縦長剥片である。

26はBBⅢで検出されたホルンフェルス製の剥片である。剥片剥離時に打点部から縦に割れてしまったようである。



第77図　第Ⅱ文化層の石器群（2）



第78図　第Ⅱ文化層の石器群（3）

29はBBⅢで検出されたホルンフェルス製の剥片である。単打面で、自然面が大きく残る厚手の縦長剥片である。

石核（30-34）

30はSCⅢs1で検出されたホルンフェルスの石核である。剥片末端の裏面から剥片をとる。二次加工石器の可能性もある。

31はBBⅢで検出された細粒安山岩の石核である。亜円礫の端部から大型剥片を複数剥離する。対向する端部には敲打痕が認められることから、敲石としても利用されたと推測される。

32はSCⅢs1で検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫の自然面を打面にして求心方向に剥離して小型剥片を生産する。

33はSCⅢs1で検出されたホルンフェルスの石核である。分厚い剥片の打面とバルブ部から小型剥片をとる。

34はBBⅢで検出されたホルンフェルスの石核である。大きく自然面残る剥片の、自然面と底面とでそれぞれ幅広の剥片を剥離する。

接合資料（35-66）

第Ⅱ文化層全体で28例の接合資料が確認された。石材別の内訳は、ホルンフェルス27例、諏訪星ヶ台産黒曜石1例である（表75）。このうち、土壌中で自然に割れた例（節理面に沿っていることが多い）や折れ接合などを除いたホルンフェルス11例と諏訪星ヶ台産黒曜石1例を図示した。

35はBBⅢで検出されたホルンフェルス製剥片1点と石核1点の接合資料である（接合43）。大型剥片が折れたあとに、一方を石核として、その表裏から小型剥片を剥離する。石器集中8と5に跨がって分布する。

36はBBⅢで検出されたホルンフェルス製剥片1点と石核1点の接合資料である（接合31）。両面を求心剥離している。石器集中8に含まれる。

37はともにBBⅢで検出されたホルンフェルス製剥片1点と石核1点の接合資料である（接合51）。自然面の残る厚手の剥片を更に分割している。石器集中6に含まれる。

38はBBⅢで検出されたホルンフェルス製剥片3点（39，40，41）の接合資料である（接合48）。底面に自然面の残る石核を利用し、打面を左右に移動させながらほぼ同一方向に連続打撃して、小型から中型の幅広剥片を得ている。石器集中8に含まれる。

42はBBⅢで検出されたホルンフェルス製剥片2点（43，44）の接合資料である（接合45）。亜円礫の外皮を半求心的に剥離している。石器集中7に含まれる。

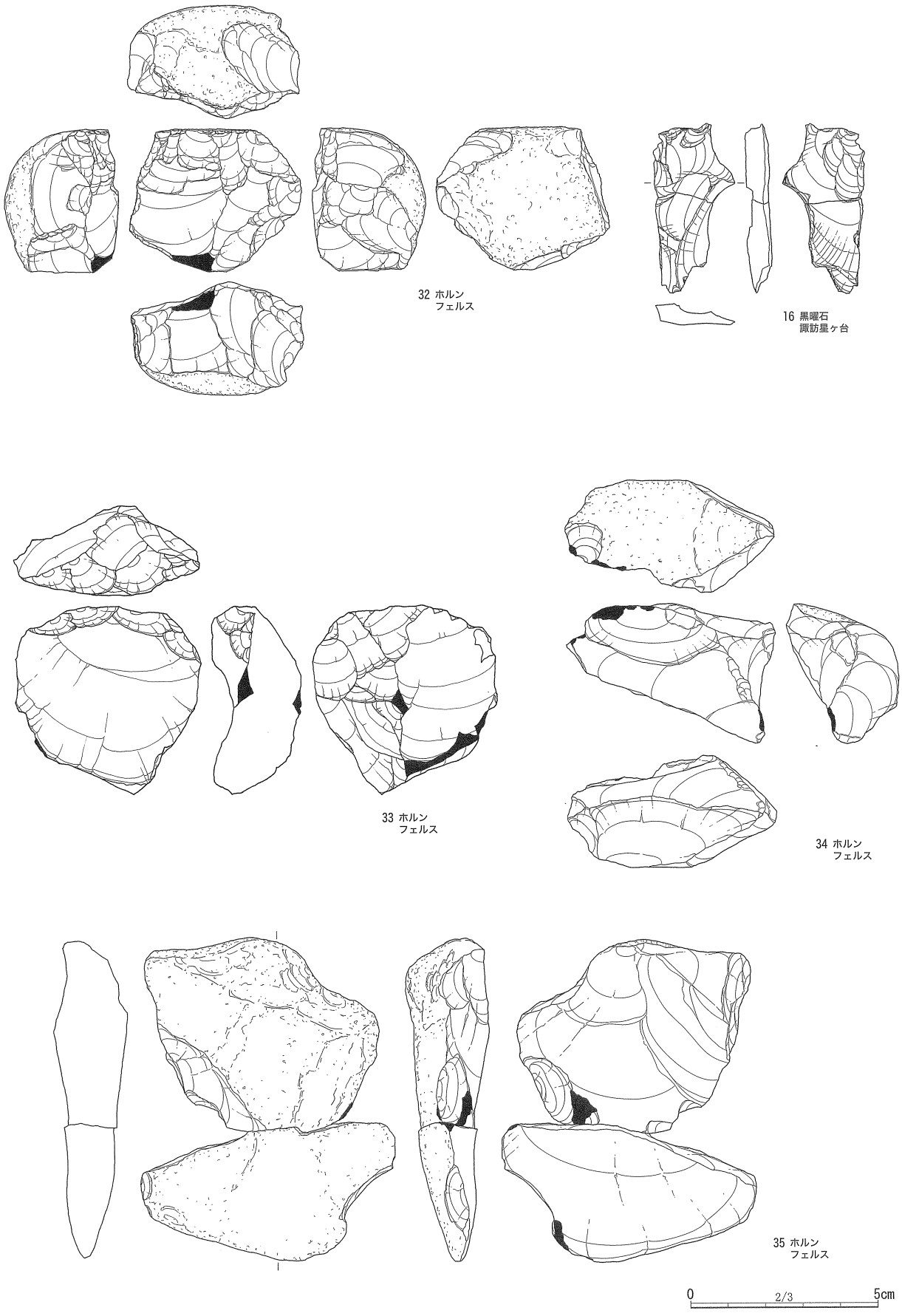
45はBBⅢで検出されたホルンフェルス製剥片5点（46-50）と石核1点（51）の接合資料である（接合47）。亜円礫の端部から、打面と作業面を交互に入れ替え、中型から小型の幅広剥片を連続的に得ている。分布は石器集中8を中心としているが、1点だけが石器集中5に跨がっている。

52はホルンフェルス製剥片1点（53）と端削器1点（18）の接合資料である（接合32）。53はSCⅢs1出土だが、もう一方の18はBB0出土だった。検出層位が大きく異なるが、本来どちらに帰属するかは明確にしえない。自然面の付いた厚手の縦長剥片の打面及びバルブを剥離して刃部を作出する。剥片はこの刃部を作出する際に排出されたものである。左縁辺には使用によるものと推測される不規則な微細剥離痕が連続する。

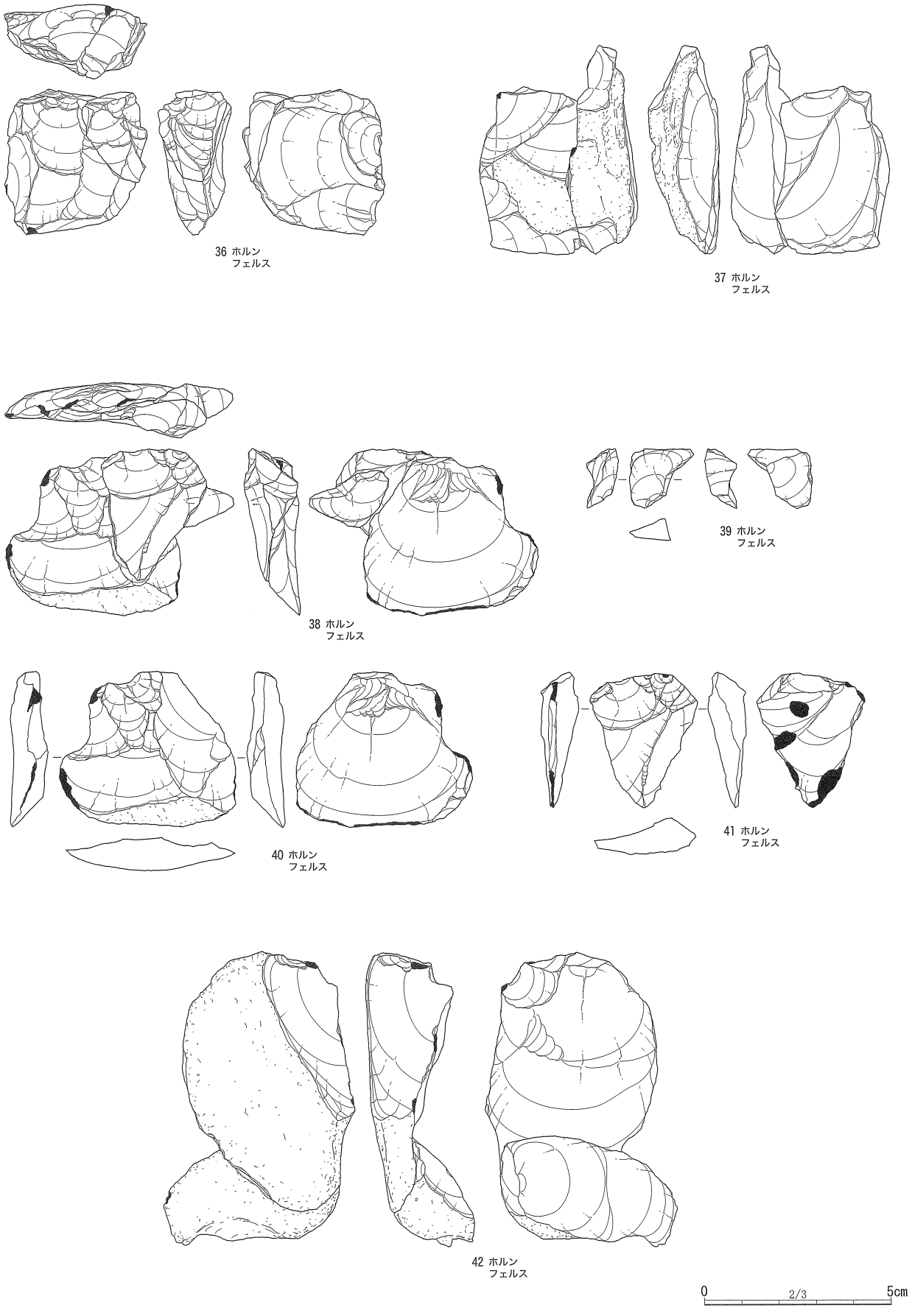
54はBBⅢで検出されたホルンフェルス製剥片6点（55，56）の接合資料である（接合56）。大型剥片を連続剥離する。分割されているのは、おそらく土中で節理から割れたものと思われる。

57はBBⅢで検出されたホルンフェルス製剥片1点（58）と石核1点（59）の接合資料である（接合58）。大型角礫の端部を中心に交互剥離している。石器集中7に含まれる。

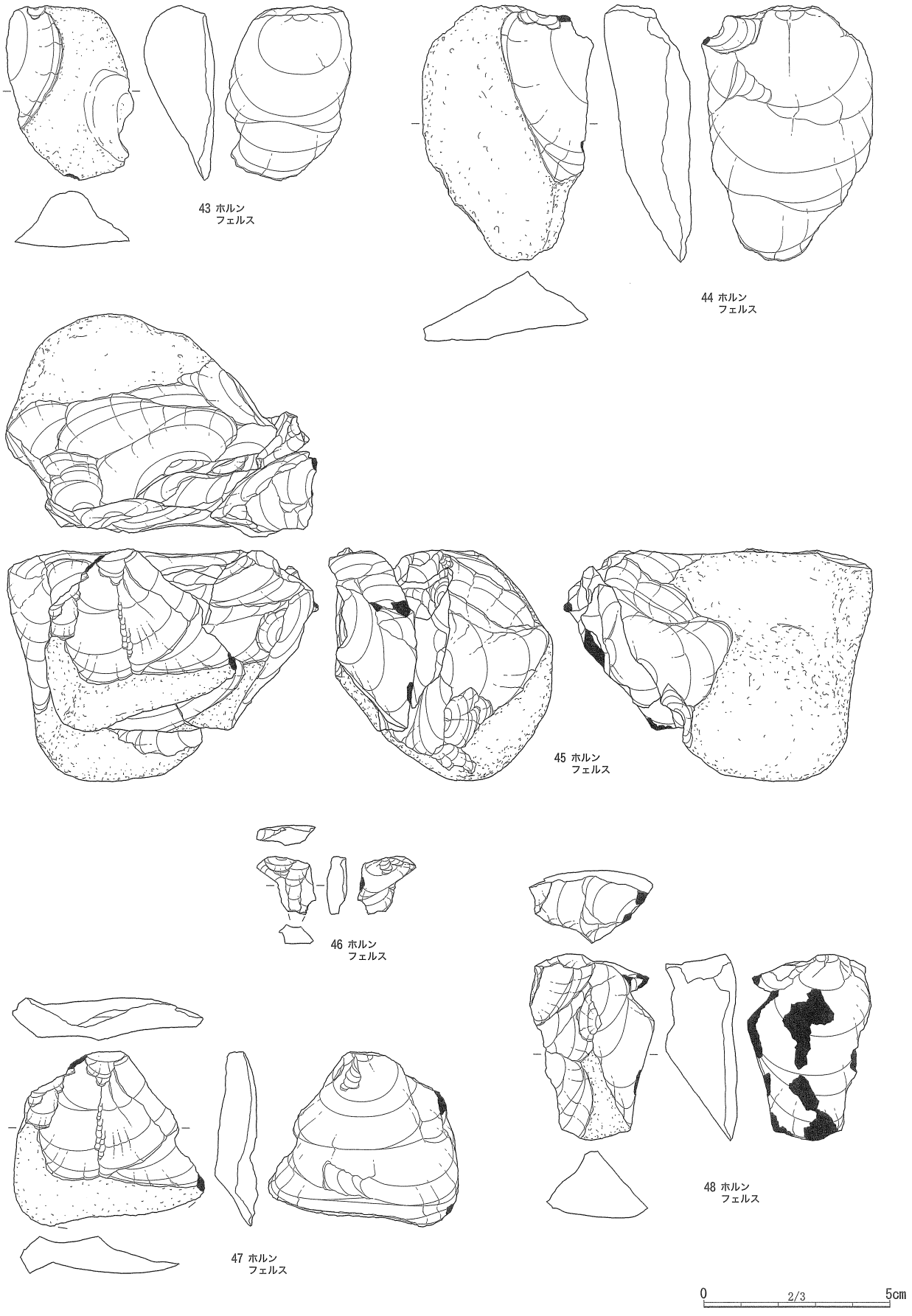
60はBBⅢで検出されたホルンフェルス製剥片2点（61，62）と石核1点（63）の接合資料である（接合



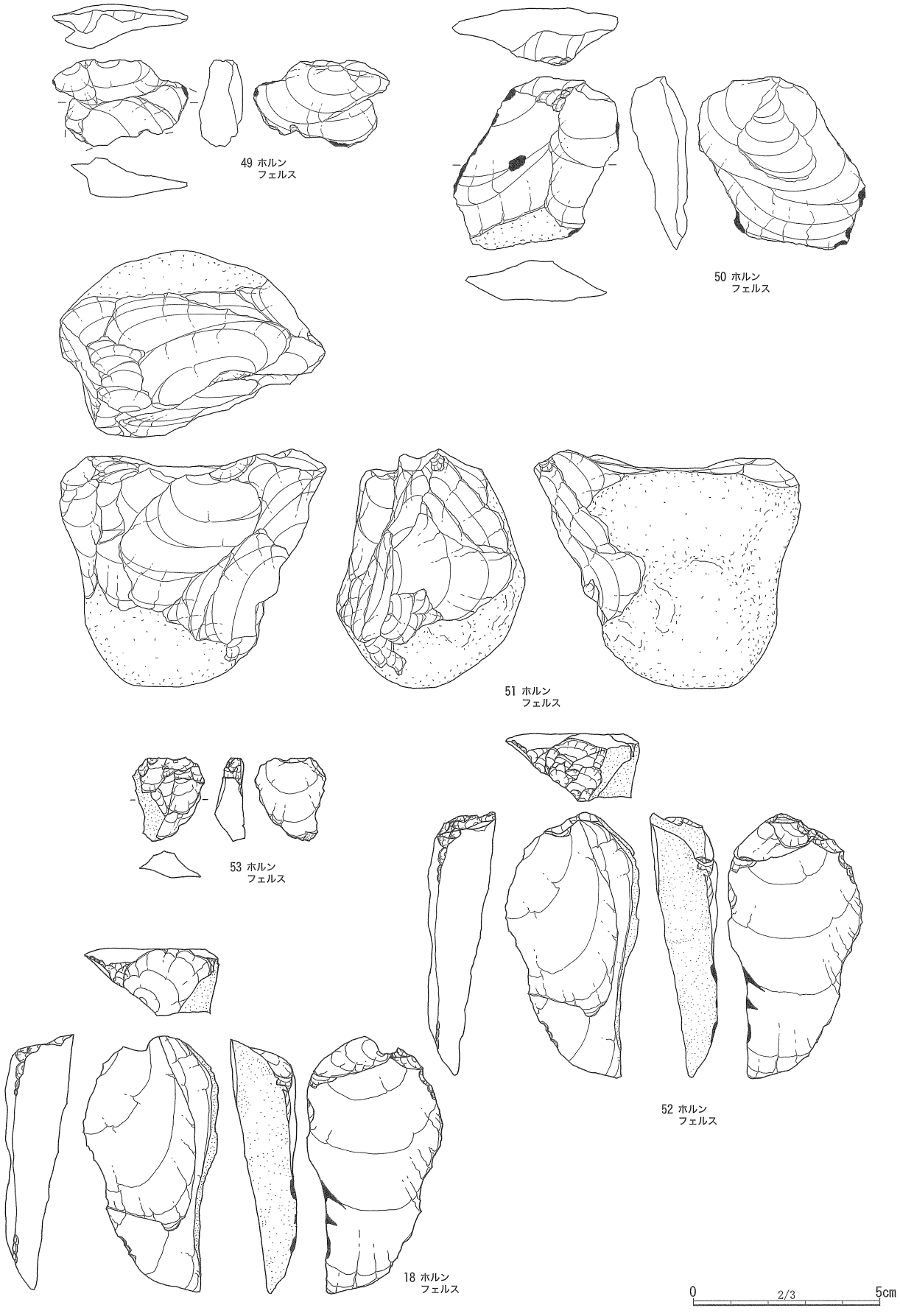
第79図　第Ⅱ文化層の石器群（4）



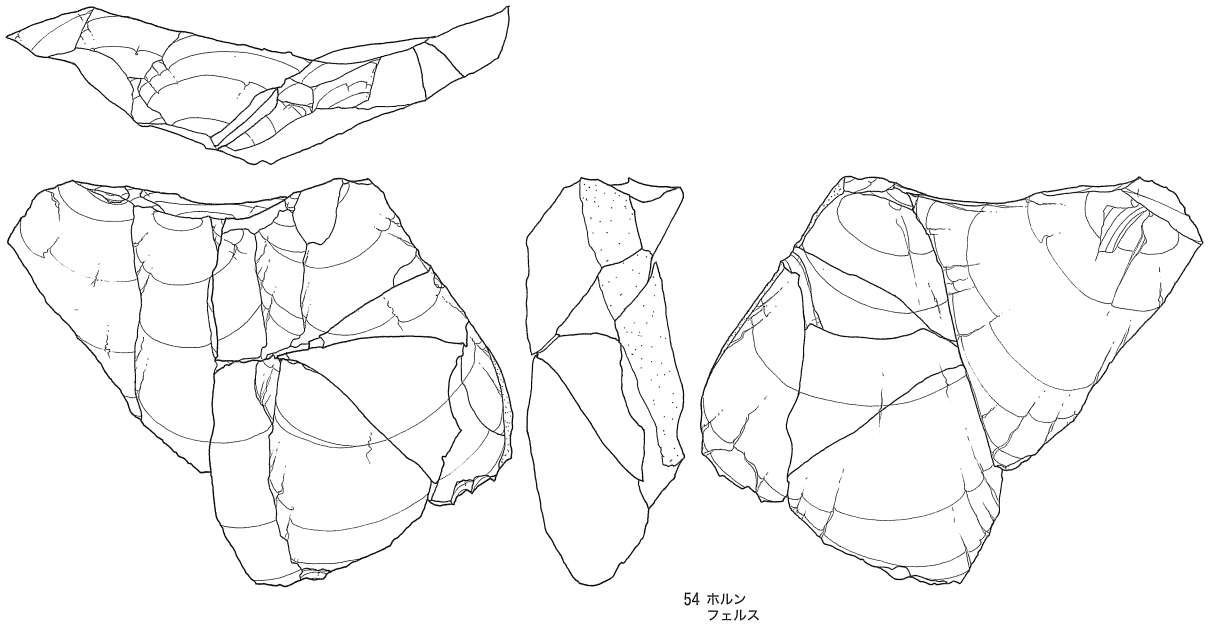
第80図　第Ⅱ文化層の石器群（5）

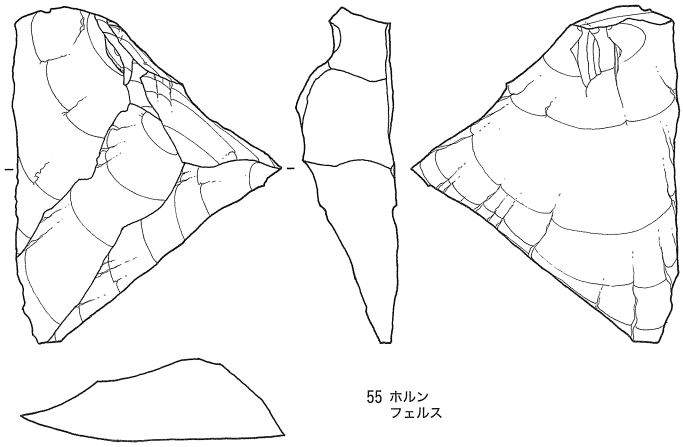


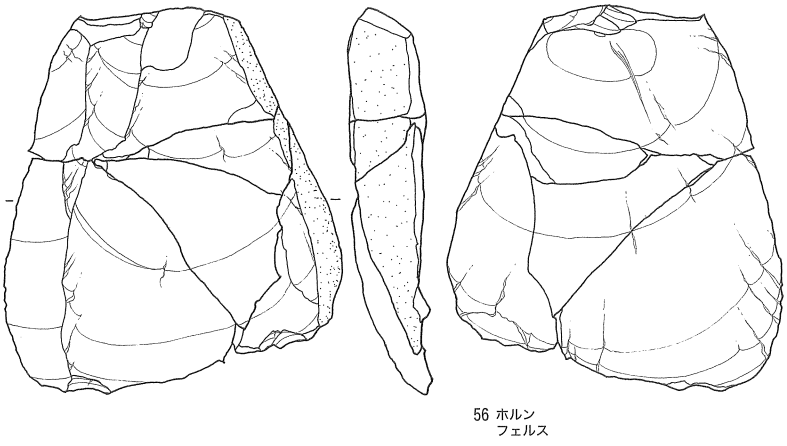
第81図　第Ⅱ文化層の石器群（6）

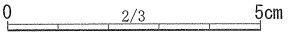


第82図　第Ⅱ文化層の石器群（7）

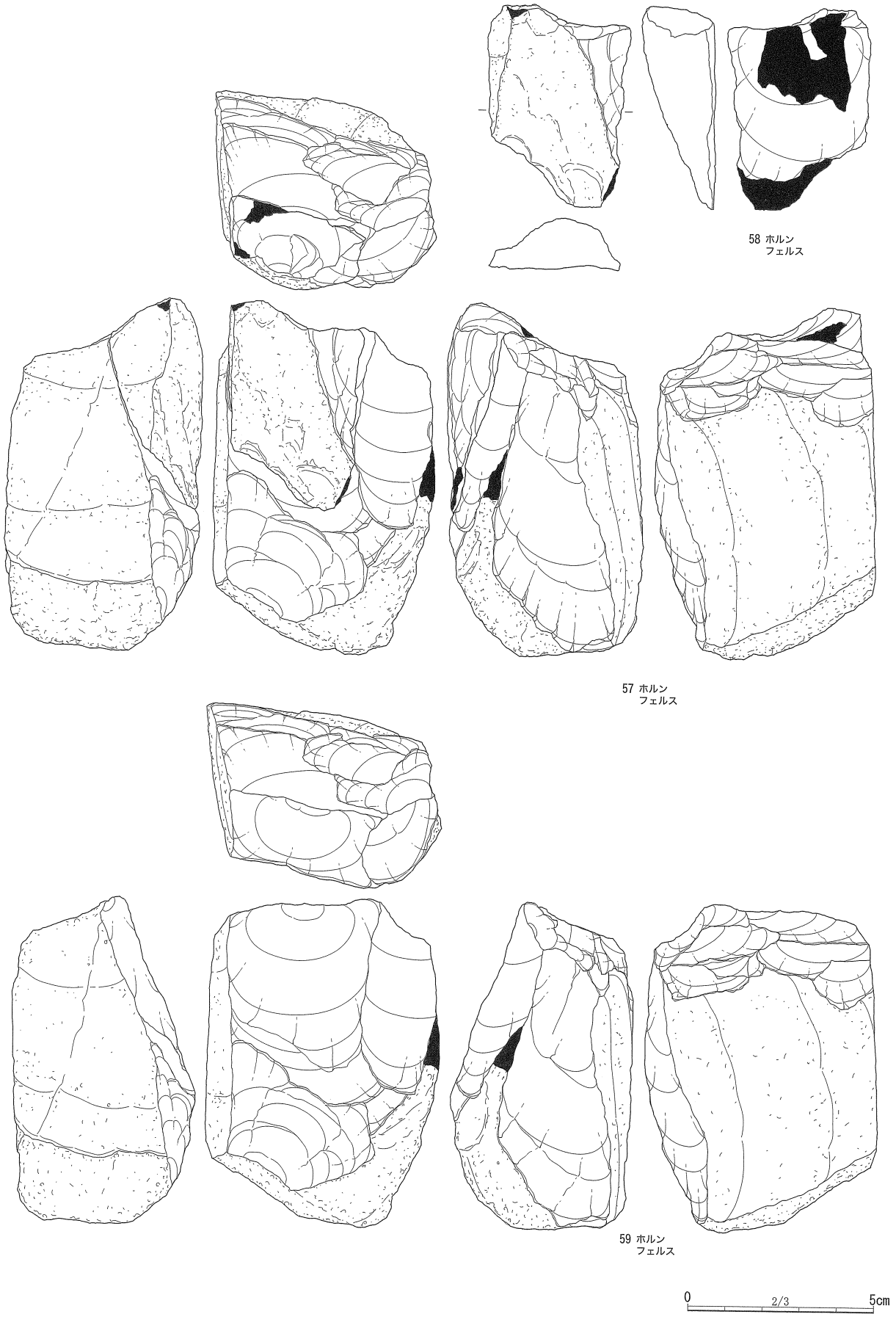




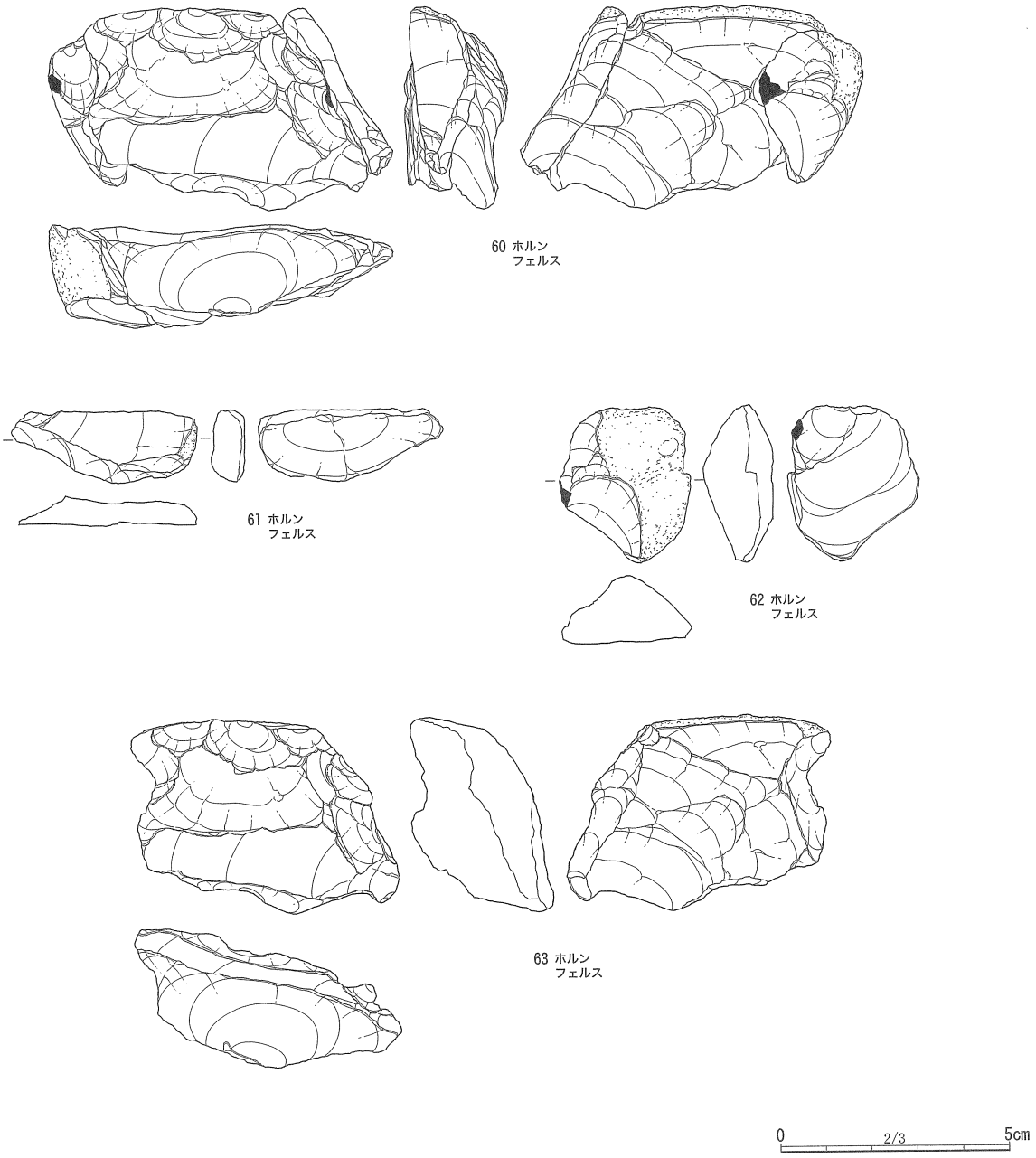




第83図　第Ⅱ文化層の石器群（8）



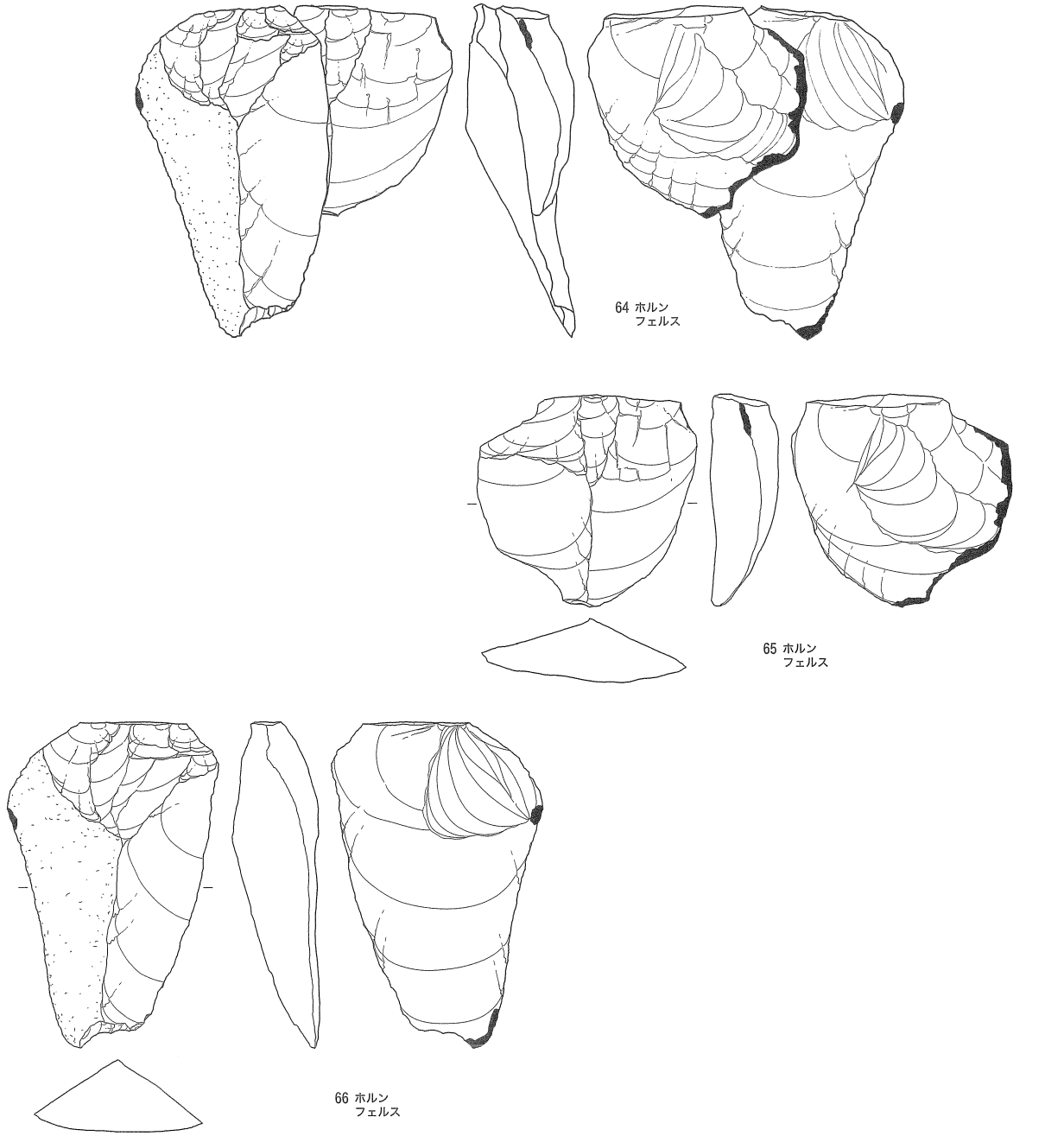
第84図　第Ⅱ文化層の石器群（9）



第85図　第Ⅱ文化層の石器群（10）

63)。大型剥片の腹面を中心に半求心剥離し小型剥片を得ている。石器集中6に含まれる。

64はBBⅢで検出されたホルンフェルス製剥片2点（65，66）の接合資料である（接合52)。自然面の残る石核から中・大型の剥片を連続的に剥離する。石器集中5と8に跨がって分布する。

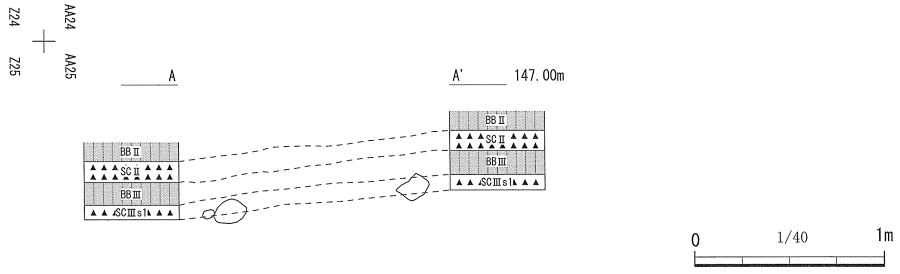


第86図　第Ⅱ文化層の石器群（11）

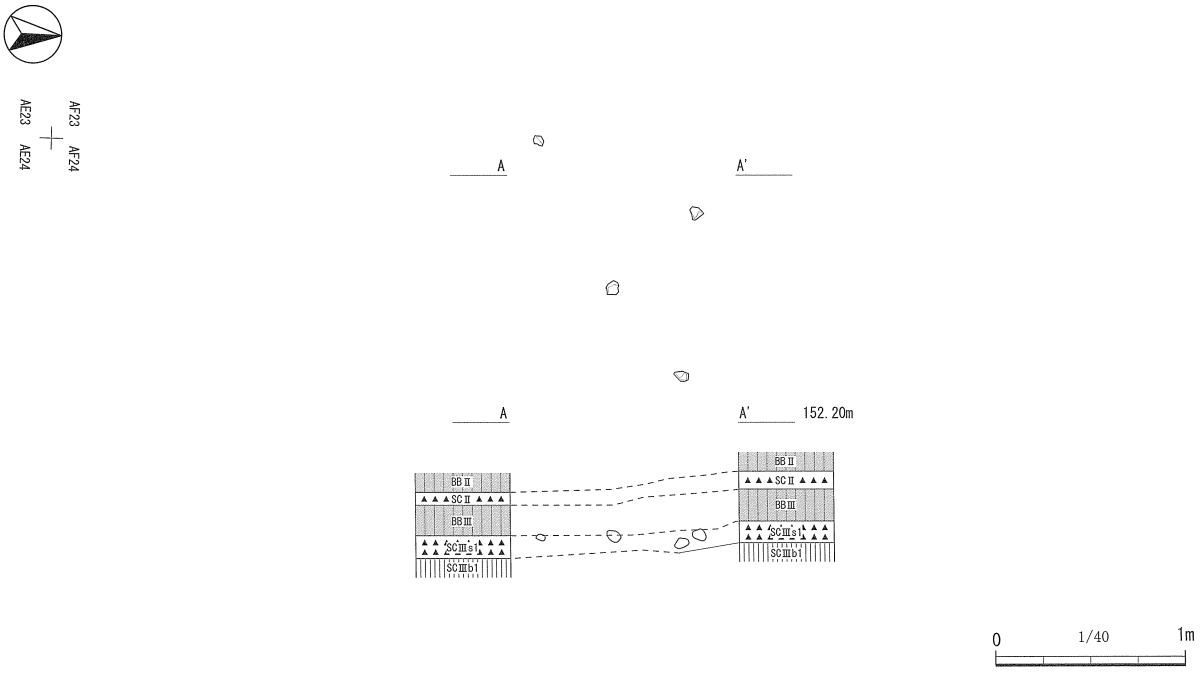
３．礫群（第87-89図）

調査区の東部で2基確認された。主要な包含層はどちらもSCⅢs1である。分布図（第87図）にも示されているように、西部のL0・1グリッドでも礫集中が確認されたが、100ｇ以下の小礫が散在し、大型礫のまとまった出土がみられなかった。石器集中5-8とよく重なっていることから両者の関連は濃厚と思われるが、こちらは遺構として扱わなかった。

第87図　第Ⅱ文化層　礫分布



第88図　第Ⅱ文化層　18号礫群



第89図　第Ⅱ文化層　20号礫群

第90図　第Ⅱ文化層　その他の石器と礫分布

18号礫群（第88図）

AA24グリッドのSCⅢs1で検出された。3点で構成される。周囲にも数グラムから10数グラム程度の小礫が散在しており、関連があると思われる。この分布域はちょうど石器集中2-4のそれと重なるため、石器群の帰属層位の目安とした。

20号礫群（第89図）

AF24グリッドのSCⅢs1で検出された。4点で構成される。石器群との重なりはない。

第３節　第Ⅲ文化層
(第Ⅲ黒色帯を中心とする遺構と遺物)

概要

調査区南西部のJ3・4グリッドに分布する（第91図)。BBⅢを中心に包含される。総点数は108点で、1箇所の石器集中（石器集中10）を構成する（表14)。礫群は検出されなかった。構成器種は鋸歯縁削器2点、二次加工剥片1点、二次加工石刃1点、細石刃1点、剥片59点、砕片42点、石核1点である。構成石材は天城柏峠産黒曜石93点、諏訪星ヶ台産黒曜石8点、測定/推定不可黒曜石7点である。第Ⅱ文化層の石器集中が全てホルンフェルスであったことと対照的である。天城柏峠産黒曜石が第1石材となるこの様相は愛鷹・箱根地域の第Ⅲ黒色帯期における一般的特徴である。

１．石器集中（第92・93図、表14)

石器集中10

主として天城柏峠産黒曜石の消費によって形成される。一部に小型縦長剥片の連続剥離過程がみとめられるが、一般的剥片の剥離過程とは分かちがたい。削器類や微細剥離痕の残る剥片が共伴する。剥片類の扱いは定かでないが、便宜的な使用に供する加工具類の生産・使用が主体だったと推定される。石器組成は第Ⅲ文化層のそれと同じである。

表14　第Ⅲ文化層　石器集中10　石器組成

	黒曜石			
	諏訪星ヶ台	天城柏峠	測定/推定不可	計
鋸歯縁削器	1	1		2
二次加工剥片	1			1
二次加工石刃		1		1
微細剥離痕剥片		1		1
剥片	3	55	1	59
細石刃		1		1
砕片	3	33	6	42
石核		1		1
計	8	93	7	108

２．出土石器の検討（第94・95図)

削器類（69・70)

69はBBⅢで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の鋸歯縁削器である。背面に大きく自然面が付いた一般的剥片の打面と両縁辺に鋸歯状の剥離を施して刃部を作出する。端部は折れている。

70は天城柏峠産黒曜石製の剥片1点（72）と鋸歯縁削器1点（71）の接合資料である（母岩AGKT4、接合113)。自然面で覆われた板状原石の1辺に数回加撃して鋸歯状の刃部を作出する。

二次加工剥片（67)・**二次加工石刃**（68)

67はBBⅢで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の二次加工剥片である。

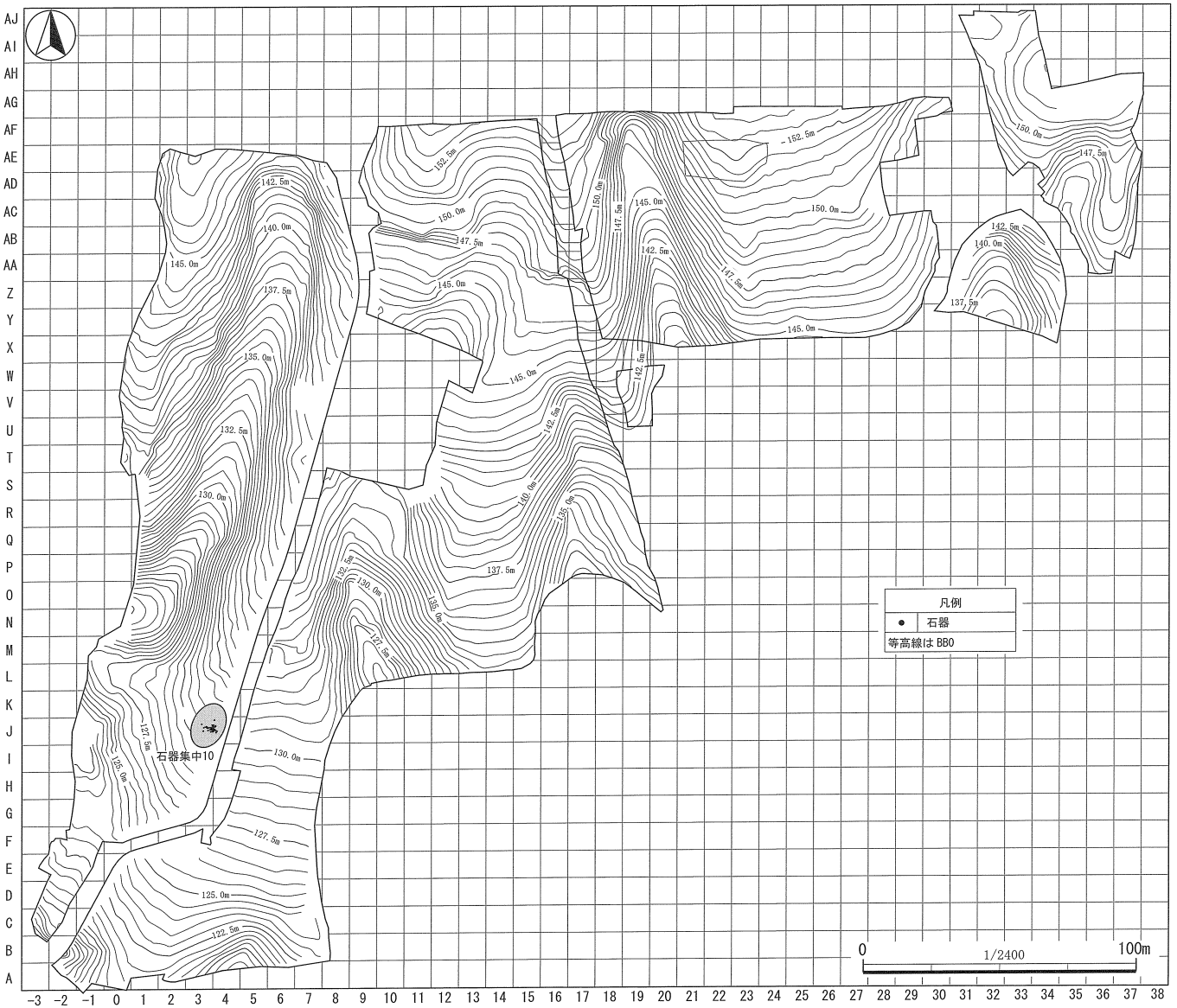
68はBBⅢで検出された天城柏峠産黒曜石製の二次加工石刃である。自然面付き石刃の打面側に急角度な剥離を施して切り取る。末端が折れているので全体形状は不明である。

微細剥離痕剥片（73)

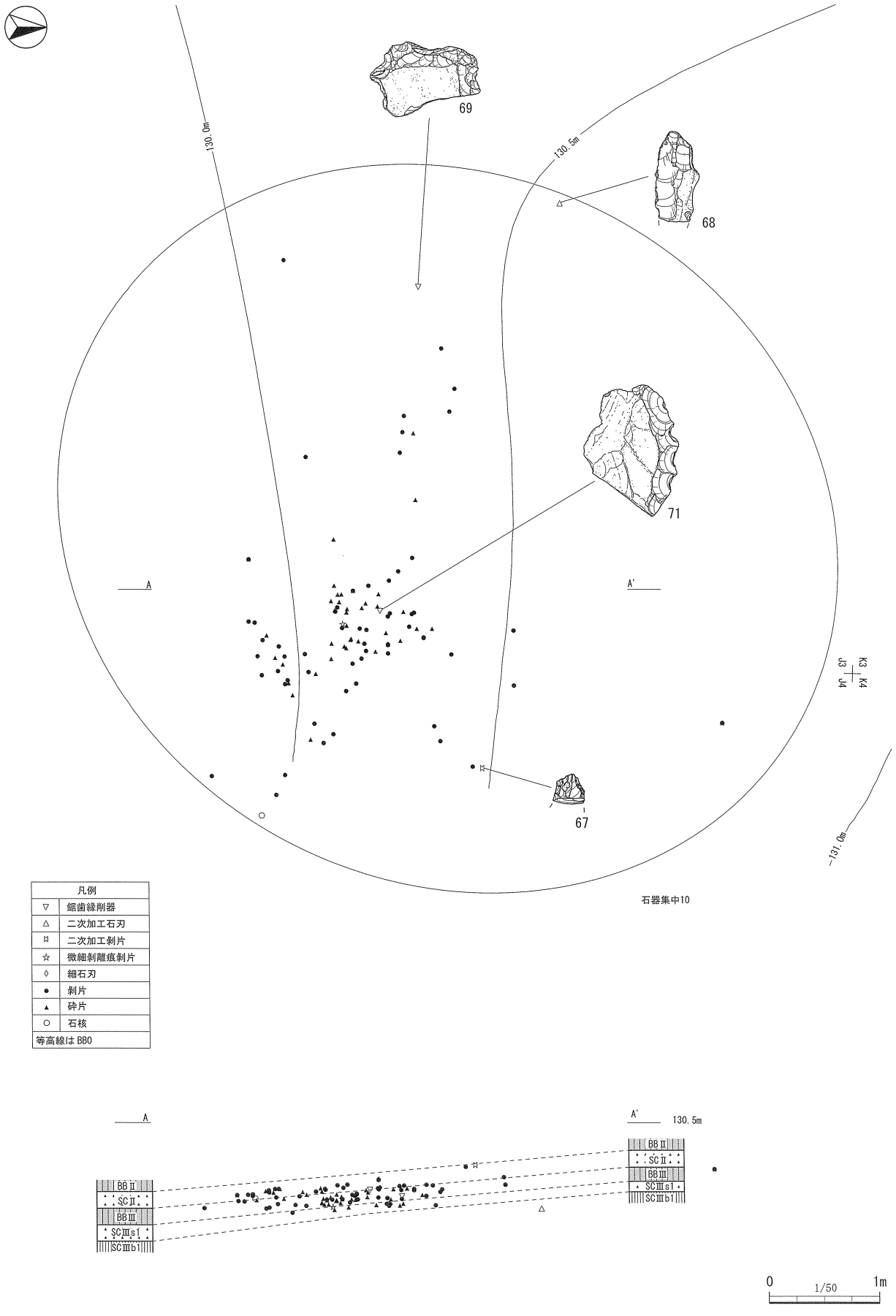
73はBBⅢで検出された天城柏峠産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。

細石刃（74)

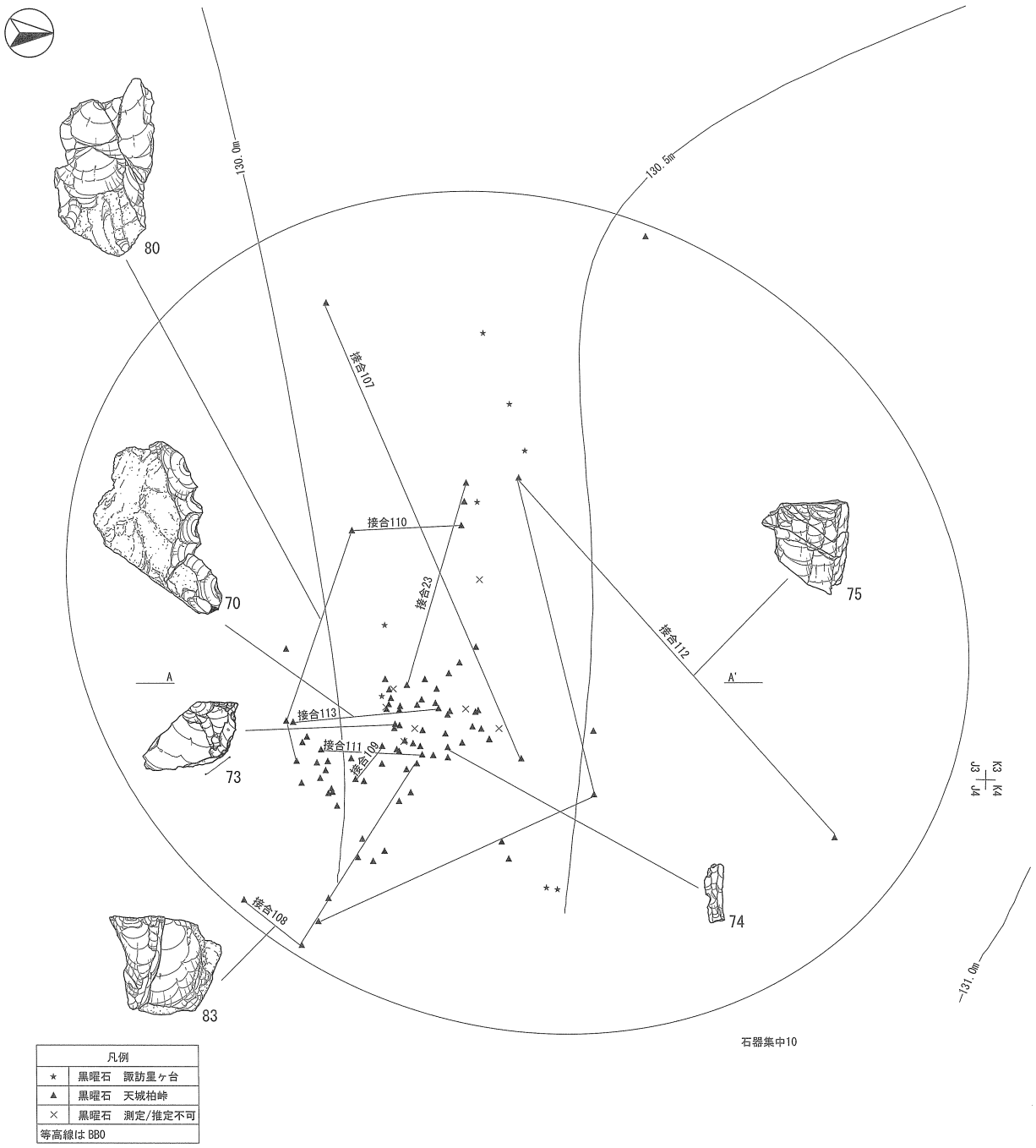
74はBBⅢで検出された天城柏峠産黒曜石製の細石刃である。背面中央の剥離面が細かく波打っており、押圧剥離による組織的な細石刃剥離過程で生産するものではなく、おそらく石刃剥離過程中の偶発的な生産物と推測される。

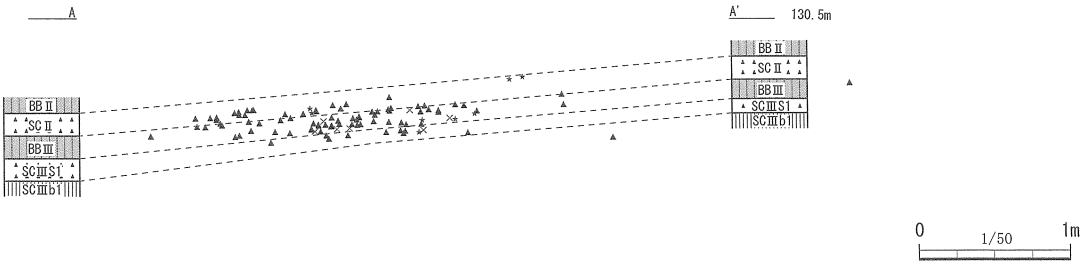


第91図　第Ⅲ文化層　石器分布

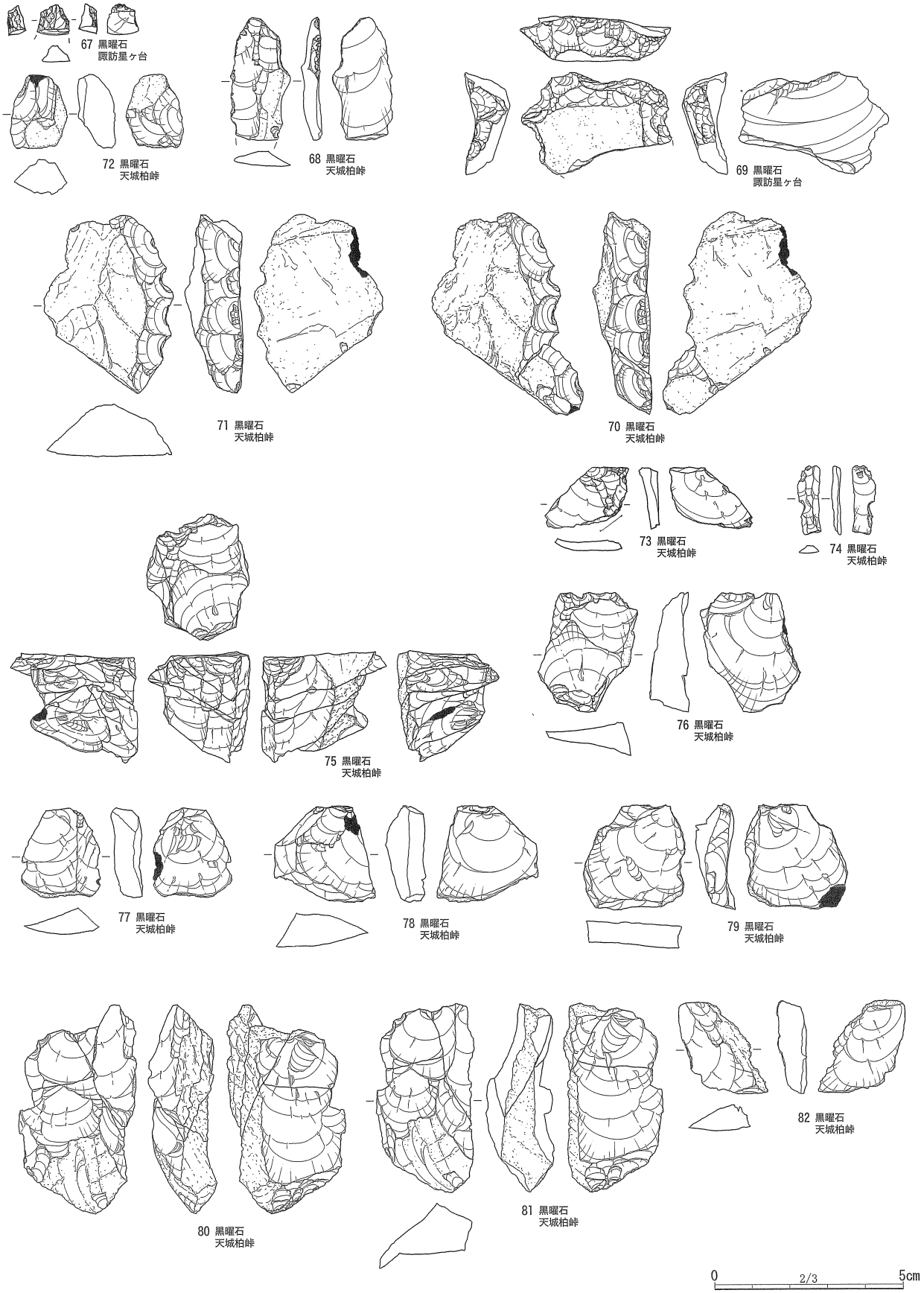


第92図　第Ⅲ文化層　石器集中10　器種別分布

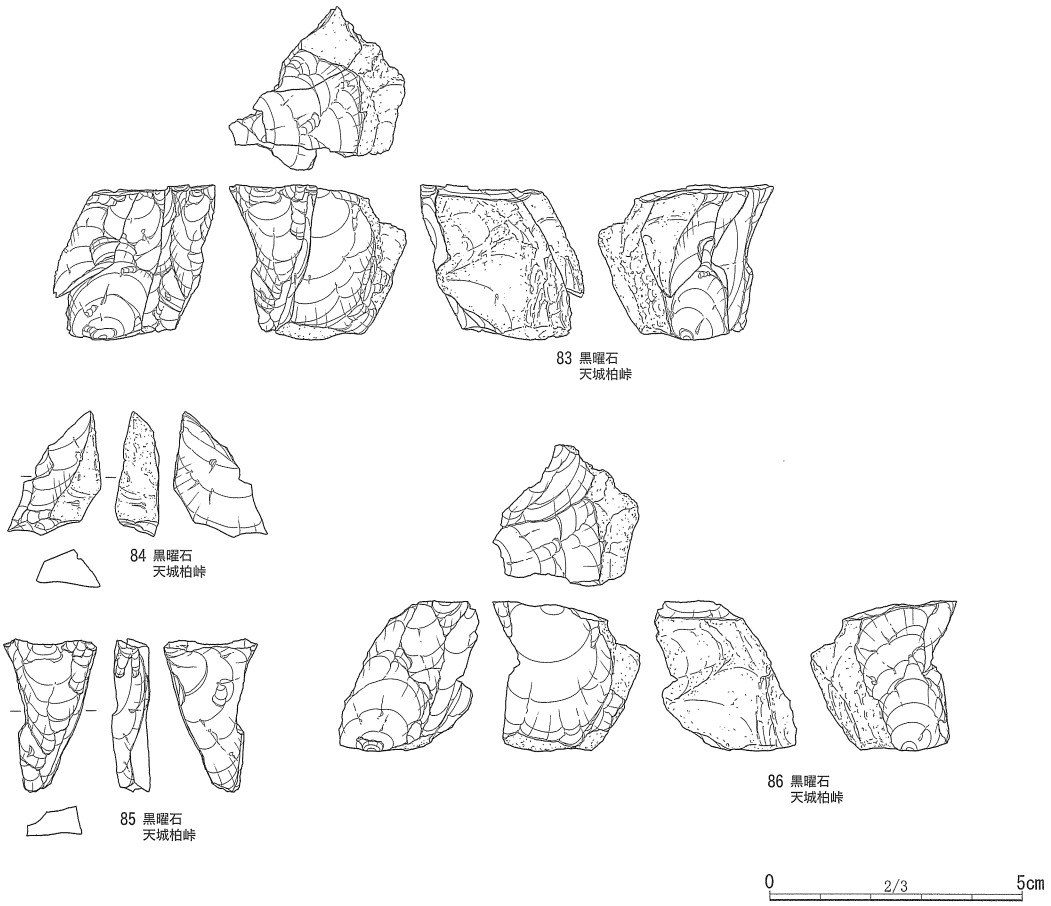




第93図　第Ⅲ文化層　石器集中10　石材別分布



第94図　第Ⅲ文化層の石器群（1）



第95図　第Ⅲ文化層の石器群（2）

接合資料（70-72・75-86）

70はBBⅢで検出された天城柏峠産黒曜石製削器と剥片の接合資料である（接合113）。刃部を作出する際に排出された剥片（72）が鋸歯状刃部を有する削器（71）に接合した。素材は小型の原石である。同石器集中内では、72のほかにも形態の類似する剥片が検出されている。この場所で、原石搬入から、刃部作出、使用、廃棄までの一連の工程が行われたことを示している。

75はBBⅢで検出された天城柏峠産黒曜石製剥片4点（76，77，78，79）の接合資料である（接合112）。小型石核の打面再生剥片が数枚重なった状態に接合した。小型縦長剥片の連続剥離に伴う工程と推測される。

80はBBⅢで検出された天城柏峠産黒曜石製剥片4点（81，82）の接合資料である（接合110）。小型角礫の稜とその付近で小型縦長剥片を連続剥離する。剥片末端に見られる複数の小型剥離痕は二次的ではない。

83はBBⅢで検出された天城柏峠産黒曜石製剥片2点（84，85）と石核1点（86）の接合資料である（接合108）。小型石核の相対する部分に打面を設定して、連続的に小型剥片をとる。

第４節　第Ⅳ文化層
（第Ⅱ黒色帯上部を中心とする遺構と遺物）

概要

AI32グリッドのBBⅡ上部を中心に石器群が検出された（第96図）。石器42点で構成され、2箇所の石器集中を主体とする（表15）。礫群は検出されなかった。第1石材はホルンフェルスで（39点）、珪質頁岩、輝石安山岩、和田土屋橋西と推定された黒曜石がそれぞれ単体で組成する。ホルンフェルスを第1石材とする小規模な石器集中が形成されるのは愛鷹・箱根地域の第Ⅱ黒色帯期における一般的特徴である。

１．石器集中（第97図）

集中密度の高い2箇所、石器集中11・12を抽出した。隣り合った集中部であるが、接合関係がなく、相互の関連は不明である。

石器集中11（第98・99図、表16）

AI32グリッドに分布する。中心となる包含層はBBⅡ上部である。垂直分布図ではBBⅡ中部に安定しているように見えるが、これは傾斜する地形を正面から投影しているためで、実際にはNL下部にも及んでいたはずである。

構成石器は15点である。石材はすべてホルンフェルスである。石刃1点と剥片14点が組成し、接合資料3群がある（接合40-42）。

石器集中12（第100・101図、表17）

AI32グリッドに分布する。石器集中11と隣り合う。中心となる包含層はBBⅡ上部である。

構成石器は20点である。第1石材はホルンフェルスで、珪質頁岩と輝石安山岩がそれぞれ1点である。ホルンフェルスには石刃3点と剥片15点が組成し、接合資料が2群ある（接合36・44）。自然面付きの大型剥片が組成することから、消費の前半段階にある石核の搬入が想定される。石刃生産も行ったとみられる。しかし石核はみられず、ある程度の剥離を行った後に搬出されたと推測される。

珪質頁岩は近傍で産出するもので、色調は灰色で、チャートによく見られるような白色の細い脈が多い。剥離のコントロールが難しいためか、石刃生産に供されることは稀である。

表15　第Ⅳ文化層　石器組成

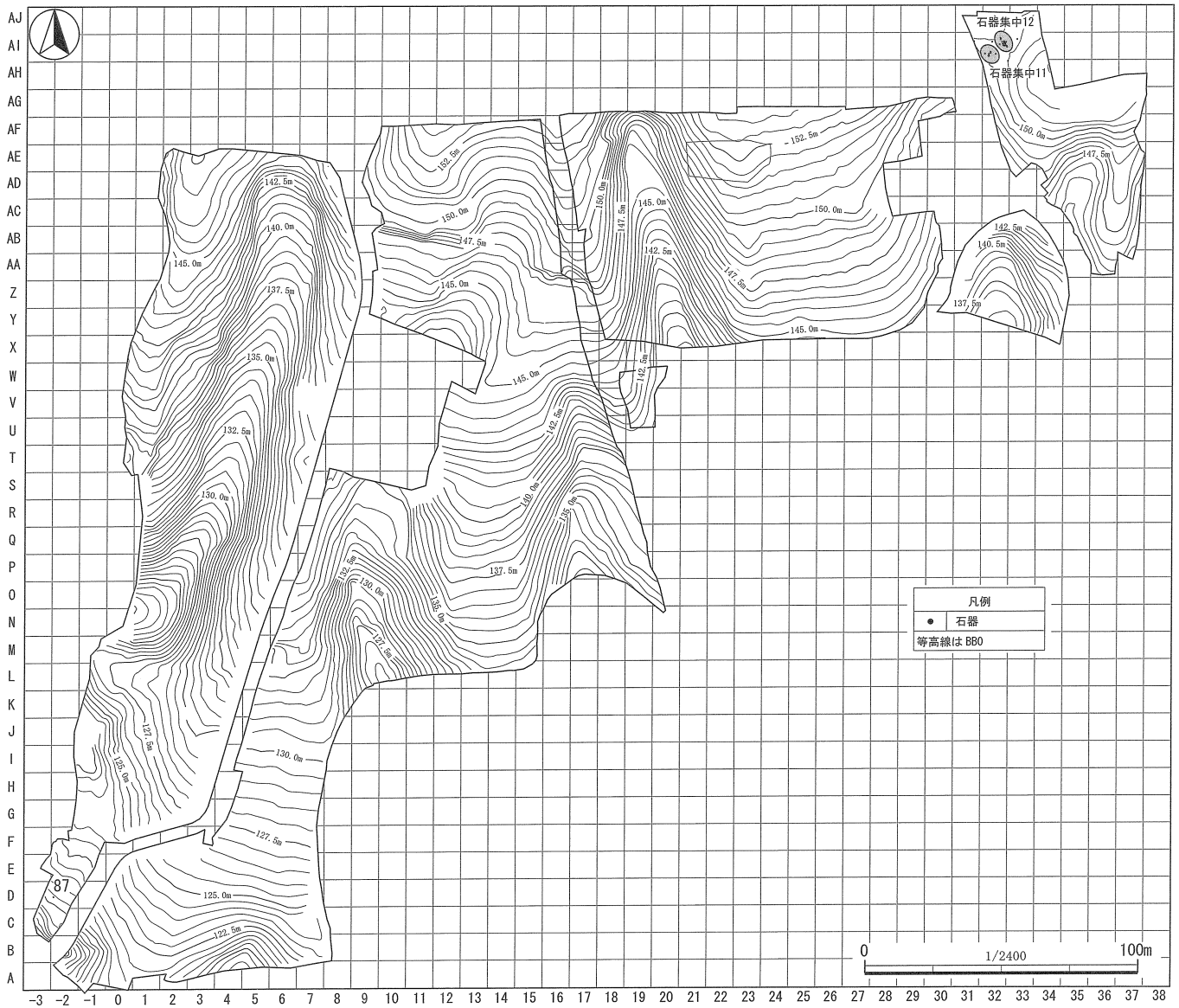
	黒曜石 和田土屋橋西	輝石 安山岩	珪質頁岩	ホルン フェルス	計
削器			1		1
石刃				4	4
剥片				35	35
楔形石器	1				1
台石		1			1
計	1	1	1	39	42

表16　第Ⅳ文化層　石器集中11　石器組成

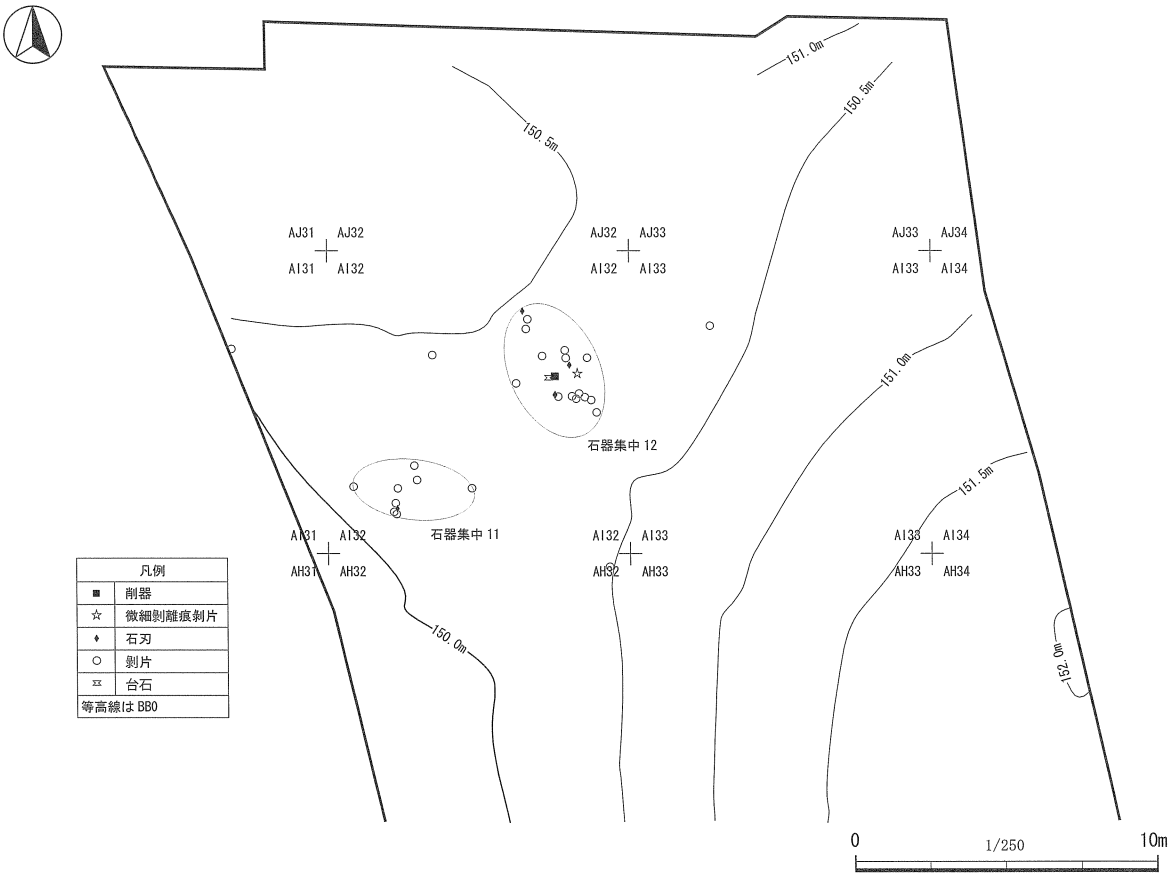
	ホルンフェルス	計
石刃	1	1
剥片	14	14
計	15	15

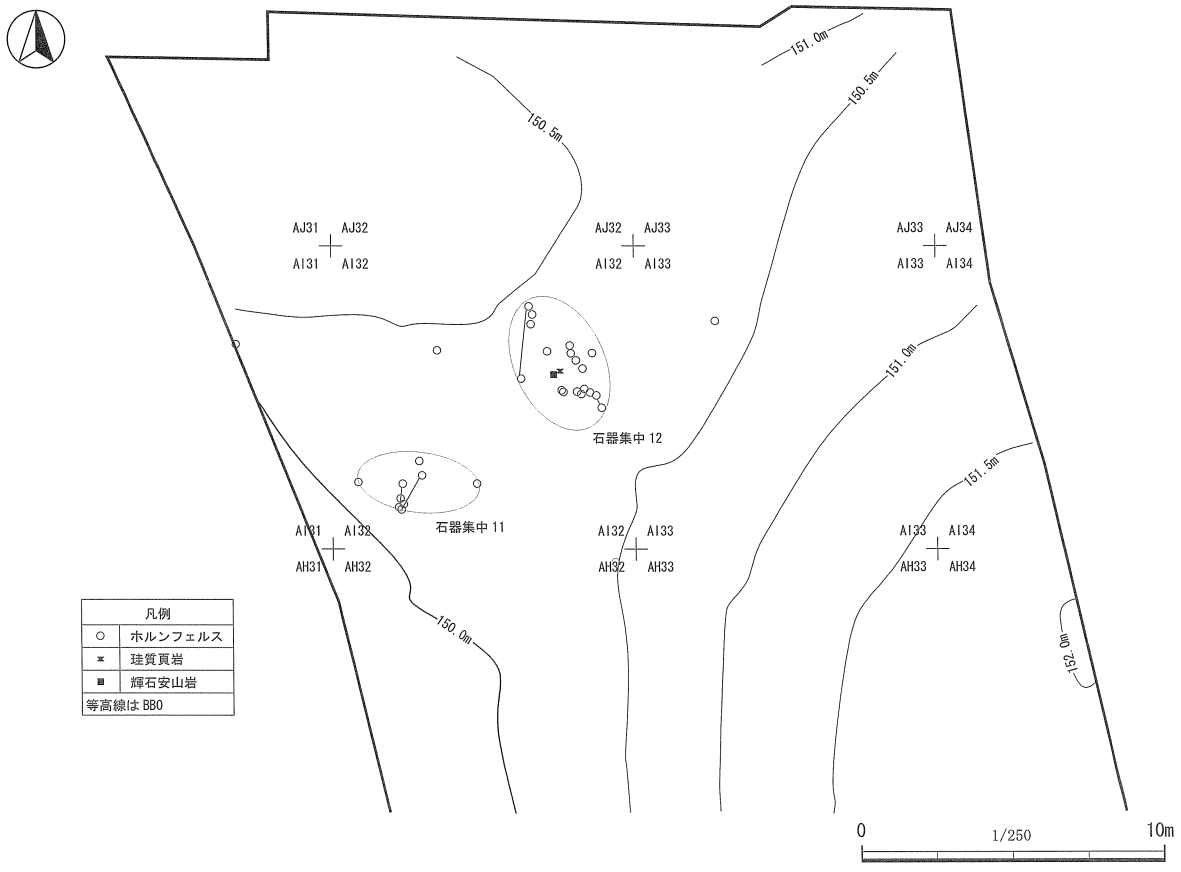
表17　第Ⅳ文化層　石器集中12　石器組成

	輝石安山岩	珪質頁岩	ホルン フェルス	計
削器		1		1
石刃			3	3
剥片			15	15
台石	1			1
計	1	1	18	20

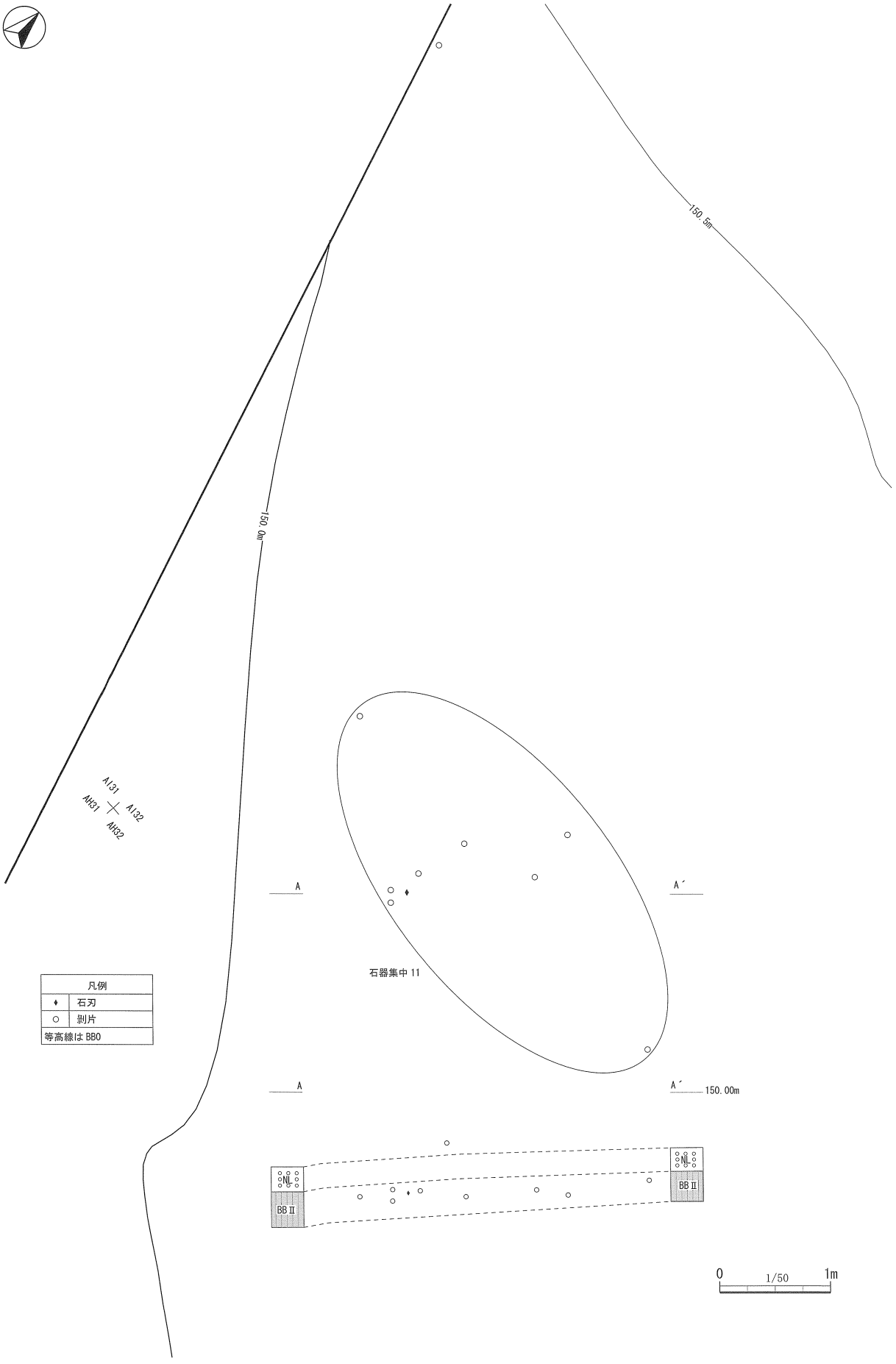


第96図　第Ⅳ文化層　石器分布

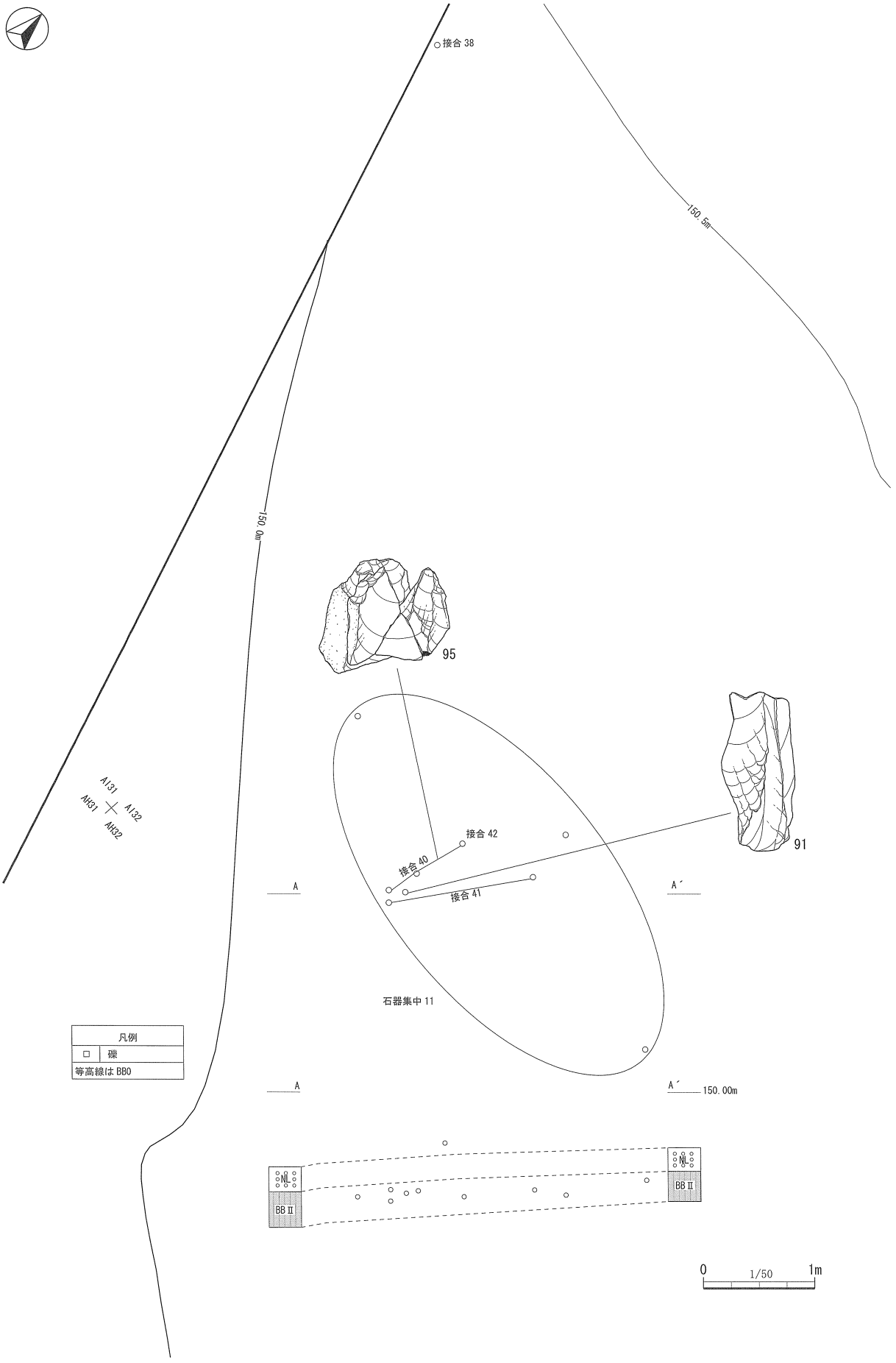




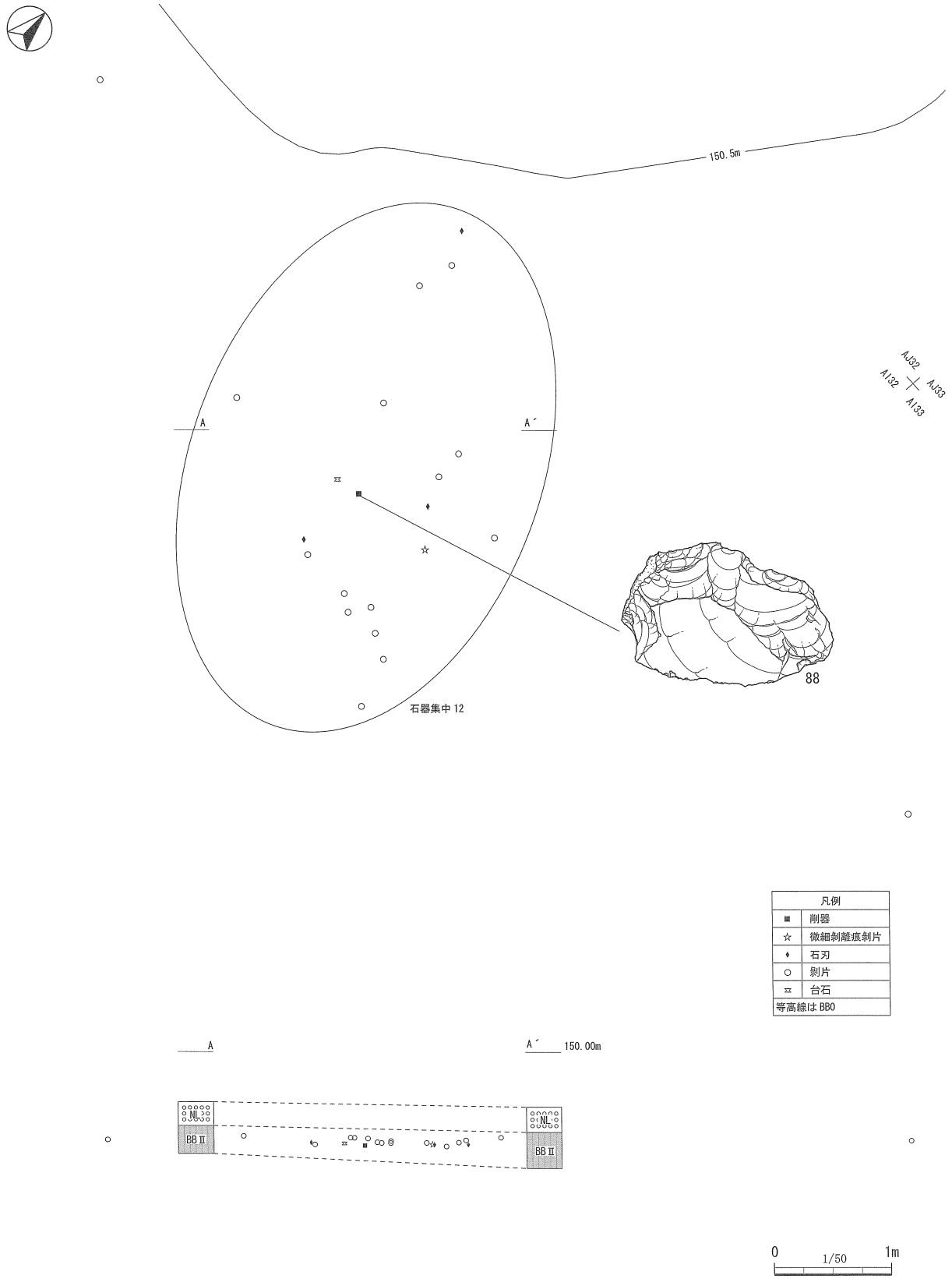
第97図　第Ⅳ文化層　器種別分布（上）　石材別分布（下）



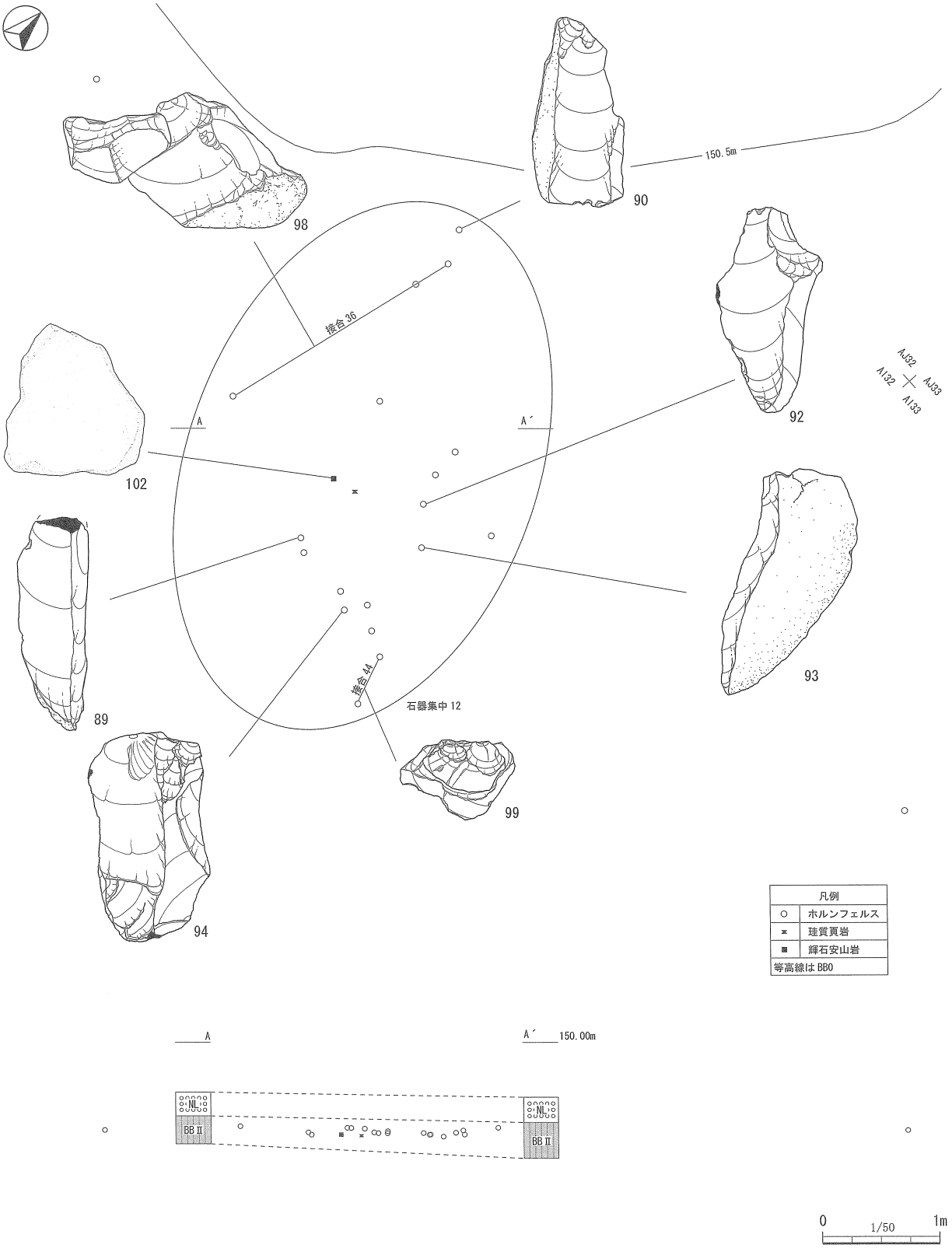
第98図　第Ⅳ文化層　石器集中11　器種別分布



第99図　第Ⅳ文化層　石器集中11　石材別分布



第100図　第Ⅳ文化層　石器集中12　器種別分布



第101図　第Ⅳ文化層　石器集中12　石材別分布

２．出土石器の検討（第102・103図）

楔形石器（87）

87はBBⅡで検出された和田土屋橋西産黒曜石製の楔形石器である。両極剥離を加える。台形様石器の二次加工にもみえるが、破損しているので判別できない。

端削器（88）

88はBBⅡで検出された珪質頁岩製の端削器である。大型剥片の打面部を大きく腹面剥離し、また、左縁辺端部表面を深く剥離して、器体を整形、または何らかの素材剥片を剥離する。端部縁辺に不規則な微細剥離痕が連続する。

石刃（89-92）

89はBBⅡで検出されたホルンフェルス製の石刃である。打点から縦に半割しているが、これは剥片剥離時のものと推測される。打面部が節理ではがれている。

90はBBⅡで検出されたホルンフェルス製の石刃である。薄手で比較的大型だが自然面を大きく取り込んでいるなど、形態的な安定性を欠く。

91はBBⅡで検出されたホルンフェルス製の石刃である。背面中央の剥離面の剥離方向が主剥離面のそれと異なるので、あるいは連続的な石刃生産過程中に剥離されたものではないかもしれない。

92はBBⅡで検出されたホルンフェルス製の石刃である。

微細剥離痕剥片（93）

93はBBⅡで検出されたホルンフェルス製の微細剥離痕剥片である。自然面の大きく残る縦長剥片の裏面の微細な剥離痕が連続する。

剥片（94）

94はBBⅡで検出されたホルンフェルス製の剥片である。長幅比が2対1以上ないが石刃の連続剥離過程中にとられたものと推測される。

台石（102）

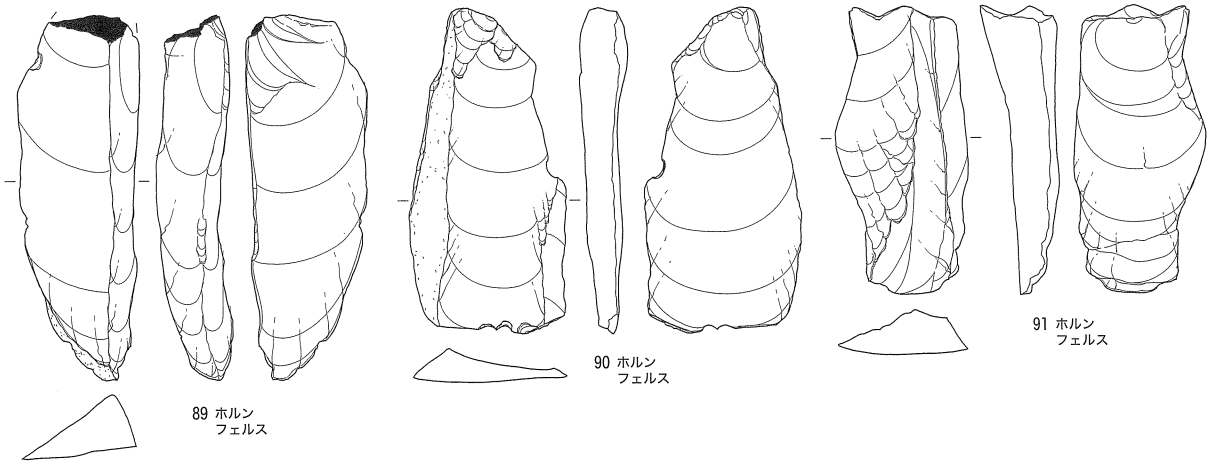
102はBBⅡで検出された輝石安山岩の台石である。板状礫素材で両面が平滑である。目立った敲打痕は観察されなかったので技術形態的には分類しがたかったが、全体形状や石器製作地点に近い出土状況から機能的に台石とした。

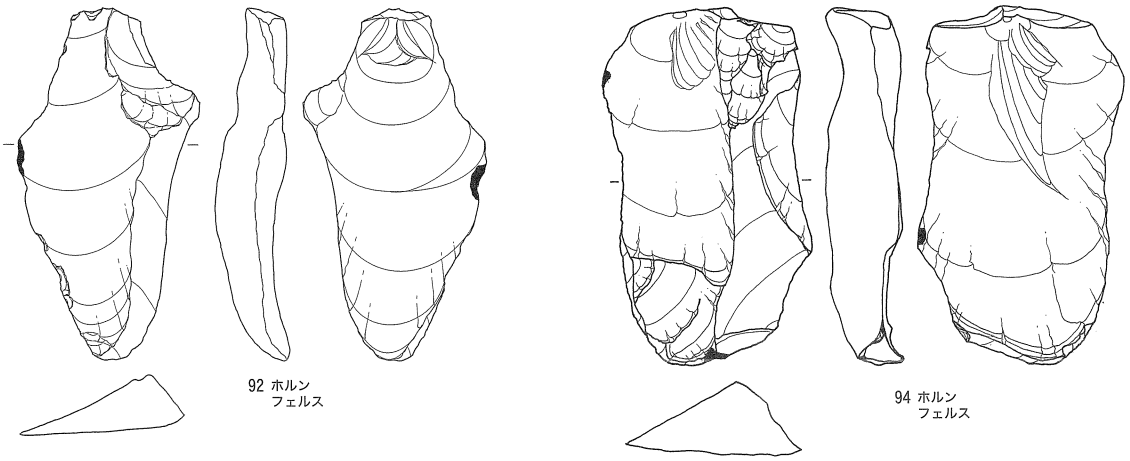
接合資料（95-101）

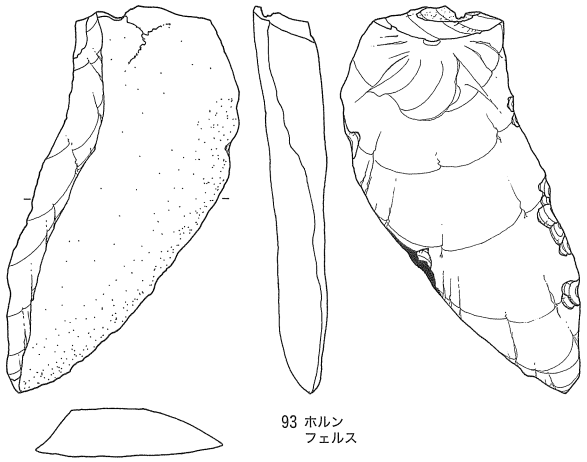
95はBBⅡで検出されたホルンフェルス製剥片4点（96，97）の接合資料である（接合40）。96は剥離後におそらく堆積過程で3つに割れたもので、97はその後に剥離されたものである。

98はBBⅡで検出されたホルンフェルス製剥片2点の接合資料である（接合36）。幅広剥片を連続的に剥離している。

99はBBⅡで検出されたホルンフェルス製剥片2点（100，101）の接合資料である（接合44）。大型剥片のバルブを剥離したものとみられる。

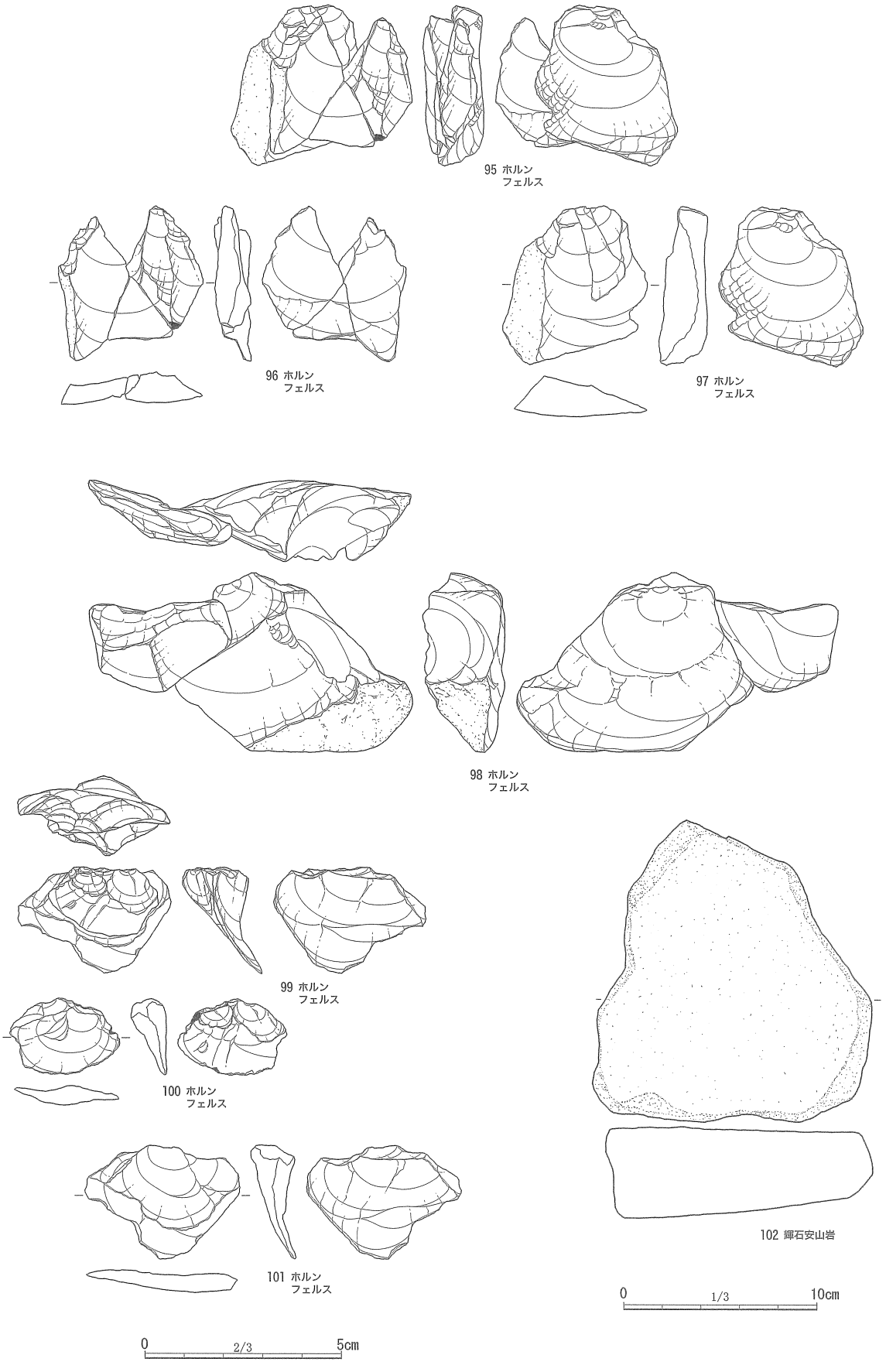






0　2/3　5cm

第102図　第Ⅳ文化層の石器群（1）



第103図　第Ⅳ文化層の石器群（2）

第５節　第Ⅴ文化層
（ニセローム層下部を中心とする遺構と遺物）

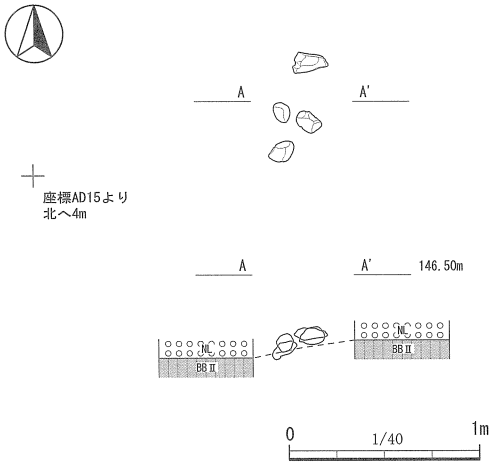
概要

ニセローム層下部で礫群が検出された（第105図）。石器は検出されなかった。

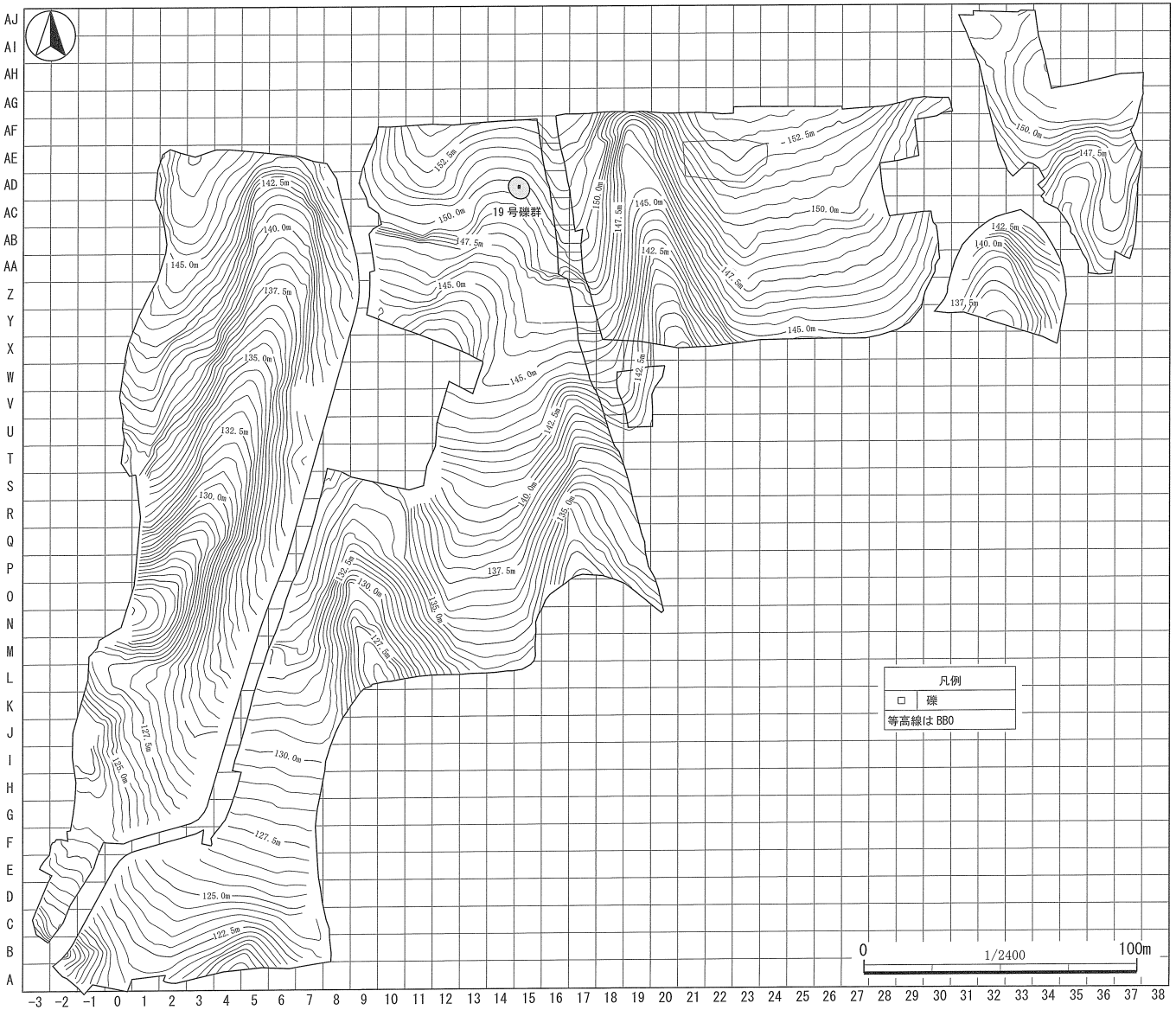
礫群（第104図）

19号礫群

NL下部で検出された。4点で構成される。



第104図　第Ⅴ文化層　19号礫群



第105図　第Ⅴ文化層　礫分布

第６節　第VI文化層
（第Ｉ黒色帯を中心とする遺構と遺物）

概要

AF17グリッドのBBⅠを中心に石器群が検出された（第106図）。石器15点で構成され（表18）、1箇所の石器集中を主体とする。また、石器集中から遠くはなれたB7グリッドで礫群1基が検出された。

表18　第VI文化層　石器組成

	黒曜石							
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	箱根畑宿	測定/推定不可	ガラス質黒色安山岩	粗粒砂岩	ホルンフェルス	計
剥片	1	2	3	1	1	1	2	11
砕片			2	1				3
石核							1	1
計	1	2	5	2	1	1	3	15

器種構成は剥片11点、砕片3点、石核1点である。石材構成は、箱根畑宿産黒曜石5点、諏訪星ヶ台産黒曜石1点、蓼科冷山産黒曜石2点、測定/推定不可の黒曜石2点、ガラス質黒色安山岩1点、ホルンフェルス3点、粗粒砂岩1点である。

１．石器集中（第107図、表19）

石器集中13（第107図、表19）

AF17グリッドに分布する。剥片4点、砕片3点の計7点で構成される。石材は箱根畑宿産黒曜石5点、測定/推定不可の黒曜石2点である。後者は外見上箱根畑宿産と思われる。剥片・砕片はいずれも小さい。単純な加工作業を僅かに行っただけのようである。

表19　第VI文化層　石器集中13　石器組成

	黒曜石		計
	箱根畑宿	測定/推定不可	
剥片	3	1	4
砕片	2	1	3
計	5	2	7

なお、分布図上では6点にみえるが、最も北に位置する点に石器2点が重なっているためである。

２．出土石器の検討（第108図）

石器集中13には実測すべき石器が含まれていなかったため、集中外の石器2点を図示した。

剥片（103）

103はBBⅠで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製剥片である。末端に自然面が残る縦長剥片である。打点は点状である。

石核（104）

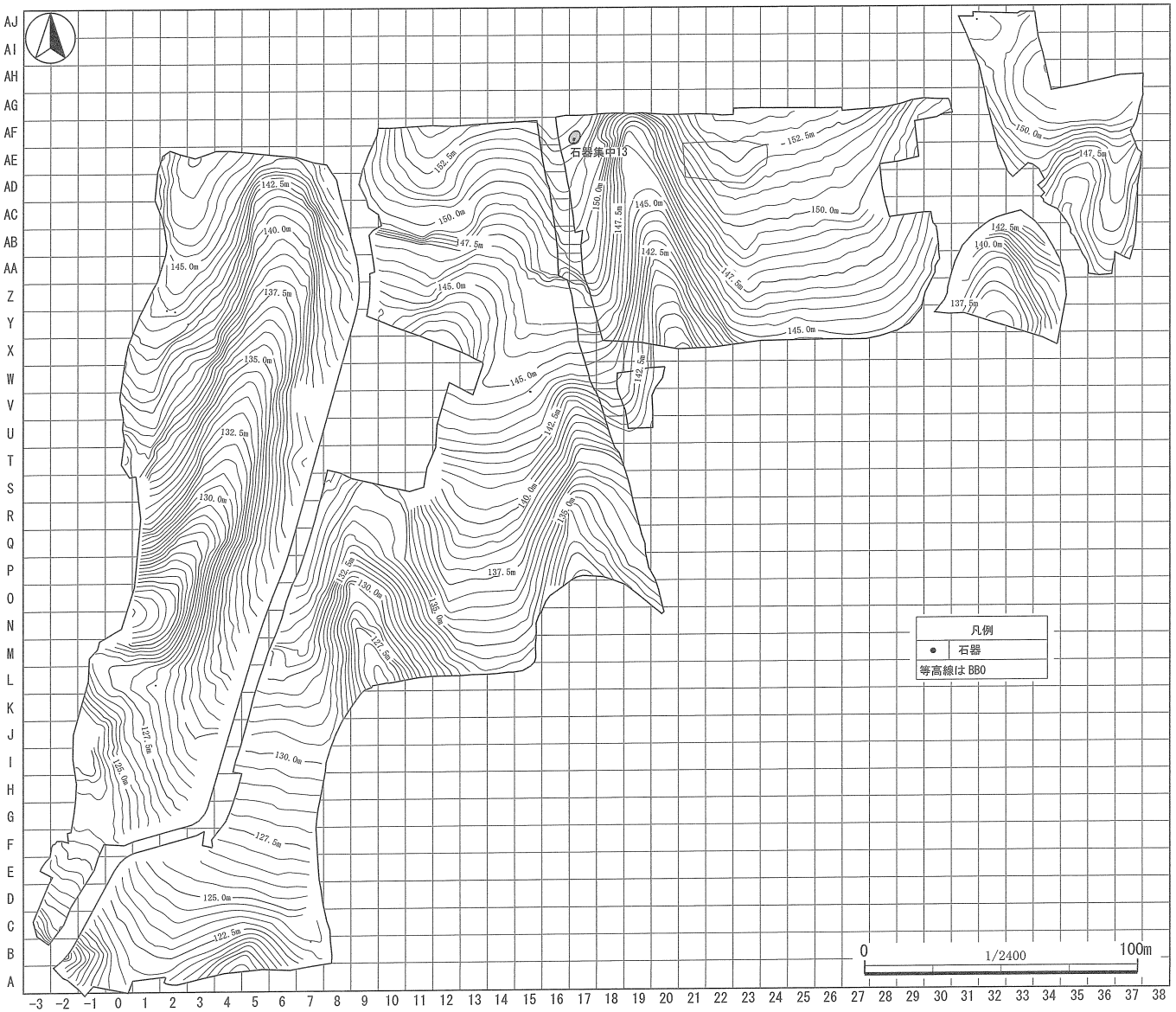
104はBBⅠで検出されたホルンフェルスの石核である。小型亜円礫を交互剥離し小型剥片を生産する。

３．礫群（第109・110図）

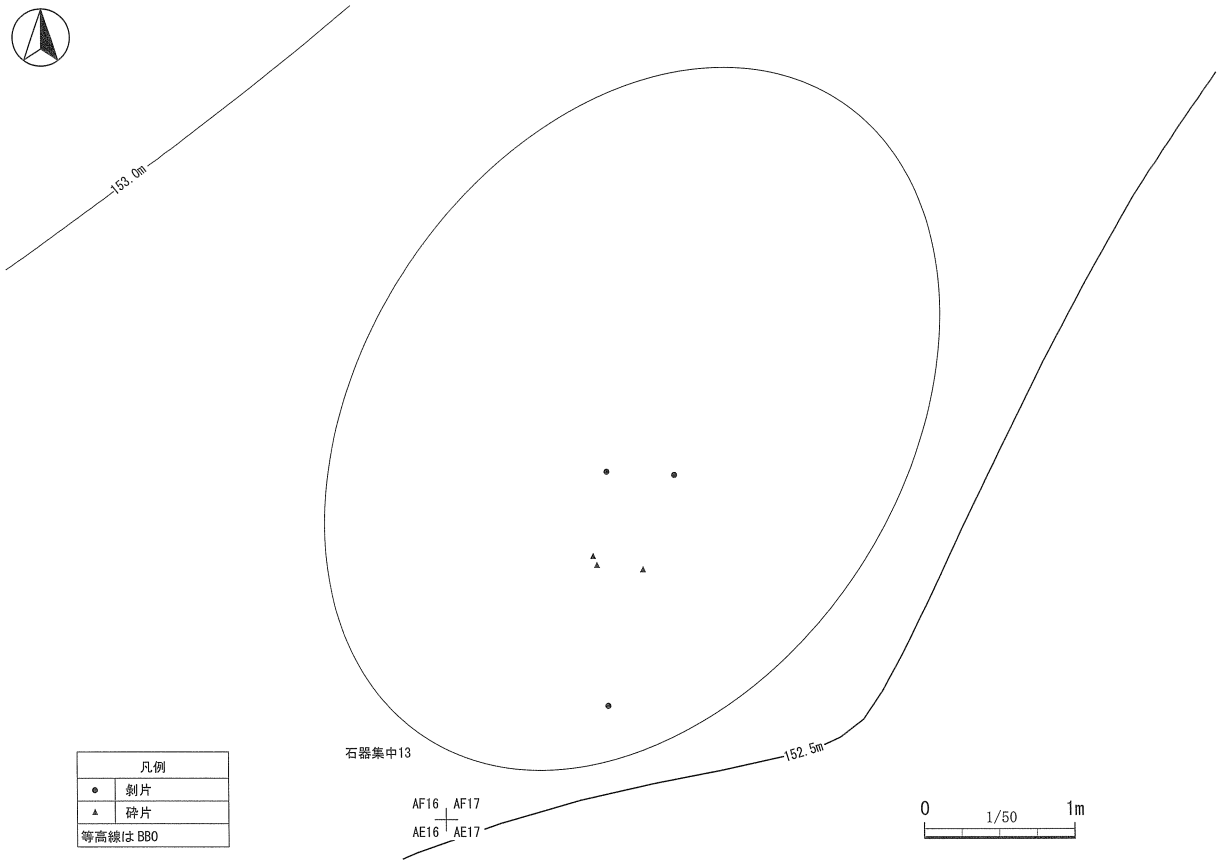
B7グリッドに礫群1基が分布する。

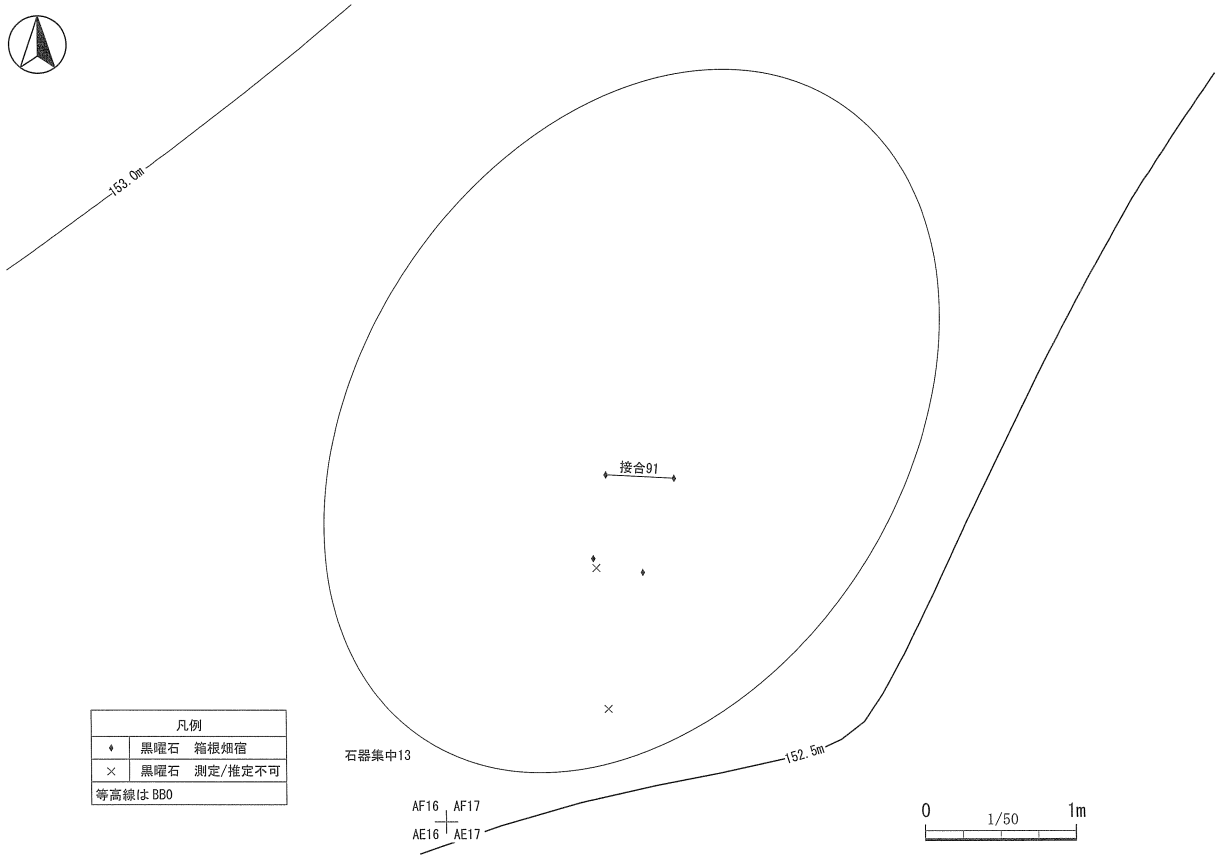
2号礫群（第109図）

BBⅠ下部を中心に検出された。礫14点で構成される。比較的大型の礫で構成される西側の2群（6点と5点）にくらべて、より東側の1群（3点）はSCⅠにかかっている。後者は年代的には新しい可能性がある。

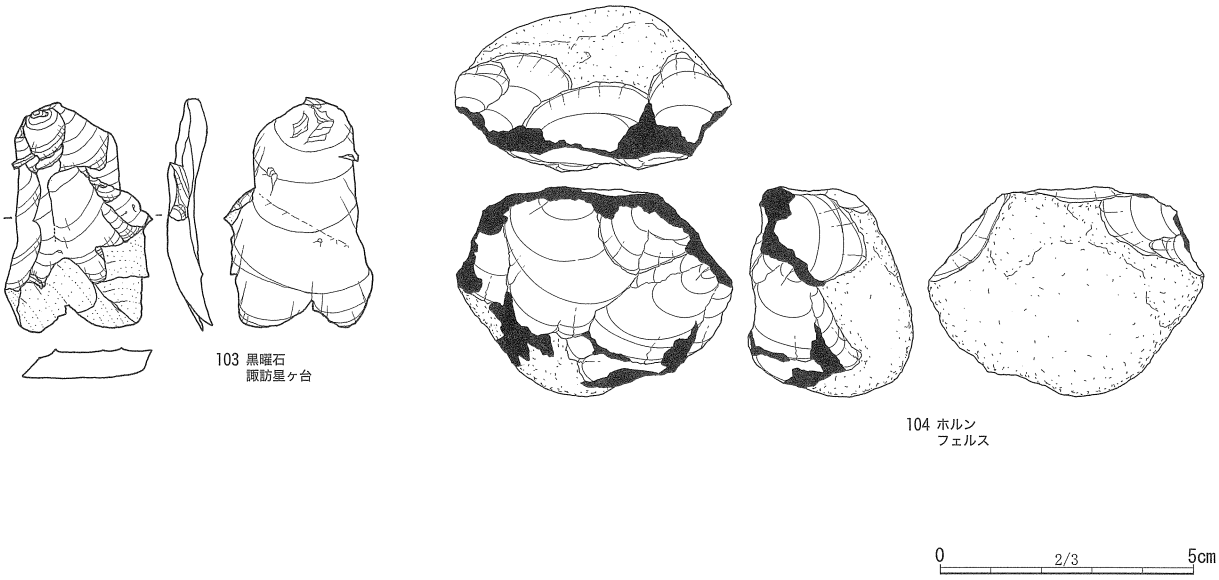


第106図　第Ⅵ文化層　石器分布

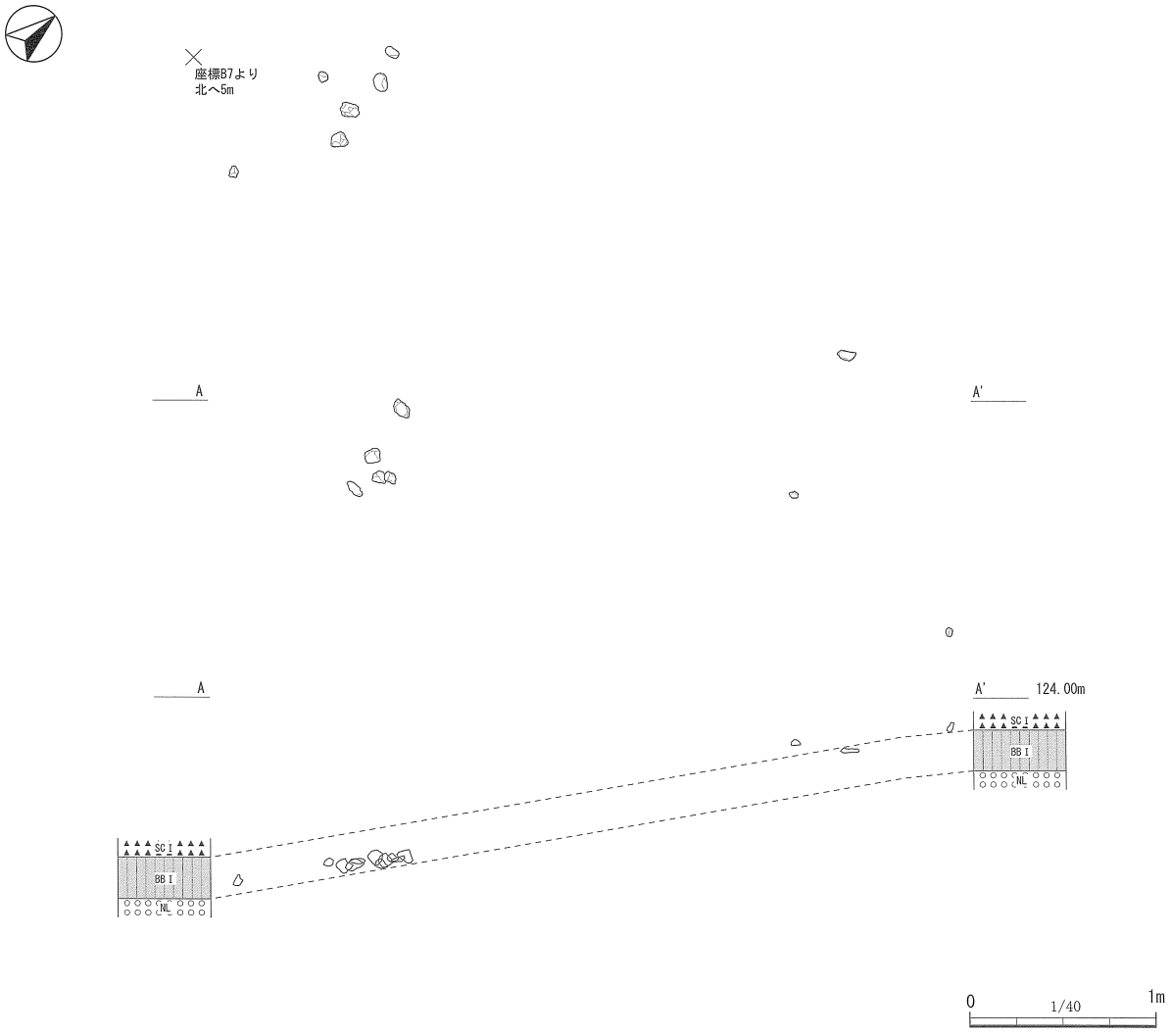




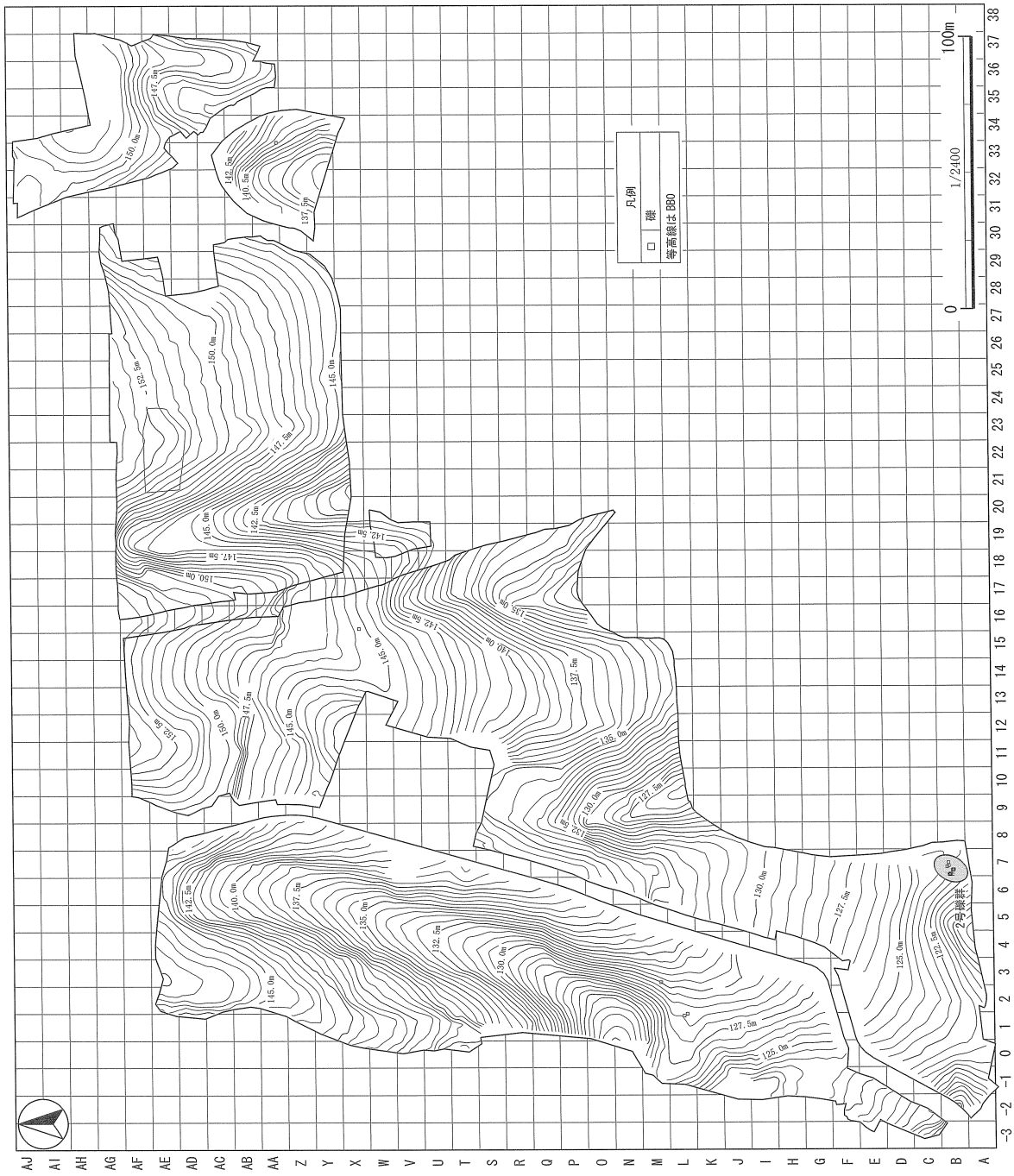
第107図　第Ⅵ文化層　石器集中13　器種別分布（上）・石材別分布（下）



第108図　第Ⅵ文化層の石器群



第109図　第Ⅵ文化層　2号礫群



第110図　第Ⅵ文化層　礫分布

第７節　第Ⅶ文化層
（休場層直下黒色帯上部を中心とする遺構と遺物）

概要

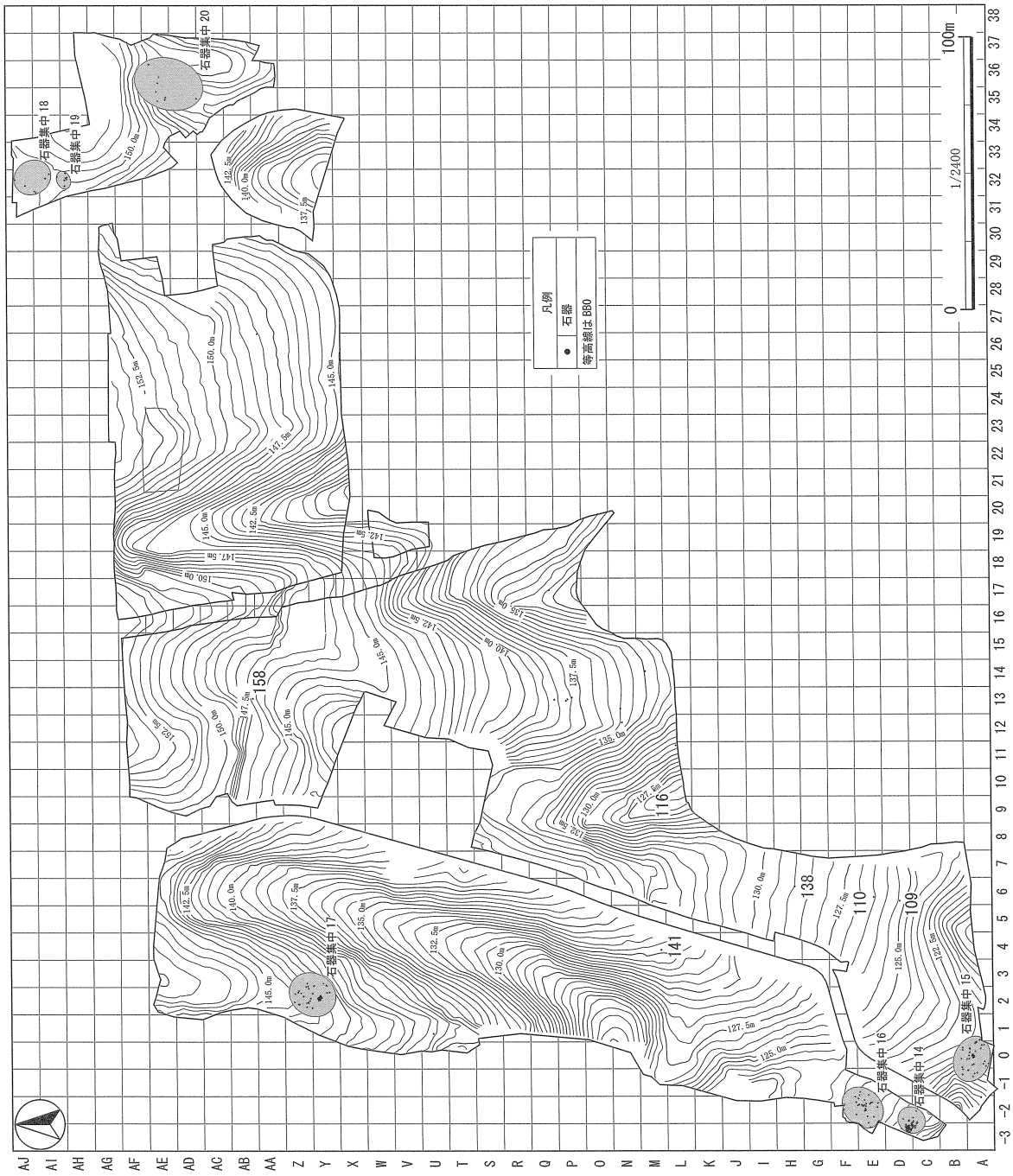
表20　第Ⅶ文化層　石器組成（1）

	黒曜石													
	諏訪 星ヶ台	蓼科 冷山	和田 小深沢	和田土 屋橋南	箱根 畑宿	天城 柏峠	神津島 恩馳島	測定/推 定不可	未分析	流紋岩	ガラス質 黒色安山岩	細粒 安山岩	輝石 安山岩
基部加工ナイフ形石器	2												
背部加工ナイフ形石器	9		1							1			
切出形石器	1									1			
尖頭器	1												
削器	1												
端削器	1	1		1							1		
側削器	4					1							
抉入削器	1												
鋸歯縁削器	2												
彫器	1												
角錐状石器	1												
二次加工剝片	1	2											
微細剝離痕石刃	2												
微細剝離痕剝片	3												
石刃	1												
細石刃								1					
剝片	22	3		1	2	9	8				10	1	2
砕片	9							2	2	1			
石核	2										3		
計	64	6	1	2	2	10	8	3	2	3	14	1	2

	粗粒 玄武岩	水晶	細粒 凝灰岩	硬質細粒 凝灰岩	ホルン フェルス	計
基部加工ナイフ形石器						2
背部加工ナイフ形石器					1	12
切出形石器				1		3
尖頭器						1
削器						1
端削器					1	5
側削器						5
抉入削器						1
鋸歯縁削器						2
彫器						1
角錐状石器						1
二次加工剝片						3
微細剝離痕石刃						2
微細剝離痕剝片					1	4
石刃				1	9	11
細石刃						1
剝片	2	1		1	125	187
砕片		1			22	37
石核	1		1		2	9
計	3	2	1	3	161	288

表21　第Ⅶ文化層　石器組成（2）

	輝石 安山岩	玄武岩	中粒 砂岩	粗粒 砂岩	計
磨石	1			1	2
敲石	1	2	1		4
石皿			1		1
台石			1		1
計	2	2	3	1	8



第111図　第Ⅶ文化層　石器分布

本文化層はBB0を中心に包含される石器群と礫群で構成される（第111図、表20・21）。石器群はAD-AJ32-36グリッドの石器集中3ヶ所、Y・Z2・3グリッドの石器集中1ヶ所、A-F-3-0グリッドの3ヶ所の、計7ヶ所の石器集中を中心とする296点で構成され、また礫群はY・Z1-3グリッドの3基、K5グリッドの1基、E・F-3-1の3基、A-1-1の3基の、計10基を中心とする。

石器群と礫群は重なるか大変近い場所に分布することが多い。石器集中18と19は散在する礫群と、石器集中17は51・52・53号礫群と、石器集中16は44・45・47号礫群と、石器集中15は39・40・41号礫群とそうした関係にある。両者の行動的な単位性を窺わせている。

石器群を構成する主要な器種は基部/背部加工ナイフ形石器14点、切出形石器3点、尖頭器1点、角錐状石器1点、削器類14点、彫器1点などである。二次加工石器類に占める信州系黒曜石の比率が非常に高く、34点のうち実に30点までもが信州系である。信州系黒曜石に占める二次加工石器類の比率も非常に高い（40.0%）。ホルンフェルス製石器群とは実に対照的な様相である。

１．石器集中

石器集中は大きく分けて3ヶ所に分かれている。以下では、石器集中14・15・16、石器集中17、石器集中18・19・20の各集合に配慮しながら記述する。

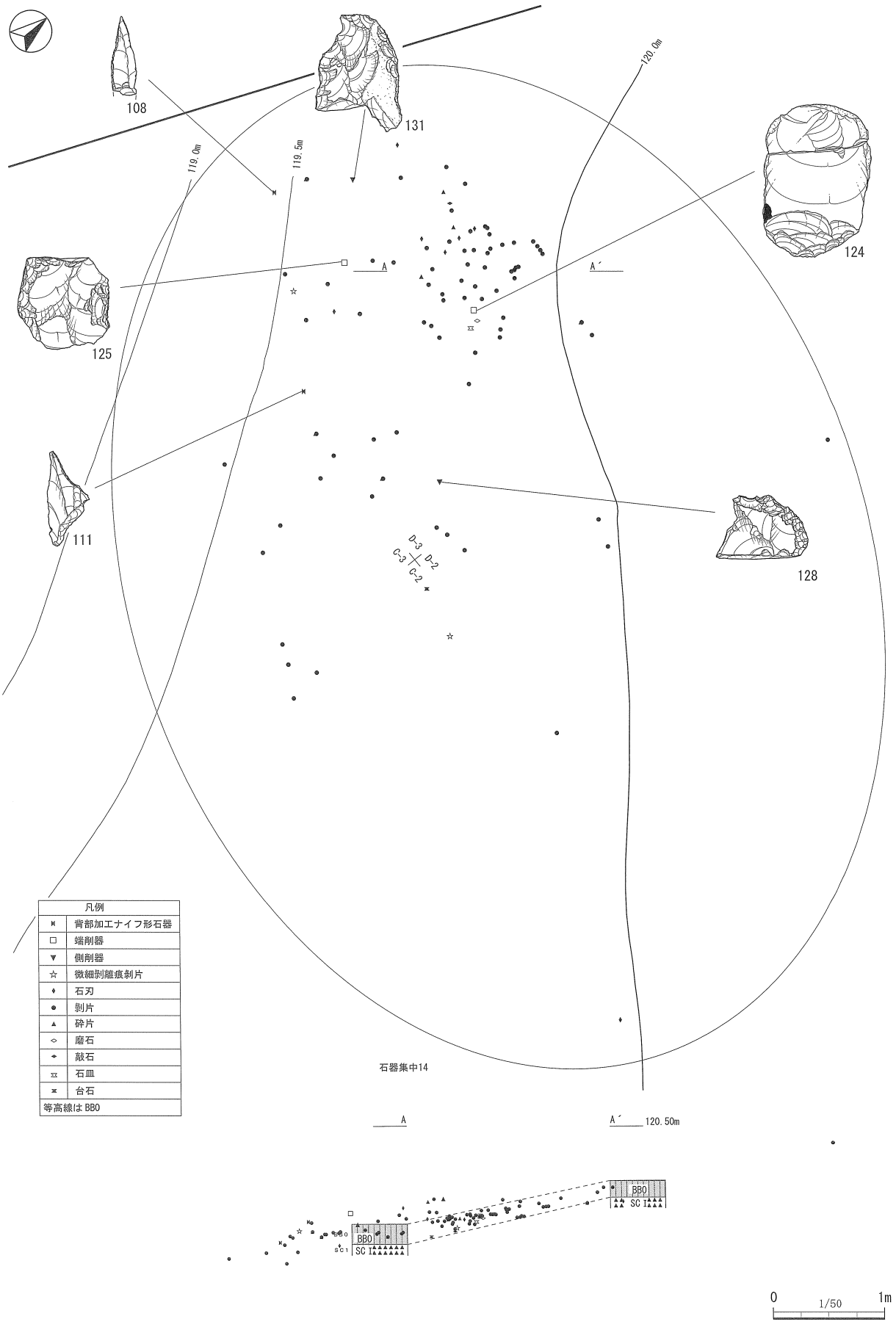
石器集中14（第112・113図、表22）

D-3グリッドのBB0を中心に分布する。石器127点で構成され、主要な二次加工石器は石刃製の背部加工ナイフ形石器（108・111）と平坦剝離で刃部を作出する特徴的な削器類（125, 128, 131）である。

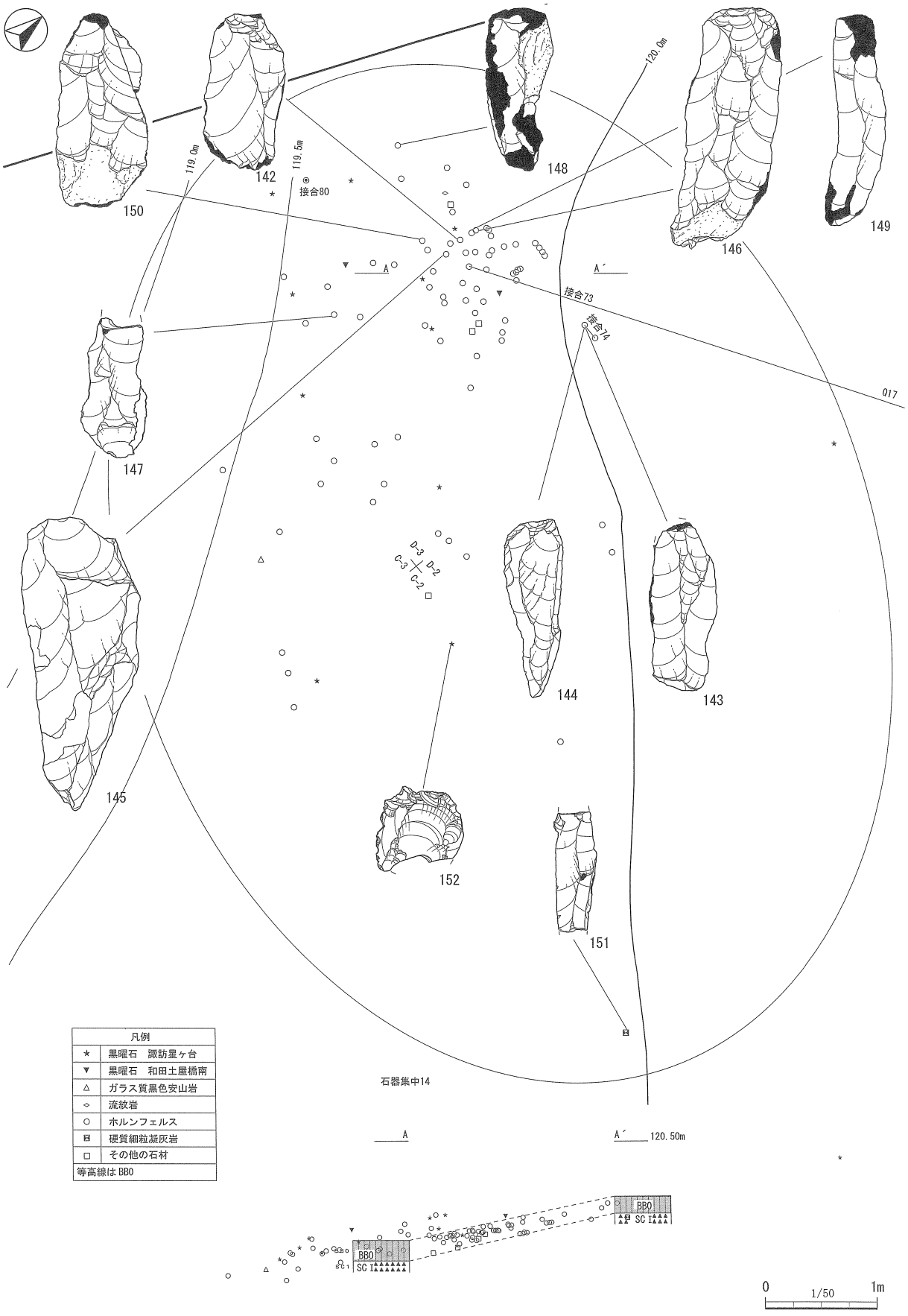
石材はホルンフェルスが圧倒的で107点（84.3%）、これに諏訪星ヶ台産黒曜石11点が続く（8.7%）。ホルンフェルスは、二次加工石器は端削器1点（124）だけだが、ほかに中・大型石刃がまとまって組成することから石刃の生産地点であった可能性がある。また、硬質細粒凝灰岩製の石刃（151）が集中部のはずれから単体で出土した。

表22　第Ⅶ文化層　石器集中14　石器組成

	黒曜石 諏訪星ヶ台	黒曜石 和田土屋橋南	流紋岩	ガラス質黒色安山岩	硬質細粒凝灰岩	中粒砂岩	粗粒砂岩	ホルンフェルス	計
背部加工ナイフ形石器	2								2
端削器		1						1	2
側削器	2								2
微細剝離痕剝片	2								2
石刃					1			9	10
剝片	3	1		1				84	89
砕片	2		1					13	16
磨石							1		1
敲石						1			1
石皿						1			1
台石						1			1
計	11	2	1	1	1	3	1	107	127



第112図　第Ⅶ文化層　石器集中14　器種別分布



第113図　第Ⅶ文化層　石器集中14　石材別分布

石器集中15（第114・115図、表23）

A0グリッドのBB0を中心に分布する。平面的には石器集中14の南東に位置し、休場層にも大きく拡散する。BB0中・上部に包含される39号・40号礫群（第133-135図）と重複している。

石器43点で構成され、主要な二次加工石器はナイフ形石器類と尖頭器、角錐状石器および削器類である。石材の中心は諏訪星ヶ台産黒曜石30点（69.8%）で、ホルンフェルス6点（14.0%）が続く。ホルンフェルスの分布は東に偏り、7点集中して検出された礫石器類と重なっているので、同時期ではあるが別の集中部と捉えた方がよかったかもしれない。

石器集中16（第116・117図、表24）

E-2グリッドのBB0を中心に分布し、休場層下部にも拡散する。取り上げ層位の殆どはBB0と記録されていたので第Ⅶ文化層に組み入れた。平面的には石器集中14の北に位置する。45号礫群を中心として、一部が44号・54号・55号礫群（第137図）と重複する。これら礫群の包含層もBB0である。

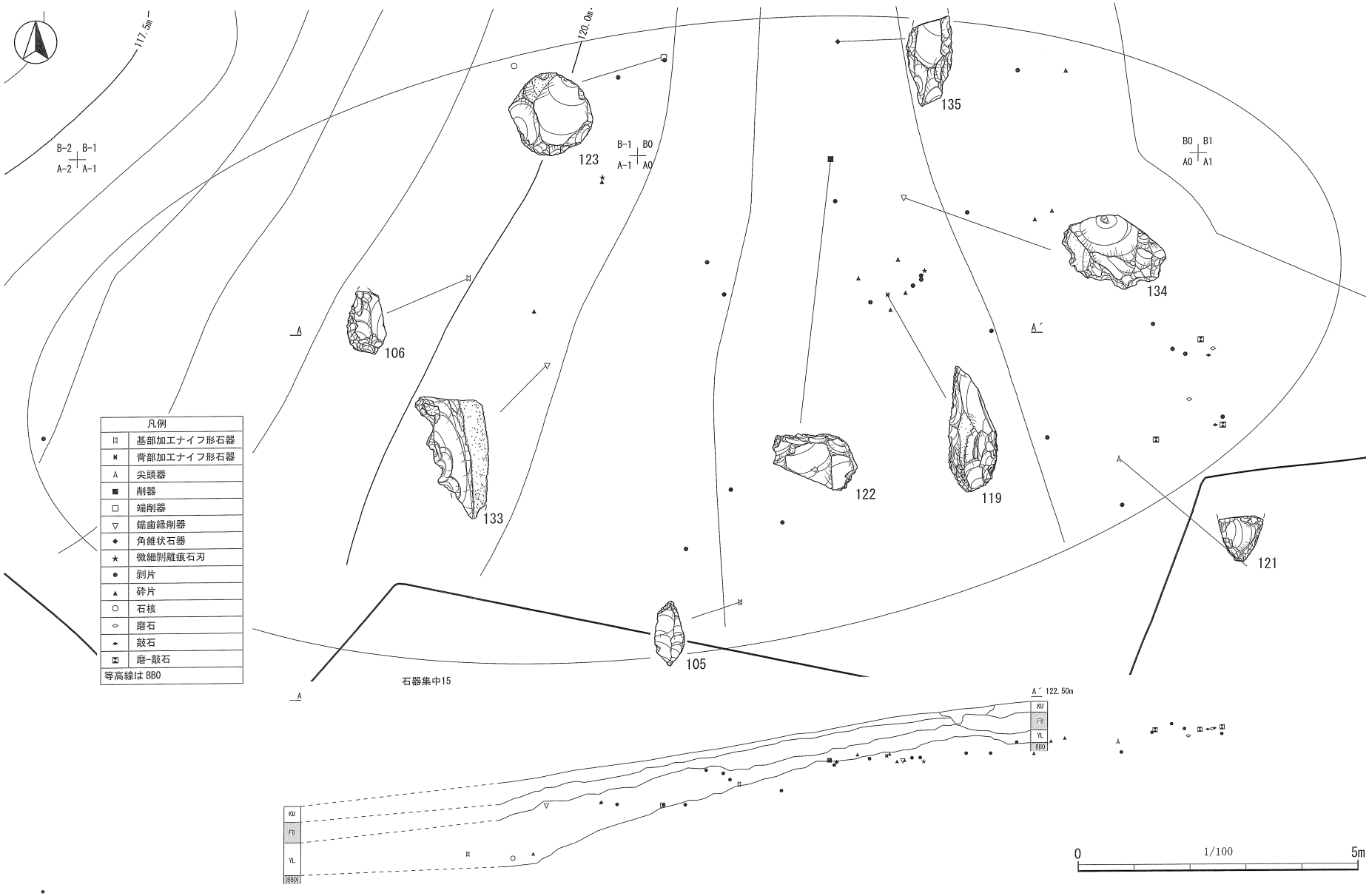
石器29点で構成され、主要な二次加工石器はナイフ形石器類と切出形石器、削器類、彫器である。ナイフ形石器（118, 120）と切出形石器（113）は諏訪星ヶ台産黒曜石製で基部に幅のある形態的特徴がある。出土層位が休場層下部にも若干広がっていたことを考えると、その内容は第Ⅷ文化層の様相にかなり近い。石材の中心は諏訪星ヶ台産黒曜石14点（48.3%）で、天城柏峠産黒曜石4点（13.8%）などが続く。

表23　第Ⅶ文化層　石器集中15　石器組成

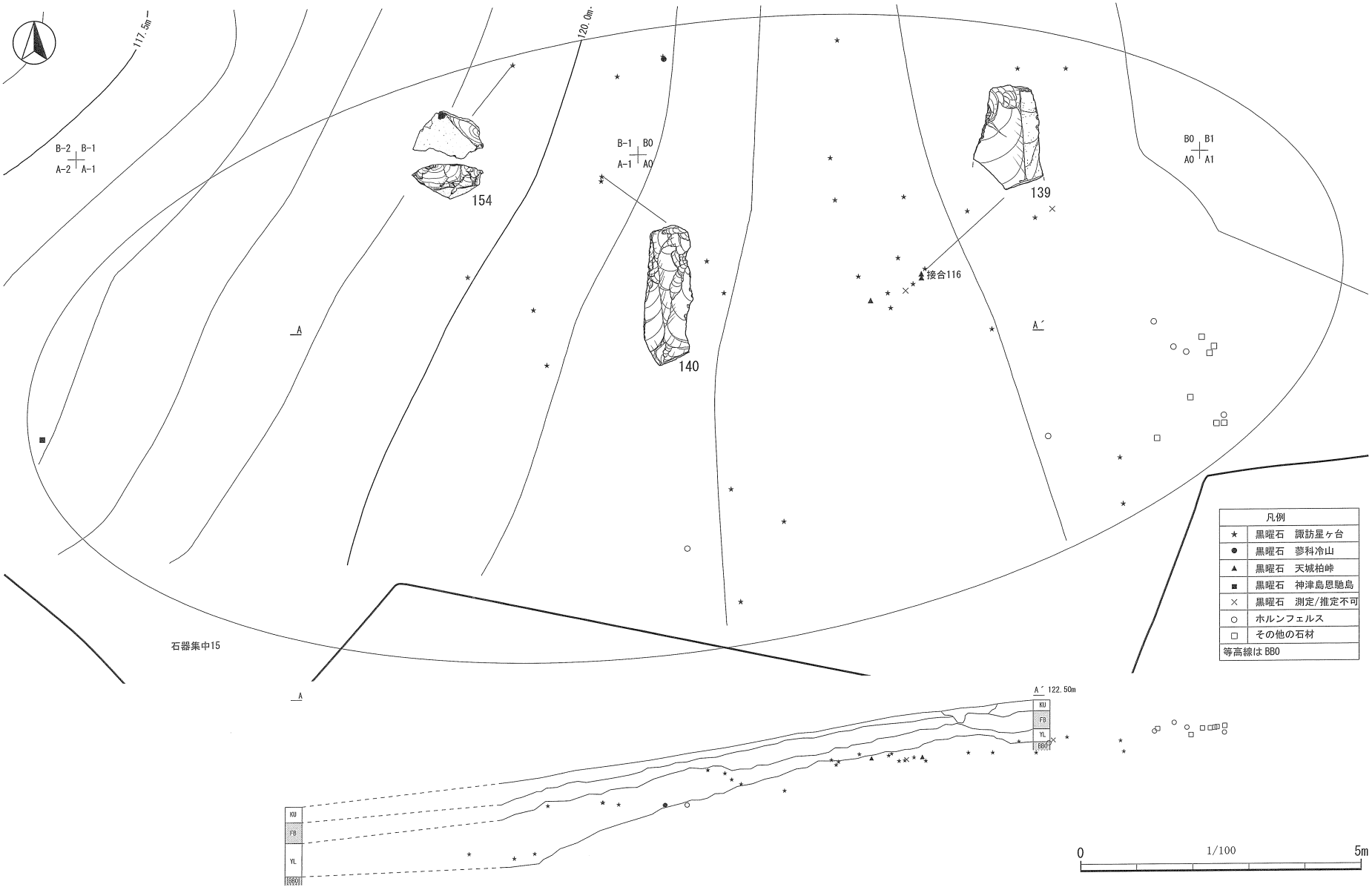
	黒曜石						
	諏訪 星ヶ台	蓼科 冷山	天城 柏峠	神津島 恩馳島	測定/ 推定不可	ホルン フェルス	計
基部加工ナイフ形石器	2						2
背部加工ナイフ形石器	1						1
尖頭器	1						1
削器	1						1
端削器	1						1
鋸歯縁削器	2						2
角錐状石器	1						1
微細剝離痕石刃	2						2
剝片	11	1	3	1		6	22
砕片	7				2		9
石核	1						1
計	30	1	3	1	2	6	43

表24　第Ⅶ文化層　石器集中16　石器組成

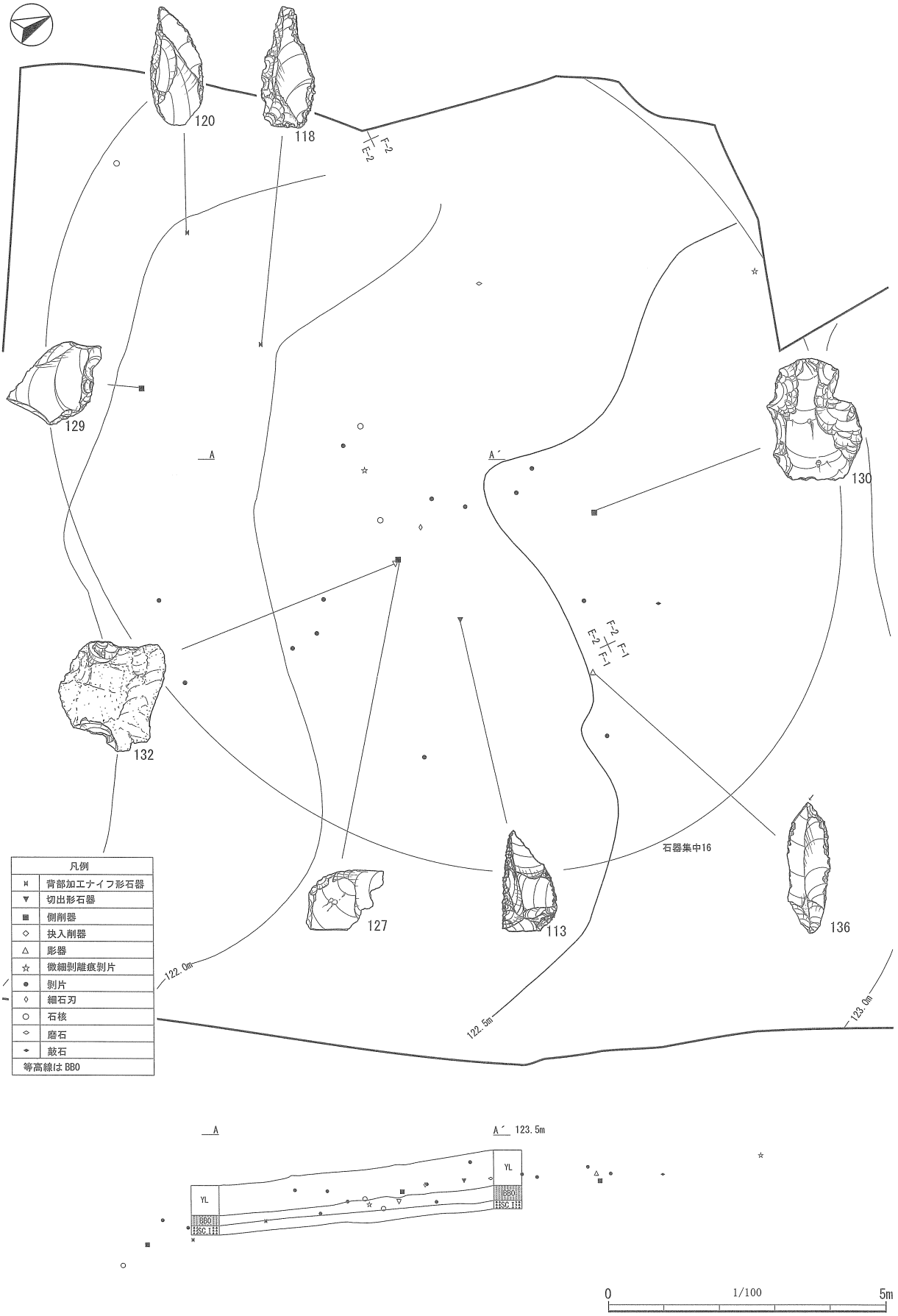
	黒曜石									
	諏訪 星ヶ台	箱根 畑宿	天城 柏峠	神津島 恩馳島	測定/ 推定不可	細粒 凝灰岩	輝石 安山岩	粗粒 玄武岩	ホルン フェルス	計
背部加工ナイフ形石器	2									2
切出形石器	1									1
側削器	2		1							3
抉入削器	1									1
彫器	1									1
微細剝離痕剝片	1								1	2
剝片	5	2	3	1				2		13
細石刃					1					1
石核	1					1		1		3
磨石							1			1
敲石							1			1
計	14	2	4	1	1	1	2	3	1	29



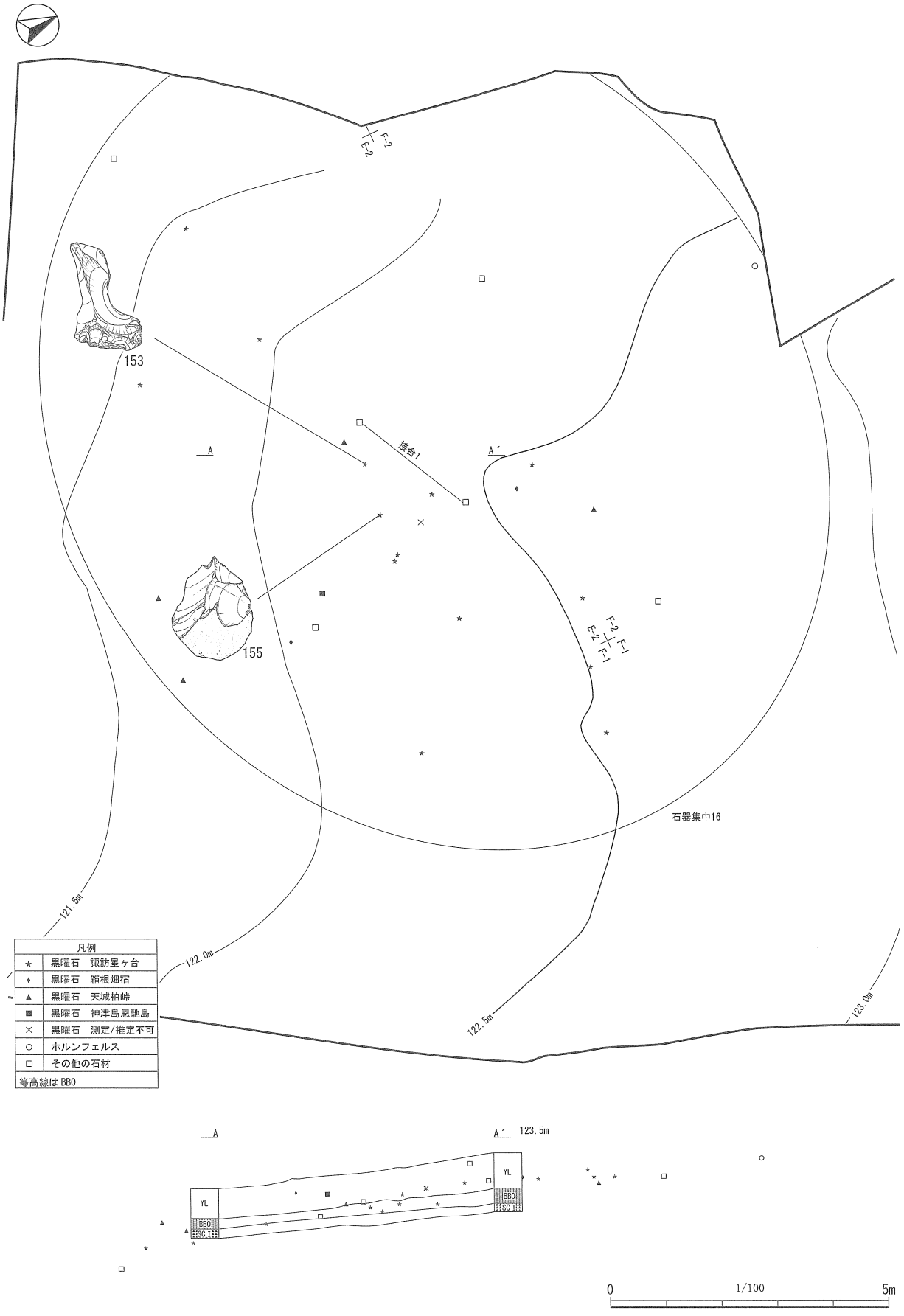
第114図　第Ⅶ文化層　石器集中15　器種別分布



第115図　第Ⅶ文化層　石器集中15　石材別分布



第116図　第Ⅶ文化層　石器集中16　器種別分布

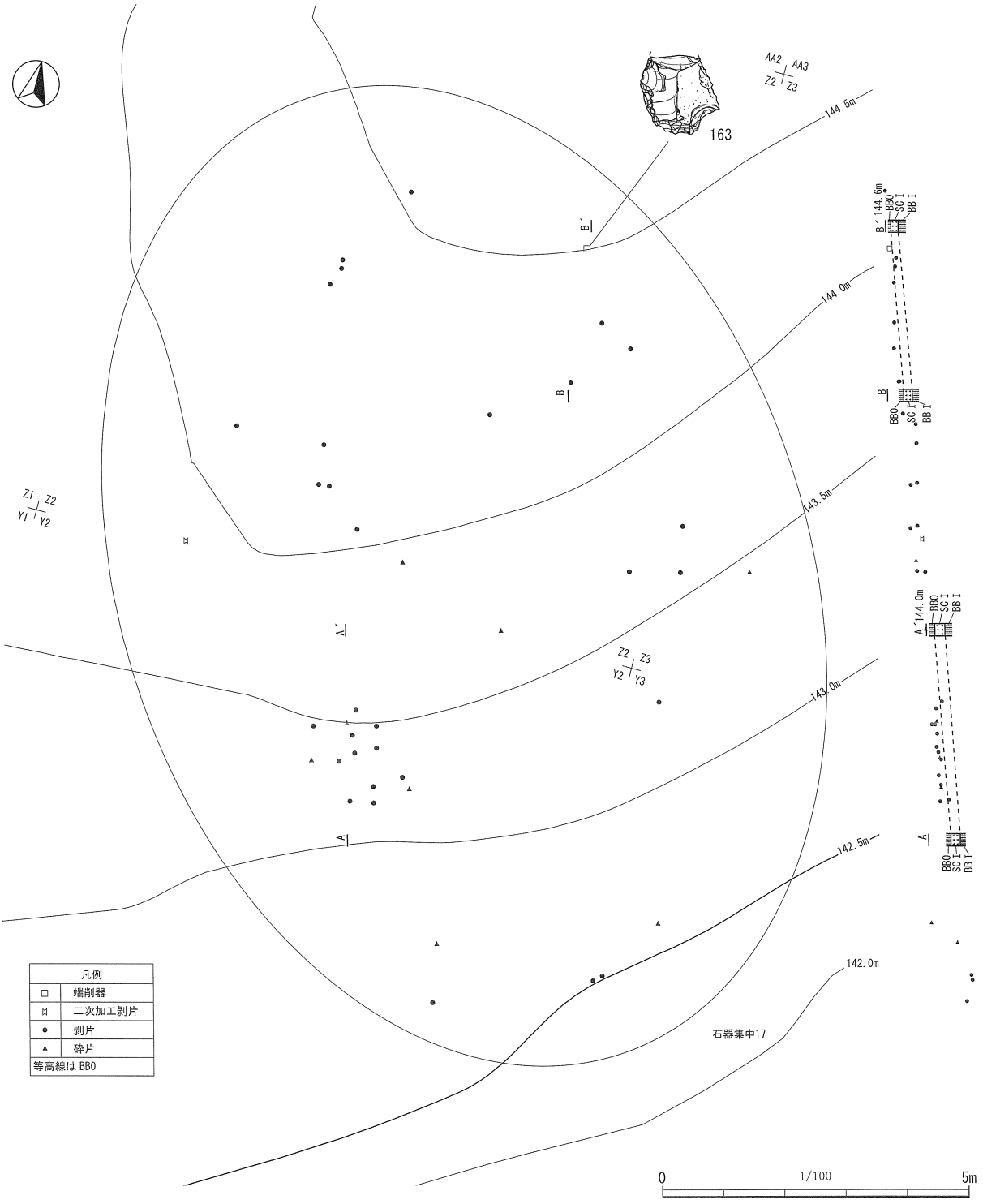


第117図　第Ⅶ文化層　石器集中16　石材別分布

石器集中17（第118・119図、表25）

Z1・2グリッドのBB0を中心にやや広く分布する。石器集中14-16とは異なる尾根上に単独で分布する。最も濃密に分布するY2グリッド北部の集中部はBB0を包含層とする51-53号礫群（第143-146図）と関係がある。

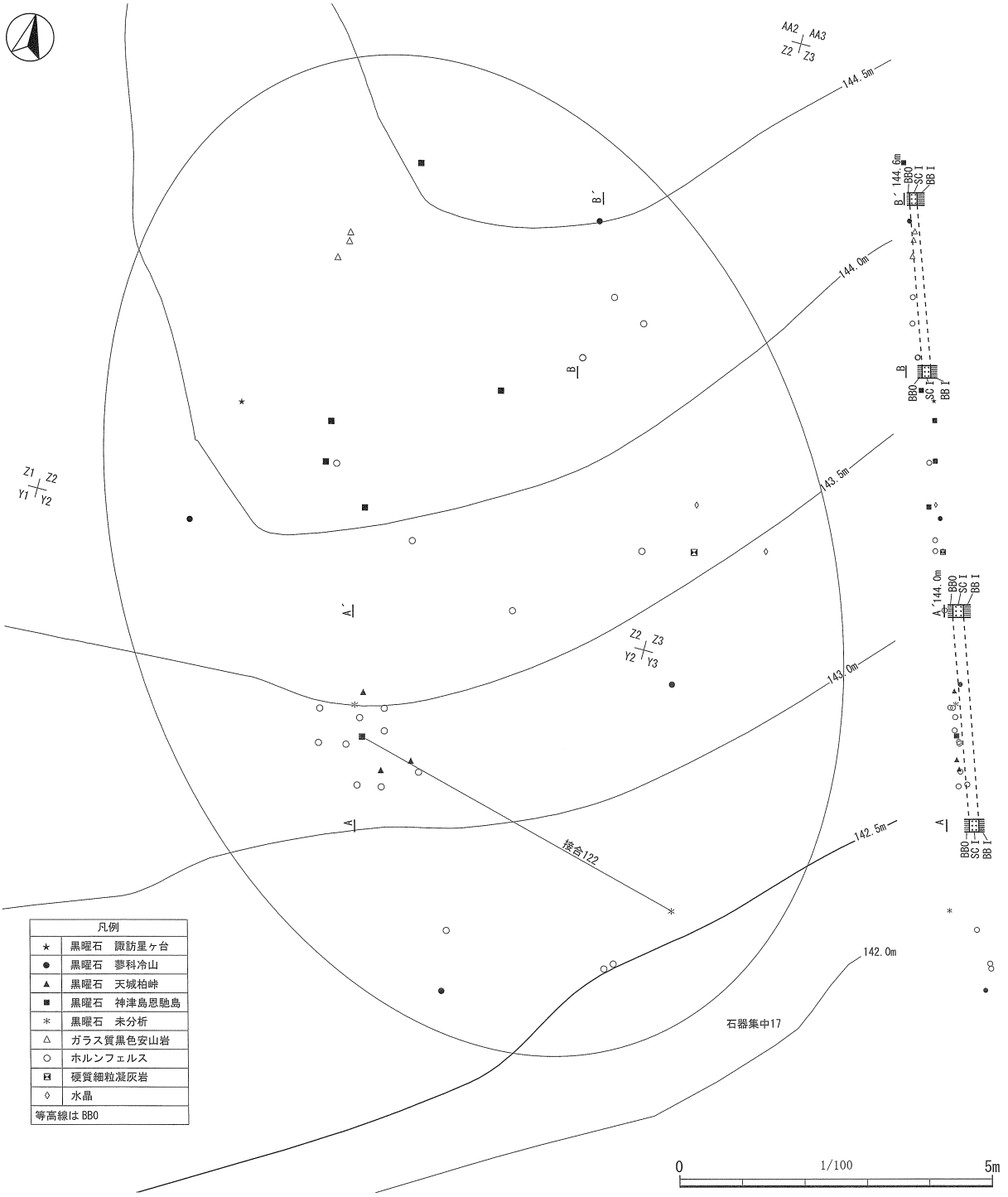
石器51点で構成され、蓼科冷山産黒曜石製端削器1点および二次加工剥片1点（どちらも未実測）のほかは剥片40点と砕片9点である。石材はホルンフェルスが29点（56.9%）と多くを占めている。珍しいことに神津島恩馳島産黒曜石が6点まとまって組成する。



第118図　第Ⅶ文化層　石器集中17　器種別分布

表25　第Ⅶ文化層　石器集中17　石器組成

	諏訪星ヶ台	黒曜石 蓼科冷山	黒曜石 天城柏峠	黒曜石 神津島恩馳島	未分析	ガラス質黒色安山岩	水晶	硬質細粒凝灰岩	ホルンフェルス	計
端削器		1								1
二次加工剝片		1								1
剝片	1	2	3	6		3	1	1	23	40
砕片					2		1		6	9
計	1	4	3	6	2	3	2	1	29	51



第119図　第Ⅶ文化層　石器集中17　石材別分布

石器集中18（第120-122図、表26）

調査区の東北部、最も東にある尾根上の、AI・AJ32グリッドのBBOを中心に分布する。石器集中19の北に隣接する。石器6点で構成され、このうち4点が二次加工石器類である。流紋岩製の切出形石器の母岩は特徴的で、石器集中19に含まれる小型縦長剝片製ナイフ形石器（117）と同一母岩である。

石器集中19（第120・123・124図、表27）

調査区の東北部、最も東にある尾根上の、AH32グリッドのBBOを中心に分布する。石器集中18の南に隣接する。散漫に分布する小礫（礫群番号はない）と重複する（第132図）。

石器12点で構成され、流紋岩製の小型縦長剝片製ナイフ形石器（117）とガラス質黒色安山岩製の端削器1点（126）が主体である。石材の中心はガラス質黒色安山岩8点（66.7%）であるが、よくみると3母岩ある。

石器集中20（第125図、表28）

調査区の東北部、最も東にある埋没谷の谷頭、AE35・36グリッドのBBOを中心に分布する。上位の文化層と重なって見えるが、ホルンフェルスがBBOを中心として検出され、休場層のホルンフェルスとはレベル差があったので分離した。

石器11点で構成され、ホルンフェルス製の縦長剝片製ナイフ形石器1点（115）と硬質細粒凝灰岩製の切出形石器1点（114）を主体に、剝片類8点と礫石器1点が組成する。石材の中心はホルンフェルスである。

表26　第Ⅶ文化層　石器集中18　石器組成

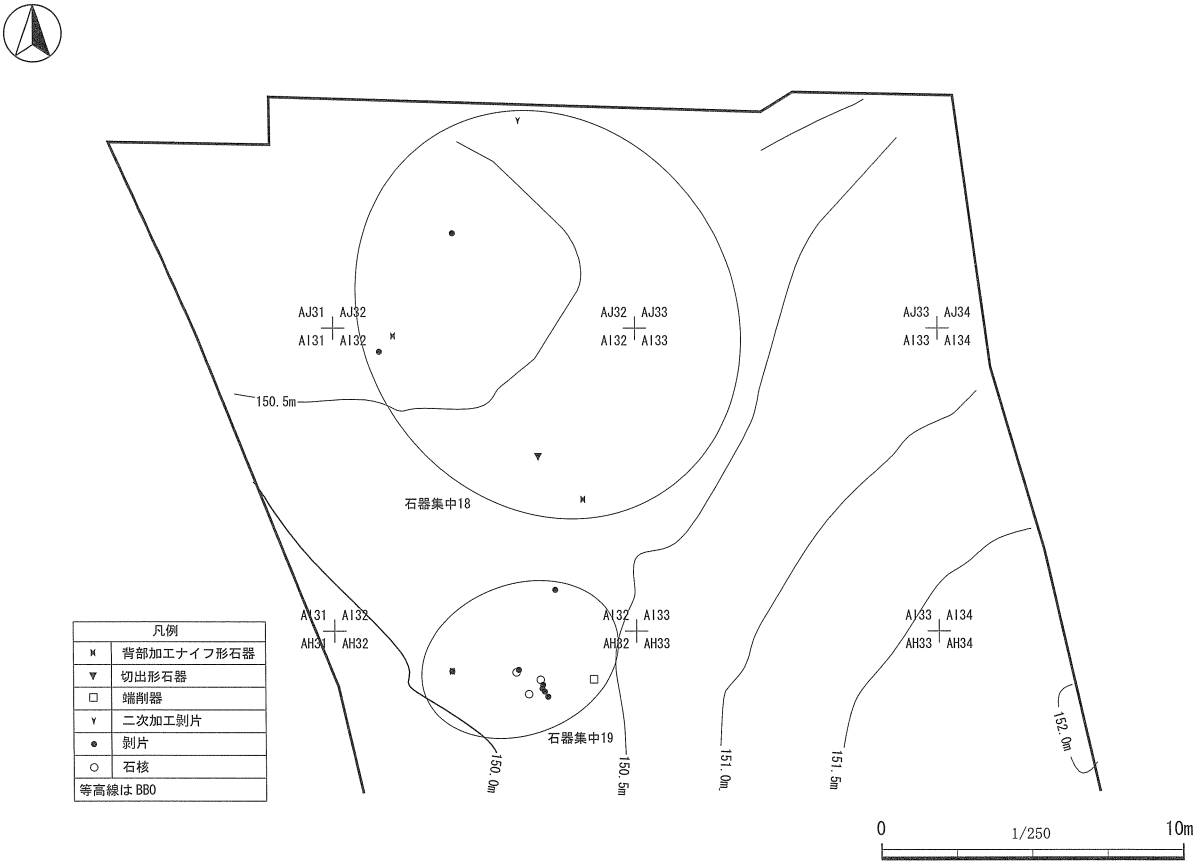
	黒曜石 諏訪星ヶ台	黒曜石 蓼科冷山	流紋岩	計
背部加工ナイフ形石器	2			2
切出形石器			1	1
二次加工剝片		1		1
剝片	2			2
計	4	1	1	6

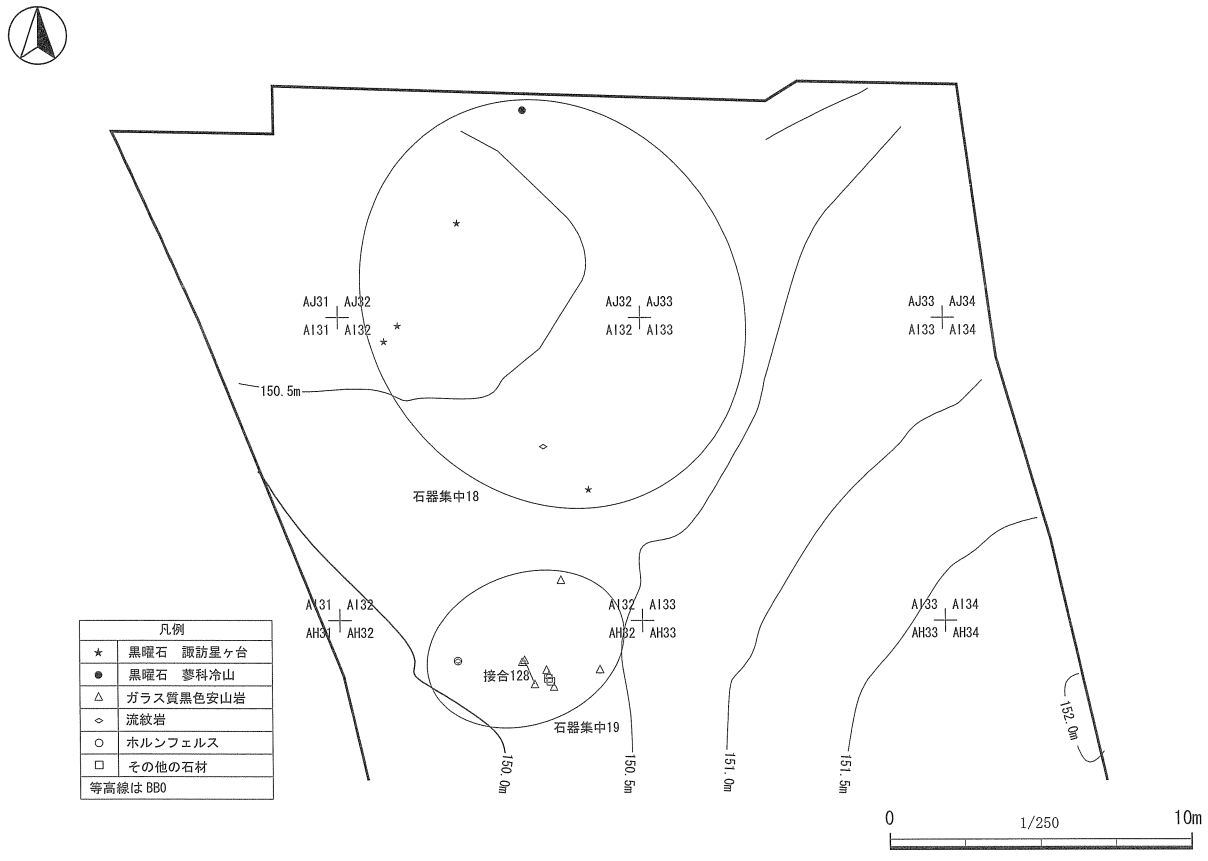
表27　第Ⅶ文化層　石器集中19　石器組成

	流紋岩	ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	輝石安山岩	ホルンフェルス	計
背部加工ナイフ形石器	1					1
端削器		1				1
剝片		4	1	1	1	7
石核		3				3
計	1	8	1	1	1	12

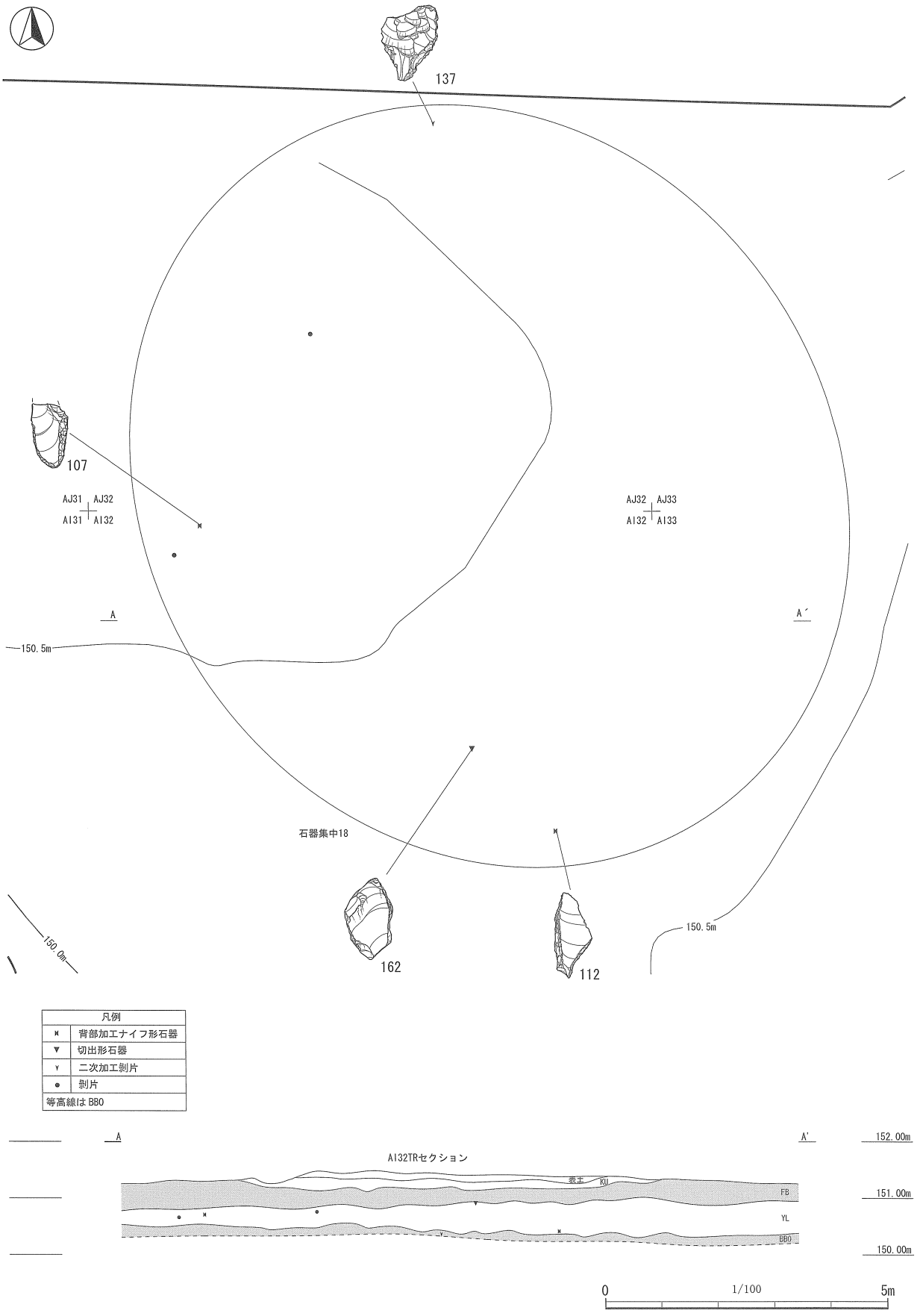
表28　第Ⅶ文化層　石器集中20　石器組成

	ガラス質黒色安山岩	玄武岩	硬質細粒凝灰岩	ホルンフェルス	計
背部加工ナイフ形石器				1	1
切出形石器			1		1
剝片	2			6	8
敲石		1			1
計	2	1	1	7	11

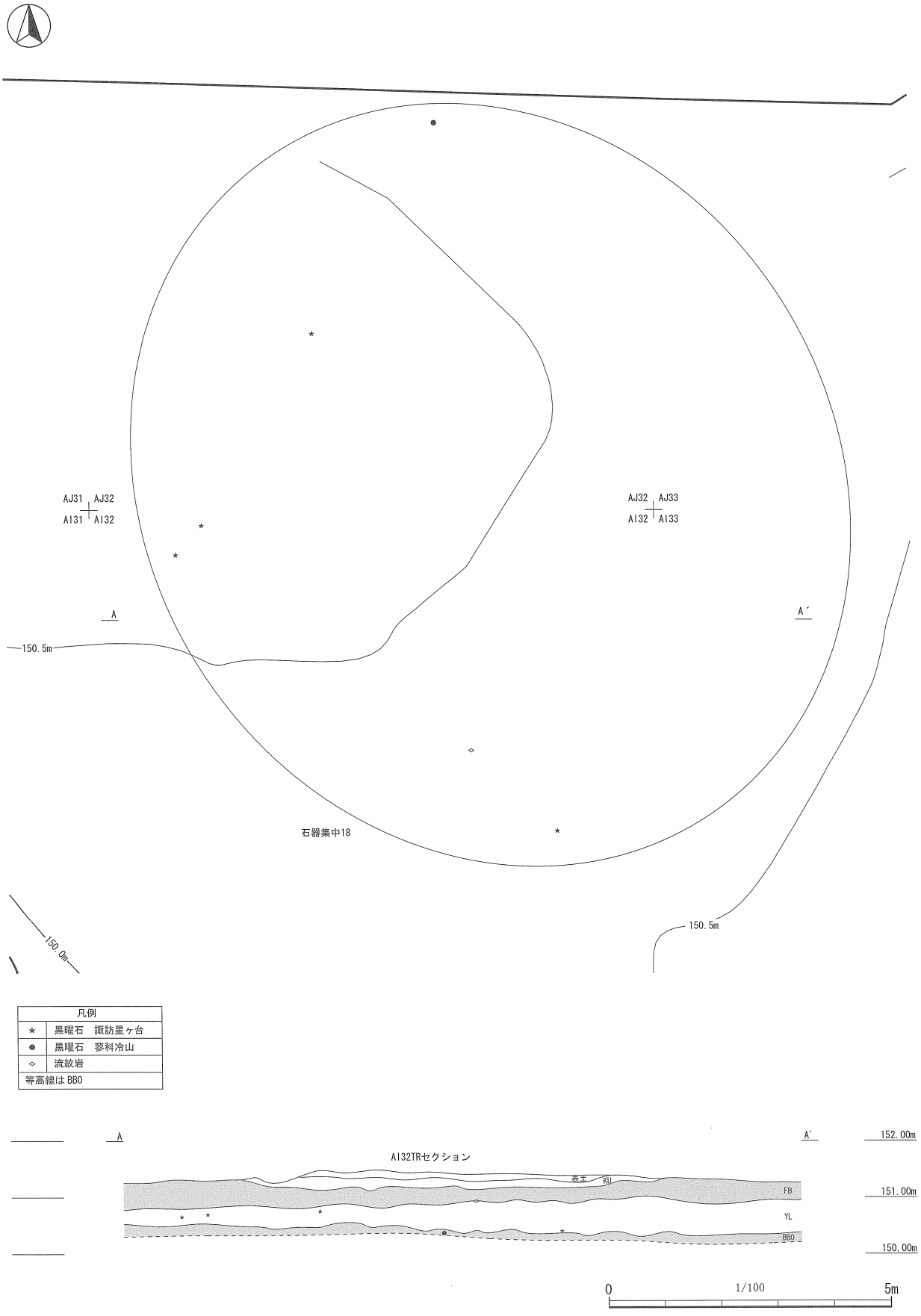




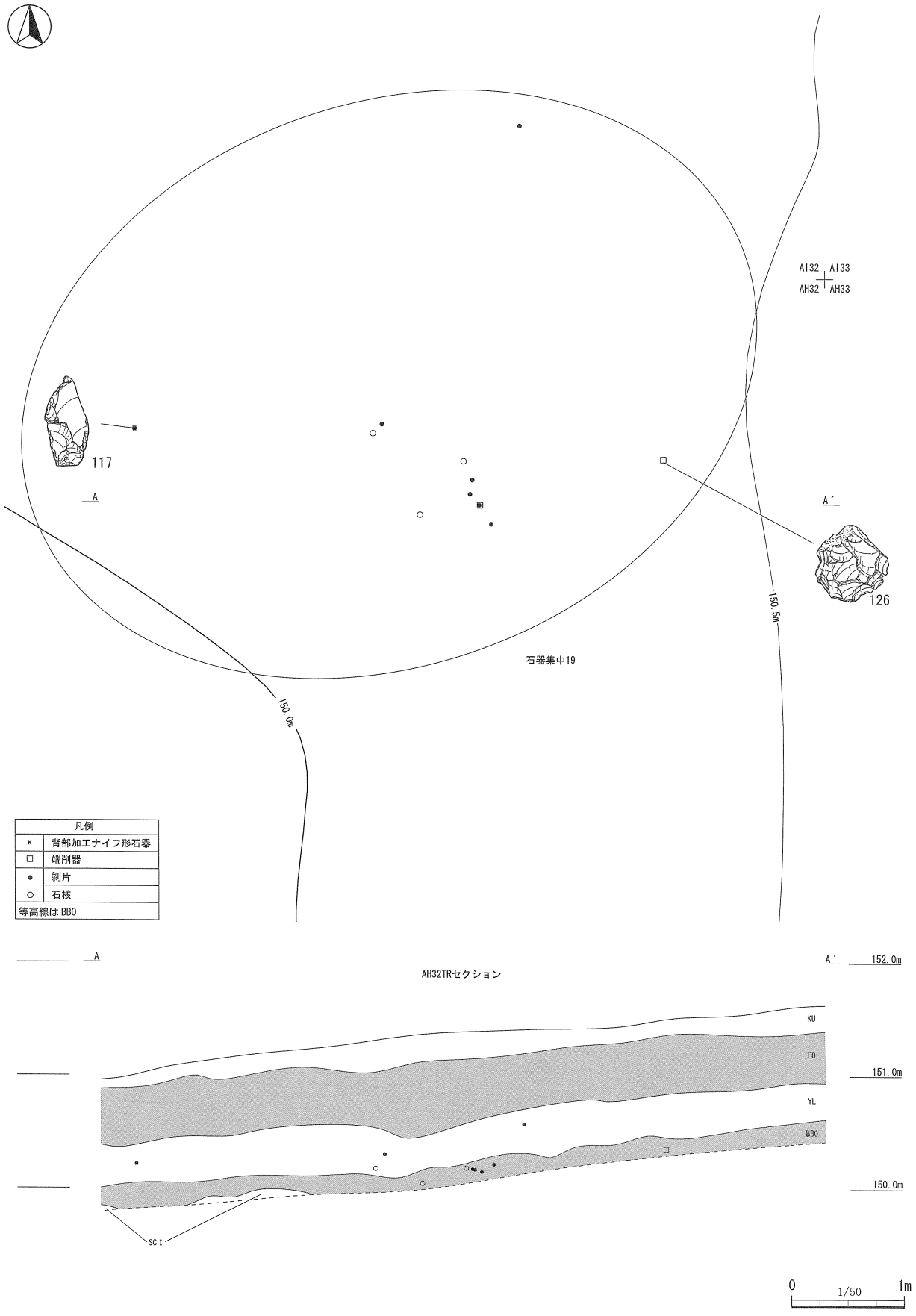
第120図　第Ⅶ文化層　石器集中18・19　器種別分布（上）・石材別分布（下）



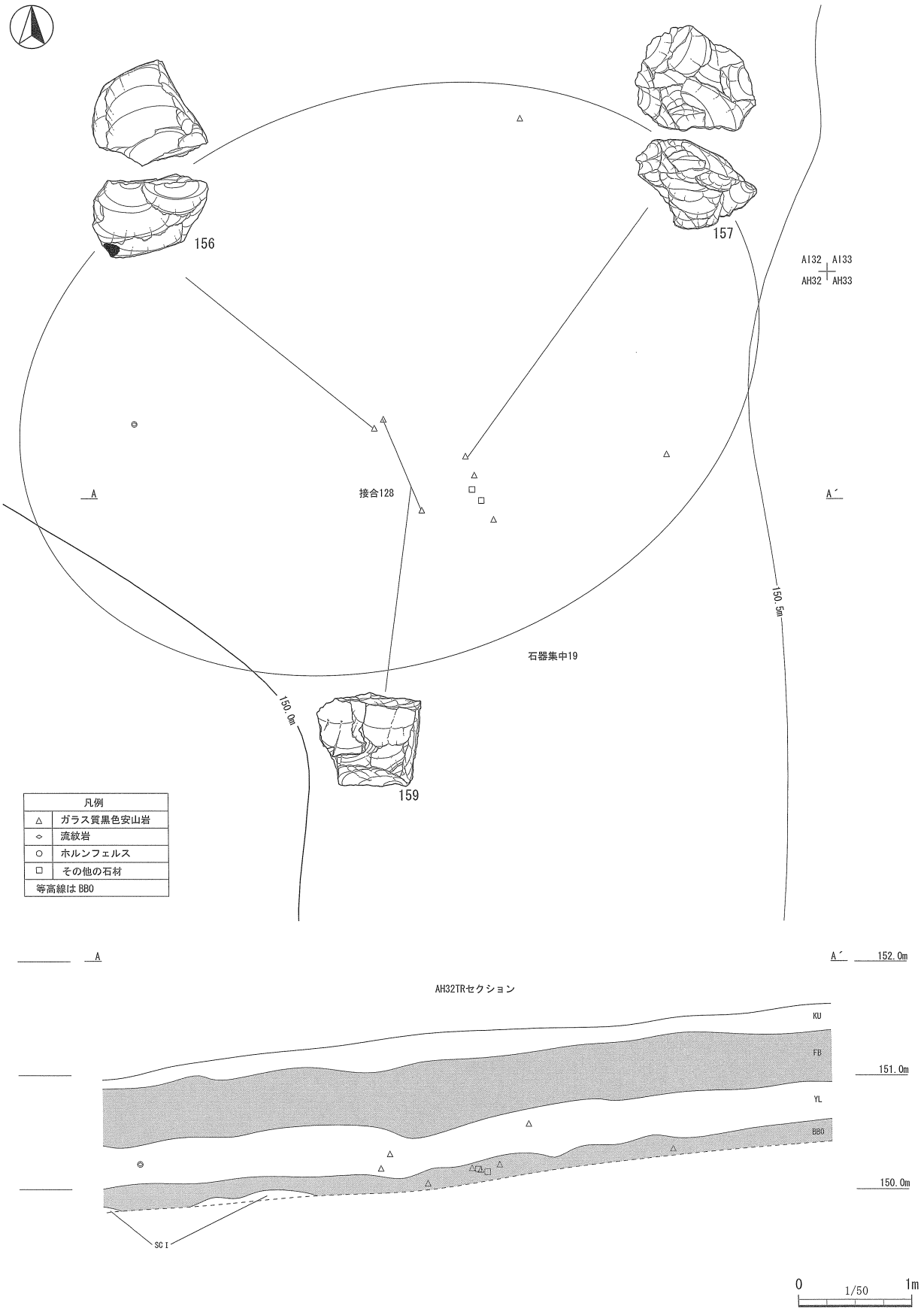
第121図　第Ⅶ文化層　石器集中18　器種別分布



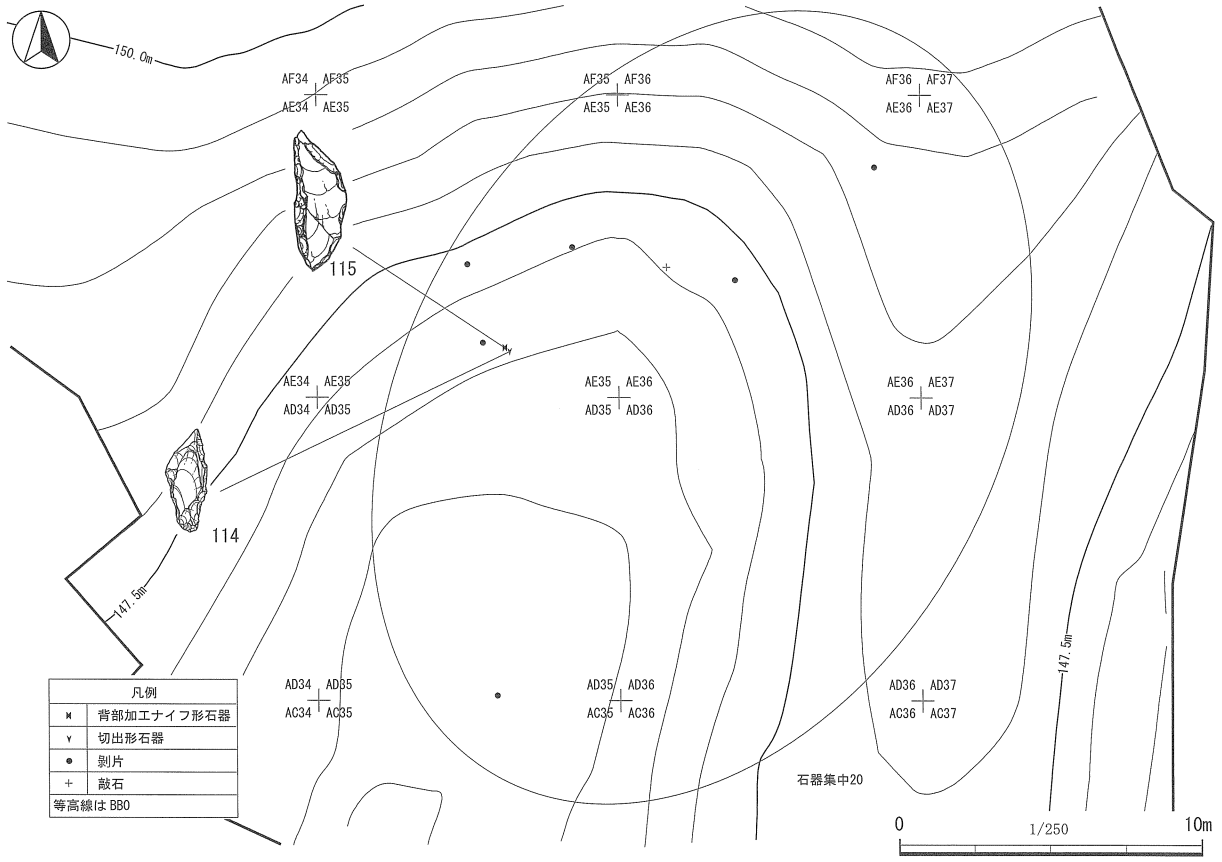
第122図　第Ⅶ文化層　石器集中18　石材別分布

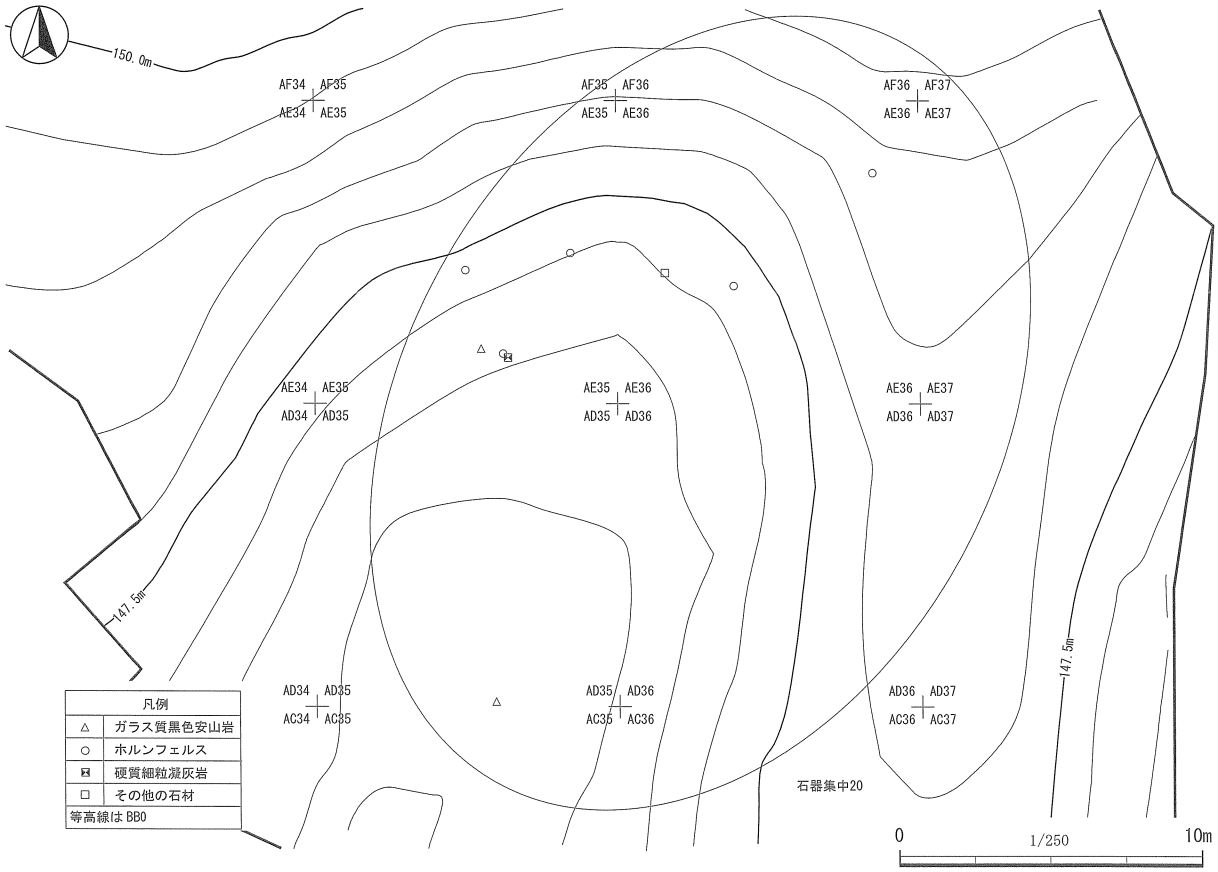


第123図　第Ⅶ文化層　石器集中19　器種別分布



第124図　第Ⅶ文化層　石器集中19　石材別分布





第125図　第Ⅶ文化層　石器集中20　器種別分布（上）・石材別分布（下）

２．出土石器の検討（第126-131図）

ナイフ形石器類（105-112・115-120）

105はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。小型の石刃を素材として、左縁辺の打面側に急角度な剝離を施して基部を整形し、右縁辺の端部を切り取って尖端部を作出する。

106はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。小型の縦長剝片を素材として、右縁辺に類鱗状の平坦な剝離を施し、正面観が鋸歯状を呈し外湾する側縁を整形する。

107はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。基部加工タイプかもしれないが、尖端が失われているのでその形態は不明である。石刃を逆位に用い、右縁辺の末端側を急角度な剝離で切り取り、また、左縁辺に連続的な微細剝離を施して基部を整形する。基部裏面には平坦な剝離を施して入念な整形を行う。

108はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。薄手の石刃を縦位に用い、右縁辺を端部まで切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。

109はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左縁辺の打面側を急角度な剝離で切り取って基部を整形し、また右縁辺全体も切り取って弧状の側縁を整形し、尖頭部を作出する。

110はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆斜位に用い、右縁辺末端を急角度な剝離で切り取り、また、左縁辺全体も切り取って側縁を整形して、尖頭部を作出する。基部の裏面には、以上の二次加工の後に、平坦剝離で入念な基部加工を施す。

111はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剝片を縦位に用い、左縁辺の末端側を急角度の剝離で切り取ってやや内湾させ、尖頭部を作出する。

112はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剝片を逆位に用い、右縁辺の末端側を急角度な剝離で切り取って基部を整形し、また、左縁辺の基部から端部も切り取って側縁を整形して尖頭部を作出する。基部加工は腹面を打面とし、側縁加工は主として背面を打面とするため、両二次加工は錯交関係にある。

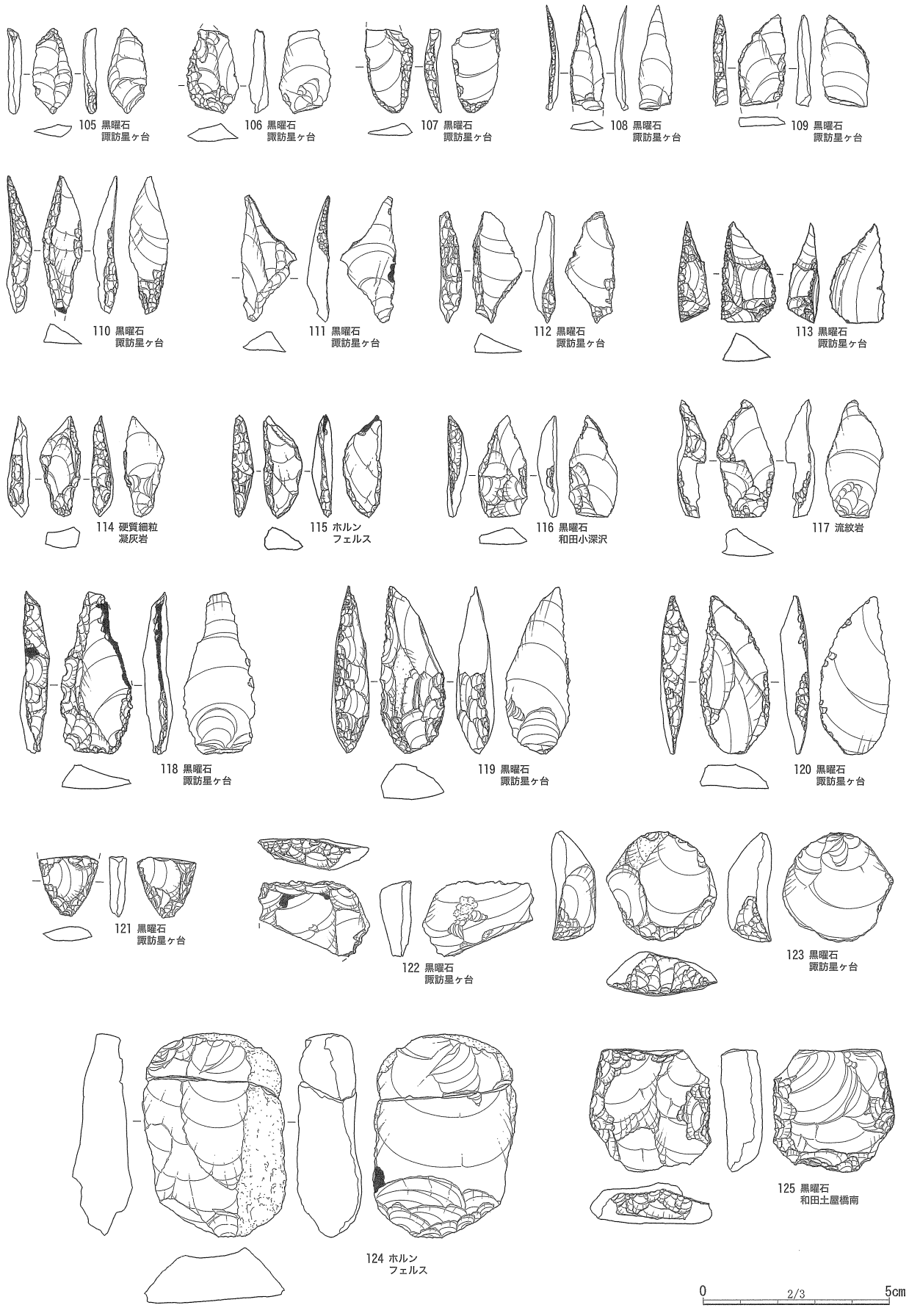
115はBBOで検出されたホルンフェルス製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剝片を逆斜位に用い、打面と末端を急角度な二次加工で切り取って側縁と基部とを整形する。刃部は欠損している。114と同じ石器集中20に組成する。

116はBBOで検出された和田小深沢産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左右縁辺の打面寄りに類鱗状の平坦剝離を施して基部を整形し、右縁辺の末端側を急角度な剝離で斜めに大きく切り取って側縁を整形して、尖頭部を作出する。裏面にも類鱗状の平坦剝離が認められる。

117はBBOで検出された流紋岩製の背部加工ナイフ形石器である。小型縦長剝片を縦位に用い、左縁辺に微細な剝離を施して基部を整形し、また、右縁辺を打面に接する部位から端部まで急角度な剝離を施して側縁を整形し、あわせて尖頭部を作出する。打面を基部に残す。

118はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剝片を縦位に用い、左縁辺にやや不規則な剝離を施して基部となし、また、右縁辺を打面に接する部位から端部まで急角度の鋸歯状剝離で切り取り側縁を整形し、尖頭部を作出する。打面が基部に残る。刃部は発掘時に大きく欠損した。

119はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。一般的剝片を斜位に用い、打面に近い左側縁に平坦な剝離を施して抉りのない基部を整形し、また、右縁辺の打面付近から左



第126図　第Ⅶ文化層の石器群（1）

縁辺の末端付近までを急角度の剥離で分厚く切り取って、細かい鋸歯状を呈する側縁を整形し、あわせて尖頭部も作出する。

120はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。半求心剥離過程から得られた一般的剥片を横位に用い、打面側を大きく切り取り側縁を整形して尖頭部も作出する。また、末端の張り出し部を急角度な剥離で整形し、弧状の側縁を作出する。刃部の尖端側には顕著な微細剥離痕が観察される。

切出形石器（113・114・162）

113はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。一般的剥片を横位に用い、打面側に急角度な剥離で大きく切り取って側縁を整形し、末端側に急角度な剥離と微細な剥離を併用して基部を整形する。刃部が上部に偏り、涙滴形を呈する。横打剥片製で刃部が上部に偏るものは「切出形石器」とする。

114はBBOで検出された硬質細粒凝灰岩製の切出形石器である。一般的剥片を縦位に用い、打面側を急角度の剥離で切り取って基部となし、また、末端側も切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。

162（第127図下段）はFBで検出された流紋岩製（117と同一母岩）の切出形石器である。一般的剥片を斜位に用い、右側縁を急角度な剥離で切り取って基部となし、また、打面側に折り取りと切り取りとを併用して側縁を整形するとともに斜刃を呈する尖頭部を作出する。石器集中18に含まれる。

尖頭器（121）

121はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の、おそらく尖頭器である。素材剥片の表裏全体に平坦な剥離を施して基部を整形する。おそらく二次加工は器体全体に及んでいると推測するが、尖端部と思われる部位が大きく失われているのでわからない。

削器類（122-134・163）

122はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の削器である。剥片の打面側を急角度の剥離で切り取る。端部が折れているので形状は不明である。

123はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の端削器である。厚手剥片の端部を主体に急角度な剥離を施して刃部を作出する。

124はBBOで検出されたホルンフェルス製の端削器である。打面に自然面のついた縦長剥片の端部裏面に二次加工を施して刃部を作出する。

125はBBOで検出された和田土屋橋南産黒曜石製の端削器である。一般的剥片の表裏面の広い範囲に二次加工を施す。

126はBBOで検出されたガラス質黒色安山岩製の端削器である。一般的剥片の端部を中心に急角度な剥離を施して刃部を作出する。

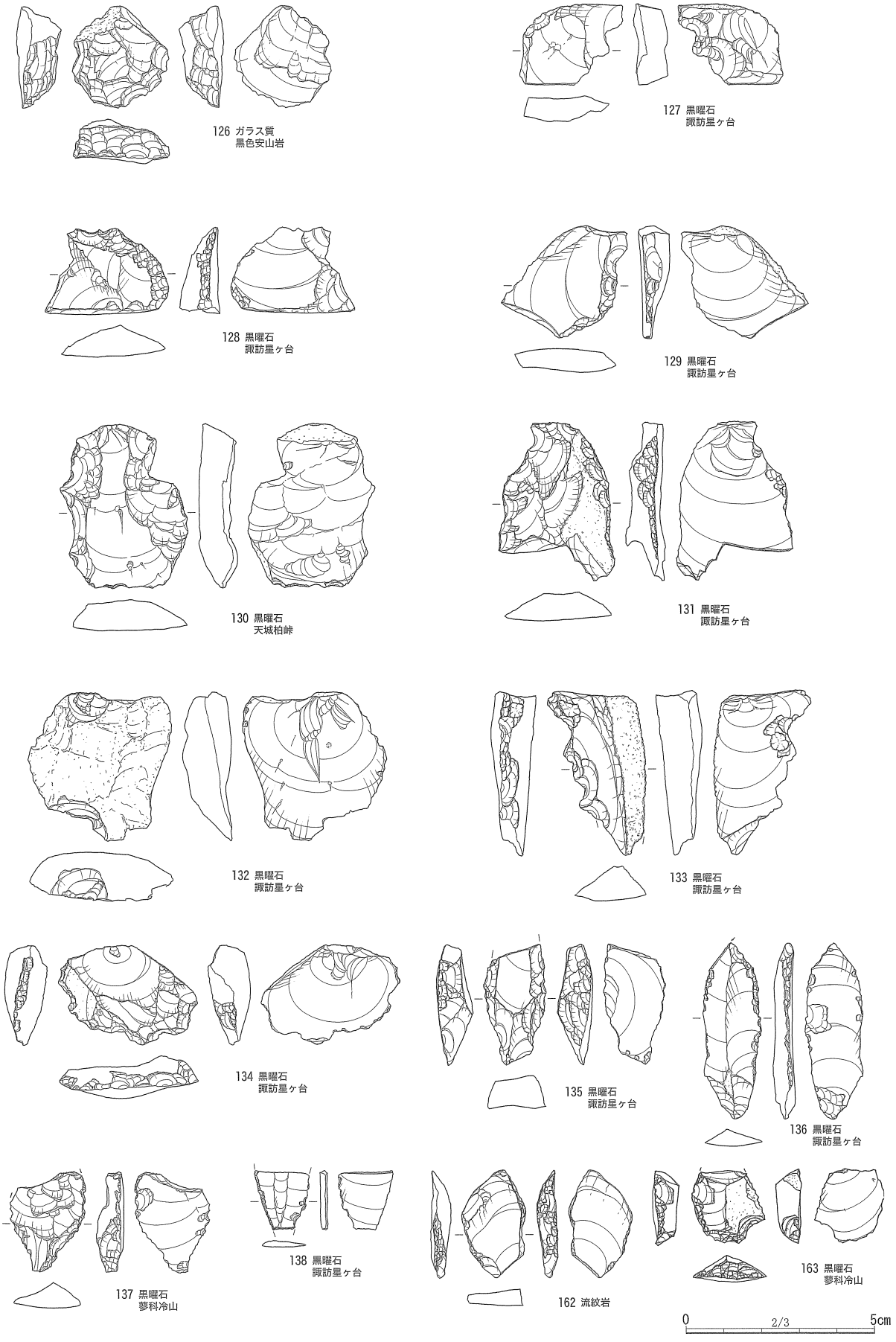
127はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の側削器である。一般的剥片の右側縁裏面に抉入状の二次加工を施して刃部を作出する。

128はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の側削器である。一般的剥片の打面から右側縁表面に類鱗状の平坦な剥離を施して凸状の刃部を作出する。裏面にも二次的な剥離痕が観察される。

129はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の側削器である。自然面打面の一般的剥片の右縁辺表面に二次加工を施して刃部を作出する。端部は折れている。

130はYLで検出された天城柏峠産黒曜石製の側削器である。縦長剥片の左縁辺に大振りな剥離を施して抉入部が二つ並んだ刃部を作出する。

131はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の側削器である。縦長剥片の左右に刃部を作出する。端



第127図　第Ⅶ文化層の石器群（2）

部は二次加工よりもあとに折れている。

132はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の抉入側削器である。背面が自然面で覆われた厚手剝片の末端付近に大振りな二次加工を施して抉入状の刃部を作出する。

133はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の鋸歯縁側削器である。背面に自然面の付いた縦長剝片の左側面に鋸歯状の二次加工を施して刃部を作出する。

134はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の鋸歯縁端削器である。一般的剝片の左縁辺から端部を主体に鋸歯状の二次加工を施して刃部を作出する。

163はBBOで検出された蓼科冷山産黒曜石製の端削器である。自然面のついた縦長剝片の端部を中心に急角度の剝離を施して刃部を作出する。打面側は折れている。

角錐状石器（135）

135はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の、角錐状石器と推測される石器である。一般的剝片を横位に用い、打面と端部を急角度な剝離で切り取って両側縁を整形する。基部には鋭い縁辺が僅かに残る。尖端部と推定される部位が折れて失われているので、背部加工ナイフ形石器や石錐の可能性もある。

彫器（136）

136はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の彫器である。石刃のバルブを平坦な剝離で除去して基部を作出し、また、端部右縁辺を急角度な剝離で切り取って尖頭部を作出しているが、側縁の二次的剝離はナイフ形石器等のそれというよりも削器の刃部のように不規則な剝離痕で構成されている。尖頭部には樋状剝離が観察されるので彫器に分類できる。

二次加工剝片（137・138）

137はBBOで検出された蓼科冷山産黒曜石製の二次加工剝片である。一般的剝片の右縁辺に急角度の二次加工を施してやや内湾させる。打面側が折れているので形状は不明である。

138はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の二次加工剝片である。石刃を縦位に用い。左側縁に規則的に連続する微細剝離を施して、側縁を整形する。尖頭部と基部と推測される部位が折れているので形状は不明であるが、背部加工ナイフ形石器の可能性が高い。

石刃（139-151）

139はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剝離痕石刃である。打面と背面に自然面のある石刃の左右縁辺に連続的な微細剝離痕が観察される。末端が折れている。

140はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剝離痕石刃である。石刃を同一方向に連続的に剝離する過程で生産された石刃の左右縁辺に連続的な微細剝離痕が観察される。

141はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の石刃である。同一方向への連続剝離過程で生産する。

142はBBOで検出されたホルンフェルス製の石刃である。同一方向への連続剝離過程で生産する。

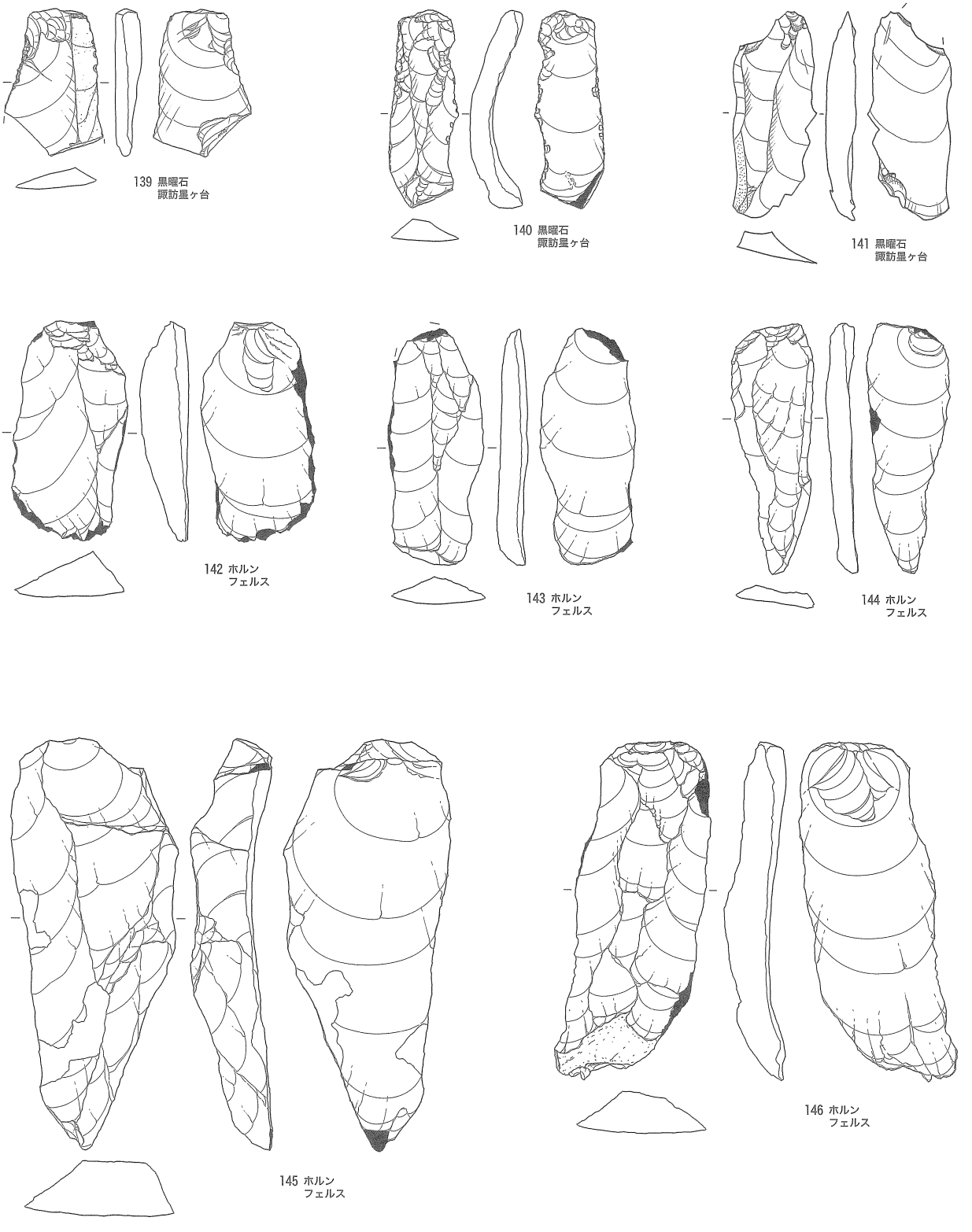
143はBBOで検出されたホルンフェルス製の石刃である。同一方向への連続剝離過程で生産する。打面が失われている。

144はBBOで検出されたホルンフェルス製の石刃である。同一方向への連続剝離過程で生産する。薄手で端部が収斂する。

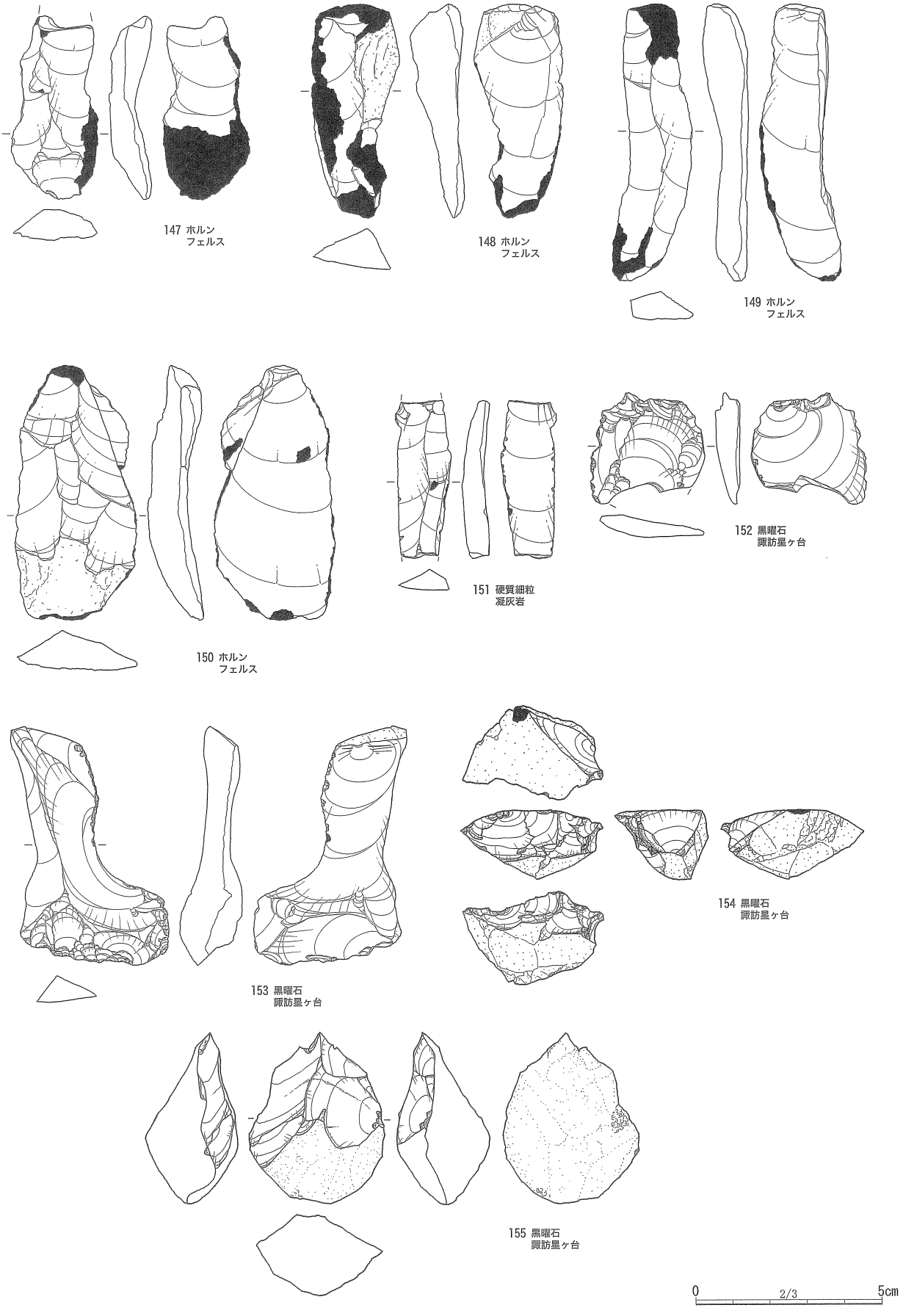
145はBBOで検出されたホルンフェルス製の石刃である。概ね同一方向への連続剝離過程で生産する。末端が収斂する。巨大なのでナイフ形石器等のタイプトゥールの素材にはなりにくいだろう。

146はBBOで検出されたホルンフェルス製の石刃である。同一方向への連続剝離過程で生産する。大型品の部類にはいる。

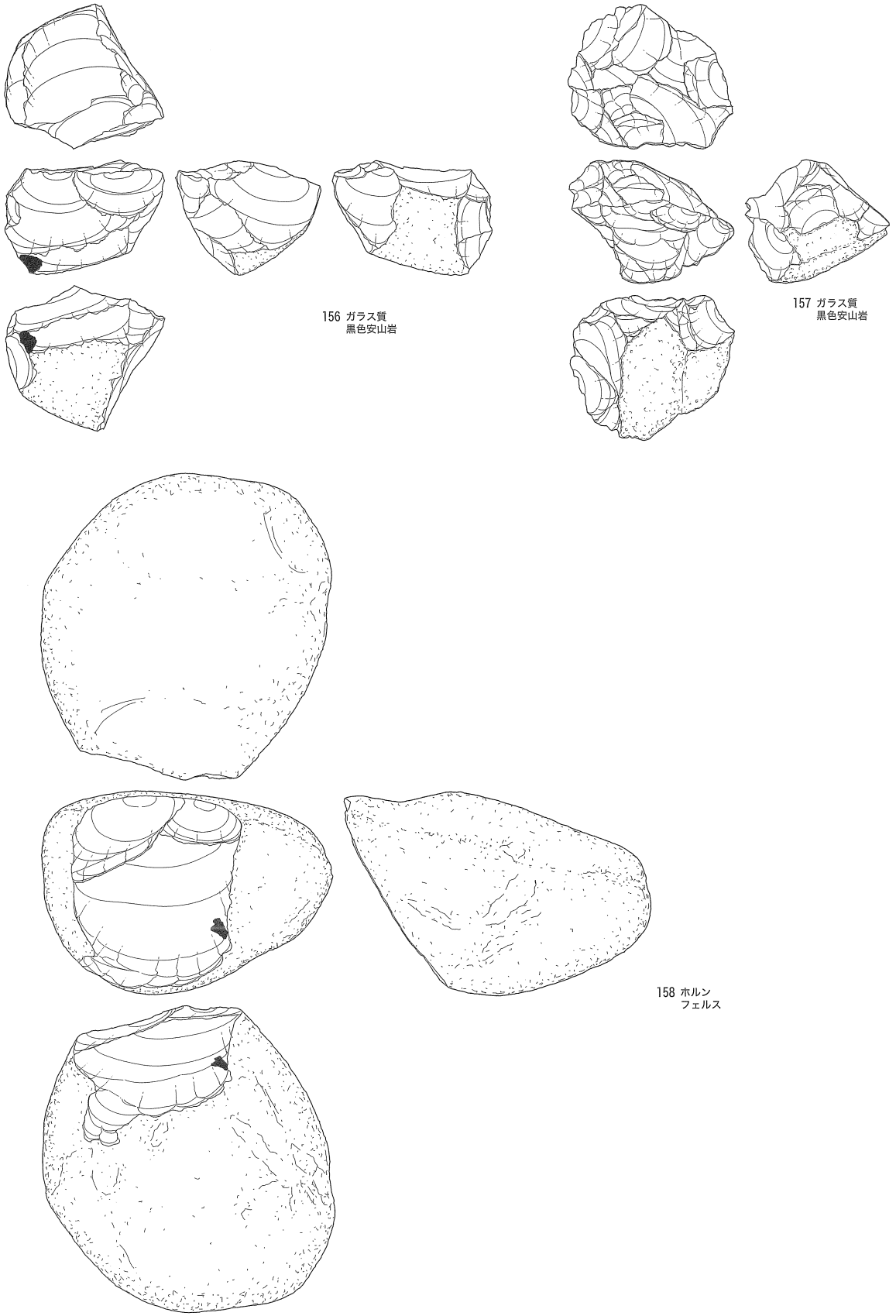
147はBBOで検出されたホルンフェルス製の石刃である。180°打面転移する剝離過程で生産する。打面が失われている。



第128図　第Ⅶ文化層の石器群（3）



第129図　第Ⅶ文化層の石器群（4）



第130図　第Ⅶ文化層の石器群（5）

148はBB0で検出されたホルンフェルス製の石刃である。打面付近の背面に厚さがある。概ね同一方向への連続剥離過程で生産するものと推測される。

149はBB0で検出されたホルンフェルス製の石刃である。同一方向への連続剥離過程で生産している可能性が高いが、風化と節理で縦に割れてしまっているので、明確な形状は読み取れない。

150はBB0で検出されたホルンフェルス製の石刃である。同一方向への連続剥離過程で生産する。末端背面に亜円礫の自然面が残る。

151はBB0で検出された硬質細粒凝灰岩製の石刃である。打面と末端が折れている。単体資料である。

微細剥離痕剥片（152・153）

152はBB0で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。一般的剥片の左右縁辺に連続的な微細剥離痕が観察される。

153はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。かなり大型の石核から剥離していることを伺わせる大型剥片の右縁辺に連続的な微細剥離痕が観察される。末端側に見られる多数の小型剥離痕は二次加工ではなく、石核の張り出し部を除去する整形加工痕と推測される。

石核（154-158）

154はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石の石核である。被覆率の高い自然面を打面にして小型剥片を連続剥離する。

155はBB0で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石の石核である。

156はBB0で検出されたガラス質黒色安山岩の石核である。自然面の付く石核の広い剥離面を主要な打面として、隣り合う二つの作業面を設定し、小型剥片を剥離する。

157はBB0で検出されたガラス質黒色安山岩の石核である。自然面の付く石核の両面を作業面として求心方向に小型剥片を剥離し、両面が凸状になる石核を残す。

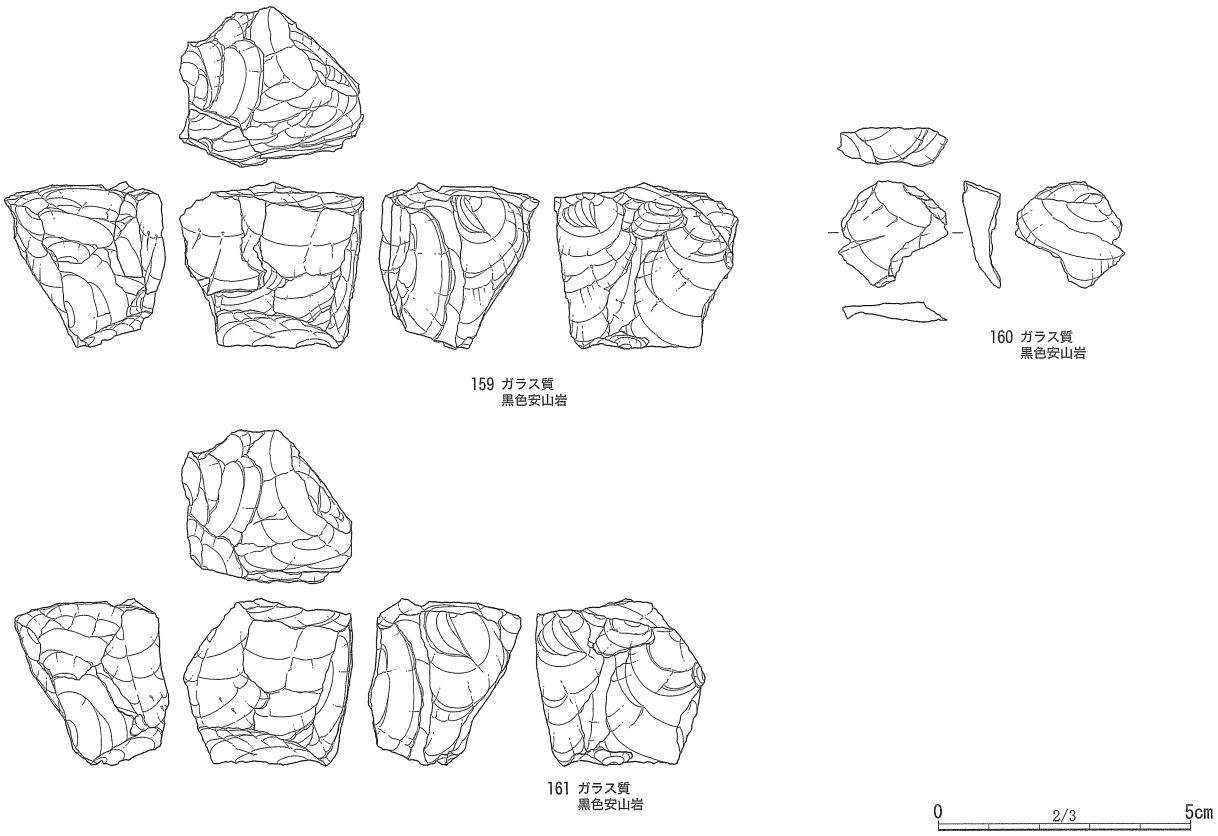
158はBB0で検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫の長軸端部の平滑な自然面に打面を設定し、打面調整を介在せず、幅広剥片を連続剥離する。形状から類推して、原石の大部分が残されていると思われる。

接合資料（159-161）

159はBB0と休場層で検出されたガラス質黒色安山岩製の剥片（160）と石核（161）の接合資料である（接合128）。多打面転移型のサイコロ状石核の剥離過程が看取できる。ともに石器集中19に含まれる。

160はガラス質黒色安山岩製剥片である。接合128の部品である。

161ガラス質黒色安山岩の石核である。接合128の部品である。



第131図　第Ⅶ文化層の石器群（6）

３．礫群

BBOを中心にして計12基の礫群が確認された（第132図）。包含層を詳細にみるとBBO上部が圧倒的に多い。層位別の内訳は、BBO中部で2基（40号と45号）、BBO上部で9基（5号、39号、44号、47号、51-55号）、BBO上部からYLL下部にかけてが1基（41号）である。

・39号・40号・41号礫群の分布（第133図）

礫群3基がA・BOグリッドを中心に近接して分布する。標高の低い南西の方から順に、39号、40号、41号礫群とした。

39号礫群（第134図）

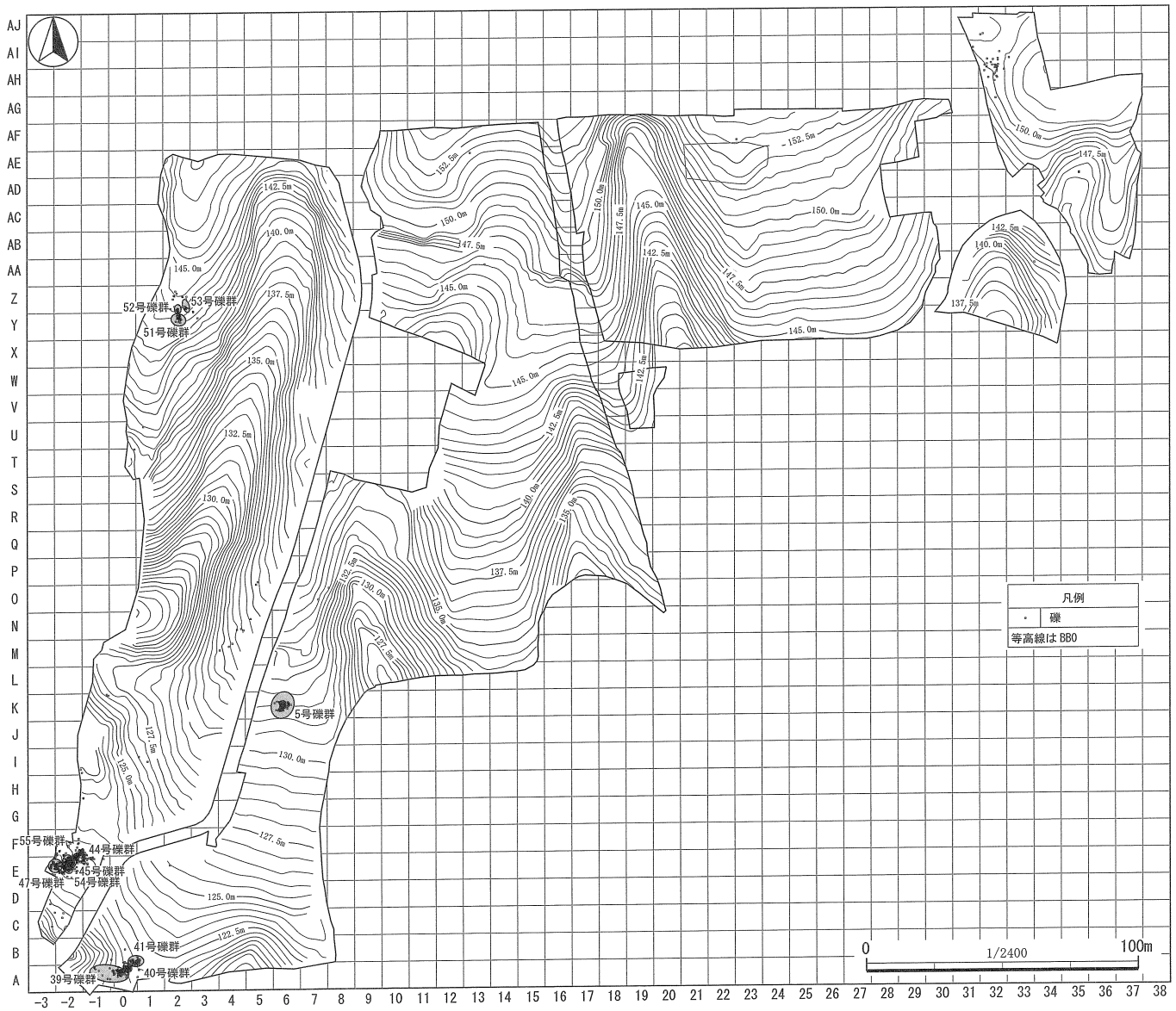
BBO上部を中心に包含され、89点で構成される。

40号礫群（第135図）

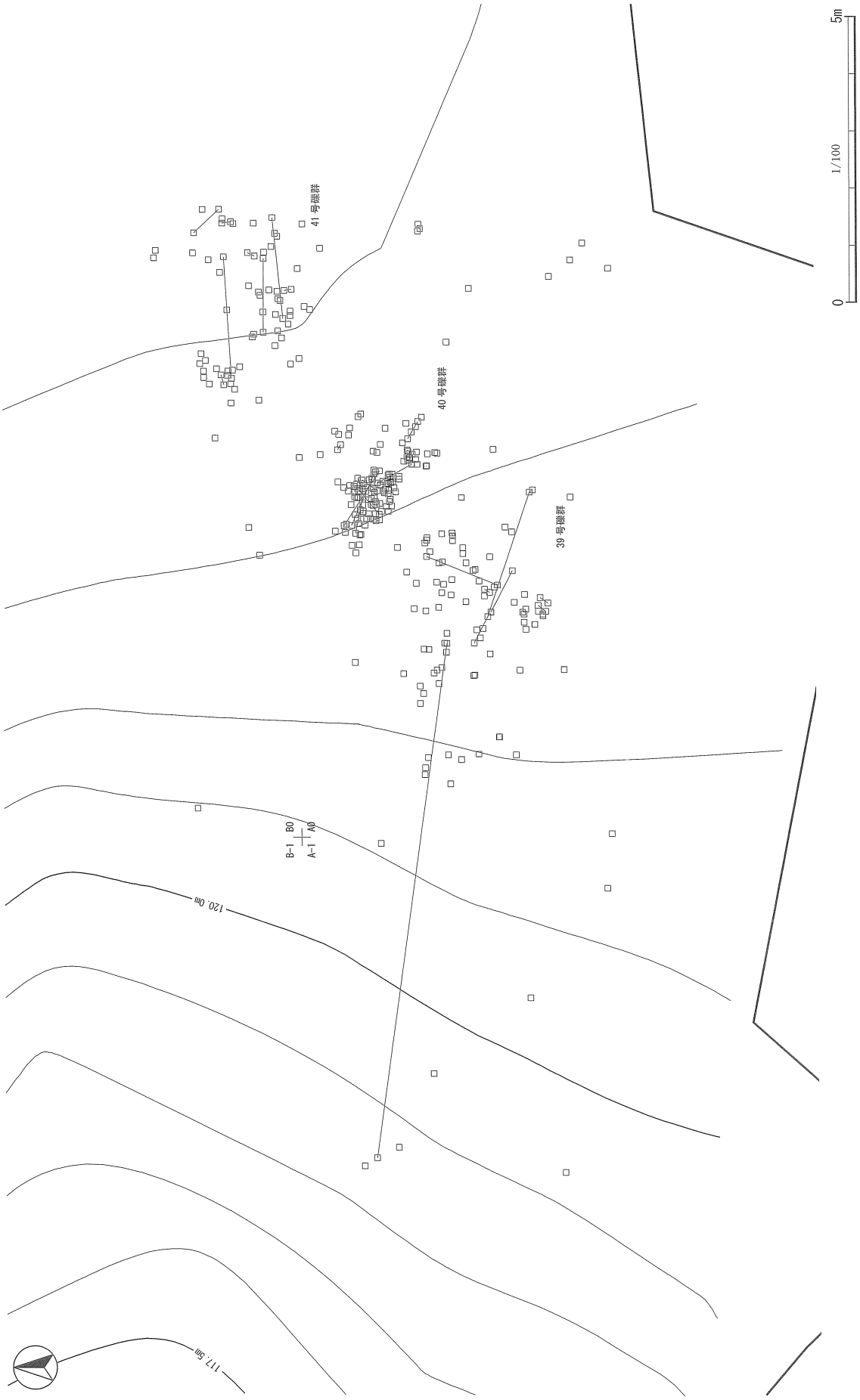
BBO中部に包含され、137点で構成される。

41号礫群（第136図）

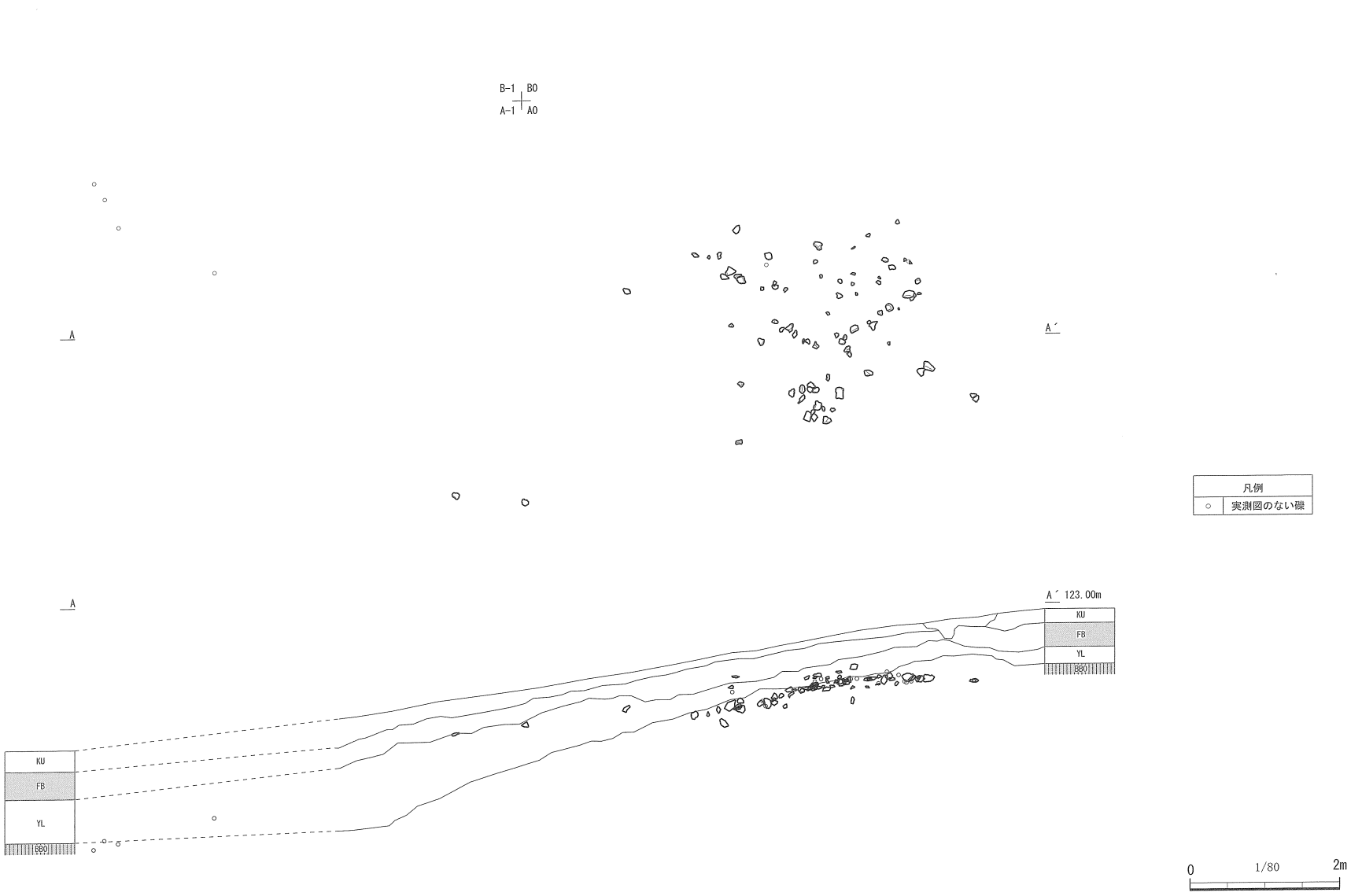
BBO上部からYLL下部に包含され、70点で構成される。39号と40号に比べて高い層位から出土した礫が多く、第Ⅷ文化層に帰属する可能性もある。



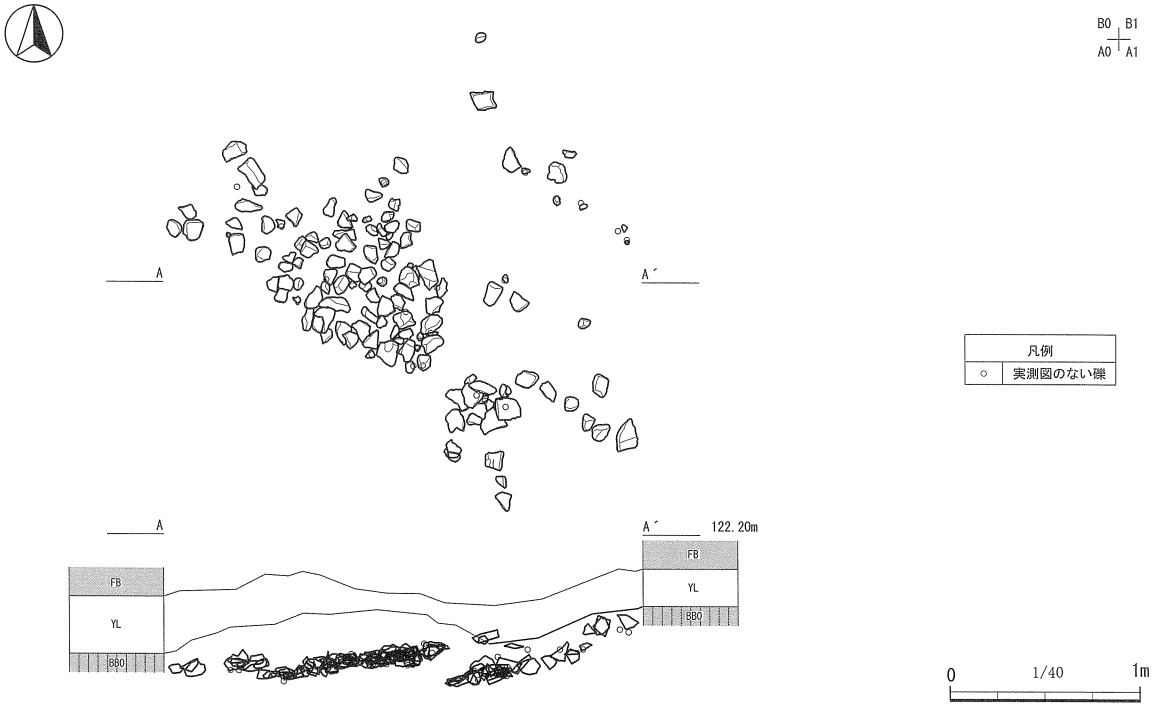
第132図　第Ⅶ文化層　礫分布



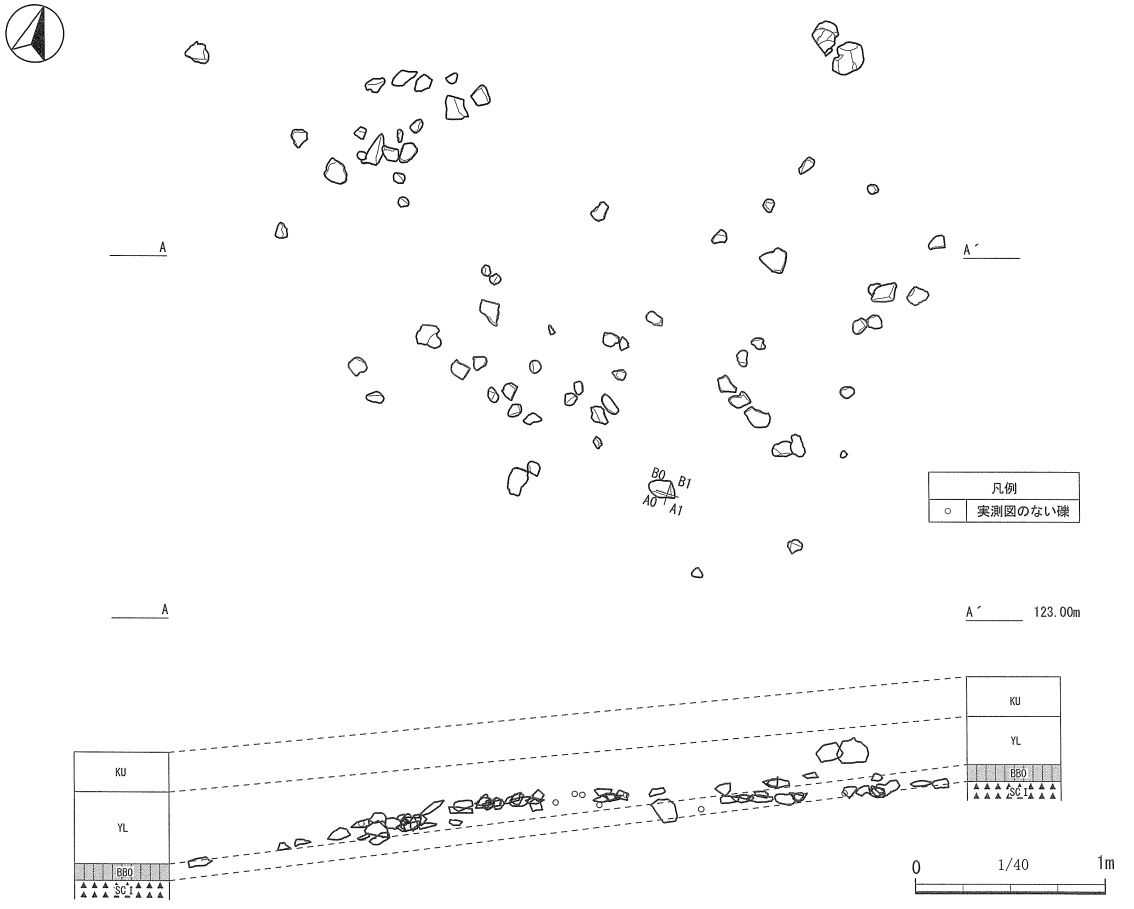
第133図　第Ⅶ文化層　39号・40号・41号礫群の分布



第134図　第Ⅶ文化層　39号礫群



第135図　第Ⅶ文化層　40号礫群



第136図　第Ⅶ文化層　41号礫群

・44号・45号・47号・54号・55号礫群の分布（第137図）

E-2グリッドを中心に礫群5基が近接して分布する。

44号礫群（第138図）

E-2とF-2グリッドに跨がって分布し、BBO上部に包含される。14点で構成される。

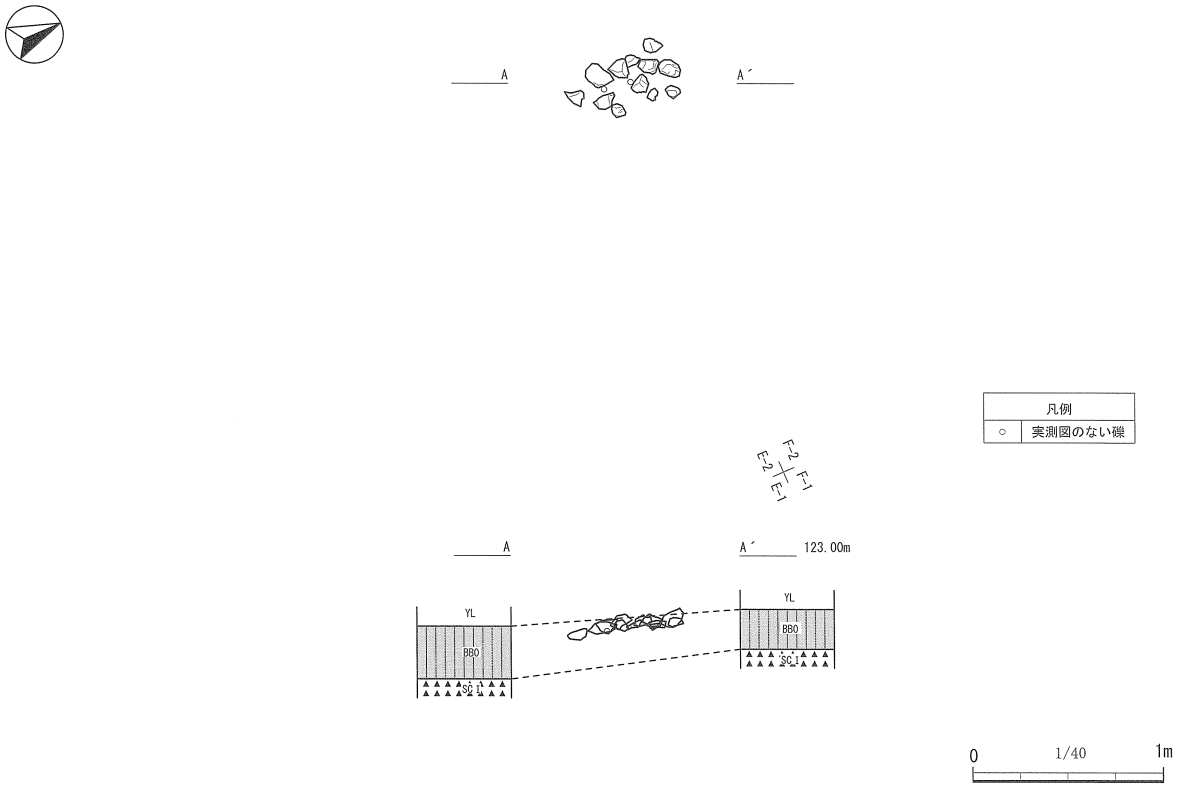
45号・54号・55号礫群（第139図）

BBO中部に包含され、それぞれ210点、111点、125点で構成される。互いに近接しており、また規模も似ている。

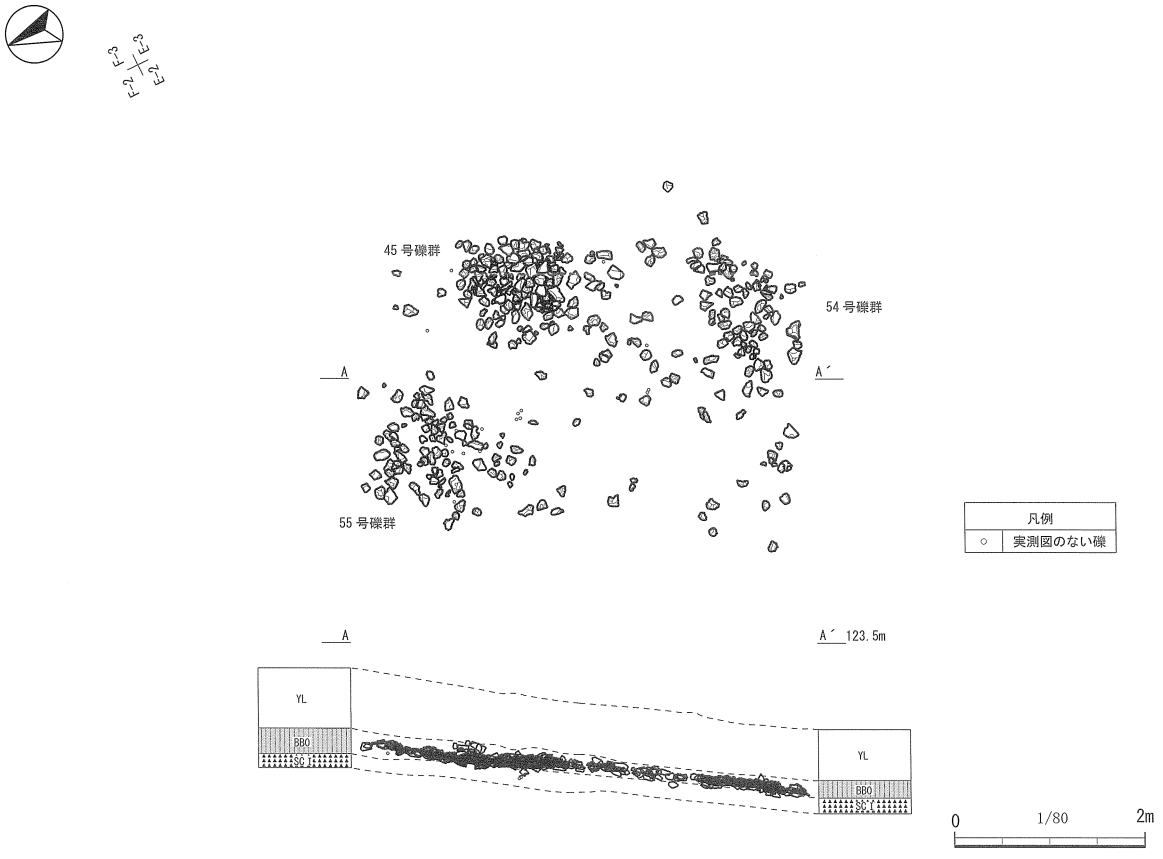
47号礫群（第140図）

BBO上部に包含され、67点で構成される。垂直投影すると上下幅広く見えるが、これは斜面上で拡散しているためである。

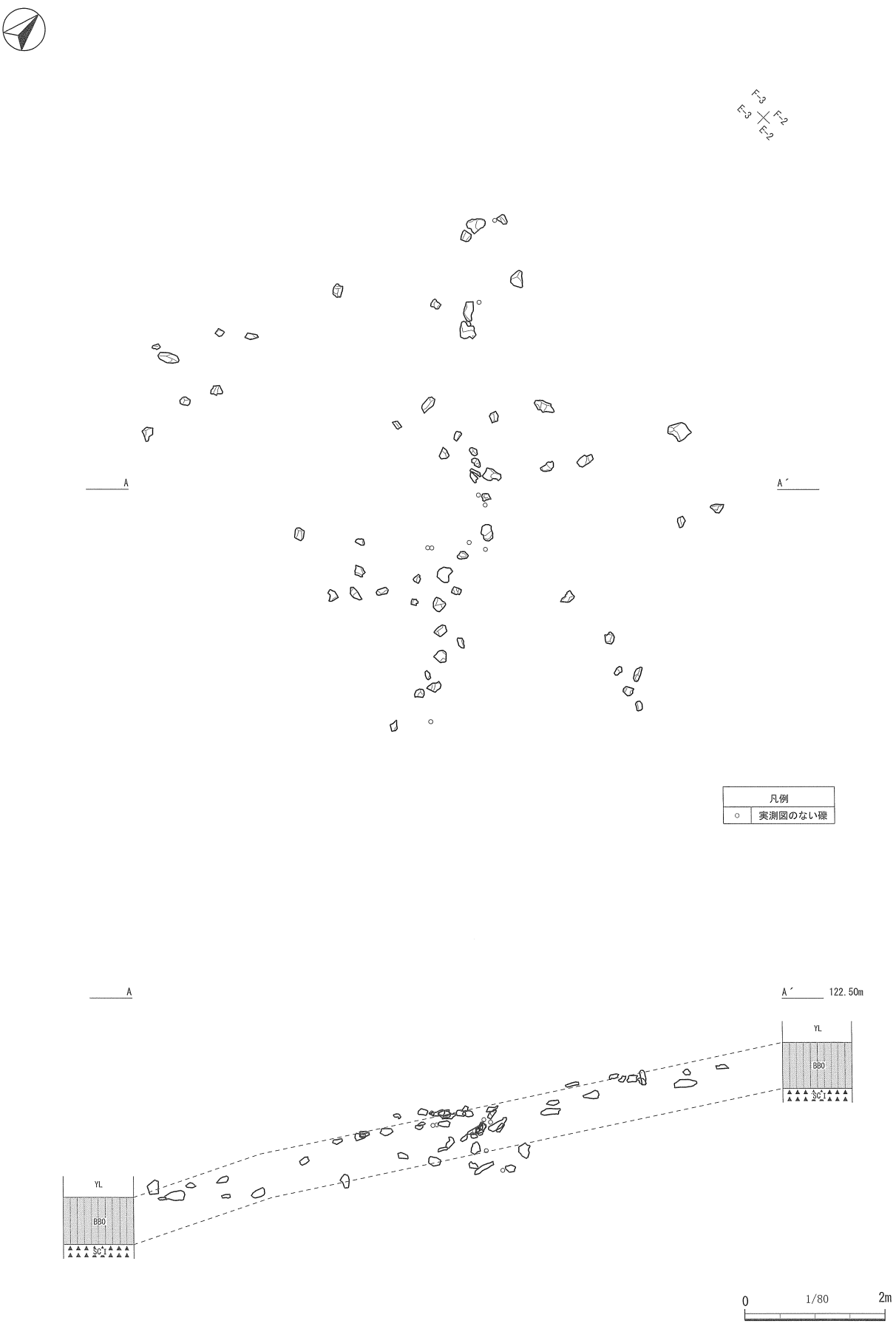
第137図　第Ⅶ文化層　44号・45号・47号・54号・55号礫群の分布



第138図　第Ⅶ文化層　44号礫群



第139図　第Ⅶ文化層　45号・54号・55号礫群



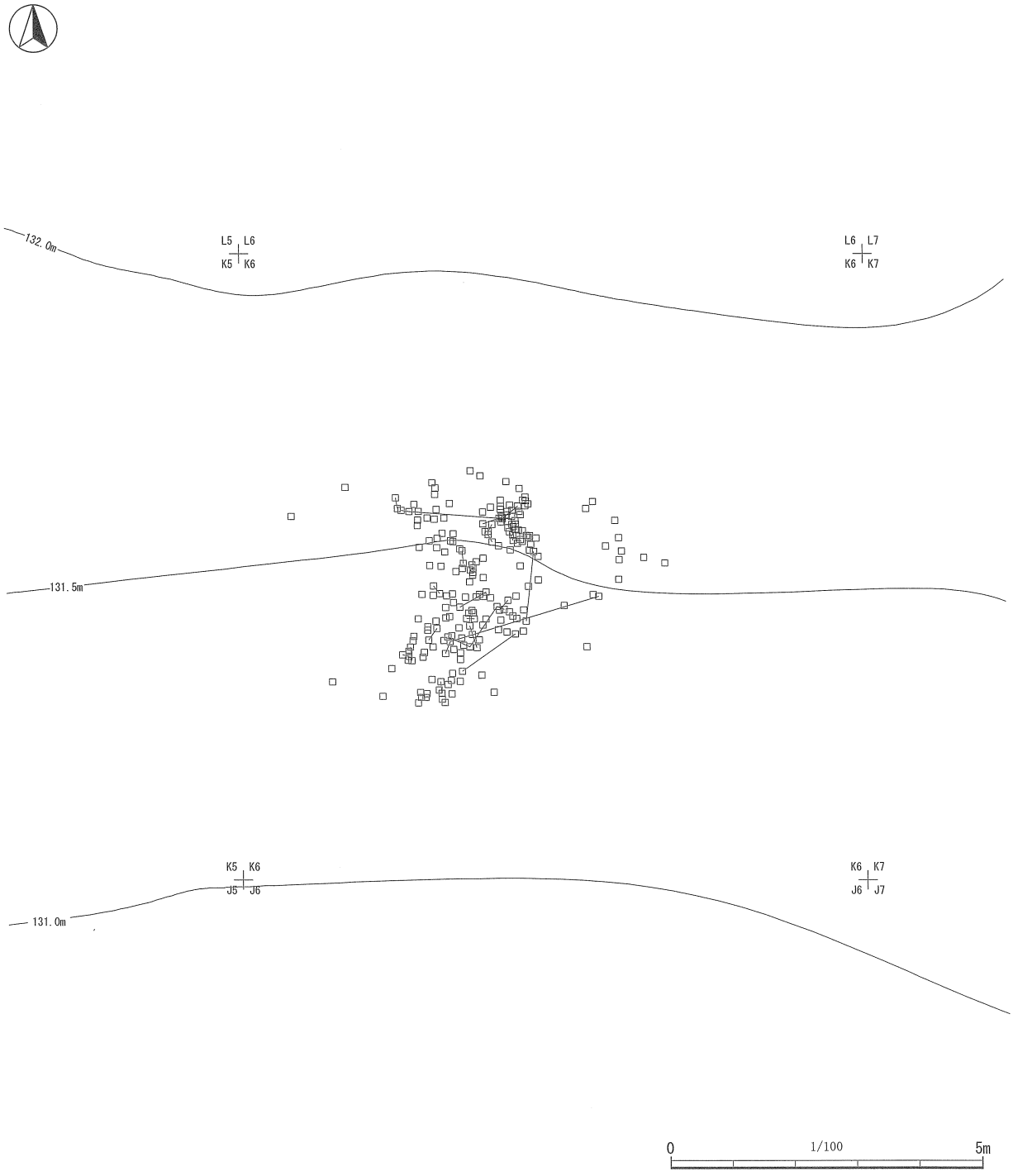
第140図　第Ⅶ文化層　47号礫群

・**5号礫群の分布**（第141図）

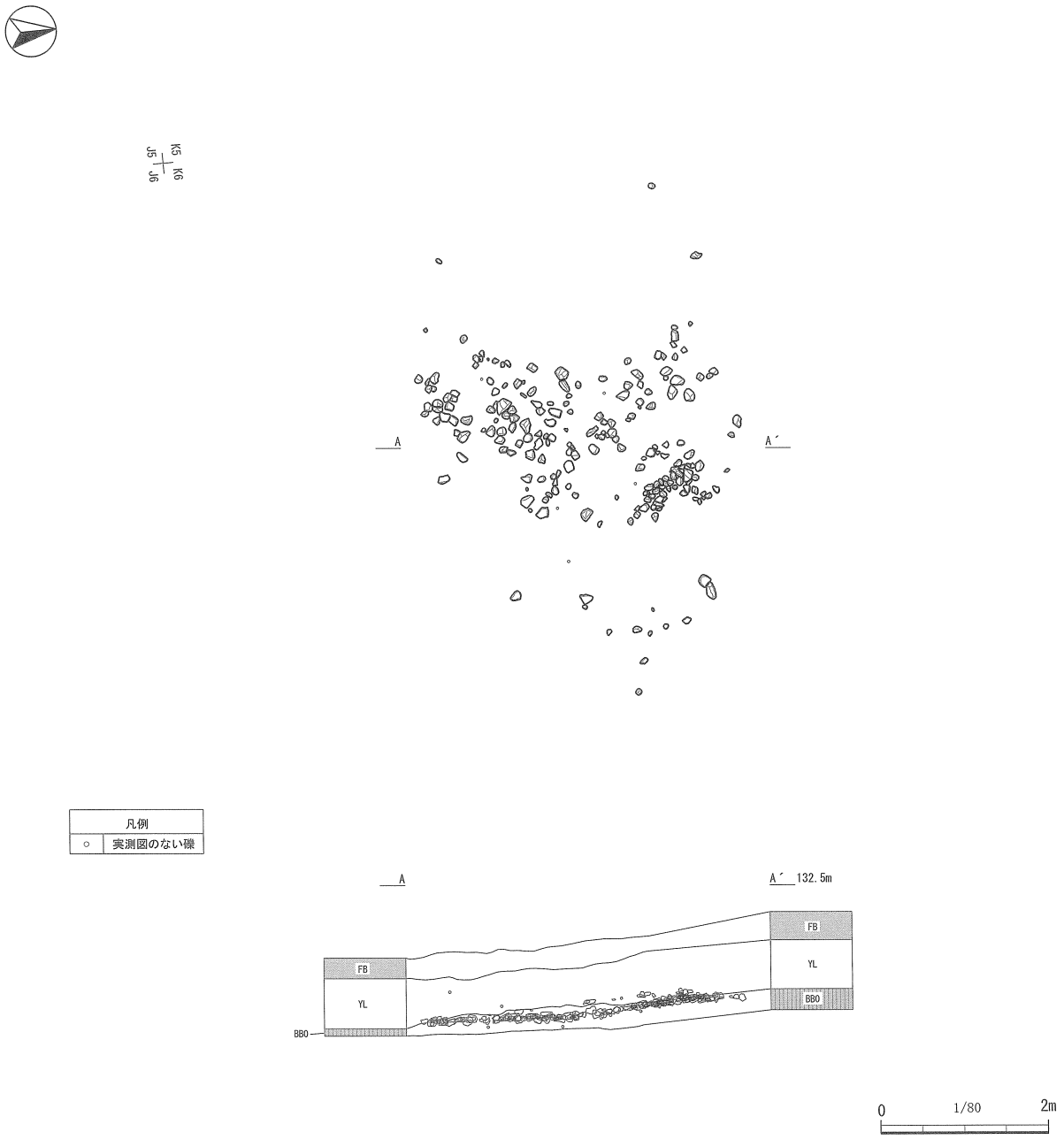
K6グリッドを中心に分布する。

5号礫群（第142図）

BB0上部に包含され、217点で構成される。ここでは実測図を優先して第Ⅶ文化層に帰属させたが、写真で見る限り、休場層の落ち込んだ土壌内にあるため休場層下部を包含層としている可能性がある。その場合は第Ⅷ文化層の4号、6号、7号礫群と大変近接した関係にあり、同文化層の石器集中とも近しい。



第141図　第Ⅶ文化層　5号礫群の分布



第142図　第Ⅶ文化層　5号礫群

・51号・52号・53号礫群の分布（第143図）

Y・Z2グリッドで礫群3基が近接して分布する。いずれの規模も小さい。

51号礫群（第144図）

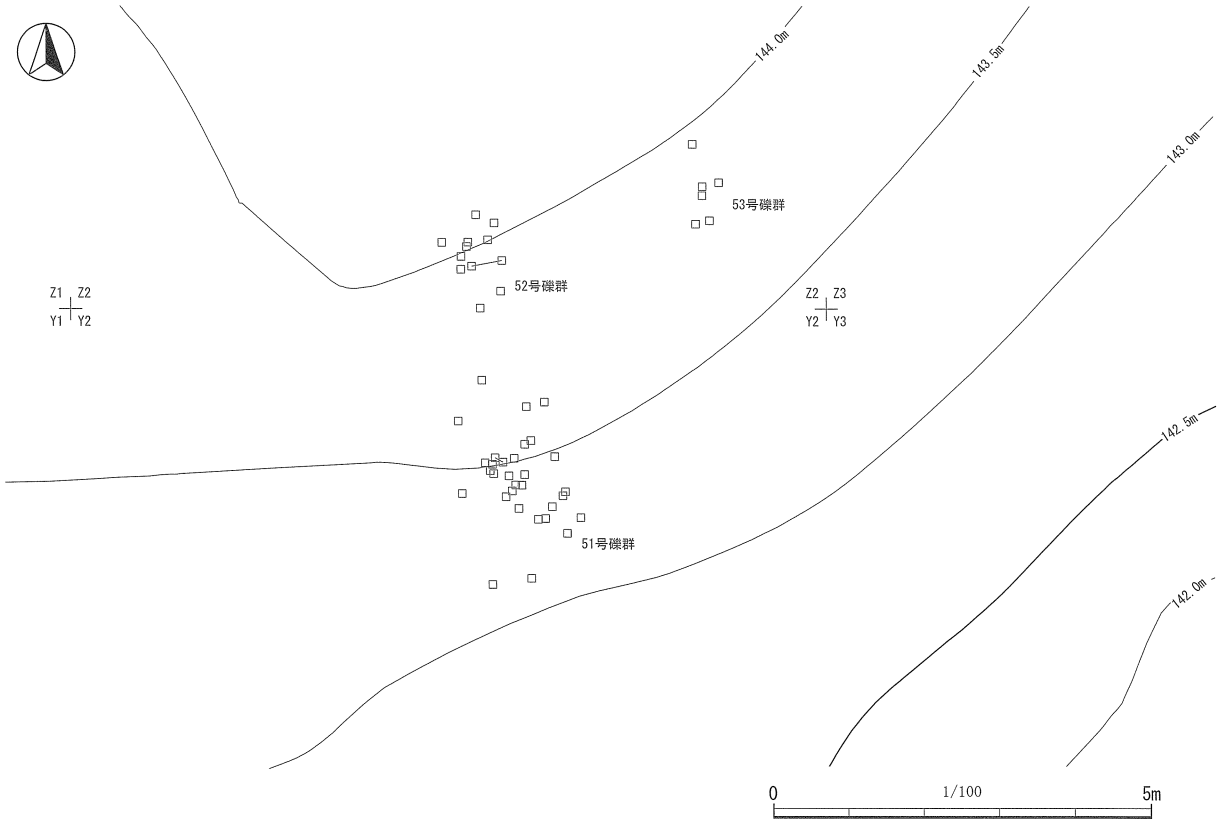
BBO上部に包含され、31点で構成される。

52号礫群（第145図）

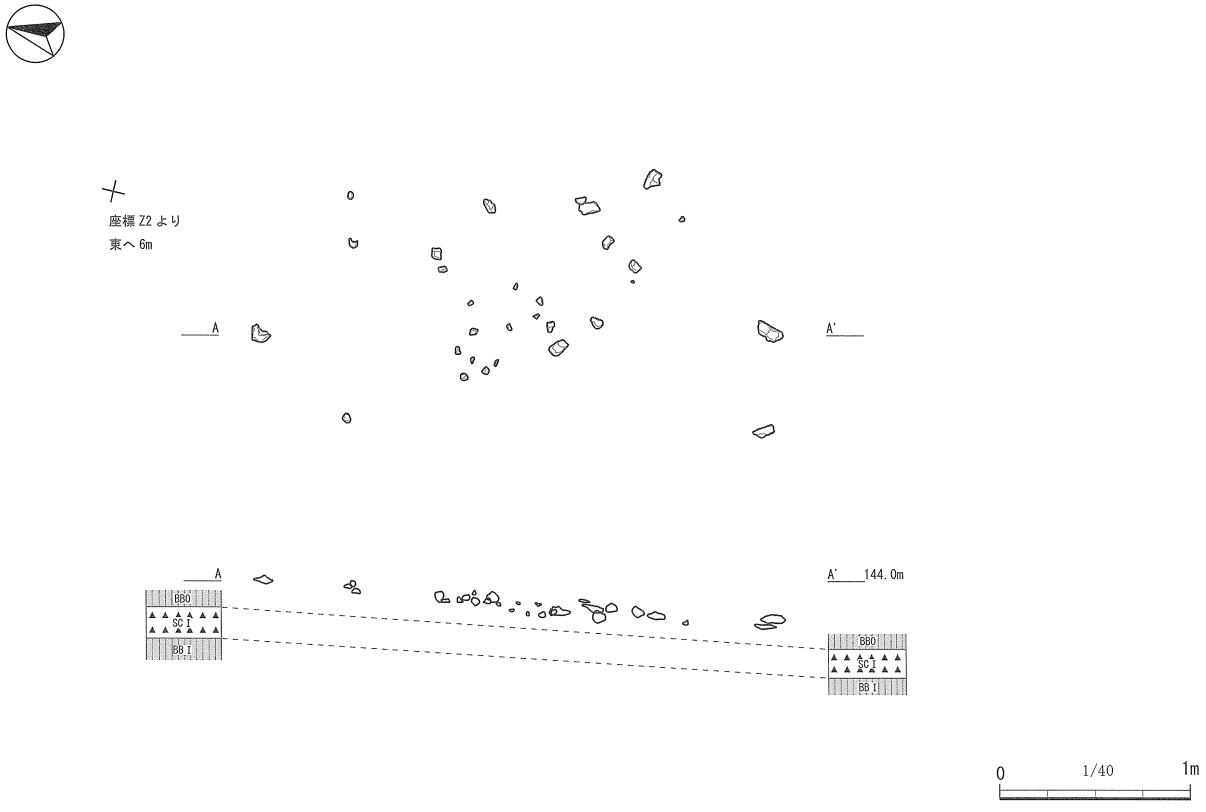
BBO上部に包含され、12点で構成される。

53号礫群（第146図）

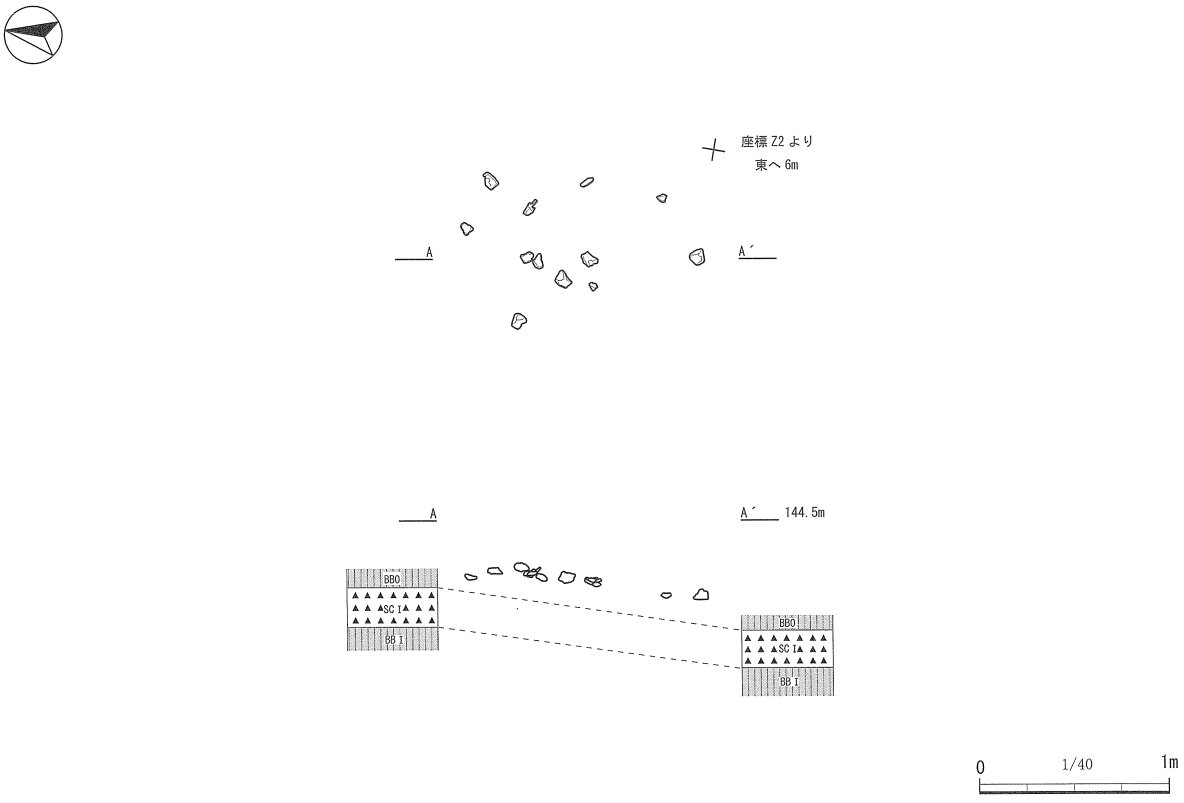
BBO上部に包含され、6点で構成される。



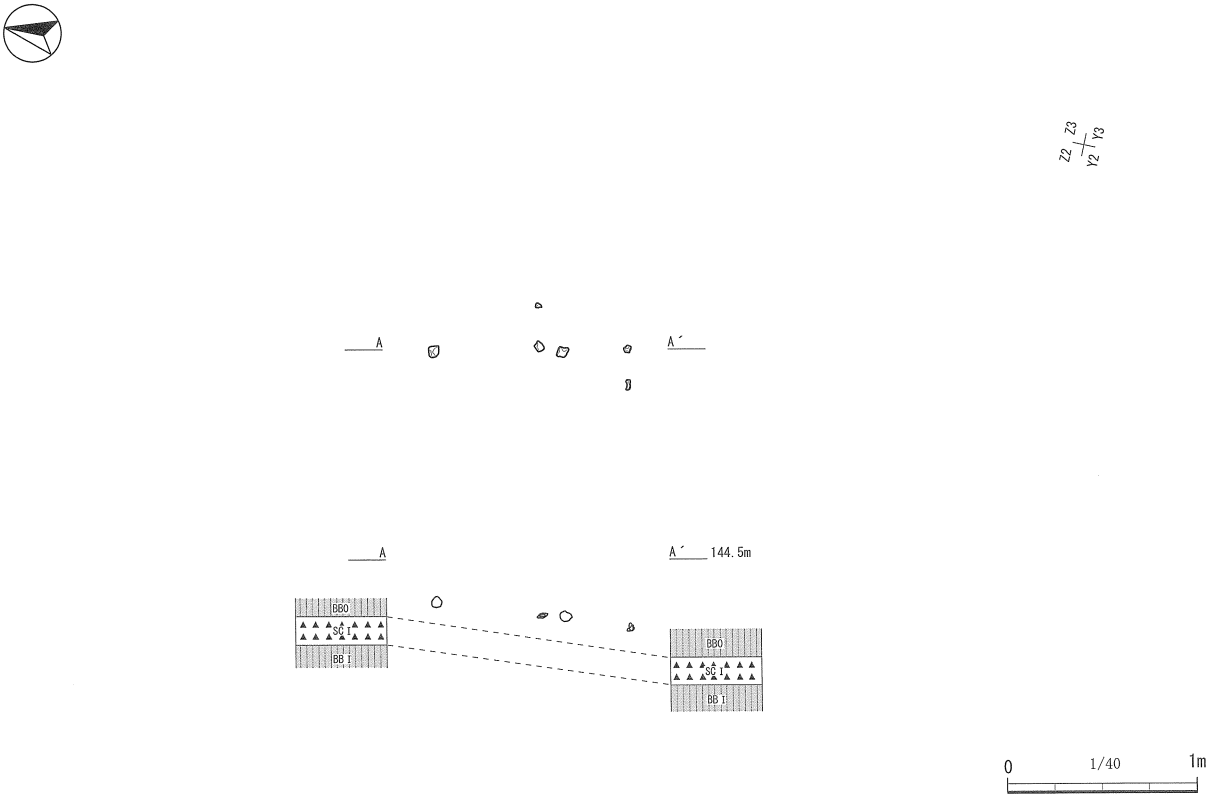
第143図　第Ⅶ文化層　51号・52号・53号礫群の分布



第144図　第Ⅶ文化層　51号礫群



第145図　第Ⅶ文化層　52号礫群



第146図　第Ⅶ文化層　53号礫群

第８節　第Ⅷ-Ｘ文化層
（休場層を中心とする遺構と遺物）

概要

本遺跡の休場層から検出された石器群は愛鷹・箱根編年「第3期」後半から「第5期」までのいずれかの時期に帰属するものと思われるが、多くの地点で多時期の石器群が混在する状況が観察され分離は容易でなかった。そこで休場層を主体とする石器群の文化層設定は次のような手順で行うことにした。

① 礫群の包含層準は休場層下部、休場層中部、休場層上部の概ね3枚にわけられることから、それぞれ第Ⅷ文化層、第Ⅸ文化層、第Ｘ文化層と設定した。文化層設定の基礎となった礫群はそれぞれ第273・290・312図のように文化層ごとに分布図を作成した。

② 休場層の石器群と、縄文時代遺物の主要包含層から出土したが型式や風化の度合いから旧石器時代のものと推測される石器群とを両方含む平面的な石器集中を抽出した。

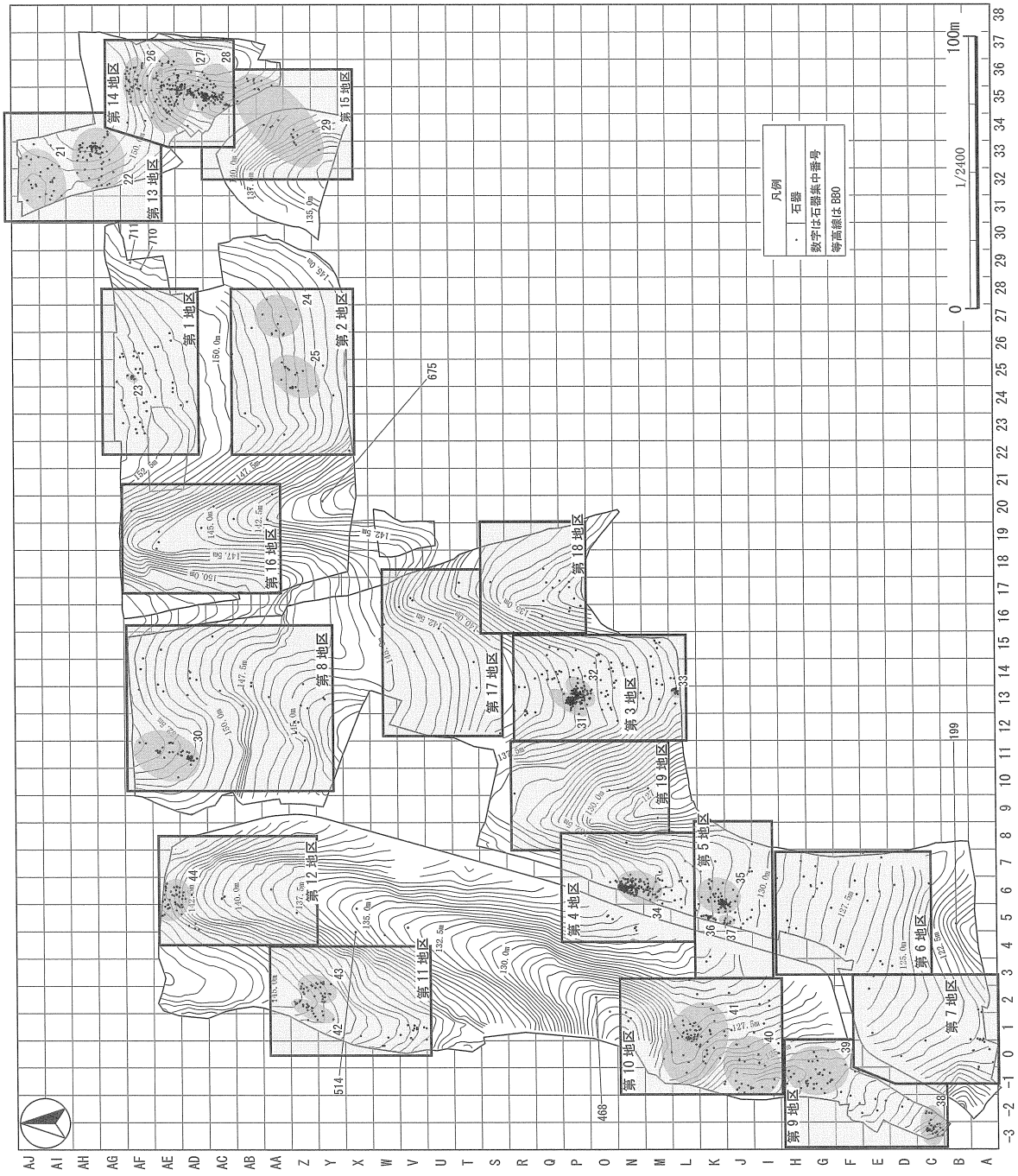
③ 石材・母岩と型式の垂直・平面的分布密度と接合資料を視覚的に確認して、既存の編年を参考にしつつ、文化層設定を行った。

また、本節での遺構・遺物の提示方法も第Ⅶ文化層までのそれと異なる。まず広大な調査区の中から目立って石器が検出されている場所を「地区」として切り出し、第1地区から第19地区までを設定した（第147図）。そして、そのなかから上述①から③までの方法によって石器集中を抽出し、第Ⅷ文化層から第Ｘ文化層に帰属させていった。石器集中外の石器は近くの石器集中と大体同じ文化層とみなしている。

しかし、主要な包含層が確認できない石器集中や明らかに多時期の石器が混在している石器集中については「第Ⅷ-Ｘ文化層」のような表現で曖昧な位置づけに留まった。タイプ・トゥールの時期が異なると判断できても剥片類の時期を判断することができなかったからである。

第Ⅷ文化層から第Ｘ文化層の石器分布を集合的に示したのが第147図である。各地区にある文化層は以下のようにまとめられる（「不明」となっているのは、石器が少なすぎて検討不能なもの）。

第1地区　石器集中23	第Ⅷ文化層（または第Ⅸ文化層）
第2地区　石器集中24・25	第Ⅷ-Ｘ文化層
第3地区　石器集中31・32、石器集中33	第Ⅸ文化層、第Ⅷ文化層
第4地区　石器集中34	第Ⅸ文化層
第5地区　石器集中35・36・37	第Ⅷ文化層
第6地区	第Ⅷ-Ｘ文化層
第7地区	第Ⅷ-Ｘ文化層
第8地区　石器集中30	第Ⅸ文化層
第9地区　石器集中38、石器集中39	第Ⅷ-Ｘ文化層
第10地区　石器集中40・41	第Ⅷ-Ｘ文化層
第11地区　石器集中42、石器集中43	第Ⅷ-Ｘ文化層
第12地区　石器集中44	第Ⅷ-Ｘ文化層
第13地区　石器集中21・22	第Ⅷ文化層
第14地区　石器集中26・27・28	第Ⅸ・Ｘ文化層
第15地区　石器集中29	第Ⅸ・Ｘ文化層
第16地区	不明



第147図　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器分布

第17地区　不明
第18地区　不明
第19地区　不明

層位と石器群内容との対応関係において比較的信頼のおける文化層（ないし石器集中）は下に挙げる地区の第Ⅷ文化層と第Ⅸ文化層に限られている。これらはとても重要なので第6章にて再検討する。

第1地区　第Ⅷ文化層（または第Ⅸ文化層）
第3地区　第Ⅷ文化層と第Ⅸ文化層
第4地区　第Ⅸ文化層
第5地区　第Ⅷ文化層
第8地区　第Ⅸ文化層

細石刃石器群については当初第Ｘ文化層を構成するものと期待していたが、神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃が下はBBO、上はKUなどからも出土し、層位的に確かな状態にはなかったため文化層としての抽出はできなかった。平面的なまとまりとしては第11地区と第14地区にそれぞれ野岳・休場型細石刃核を伴って検出されている。また第2地区では船野型細石刃核が単独で出土した。

なお、地区番号と石器集中番号は整理作業中に検討した順序をそのまま残してしまったもので、考古学的意図はない。

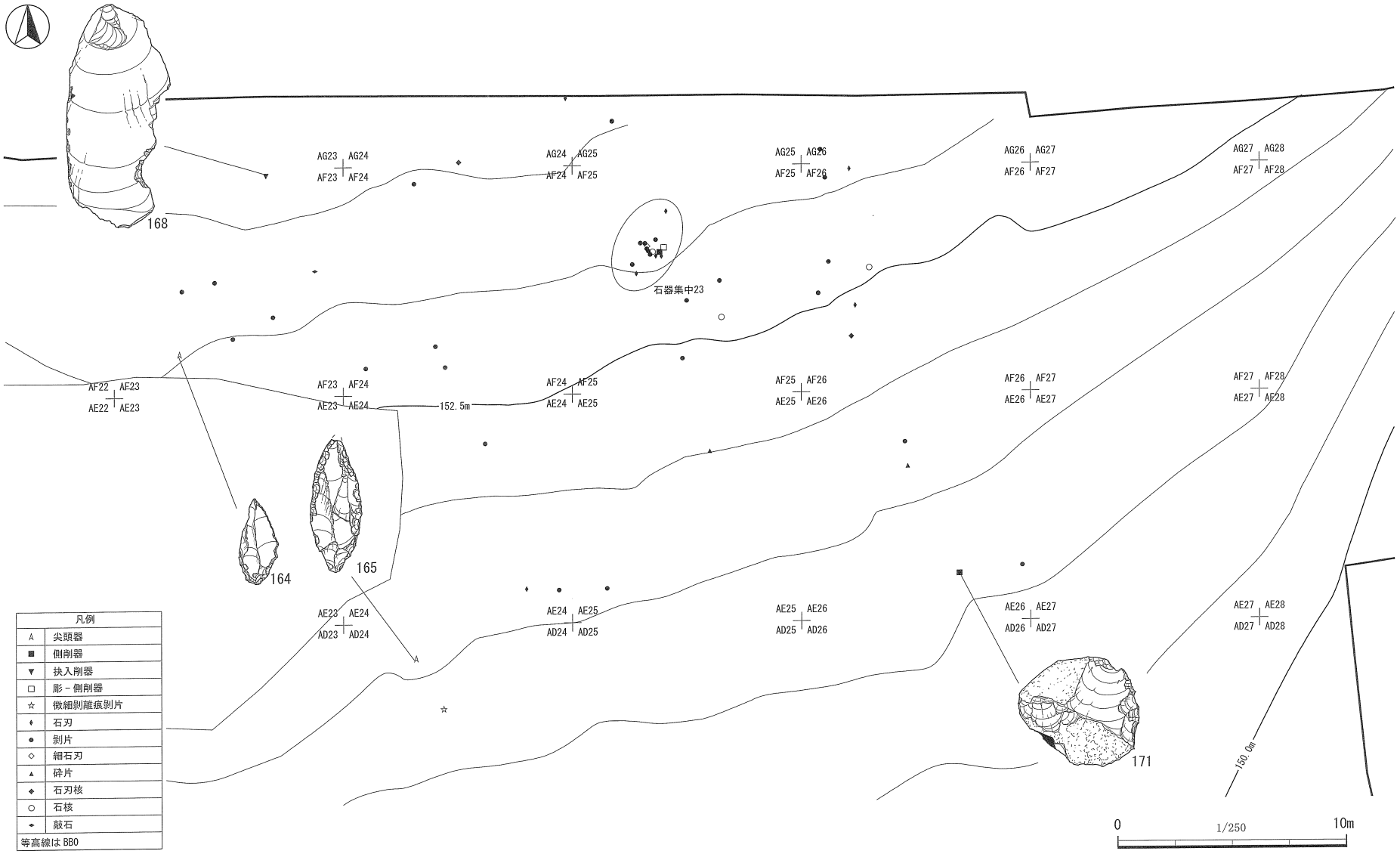
１．第1地区の石器群（第148-154図、表29）

AE・AF23-26グリッドを中心とする範囲である。石器集中23と礫群3基（15・16・17号）が分布する。実測図や取り上げ台帳によると、石器群と礫群はともに休場層下部の比較的高い層準に包含されていたと記録されている。しかし調査時のカラー写真を確認すると、「YLL」とされた層は確かにぼそぼそした質感があるが、直上にFBが堆積しており、YLLというよりも全体としてYLと捉えるのが適切だったように思われる。ここでは調査時の判断を優先しておくが、本地区石器群の中心的包含層は休場層中部だった可能性を指摘しておきたい。

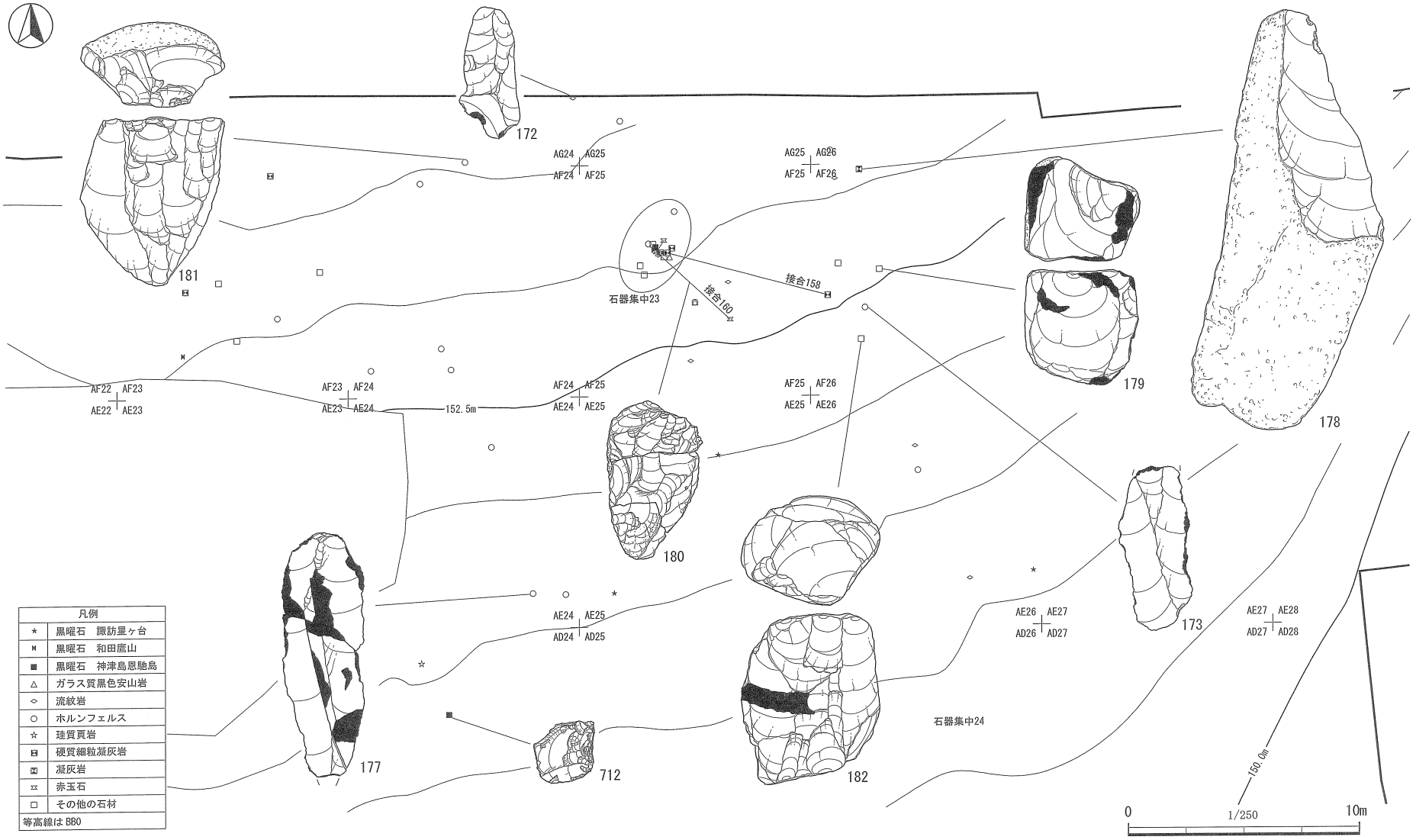
石器群は石刃石器群が主体である。第1石材のホルンフェルス製石刃および石刃核はもとより、珪質頁岩製周縁加工尖頭器（165）、和田鷹山産黒曜石製尖頭器（164）、硬質細粒凝灰岩製削器関連資料（166-168）なども石刃素材である。神津島恩馳島産細石刃が組成する点はこの遺跡で広く見られる現象で、多時期の混在を示唆する主要な要素といえる。なお、赤玉石が原石搬入され数回剥離されている（180）。

表29　第1地区　第Ⅷ文化層　石器組成

	黒曜石 諏訪星ヶ台	黒曜石 和田鷹山	黒曜石 神津島恩馳島	流紋岩	ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	輝石安山岩	赤玉石	凝灰岩	硬質細粒凝灰岩	珪質頁岩	珪質シルト岩	ホルンフェルス	計
尖頭器		1									1			2
側削器				1						1				2
抉入削器										1				1
彫-側削器										1				1
微細剥離痕剥片			1											1
石刃				1	1	1			1			1	3	8
剥片	2			5	1	4		2		3		1	11	29
細石刃			1											1
砕片	1												1	2
石核						1		1		1				3
石刃核						1							1	2
敲石							1							1
計	3	1	2	7	2	7	1	3	1	7	1	2	16	53



第148図　第1地区　第Ⅷ文化層　器種別分布



第149図　第1地区　第Ⅷ文化層　石材別分布

（１）石器集中

石器集中23（第150・151図、表30）

AF25グリッドの休場層中部を中心に分布する。垂直分布図にはBBⅠとそれ以下にも石器が包含されていたように示されているが、取り上げ時に記録された層位は休場層である。遺物の取り上げに何らかの人為的ミスがあった可能性が高い。休場層内での位置づけについては上述のとおりである。

石器15点で構成され、硬質細粒凝灰岩製の側削器1点、彫-側削器1点といった二次加工石器類が組成する。いずれも石刃製である。ホルンフェルス製石刃も多く、全体に石刃石器群の様相を呈する。以上の内容は愛鷹・箱根地域における休場層中部の石器群と類同であり、土層を写真で見た際の所見とも調和する。

表30　第1地区　第Ⅷ文化層　石器集中23　石器組成

	黒曜石 神津島 恩馳島	流紋岩	ガラス質 黒色安山岩	細粒 安山岩	赤玉石	硬質細粒 凝灰岩	珪質 シルト岩	ホルン フェルス	計
側削器						1			1
彫-側削器						1			1
石刃			1	1			1	1	4
剝片		1		1	2	1	1	1	7
細石刃	1								1
石核						1			1
計	1	1	1	2	2	4	2	2	15

（２）出土石器の検討（第152-154図）

710は第1地区の石器分布域から少し東に離れた場所のFBで検出された蓼科冷山産黒曜石製の切出形石器である。一般的剝片を横位に用い、打面側を急角度な剝離で切り取って基部を整形し、また、末端も切り取って背部を整形するとともに斜刃の尖頭部を作出する。基部は折れている。なお第1地区の分布図と組成表には編入されていない。

711は第1地区の石器分布域から少し東に離れた場所のFBで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剝片を縦位に用い、左縁辺を打面から末端まで急角度の剝離で切り取って、側縁を整形し、側縁を打面として裏面に入念な平坦剝離を施して基部を整形する。平坦剝離に付随して、左側縁に彫刀面状の剝離が及ぶのが確認される。なお第1地区の分布図と組成表には編入されていない。

164はYLMで検出された和田鷹山産黒曜石製の尖頭器である。石刃を縦位に用い、両縁辺の打面側に急角度な剝離を施して基部を作出する。また、左縁辺に微細な剝離、右縁辺裏面に微細な剝離をそれぞれ施して、基部加工と連続する側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。素材となる石刃の打面は残す。

165はYLLで検出された珪質頁岩製の周縁加工尖頭器である。石刃を素材としてこれを縦に用い、背面左右縁辺に類鱗状の二次加工を施して木葉形に整形する。

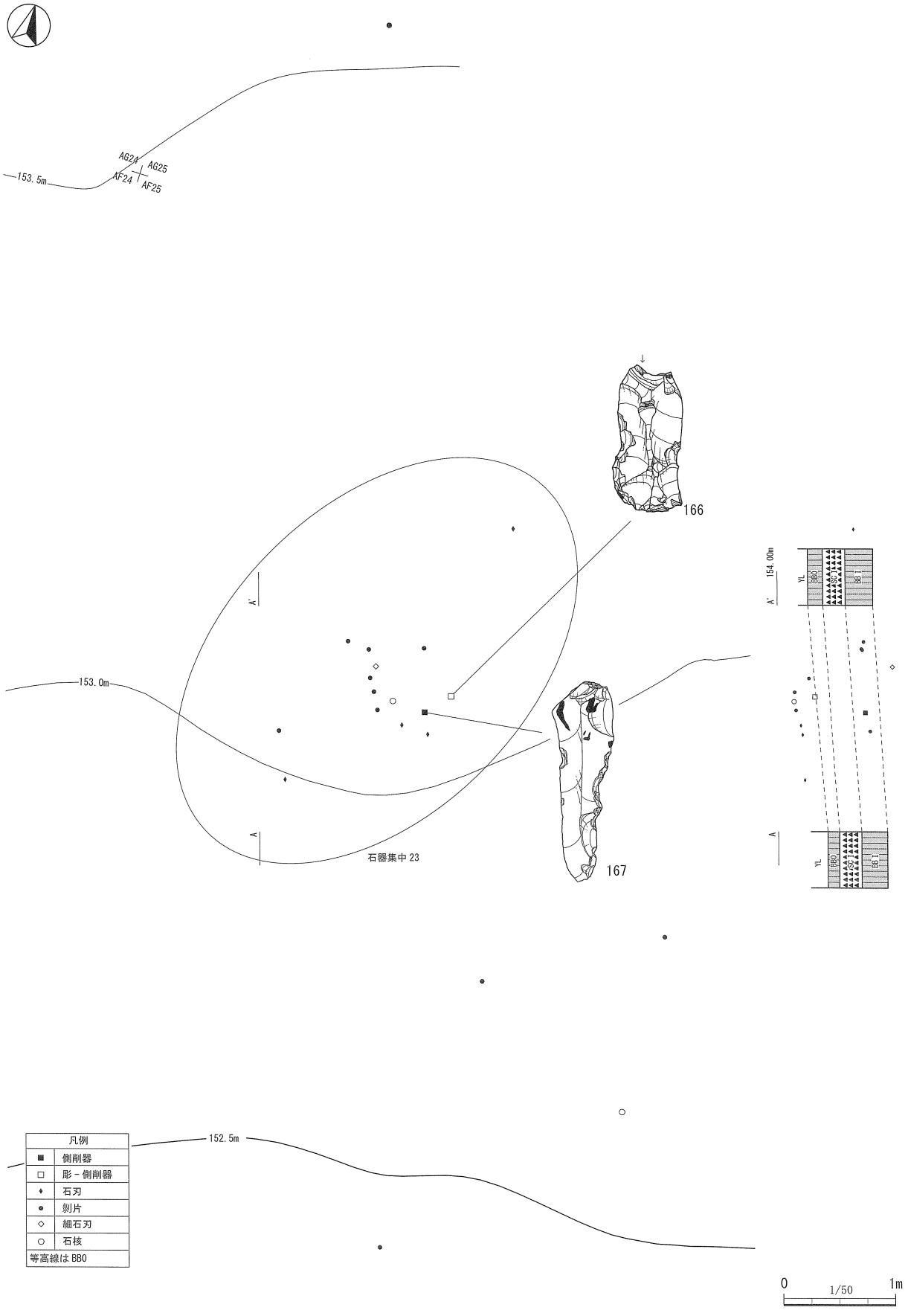
166はBBOで検出された硬質細粒凝灰岩製の彫-側削器である。石刃端部から裏面側に回り込む彫刀面を作出する。また、縁辺に大きさの不揃いな多数の剝離痕が連続する。

167はYLLで検出された硬質細粒凝灰岩製の側削器である。石刃の右縁辺を主体に刃部を作出する。

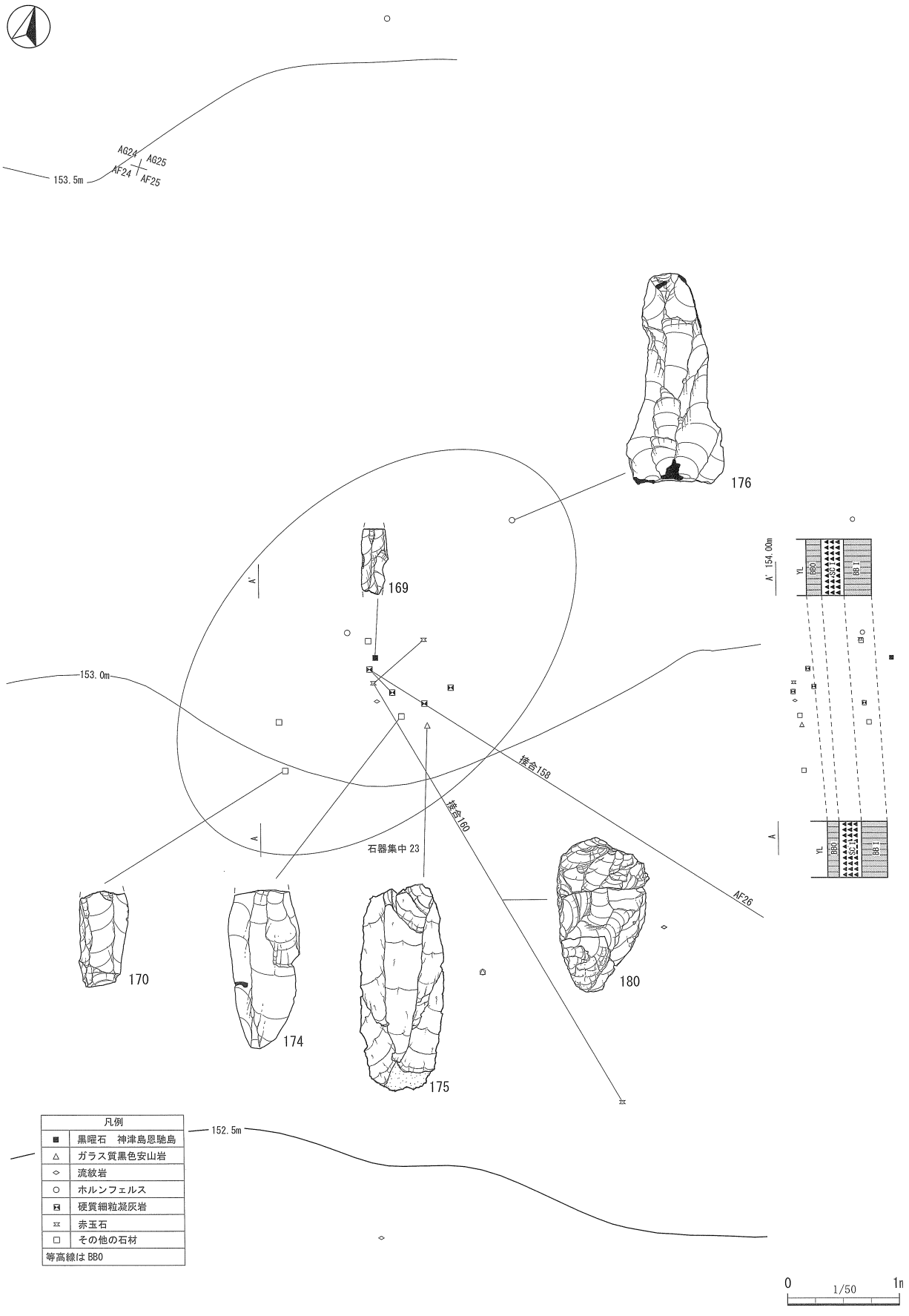
168はYLLで検出された硬質細粒凝灰岩製の抉入側削器である。背面に自然面がつく大型の縦長剝片の左縁辺裏面に抉入状の二次加工を施して刃部を作出する。

712はKUで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の微細剝離痕剝片である。一般的剝片の打面と末端に微細剝離痕が観察される。

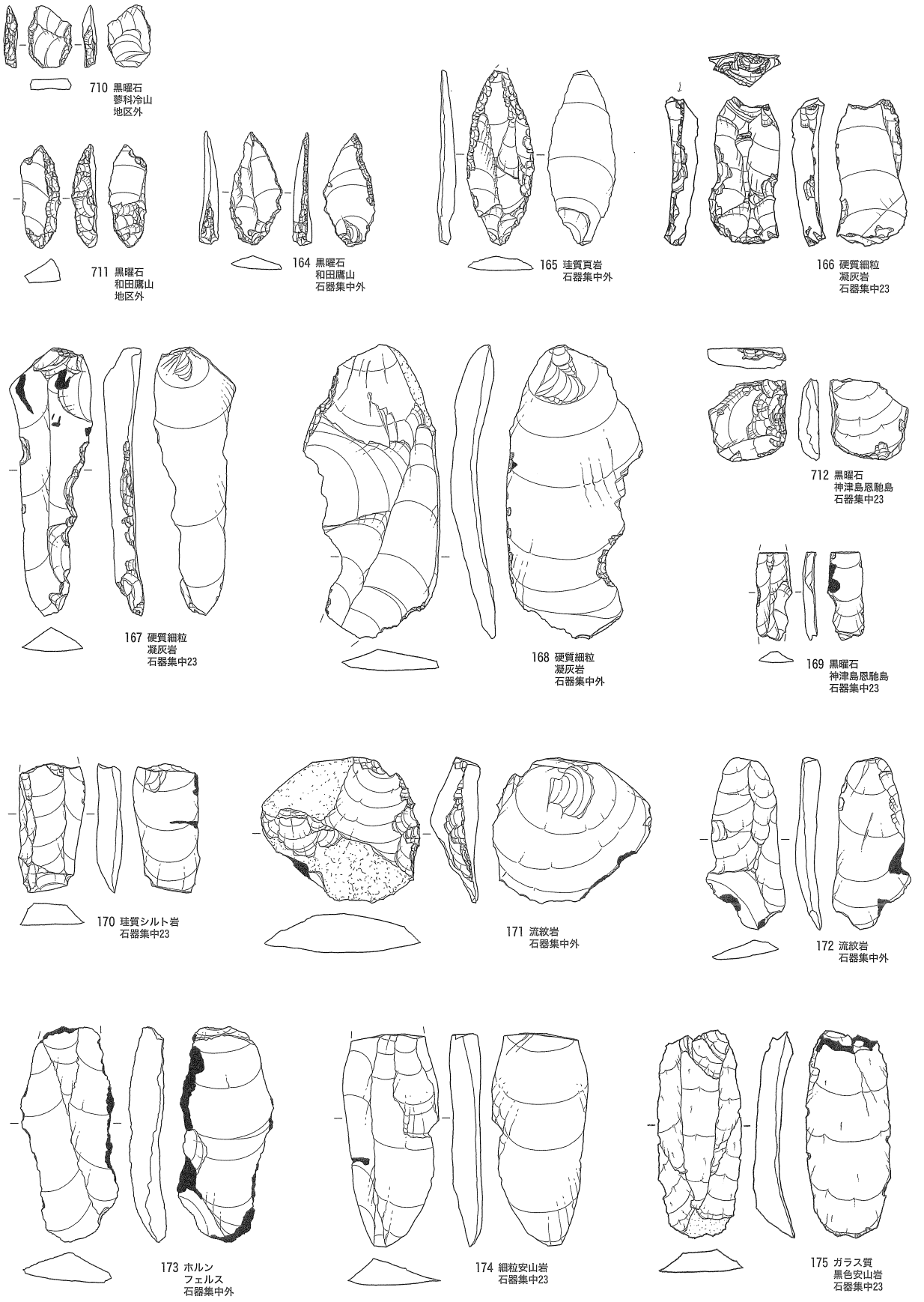
169はBBOで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。細石刃の包含層は通常ならYLU以上なので、この出土層位は異様である。上層からの混入の可能性がある。左縁辺に微細剝離痕が付く。打



第150図　第1地区　第Ⅷ文化層　石器集中23　器種別分布



第151図　第1地区　第Ⅷ文化層　石器集中23　石材別分布



第152図　第1地区　第Ⅷ文化層の石器群（1）

面は折れている。

170はFBで検出された珪質シルト岩製の石刃である。石刃の連続剝離過程中に生産する。打面側が節理から折れている。

171はYLUで検出された流紋岩製の側削器である。一般的剝片の右縁辺に不規則な剝離を施して刃部を作出する。

172はYLで検出された流紋岩製の石刃である。石刃の連続剝離過程中に生産する。

173はYLMで検出されたホルンフェルス製の石刃である。自然面を大きく残しているが、同一方向からの連続剝離過程で生産する。

174はYLLで検出された細粒安山岩製の石刃である。打面調整痕はないが、背面の剝離痕構成から同一方向へ連続剝離した過程が読み取れる。

175はYLLで検出されたガラス質黒色安山岩製の石刃である。単体搬入されたものと思われる。

176はYLLで検出されたホルンフェルス製の石刃である。両設打面石刃核の石刃剝離過程で生産する石刃で、端部に反対の打面を大きく取り込んでしまっている。16号礫群と重複分布していた。

177はYLMで検出されたホルンフェルス製の石刃である。同一方向からの連続剝離過程で生産する。大型の部類に入る。

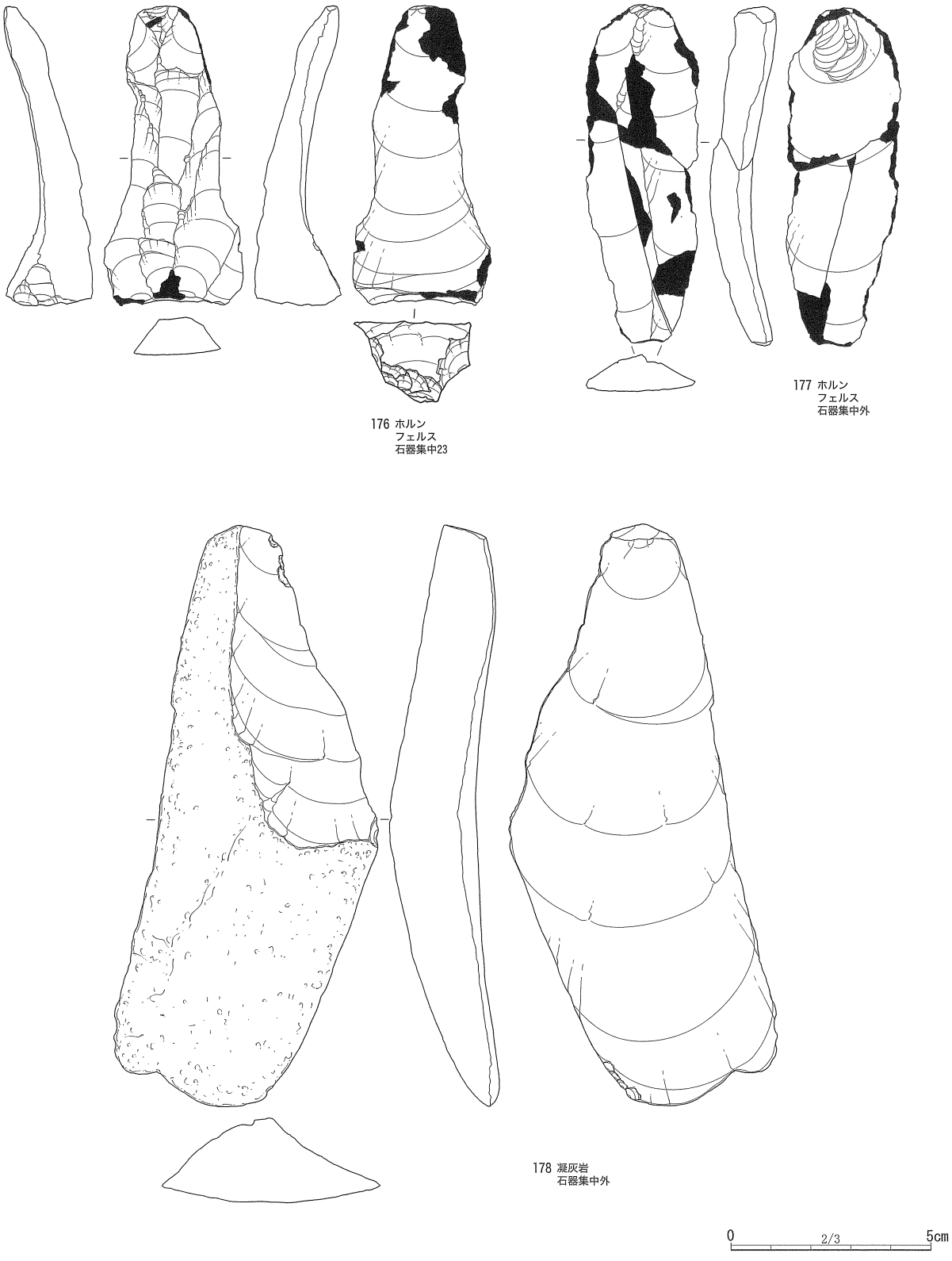
178はYLMで検出された凝灰岩製の石刃である。石刃の連続剝離過程中に生産するのではなく、おそらく礫石器類の荒割り過程で偶発的に生産されたものではないかと推測される。

179はYLで検出された細粒安山岩の石核である。打面と作業面を多方面に展開して小型剝片製生産する。

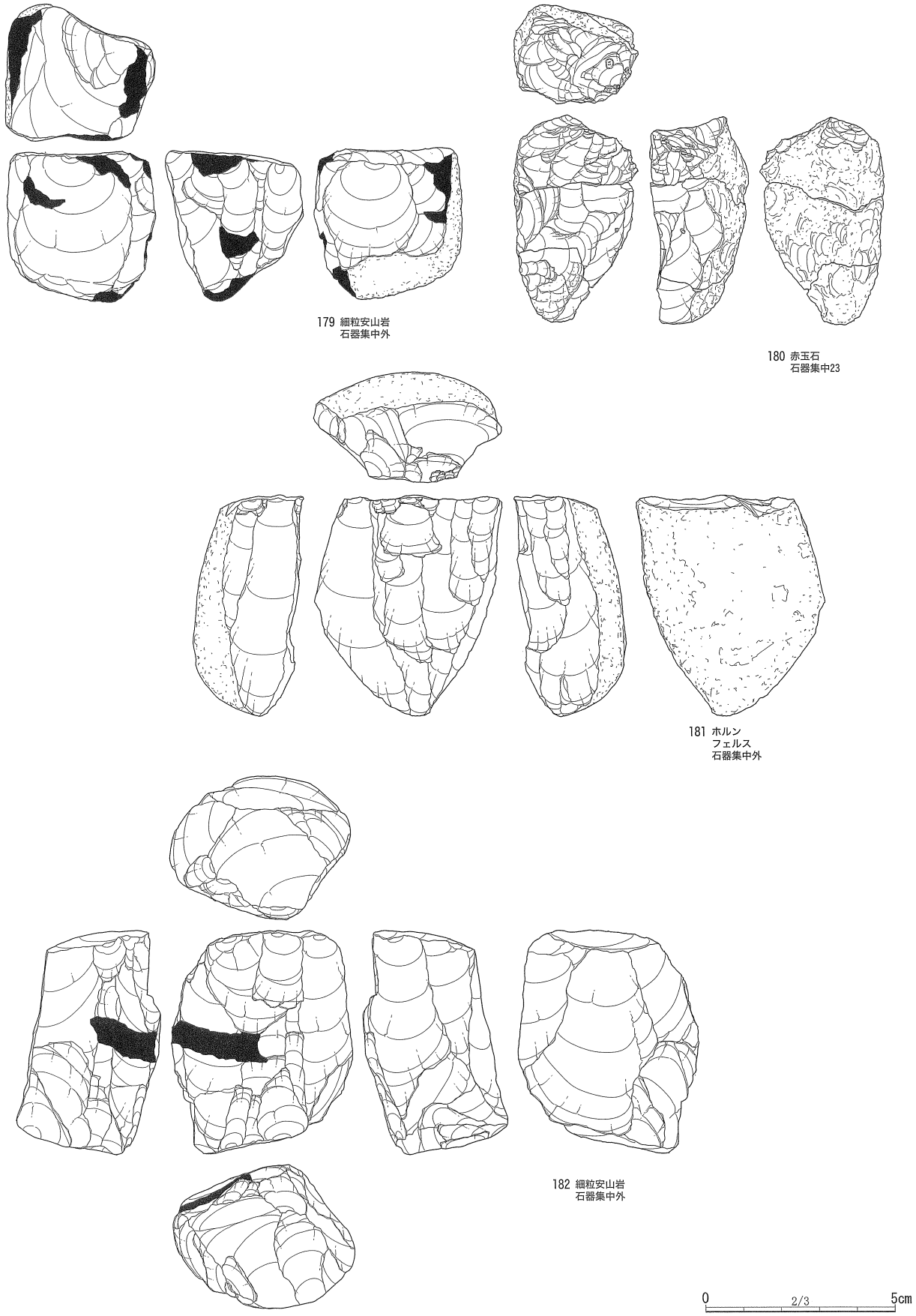
180はYLLで検出された赤玉石製剝片と石核の接合資料である（接合160）。熱破砕したように剝離痕構成が不明瞭かつ不規則で、その消費目的を読みとるのは困難である。

181はYLLで検出されたホルンフェルスの石刃核である。主要作業面側からの打面調整を介在しながら、中型石刃を連続的に剝離する。

182はYLLで検出された細粒安山岩の石刃核である。両設打面を加撃して石刃を連続的に剝離する。



第153図　第1地区　第Ⅷ文化層の石器群（2）



第154図　第1地区　第Ⅷ文化層の石器群（3）

２．第2地区の石器群（第155・156図、表31）

X-AB22-28グリッドを中心とする範囲である。石器群は上下の拡散が大きく休場層下部から上部に及ぶ。

石器44点が分布し、その内部に石器11点で構成される石器集中24と、石器24点で構成される石器集中25が含まれる。柳葉形を呈する薄形の石刃製基部加工ナイフ形石器（186）やトリミングと思われる微細剝離痕が先端部まで及ぶ尖頭器（183，187）の形態的特徴からみて、多くは第Ⅷ文化層と推測されるが、ホルンフェルス製船野型細石刃核（191）のような明らかに別時期の石器が混在している。

表31　第2地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器組成

	黒曜石													
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	和田土屋橋北	和田鷹山	箱根畑宿	測定/推定不可	流紋岩	輝石安山岩	玄武岩	デイサイト	蛋白石	硬質細粒凝灰岩	ホルンフェルス	計
基部加工ナイフ形石器	1													1
背部加工ナイフ形石器			1	1									1	3
尖頭器	1	1												2
側削器												1		1
微細剝離痕剝片	1	2												3
剝片		1			5		2				2		12	22
砕片					1	1							4	6
石核							1			1			1	3
細石刃核													1	1
敲石								1	1					2
計	3	4	1	1	6	1	3	1	1	1	2	1	19	44

（１）石器集中

石器集中24（表32）

AA26/27グリッドの休場層（YL）を中心に分布するが、休場層のどのあたりなのかは情報がなく分からない。

石器11点で構成され、箱根畑宿産黒曜石6点が第1石材で、ほかに諏訪星ヶ台産2点、蓼科冷山産1点、和田鷹山産1点の信州系黒曜石が組成する。また測定/推定不可の黒曜石1点は箱根畑宿産に類似する。和田鷹山産黒曜石製の細石刃が1点だけある。諏訪星ヶ台産は石刃石器群の一部なのか細石刃石器群の一部なのか、形態的区別が難しい例も多く、189もそうした資料の一つである。しかしAB26グリッドに分布する諏訪星ヶ台産黒曜石製の柳葉形の石刃製背部加工ナイフ形石器はこの細石刃と関連しそうにみえる。

石器集中25（表33）

Z24-25の休場層（YL）を中心に分布する。休場層のどのあたりかははっきりしないが、わずかに重複する1号礫群がYL中部にあることから第Ⅸ文化層と考えることもできる。

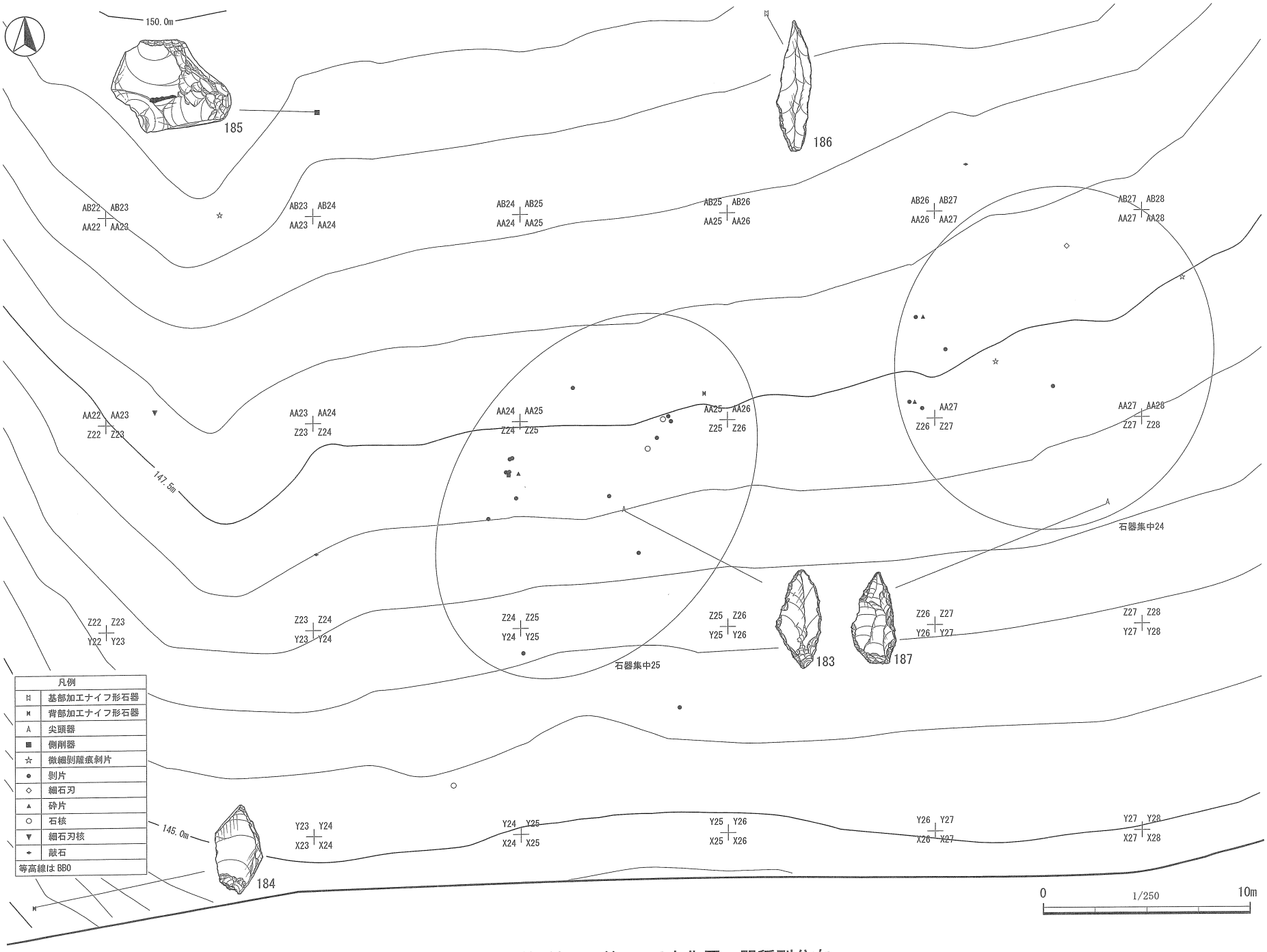
石器24点で構成され、ホルンフェルス17点が第1石材で、ほかに流紋岩3点、蓼科冷山産黒曜石2点などが組成する。黒曜石以外に石刃関連資料が見られない。流紋岩は1例の接合資料（接合134）が確認された。

表32　第2地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器集中24　石器組成

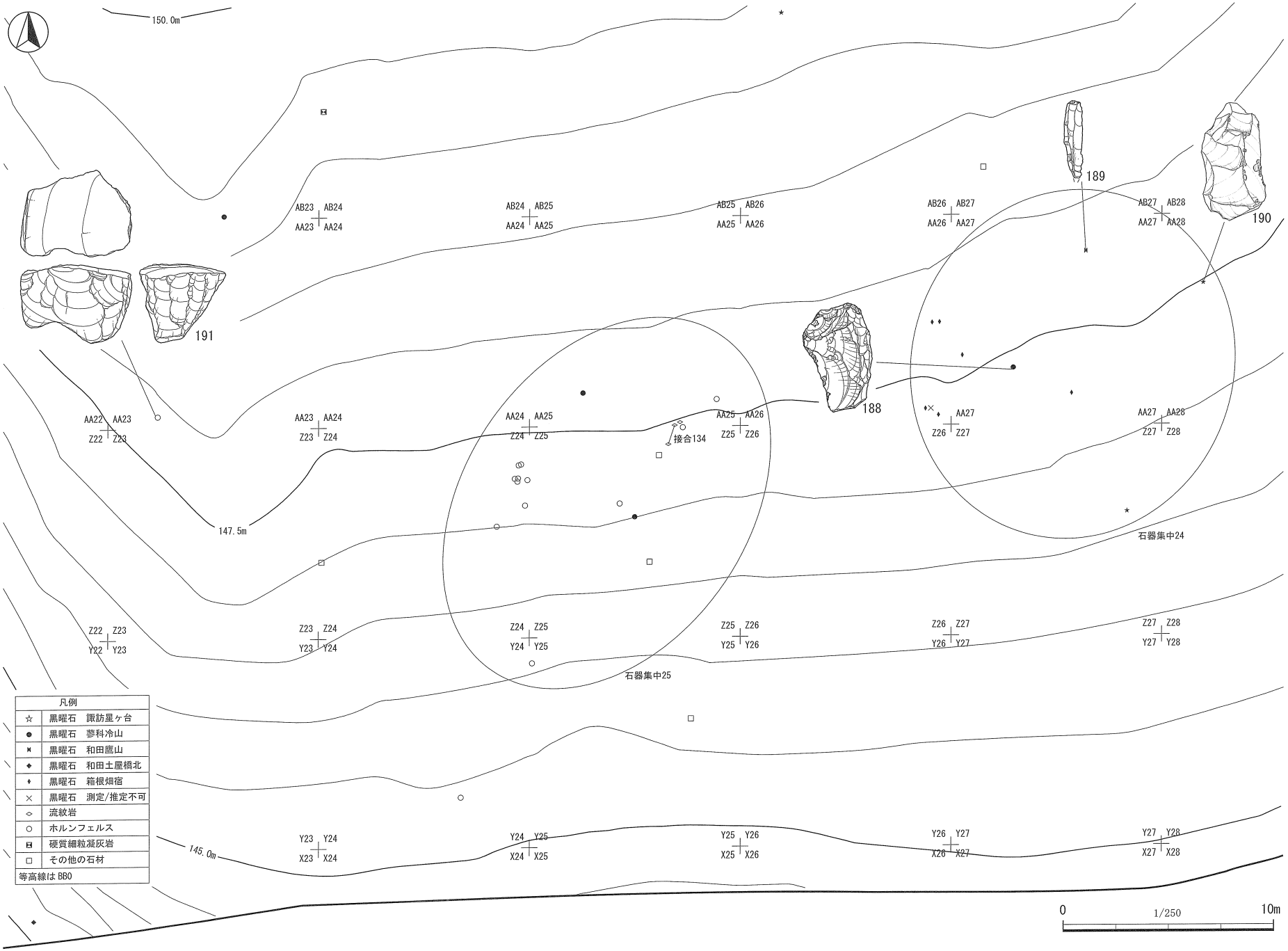
	黒曜石					
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	和田鷹山	箱根畑宿	測定/推定不可	計
尖頭器	1					1
微細剝離痕剝片	1	1				2
剝片				5		5
細石刃			1			1
砕片				1	1	2
計	2	1	1	6	1	11

表33　第2地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器集中25　石器組成

	黒曜石蓼科冷山	流紋岩	デイサイト	蛋白石	ホルンフェルス	計
背部加工ナイフ形石器					1	1
尖頭器	1					1
剝片	1	2		1	12	16
砕片					4	4
石核		1	1			2
計	2	3	1	1	17	24



第155図　第2地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　器種別分布



第156図　第2地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石材別分布

（２）出土石器の検討（第157図）

183はYLLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の尖頭器である。石刃を縦位に用い、打面とその近辺の右縁辺を斜めに切り取って基部となし、右縁辺を打面付近から端部まで弧状に切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。残される鋭い刃縁には微細だが平坦な剝離を連続的に施し、尖頭部を構成する。基部裏面には平坦剝離も施す。石器集中25に含まれる。

184はKUで検出された和田土屋橋北産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。両極剝離で得られた縦長剝片を縦位に用い、右縁辺の裏面側に不規則な平坦剝離を施して基部を整形する。右側縁の剝離群は裏面に先行するものである。石器集中外である。

185はYLLで検出された硬質細粒凝灰岩製の側削器である。一般的剝片の右縁辺の一部に急角度な剝離で刃部を作出する。端部の折れ面との前後関係は風化のため読み取れない。石器集中外である。

186はKUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。薄手で細身の石刃を逆位に用い、端部両縁辺に急角度の剝離、裏面に微細な平坦剝離を施して基部を整形し、また、打面部を急角度の剝離で斜めに切り取って尖頭部を整形する。石器集中外である。

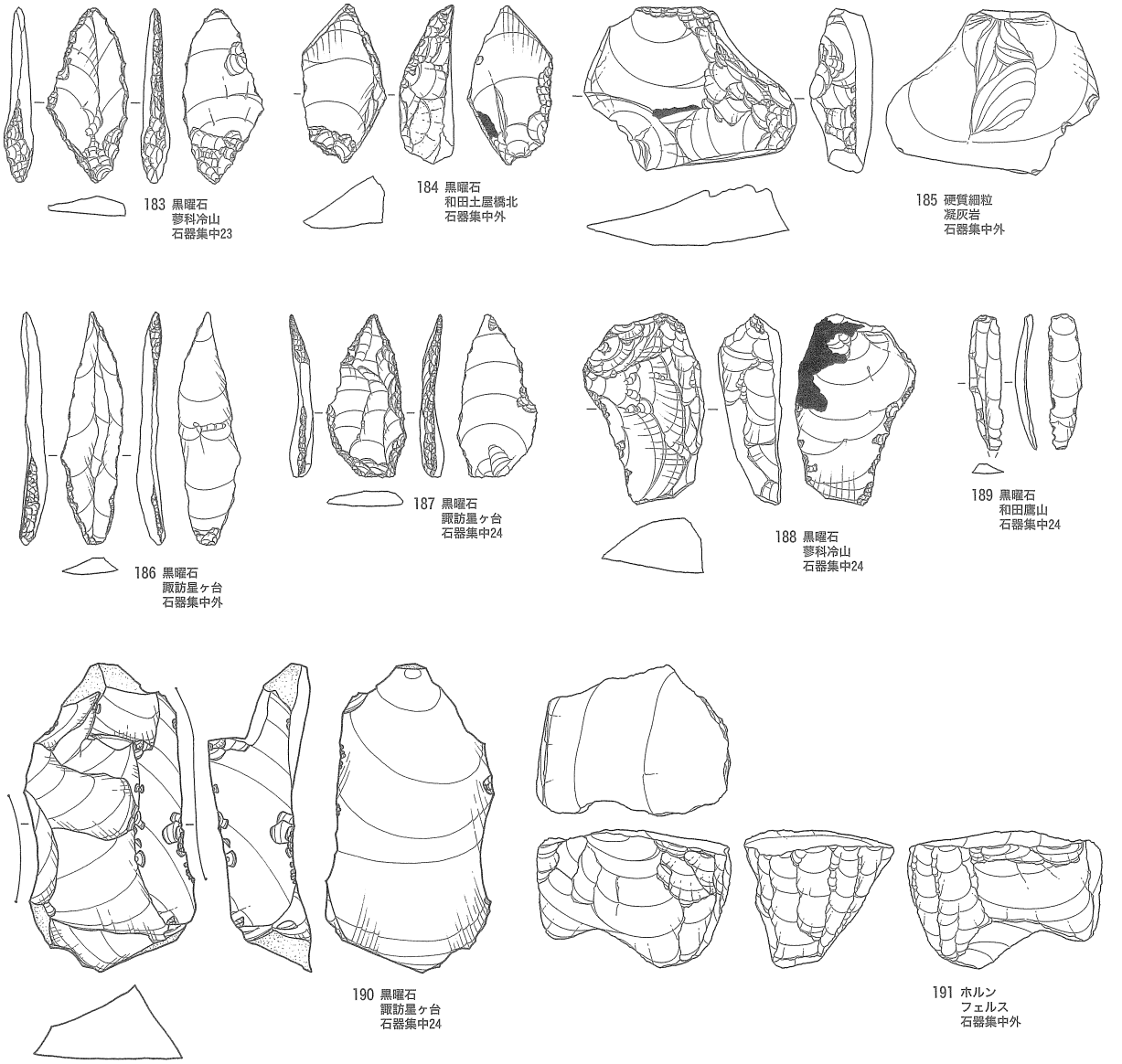
187はYLUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。石刃を縦位に用い，両縁辺の打面付近から端部までやや平坦な剝離を施して側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。石器集中24に含まれる。

188はYLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の微細剝離痕剝片である。厚手の一般的剝片の右縁辺に大きさの不規則な微細剝離痕が連続的に観察される。石器集中24に含まれる。

189はYLUで検出された和田鷹山産黒曜石製の細石刃である。右縁辺の腹面に不揃いな微細剝離痕が観察される。殆ど折れていない。石器集中24に含まれる。

190はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剝離痕剝片である。一般的剝片剝離過程で得られた分厚い大型剝片の縁辺に大きさの不揃いな微細な剝離痕が連続する。石器集中24に含まれる。

191はYLで検出されたホルンフェルスの細石刃核である。大型剝片腹面の打面側を主要な打面として細石刃を連続的に剝離する。船野型と呼ばれる船底形の細石刃核である。なお、本遺跡でホルンフェルス製の細石刃は検出されなかった。石器集中外である。



第157図　第2地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層の石器群

３．第3地区の石器群（第158・159図、表34）

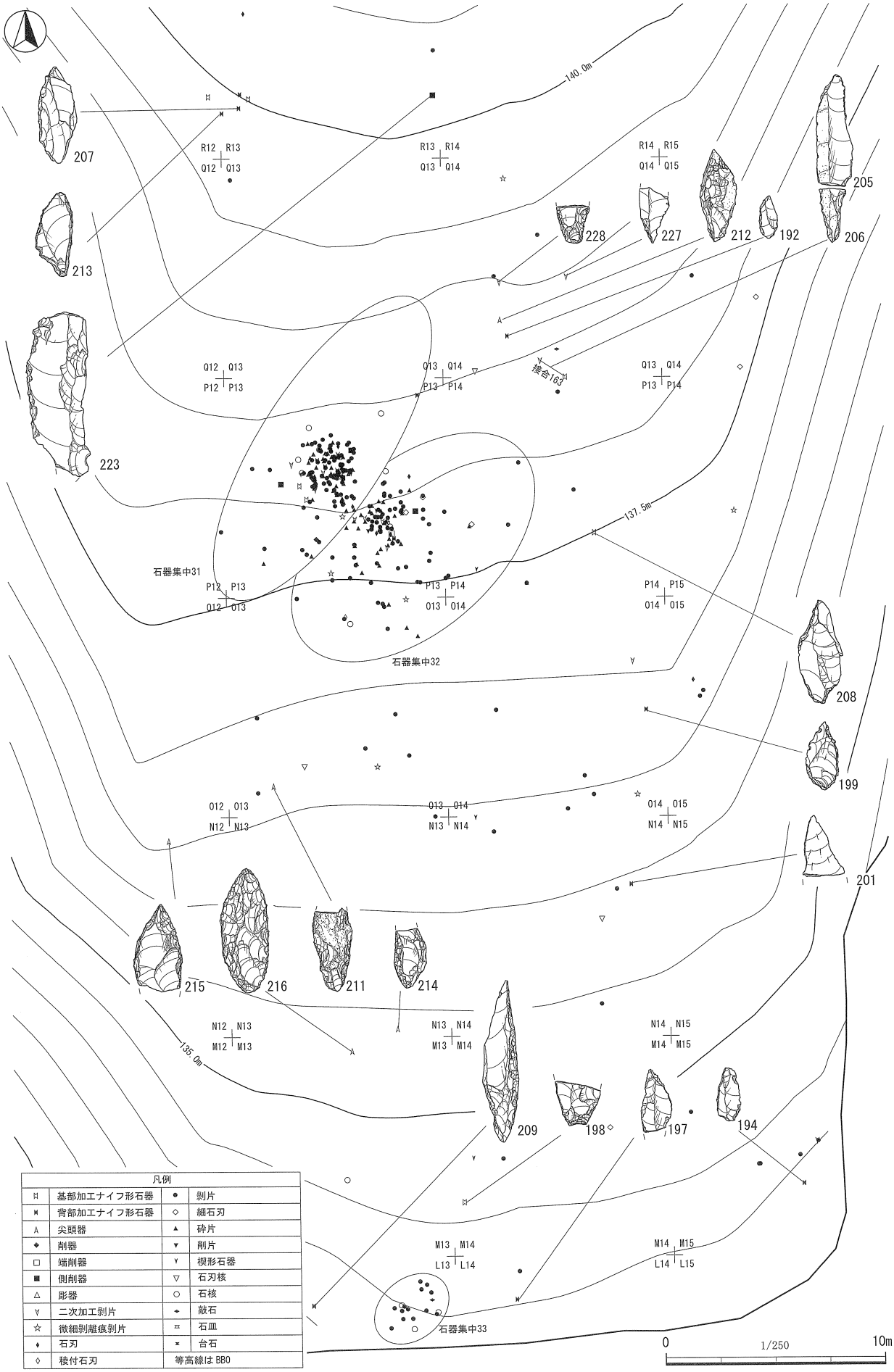
L-R/12-14グリッドを中心とする範囲である。P13グリッドの休場層下部下半を中心に分布する石器集中33と、休場層下部上半を中心に分布する石器集中31と石器集中32、およびそれらの周囲に散漫に分布する石器群が含まれる。石器集中33が第Ⅷ文化層、石器集中31と石器集中32が第Ⅸ文化層に帰属する。その他の石器群はほとんどが第Ⅸ文化層に帰属するものと予想されるが、ただし上位への拡散が大きく個別の分離は難しい。

第3地区全体で石器400点が分布する。そのうち第Ⅸ文化層石器集中31に178点、第Ⅸ文化層石器集中32に132点、第Ⅷ文化層石器集中33に17点、第Ⅸ文化層が殆どを占めると推測される石器集中外に73点が分布する。

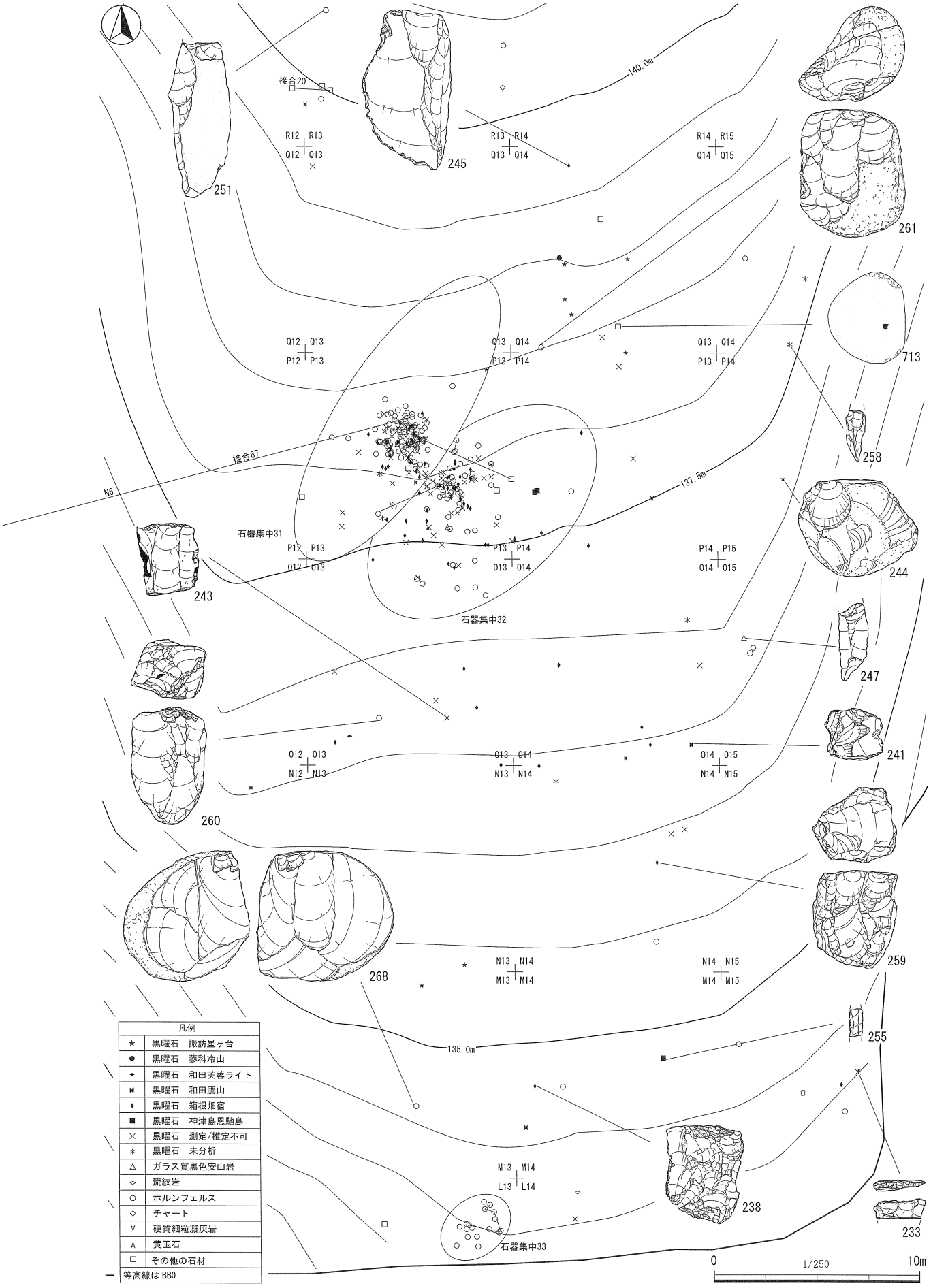
表34　第3地区　第Ⅷ-Ⅸ文化層　石器組成

	諏訪 星ヶ台	蓼科 冷山	和田 芙蓉ライト	黒曜石 和田 鷹山	黒曜石 箱根 畑宿	黒曜石 神津島 恩馳島	黒曜石 測定/ 推定不可	未分析	流紋岩	ガラス質 黒色 安山岩	細粒 安山岩	輝石 安山岩
基部加工ナイフ形石器	1			1	1							
背部加工ナイフ形石器	2			1	2		6					
尖頭器	4		1									
削器							1					
端削器							1					
側削器							2					
彫器												
二次加工剝片	2			1	3		9	1				
微細剝離痕剝片	1			2	2		2					
石刃							1			1		
稜付石刃							1					
剝片	1	1		1	38		28	3	1	1	1	2
細石刃				1		2	1	2				
砕片					18	1	42	1				
削片												
楔形石器					6		1					
石核												
石刃核					1							
敲石												1
石皿												2
台石												
計	11	1	1	7	71	3	95	7	1	2	1	5

	多孔質 玄武岩	黄玉石	硬質細粒 凝灰岩	チャート	珪質 シルト岩	ホルン フェルス	計
基部加工ナイフ形石器			1			1	5
背部加工ナイフ形石器		1				3	15
尖頭器							5
削器							1
端削器							1
側削器				1		1	4
彫器			1				1
二次加工剝片							16
微細剝離痕剝片						1	8
石刃						4	6
稜付石刃							1
剝片					4	118	199
細石刃							6
砕片						40	102
削片						1	1
楔形石器							7
石核						14	14
石刃核						2	3
敲石						1	2
石皿							2
台石	1						1
計	1	1	2	1	4	186	400



第158図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層　器種別分布



第159図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層　石材別分布

（１）石器集中

石器集中31（第160・161図、表35）

P13グリッドの休場層下部を中心に分布する。礫群との関係からおそらく同層の中でも上半部を主体とするものと推測される。

石器178点で構成され、ホルンフェルス98点（55.1%）が第1石材、箱根畑宿産黒曜石22点（12.4%）が第2石材である。ほかに風化を原因として測定/推定不可とされた黒曜石46点(27.0%)、信州系黒曜石4点（2.2%）などが含まれるが、測定/推定不可黒曜石は石質からみて殆どが箱根畑宿産黒曜石と推測される。

ホルンフェルス製石器群は消費途中の石核を搬入してからの一般的剥片生産を主体とし、わずかに石刃が混ざる。6点組成する石核はすべて多打面転移型である。ナイフ形石器2点と側削器1点は石質からみてここで製作されたものではなさそうである。

箱根畑宿産黒曜石製石器群の主要石器群は基部加工ナイフ形石器の破片1点のほかは二次加工剥片2点と少ないが、測定/推定不可とされたものを含めると二次加工石器類の数量が急激に増す。二次加工石器類には明らかにナイフ形石器の一部と推定されるものもあるが、ほとんどは部分的に急角度な二次加工を施した小型製品が破損したものである。元の形状は不明だが、少なくとも尖頭部を有する形態の石器でない。

石器集中32（第160・161図、表36）

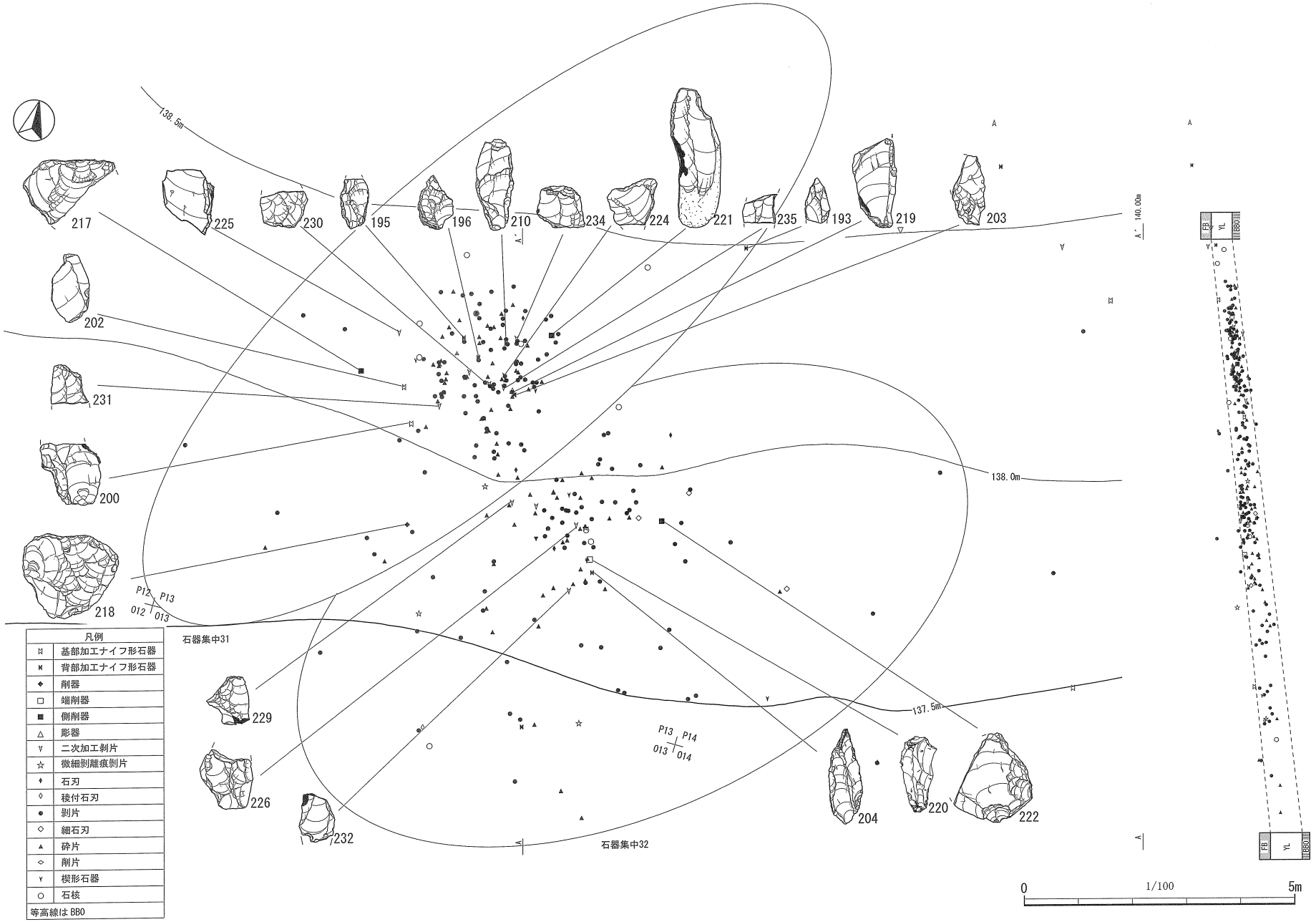
P13グリッドの休場層下部から中部を中心に分布する。垂直分布図を見ると石器集中31よりも高い層準から出土しているように見えるが、これは土層柱状図間を直線で結んでいるためで、実際には同じ層準で検出された。なお、検出層の調査時所見は休場層下部であるが、若干浮いている。この点は後述する第5地区の石器群との比較で重要な点で、第Ⅷ文化層を細分する根拠となる（第6章参照）。

石器132点で構成され、ホルンフェルス55点（41.7%）が第1石材、箱根畑宿産黒曜石34点（25.8%）が第2石材である。ほかに風化を原因として測定/推定不可とされた黒曜石37点もあるが、肉眼観察による限り殆どが箱根畑宿産黒曜石と推測される。したがって、実際に最も点数が多い石材は箱根畑宿産黒曜石である可能性が高い。ホルンフェルスと箱根畑宿産黒曜石を主体とする点は石器集中31と共通する特徴といえよう。

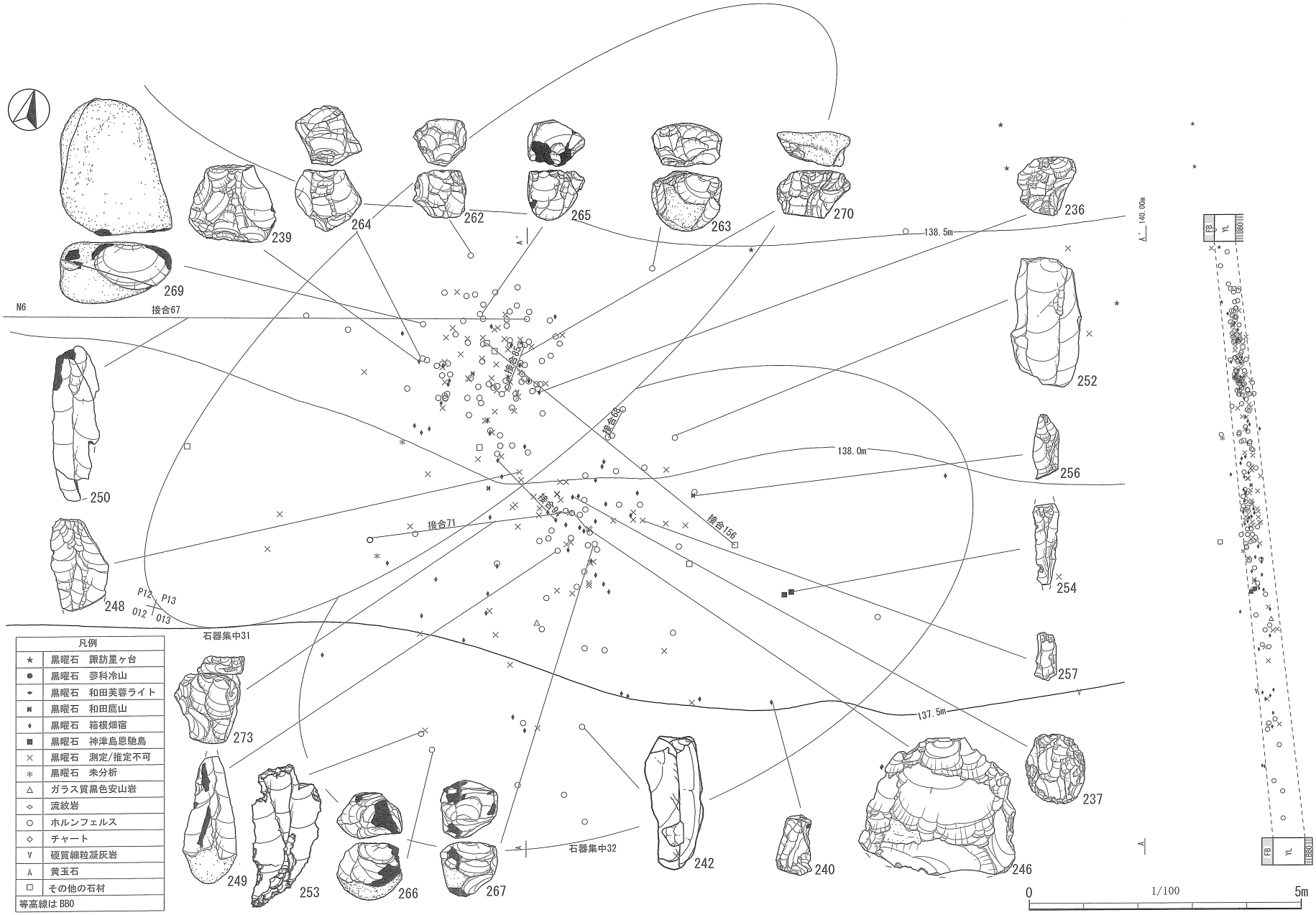
箱根畑宿産黒曜石は破損品が多くはっきりしないが、数点の二次加工剥片と石刃製ナイフ形石器を含む。神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃はおそらく新しい時期のものの混在であろう。

表35　第3地区　第IX文化層　石器集中31　石器組成

	諏訪 星ヶ台	和田 鷹山	黒曜石 箱根 畑宿	黒曜石 測定/ 推定不可	未分析	細粒 安山岩	輝石 安山岩	硬質細粒 凝灰岩	珪質 シルト岩	ホルン フェルス	計
基部加工ナイフ形石器			1							1	2
背部加工ナイフ形石器	1			3						1	5
削器				1							1
側削器				1						1	2
彫器								1			1
二次加工剥片		1	2	4							7
微細剥離痕剥片		1									1
石刃				1						1	2
剥片	1		6	13	2	1	1		2	69	95
砕片			11	23	1					19	54
楔形石器			2								2
石核										6	6
計	2	2	22	46	3	1	1	1	2	98	178



第160図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層　石器集中31・32　器種別分布



第161図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層　石器集中31・32　石材別分布

表36　第3地区　第IX文化層　石器集中32　石器組成

	黒曜石				ガラス質	珪質	ホルン	計
	和田 鷹山	箱根 畑宿	神津島 恩馳島	測定/ 推定不可	黒色安山岩	シルト岩	フェルス	
背部加工ナイフ形石器		2						2
端削器				1				1
側削器				1				1
二次加工剥片		1		3				4
微細剥離痕剥片		1		1			1	3
石刃							2	2
稜付石刃				1				1
剥片		22		9	1	2	26	60
細石刃	1		1	1				3
砕片		6	1	19			21	47
削片							1	1
楔形石器		2		1				3
石核							4	4
計	1	34	2	37	1	2	55	132

表37　第3地区　第Ⅷ文化層　石器集中33　石器組成

	ホルンフェルス
剥片	13
石核	3
敲石	1
計	17

石器集中33（第170図、表37）

L13グリッドの休場層下部を中心に分布し、第Ⅷ文化層に帰属する。石器17点で構成され、石材はすべてホルンフェルスである。接合65（第171・172図）から窺われるように亜円礫の自然面がついた剥片類が多く、原石に近い状態で搬入されたものと推測される。この集中部の出土石器は第171-173図に提示した。

（２）出土石器の検討（第162-173図）

192はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。小石刃を縦位に用い、右縁辺の末端側を急角度の剥離で切り取って基部を整形し、また、左縁辺を打面から末端まで切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。非常に小型であることから、他の側縁加工タイプとは機能が異なる可能性が高い。石器集中外である。

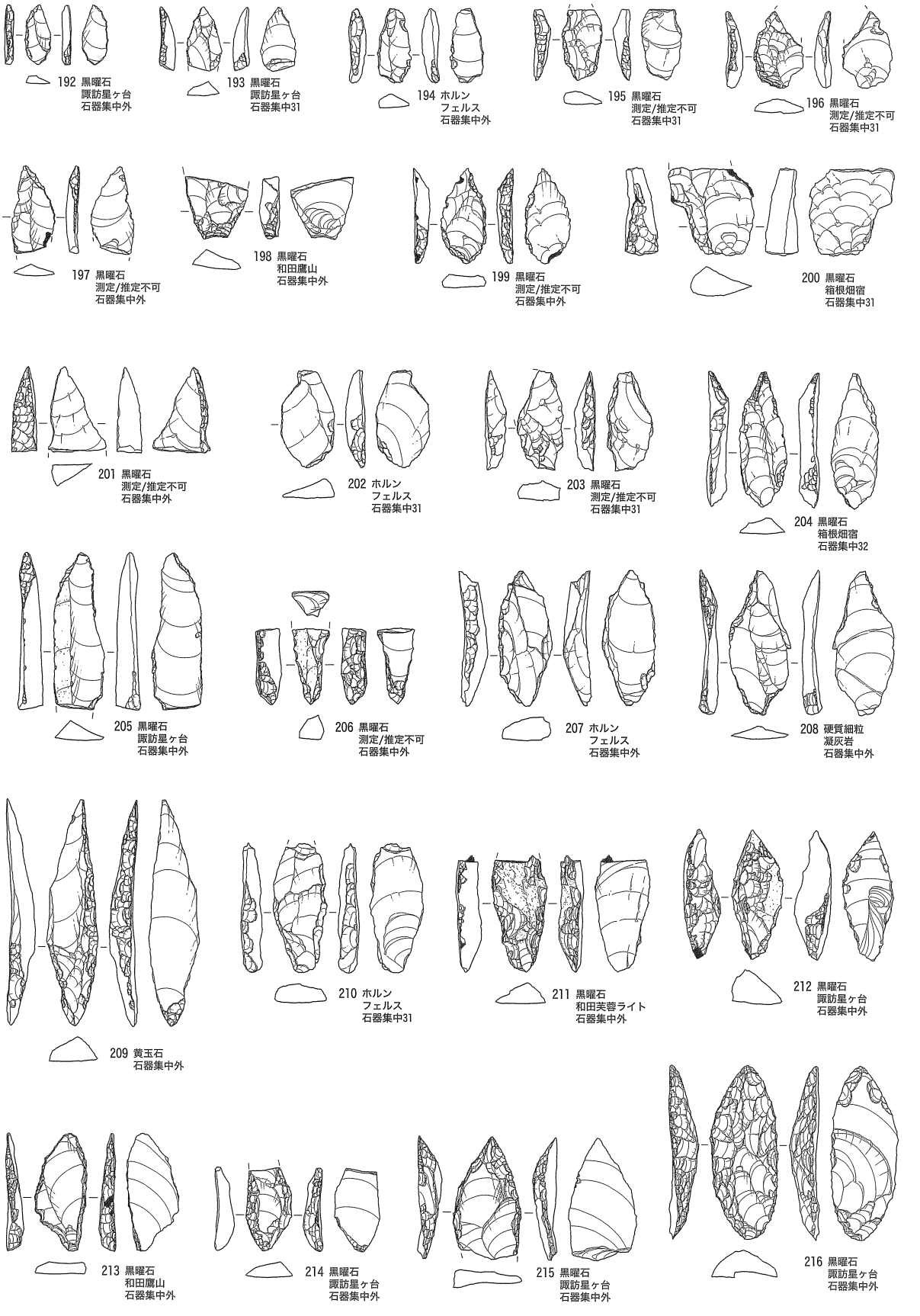
193はYLMで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。180°打面転移する石刃核の剥離過程で得られたと推定される小石刃を縦位に用い、打面付近の左縁辺を急角度の剥離で切り取って基部を整形し、また、右縁辺は打面側から末端まで切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。生産過程は大型石刃と共通するが、192と同様、これも小型剥片製石器群の一部と思われる。石器集中31に含まれる。

194はYLLで検出されたホルンフェルス製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用いて、右縁辺の端部に急角度の剥離で基部を整形し、また、端部と左縁辺にも急角度の剥離を施して側縁を整形し、尖端部を作出する。石器集中外である。

195はYLLで検出された箱根畑宿産の可能性が高い黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剥片を逆斜位に用い、右縁辺の末端側を急角度の剥離で斜めに切り取って基部となし、また、左縁辺の末端から打面まで切り取って側縁となし、おそらくは併せて尖頭部も作出する。石器集中31に含まれる。

196はYLLで検出された箱根畑宿産の可能性が高い黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。小型剥片製石器というほうがいいかもしれない。小型縦長剥片を縦位に用い、左縁辺の打面に接する部分に微細な抉入状の剥離を施して基部を整形し、右縁辺の打面から少し離れた部分から端部側まで切り取って側縁を整形する。端部は折れているので尖頭状をなすかどうかは不明である。石器集中31に含まれる。

197はYLLで検出された信州系と推測される黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。小石刃を逆位に用い、左縁辺の末端に微細な剥離を施して基部となし、また、右縁辺を末端側から打面まで切り取って弧状の側縁とする。基部が失われているのでその形状は不明である。石器集中外の出土である。



第162図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の石器群（1）

198はFBで検出された和田鷹山産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。石刃と推測される剥片を素材として、両縁辺の打面部に接する部位にやや平坦な剥離で基部を整形する。尖端部が失われているので全体形状は不明だが、二次加工技術と本遺跡の類例からナイフ形石器と推測された。石器集中外の出土である。

199はYLLで検出された箱根畑宿産の可能性が高い黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。小型剥片を縦位に用い、右縁辺の打面側を急角度の剥離で切り取って基部となし、また、左縁辺全体を斜めに切り取って側縁となし、併せて尖頭部を作出する。石器集中外の出土である。

200はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。縦長と推定される剥片を素材として、左縁辺の打面に接する部位に急角度の剥離で抉入する基部を整形する。端部が折れているので全体形状は不明である。石器集中31に含まれる。

201はYLLで検出された箱根畑宿産の可能性が高い黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、打面と右縁辺を急角度の剥離で切り取って側縁となし、尖頭部を作出する。基部が折れているのでその形状は不明である。石器集中外の出土である。

202はYLLで検出されたホルンフェルス製の基部加工ナイフ形石器である。一般的剥片を斜位に用い、打面部を急角度な剥離で切り取って基部を整形する。尖端部と推測される部位は折れている。石器集中31に含まれる。

203はYLLで検出された箱根畑宿産の可能性が高い黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。一般的剥片を横位に用い、末端側全体を急角度な剥離で切り取って側縁となし、打面側も切り取って基部となす。左上半部が折れているので形状は不明である。石器集中31に含まれる。

204はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左縁辺の打面に接する部位を急角度な剥離で切り取って基部を整形し、右縁辺の基部から末端部も切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。石器集中32に含まれる。

205はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器の上半部である。背面に自然面の残る石刃を逆位に用い、急角度な剥離で端部にやや内湾する基部を整形し、また、右縁辺の打面側を切り取って尖端部を作出する。左縁辺には、基部から尖端部に向かう樋状剥離面が観察される。206と接合して1点の製品になる（接合163）。石器集中外の出土である。

206はYLMで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器の基部である。黒曜石の産地分析結果は風化により測定不可となったが、205と接合した。石刃を逆位に用い、右縁辺端部に急角度な剥離を施して内湾させ、また、左縁辺にも急角度な剥離を施す。石器集中外である。

207はYLLで検出されたホルンフェルス製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左縁辺の打面側を急角度の剥離で切り取って基部を整形し、また、端部を斜めに切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。石器集中外の出土である。

208はFBで検出された硬質細粒凝灰岩製の基部加工ナイフ形石器である。石刃を素材として、打面部に接する左右縁辺に急角度の二次加工を施して打面付きの基部を整形し、また、端部左側縁を急角度の二次加工で、やや内湾するように斜めに切り取り、尖端部を整形する。石器集中外の出土である。

209はYLLで検出された黄玉石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、打面とこの付近の右縁辺を切り取って基部となし、また、左縁辺を基部から端部まで急角度な剥離で切り取って側縁を整形し、併せて尖頭部を作出する。同一母岩のない単独品である。石器集中外の出土である。

210はYLLで検出されたホルンフェルス製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用いて右縁辺の打面側に急角度の剥離で基部を整形し、また、右縁辺を打面から端部にかけて切り取り、側縁を整形して、尖頭部を作出する。石器集中31に含まれる。

211はFBで検出された和田芙蓉ライト産黒曜石製の尖頭器である。石刃を縦位に用い、左縁辺の打面から端部までと右縁辺の打面付近を切り取って基部ないし側縁を整形し、また、右縁辺を平坦な剝離で整形する。尖端部が失われているのでその形状はわからない。石器集中外の出土である。

212はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。縦長剝片を縦位に用い、左縁辺の打面付近を急角度な剝離で切り取って基部となし、右縁辺を分厚く切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。鋭い縁辺には部分的に平坦な微細剝離が認められるので尖頭器に分類したが、二次加工技術の基本はナイフ形石器と類同である。石器集中外の出土である。

213はYLLで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を斜位に用い、右縁辺の打面付近に急角度な剝離を施して抉入状の基部を整形して肩部を作出し、ここから尖端までも急角度な剝離と微細な剝離を施して側縁となす。また、打面とこれに接する左縁辺を急角度な剝離で切り取って、尖頭部を構成する側縁を整形する。尖頭部に僅かな未加工の縁辺が残されるので、技術形態的に「ナイフ形石器」に分類する。石器集中外の出土である。

214はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。石刃を縦位に用い、両縁辺に類鱗状の剝離を施して尖状の基部と、側縁を整形する。基部裏面には数条の樋状剝離を施す。尖頭部が折れているのでその形状はわからない。石器集中外の出土である。

215はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。石刃を斜位に用い、右縁辺を急角度な剝離で切り取り、また、左縁辺にも端部を主体に平坦な剝離を施して側縁及び尖頭部を作出する。基部は折れている。石器集中外の出土である。

216はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。一般的剝片を縦位に用い、背面を主体に平坦な剝離で尖頭部のある木葉形に整える。裏面の整形は部分的で平坦な主剝離面を大きく残す。石器集中外の出土である。

217はYLLで検出された黒曜石製の側削器である。黒曜石は表面の風化により測定不可とされてしまったが、その石質は褐色と黒色の部分が縞をなし不透明で斑晶が入る。この特徴は箱根畑宿産によくみられる。一般的剝片の左縁辺に急角度な二次加工を施して刃部を作出する。端部は大きく折れている。石器集中31に含まれる。

218はYLLで検出された黒曜石製の削器もしくは石核である。求心剝離石核としての利用が限界まで進行した残核の一部に微細な二次的剝離痕が観察される。石器集中31に含まれる。

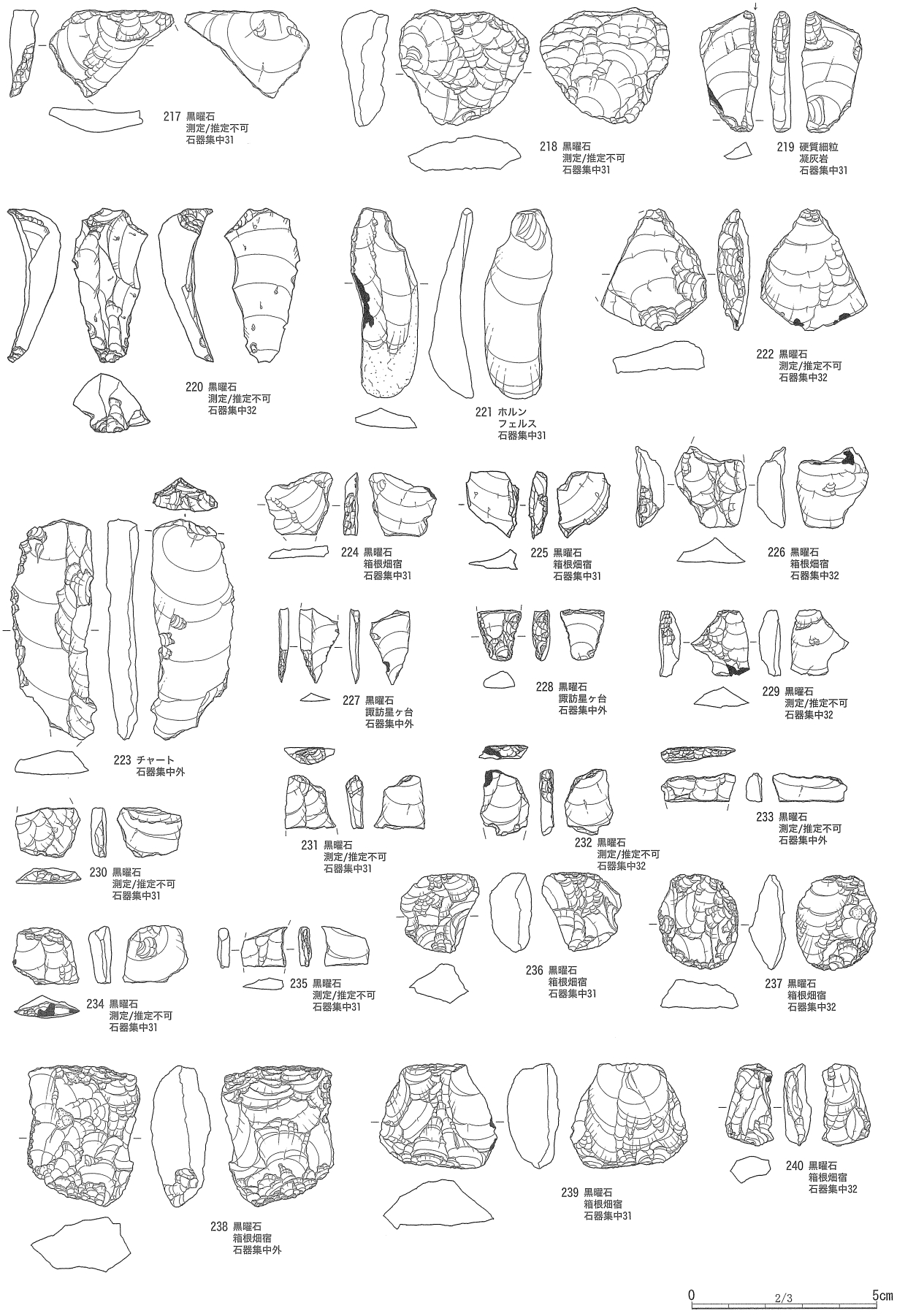
219はYLLで検出された硬質細粒凝灰岩製の彫器である。縦長剝片の折れた端部を打面にして左縁辺に数条の彫刀面を作出する。石器集中31に含まれる。

220はYLLで検出された箱根畑宿産と推測される黒曜石製の端削器である。縦長剝片の打面部に刃部を作出する。石器集中32に含まれる。

221はYLLで検出されたホルンフェルス製の側削器である。亜円礫素材の石核から連続的に石刃を剝離する過程で生産された石刃の左縁辺を中心に小剝離痕が連続する。背面末端に亜円礫の自然面をのこしている。石器集中31に含まれる。

222はYLLで検出された黒曜石製の側削器である。黒曜石は表面の風化により測定不可とされてしまったが、その石質は褐色と黒色の部分が霜降り状をなす不透明で斑晶が入るものである。この特徴は箱根畑宿産によくみられる。一般的剝片の右縁辺に急角度な剝離を施して刃部を作出する。左側縁は折れている。石器集中32に含まれる。

223はYLLで検出されたチャート製の側削器である。打面調整痕の残る石刃の左縁辺に急角度な刃部を作出する。端部は折れている。愛鷹・箱根地域においてチャート製の石刃はたいへん珍しい。石器集中外の出土である。



第163図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の石器群（2）

224はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剥片である。一般的剥片の右縁辺に急角度の剥離を施す。打面側が折れているので形状は不明である。石器集中31に含まれる。

225はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剥片である。縁辺の一部に急角度剥離を施す。石器集中31に含まれる。

226はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剥片である。一般的剥片の右縁辺端部側に急角度の二次加工を施して内湾させる。打面が失われているので形状は不明である。石器集中32に含まれる。

227はYLMで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の二次加工剥片である。石刃を縦位に用い、右縁辺の端部に急角度な二次加工を施して尖頭部を作出する。石器集中外の出土である。

228はYLMで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の二次加工剥片である。石刃を縦位に用い、左右縁辺にやや平坦な剥離を交えつつ、主として急角度な剥離で切り取る。おそらくナイフ形石器か尖頭器の基部加工と推測されるが、端部側が折れているので形状は不明である。石器集中外の出土である。

229はYLLで検出された黒曜石製の二次加工剥片である。黒曜石の産地分析の結果は風化により測定不可となったが、斑晶が入り、灰色と暗黄色とが霜降り状に混交し、不透明を呈する特徴は箱根畑宿産黒曜石と同等である。一般的剥片の左縁辺の打面に接する部分に急角度の二次加工を施す。石器集中32に含まれる。

230はYLLで検出された黒曜石製の二次加工剥片である。黒曜石の産地分析結果は風化により測定不可となったが、斑晶が入り、灰色と暗黄色とが霜降り状に混交し、不透明を呈する特徴は箱根畑宿産黒曜石と同等である。一般的剥片の端部に急角度な剥離を施して切り取る。打面側が折れているため形状は不明である。石器集中31に含まれる。

231はYLLで検出された黒曜石製の二次加工剥片である。黒曜石の産地分析の結果は風化により測定不可となったが、斑晶が入り、灰色と暗黄色とが霜降り状に混交し、不透明を呈する特徴は箱根畑宿産黒曜石と同等である。縦長剥片の打面とこれに続く右側縁の一部に急角度の二次加工を施す。端部が折れているので形状が推測できない。石器集中31に含まれる。

232はYLLで検出された黒曜石製の二次加工剥片である。黒曜石の産地分析結果は風化により測定不可となったが、斑晶が入り、ガラス質黒色安山岩に類似する灰色に風化して透光性がない特徴は箱根畑宿産の可能性が高い。同一方向に連続剥離する過程で生産する剥片の打面とその付近の右縁辺に急角度の剥離を施して切り取る。端部が折れているので形状は不明である。石器集中32に含まれる。

233はYLLで検出された黒曜石製の二次加工剥片である。黒曜石の産地分析結果は風化により測定不可となったが、不透明で斑晶が入る特徴は箱根畑宿産の可能性が高い。同一方向に連続的に剥離する過程で生産した剥片の打面側を急角度な剥離で切り取り、左縁辺にも急角度な剥離を施す。端部側の殆どが失われているので形状は不明である。石器集中外の出土である。

234はBBOで検出された黒曜石製の二次加工剥片である。黒曜石の産地分析結果は風化により測定不可となったが、斑晶が入り、灰色と暗黄色とが霜降り状に混交し、不透明を呈する特徴は箱根畑宿産黒曜石と同等である。形状不明の剥片端部に急角度な剥離を施す。石器集中31に含まれる。

235はYLLで検出された黒曜石製の二次加工剥片である。黒曜石の産地分析結果は風化により測定不可となったが、斑晶が入り、ガラス質黒色安山岩に類似する灰色に風化して透光性がない特徴は箱根畑宿産の可能性が高い。同一方向に連続的に剥離する過程で生産された小型剥片の右縁辺に急角度な剥離を施してやや内湾させる。石器集中31に含まれる。

236はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の楔形石器である。両極剥離を加える。石器集中31に含まれる。

237はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の楔形石器である。両極剥離を加える。石器集中32に含ま

れる。

238はYLMで検出された箱根畑宿産黒曜石製の楔形石器である。楔形石器としては大型品の部類であろう。執拗な両極剝離痕が観察される。石器集中外の出土である。

239はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の楔形石器である。両極剝離を加える。石器集中31に含まれる。

240はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の楔形石器である。両極剝離を加える。石器集中32に含まれる。

241はYLMで検出された和田鷹山産黒曜石製の微細剝離痕剝片である。ヒンジフラクチャーとなった一般的剝片の末端に微細剝離痕が観察される。石器集中外の出土である。

242はYLLで検出されたホルンフェルス製の微細剝離痕剝片である。石器集中32に含まれる。

243はYLMで検出された箱根畑宿産と推測される黒曜石製の微細剝離痕剝片である。打面調整してから得られた寸詰まり縦長剝片の左縁辺に不規則な微細剝離痕が連続する。石器集中外の出土である。

244はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剝離痕剝片である。背面の殆どが自然面で覆われた剝片の右縁辺腹面に連続的な微細剝離痕が観察される。石器集中外の出土である。

245はYLMで検出された箱根畑宿産黒曜石製の微細剝離痕剝片である。分厚い大型剝片の縁辺に大きさの不揃いな微細剝離痕が連続する。石器集中外の出土である。

246はYLLで検出された黒曜石製（分析不可）の微細剝離痕剝片である。石器集中32に含まれる。

247はYLLで検出されたガラス質黒色安山岩製の石刃である。同一方向へ連続剝離する過程で生産する。打面は失われている。石器集中外の出土である。

248はYLLで検出された黒曜石製の石刃である。打面調整を介在しながら石刃の連続剝離過程中に生産する。石器集中31に含まれる。

249はYLLで検出されたホルンフェルス製の石刃である。小型であることから、消費の進んだ石刃核から剝離されたと推定される。端部に亜円礫の自然面を残す。石器集中32に含まれる。

250はYLLで検出されたホルンフェルス製石刃である。石刃と剝片の接合資料（接合67）の部品である。石器集中31に含まれる。

251はKUで検出されたホルンフェルス製の石刃である。背面右半分に自然面を大きく取り込んでいる。打面部が折れている。石器集中外の出土である。

252はFBで検出されたホルンフェルス製の石刃である。石器集中32に含まれる。

253はYLUで検出された黒曜石製の稜付石刃である。黒曜石は風化の激しさから推定できなかったが、肉眼では明らかに箱根畑宿産である。打面は折れて失われている。石器集中32に含まれる。

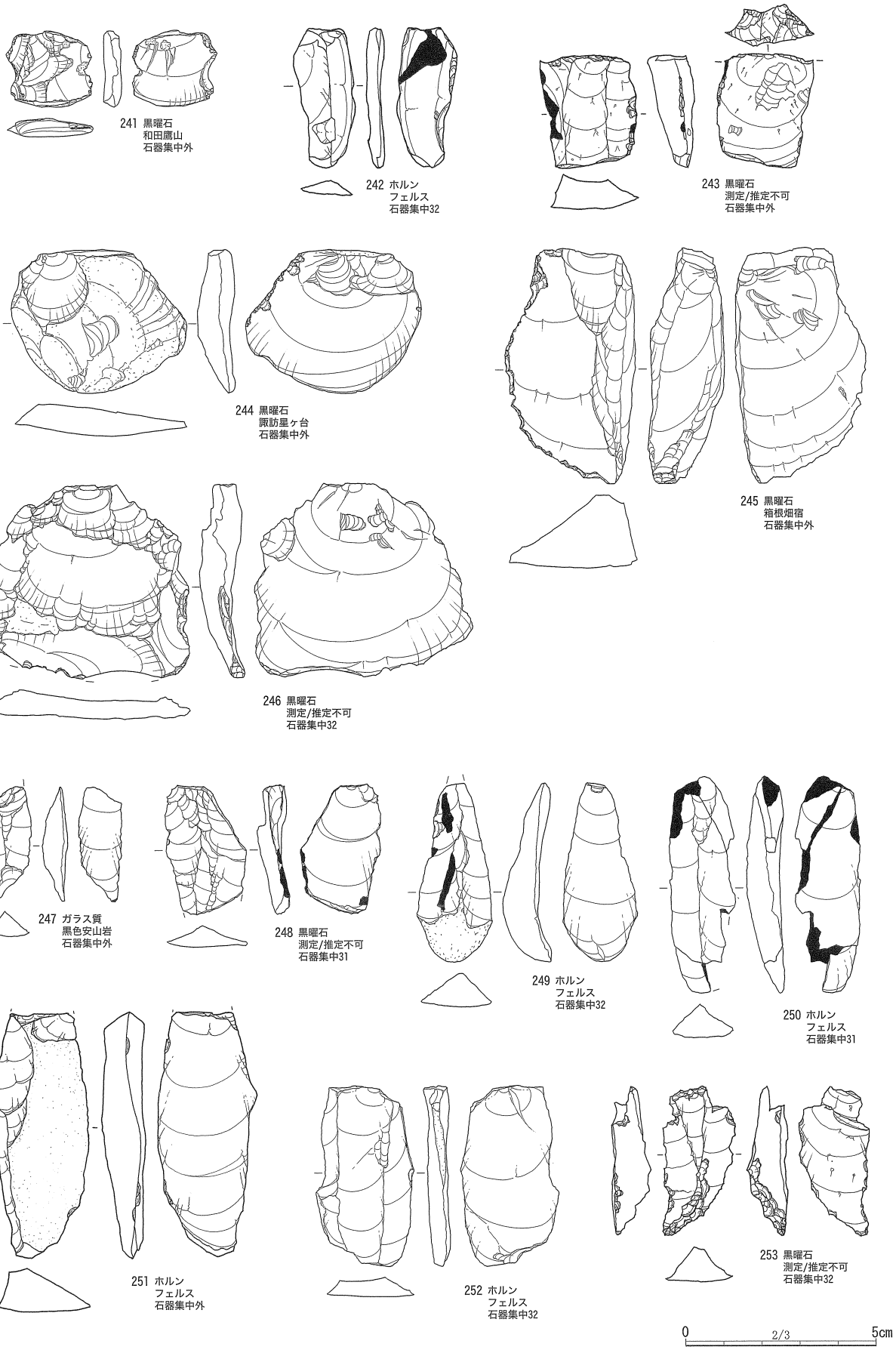
254はYLLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。末端が折れている。検出層準が低く、細石刃としてはやや大型である。石器集中32に含まれる。

255はNSCで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剝離痕は観察されない。打面と末端が折れている。石器集中外の出土である。

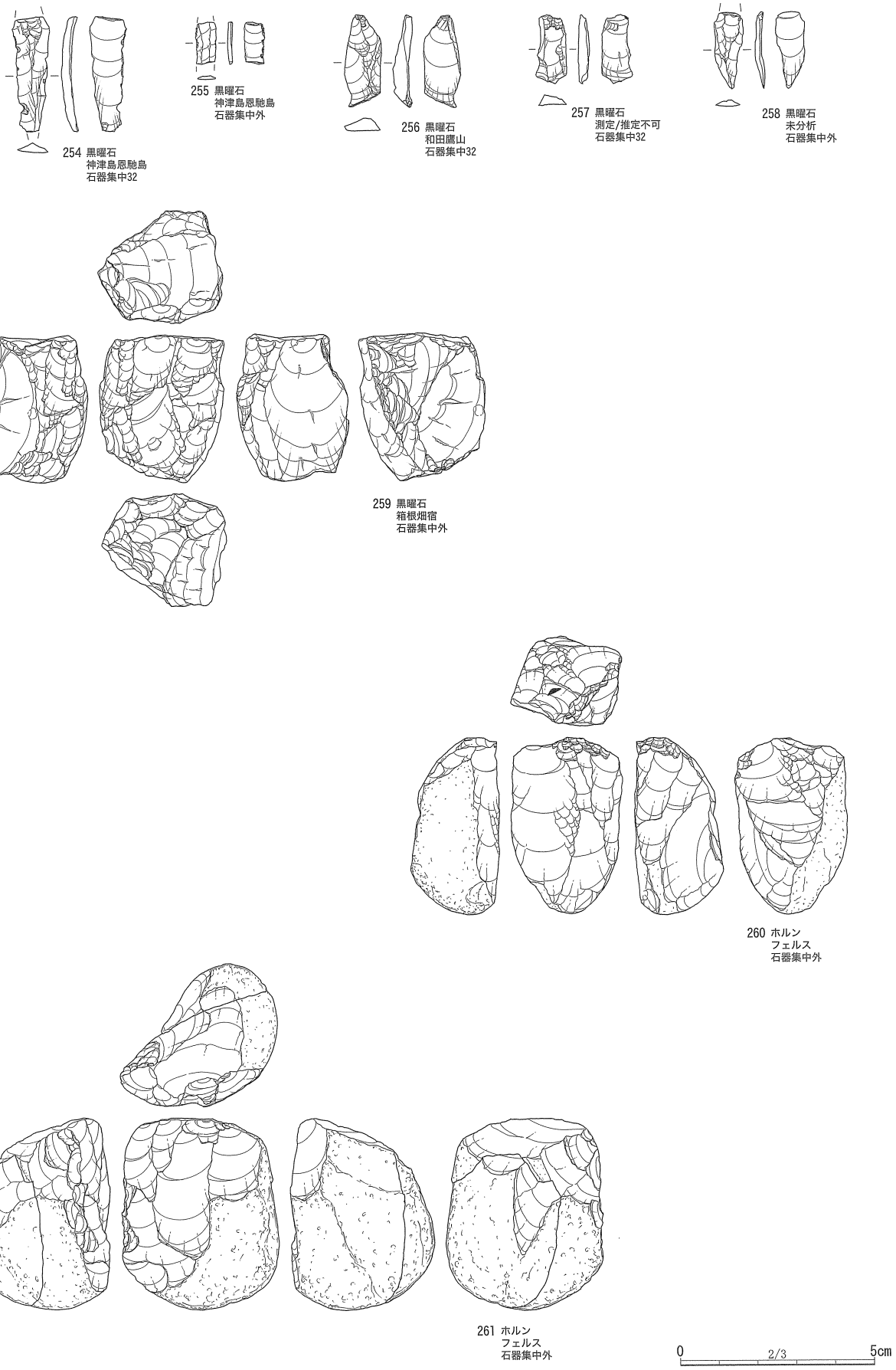
256はYLLで検出された和田鷹山産黒曜石製の細石刃である。正面および側面観が不整形なので、おそらく石刃の剝離過程中に生産しているものと推測される。石器集中32に含まれる。

257はBBOで検出された黒曜石製の細石刃である。産地推定結果は「測定不可」だったが、透光性がなく褐色と黒色の縞状を呈すことから、箱根畑宿産の可能性が高い。形態が不整形なので、同一方向からの連続的な剝片剝離過程中に生産されたものと推定される。石器集中32に含まれる。

258はFBで検出された黒曜石製の細石刃である。透光性がなく安山岩質のザラザラな質を呈するので箱根畑宿産の可能性が高い。微細剝離痕は観察されない。打面が折れている。石器集中外の出土である。



第164図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の石器群（3）



第165図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の石器群（4）

259はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の石刃核である。同一打面の周縁を加撃して巡り、小型石刃を連続的に剝離する。石器集中外の出土である。

260はYLLで検出されたホルンフェルスの石刃核である。半求心剝離して形成された打面を同一方向に連続打撃して石刃を量産する。石器集中外の出土である。

261はYLLで検出されたホルンフェルスの石刃核である。小型円礫の端部を作業面に小型縦長剝片を生産する。また、石刃剝離作業面に向けて稜を整形する。しかし稜形成ののちの石刃剝離は行われていない。石器集中外の出土である。

262はYLLで検出されたホルンフェルスの石核である。小型亜円礫を多打面転移して小型縦長剝片と小型剝片を生産する。石器集中31に含まれる。

263はYLMで検出されたホルンフェルスの石核である。小型亜円礫の扁平で広い面を打面にして小型剝片を生産し、また、この作業面を打面にして、左右端部で小型縦長剝片を生産する。石器集中31に含まれる。

264はYLLで検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫の多方向に打面と作業面とを展開し、小型剝片を生産する。石器集中31に含まれる。

265はYLLで検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫を交互にたたいて縦長剝片を生産している。石器集中31に含まれる。

266はYLLで検出されたホルンフェルスの石核である。小型亜円礫に作出した打面の周縁を巡るように加撃して、小型剝片を生産する。石器集中32に含まれる。

267はYLLで検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫の多方向に打面および作業面を展開し、小型剝片を生産する。石器集中32に含まれる。

268はYLLで検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫の多方向に打面と作業面とを展開し、小型剝片を生産する。石器集中外の出土である。

269はYLLで検出されたホルンフェルスの石核である。細長い亜円礫の長軸端部の自然面に加撃して中型の剝片を生産する。石器集中31に含まれる。

270はホルンフェルス製剝片1点（271）と石核1点（272）の接合資料である（接合85）。背面に自然面のついた石核を半求心状に剝離して一般的剝片を生産する。石器集中31に含まれる。

273はホルンフェルス製剝片2点（275，759）と石核1点（274）の接合資料である（接合71）。小型の一般的剝片を生産している。石器集中31・32に含まれる。

274は接合71に含まれる石核である。亜円礫素材で、打面転移を繰り返しながら、同一打面からしばしば連続剝離を行うことがある。

第171図-173図は石器集中33に含まれる石器の実測図である。

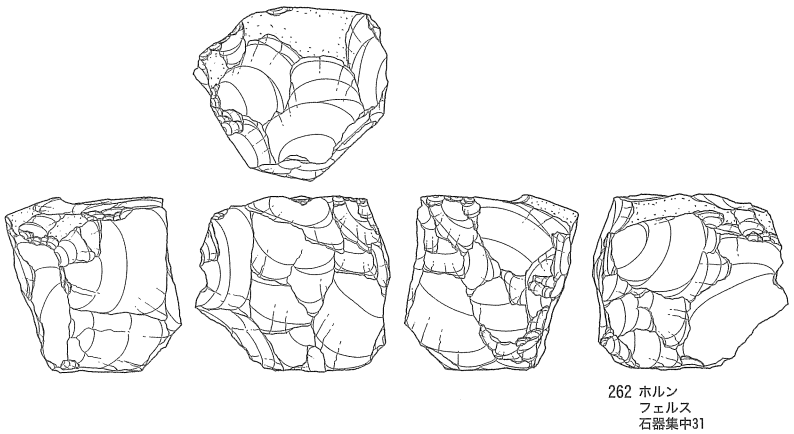
276はYLLで検出されたホルンフェルス製剝片5点（277-280）と石核1点（281）の接合資料である（接合65）。扁平な亜円礫の平滑な部位を主要な打面として、打点を後退させながら同一方向へ連続打撃し、幅広剝片を量産している。石器集中33（第Ⅷ文化層）に含まれる。

282はYLLで検出されたホルンフェルスの石核である。交互剝離によって幅広な一般的剝片を量産している。石器集中33（第Ⅷ文化層）に含まれる。

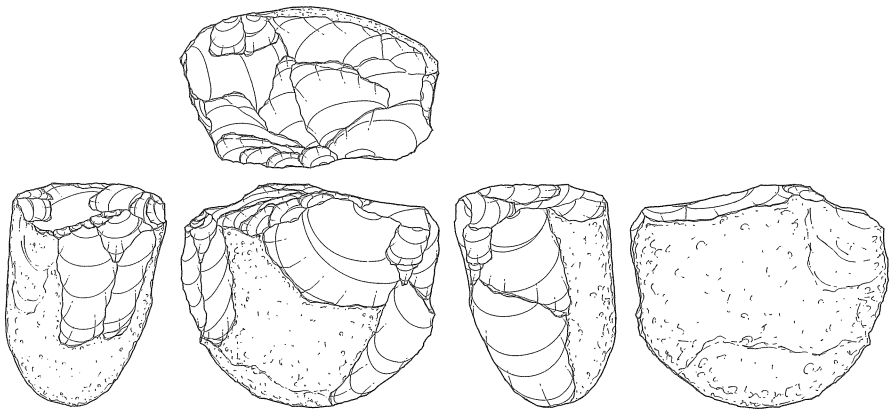
283はYLLで検出されたホルンフェルスの石核である。幅広な一般的剝片を量産している。石器集中33（第Ⅷ文化層）に含まれる。

284はYLLで検出されたホルンフェルス製の敲石である。亜円礫の端部に敲打によると推測される剝離痕が観察される。石器集中33（第Ⅷ文化層）に含まれる。

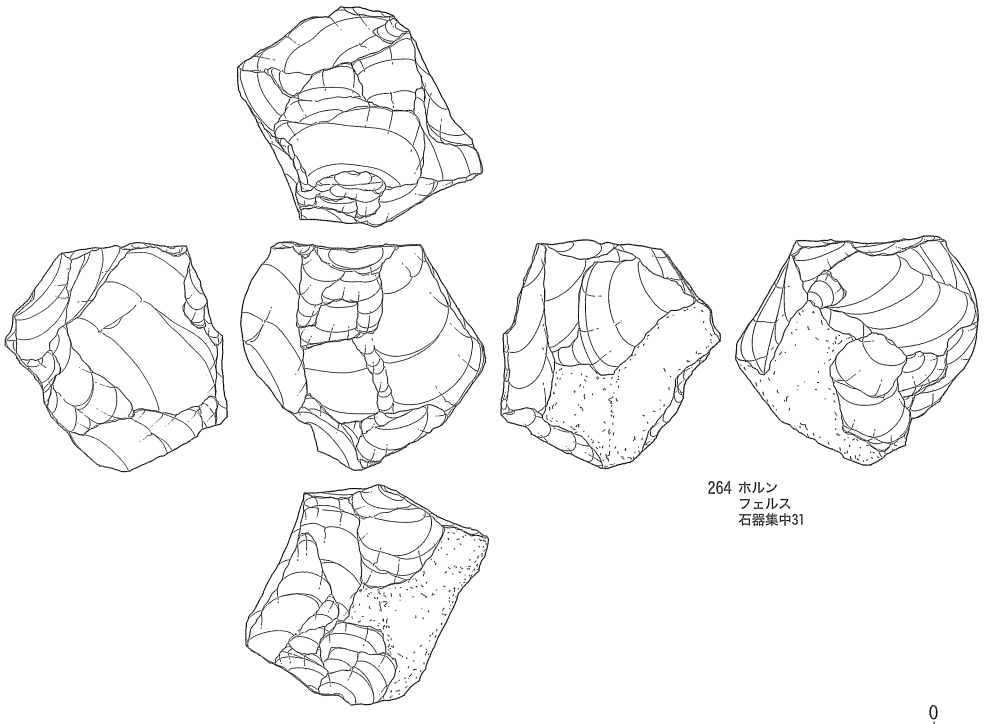
713はYLLで検出された輝石安山岩製の敲石である。石器集中外の出土である。



262 ホルン
フェルス
石器集中31



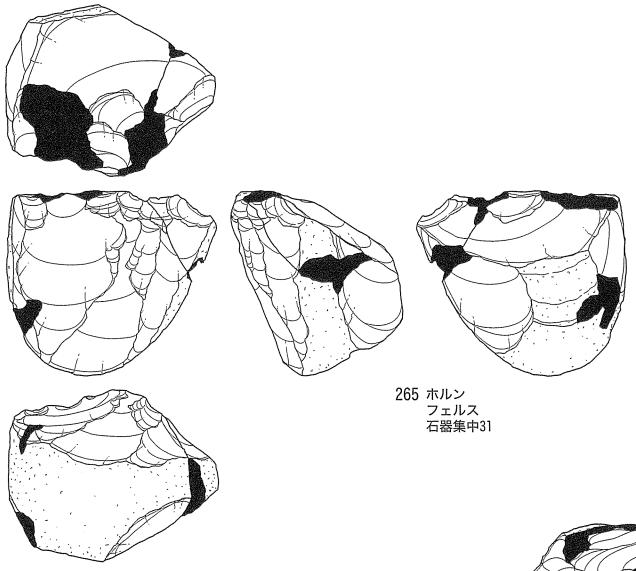
263 ホルン
フェルス
石器集中31



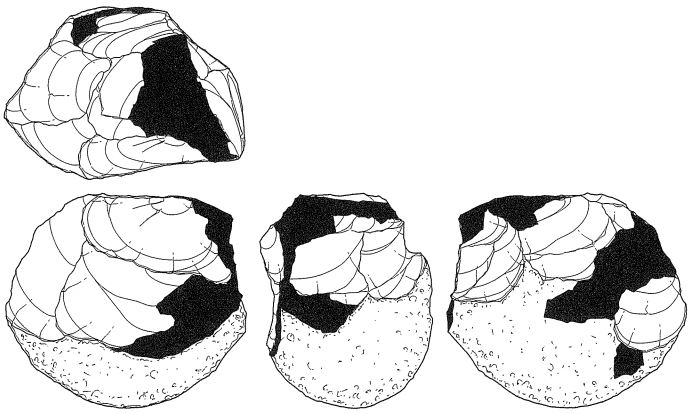
264 ホルン
フェルス
石器集中31

0　2/3　5cm

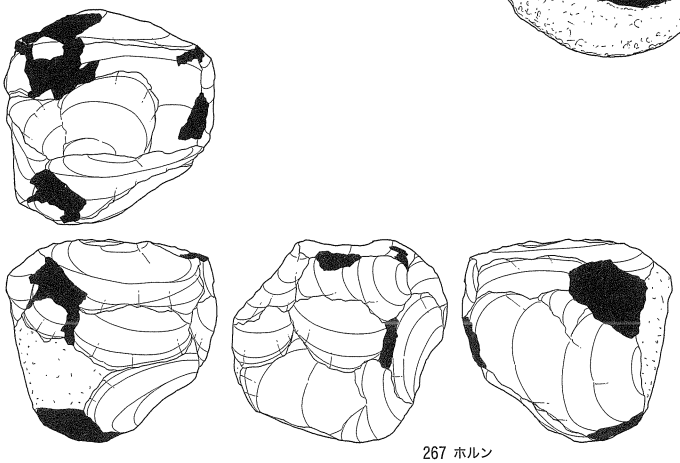
第166図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の石器群（5）



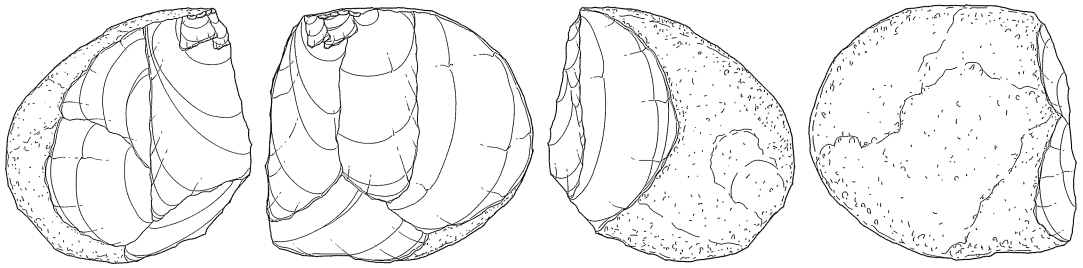
265 ホルン
フェルス
石器集中31



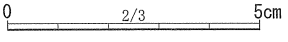
266 ホルン
フェルス
石器集中32



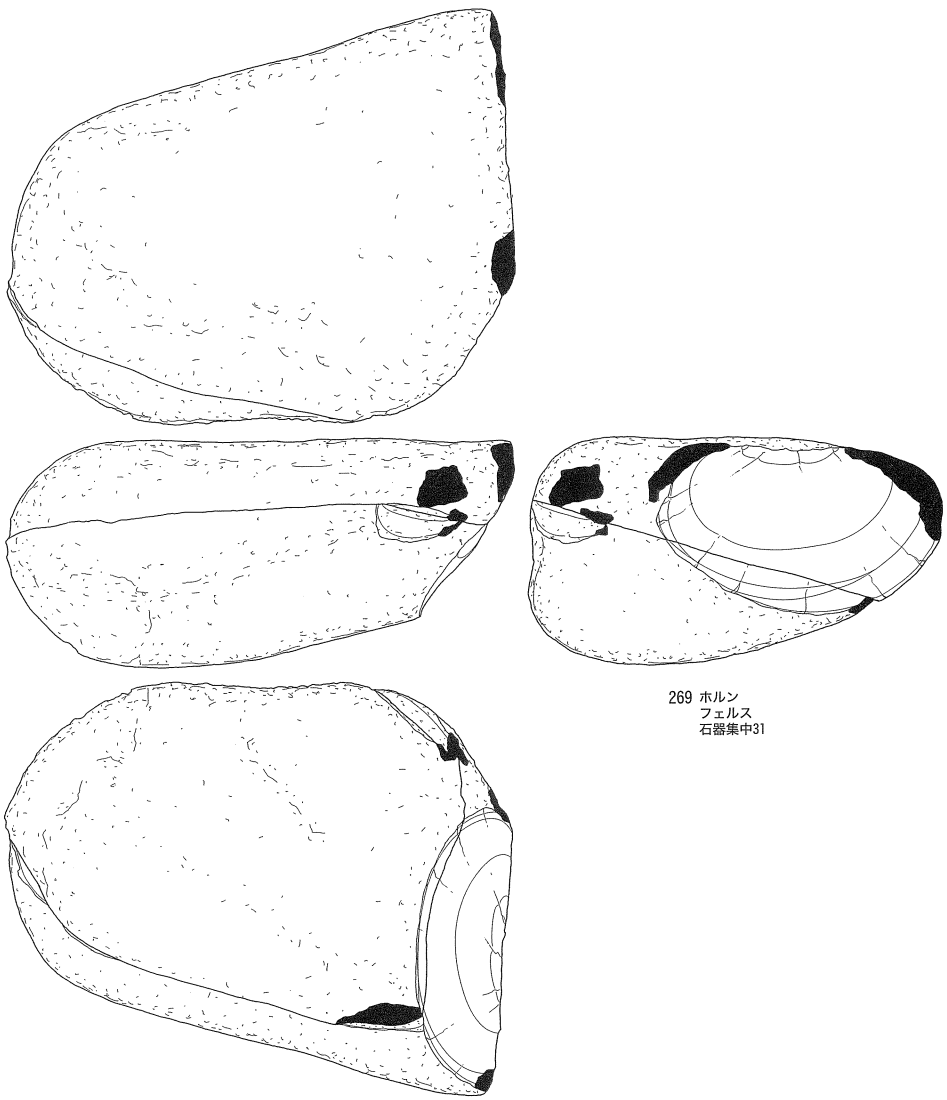
267 ホルン
フェルス
石器集中32



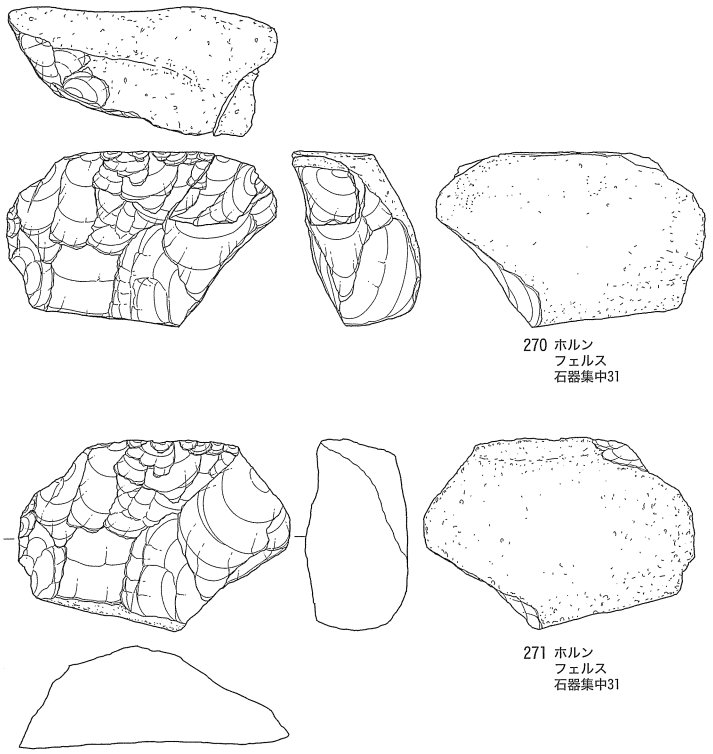
268 ホルン
フェルス
石器集中外



第167図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の石器群（6）

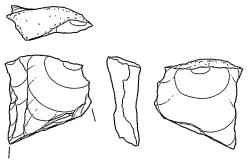


269 ホルン
フェルス
石器集中31

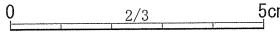


270 ホルン
フェルス
石器集中31

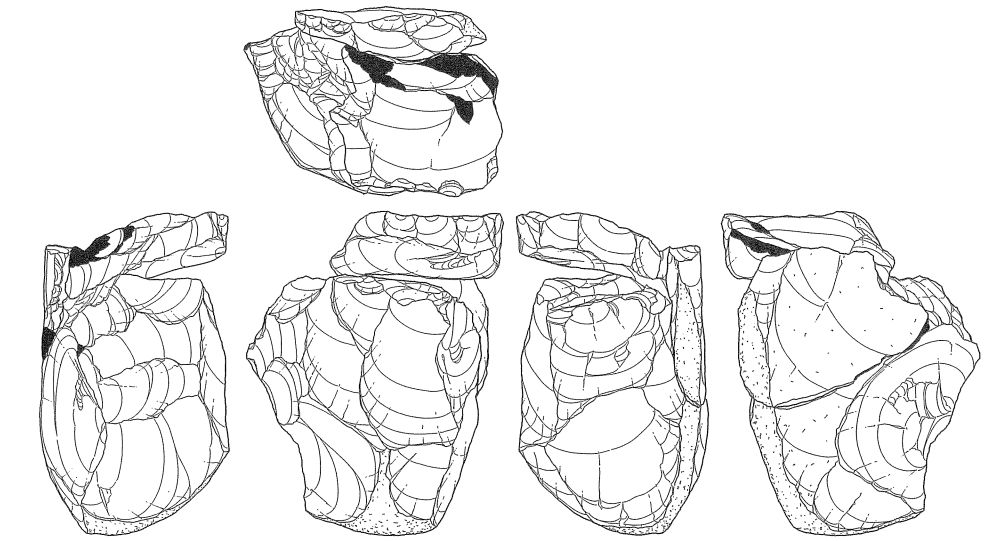
271 ホルン
フェルス
石器集中31



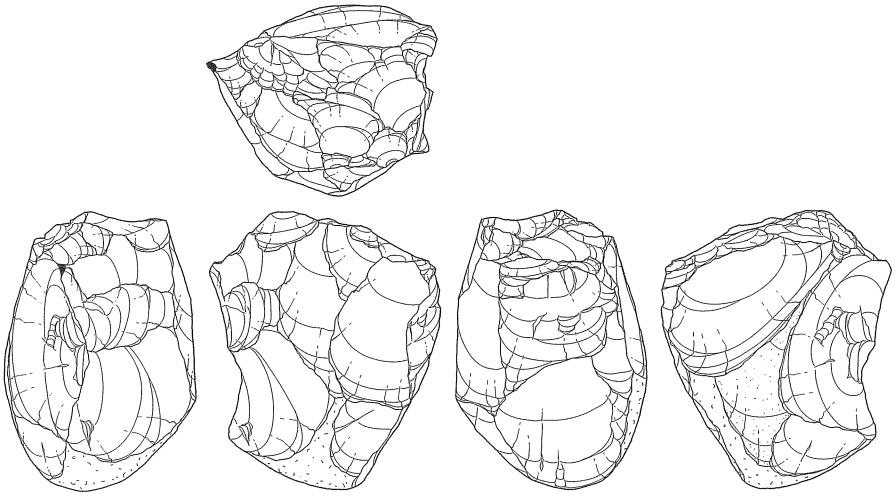
272 ホルン
フェルス
石器集中31



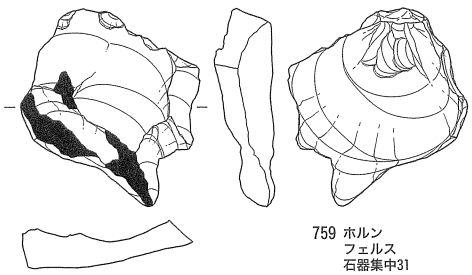
第168図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の石器群（7）



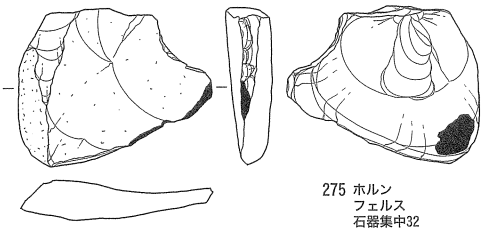
273 ホルン
フェルス
石器集中31
石器集中32



274 ホルン
フェルス
石器集中32



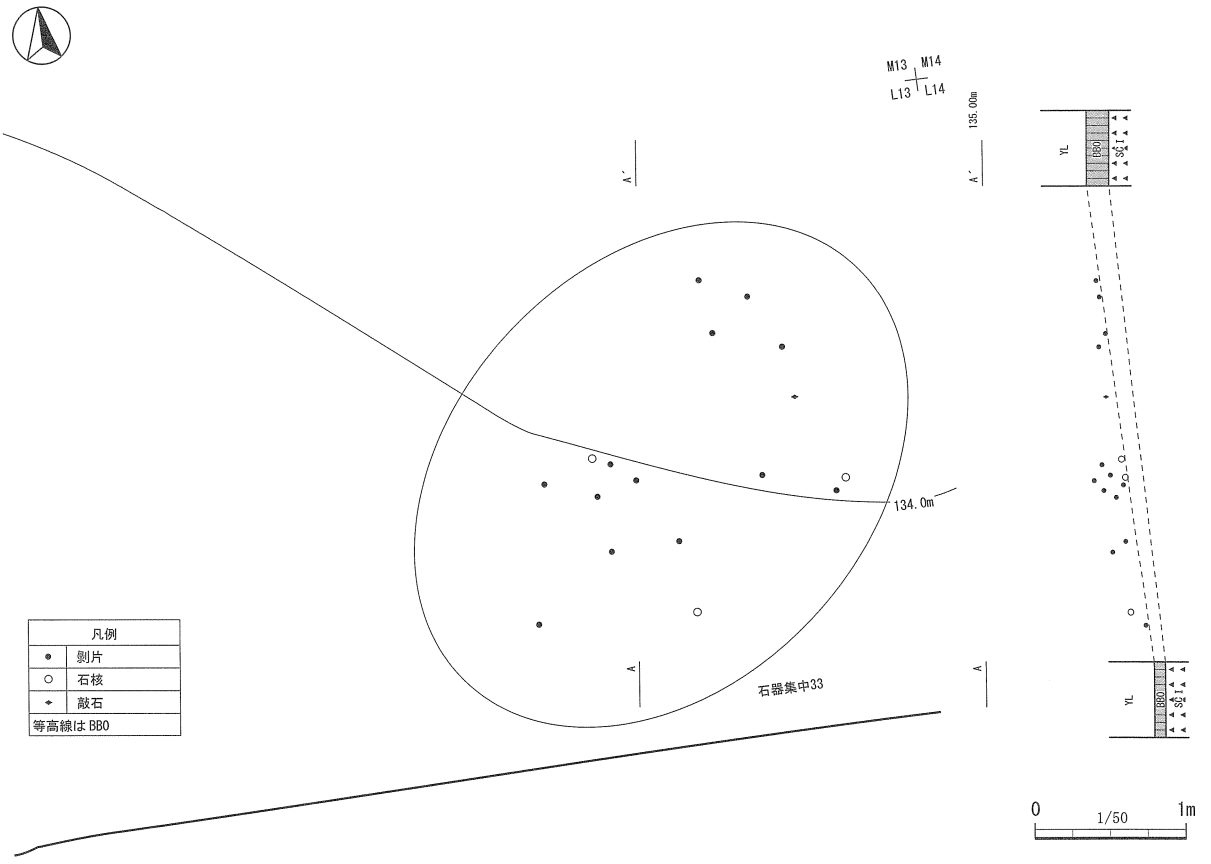
759 ホルン
フェルス
石器集中31

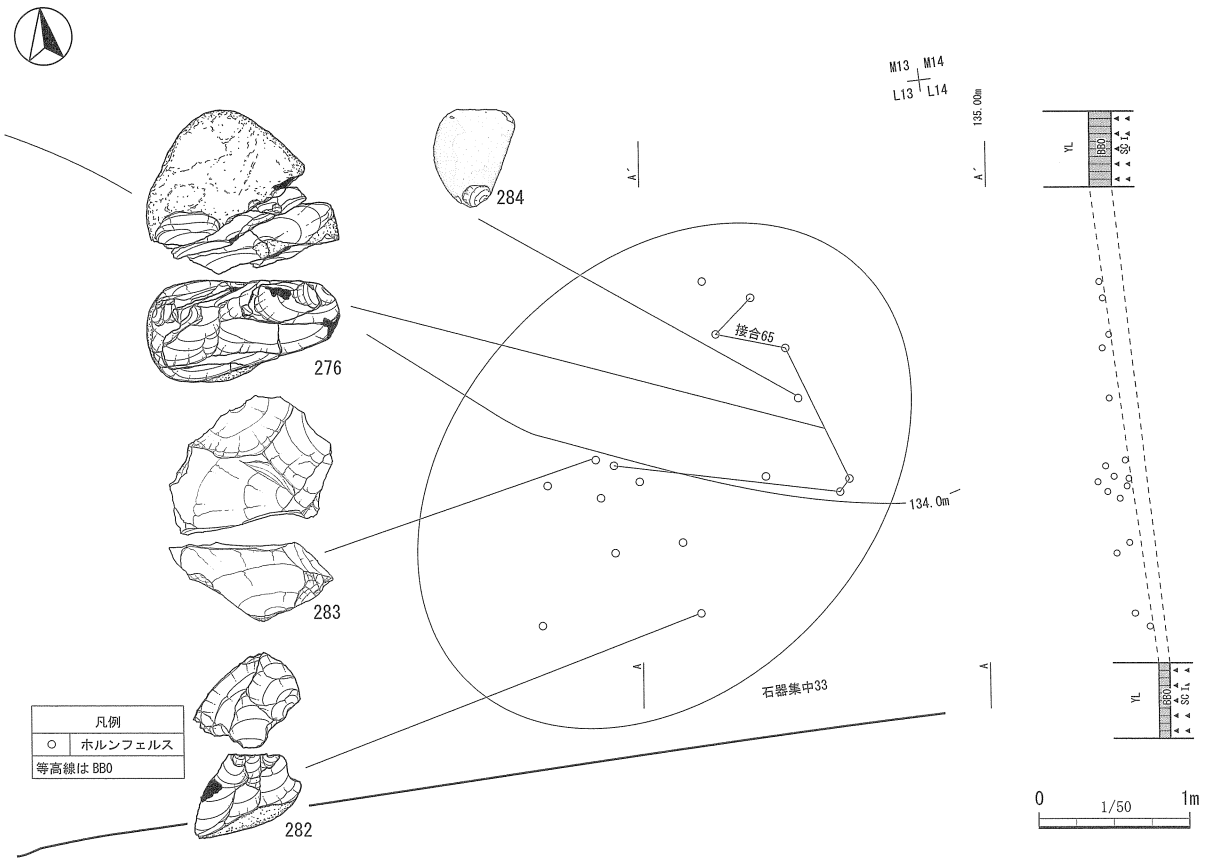


275 ホルン
フェルス
石器集中32

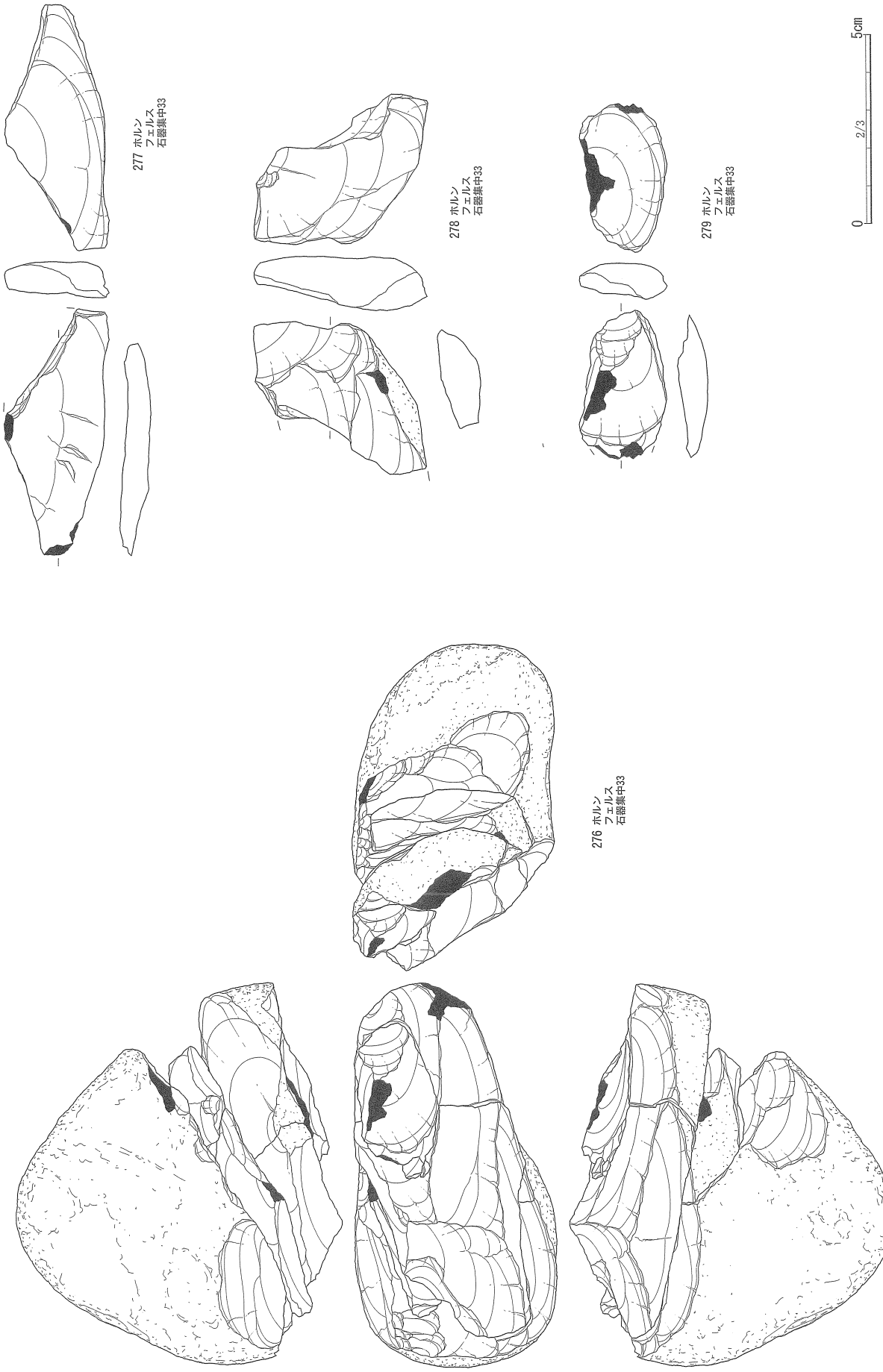
0　2/3　5cm

第169図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層の石器群（8）

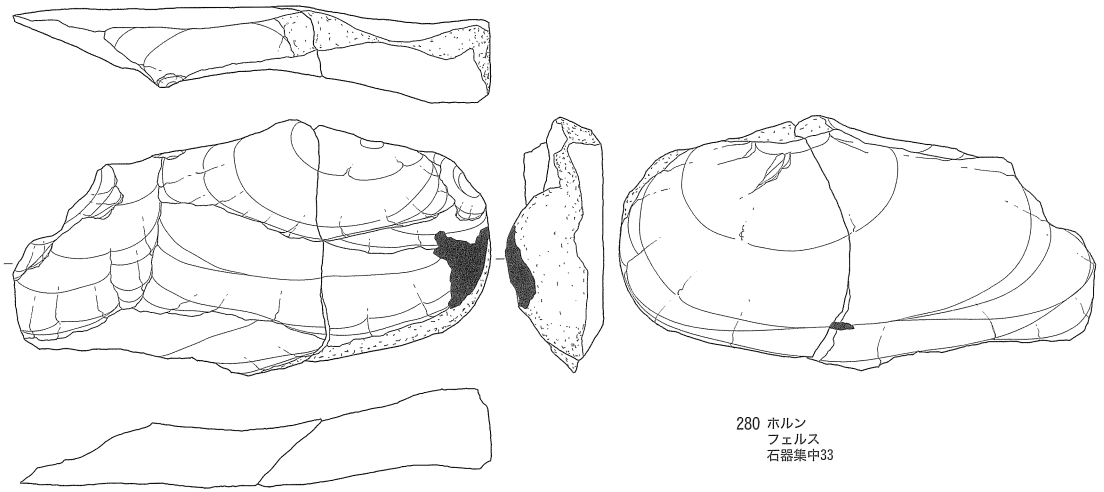




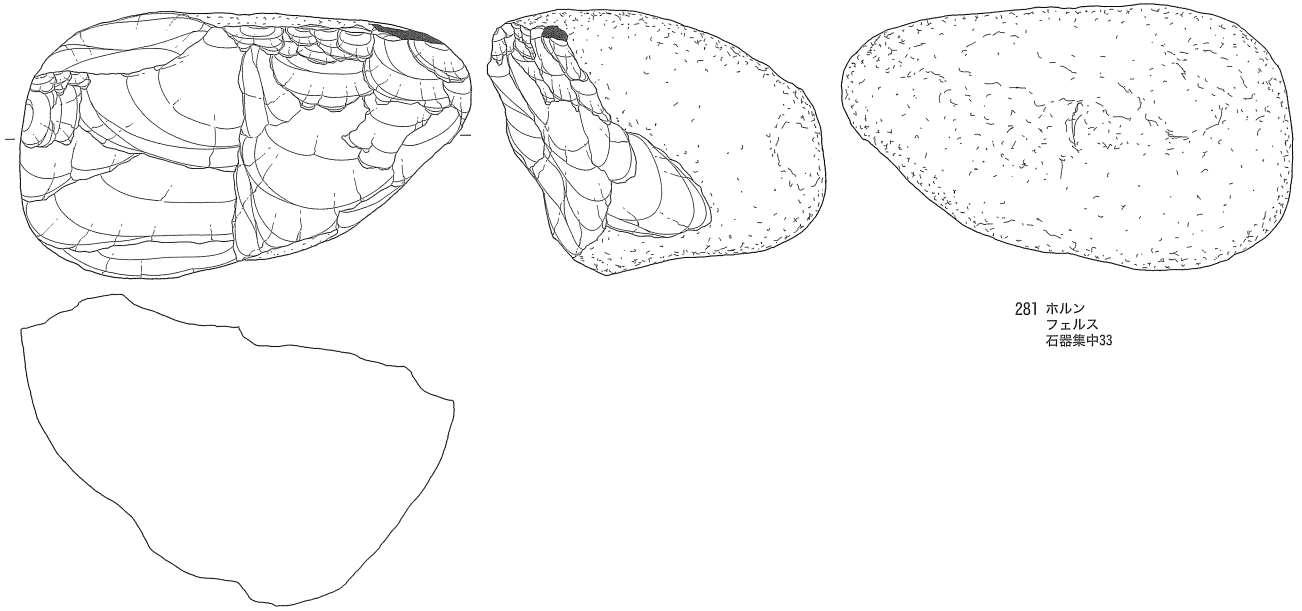
第170図　第3地区　第Ⅷ文化層　石器集中33　器種別分布（上）・石材別分布（下）



第171図　第3地区　第Ⅷ文化層の石器群（1）



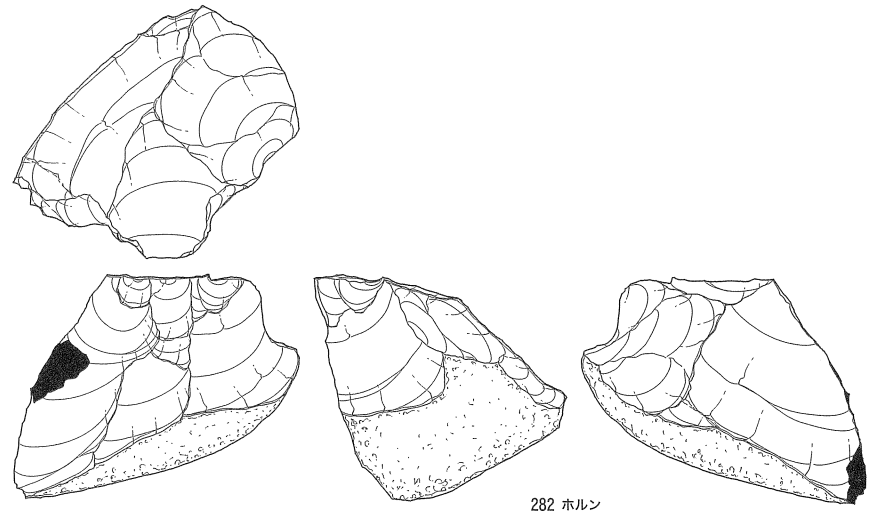
280 ホルン
フェルス
石器集中33



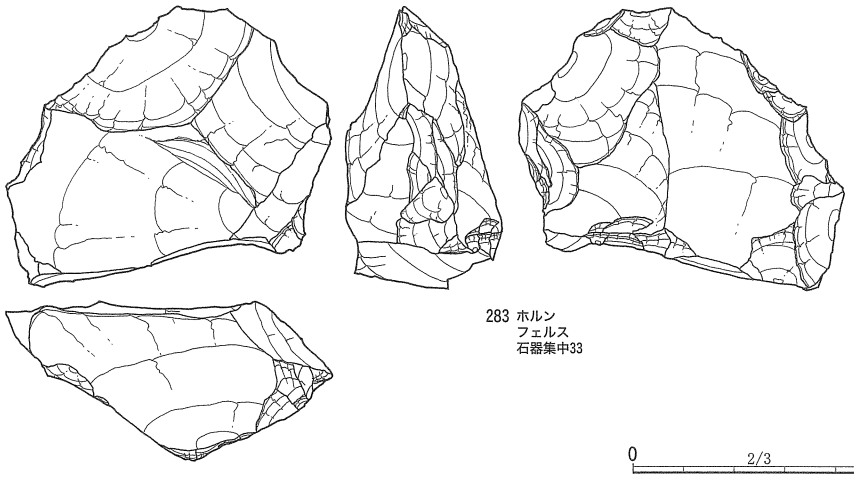
281 ホルン
フェルス
石器集中33

0　2/3　5cm

第172図　第3地区　第Ⅷ文化層の石器群（2）

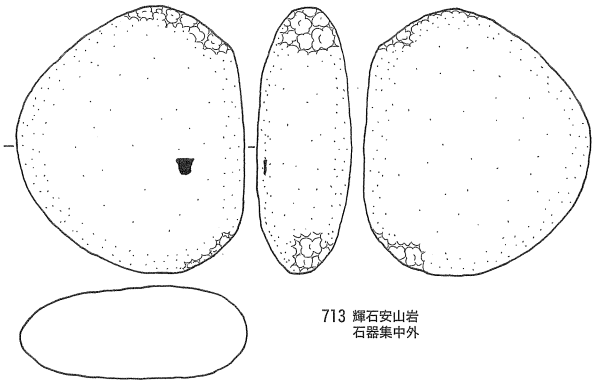


282 ホルン
フェルス
石器集中33

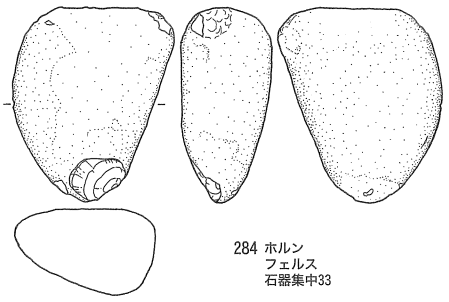


283 ホルン
フェルス
石器集中33

0　2/3　5cm



713 輝石安山岩
石器集中外



284 ホルン
フェルス
石器集中33

0　1/3　10cm

第173図　第3地区　第Ⅷ文化層の石器群（3）

４．第4地区の石器群（第174・175図、表38）

N6・7グリッドを中心とする範囲である。西は道路に切られている。石器集中34を中心として、その南に広がるような分布状態である。主要な包含層は休場層であるが、FBにも多くの石器が包含される。休場層の堆積は同じ尾根を南に下った第5地区に比べて薄いことから、おそらく自然作用で南に流れて浮き上がったものと推測される。堆積状況はこのように良好とはいえないが、平面的に見て石器が最も濃集する部分の出土層位をみると、休場層下部よりは上位の休場層中部くらいであることから、少なくとも第Ⅷ文化層（第4地区）よりは上の文化層と判断される。これを第Ⅸ文化層とする。

出土石器は212点である。構成石材の中心は箱根畑宿産黒曜石101点（47.6%）で、これに諏訪星ヶ台産黒曜石19点（9.0%）やホルンフェルス15点（7.1%）が続く。測定/推定不可とされた黒曜石37点（17.5%）と未分析の黒曜石25点（11.8%）も多くを占めるが、肉眼で見る限りでは風化が著しく、多くは箱根畑宿産の可能性が高い。

石器群は石材と型式との関係から大きく2群に分けられる。箱根畑宿産黒曜石製石器群で石刃製の背部加工ナイフ形石器と切出形石器を含む一群と、諏訪星ヶ台産黒曜石製を中心とする信州系黒曜石の石刃石器群および同石材の尖頭器を含む一群である。包含層が休場層下部よりも明らかに上位にあり、箱根畑宿産黒曜石のまとまった消費と尖頭器が認められる点から、第4期のいずれかの時期と推定される。ただし、神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃1点も組成しており、多少の混在は避けられない。

表38　第4地区　第Ⅸ文化層　石器組成

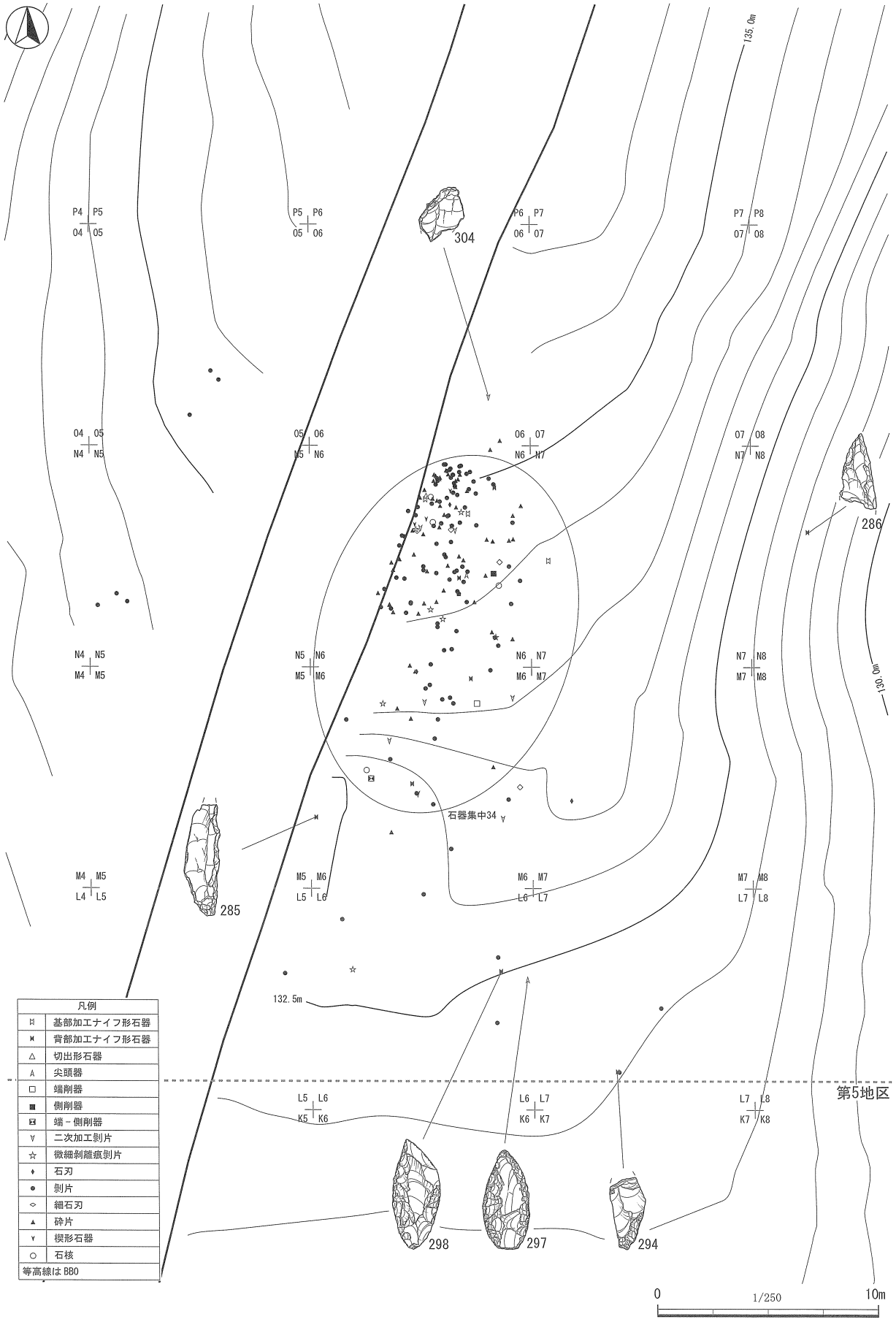
	黒曜石										
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	和田鷹山	和田土屋橋西	箱根畑宿	神津島恩馳島	測定/推定不可	未分析	珪質シルト岩	ホルンフェルス	計
基部加工ナイフ形石器	2				1						3
背部加工ナイフ形石器	1		1		6						8
尖頭器	1			1							2
切出形石器					1						1
端削器					1						1
端-側削器	1										1
側削器					1						1
二次加工剝片	1				6		1				8
微細剝離痕剝片		1			5		1				7
石刃					2		1				3
剝片	7		1		51		17	9	8	15	108
細石刃	1				1	1		1			4
砕片	3				21		17	15	1		57
楔形石器	1				3						4
石核	1				2				1		4
計	19	1	2	1	101	1	37	25	10	15	212

（1）石器集中

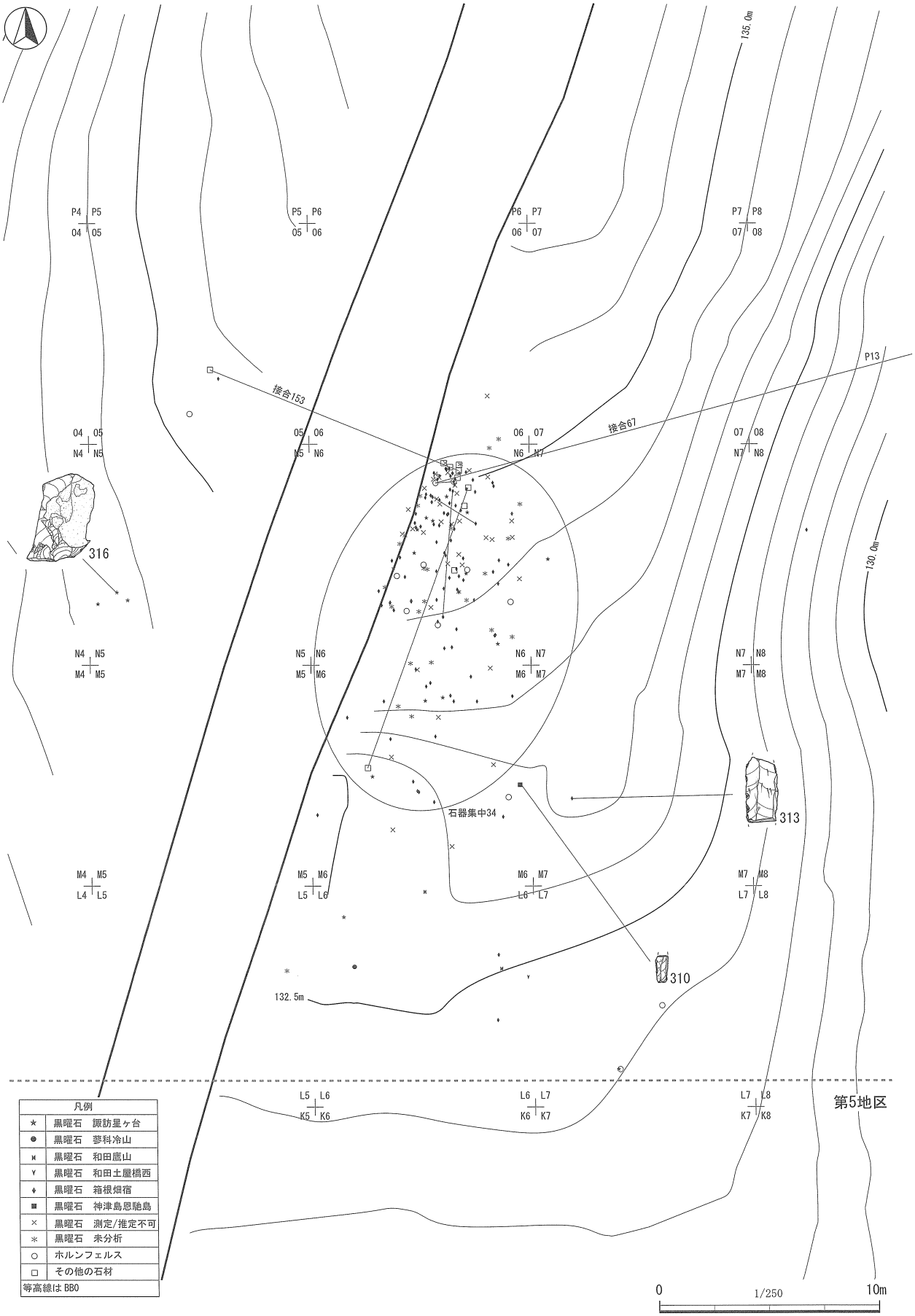
石器集中34（第176・177図、表39）

第4地区に分布する石器の大半が含まれる。N6グリッドの休場層中部を中心としつつも上位の休場層上部からFBにも分布する。石器集中の分布範囲には10点未満の小礫が散在しており、おそらくは伴うものであろう。礫の出土層位は休場層上部と記録されていたが、石器群の出土層位と型式学的観点から浮き上がりの影響とみなされる。

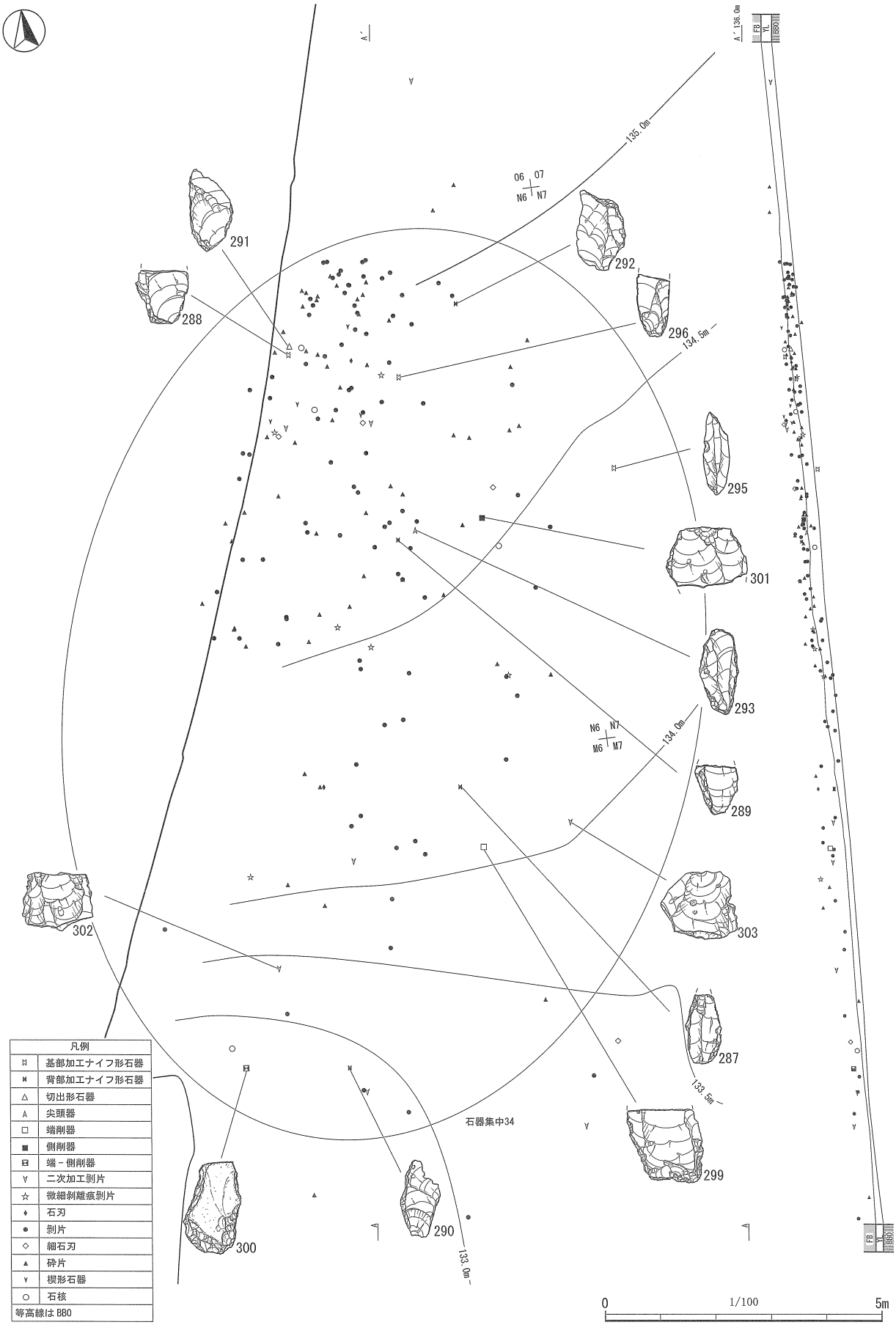
石器183点で構成される。第1石材は箱根畑宿産黒曜石94点（51.4%）で、第2石材は諏訪星ヶ台産黒曜石14点（7.7%）である。測定/推定不可とされた黒曜石34点や未分析の黒曜石22点もあるが、これらの大半は見た目では箱根畑宿産と同群である。よって第1石材の割合は非常に高いと推測され、この場所で箱根畑宿産黒曜石の石器製作が行われたことがより強調されよう。第2石材の諏訪星ヶ台産黒曜石も点数こそ少ないが、この石材としては珍しいことに小型石刃を剝離したと思われる石核（319）を伴って



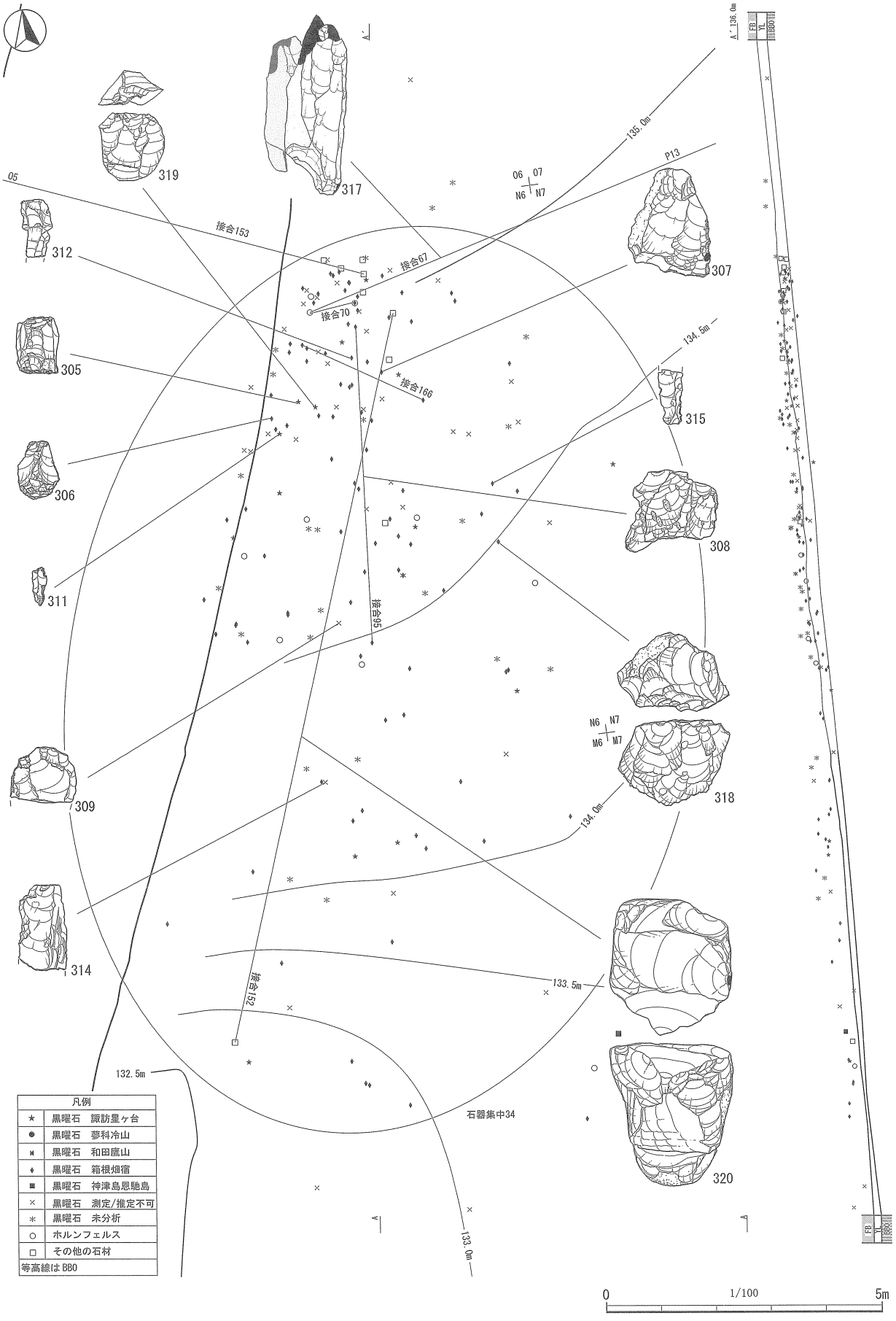
第174図　第4地区　第IX文化層　器種別分布



第175図　第4地区　第Ⅸ文化層　石材別分布



第176図　第4地区　第IX文化層　石器集中34　器種別分布



第177図　第4地区　第Ⅸ文化層　石器集中34　石材別分布

いる。小型のナイフ形石器(295)の石質はこの石核と大変よく似ている。

表39　第4地区　第IX文化層　石器集中34　石器組成

	黒曜石				珪質シルト岩	ホルンフェルス	計
	諏訪星ヶ台	箱根畑宿	測定/推定不可	未分析			
基部加工ナイフ形石器	2	1					3
背部加工ナイフ形石器		4					4
尖頭器	1						1
切出形石器		1					1
端削器		1					1
端-側削器	1						1
側削器		1					1
二次加工剝片	1	5					6
微細剝離痕剝片		5	1				6
石刃		1	1				2
剝片	3	48	16	8	7	10	92
細石刃	1	1		1			3
砕片	3	21	16	13	1		54
楔形石器	1	3					4
石核	1	2			1		4
計	14	94	34	22	9	10	183

（2）出土石器の検討（第178-179図）

285はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺の打面に接する部位を急角度な剝離で切り取って打面の残る基部を整形し、左縁辺を打面部から末端部にかけて切り取って側縁を整形し、おそらくは尖頭部も作出する。

286はFBで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺の末端を急角度な剝離で斜めに切り取って側縁を形成し、尖頭部を作出する。基部が失われているのでその形状は不明である。

287はYLUで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左縁辺を急角度な剝離で切り取って基部を整形し、右縁辺を打面から端部までを連続して切り取って側縁を整形する。基部は二次加工の跡に折れている。

288はFBで検出された箱根畑宿産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。縦長と推定される剝片を素材として、左縁辺の打面に接する部位に急角度の剝離を施して基部を整形する。端部は折れているため、全体形状は不明である。

289はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。剝片を縦位に用い、右縁辺に稜上から鈍角に剝離を施し、また、右縁辺の末端裏面に平坦な剝離を僅かに施す。尖端部が折れているので全体形状は不明である。

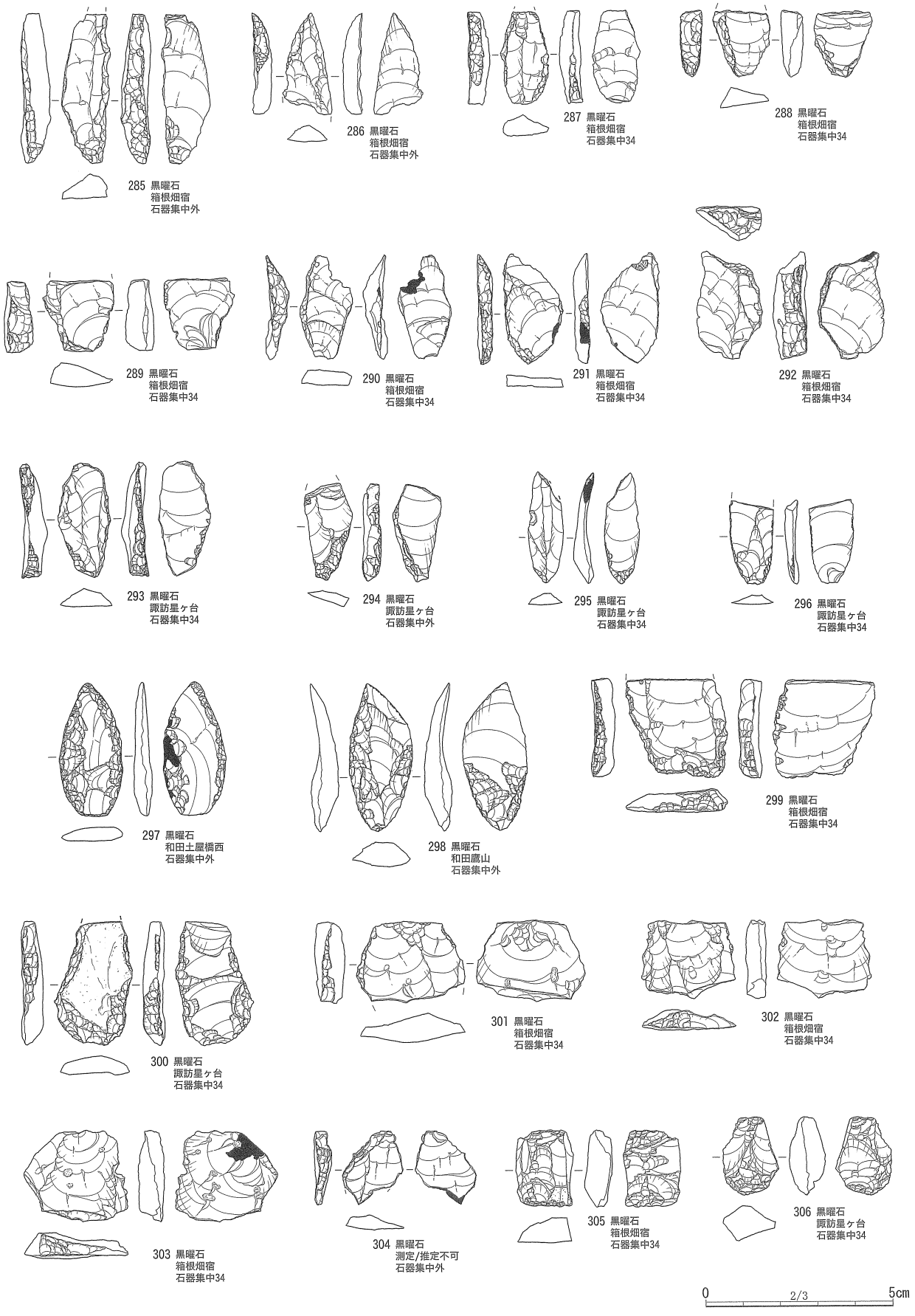
290はYLUで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。一般的剝片を縦位に用い、右縁辺の半分を急角度の剝離で切り取って側縁を整形する。左縁辺が折れているので全体形状は不明である。

291はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の切出形石器である。一般的剝片を斜位に用い、打面側を急角度の剝離で切り取って基部となし、末端側を斜めに切り取って側縁を整形し、斜刃を残す。

292はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。一般的剝片を縦位に用い、打面と右縁辺を急角度な剝離で分厚く切り取って側縁を整形し、尖端部を作出する。

293はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。石刃を逆位に用い，周縁のほぼ全体に急角度な剝離と平坦にちかい剝離を施して基部から尖頭部を作出する。尖頭部と思われる部位は折れている。

294はYLUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。右縁辺に自然面の付いた石刃を逆位に用い、急角度な剝離と平坦剝離を併用して基部を整形する。また、折れ部付近の左縁辺



第178図　第4地区　第Ⅸ文化層の石器群（1）

にも二次加工と推測される平坦剥離が認められる。尖頭部を構成すると推測される打面側が失われているので全体形状は不明である。

295はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、端部の裏面に平坦な剥離を施して基部を整形し、多面を急角度な剥離で斜めに切り取り、尖頭部を作出する。

296はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。石刃を素材として、打面に接する両縁辺に急角度の微細剥離を施して基部を整形する。尖端部は折れているので全体形状は不明である。

297はYLMで検出された和田土屋橋西産黒曜石製の尖頭器である。一般的剥片を横位に用い、両縁辺の左右から平坦剥離を施し、尖頭部を作出し、また、左右側縁に平坦部と基部の一部を残す。

298はYLLで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左縁辺の打面側半分と右縁辺の全体、裏面のバルブ部全体に類鱗状の平坦剥離を施し、器形を木葉形に整形する。

299はFBで検出された箱根畑宿産黒曜石製の端削器である。剥片の端部を中心に急角度な剥離で刃部を整形する。

300はYLUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の端-側削器である。表面を中心に平坦剥離で整形し、裏面にも大振りな剥離を施す。

301はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の側削器である。打面調整痕のある剥片の右縁辺に急角度な剥離を施して刃部を作出する。端部の折れと二次加工との前後関係は読み取れない。

302はFBで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剥片である。打面と端部の折れた剥片の端部折れ面に急角度の二次加工を施す。

303はFBで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剥片である。一般的剥片の端部に急角度の二次加工を施す。

304はFBで検出された黒曜石製の二次加工剥片である。黒曜石の産地分析結果は風化により測定不可となったが、風化面がザラザラで黒色を呈し、斑晶が入る特徴は、少なくとも信州系とは異なり、伊豆・箱根系の可能性が高い。同一方向に連続的に剥離する過程で生産された剥片の打面とその付近の左縁辺に急角度の剥離を施して切り取る。端部が折れているので形状は不明である。

305はYLUで検出された箱根畑宿産黒曜石製の楔形石器である。両極剥離を加える。

306はYLUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の楔形石器である。両極剥離を加える。

307はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。一般的剥片の右縁辺に連続的な微細剥離痕が観察される。石器集中34に含まれる。

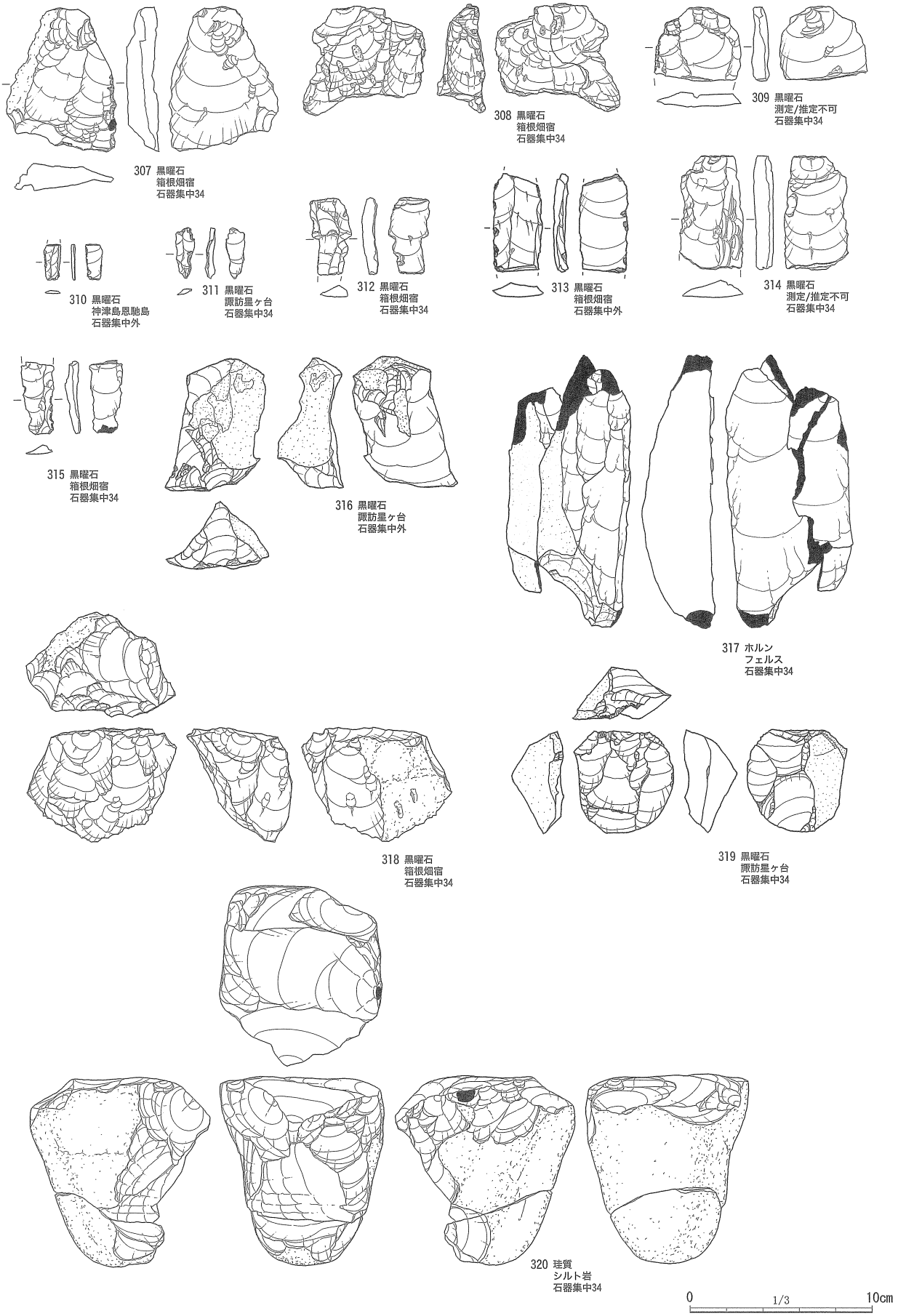
308は箱根畑宿産黒曜石製の微細剥離痕剥片1点と剥片1点の折れ面同士の接合資料（接合95）である。石器集中34に含まれる。

309はYLで検出された黒曜石製の微細剥離痕剥片である。黒曜石の産地分析結果は測定不可とされたが、黒色で透光性がなく、表面がザラザラで、僅かに斑晶がはいるので、箱根畑宿産と予想される。一般的剥片の両縁辺に微細剥離痕が観察される。

310はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。左縁辺に連続的な微細剥離痕が付く。打面部が折れている。

311はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。縁辺が直線的でなく整っていない。

312はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の石刃である。裏面の二次的剥離は斑晶を起点とした偶発的なものと推定され、また、打面と末端が折れている。斑晶の多い石材による石器製作は、石質の影響



第179図　第4地区　第Ⅸ文化層の石器群（2）

から、意図しない形態の剥片類が多くなりがちである。

313はYLMで検出された箱根畑宿産黒曜石製の石刃である。上下両端が折れ、左縁辺を中心に微細な剥離痕が認められる。

314はFBで検出された黒曜石製の石刃である。ガラス質黒色安山岩に類似してざらざらに風化している。産地推定は行っていないが、伊豆・箱根系であろう。

315はFBで検出された箱根畑宿産黒曜石製の細石刃である。右縁辺の端部付近に微細剥離痕が付く。箱根系の黒曜石は細石刃剥離に用いられる石材ではないし、また斑晶の障害で剥離面が不安定なため両側縁がそろっていないので、組織的な細石刃剥離によるものではなさそうである。打面が折れている。

316はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製剥片である。打面と背面右側に大きく自然面を残している。端部の縁辺に微細な剥離痕が認められる。

317はホルンフェルス製石刃2点の接合資料（接合67）である。著しく風化しており剥離面は読み取りづらい。2点のうち後に剥離されたほう（第164図250）は第3地区に分布する。

318はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石の石核である。多方面に打面と作業面とを展開したあと、ひとつの作業面を打面にして、小型縦長剥片を生産する。

319はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の石核である。背面は求心剥離状の構成をなしているが、正面では小石刃を連続剥離したものとみられる。石質が295と非常によく似ている。

320はYLで検出された珪質シルト岩製剥片1点とYLUで検出された石核1点の接合資料である（接合152）。打面を転移しながら幅広剥片を量産している。

５．第5地区の石器群（第180・181図、表40）

I-L・4-8グリッドを中心とする範囲である。YLLのなかでも最も低い層準に包含される石器集中35と、石材等で関連する石器集中36・37が主体である。同層準に礫群（4・6・7・9・10号）が伴うことから第Ⅷ文化層とした。ただし第1地区との関係から文化層の再検討が必要である（第6章参照）。

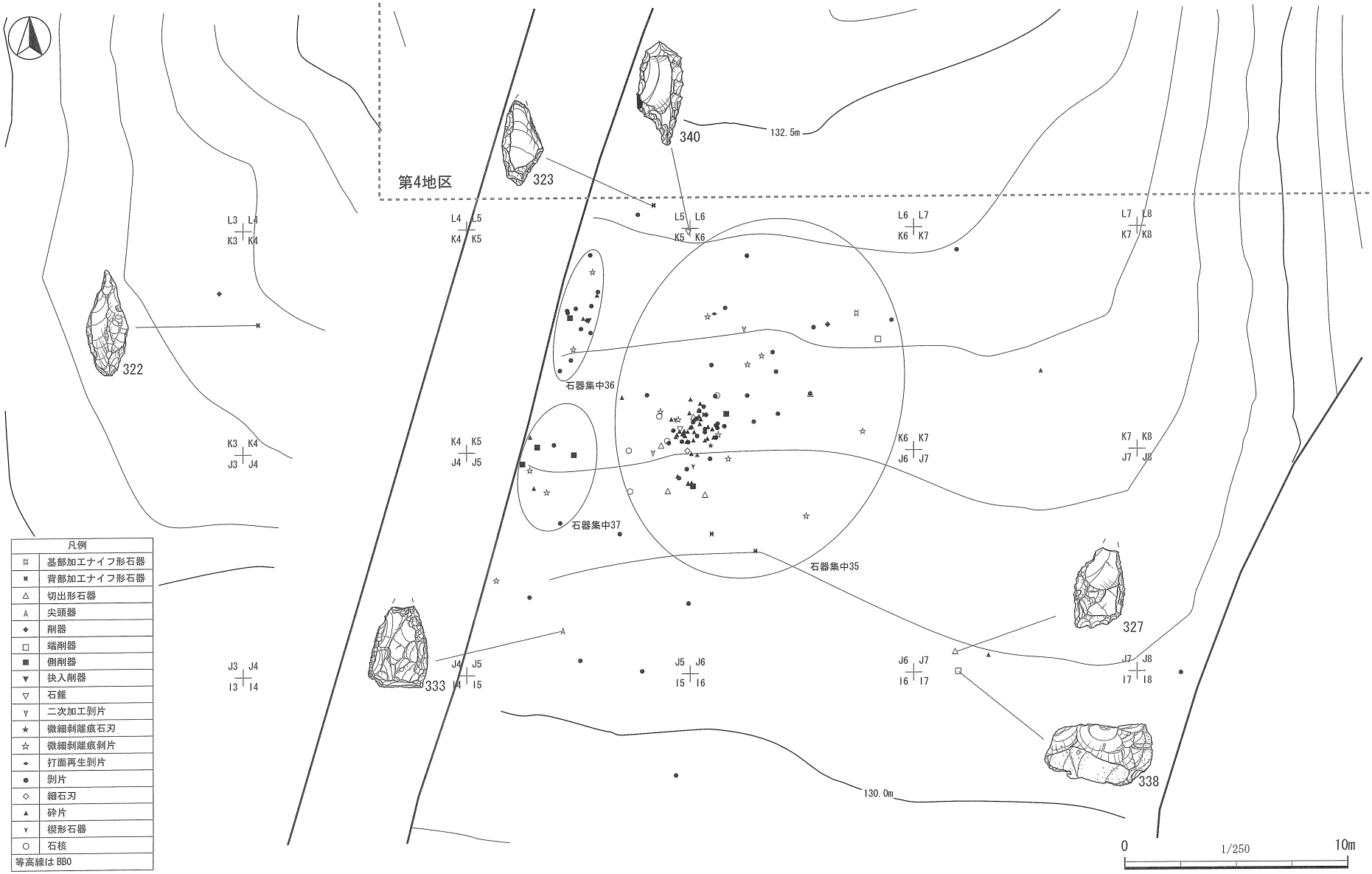
出土石器は地区全体で151点である。構成石材の中心は諏訪星ヶ台産黒曜石90点（59.6%）で、ほかに天城柏峠産黒曜石14点（9.3%）やチャート7点（4.6%）、箱根畑宿産黒曜石6点（4.0%）などが伴う。測定/推定不可のものはほとんどが諏訪星ヶ台産黒曜石に類似する。

石器集中35が105点、石器集中36が17点、石器集中37が9点である。この地区のほとんどの石器が石器集中35（69.5%）に含まれていることになる。

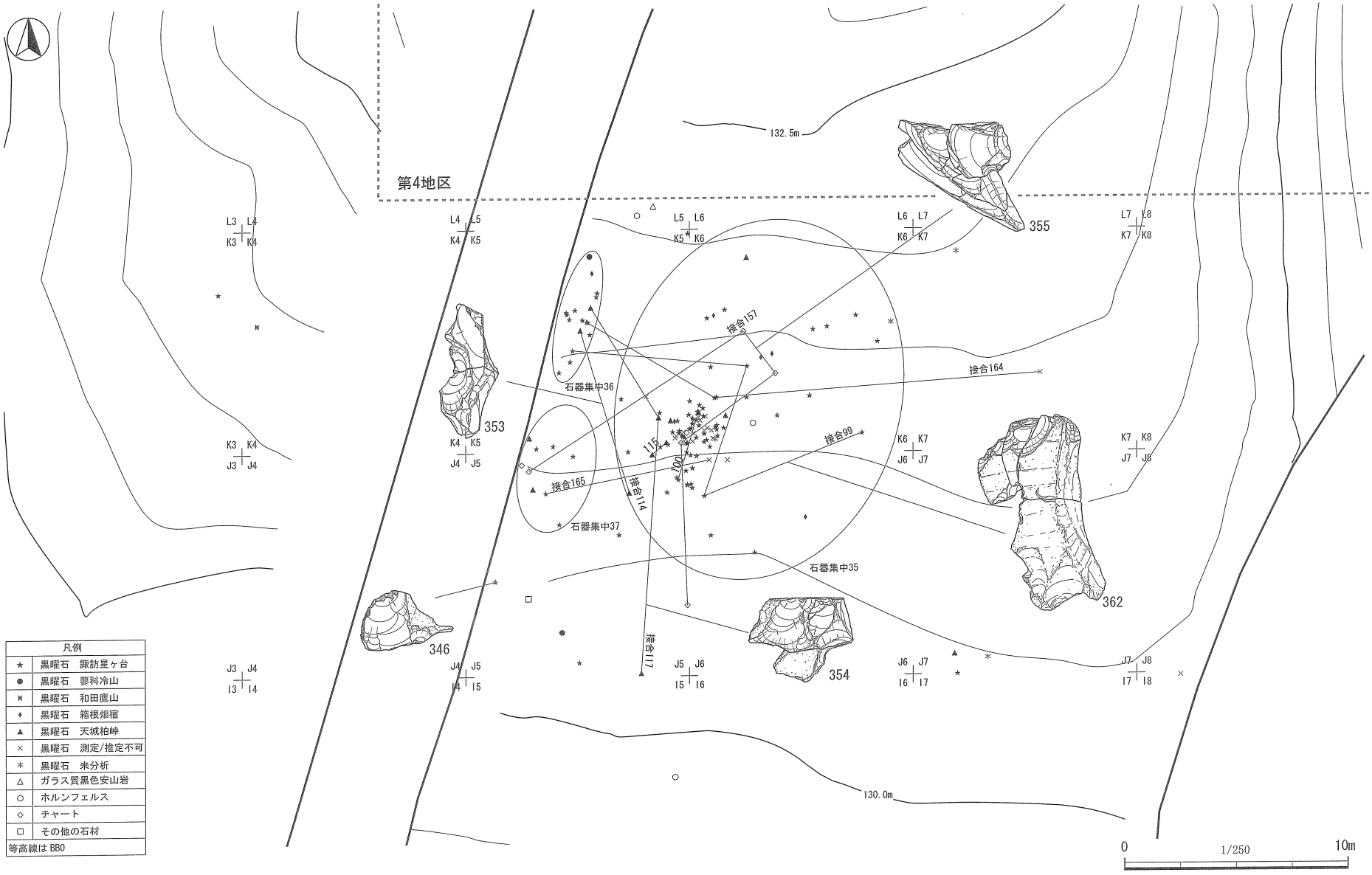
石器集中の外部にも関連する石器群の分布が認められ、石刃

表40　第5地区　第Ⅷ文化層　石器組成

	黒曜石							ガラス質					
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	和田鷹山	箱根畑宿	天城柏峠	測定/推定不可	未分析	黒色安山岩	チャート	細粒砂岩	ホルンフェルス	計
基部加工ナイフ形石器	1											1
背部加工ナイフ形石器	3		1					1				5
切出形石器	5				1							6
尖頭器		1										1
削器	2											2
端削器	2											2
側削器	4				1				1			6
抉入削器	1											1
石錐	2											2
二次加工剥片					1				1			2
微細剥離痕石刃	1											1
微細剥離痕剥片	9			3		1			1			14
打面再生剥片				1								1
剥片	34	1		1	5	5	3		3	1	4	57
細石刃	1											1
砕片	22				3	13	3		1			42
楔形石器	1			1								2
石核	2				3							5
計	90	2	1	6	14	19	6	1	7	1	4	151



第180図　第5地区　第Ⅷ文化層　器種別分布



第181図　第5地区　第Ⅷ文化層　石材別分布

製背部加工ナイフ形石器（322，323）、切出形石器（327）、尖頭器（333）、石錐（340）、削器（338）が分布する。信州系黒曜石を主体とする石器集中の石材構成とよく調和することから、これらも第Ⅷ文化層のメンバーと考えられる。

（１）石器集中

石器集中35（第182・183図、表41）

第5地区に分布する石器の大半がこの集中部に含まれる。K5・6グリッドの休場層下部を中心に、同じく層準の6号礫群と重複分布し、伴っているものと考えられる。

石器105点で構成される。第1石材は諏訪星ヶ台産黒曜石66点（62.9%）、第2石材は天城柏峠産黒曜石8点（7.6%）、ほかにホルンフェルスとチャートおよび箱根畑宿産黒曜石を数点ずつ伴う。測定/推定不可とされた黒曜石17点は肉眼で見る限り信州系が多いようである。第1石材である諏訪星ヶ台産黒曜石の比率は非常に高く、幾何学形態の切出形石器1点（328）を含む接合資料99（362）をみればわかるように、この場所で石器製作が行われたのは間違いない。諏訪星ヶ台産黒曜石は殆どが剥片生産に関連している。逆に石刃生産に関連するものは折れた背部加工ナイフ形石器1点（321）のみで他には全く見当たらず、信州系黒曜石の石器群としては貴重な事例である。

主要な器種は一般的剥片を素材とした切出形石器、背部加工ナイフ形石器、端削器である。まとまって組成する切出形石器は基部に幅があり内湾・収束しない。

表41　第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中35　石器組成

	黒曜石							
	諏訪星ヶ台	箱根畑宿	天城柏峠	測定/推定不可	未分析	チャート	ホルンフェルス	計
基部加工ナイフ形石器	1							1
背部加工ナイフ形石器	3							3
切出形石器	5							5
削器	1							1
端削器	1							1
側削器	1		1					2
石錐	1							1
二次加工剥片			1			1		2
微細剥離痕石刃	1							1
微細剥離痕剥片	6	2		1				9
打面再生剥片		1						1
剥片	22	1	2	4	2	2	1	34
細石刃	1							1
砕片	20		1	12	2	1		36
楔形石器	1	1						2
石核	2		3					5
計	66	5	8	17	4	4	1	105

石器集中36（第184・185図、表42）

K5グリッド中央部に位置し、石器集中35の北西に隣接する石器集中である。休場層下部を中心に分布し、7号礫群と9号礫群のちょうど間に位置する。石器集中と礫群の出土層位はほぼ同じである。

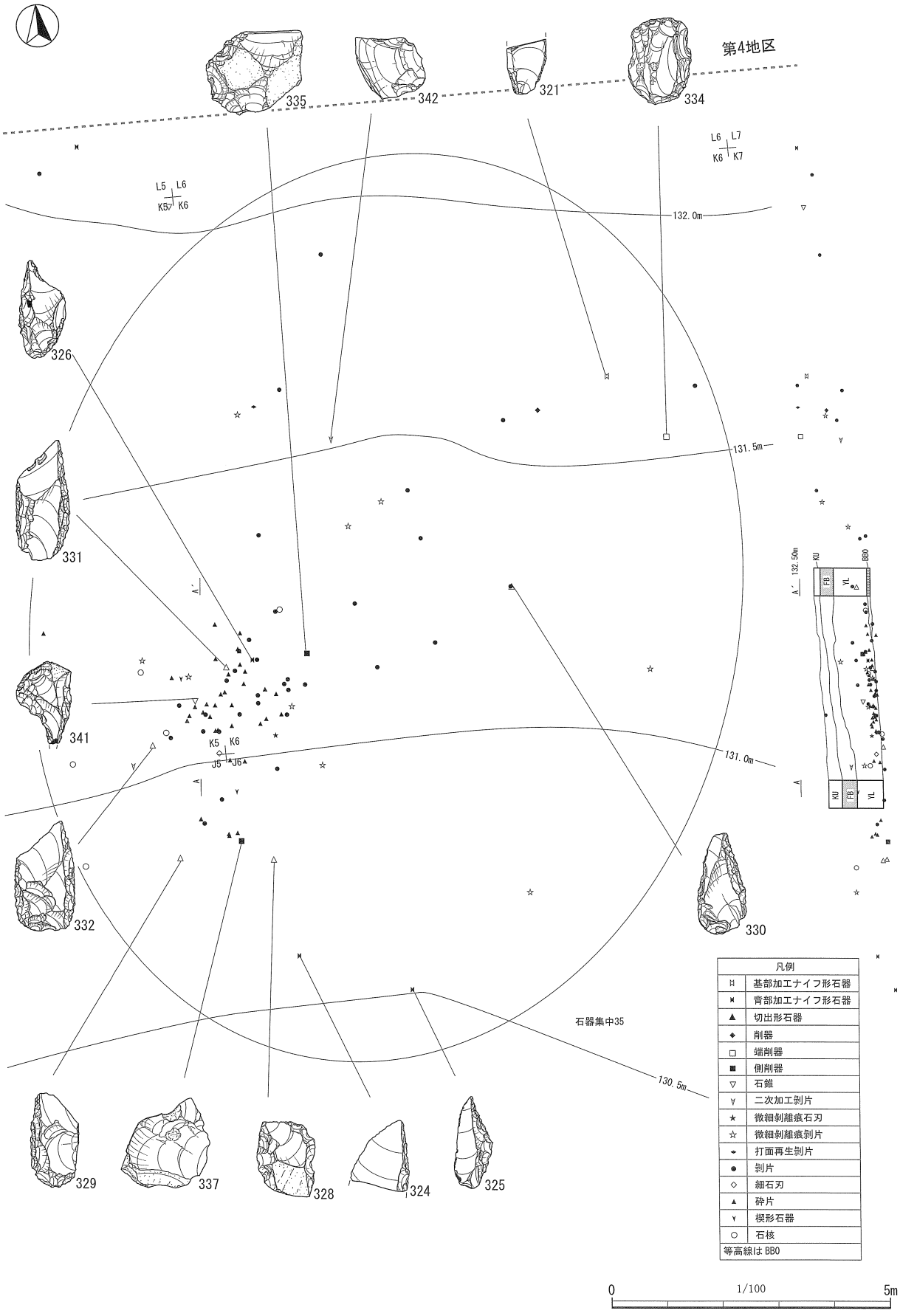
石器17点で構成される。第1石材は諏訪星ヶ台産黒曜石13点（76.5%）でほかに箱根畑宿・蓼科冷山・天城柏峠産黒曜石を組成する。石器集中35との間で接合資料が4例（接合99・114・117・164）認めら

表42　第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中36　石器組成

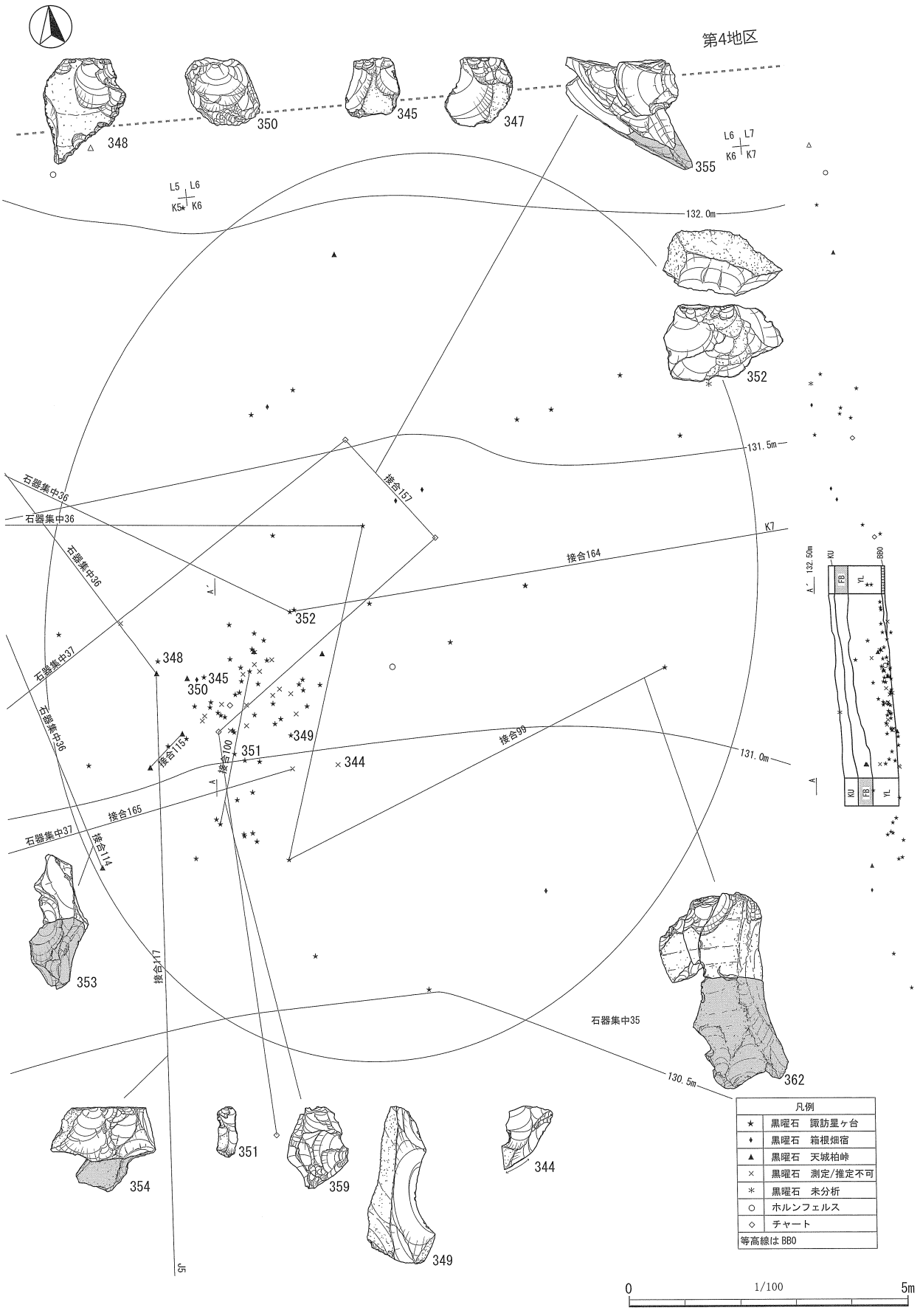
	黒曜石				計
	諏訪星ヶ台	箱根畑宿	蓼科冷山	天城柏峠	
側削器	1				1
抉入削器	1				1
微細剥離痕剥片	1	1			2
剥片	8		1	2	11
砕片	2				2
計	13	1	1	2	17

表43　第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中37　石器組成

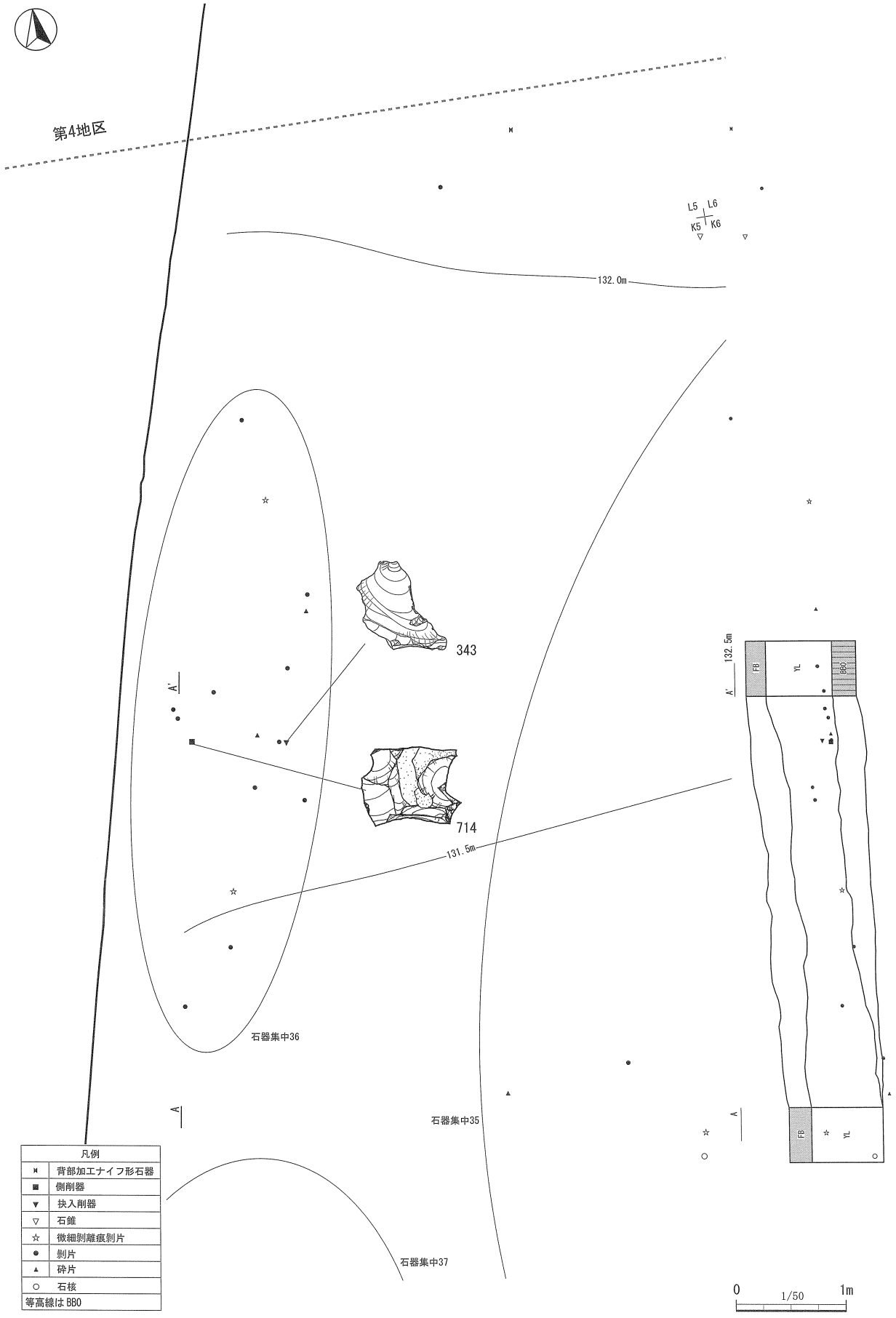
	黒曜石		チャート	計
	諏訪星ヶ台	天城柏峠		
側削器	2		1	3
微細剥離痕剥片	1		1	2
剥片	2			2
砕片		2		2
計	5	2	2	9



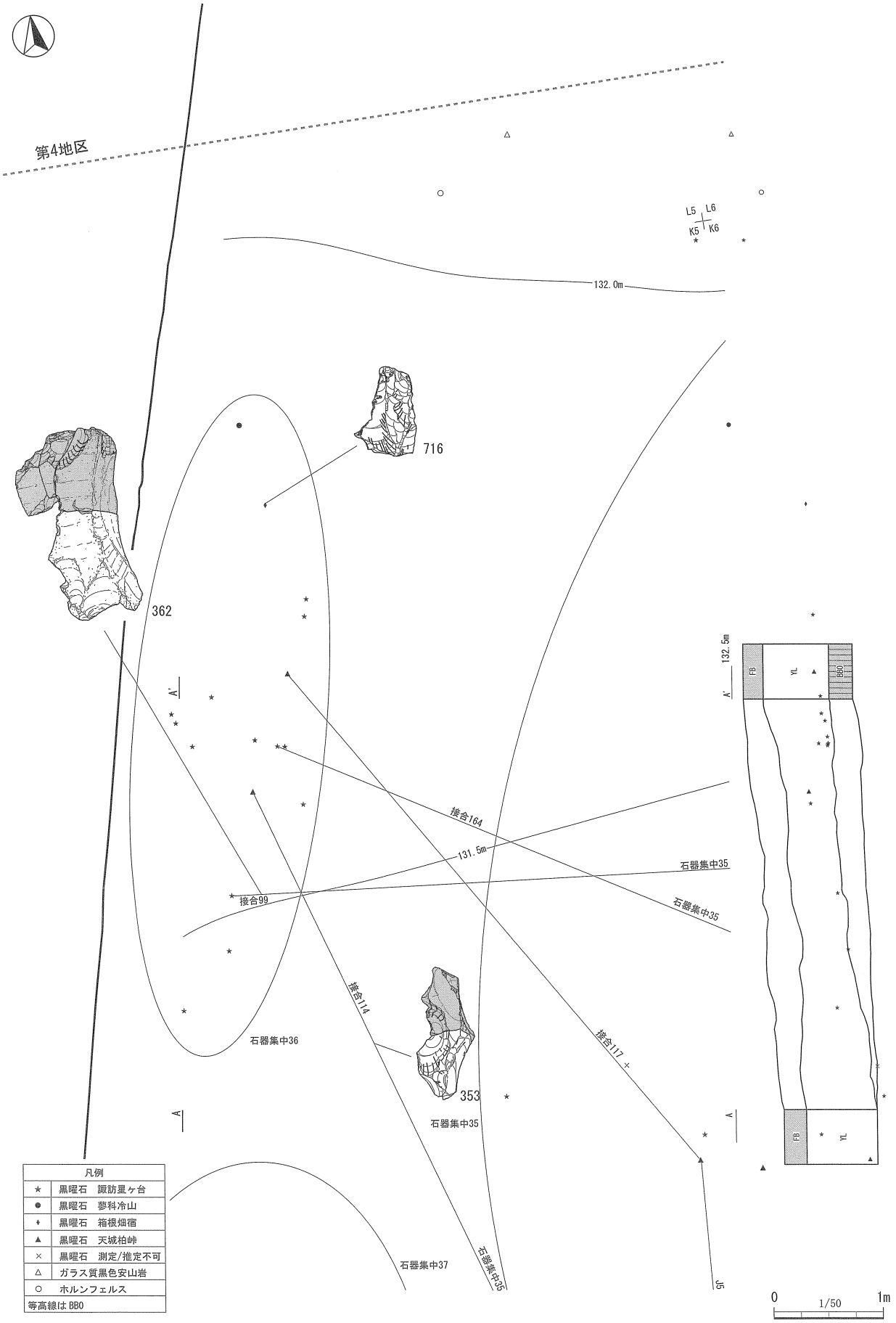
第182図　第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中35　器種別分布



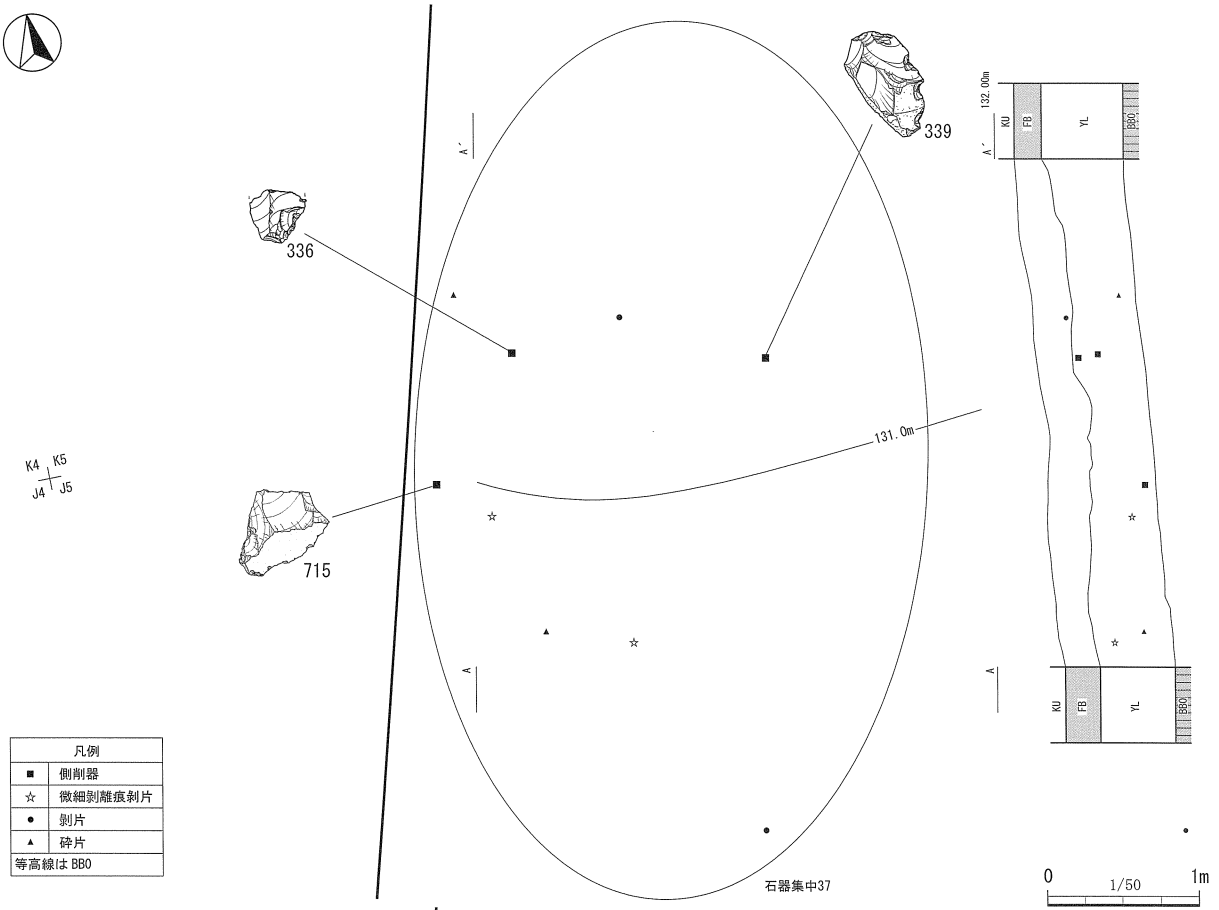
第183図　第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中35　石材別分布

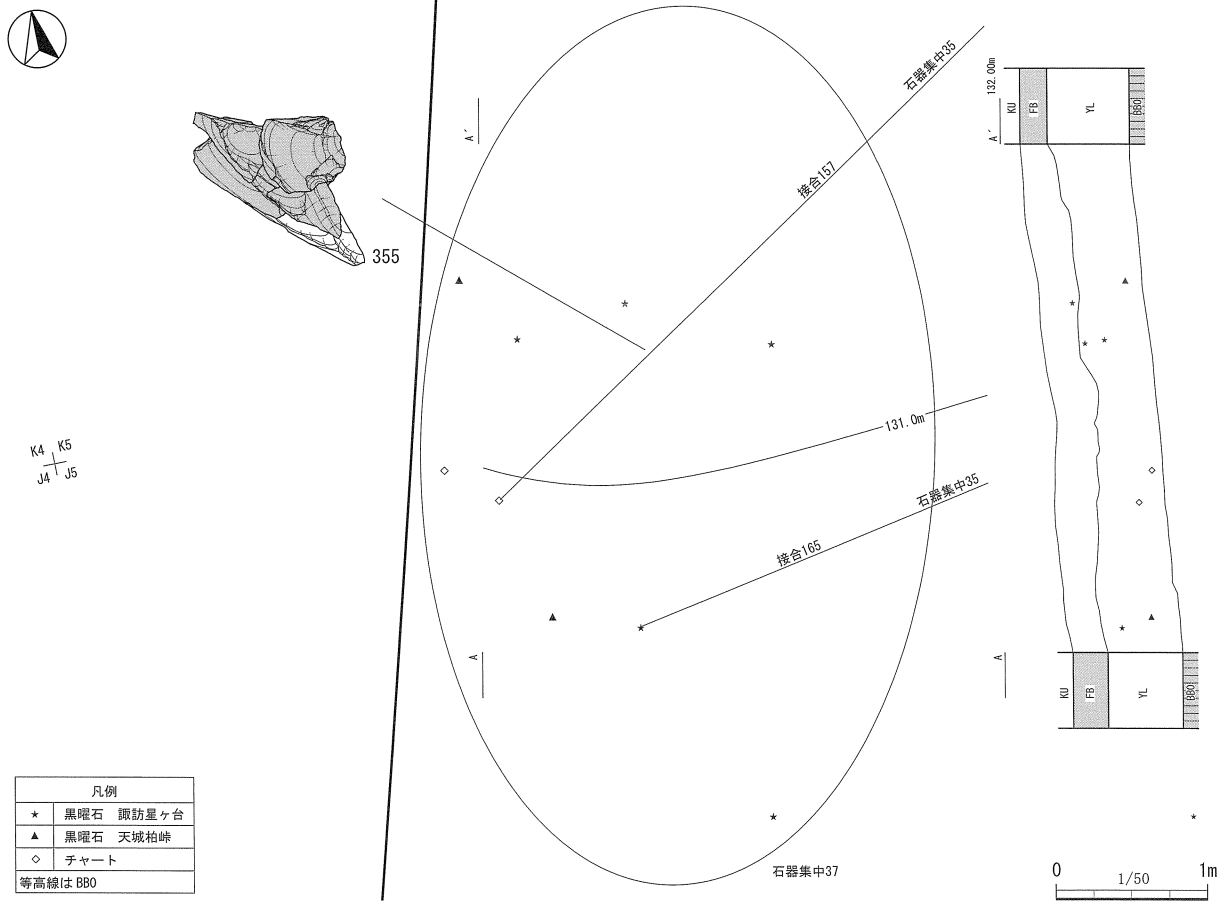


第184図　第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中36　器種別分布



第185図　第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中36　石材別分布





第186図　第5地区　第Ⅷ文化層　石器集中37　器種別分布（上）・石材別分布（下）

れ、諏訪星ヶ台産黒曜石が多いことも併せて互いに強い関係があると推測される。

石器集中37（第186図、表43）

K5グリッド南西部からJ5グリッド北西部に位置し、石器集中35の西に隣接する石器集中である。出土層位は垂直分布をみると休場層の上半に分布しているようであるが、記録された出土層位は「下部」であった。また休場層下部を中心とする10号礫群と重複分布する。石材構成が石器集中35および36とよく類似し、また石器集中35とのあいだに接合資料が2例認められたことから第Ⅷ文化層のものとした。

石器9点で構成され、諏訪星ヶ台産黒曜石5点、天城柏峠産黒曜石2点、チャート2点ですべてである。

（２）出土石器の検討（第187-190図）

321はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。縦長と推定される剥片を素材として、打面部付近の左縁辺に急角度の剥離、右縁辺に微細な剥離を施して（使用痕かもしれないが）打面付きの基部を整形する。端部が折れているので全体形状は不明である。

322はFBで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、右縁辺の末端を急角度の剥離で切り取って基部となし、また、左側縁の末端から打面までも切り取って側縁となし、尖頭部を作出する。基部裏面には左右側縁から平坦剥離を施して入念に整形する。

323はYLUで検出されたガラス質黒色安山岩製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用いて、打面部を急角度な剥離で斜めに切り取り基部を整形し、対辺を基部から尖端部にかけて弧状に切り取り、尖端部を作出する。

324はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。素材剥片を逆斜位に用い、打面側を急角度な剥離で大きく切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。鋭い縁辺には微細剥離痕が連続する。基部を含む大半が失われているので全体形状は不明である。

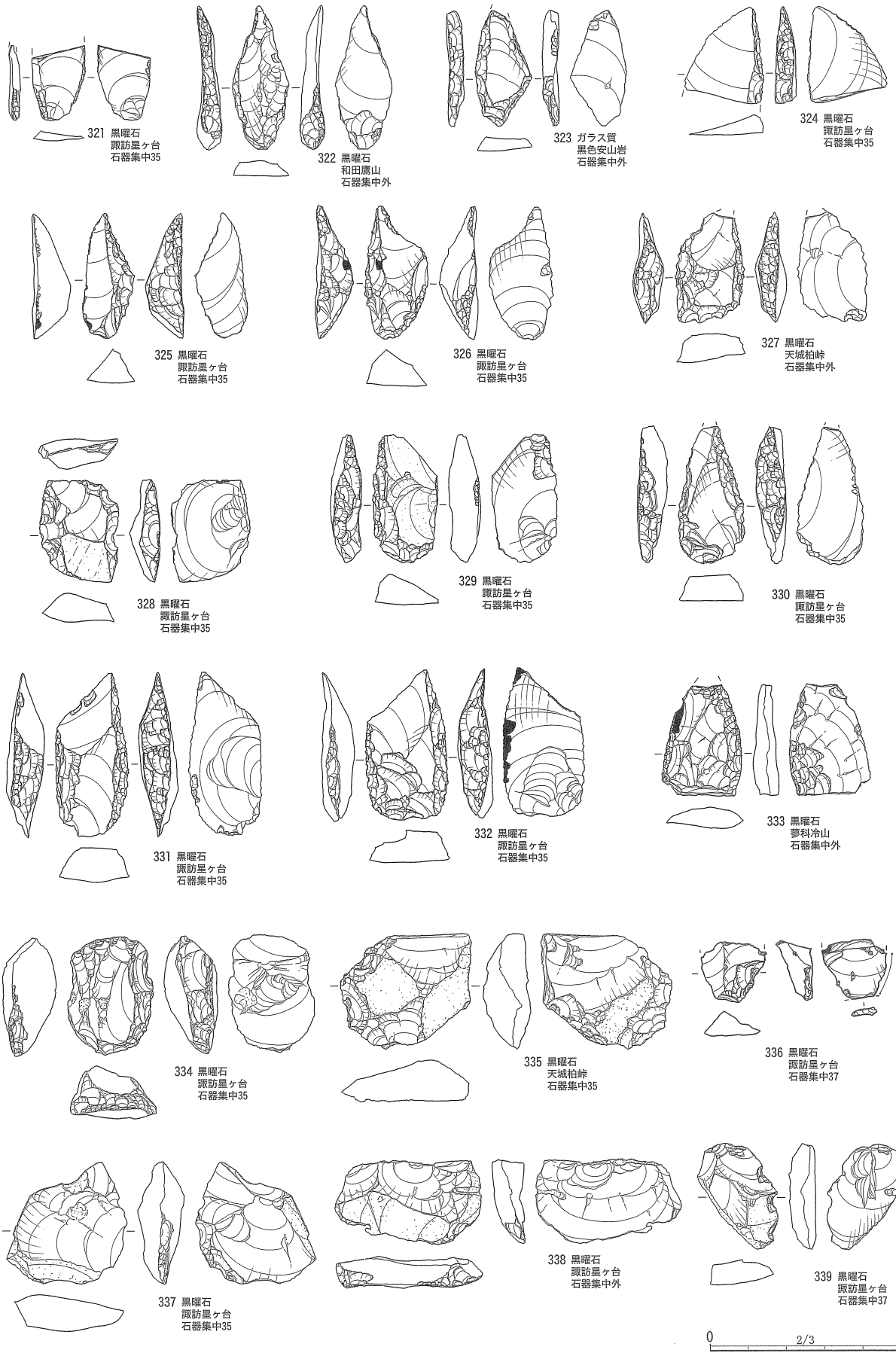
325はYLMで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。厚手の縦長剥片を逆位に用い、打面を含む右縁辺を急角度な剥離で大きく切り取り、途中で「く」の字形に屈曲する側縁を整形し、尖頭部を作出する。左縁辺にも急角度な剥離を施すが、こちらは僅かである。

326はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。求心剥離過程で得られたと推測される一般的剥片を縦位に用い、打面とこれに接する右縁辺とを急角度な剥離で切り取り基部を整形し、また、これらとほぼ連続して左縁辺を分厚く切り取って側縁を整形して、尖頭部を作出する。高背で断面三角形を呈し、右縁辺が石器中央よりも尖端部寄りで屈曲し、この部分で最大幅があるなど、定形性を欠く。機能的には切出形石器に近いだろう。

327はFBで検出された天城柏峠産黒曜石製の切出形石器である。一般的剥片を横位に用い、打面を急角度の剥離で切り取って基部を整形、またこれと連続して、側縁も整形する。

328は諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。接合資料99（第190図362）に含まれ、それによると、素材剥片は自然面のついた亜角礫素材の石核を求心剥離する過程の中で縦長剥片などとともに得られたようである。打面側と末端側に急角度の二次加工を施し、幾何学的形態に整形する。基部に二次加工していない鋭い縁辺が残っており、こちらが刃部となる可能性もあったが、微細剥離痕がより多く付いている方を刃部とした。

329はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。一般的剥片を横位に用い、打面部を急角度な剥離で分厚く切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出し、対辺に微細な剥離を施して基部を整形する。



第187図　第5地区　第Ⅷ文化層の石器群（1）

330はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。半求心状剥片剥離過程で得られたと推測される一般的剥片を横位に用い、末端側を急角度の剥離で切り取って基部を整形し、また、打面側を切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。尖頭部が鋭い縁辺と二次加工部で構成されているが、ほぼ左右対称形を呈する。

331はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。一般的剥片を横位に用い、打面側を急角度な剥離で切り取り、また、末端側も切り取ってほぼ平行な側縁を整形するとともに、斜刃の尖頭部を作出する。

332はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。一般的剥片を縦位に用い、両縁辺に急角度な剥離を施してほぼ平行な側縁と基部とを整形し、あわせて尖頭部を作出する。

333はYLLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の尖頭器である。一般的剥片を横位に用い、打面側の表裏と末端側の表面に平坦な剥離を施して両側縁を整形する。おそらく尖頭部と基部も整形するが、折れているので分からない。

334はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の端削器である。厚手の剥片の左右縁辺および端部に急角度な剥離で刃部を作出する。

335はYLLで検出された天城柏峠産黒曜石製の側削器である。一般的剥片の左縁辺表裏面と端部裏面に二次加工を施して刃部を作出する。

336はYLMで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の側削器である。剥片の末端に急角度な剥離で刃部を作出する。打面側が大きく折れている。

337はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の側削器である。厚手の剥片の右縁辺の裏面に刃部を作出する。

338はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の端削器である。打面に自然面が付く一般的剥片の左右端部寄りに二次加工を施して刃部を作出する。

339はYLUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の側削器である。一般的剥片の右縁辺にやや間隔を空けた小型剥離痕が観察される。

714はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の側削器である。幅広剥片の右縁辺に急角度の剥離で刃部を作出する。

715はBBOで検出されたチャート製の側削器である。幅広剥片の左縁辺を中心に疎らな二次加工を施して刃部を作出する。多くの微細剥離痕を伴っているので使用による剥離痕かもしれない。

340はYLUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の石錐である。一般的剥片を横位に用い、端部側を鋸歯状の剥離で切り取り、打面側も同様の剥離で切り取ったうえ、端部の剥離と接する部位を内湾させて刃部を作出する。

341はYLMで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の石錐である。一般的剥片を縦位に用い、右縁辺を急角度な剥離で弧状に整形し、また、左縁辺を抉入状に整形して刃部を作出する。

342はYLLで検出されたチャート製の二次加工剥片である。接合資料157に含まれる。剥片素材の石核を連続的に打撃して得られる幅広剥片を素材にして、末端付近の縁辺にわずかな二次加工を施す。

343はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の抉入側削器である。一般的剥片の左縁辺裏面に二次加工を施して刃部を作出する。刃部は、縁辺がもともと括れていた部分を利用したものと推定される。

344はYLMで検出された黒曜石製の微細剥離痕剥片である。黒曜石の産地分析結果は測定不可とされたが、透光性があり、雲状の黒色が入る特徴は諏訪星ヶ台産に類似する。尖頭形を呈する剥片の末端付近に連続的な微細剥離痕が観察される。

345はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。一般的剥片の右縁辺と末端に連続的な微細剥離痕が観察される。

346はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。一般的剥片の左縁辺に連続的な微細剥離痕が観察される。

347はYLUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。自然面付きの一般的剥片のほぼ全縁に微細剥離痕が観察される。

348はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。背面の殆どが自然面で覆われた尖頭形の剥片の、主として右縁辺に著しい微細剥離痕が観察される。

716はBBOで検出された箱根畑宿産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。小型縦長剥片の連続的剥離過程で生産された剥片の左縁辺に微細な剥離痕が観察される。打面部は折れている。

349はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕石刃である。厳密には石刃といいがたいもので一般的剥片生産の途中で石核の稜を取り除くときに偶発的に縦長に剥離されたのではないかと推測される。左縁辺の腹面に連続的な微細剥離痕が観察される。

350はYLLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の楔形石器である。厚手の小型剥片に両極剥離を加える。

351はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。際立った特徴もないが、やや不整形な印象を受ける。

352はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石の石核である。不規則な方向から加撃し、小型剥片を生産する。

353は天城柏峠産黒曜石製の剥片1点と石核1点の接合資料である（母岩AGKT6、接合資料114）。多打面点に石核の稜を剥離したものが、中央で折れている。

354は天城柏峠産黒曜石製の剥片1点と石核1点の接合資料である（母岩AGKT7、接合資料117）。自然面の大きく残る石核を多方向から連続剥離する。

355はYLLとKUで検出されたチャート製剥片5点（356-358，342，760）の接合資料である（接合157）。剥片素材の石核を同一方向から連続的に打撃し、腹面を取り込む幅広剥片を量産する。

356はYLLで検出されたチャート製の微細剥離痕剥片である。接合資料157に含まれる。末端にポジ面を取り込み右に大きく斜めになった幅広剥片の左縁辺の一部に集中的な微細剥離痕が観察される。

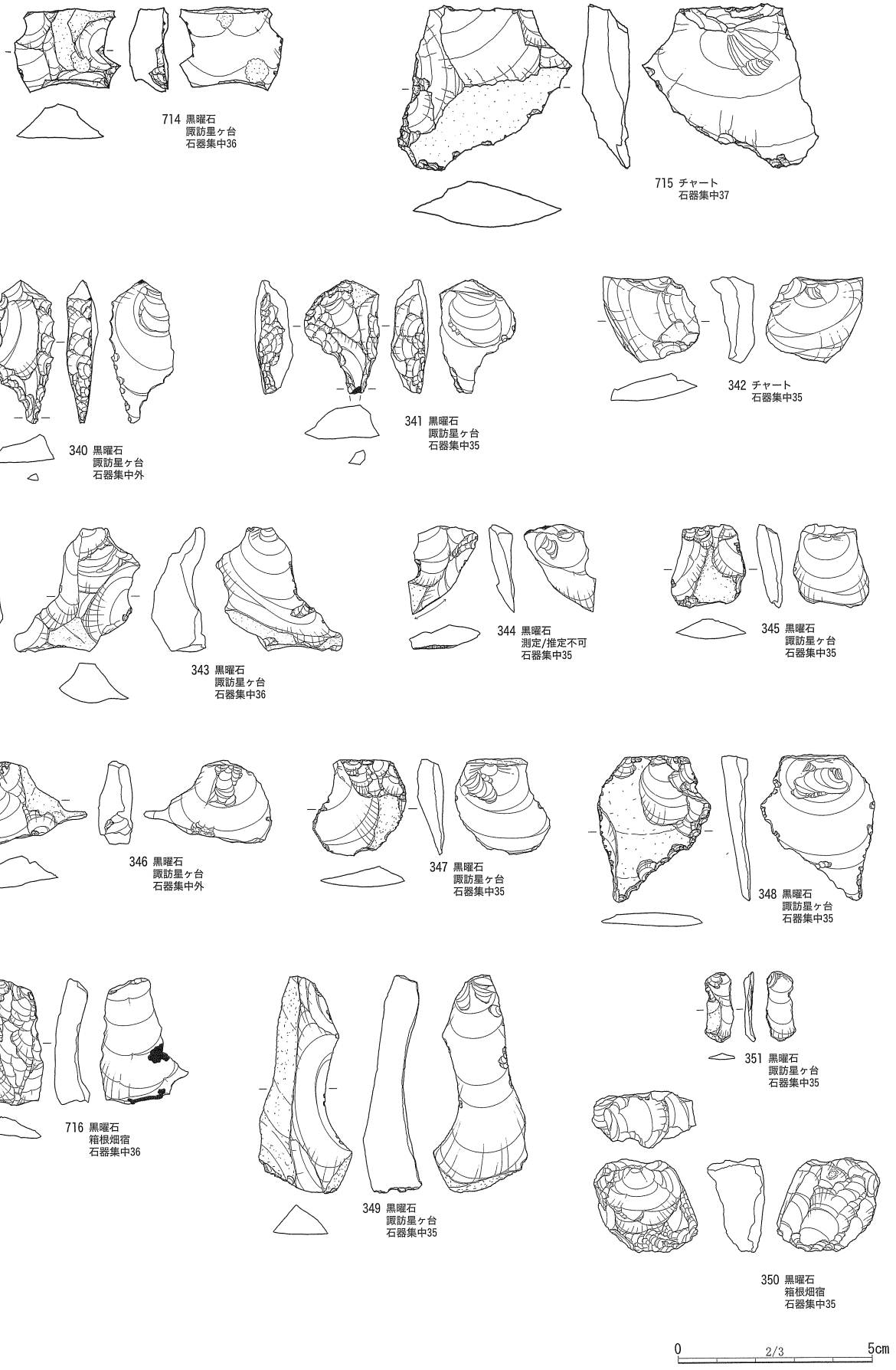
357はYLLで検出されたチャート製の剥片である。接合資料157に含まれる。

358はYLLで検出されたチャート製の剥片である。接合資料157に含まれる。末端に微細剥離痕が認められる。

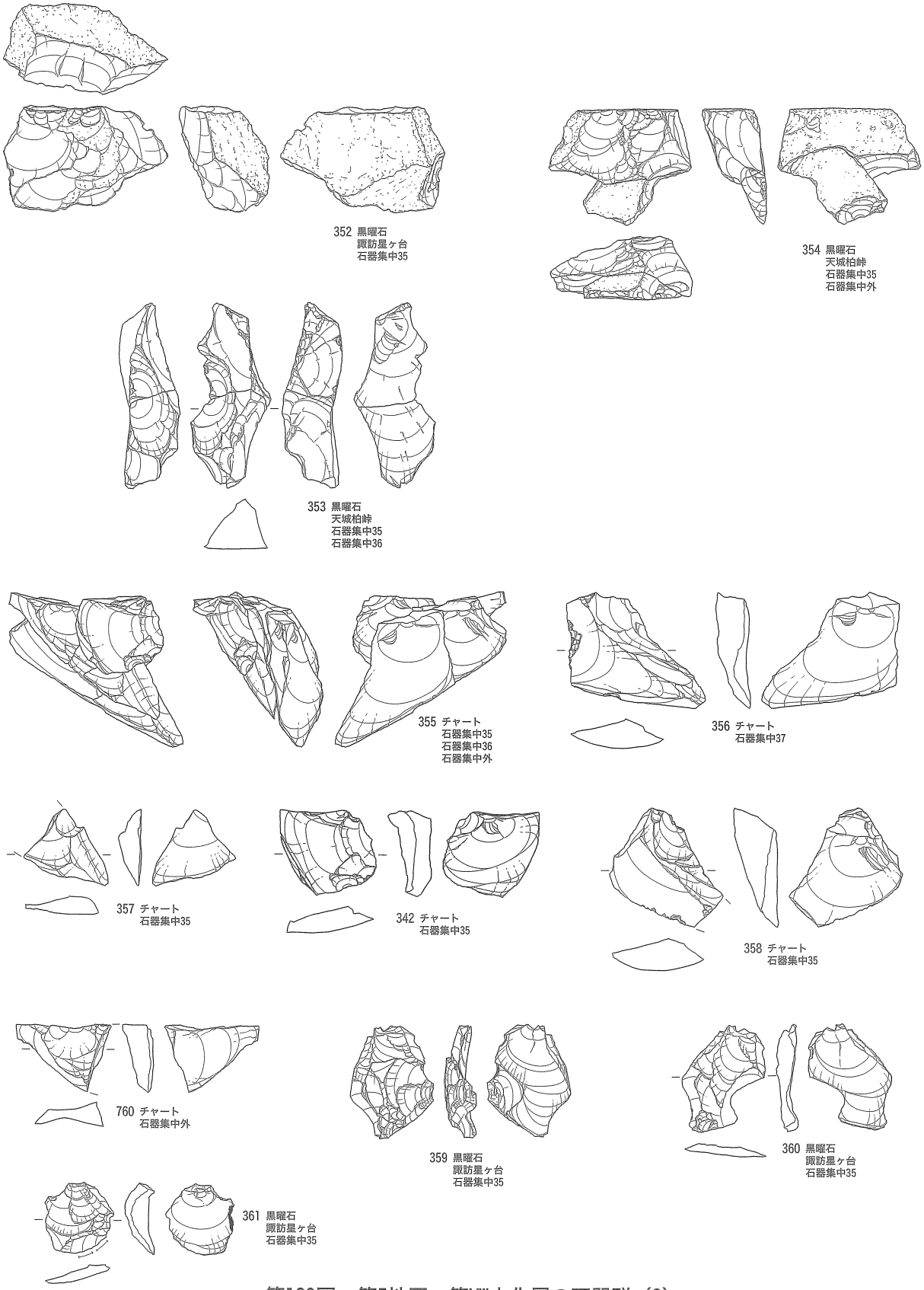
359はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製剥片2点（360，361）の接合資料である。求心剥離過程で小型剥片を剥離している。第5地区の諏訪星ヶ台産黒曜石による一般的剥片剥離の実態を示す資料の一つである。

362はYLLからYLMで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石の微細剥離痕剥片3点（363，364）と切出形石器1点（328）の接合資料である（接合99）。大きく原礫がついたままの亜角礫を石核にして大型の縦長剥片を剥離し、時折異なる方向からの打撃を交えながら、続いて小型剥片を剥離する。縦長剥片の剥離は石核の稜形成とは関係ないようである。とられた剥片は切出形石器と微細剥離痕剥片となっており、いずれも臨機的に利用されたようである。

363はYLLからYLMで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。途中で折れていたものが2点接合した状態である。左縁辺に微細剥離痕が連続し、この場所は折れ部の位置と一致する。接合資料99に含まれる。

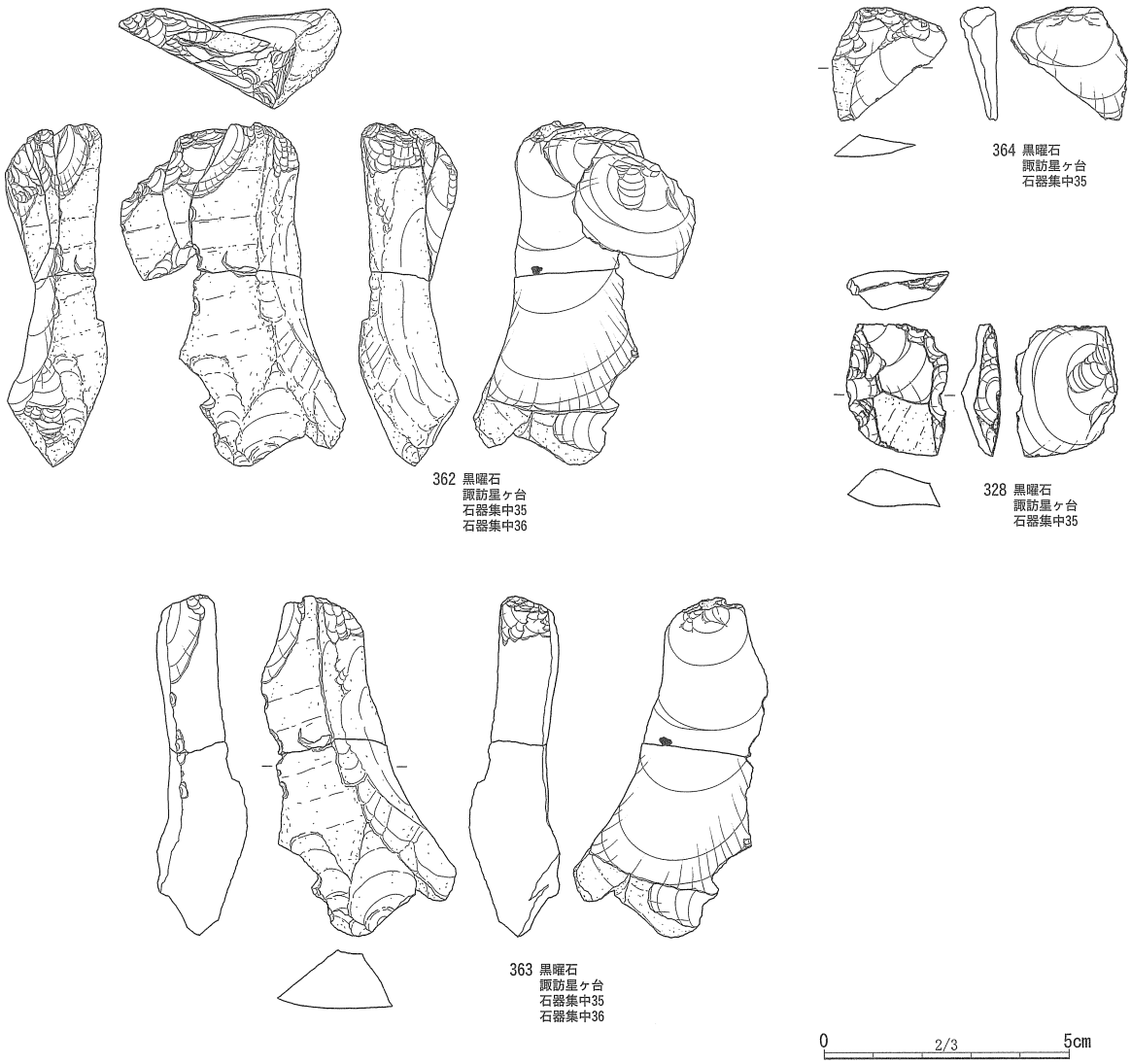


第188図　第5地区　第Ⅷ文化層の石器群（2）



第189図　第5地区　第Ⅷ文化層の石器群（3）

364はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剝離痕剝片である。両縁辺に微細剝離痕がつく。接合資料99に含まれる。



第190図　第5地区　第Ⅷ文化層の石器群（4）

６．第6地区の石器群（第191-194図、表44）

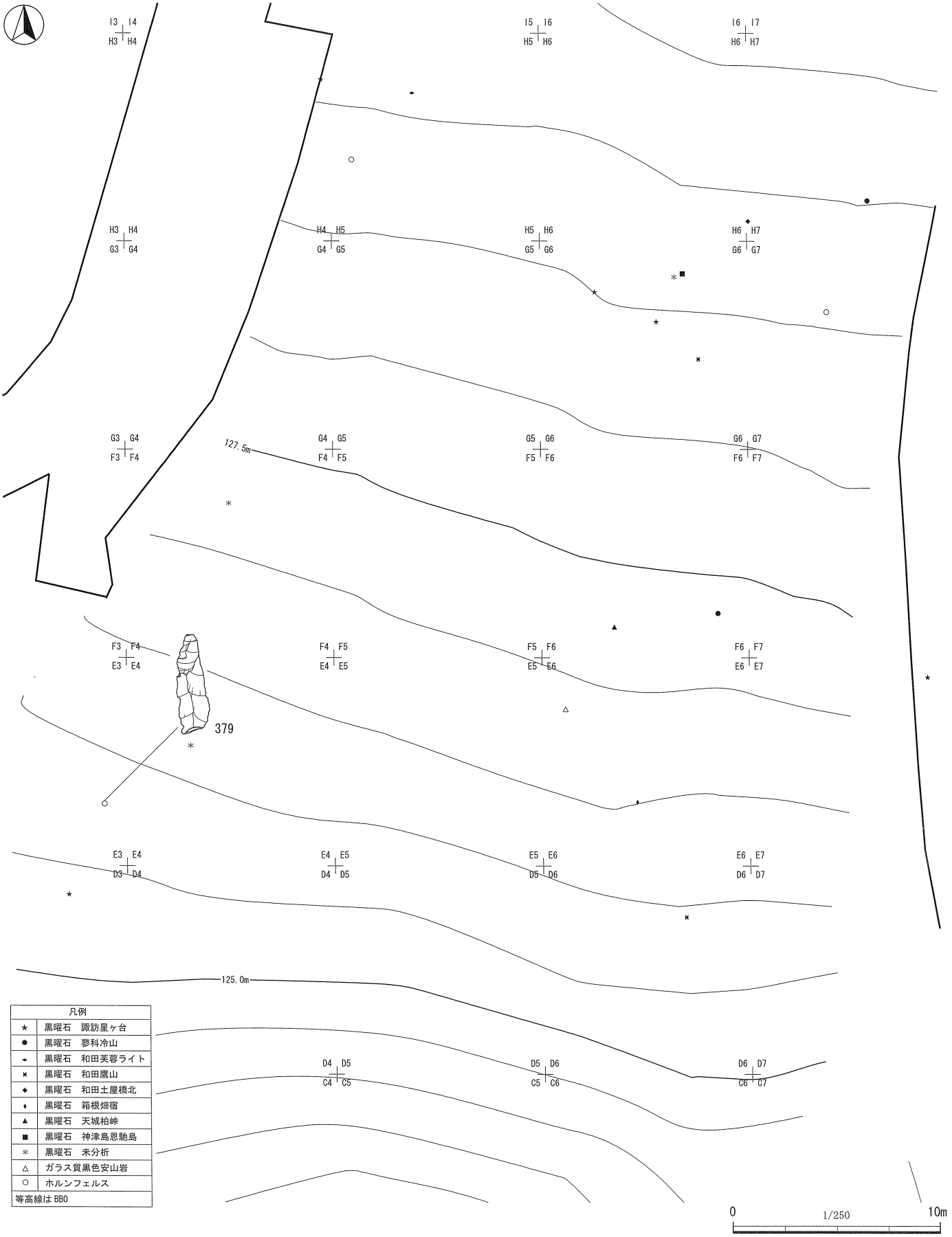
調査区南西部、第5地区の南に石器が集中部を形成せず（ないし製作痕跡が見当たらず）散漫に分布する場所がある。

第6地区として抽出した範囲には石器29点が分布し、そのうち13点が背部加工ナイフ形石器を主体（8

表44　第6地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成

	諏訪 星ヶ台	蓼科 冷山	和田 芙蓉ライト	和田 鷹山	黒曜石 和田 土屋橋北	箱根 畑宿	天城 柏峠	神津島 恩馳島	未分析	ガラス質 黒色 安山岩	ホルン フェルス	計
背部加工ナイフ形石器	1	2	1	2		1					1	8
尖頭器	1				1							2
側削器							1					1
二次加工剝片	2											2
石刃											1	1
剝片	1							2		1	1	5
細石刃								6				6
砕片								1	3			4
計	5	2	1	2	1	1	1	9	3	1	3	29

第191図　第6地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　器種別分布（細石刃石器群を除く）



第192図　第6地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石材別分布（細石刃石器群を除く）

第193図　第6地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　細石刃石器群　器種別分布

第194図　第6地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　細石刃石器群　石材別分布

点）とする二次加工石器類である。

出土層位は休場層からFBまで幅広いので特定文化層との対応関係はないが、角錐状石器との技術的関連性が強い尖頭器（374）や切出形石器に近い形態の背部加工ナイフ形石器（365）、細身の背部加工ナイフ形石器（368）、平坦剥離で尖頭部を作出した尖頭器（375）、さらに神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃（380-385）が組成することから、この場所は編年的に幅広く、長期間の断続的な利用があった地点と推測される。

出土石器の検討（第195図）

365はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺の打面に接する部位を急角度な剥離で切り取って基部を整形し、また、この基部加工に接する左縁辺を端部まで切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。基部は右側縁が内湾し、また、尖端部が斜めに切り取られているため、全体形状がやや歪となっている。

366はFBで検出された蓼科冷山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺の打面側を急角度な剥離で切り取って基部を整形し、また、左縁辺の打面から末端までも切り取って側縁を整形して尖頭部を作出する。

367はYLMで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。背面に自然面が大きく残る縦長剥片を縦位に用い、左縁辺の打面付近に僅かな二次加工を施して基部を整形し、右縁辺を打面から端部まで弧状に切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。

368はYLで検出されたホルンフェルス製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、急角度の剥離で打面側を大きく切り取って背部となし、対する縁辺も一部切り取って基部を整形する。

369はKUで検出された和田芙蓉ライト産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左縁辺を平坦な剥離で整形して基部となし、右側縁を長く切り取って側縁となす。側縁は尖頭部につながっていると思われるが、上半部が失われているのでよくわからない。

370はFBで検出された蓼科冷山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左縁辺を急角度の剥離で切り取って基部を整形し、また、右縁辺も切り取って側縁を整形する。器体の尖端側半分を失っているのでその形状は不明である。

371はFBで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。自然面の大きく残る石刃の左縁辺の打面側を切り取り、さらに右縁辺裏面を平坦剥離で整形して基部となし、右縁辺の端部を斜めに切り取って尖頭部を作出する。

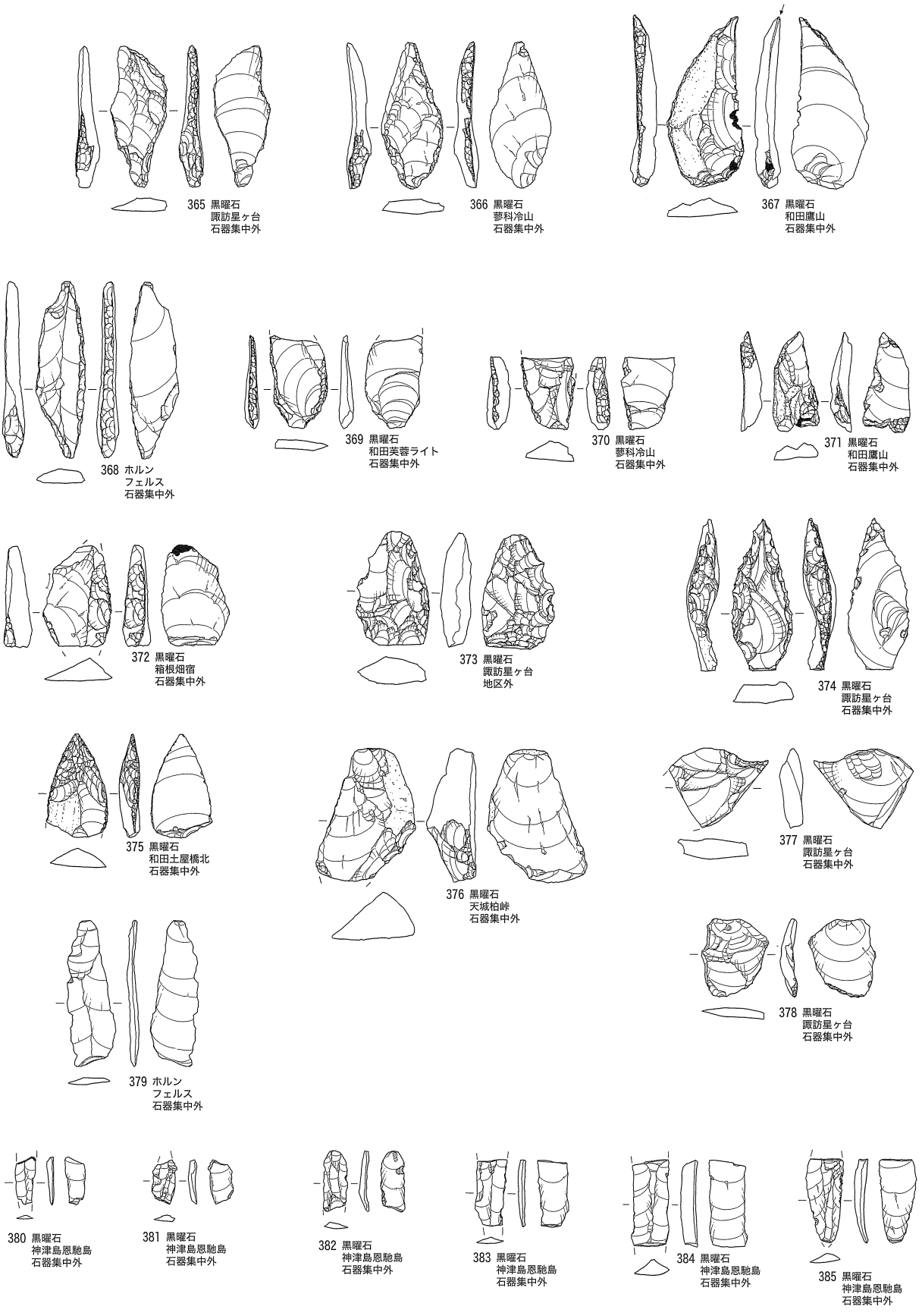
372はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺に急角度な剥離で基部を整形し、左縁辺には打面から端部まで連続する類鱗状の平坦な剥離で側縁を整形し、尖端部を作出する。

373はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。第6地区には含まれないが非常に近くに分布するのでここで取り上げておく。幅広剥片を素材として、平坦な剥離で両面を整形して尖頭部を作出し、一部を鋸歯状にする。

374はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の横打剥片製尖頭器である。一般的剥片を横位に用い、打面と末端を急角度の剥離で切り取って、左右対称形に整形し、側縁ないし尖頭部を作出する。尖頭部裏面には、右側縁から樋状の剥離を施す。

375はFBで検出された和田土屋橋北産黒曜石製の尖頭器である。石刃を縦位に用い、左右縁辺の端部に平坦な剥離を施して側縁ないし尖頭部を作出する。

376はFBで検出された天城柏峠産黒曜石製の側削器である。縦長剥片の左右縁辺の端部側に急角度な剥離を施して刃部を作出する。



第195図　第6地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群

377はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の二次加工剥片である。一般的剥片の打面部右側にわずかな二次加工を施す。

378はYLUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の二次加工剥片である。一般的剥片の端部に規格的で連続的な微細剥離を施す。

379はFBで検出されたホルンフェルス製の石刃である。非常に小型で細石刃かと思われるような薄さである。

380はYLUで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。打面は発掘時に欠損した。

381はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。末端が折れている。

382はYLUで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。石材は不透明で灰色がかった質の黒曜石である。微細剥離痕は観察されない。末端が折れている。

383はYLUで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。打面と末端が折れている。

384はKUで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。打面と末端が折れている。

385はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。組織的な細石刃剥離過程によって生産された可能性の高いものである。右縁辺の打面側に微細剥離痕が連続的につく。打面部が折れている。

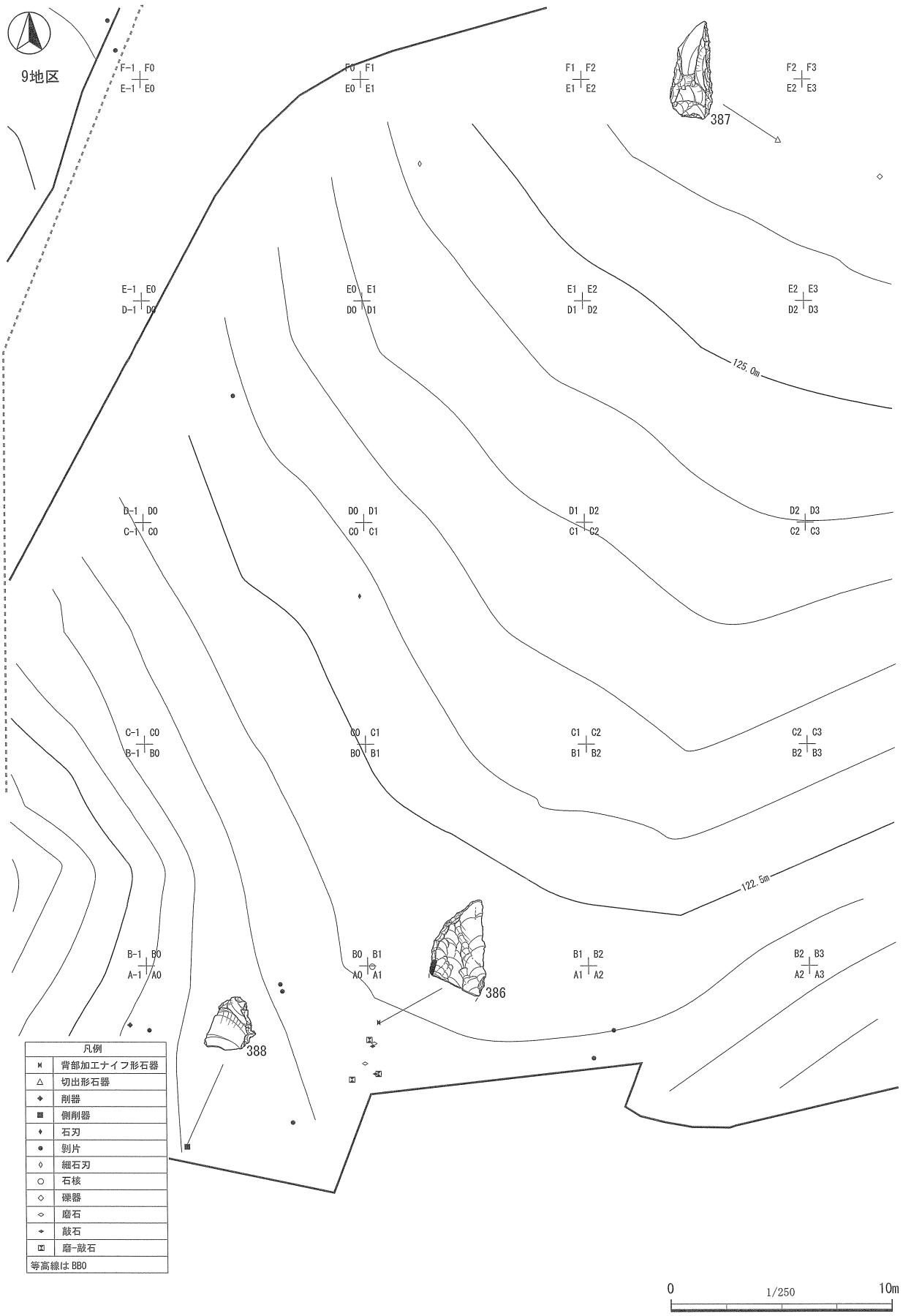
７．第7地区の石器群（第196・197図、表45）

第6地区の南西に接する地区である。調査区が区切られる南部で礫石器類のやや多い場所があるが、「石器集中」の設定は行わなかった。

石器22点で構成され、背部加工ナイフ形石器（386）や切出形石器（387）、細石刃（390）が含まれる。第6地区と同様に時期差が大きいが、第6地区の石器群（角錐状石器と細石刃が分布）と併せて考えると、主に愛鷹・箱根地域編年の「第3期」と「第5期」の石器群が分布する地点といえそうである。

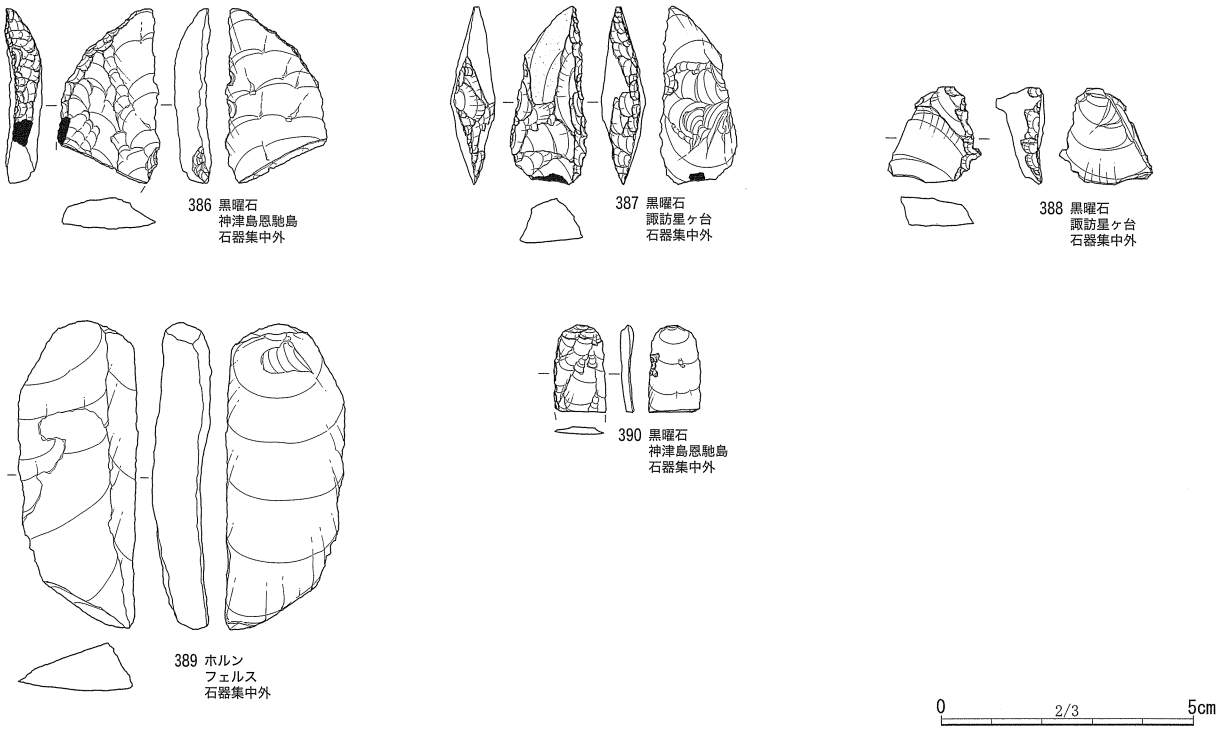
表45　第7地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層　石器組成

	黒曜石									
	諏訪 星ヶ台	箱根 畑宿	神津島 恩馳島	未分析	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	多孔質 玄武岩	中粒 砂岩	ホルン フェルス	計
背部加工ナイフ形石器			1							1
切出形石器	1									1
削器	1									1
側削器	1									1
石刃									1	1
剥片				4					3	7
細石刃			1							1
石核		1								1
磨石					1	1				2
敲石					1		1			2
磨-敲石					3					3
礫器								1		1
計	3	1	2	4	5	1	1	1	4	22



第196図　第7地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　器種別分布

第197図　第7地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石材別分布



第198図　第7地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群

出土石器の検討（第198図）

386はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を斜位に用い、左縁辺の打面部付近を急角度な剝離で切り取って基部を整形し、右縁辺全体も切り取って弧状を呈する側縁を整形する。

387はKUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。一般的剝片を横位に用い、打面と末端を急角度の剝離で切り取って両側縁を整形するとともに、尖頭部を作出する。この石器の特徴は最大幅が基部寄りにあることで、330も同群と考えられる。

388はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の側削器である。小型の一般的剝片の右縁辺に二次加工を施して刃部を作出する。

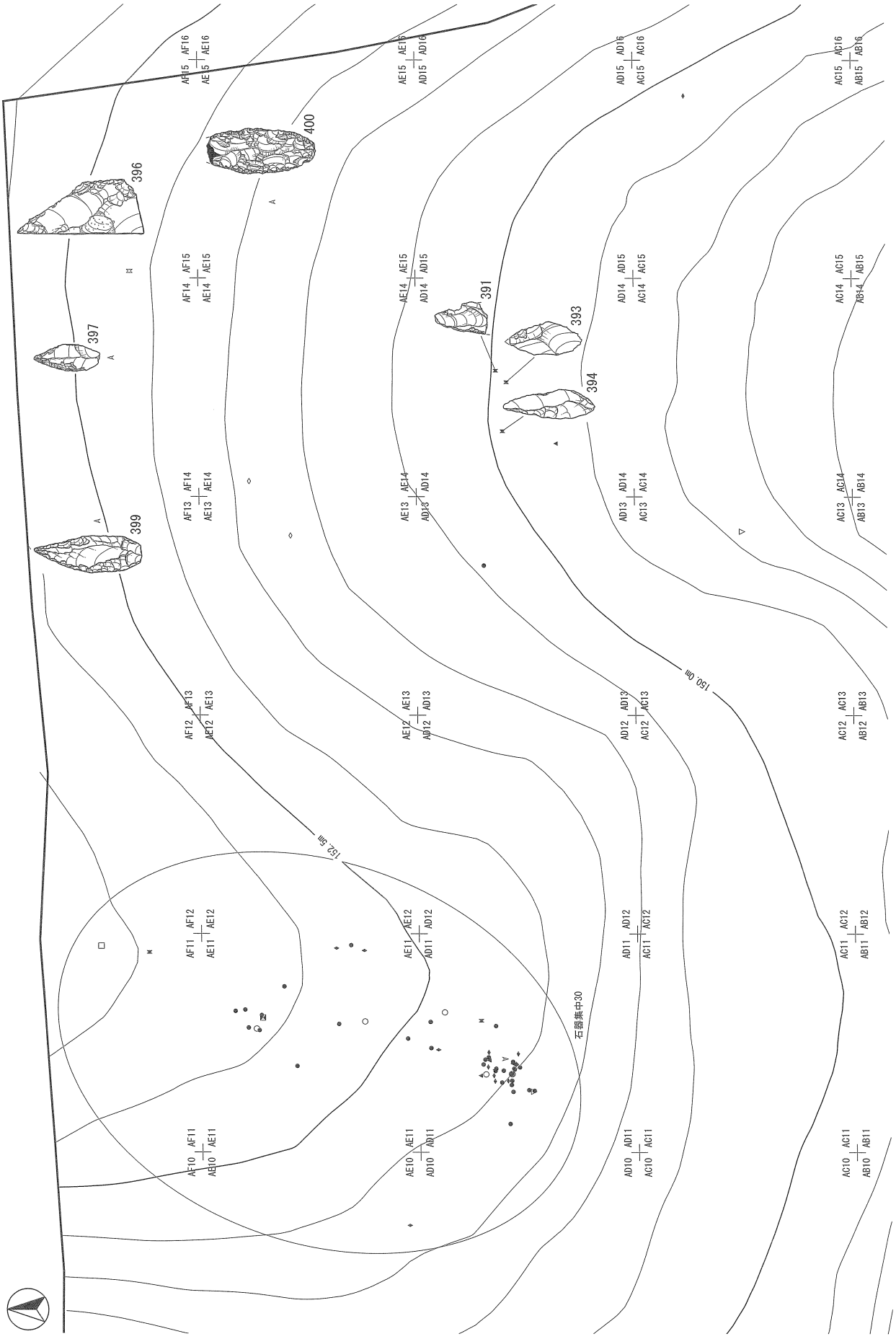
389はYLで検出されたホルンフェルス製の石刃である。

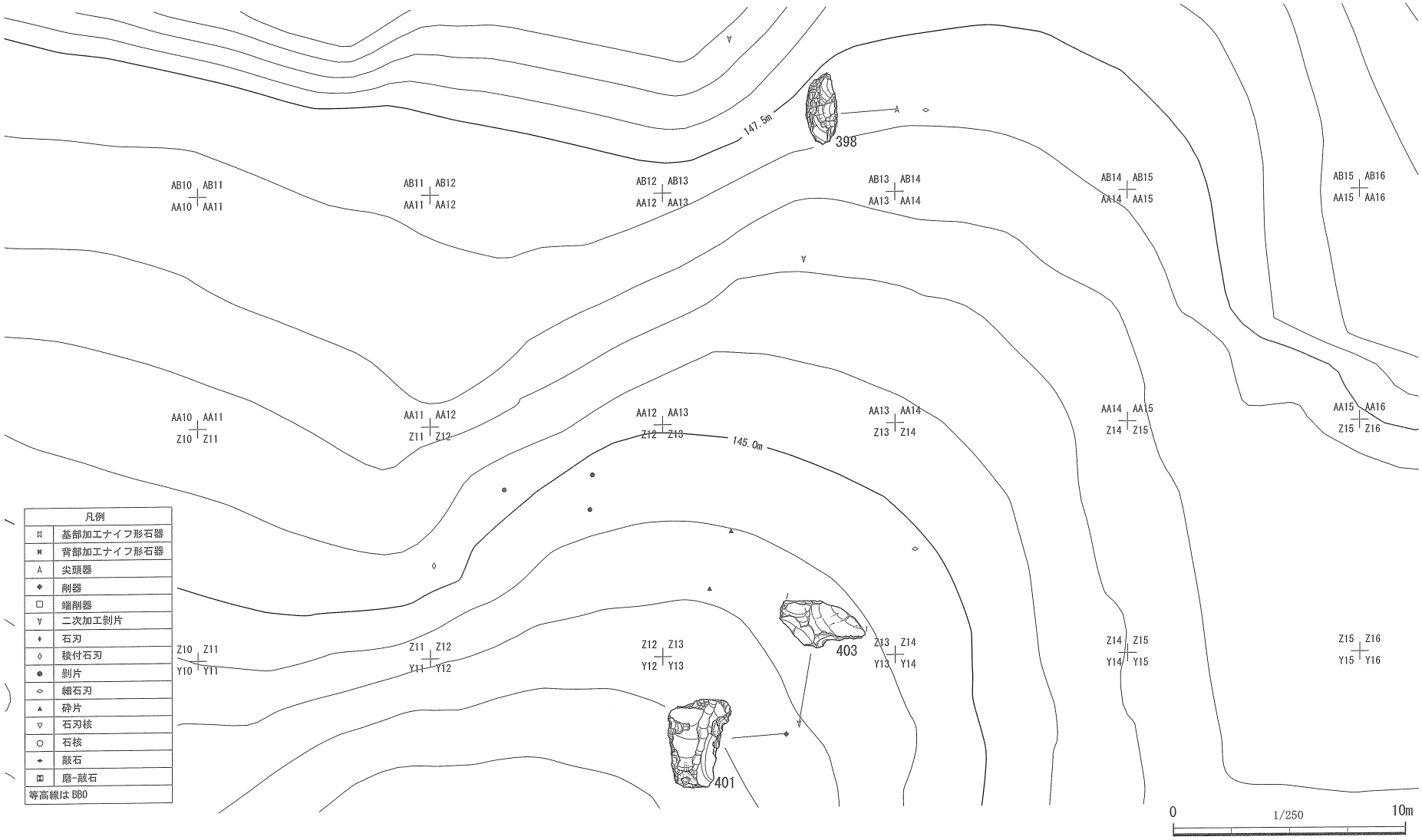
390はKUで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剝離痕は観察されない。末端が折れている。

８．第8地区の石器群（第199・200図、表46）

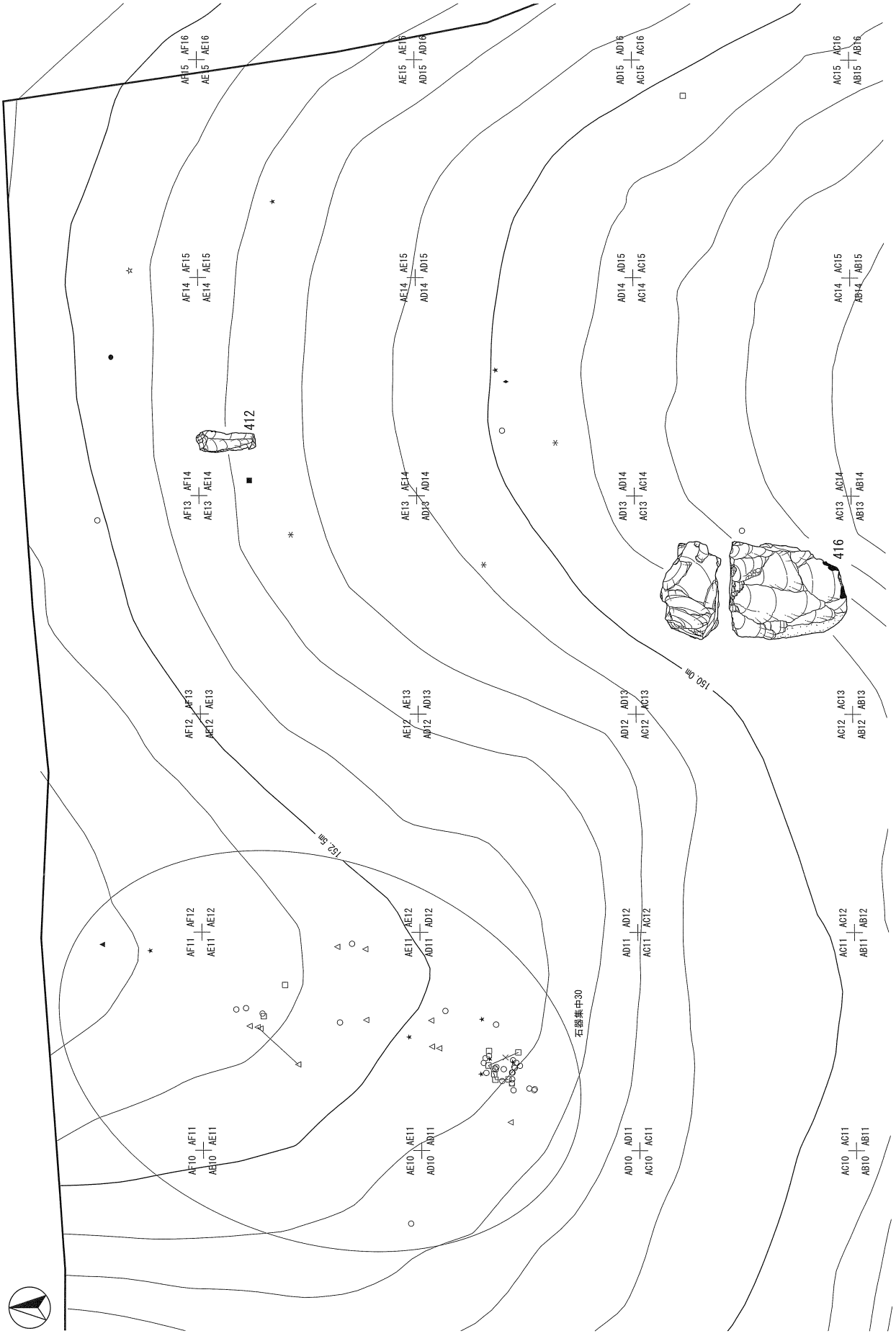
AD/AE11グリッドの石器集中30とその東の谷部の散漫な分布域を広く包括した範囲の石器群である。石器集中30は層位から見て第Ⅸ文化層に相当し、また石刃を基調とする内容からみても第5地区第Ⅷ文化層よりも新しい石器群と推定される。

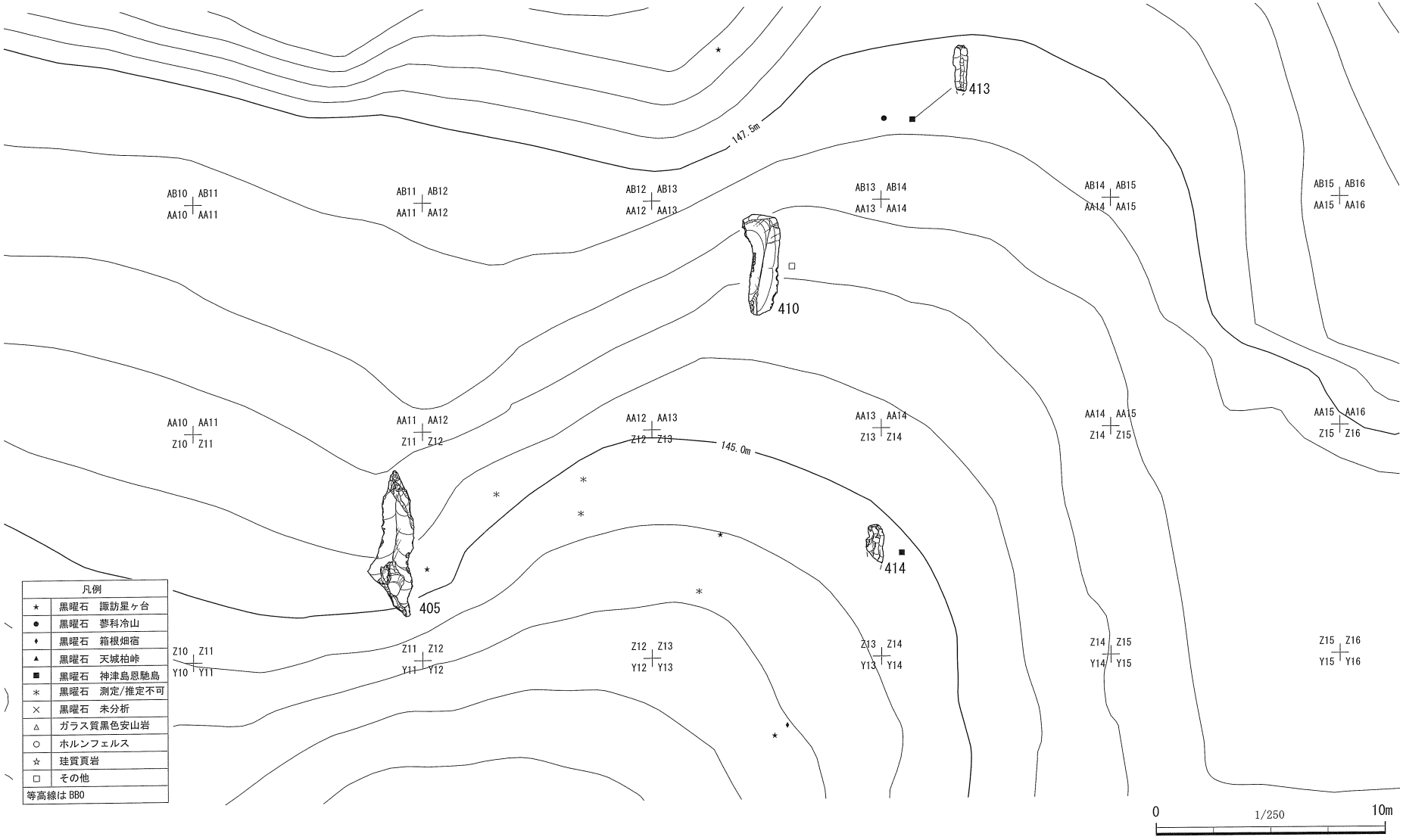
他方、谷部に分布する石器群は石刃製背部加工ナイフ形石器と断面D字形を呈する尖頭器などを含む一方、神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃も分布し、多時期の石器群が散在する状況である。石器集中30との関連はわからない。


396
400
397
391
393
394
399
152.5m
150.0m
石器集中30



第199図　第8地区　第IX文化層　器種別分布


412
416
150.0m
152.5m
石器集中30



第200図　第8地区　第IX文化層　石材別分布

表46　第8地区　第IX文化層　石器組成

	黒曜石															
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	天城柏峠	箱根畑宿	神津島恩馳島	測定/推定不可	未分析	ガラス質黒色安山岩	輝石安山岩	珪質頁岩	硬質頁岩	砂岩	中粒砂岩	粗粒砂岩	ホルンフェルス	計
基部加工ナイフ形石器										1						1
背部加工ナイフ形石器	3			1											1	5
尖頭器	1	2													1	4
削器	1														1	2
端削器			1													1
二次加工剥片	1			1		1					1					4
稜付石刃	1															1
石刃								3							1	4
剥片	1						4	6	1			1			24	37
細石刃					3		1									4
砕片	4						2								2	8
石刃核															2	2
石核								2							4	6
敲石									1				1	5		7
磨-敲石									1							1
計	12	2	1	2	3	1	7	11	3	1	1	1	1	5	36	87

（1）石器集中

石器集中30（第201・202図、表47）

休場層中部を中心に分布し、石器61点で構成される。ホルンフェルス33点が約半数を占める第1石材、次いでガラス質黒色安山岩11点が第2石材となっている。ほかに諏訪星ヶ台産黒曜石6点、粗粒砂岩5点などが含まれる。接合資料はガラス質黒色安山岩1例（接合132）、ホルンフェルス2例（接合69・79）粗粒砂岩1例（接合19）と比較的多い。剥片と石核が接合しているガラス質黒色安山岩の接合132はゴルフボール大の原石だったと思われ、当初から小型石器の生産を想定していたのだろう。

全体に石刃石器群の様相が明瞭に認められ、両設打面で角柱状を呈するホルンフェルスの石刃核（415）とそれに関連する石核（418, 419）および石刃（409）、ガラス質黒色安山岩製石刃3点（406-408）、諏訪星ヶ台産黒曜石製の石刃製背部加工ナイフ形石器（395）が組成する。ただし395については集中部からかなり離れているので共伴するかどうか明確ではない。他方、背部加工ナイフ形石器（392）は横打剥片素材であり、そうだとすれば以上の石刃石器群とは対照的である。ほかに、天城柏峠産黒曜石製の端削器が単体搬入されている。

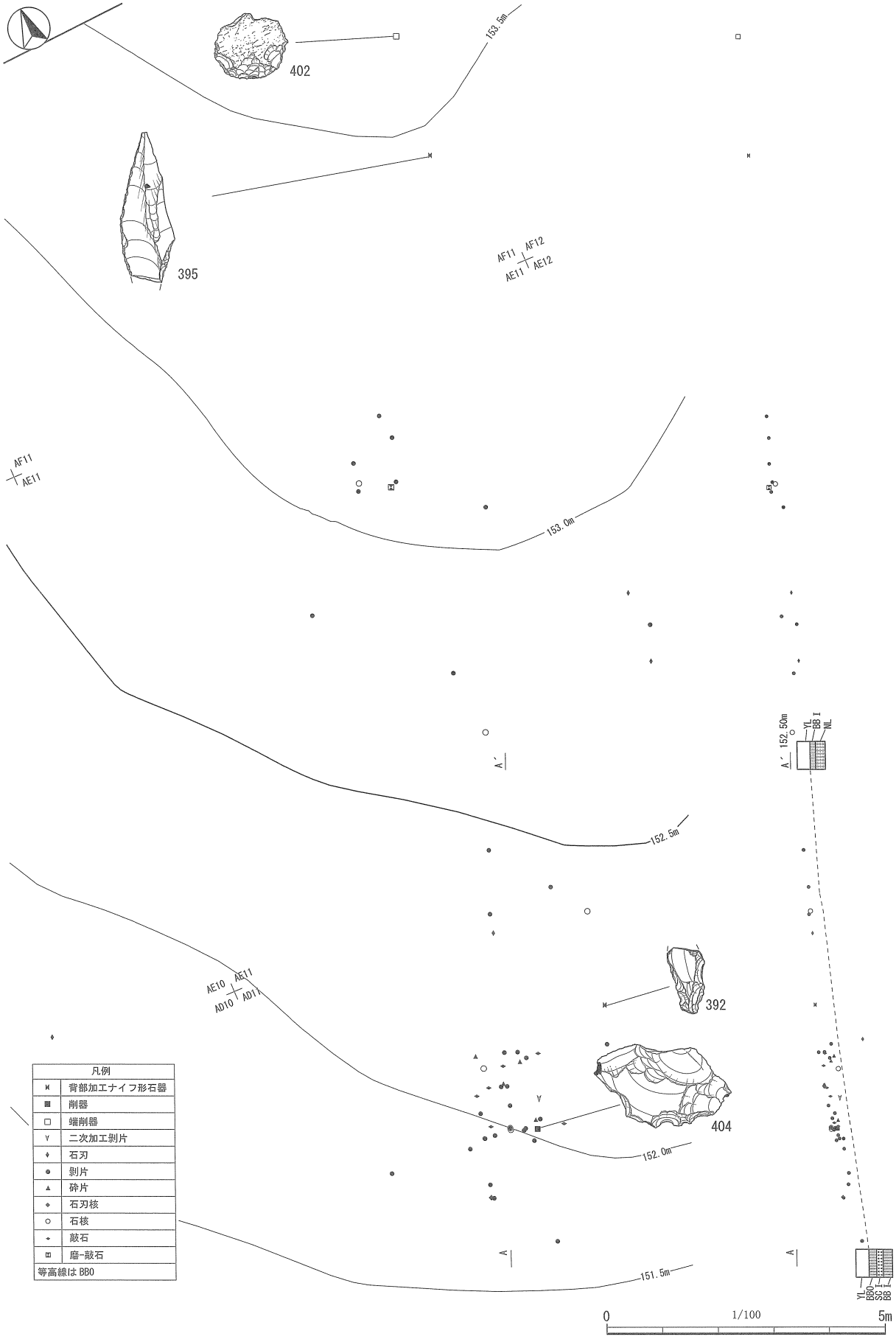
表47　第8地区　第IX文化層　石器集中30　石器組成

	黒曜石									
	諏訪星ヶ台	天城柏峠	測定/推定不可	ガラス質黒色安山岩	輝石安山岩	砂岩	中粒砂岩	粗粒砂岩	ホルンフェルス	計
背部加工ナイフ形石器	2									2
削器									1	1
端削器		1								1
二次加工剥片			1							1
石刃				3					1	4
剥片	1			6	1	1			24	33
砕片	3								2	5
石刃核									1	1
石核				2					4	6
敲石							1	5		6
磨-敲石					1					1
計	6	1	1	11	2	1	1	5	33	61

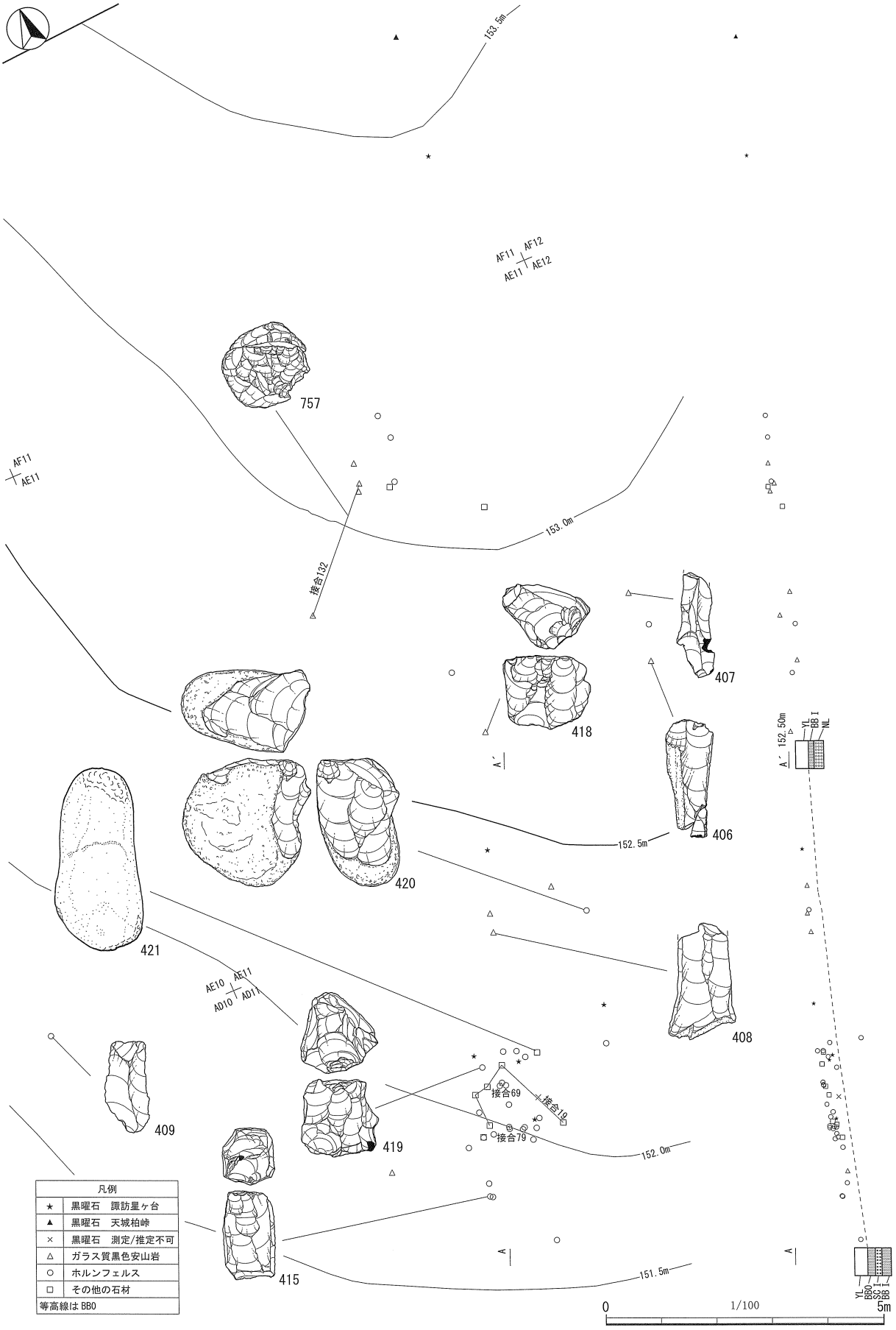
（2）出土石器の検討（第203-206図）

391はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、左側縁を急角度な剥離で大きく切り取り側縁を整形し、尖頭部を作出する。基部を構成すると思われる末端が失われているので全体形状は不明である。

392はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。一般的剥片を横位に用



第201図　第8地区　第IX文化層　石器集中30　器種別分布



第202図　第8地区　第Ⅸ文化層　石器集中30　石材別分布

い、末端側のおそらく殆どを急角度な剝離で切り取って基部を整形し、また、打面を急角度な剝離で大きく切り取ったうえ、さらにバルブ部に平坦剝離を施して、側縁を整形する。刃部が折れているので全体形状は不明だが、折れ部の厚さからみて基部長よりも長い未加工の縁辺が残されていたとは思われない。

393はANで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。剝片を横位に用い、打面側と末端側の裏面に二次加工を施して基部と背部を整形する。鋭い縁辺は僅かしかない。

394はFBで検出されたホルンフェルス製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、打面とこれに接する縁辺を急角度な剝離で斜めに切り取って基部を整形し、右縁辺の端部側も斜めに切り取って側縁を整形して、尖端部を作出する。

395はYLLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。180°打面転移する石刃核の剝離過程から得られたと推測される石刃を縦位に用い、左縁辺を急角度な剝離で切り取ってやや内湾する基部を整形し、右縁辺を基部側から尖端部まで切り取ってやや弧状を呈する側縁を整形し、尖頭部を作出する。基部が折れているので、その形状は不明であるが、裏面のリングが指示する打点の位置は基部加工で切り取られている可能性が高いため、基部形態は尖状を呈していたと推測される。

396はANで検出された珪質頁岩製の基部加工ナイフ形石器である。節理に沿って半割した剝片の右縁辺の端部付近に平坦な剝離を施して基部を整形し、尖った頭部にも平坦な剝離を施し尖端部を作出する。器種はナイフ形石器の一部に入れたが、層位が高いこと、石材が一般的でないこと、二次加工が不整形なことなどから、旧石器時代の所産とは異質な印象を受ける。

397はYLUで検出された蓼科冷山産黒曜石製の尖頭器である。小石刃を縦位に用い、右縁辺全体と左縁辺端部付近に平坦な剝離を施して側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。また、基部裏面バルブ部に平坦な剝離を施して基部を入念に整形する。

398はYLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の尖頭器である。素材剝片を縦に用い、背面を主体に平坦な剝離で整形する。尖頭部と推測される部位は失われており、また、裏面には基部へ向かう樋状の剝離面が観察される。

399はYLUで検出されたホルンフェルス製の尖頭器である。石刃を縦位に用い、左縁辺の打面から末端までを急角度な剝離で切り取り、また、右縁辺を打面から末端まで平坦な剝離と微細な剝離を施して、尖頭形に整形する。打面部は折れている。

400はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。剝片の主剝離面を裏面として平坦剝離で両面を整形する。断面がD字形を呈する。先端部は発掘時に折損した。石器集中に含まれない。

401はKUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の削器である。縦長剝片の両縁辺および末端に大小の不揃いな剝離痕が連続的に認められる。

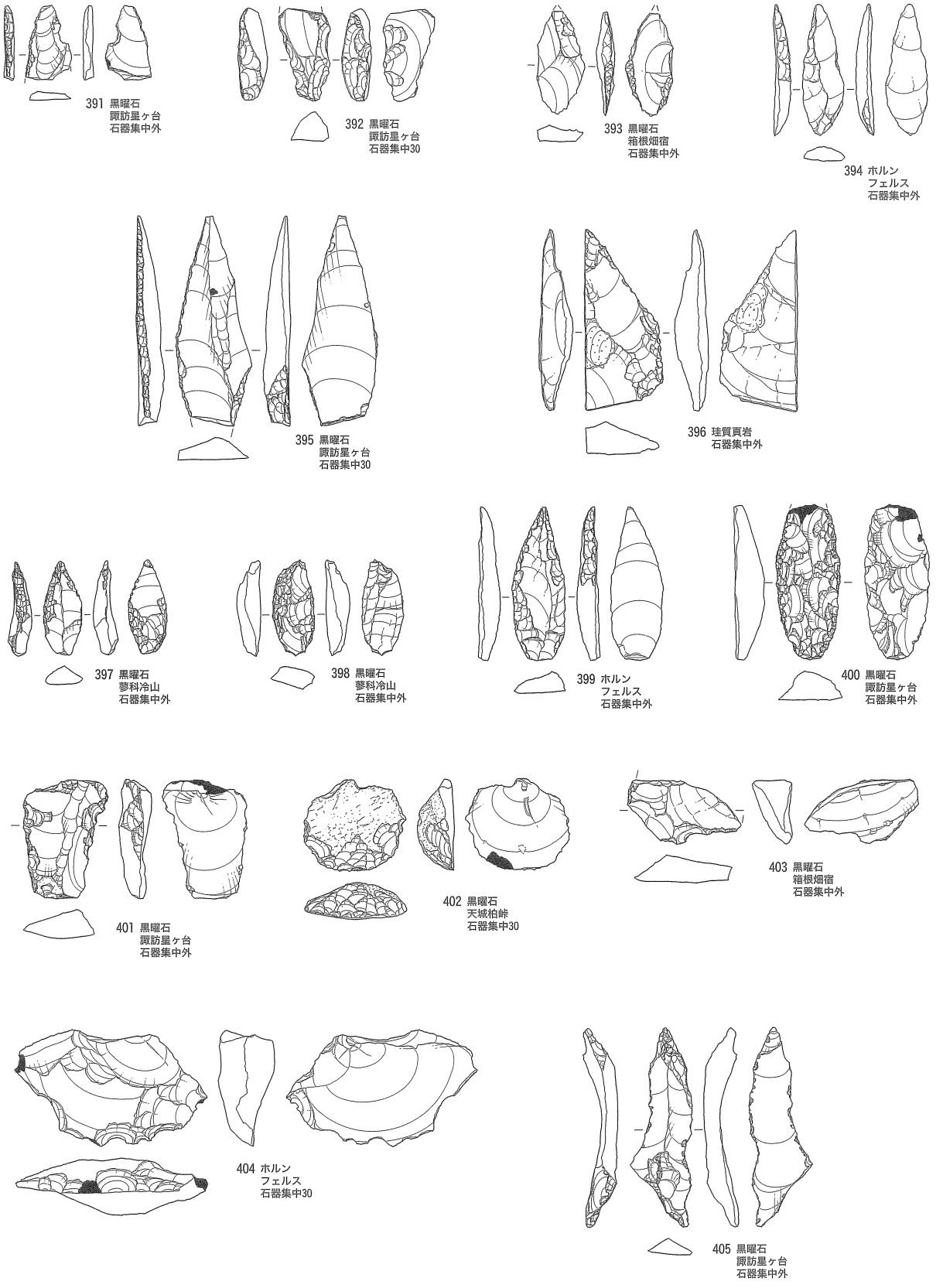
402はYLLで検出された天城柏峠産黒曜石製の端削器である。背面に大きく自然面のついた一般的剝片にやや平坦な剝離を施して刃部を作出する。

403はKUで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剝片である。幅広剝片の末端と左縁辺に二次的な剝離痕が連続的に認められる。

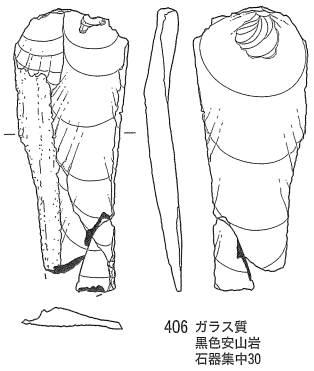
404はYLで検出されたホルンフェルス製の削器である。一般的剝片の端部に鋸歯状の二次加工を施して刃部を作出する。

405はKUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の稜付石刃である。打面は剝片剝離時に破損しているようであるが、その付近の中央稜上から石刃核右側面に調整を施す。また、石刃核作業面の末端部にも調整の痕跡が認められる。

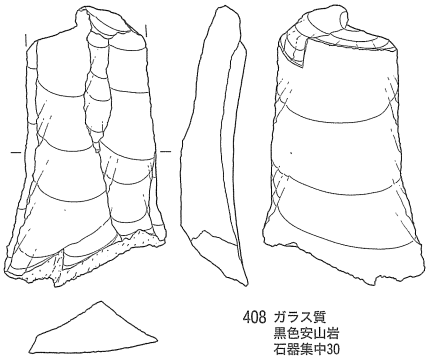
406はYLLで検出されたガラス質黒色安山岩製の石刃である。打面調整を介在しながら同一方向に連続

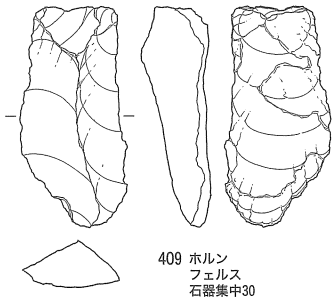


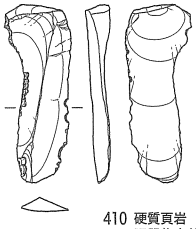
第203図　第8地区　第IX文化層の石器群（1）

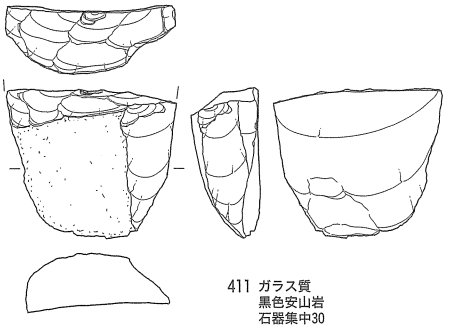

406 ガラス質
黒色安山岩
石器集中30

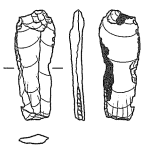
407 ガラス質
黒色安山岩
石器集中30

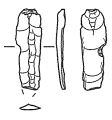

408 ガラス質
黒色安山岩
石器集中30


409 ホルン
フェルス
石器集中30

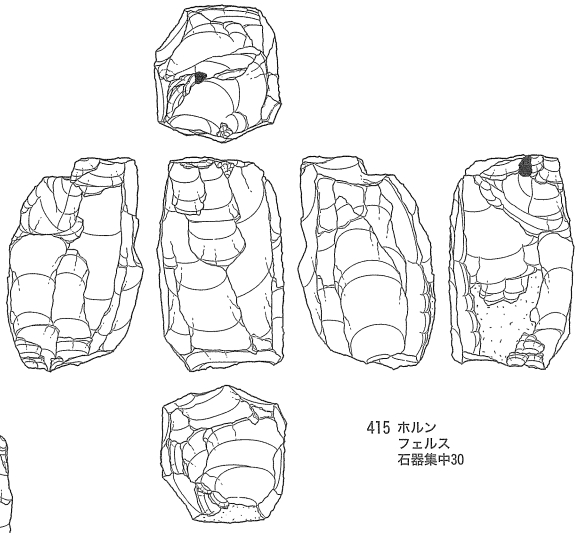

410 硬質頁岩
石器集中外

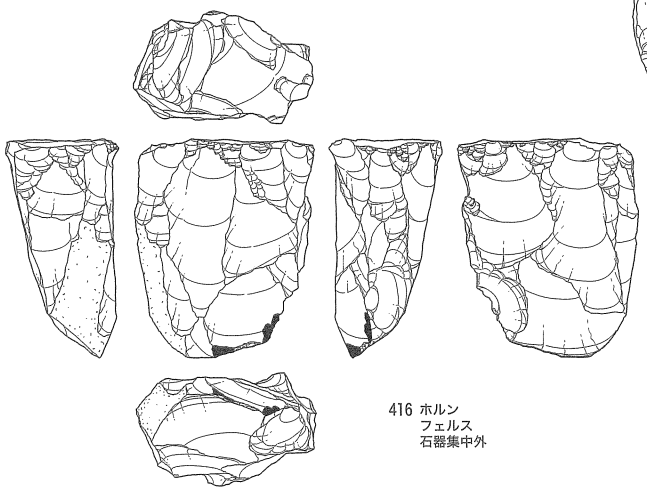

411 ガラス質
黒色安山岩
石器集中30


412 黒曜石
神津島恩馳島
石器集中外


413 黒曜石
神津島恩馳島
石器集中外

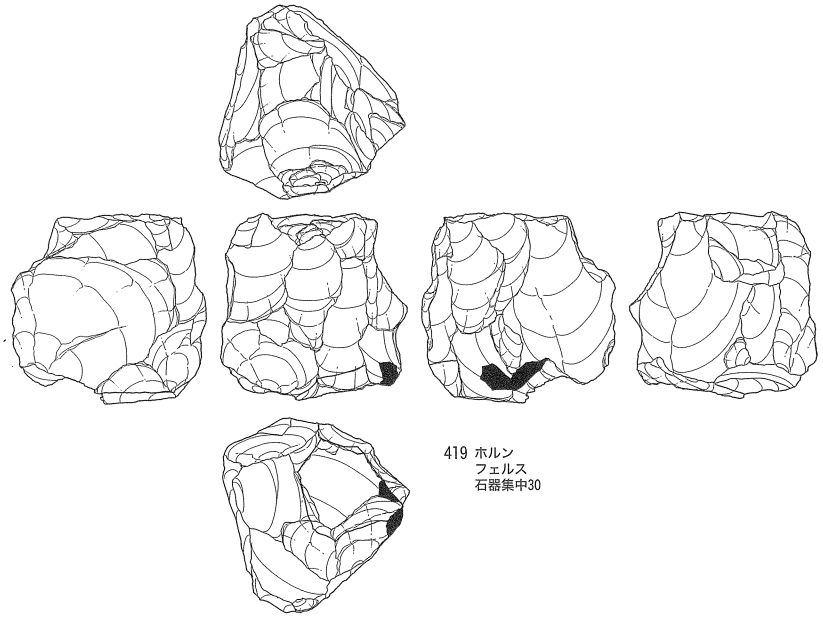
414 黒曜石
神津島恩馳島
石器集中外


415 ホルン
フェルス
石器集中30

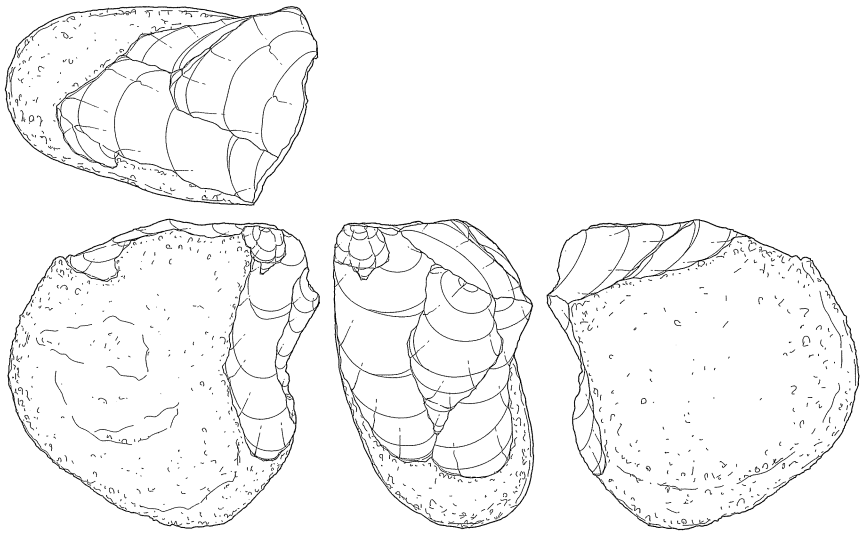

416 ホルン
フェルス
石器集中外

0　2/3　5cm

第204図　第8地区　第Ⅸ文化層の石器群（2）



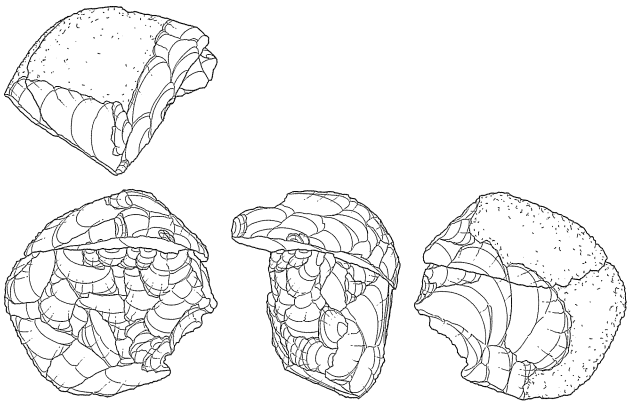
419 ホルン
フェルス
石器集中30



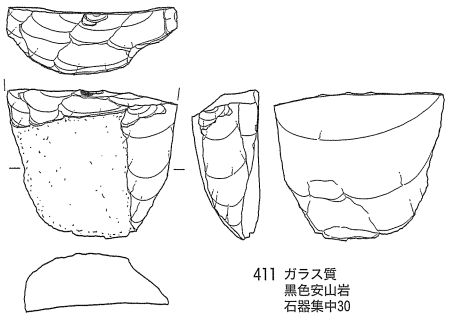
420 ホルン
フェルス
石器集中30

0　2/3　5cm

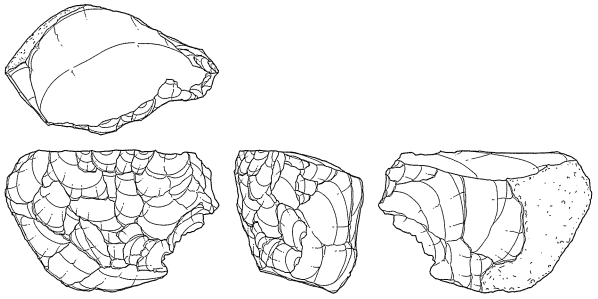
第205図　第8地区　第IX文化層の石器群（3）



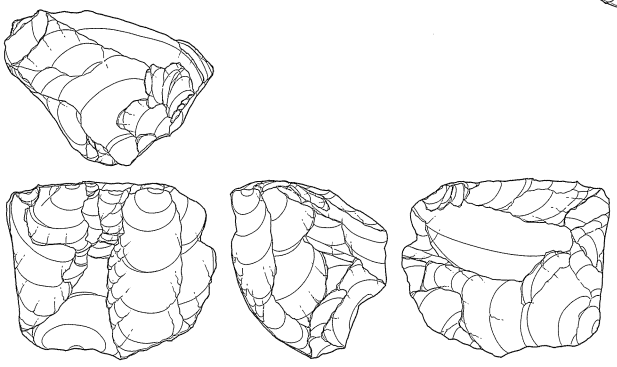
757 ガラス質
黒色安山岩
石器集中30



411 ガラス質
黒色安山岩
石器集中30

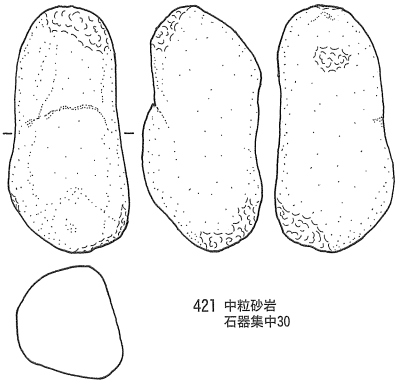


417 ガラス質
黒色安山岩
石器集中30



418 ガラス質
黒色安山岩
石器集中30

0　2/3　5cm



421 中粒砂岩
石器集中30

0　1/3　10cm

第206図　第8地区　第IX文化層の石器群（4）

剝離する過程で生産する。

407はYLLで検出されたガラス質黒色安山岩製の石刃である。180°打面転移する剝離過程で生産する。打面が折れている。

408はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の石刃である。同一方向に連続剝離する過程で生産する。打面が折れている。

409はYLLで検出されたホルンフェルス製の石刃である。

410はFBで検出された硬質頁岩製の二次加工剝片である。縦長剝片の左縁辺の打面部近くに急角度な剝離を施す。左縁辺中程には微細剝離痕が連続する。

411はYLLで検出されたガラス質黒色安山岩製の剝片である。背面に自然面が大きく付いている。打面側は折れている。

412はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。左縁辺中央部の腹面に微細剝離痕による抉入部が観察される。末端が折れている。

413はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。左縁辺中央部が微細剝離で抉入状を呈する。末端が折れている。

414はZNで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。末端が折れている。

415はYLで検出されたホルンフェルスの石刃核である。両設打面を加撃して連続的に石刃を剝離する。微細な打面調整痕は認められない。石刃剝離が限界まで進行し、石核は角錐状を呈する。

416はKUで検出されたホルンフェルスの石刃核である。求心方向に調整した単一打面の周縁を巡るように加撃し、連続的に石刃を生産する。石刃剝離が限界まで進行し、石核は角錐状を呈する。

757はガラス質安山岩製の剝片1点（411）と石核1点（417）の接合資料である。小型亜円礫の一部を剝離して打面を作出し、この面を中心に小型剝片を量産する。

417はYLLで検出されたガラス質黒色安山岩の石核である。小型剝片を量産する。接合資料132（同図757）の一部である。石器集中30に含まれる。

418はYLLで検出されたガラス質黒色安山岩の石核である。全面を作業面として縦長剝片を含む小型剝片を剝離する。

419はYLで検出されたホルンフェルスの石核である。多打面転移して小型剝片を剝離する。

420はYLで検出されたホルンフェルスの石核である。ややいびつな形状の亜円礫の端部で交互剝離し、縦長剝片を生産する。

421はYLで検出された中粒砂岩製の敲石である。長軸の両端部を中心として敲打痕が認められる。

９．第9地区の石器群（第207・208図、表48）

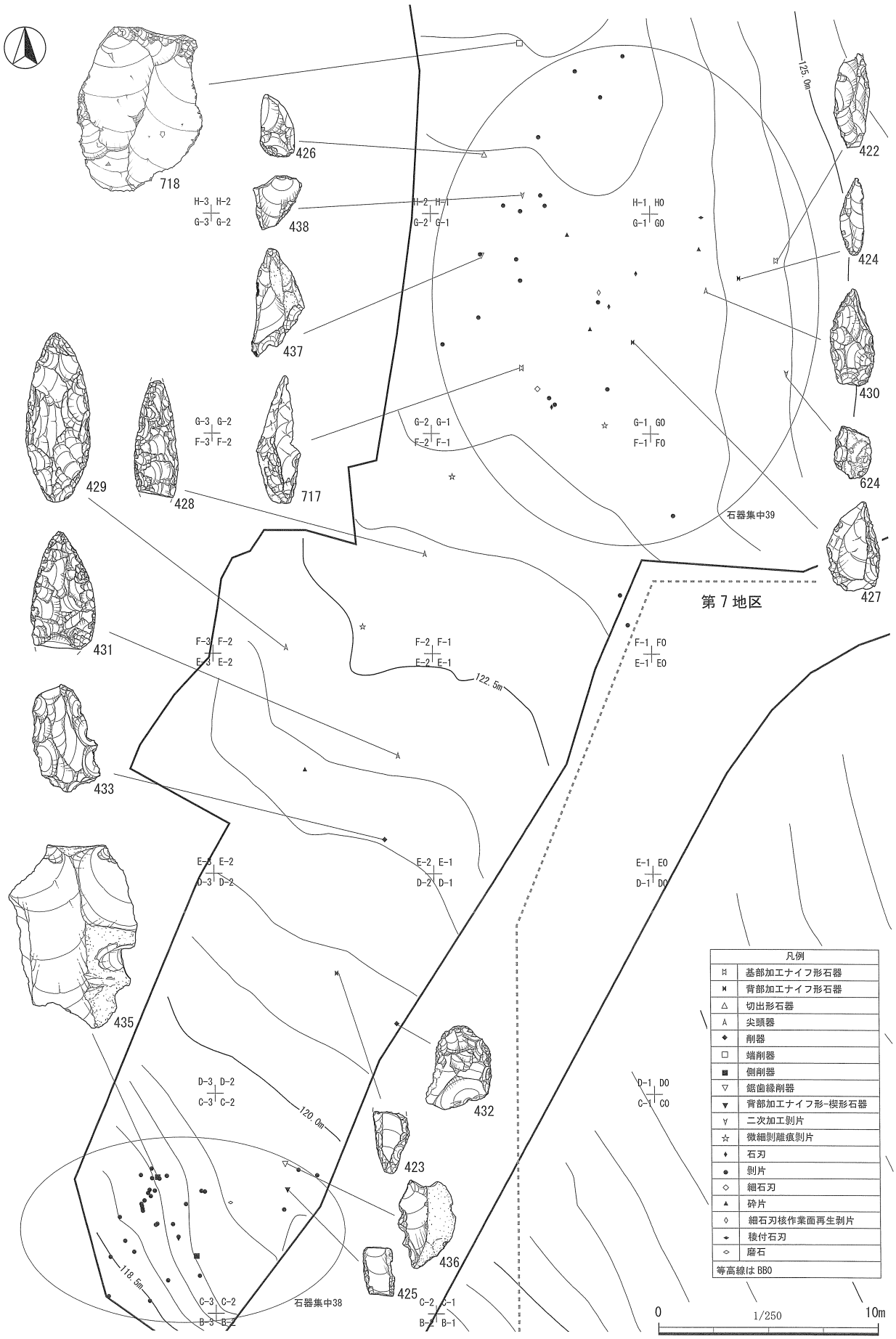
調査区の最も南西に位置する地区である。2箇所の石器集中（38と39）を設定したが、いずれも休場層内の特定の文化層に帰属させることは困難であった。内容的にも通常なら休場層直下黒色帯（BBO）を中心に包含される形態のナイフ形石器や、それ以上で検出されることの多い細身の石刃製ナイフ形石器、両面加工尖頭器、細石刃などバラエティに富む。

石器群は計94点で構成され、ホルンフェルス43点が最も多く、諏訪星ヶ台産黒曜石12点がそれに続く。ホルンフェルスは29点が石器集中38に分布しているので、地区全体のホルンフェルスの多さはこの石器集中の石材を反映している。

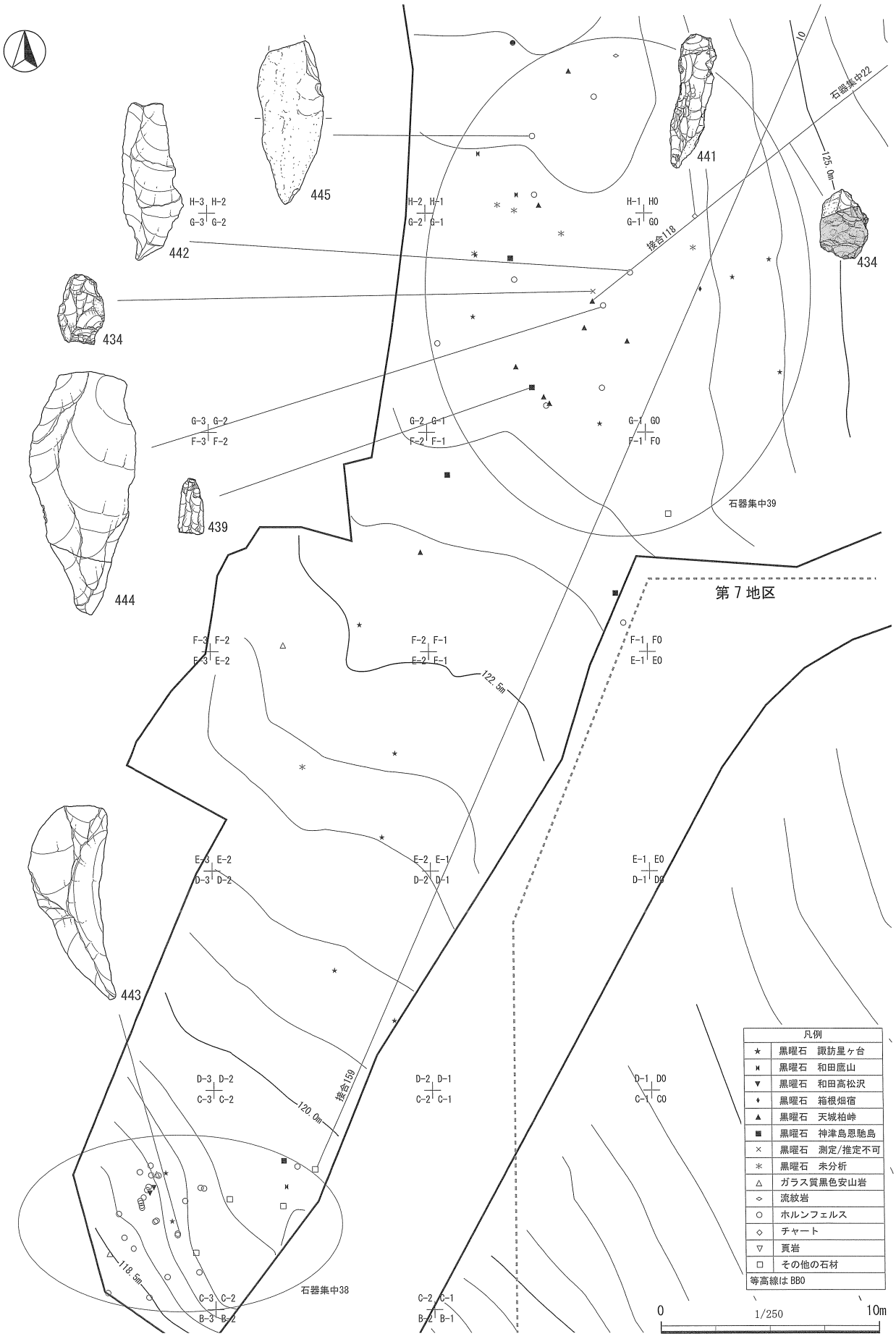
表48　第9地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成

	諏訪 星ヶ台	蓼科 冷山	和田 鷹山	和田 土屋橋南	黒曜石 箱根 畑宿	天城 柏峠	神津島 恩馳島	測定/ 推定不可	未分析	流紋岩	ガラス質 黒色安山岩
基部加工ナイフ形石器						1					
背部加工ナイフ形石器	2					1					
背部加工ナイフ形ー楔形石器			1								
切出形石器			1								
尖頭器	1				1	1					1
削器	2										
端削器		1									
側削器											1
鋸歯縁削器	1						1				
二次加工剝片	1		1								
稜付石刃											
石刃											
微細剝離痕剝片	2						1				
剝片	3			2		5	2		3	1	1
細石刃核作業面再生剝片								1			
細石刃							1				
砕片						1			3		
磨石											
計	12	1	3	2	1	9	5	1	6	1	3

	輝石 安山岩	角閃石 安山岩	蛋白石	緑色凝灰岩	チャート	頁岩	ホルン フェルス	計
基部加工ナイフ形石器								1
背部加工ナイフ形石器								3
背部加工ナイフ形ー楔形石器								1
切出形石器								1
尖頭器							1	5
削器								2
端削器								1
側削器						1		2
鋸歯縁削器								2
二次加工剝片								2
稜付石刃					1			1
石刃							4	4
微細剝離痕剝片								3
剝片	1		1	1	1		38	59
細石刃核作業面再生剝片								1
細石刃								1
砕片								4
磨石		1						1
計	1	1	1	1	2	1	43	94



第207図　第9地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　器種別分布



第208図　第9地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石材別分布

（１）石器集中

石器集中38（表49）

C-3グリッドの休場層を中心に分布し、石器40点で構成される。斜面に立地するため土壌の堆積が薄く、休場層内での濃集位置を特定するのは困難である。

石材はホルンフェルスが最も多く29点である。このうち28点が剝片で、ほかに1点だけ石刃があるが、後者は典型的ではない。

石器集中39（表50）

G-1グリッドの休場層を中心に分布し、石器41点で構成される。平坦面に立地するが、休場層の下部から縄文時代の包含層まで広く分布しているため特定の文化層に帰属させることは困難だった。

表49　第9地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中38　石器組成

	黒曜石									
	諏訪 星ヶ台	和田 鷹山	和田 土屋橋南	神津島 恩馳島	ガラス質 黒色安山岩	角閃石 安山岩	蛋白石	頁岩	ホルン フェルス	計
背部加工ナイフ形ー楔形石器		1								1
側削器					1			1		2
鋸歯縁削器				1						1
石刃									1	1
剝片	2		2		1		1		28	34
磨石						1				1
計	2	1	2	1	2	1	1	1	29	40

表50　第9地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中39　石器組成

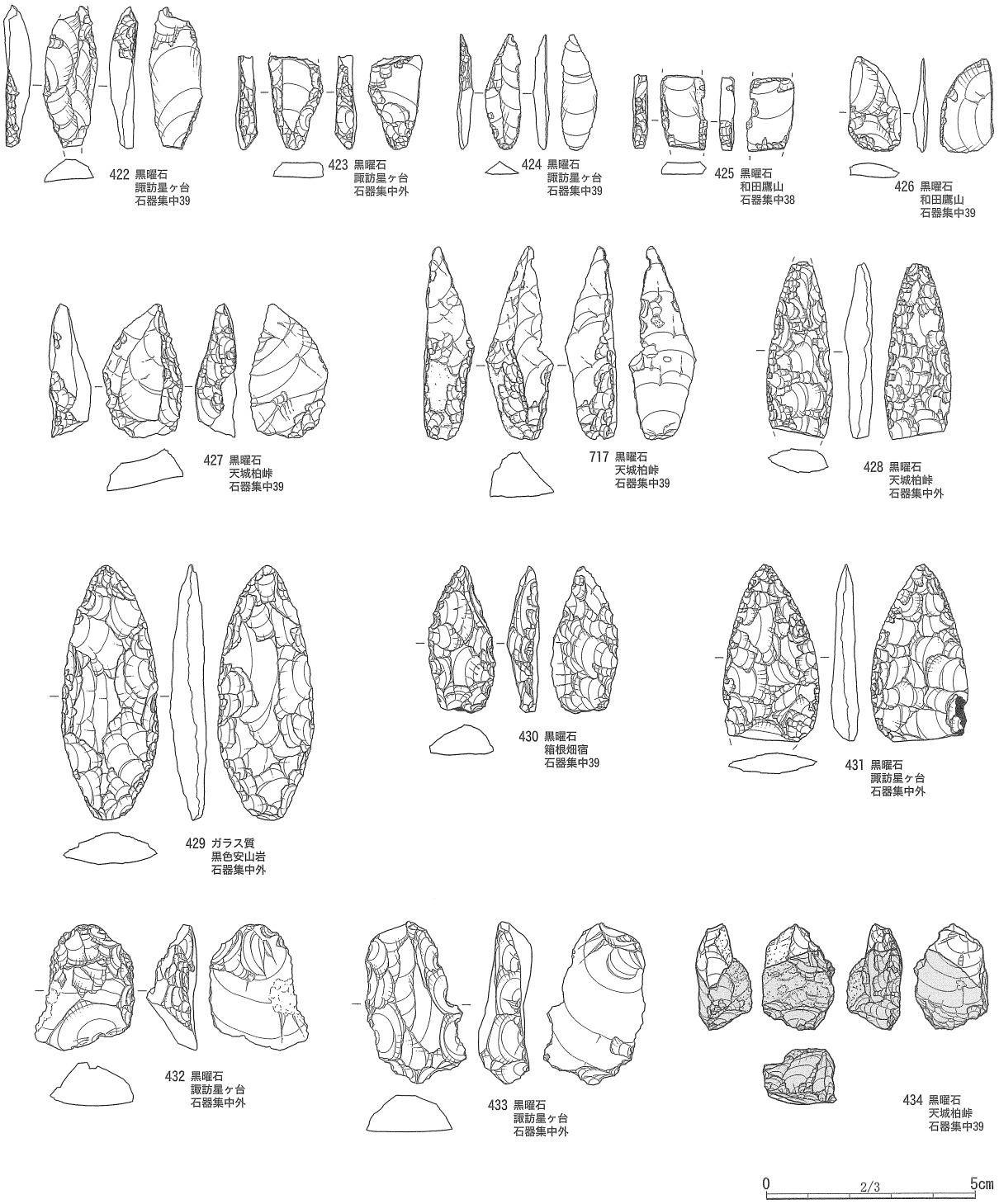
	黒曜石											
	諏訪 星ヶ台	和田 鷹山	箱根 畑宿	天城 柏峠	神津島 恩馳島	測定/ 推定不可	未分析	流紋岩	輝石 安山岩	チャート	ホルン フェルス	計
基部加工ナイフ形石器	1			1								2
背部加工ナイフ形石器	1			1								2
切出形石器		1										1
尖頭器			1								1	2
鋸歯縁削器	1											1
二次加工剝片	1	1										2
稜付石刃										1		1
石刃											3	3
微細剝離痕剝片	1											1
剝片	1			5	1		3	1	1		9	21
細石刃核作業面再生剝片						1						1
細石刃					1							1
砕片				1			2					3
計	6	2	1	8	2	1	5	1	1	1	13	41

（２）出土石器の検討（第209・210図）

422はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。石刃を素材として、打面付近の右縁辺に急角度な剝離を施して基部を整形し、左縁辺の端部を斜めに切り取り尖頭部を作出していると推測される。基部と尖端部には以上の整形に後行する折れ面が観察される。このうち、尖頭部の折れは、腹面に観察される剝離の状態から、衝撃剝離と推測される。

423はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左右縁辺を急角度な剝離で切り取って基部及び側縁を整形する。また、基部裏面には切断面を打面とする平坦な剝離を施して入念に整形する。

424はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。小石刃を逆位に用い、端部の両縁辺を微細な剝離で切り取って基部を整形し、打面とその付近の左縁辺を斜めに切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。



第209図　第9地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群（1）

425はYLで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、左縁辺に急角度の剝離で基部を整形し、また、右縁辺に側縁を整形する。尖端部と基部が失われているのでその形状は不明である。裏面には、上下の折れ面を打面とする微細剝離痕が認められることから、楔形石器の可能性もある。

426はKUで検出された和田鷹山産黒曜石製の切出形石器である。一般的剥片を横位に用い、末端裏面に微細な剥離を施して基部を整形し、折れた打面と折れ面からの二次加工とで側縁を構成するとともに尖頭部を作出する。

427はYLで検出された天城柏峠産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。一般的剥片を逆位に用い、端部の腹面に平坦な剥離、同背面に急角度な剥離をそれぞれ施して基部を整形し、また、打面と右縁辺を斜めに大きく切り取って側縁を整形して、尖端部を作出する。石器下端部の、側面観で張り出した部位は除去されている。

717ははBBOで検出された天城柏峠産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。断面三角形で端部に向かって収束する縦長剥片を素材として、打面付近の3稜に急角度の二次加工を施して打面付きの基部を整形する。

428はFBで検出された天城柏峠産黒曜石製の尖頭器である。平坦剥離で両面を整形し細身にする。

429はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の尖頭器である。平坦剥離で両面を整形し木葉形に整形する。

430はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の尖頭器である。一般的剥片を横位に用い、打面側と末端側の全体に平坦な剥離を施して外形を左右対称に整形し、尖頭部を作出する。

431はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。剥片の両面を平坦剥離で整形し、おそらく木葉形に整形したが、基部を失っている。

432は諏訪星ヶ台産黒曜石製の削器である。剥片の左縁辺を中心に急角度な剥離で刃部を作出する。

433は諏訪星ヶ台産黒曜石製の複刃削器である。厚手の剥片の両縁辺および末端に鋸歯状の刃部を作出する。

434は天城柏峠産黒曜石製の剥片1点と削器1点の接合資料で（母岩AGKT8、接合資料118）、このうち剥片のほうが第9地区に分布し、もう一方は遠く離れた第13地区に分布する。

435はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の側削器である。同一方向へ連続して剥離する過程で生産された縦長剥片の左縁辺裏面に刃部を作出する。

718はBBOで検出された蓼科冷山産黒曜石製の端削器である。側縁と末端に平坦な剥離痕で刃部を作出する。打面左側が折れている。

436はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の鋸歯縁削器である。背面に大きく自然面がついた一般的剥片の左縁辺表面に鋸歯状の剥離を施して刃部を作出する。

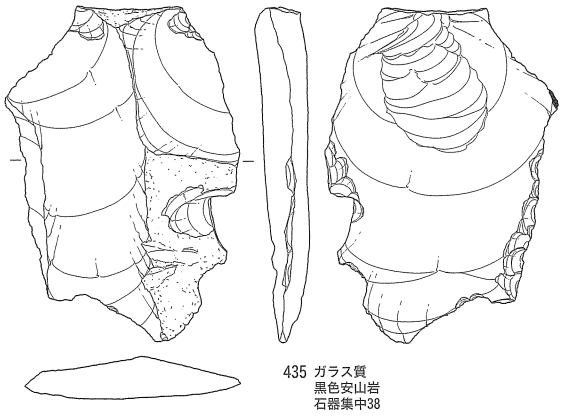
437はKUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の鋸歯縁削器である。厚手の縦長剥片の右縁辺端部に急角度な剥離を施して刃部を作出する。

624はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の二次加工剥片である。一般的剥片を横位に用い、打面側を急角度な剥離で切り取って側縁を整形し、端部側に微細な剥離を施して基部を整形する。刃部と推測される部位が発掘時に欠損したので形状は分からないが、欠損部の厚さなどから切出形石器と推定される。

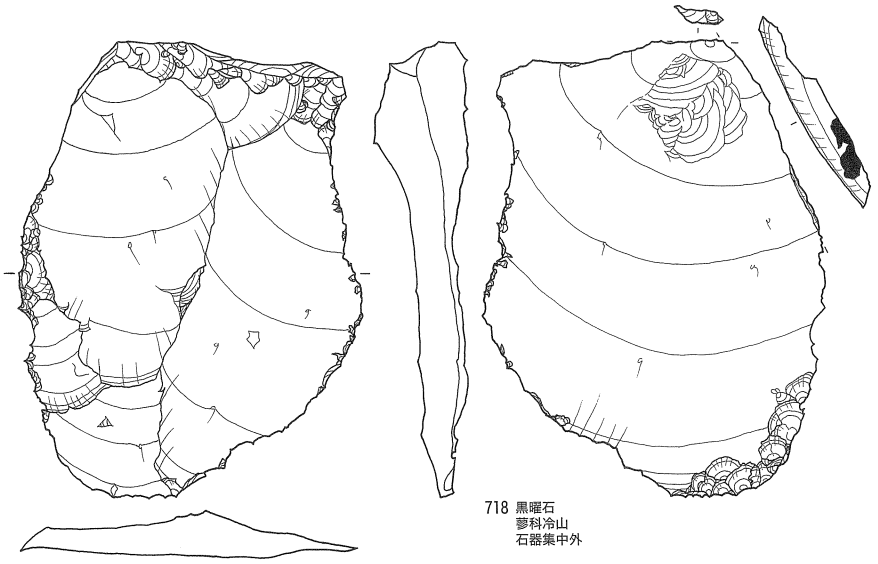
438はKUで検出された和田鷹山産黒曜石製の二次加工剥片である。一般的剥片の右縁辺に連続的な微細剥離を施す。また、打面部付近にも、それと同様の連続的な剥離面が見られる。

439はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。末端が折れている。

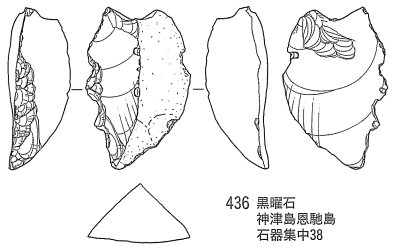
440はKUで検出された黒曜石製の細石刃核作業面再生剥片である。黒曜石は、産地分析を行っていないが、漆黒色で透光性がなく斑晶が僅かにはいる質である。おそらく細石刃核に形成されたステップが細石刃剥離に障害になると判断された為、この部分を除去する目的で剥離したものと推測される。



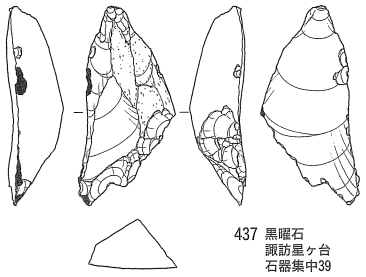
435 ガラス質
黒色安山岩
石器集中38



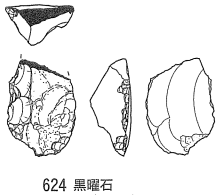
718 黒曜石
蓼科冷山
石器集中外



436 黒曜石
神津島恩馳島
石器集中38

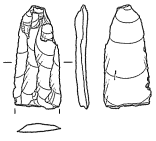


437 黒曜石
諏訪星ヶ台
石器集中39

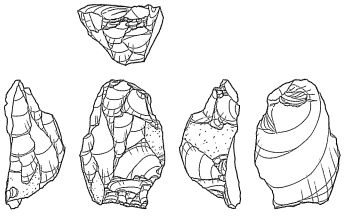


624 黒曜石
諏訪星ヶ台
石器集中39

438 黒曜石
和田鷹山
石器集中39



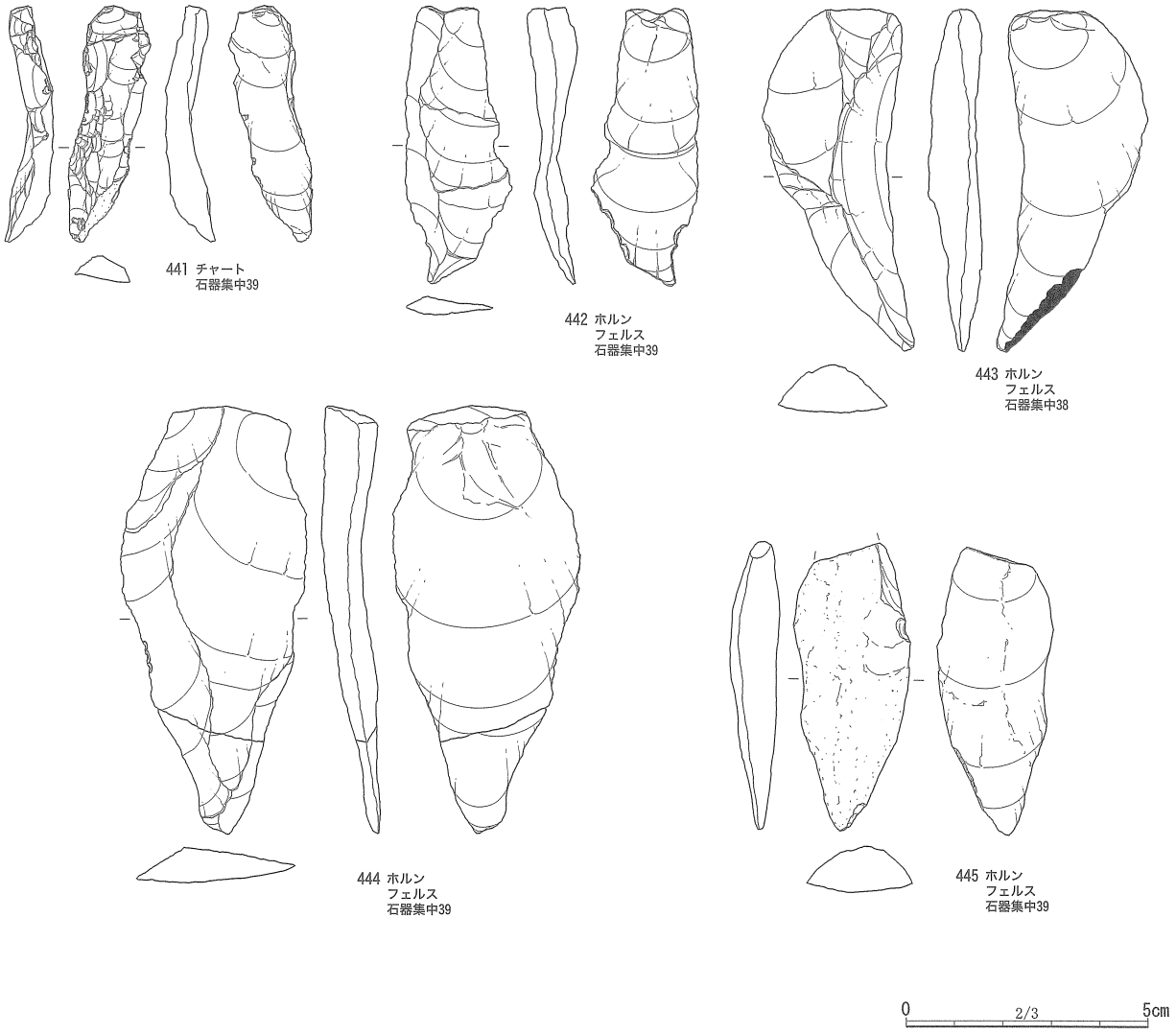
439 黒曜石
神津島恩馳島
石器集中39



440 黒曜石
測定/推定不可
石器集中39

0　2/3　5cm

第210図　第9地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層の石器群（2）



第211図　第9地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群（3）

441はFBで検出されたチャート製の稜付石刃である。石材のチャートは脂質光沢があり赤褐色を呈する。石核左側面からの作業面調整で稜を整形し、次いで石刃を剝離する。

442はFBで検出されたホルンフェルス製の石刃である。

443はFBで検出されたホルンフェルス製の石刃である。右側縁が内湾して全体形状が左に大きく反る。

444はANで検出されたホルンフェルス製の石刃である。大型で尖頭形を呈する。

445はFBで検出されたホルンフェルス製の剝片である。背面は大きく自然面に覆われ、微細な剝離痕が認められる。

10. 第10地区の石器群（第212-214図、表51）

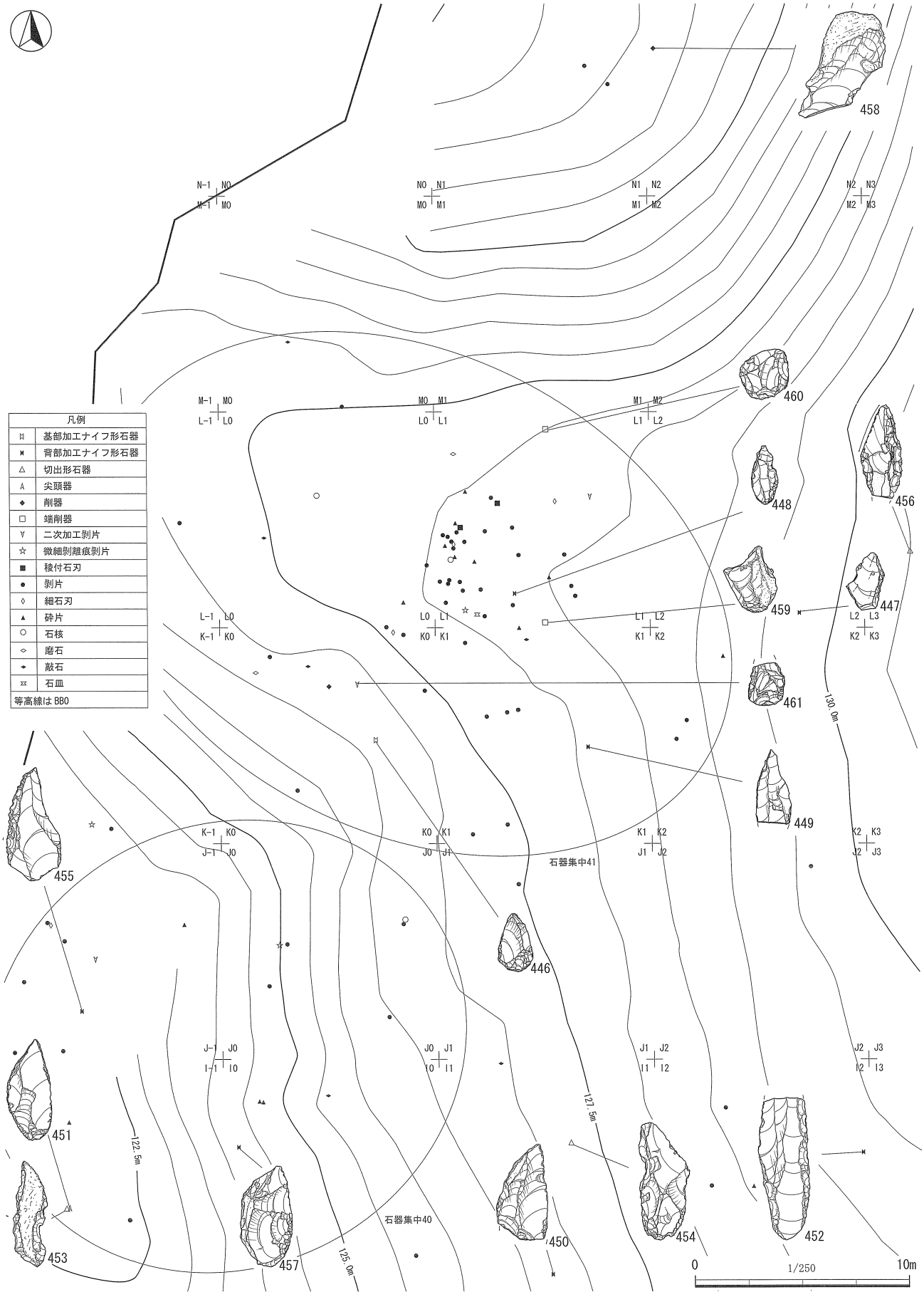
L1グリッドを中心とし、第9地区の北に隣接する位置にある。石器集中40と石器集中41を含むが、どちらも上下動が大きく、例えば南部を中心に分布する厚手のナイフ形石器や切出形石器は「第3期」を特徴づける石器群であるが、ほとんどがYLやFBなどで検出されており、浮き上がっている可能性が高い。これらは第9地区の北部の石器群と関連しよう。

石器118点で構成され、石材はホルンフェルス29点、諏訪星ヶ台産黒曜石15点、神津島恩馳島産黒曜石10点、蓼科冷山産黒曜石9点、天城柏峠産黒曜石8点などが組成する。神津島恩馳島産黒曜石は細石刃を中心とする石器群に関連するものなので分布図を分けておいた（第214図）。なお、諏訪星ヶ台産黒曜石製細石刃（462，463）は細石刃石器群の一部といえなくもないが、打点形態や背面剝離痕が神津島産と異なり石刃石器群（第215図448・449）の副産物に見える。

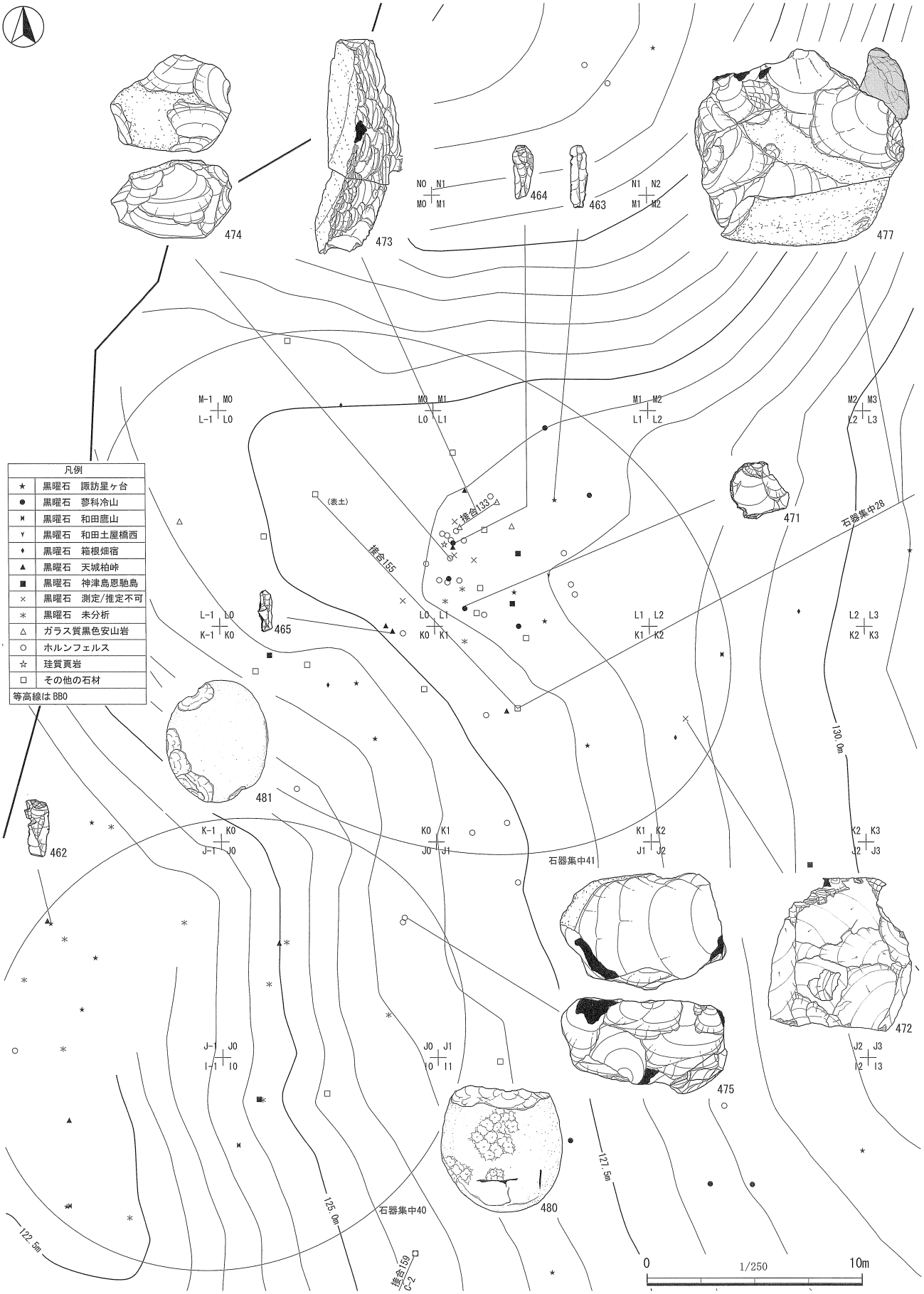
表51　第10地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成

	黒曜石												
	諏訪 星ヶ台	蓼科 冷山	和田 鷹山	和田 土屋橋西	箱根 畑宿	天城 柏峠	神津島 恩馳島	測定/ 推定不可	未分析	ガラス質 黒色安山岩	輝石 安山岩	粗粒 玄武岩	斑レイ岩
基部加工ナイフ形石器	1												
背部加工ナイフ形石器	5		1		1								
切出形石器	2	1											
尖頭器			1										
削器	1				1								
端削器	1	1											
稜付石刃										2			
二次加工剝片	2	1											
微細剝離痕剝片	1	1				1							
剝片		3			2	4	4	1	12	2	1		
細石刃	2	1				1	5						
砕片		1	1	1		2	1	4	2				
石核													
磨石											1		
敲石											3	1	1
石皿											1		
計	15	9	3	1	4	8	10	5	14	4	6	1	1

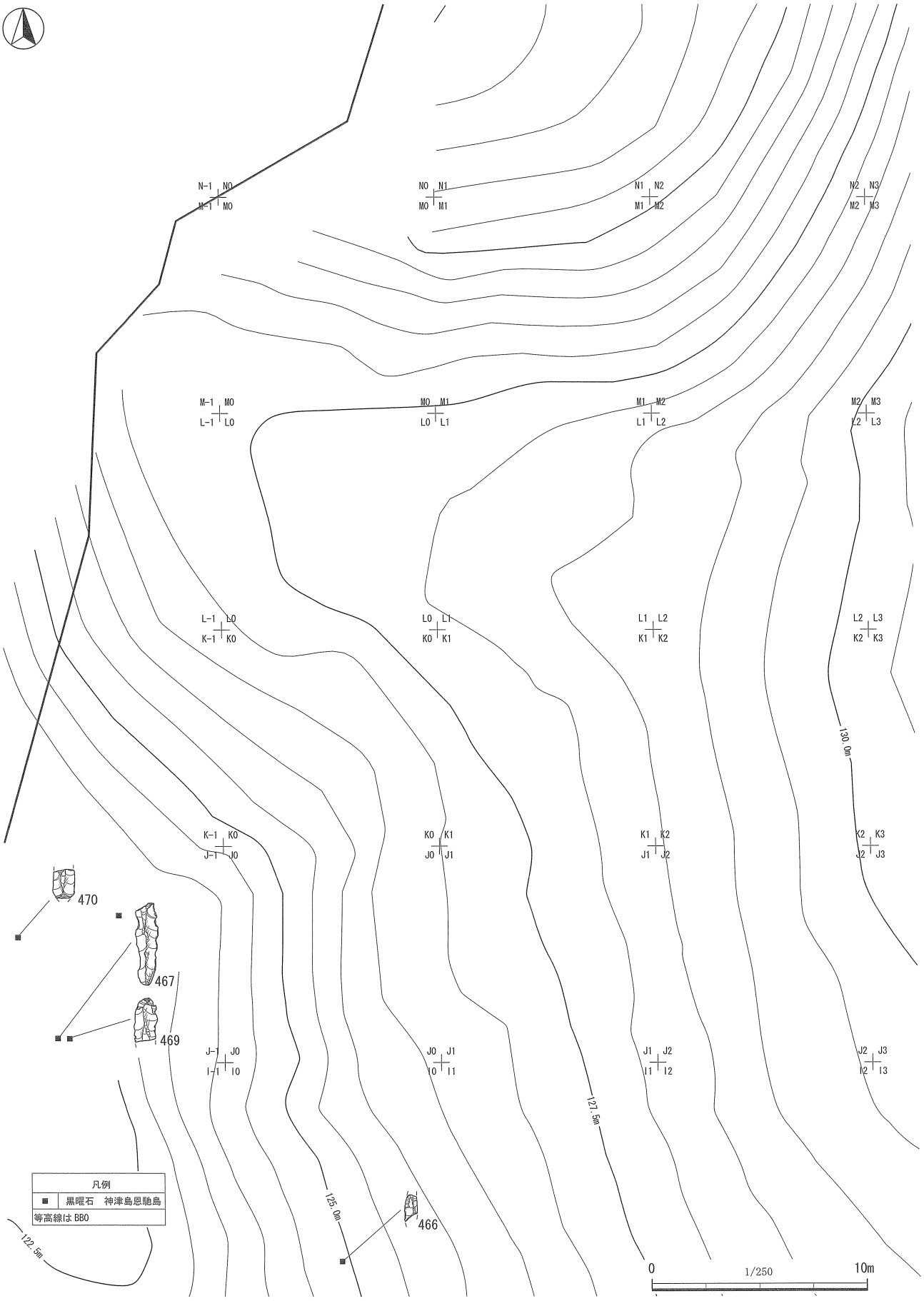
	緑色凝灰岩	珪質頁岩	珪質シルト岩	細粒砂岩	中粒砂岩	ホルンフェルス	計
基部加工ナイフ形石器							1
背部加工ナイフ形石器							7
切出形石器							3
尖頭器							1
削器							2
端削器							2
稜付石刃							2
二次加工剝片							3
微細剝離痕剝片							3
剝片	1		1	1	1	27	60
細石刃							9
砕片		1					13
石核			1			2	3
磨石					1		2
敲石					1		6
石皿							1
計	1	1	2	1	3	29	118



第212図　第10地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　器種別分布



第213図　第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石材別分布



第214図　第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　細石刃石器群の分布

（１）石器集中

石器集中40（表52）

J-1やJ0グリッドを中心に分布する範囲である。細石刃石器群を除き、石器23点を含む。諏訪星ヶ台産黒曜石と和田鷹山産黒曜石のナイフ形石器または切出形石器を主体に構成され、形態的に第3期の石器群に近いものが目立つ。

神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃が比較的まとまって分布する（第214図）。しかしこの場所に細石刃核は出土していない。

石器集中41（表53）

L1グリッドの休場層を中心に分布する範囲である。第10地区の中央部に位置する。石器71点で構成される。石材の中心はホルンフェルス（21点）で、ほかに信州系の黒曜石14点などが伴う。ホルンフェルスは剝片生産が主体である。信州系黒曜石の石器群において、薄手で細身の石刃製内部加工ナイフ形石器（448と449）およびそれに関連する細石刃（463と464）を組成する点は本遺跡第Ⅸ文化層の内容に近い。

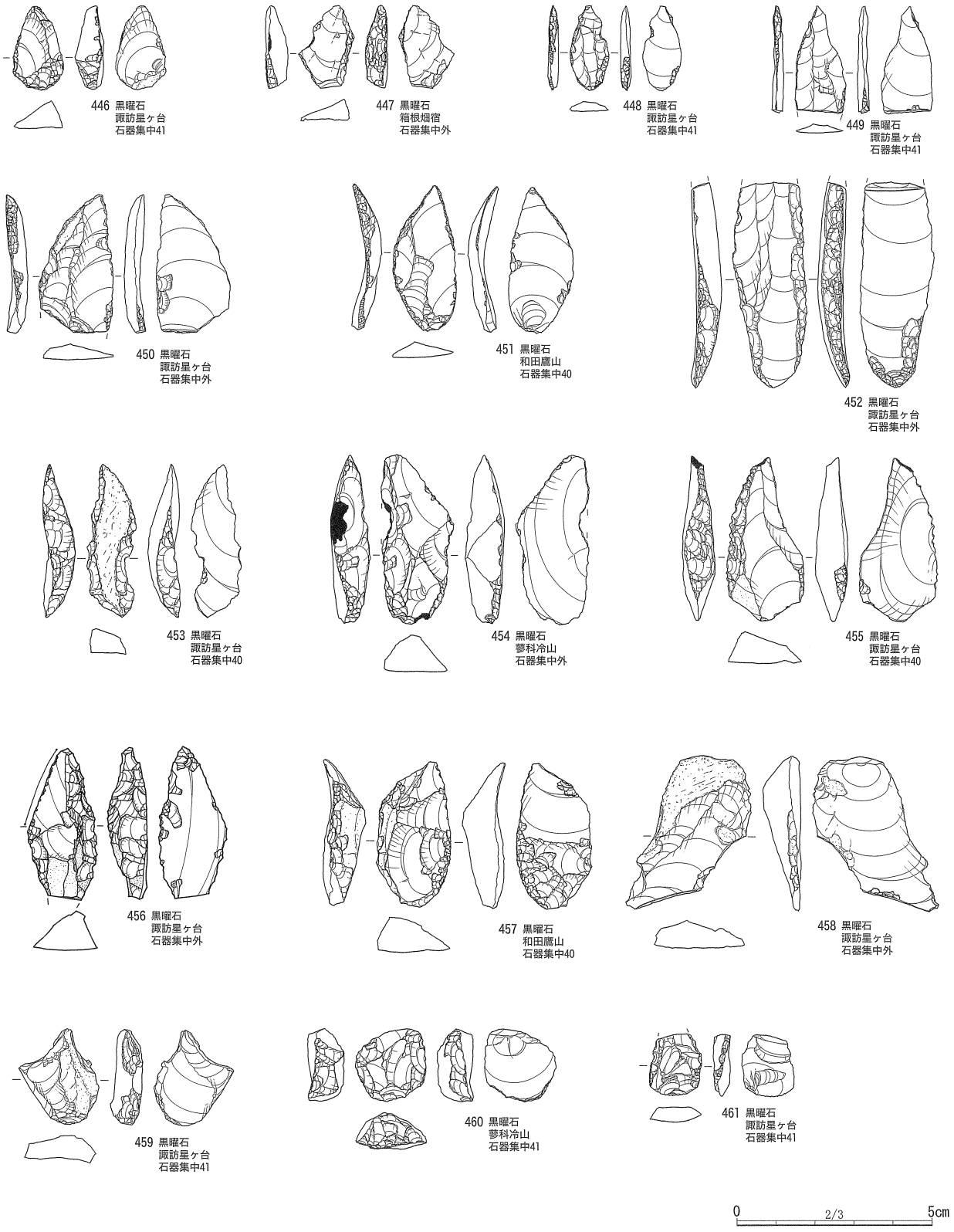
表52　第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器集中40　石器組成

	黒曜石							
	諏訪星ヶ台	和田鷹山	天城柏峠	神津島恩馳島	未分析	粗粒玄武岩	ホルンフェルス	計
背部加工ナイフ形石器	1	1						2
切出形石器	1							1
尖頭器		1						1
二次加工剝片	1							1
微細剝離痕剝片			1					1
剝片			1		7		2	10
細石刃	1							1
砕片			1	1	2			4
石核							1	1
敲石						1		1
計	4	2	3	1	9	1	3	23

表53　第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器集中41　石器組成

	黒曜石								
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	和田鷹山	和田土屋橋西	天城柏峠	箱根畑宿	神津島恩馳島	測定/推定不可	未分析
基部加工ナイフ形石器	1								
背部加工ナイフ形石器	2								
削器						1			
端削器	1	1							
二次加工剝片	1	1							
稜付石刃									
微細剝離痕剝片		1							
剝片		1			3	2	3	1	4
細石刃	1	1			1				
砕片		1	1	1	1			3	
石核									
磨石									
敲石									
石皿									
計	6	6	1	1	5	3	3	4	4

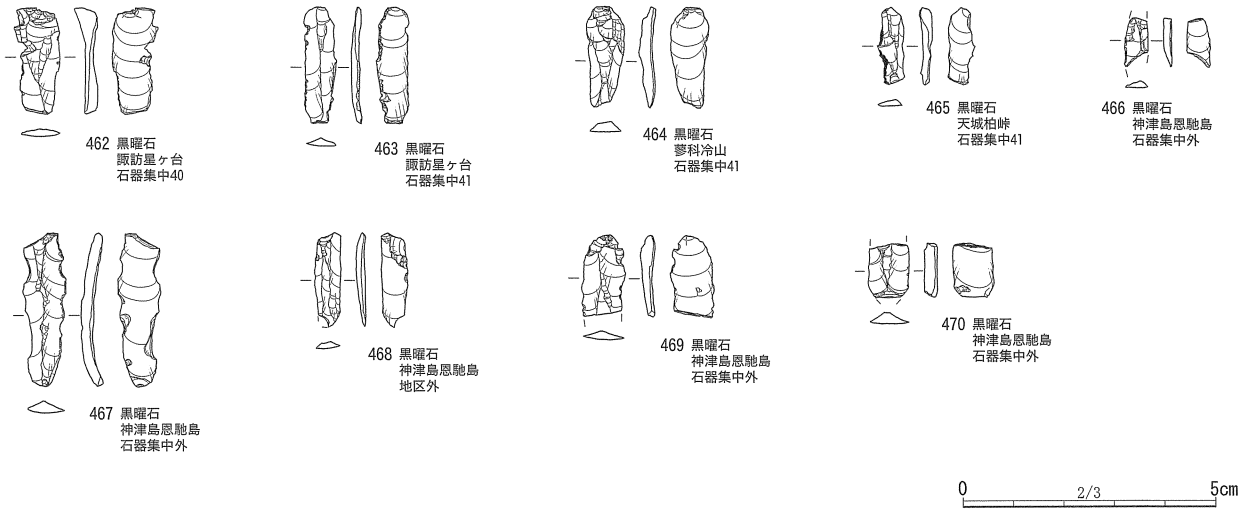
	ガラス質黒色安山岩	輝石安山岩	斑レイ岩	珪質頁岩	珪質シルト岩	細粒砂岩	中粒砂岩	ホルンフェルス	計
基部加工ナイフ形石器									1
背部加工ナイフ形石器									2
削器									1
端削器									2
二次加工剝片									2
稜付石刃	2								2
微細剝離痕剝片									1
剝片	2	1			1	1	1	20	40
細石刃									3
砕片				1					8
石核					1			1	2
磨石		1					1		2
敲石		2	1				1		4
石皿		1							1
計	4	5	1	1	2	1	3	21	71



第215図　第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群（1）

（２）出土石器の検討（第215-219図）

446はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。頭部調整痕の著しい小型の剥片を素材として、両縁辺の打面付近に微細な剥離を施し、打面の残る基部を整形する。刃部には使用を伺わせる微細剥離痕が観察される。



第216図　第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群（2）

447はANで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。一般的剥片を横位に用い、端部の一部を急角度な剥離で切り取り基部を整形し、また、打面側も大きく切り取って側縁を整形する。二次加工よりあとに基部が失われているので全体形状は不明だが、刃部が斜刃を呈していることから切出形石器に分類できる可能性が高い。

448はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。小石刃を逆位に用いて、右側縁の末端を急角度の剥離で切り取って基部を整形し、これと連続して左側縁末端から打面まで切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。

449はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。薄手の石刃を逆位に用い、打面と左側縁を急角度な剥離で切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。末端側が失われているので基部形態は不明である。

450はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。端部に自然面の残る石刃を縦位に用い、右縁辺を急角度な剥離で端部まで切り取り側縁を整形し、尖端部を作出する。また、左縁辺の打面側を切り取って基部を整形する可能性が高い。ただし、基部側が失われているのでその形態は不明である。

451は和田鷹山産黒曜石製の尖頭器である。石刃を素材に右縁辺を中心に急角度の剥離で切り取り、対する左縁辺はトリミング状の微細な剥離で整形する。

452はKUで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。同一方向から連続的に剥離する石刃核から得られた大型の石刃を逆位に用い、左縁辺の末端側を急角度の剥離で切り取って基部を整形し、右縁辺を末端側から打面側まで切り取って基部から側縁を整形する。側縁加工によって、おそらくは尖頭部も作出したであろう。基部裏面は切り取った縁辺を打面として平坦剥離で入念に整形する。

453はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。背面に広く自然面の付いた剥片を横位に用い、末端に急角度の剥離を施して抉入状の基部を整形し、打面側を切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。

454はYLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の切出形石器である。一般的剥片を横位に用い、末端を急角度な剥離で切り取って基部を整形し、また、打面側を切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。

455はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。求心剥離過程から得られた一般的剥片を横位に用い、末端の一部を急角度の剥離で切り取り、また、打面側を分厚く切り取って両側縁を整形し、尖頭部を作出する。基部には未加工の縁辺が残される。

456はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。厚手の横打剥片を横位に用い、打面側を急角度の剥離で大きく切り取り、側縁を整形し、対する末端の右側も急角度の剥離で切り取り基部を整形する。残る鋭い縁辺には使用によるものと思われる微細な剥離痕が連続する。基部が折れている。

457はKUで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。背面の主要な剥離方向と主剥離面の剥離方向とが90°異なる縦長剥片を縦位に用い、左縁辺の打面（折れている）側から末端部にかけて急角度で不規則な剥離を施して側縁となし、右縁辺と裏面の末端側に類鱗状の剥離を施して基部となす。

458はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の削器である。背面に自然面が付く縦長剥片の右縁辺表面に二次加工を施して刃部を作出する。

459はANで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の端削器である。厚手の縦長剥片の末端に急角度の剥離を施して刃部を作出する。

460はクロで検出された蓼科冷山産黒曜石製の端削器である。一般的剥片の端部を主体に急角度な二次加工を施して刃部を作出する。

461はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の二次加工剥片である。一般的剥片を縦位に用い、左右縁辺にやや平坦な剥離を施して側縁を整形する。残された部位の形状と二次加工の特徴からいって、尖頭器かナイフ形石器の可能性が高い。

462はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。ねじれが強い。

463はBBOで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。右縁辺背面と左縁辺腹面に大きさが不揃いで連続的な微細剥離痕が観察される。打面が折れている。

464はYLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。打面と末端は残っている。

465はYLで検出された天城柏峠産黒曜石製の細石刃である。主剥離面が波打ち、形状がねじれているので、これも組織的な細石刃剥離によるものではなさそうである。

466はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。末端が折れている。

467はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。右縁辺に微細剥離痕が観察される。打面と末端が折れている。

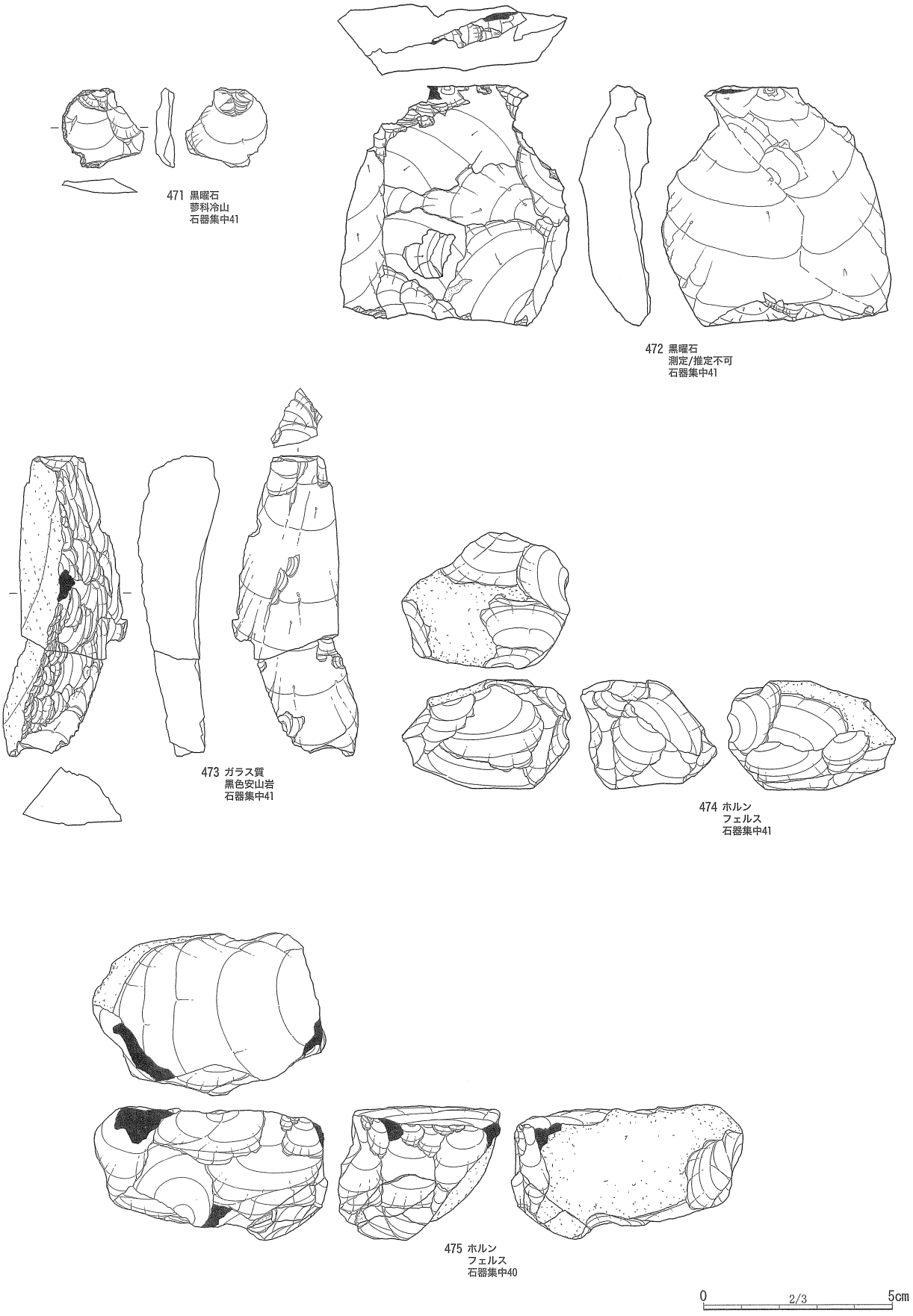
468は第10地区の北、02グリッドのFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。左縁辺の裏面に平坦な剥離が観察される。

469はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。黒曜石は不透明で灰色がかる質である。微細剥離痕は観察されない。末端が折れている。

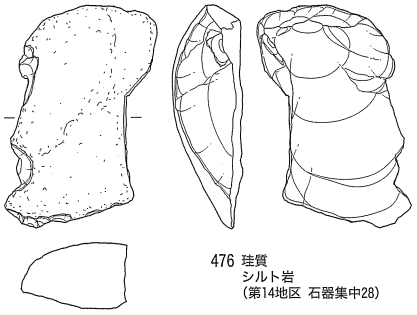
470はZNで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。打面と末端が折れている。

471はYLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。一般的剥片の右縁辺に連続的な微細剥離痕が観察される。

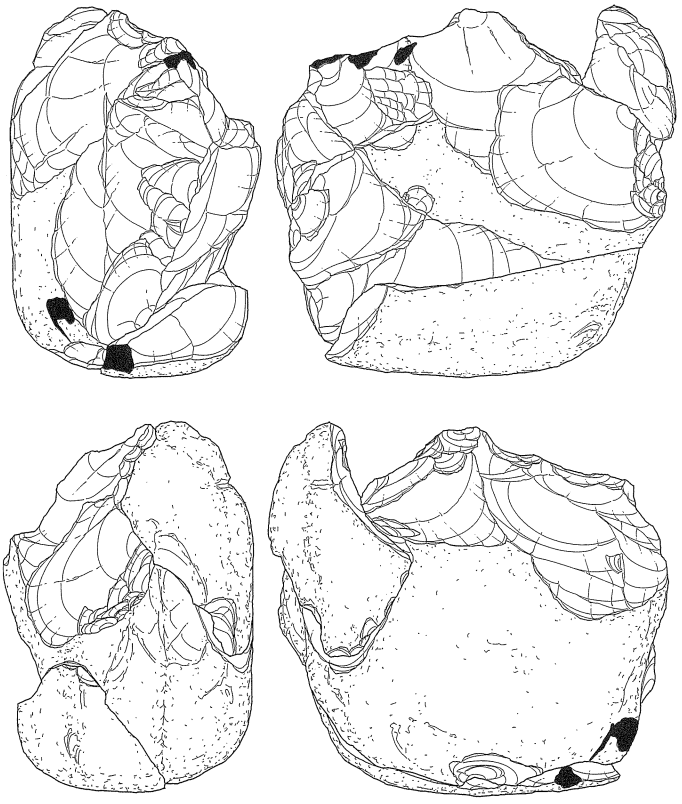
472はYLで検出された箱根畑宿産の可能性が高い黒曜石製の剥片である。ほかに同一母岩が存在しな



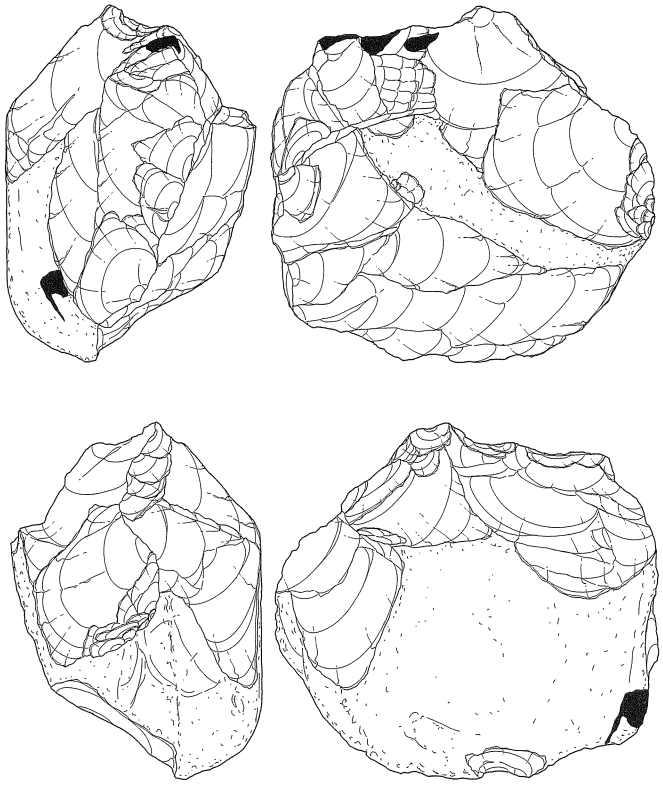
第217図　第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群（3）



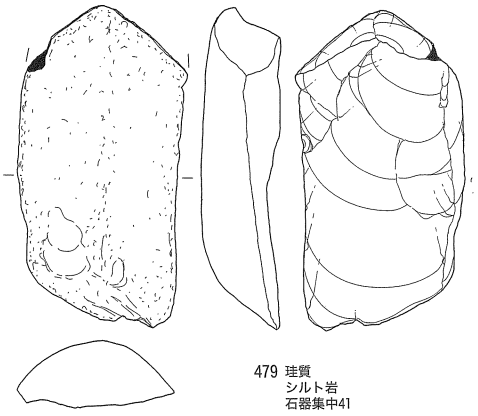
476 珪質
シルト岩
（第14地区 石器集中28）



477 珪質
シルト岩
石器集中41
（第14地区 石器集中28）



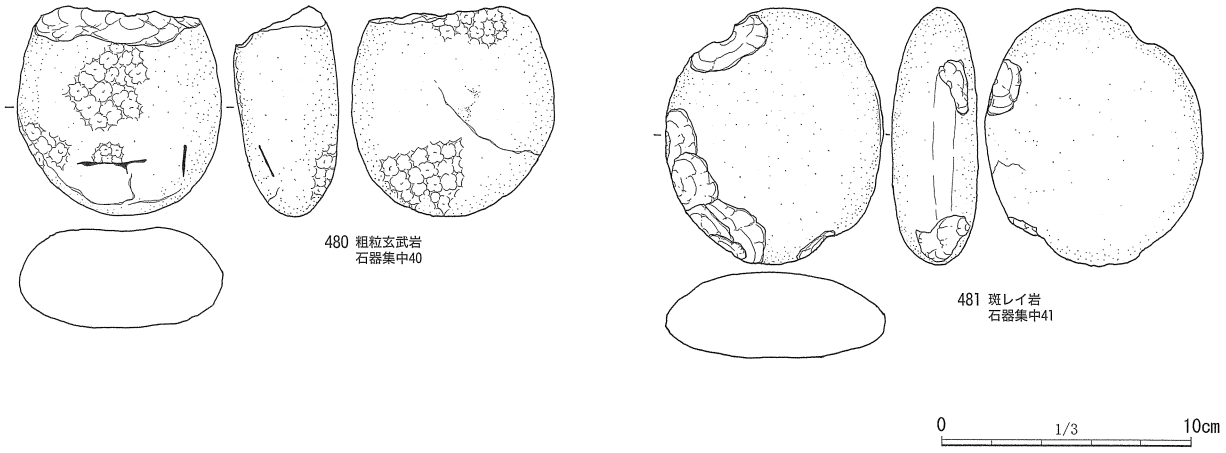
478 珪質
シルト岩
石器集中41



479 珪質
シルト岩
石器集中41

0　2/3　5cm

第218図　第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群（4）



第219図　第10地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群（5）

い単体母岩である。

473はBB0とYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の稜付石刃である。中央で折れている（接合133）。

474はYLで検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫を四方に回して打面をかえながら小型の幅広剝片を生産する。

475はYLで検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫を多打面転移して小型剝片を生産する。

476はYLで検出された珪質シルト岩製の剝片である。接合資料155に含まれ、第14地区のメンバーであるが、こちらに掲載する。

477は珪質シルト岩製剝片2点（476，479）と石核1点（478）の接合資料である（接合155）。亜円礫の片側で交互剝離し、自然面のつく剝片（476，479）を生産する。石核（478）は両刃礫器状を呈する。

480はYLで検出された粗粒玄武岩製の敲石である。敲打によってか、上部を大きく失っている。

481はYLで検出された斑レイ岩製の敲石である。細かな敲打痕は認められないが、周囲にまばらな剝離痕が観察され、機能的には敲石と同一だったと推測される。

11．第11地区の石器群（第220-223図、表54）

分布域は大きく見て南北二つに分かれており、より北にある方はY2からZ2グリッドにかけて石器集中42と石器集中43が含まれる範囲で、より南の方はV1からW1にかけての範囲である。

南北どちらにも細石刃石器群が分布し、特に南部では野岳・休場型の細石刃核が伴う。南部ではナイフ形石器等との重複が認められる。南北どちらも文化層を区別できなかったので、細石刃石器群に限って特徴のあるものだけ抽出した（第222・223図、表57）。

礫群は休場層下部で1基（49号礫群）、同中部で2基（48号・50号礫群）からそれぞれ出土し、複数時期の利用があった可能性が高い。

表54　第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器組成

	黒曜石 諏訪星ヶ台	蓼科冷山	天城柏峠	箱根畑宿	神津島恩馳島	測定/推定不可	未分析	ガラス質黒色安山岩	輝石安山岩	珪質シルト岩	水晶	チャート	ホルンフェルス	計
背部加工ナイフ形石器	1					1								2
尖頭器													1	1
側削器		1												1
石刃						1		1					2	4
微細剝離痕剝片	1	1			1									3
剝片	2	9	1	1	5	2	3	6	1	2	3	1	12	48
細石刃	1				5		2							8
砕片	1						6	1					1	9
石核													2	2
細石刃核	2	1												3
敲石									1					1
計	8	12	1	1	11	4	11	8	2	2	3	1	18	82

（１）石器集中

石器集中42（表55）

Z2グリッドの西側を中心に分布する。第Ⅸ文化層とした49号礫群（休場層中部）と重複分布するためナイフ形石器群を含む時期に帰属する可能性が考慮されたが、細石刃石器群を多く含んでいたため特定の文化層に帰属させるのが難しい状態だった。

細石刃関連遺物を除く石器23点の石材はホルンフェルス4点と、黒曜石は蓼科冷山産4点、諏訪星ヶ台産3点、神津島恩馳島産3点である。器種は側削器1点（第224図484）と石核または片刃礫器（第226図505）が組成するほか目立ったものはない。

表55　第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器集中42　石器組成

	黒曜石 諏訪星ヶ台	蓼科冷山	神津島恩馳島	未分析	ガラス質黒色安山岩	輝石安山岩	珪質シルト岩	ホルンフェルス	計
側削器		1							1
微細剝離痕剝片	1	1	1						3
剝片	2	2	2		3	1	2	2	14
砕片				2				1	3
石核								1	1
敲石						1			1
計	3	4	3	2	3	2	2	4	23

石器集中43（表56）

Y2とZ2グリッドの東側を中心に分布し、石器集中42に隣接する。石器32点で構成され、石材はホルンフェルス11点、蓼科冷山産黒曜石7点、ガラス質黒色安山岩4点などが組成する。ホルンフェルスには石刃（第224図486）と石核（第226図504）が含まれる。

表56　第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器集中43　石器組成

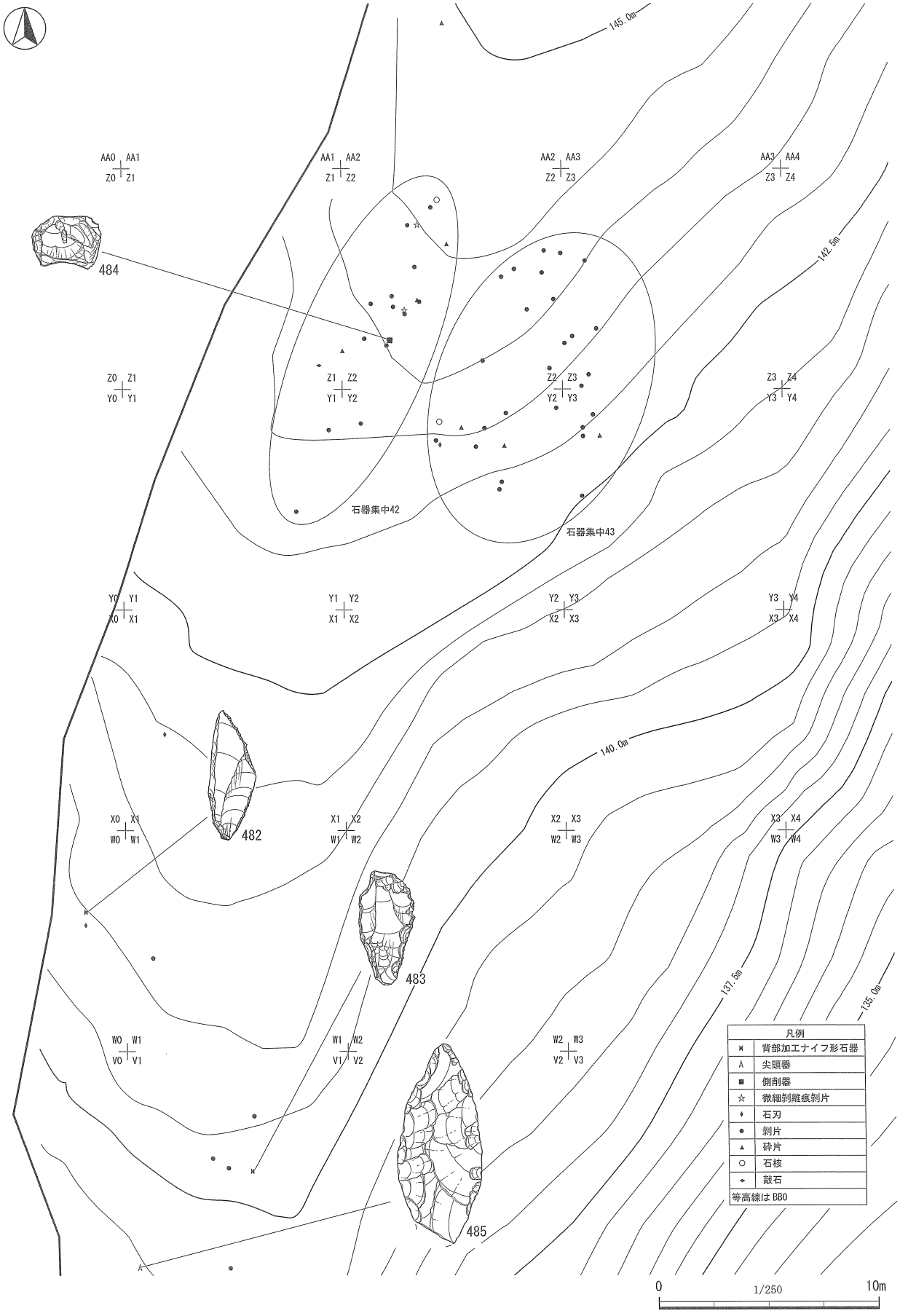
	黒曜石 蓼科冷山	天城柏峠	神津島恩馳島	測定/推定不可	未分析	ガラス質黒色安山岩	水晶	チャート	ホルンフェルス	計
石刃									1	1
剝片	7	1	1	2		3	3	1	9	27
砕片					2	1				3
石核									1	1
計	7	1	1	2	2	4	3	1	11	32

細石刃石器群（第222・223・225図、表57）

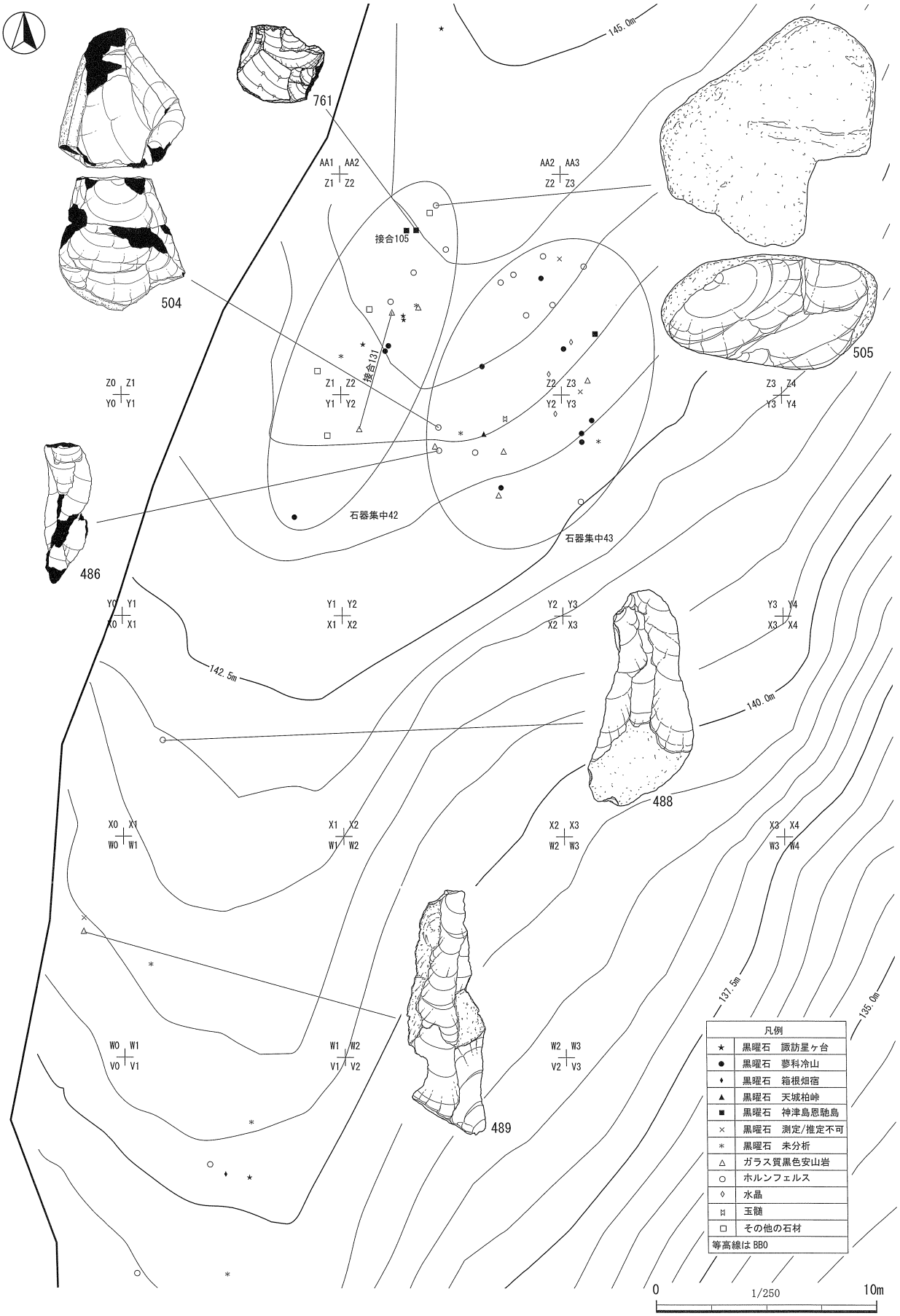
南北に2箇所の集中部が確認された。北部はZ2グリッドを中心に分布し、神津島恩馳島産黒曜石製細石刃で構成される。形態的な斉一さは乏しいが、微細剝離痕が観察されるものが多い。南部は諏訪星ヶ台産黒曜石を主体に神津島恩馳島産と蓼科冷山産黒曜石で構成され、細石刃核を伴う。細石刃核はいずれも小型で、一般に野岳・休場型に分類されるものである。

表57　第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　細石刃石器群　石器組成

	黒曜石 諏訪星ヶ台	蓼科冷山	神津島恩馳島	測定/推定不可	未分析	計
石刃				1		1
剝片			2			2
細石刃	1		5		2	8
砕片					2	2
細石刃核	2	1				3
計	3	1	7	1	4	16

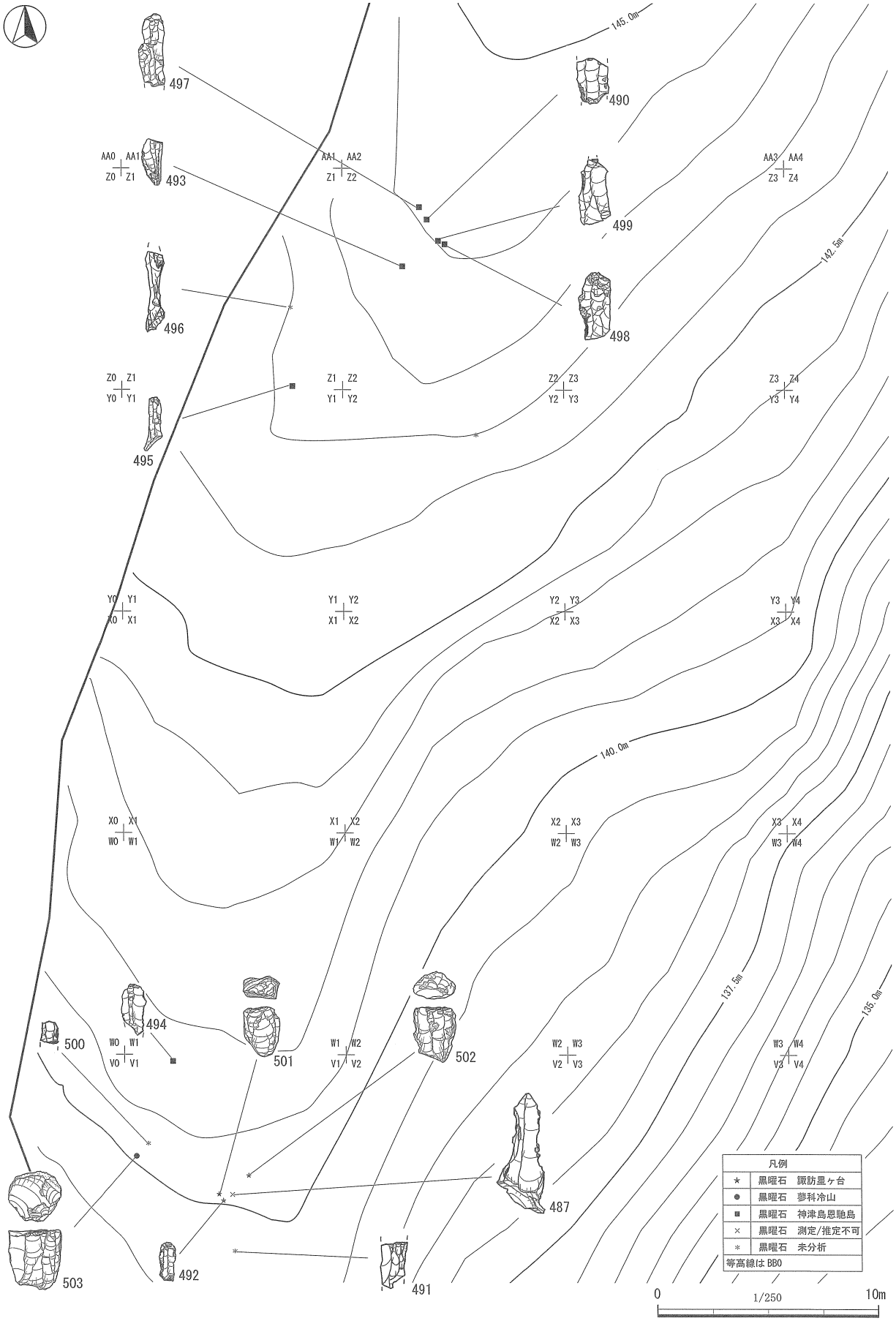


第220図　第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　器種別分布



第221図　第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石材別分布

第222図　第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　細石刃石器群　器種別分布



第223図　第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　細石刃石器群　石材別分布

（２）出土石器の検討（第224-226図）

482はYLで検出された中部高地産と推定される黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺の打面側に急角度な剥離を施し、さらに左縁辺の打面側に微細な剥離を施して基部を整形し、また、左縁辺の末端側を斜めに切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。

483はANで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、右縁辺の末端側から打面側にかけて急角度の剥離と平坦な剥離を取り混ぜた不規則な二次加工を連続して施し、基部と側縁を整形する。基部裏面は平坦剥離で入念に整形する。また、左縁辺を急角度の剥離で厚く切り取って側縁を形成するが、尖端部と推測される部分の近くで抉入状を呈する。尖端部の折れ面は左右縁辺の二次加工に先行するものであることから、尖端部付近を構成する二次加工は石器の破損後に行われた再加工と推測される。右側縁の不規則な剥離痕の一部が著しい使用に起因すると推測されることからも、使用-破損-再加工-使用-廃棄に至る過程の長さが伺われる。

484はYLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の側削器である。石核破片のような剥片の左縁辺表面に急角度な剥離を施して刃部を作出する。

485はANで検出されたホルンフェルス製の尖頭器である。両面加工しおそらく木葉形に整形しているが、基部を失っている。

486はYLMで検出されたホルンフェルス製の石刃である。同一方向からの連続剥離過程で生産する。

487はANで検出された黒曜石製の石刃である。肉眼では諏訪星ヶ台産にかなり近い。

488はFBで検出されたホルンフェルス製の石刃である。亜円礫素材の石核から同一方向に連続的に剥離して生産されたもので、末端に丸みをおびた自然面を残す。

489はFBで検出されたガラス質黒色安山岩製の石刃である。斑晶や流理構造が発達して剥離の障害になっているためか、形態的にやや不整形であるが、かなり大型の原石から長軸を意識して剥離するものと推定される。

490はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。左右縁辺に微細剥離痕が観察される。上下両端が折れている。

491はFBで検出された黒曜石製の細石刃である。肉眼では神津島恩馳島産に見える。右縁辺に微細剥離痕が観察され、上下両端が折れている。

492はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。左縁辺に微細剥離痕が観察される。

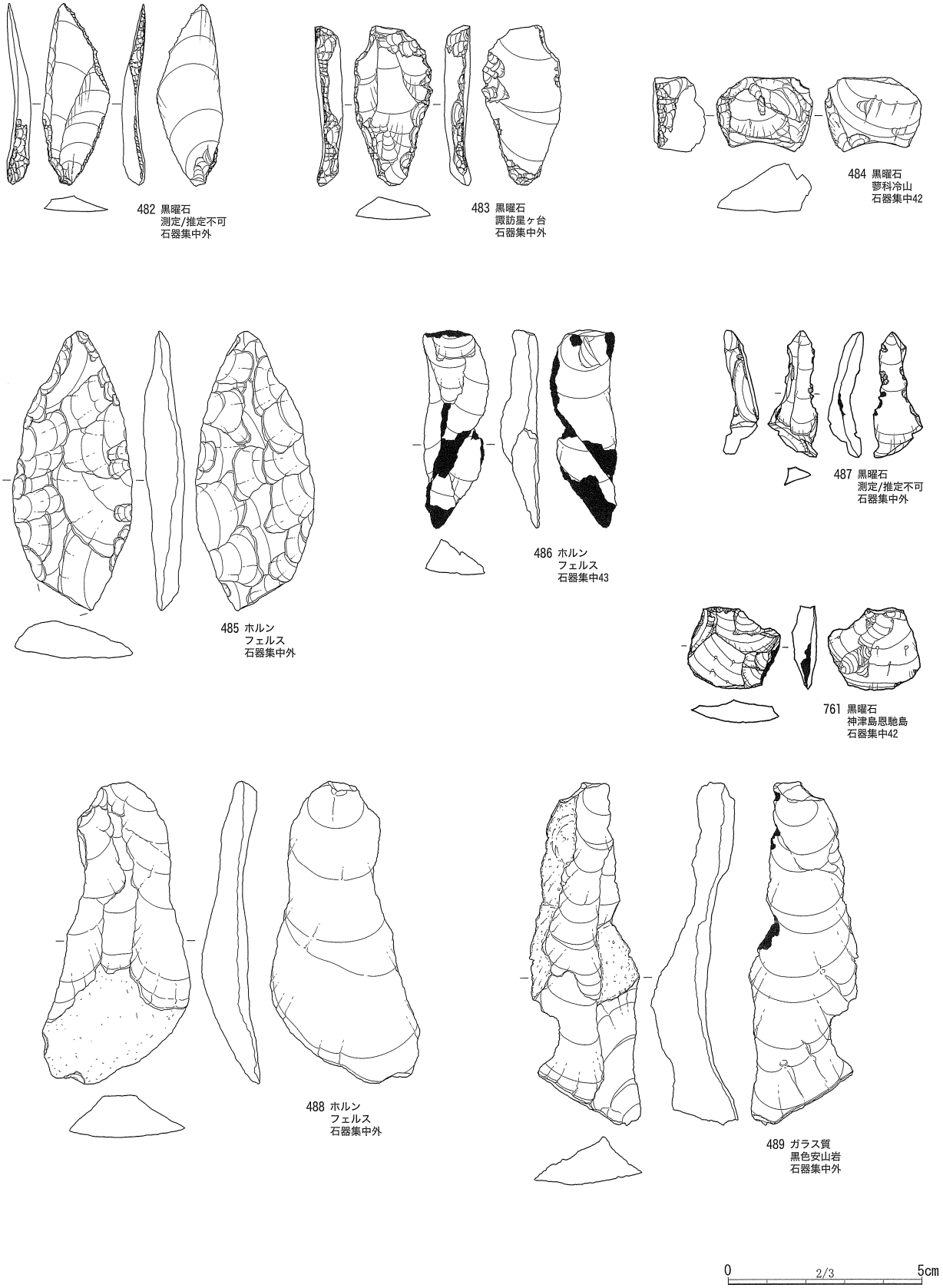
493はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。左縁辺の表裏に微細剥離痕が観察され、また稜上にもみられる。後者は石核調整痕かもしれないが、前者は明らかに二次的である。組織的に生産された細石刃とは異なるタイプの可能性がある。

494はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。右縁辺に微細な折れ面が多数観察される。末端も折れている。

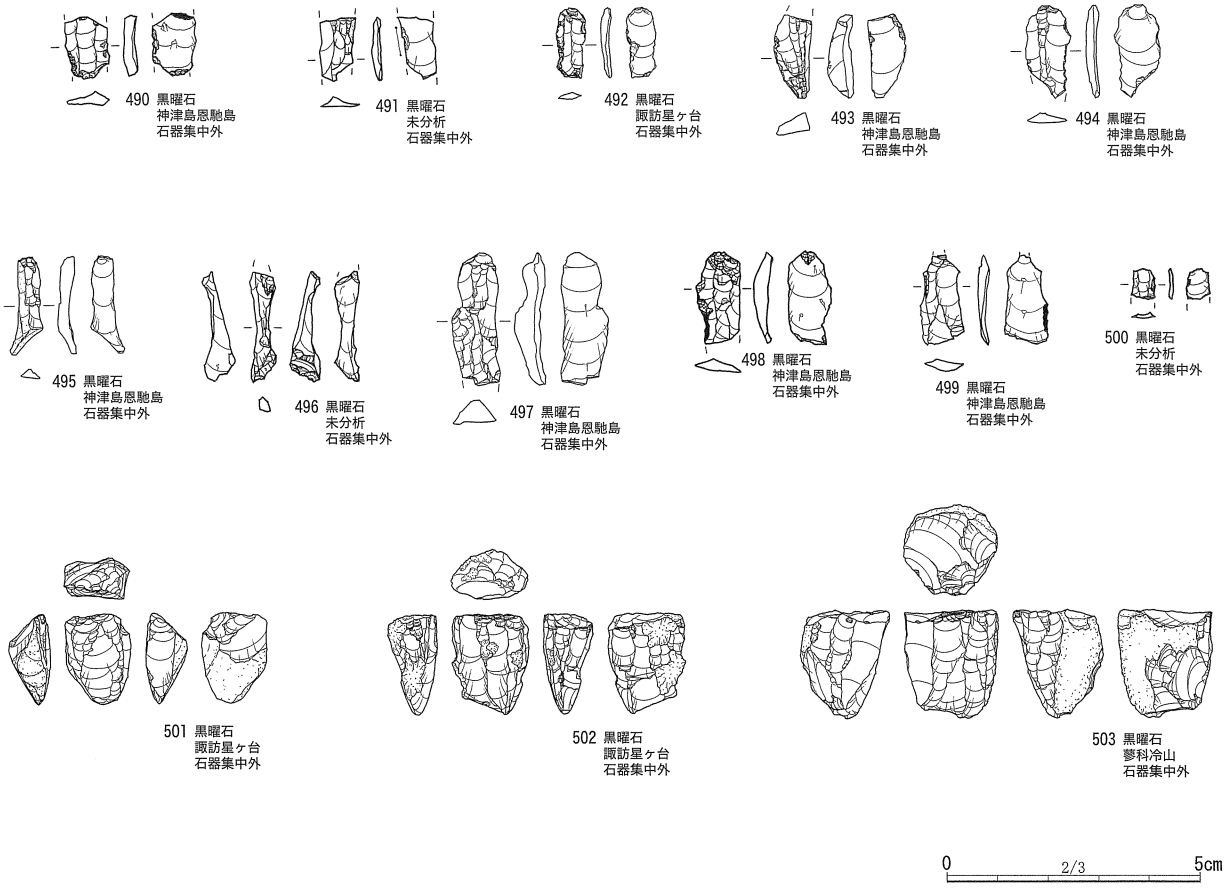
495はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。末端形状と背面構成からみて、細石刃核から剥離する細石刃のうちで早い段階のものと推測される。

496はFBで検出された黒曜石製の細石刃である。肉眼では神津島恩馳島産に見える。左側面図の剥離面は平坦なので細石刃核の側面と思われる。末端の微細剥離痕は細石刃核の底面の調整痕の可能性が高い。

497はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。中央付近に形成されたステップを除去するために厚手に剥離したものと推測されるが、細石刃の剥離を目的とした過程にあったかどうかは不明である。ただし、その黒曜石産地は当地域における一般的な細石刃のそれと同一である。



第224図　第11地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層の石器群（1）



第225図　第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群（2）

498はYLLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の剥片である。末端が折れている。左縁辺には発掘時のものと思われる新鮮な剥離面がある。

499はYLLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の剥片である。左縁辺の表裏に微細剥離痕が観察される。打面部が僅かに折れている。計測値から剥片に分類したが、背面剥離痕の状態から見ると組織的に剥離された細石刃と推測される。

500はANで検出された黒曜石製の砕片である。肉眼では神津島恩馳島産に見える。左縁辺に微細剥離痕が観察される。末端が折れている。背面剥離痕の状態から組織的に剥離された細石刃と推測される。

501はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃核である。一般的な細石刃核で、格別な石核調整痕が認められない。

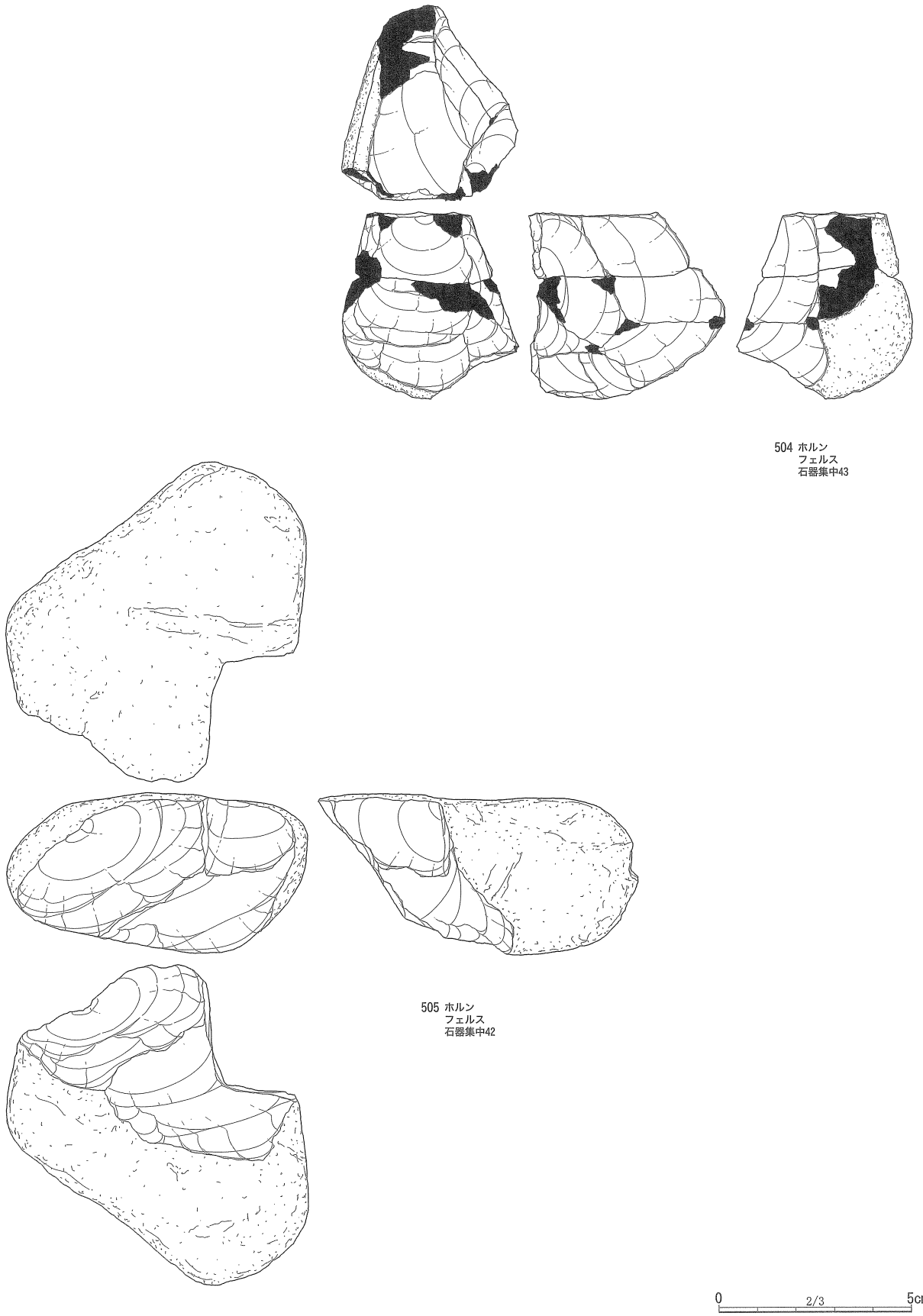
502はANで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石の細石刃核である。微細な調整を施した打面のほぼ全周を押圧し、連続的に細石刃を生産する。野岳・休場型と呼ばれる稜柱形の細石刃核である。

503はANで検出された蓼科冷山産黒曜石の細石刃核である。微細な調整を施した打面の3/4周程度を押圧し、連続的に細石刃を生産する。野岳・休場型と呼ばれる稜柱形の細石刃核である。

504はYLLで検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫の多方面に打面と作業面と展開し、中型から小型の剥片を生産する。節理で大きく割れている。

505はYLで検出されたホルンフェルスの石核である。やや扁平な亜円礫の広い自然面を打面に大型剥片を生産する。

761はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。



第226図　第11地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群（3）

12. 第12地区の石器群（第227-229図、表58）

AE5・6グリッドとその南に延びる谷部を含む範囲である。石器集中44がこの地区に分布する。石器61点で構成され、そのうち43点が石器集中44に入っている。

表58　第12地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成

	黒曜石						硬質細粒凝灰岩	ホルンフェルス	計
	諏訪星ヶ台	和田鷹山	箱根畑宿	神津島恩馳島	測定/推定不可	未分析			
背部加工ナイフ形石器			1						1
尖頭器		1					1		2
削器			1	1					2
二次加工剥片			6		1				7
微細剥離痕剥片			4	1					5
剥片			12		3	10		1	26
細石刃	2								2
砕片			4		1	9			14
楔形石器			1						1
石核			1						1
計	2	1	30	2	5	19	1	1	61

（１）石器集中

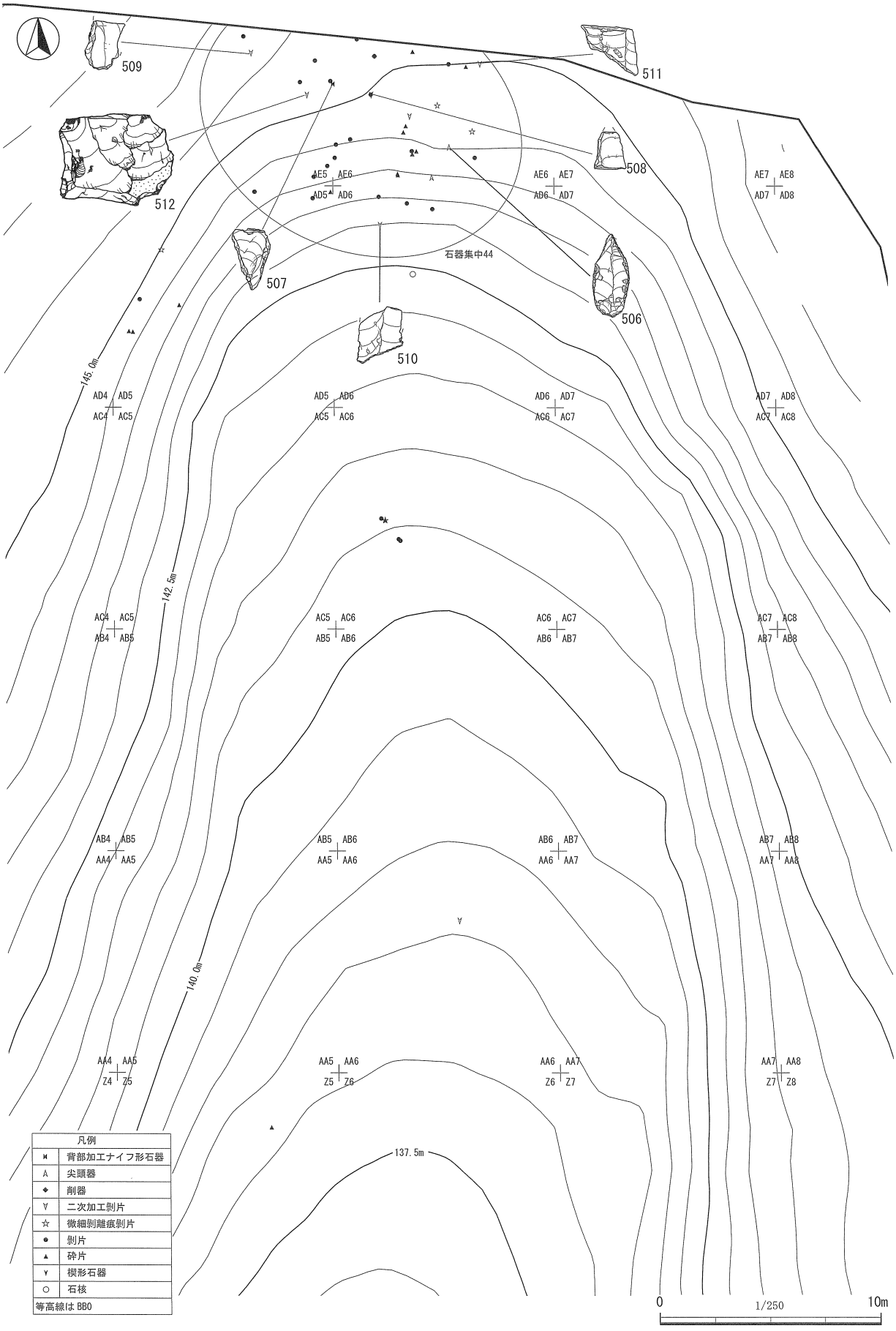
石器集中44（表59）

本地区の北部、AE5/6グリッドを中心に分布する石器群で、43点で構成される。石材は箱根畑宿産黒曜石24点を中心として、ほかに和田鷹山産黒曜石、ホルンフェルス、硬質細粒凝灰岩、をそれぞれ1点含むほか、未分析の黒曜石なども含まれる。未分析なのは、出土層位がFB以上、つまり縄文時代の遺物である可能性が考慮されていたからであるが、あとになって風化の度合いから旧石器時代のものと判断した。

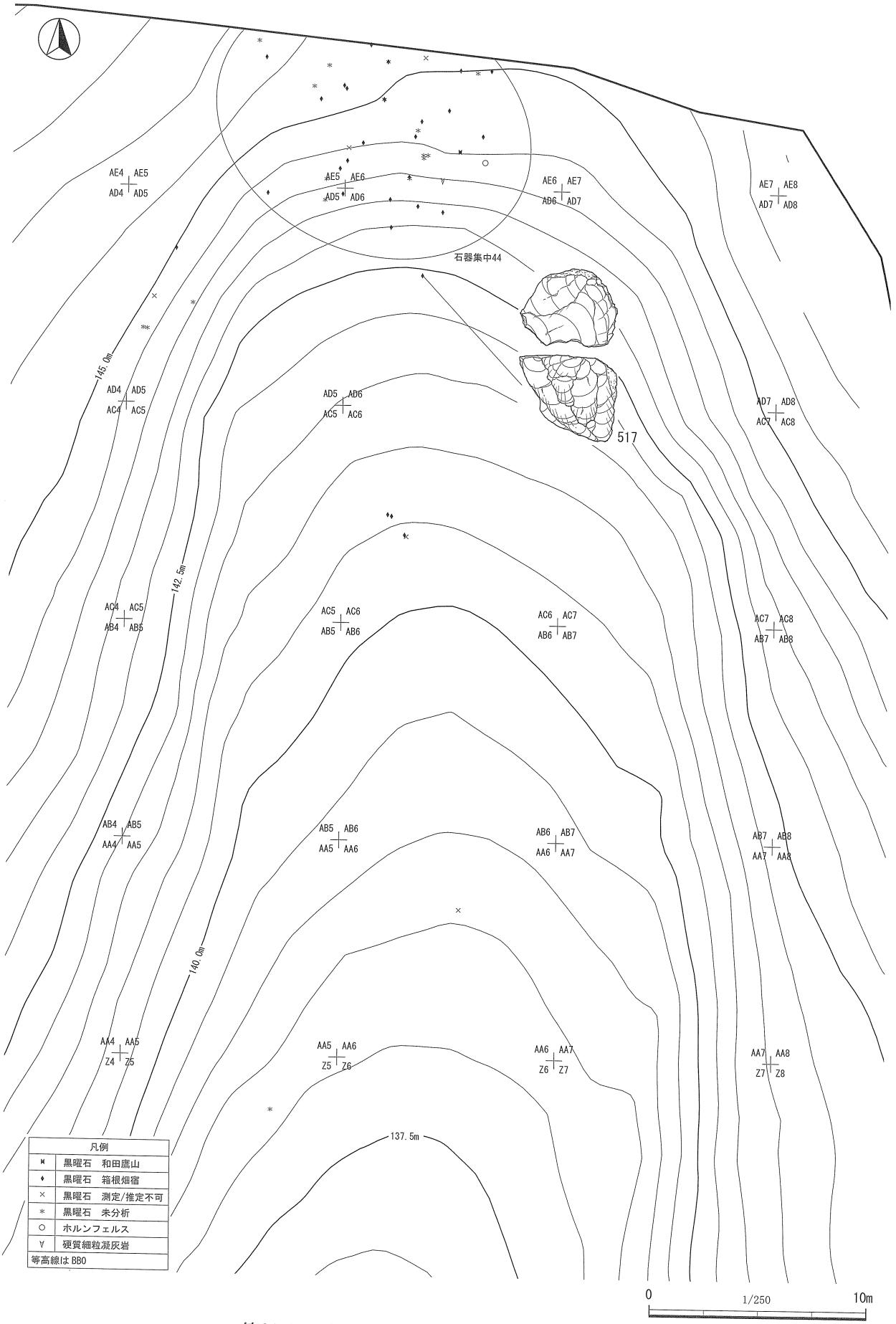
石器集中内の二次加工石器類はナイフ形石器のそれに似た急角度の剥離を施されたものが多く認められたが、破損率が高く具体的な器種までは同定できなかった。他方、第230図515・516のような細石刃も認められ、やはり複数時期の重複があったものと推測された。

表59　第12地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中44　石器組成

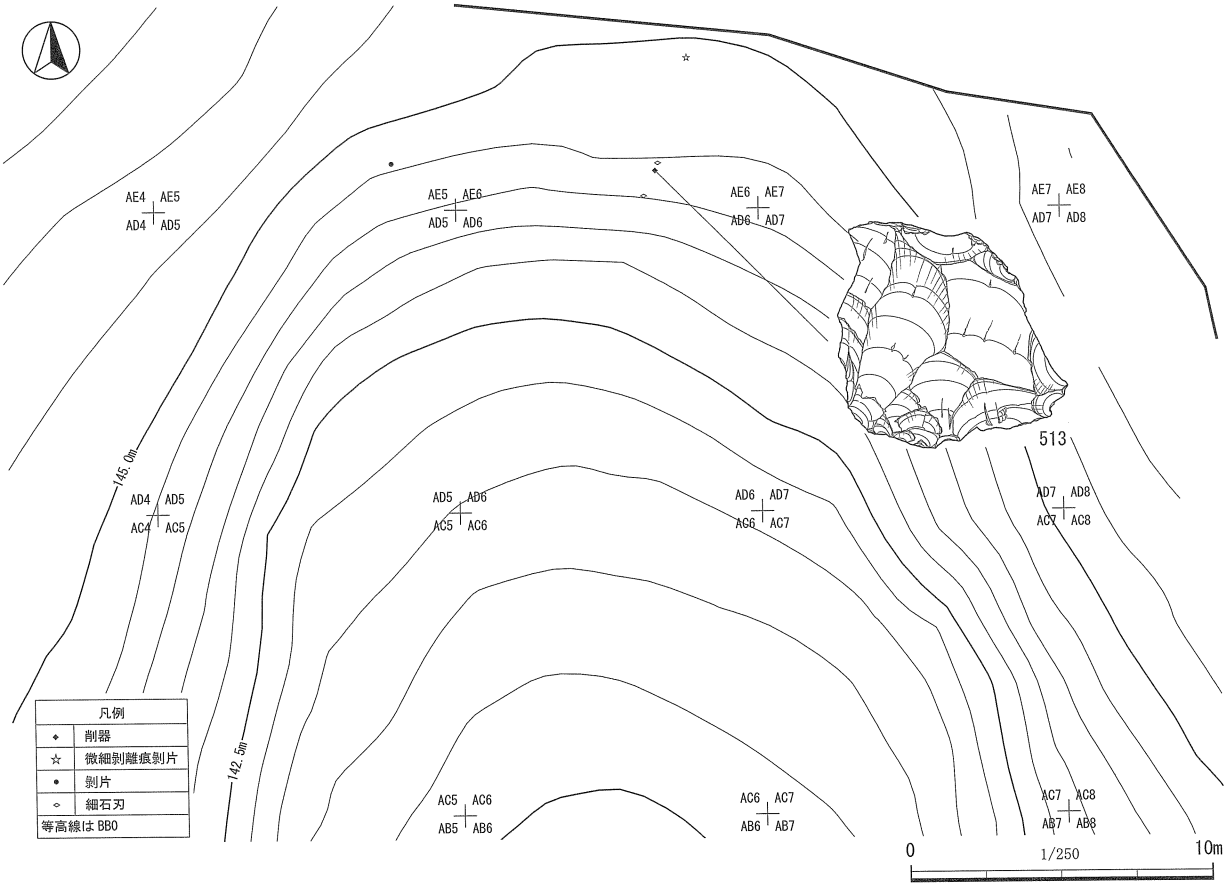
	黒曜石				硬質細粒凝灰岩	ホルンフェルス	計
	和田鷹山	箱根畑宿	測定/推定不可	未分析			
背部加工ナイフ形石器		1					1
尖頭器	1				1		2
削器		1					1
二次加工剥片		6					6
微細剥離痕剥片		2					2
剥片		10	1	9		1	21
砕片		3	1	5			9
楔形石器		1					1
計	1	24	2	14	1	1	43

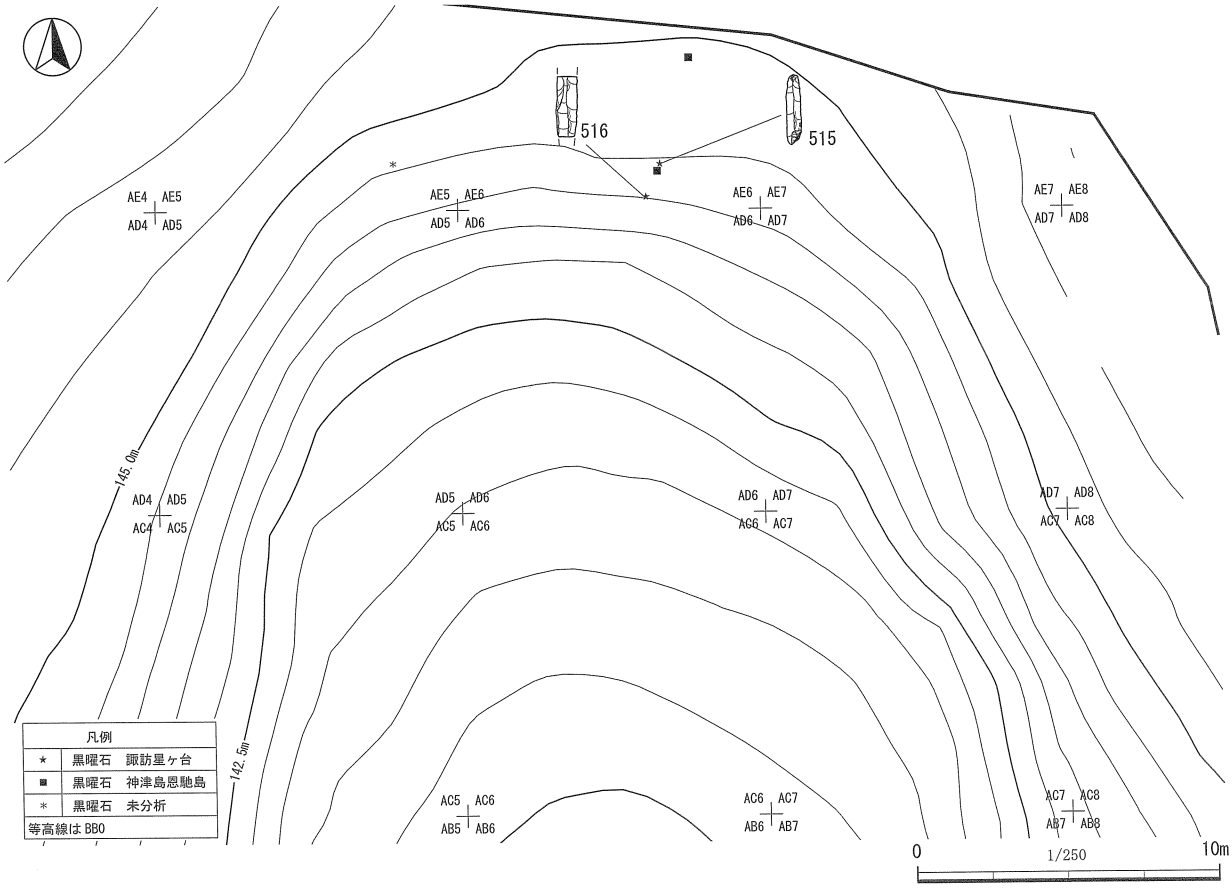


第227図　第12地区　第Ⅷ-Ｘ文化層器種別分布



第228図　第12地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層石材別分布





第229図　第12地区　第Ⅷ-Ｘ文化層細石刃石器群　器種別分布（上）・石材別分布（下）

（２）出土石器の検討（第230図）

506はYLで検出された和田鷹山産黒曜石製の尖頭器である。石刃を縦位に用い、左縁辺の端部側を急角度な剝離で斜めに切り取って側縁ないし尖頭部を作出し、その他の縁辺に平坦で微細な剝離を施して側縁を整形する。尖頭部の左側は折れている。打面を基部に残す。

507はFBで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剝片を縦位に用い、左縁辺を急角度の剝離で切り取って基部を整形し、右縁辺も切り取って側縁を整形する。尖端部が失われているので全体形状は不明である。

508はFBで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剝片である。縦長剝片を縦位に用い、右縁辺に急角度な剝離を施して側縁を整形する。尖頭部及び基部と推測される部位が折れて失われているので形状は不明である。

509はFBで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剝片である。縦長剝片の左縁辺に急角度な二次加工を施す。背部加工ナイフ形石器の一部かもしれない。

510はZNで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剝片である。石刃の端部を急角度な剝離で斜めに切り取る。打面側が折れているので形状は不明である。

511はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剝片である。一般的剝片の左縁辺の端部側を斜めに切り取る。打面側が折れて失われているので形状は不明である。背部加工ナイフ形石器の一部かもしれない。

512はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の二次加工剝片である。幅広剝片の打面が折れ、また右縁辺に二次加工痕が観察される。

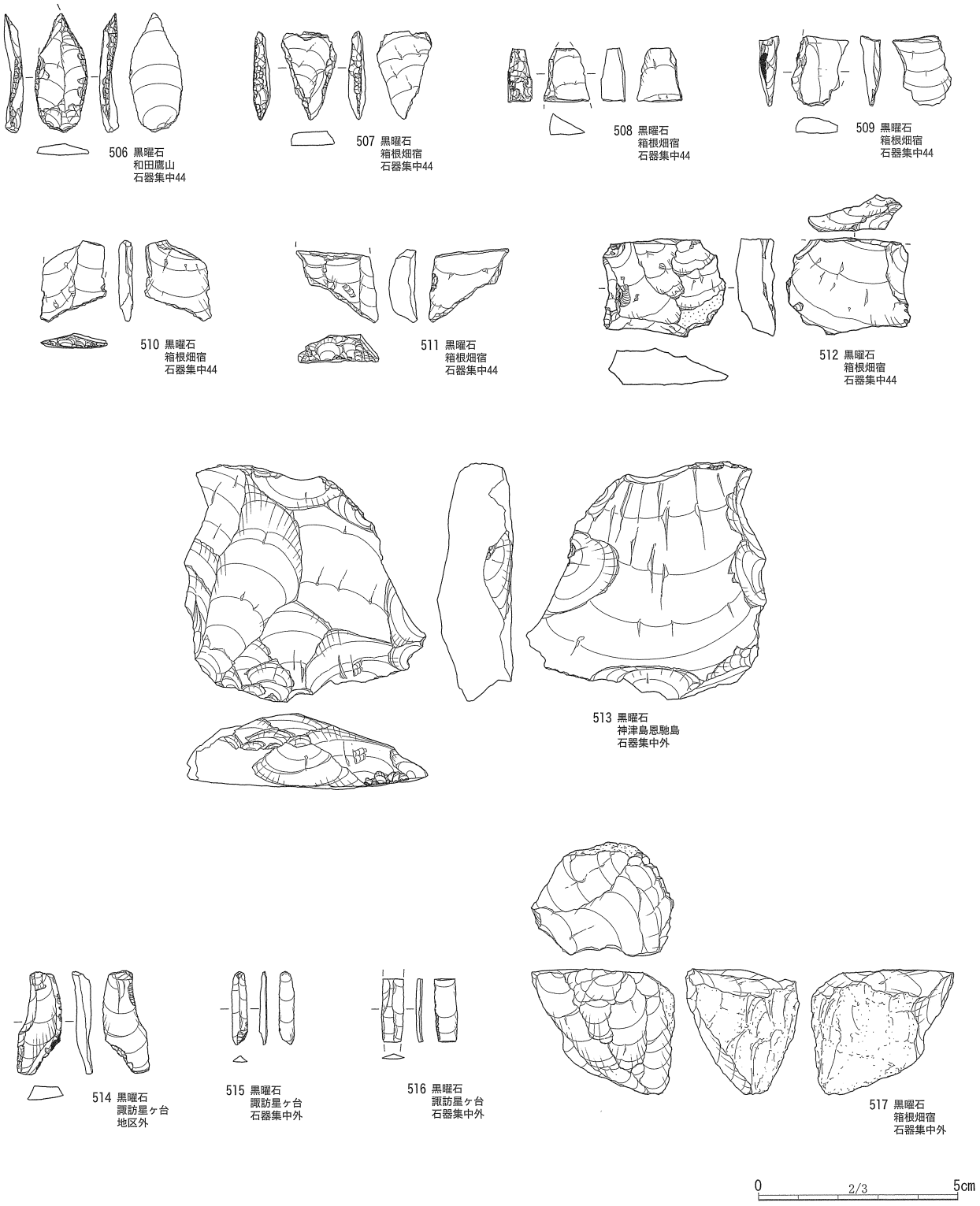
513はZNで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の側削器である。大型剝片の周縁に不規則で大振りな剝離を施して整形し（あるいは石核利用し）ながら、左右縁辺と端部に微細な剝離を施して刃部を作出する。本石器のサイズは、愛鷹南麓における神津島恩馳島産黒曜石としてはかなり大型の部類にはいる。

514はクロで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剝離痕石刃である。第12地区の範囲の外（X4グリッド）で検出されたものだが、本地区の南西の長く延びる谷の中で検出されたため、一連のものである可能性を考慮してここで報告する。小型石刃を素材として両縁辺に微細剝離痕がつく。

515はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。末端に微細剝離痕が観察される。

516はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。右縁辺の府面側に連続的な微細剝離痕が観察される。打面と末端が折れている。

517はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石の石核である。同一の打面を加撃して小型縦長剝片を連続的に生産する。石刃核に近い形態を呈する。



第230図　第12地区　第Ⅷ-Ｘ文化層の石器群

13. 第13地区の石器群（第231・232・236図、表60）

調査区の東側、AG・AH33とその周辺を含む範囲である。層位的に休場層下部に集中する傾向が認められたため第Ⅷ文化層に帰属させた。ただし、神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃や、それに関連しそうな石器群も少量ながら検出されており、明らかに時期が異なるのでこれらのみ第Ｘ文化層として扱った。

表60　第13地区　第Ⅷ・Ｘ文化層　石器組成

	諏訪 星ヶ台	蓼科 冷山	天城 柏峠	黒曜石 箱根 畑宿	神津島 恩馳島	測定/ 推定不可	未分析	流紋岩	ガラス質 黒色安山岩	細粒 安山岩	輝石 安山岩	多孔質 玄武岩
背部加工ナイフ形石器	1	1		1								
切出形石器				1								
尖頭器	2	1										
端削器			1						1			
側削器		1							1			
抉入削器												
二次加工剝片						1			1			
石刃	1											
微細剝離痕剝片	2				1							
剝片	2	2		5	3			2	13	1		
細石刃	2				3		1					
砕片				1	2							
石核									4			1
敲石											1	
磨-敲石											1	
計	10	5	1	8	9	1	1	2	20	1	2	1

	ﾃﾞｲｻｲﾄ	火山礫 凝灰岩	チャート	珪質 頁岩	白滝 頁岩	中粒 砂岩	ホルン フェルス	計
背部加工ナイフ形石器				2				5
切出形石器								1
尖頭器								3
端削器								2
側削器								2
抉入削器			1					1
二次加工剝片								2
石刃								1
微細剝離痕剝片								3
剝片	2		1	1	1	1	48	82
細石刃								6
砕片							3	6
石核		1					3	9
敲石								1
磨-敲石								1
計	2	1	2	3	1	1	54	125

（１）石器集中

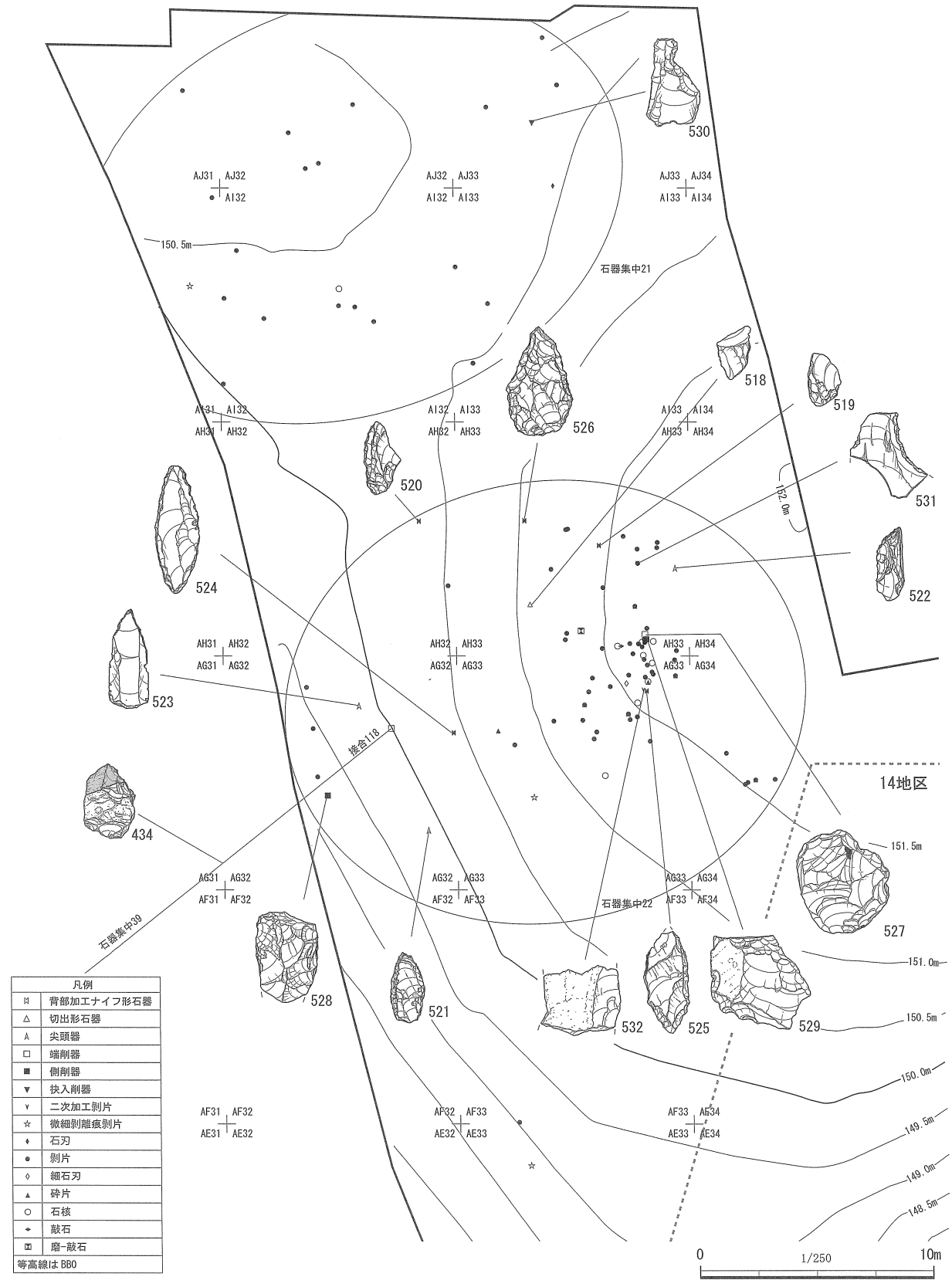
石器集中21（表61）

AI・AJ32グリッドを中心に分布する石器群である。石器25点で構成され、第1石材はホルンフェルスで14点組成する。ほかに神津島恩馳島産黒曜石3点、ガラス質黒色安山岩3点などが組成する。

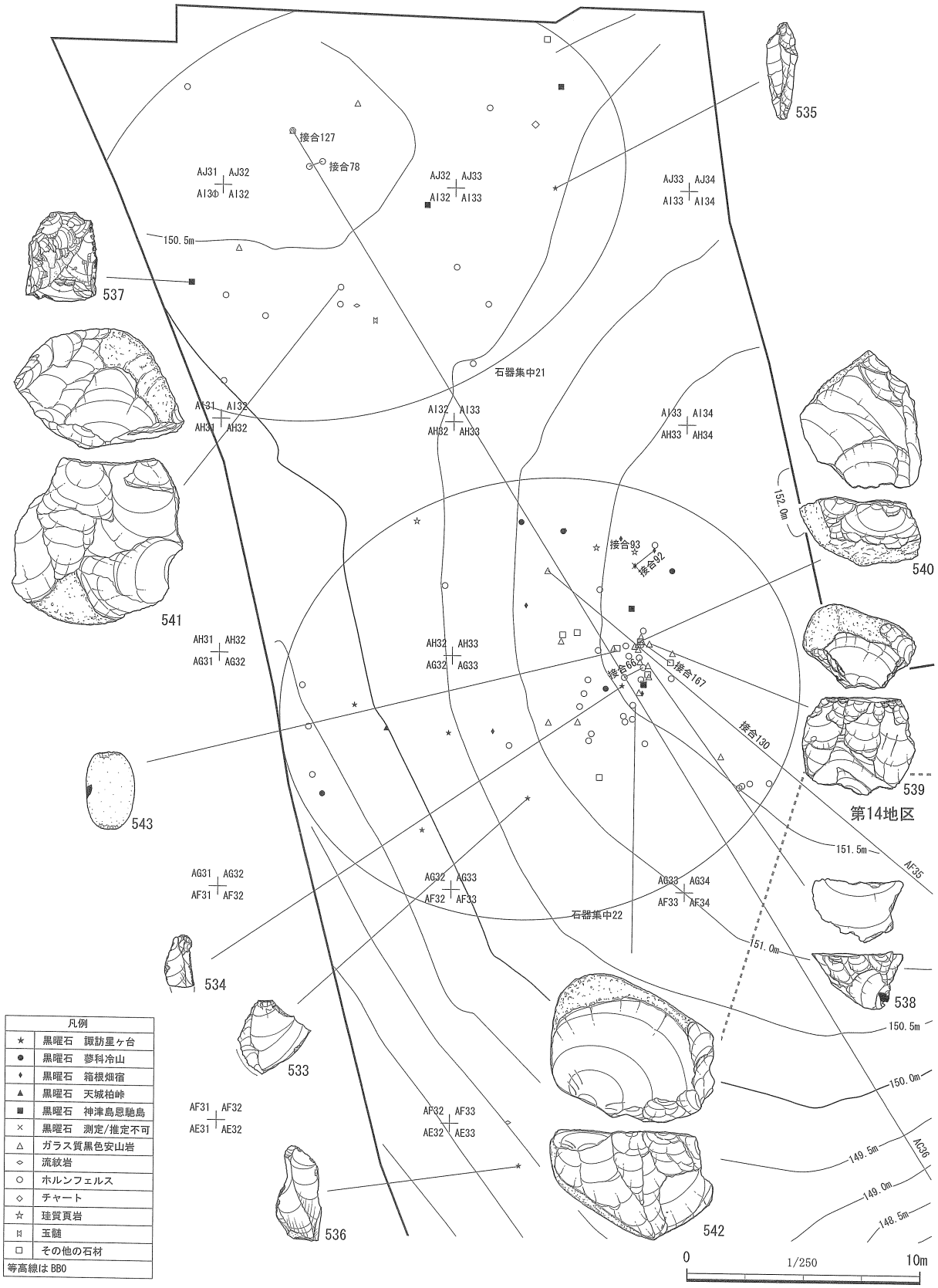
二次加工石器類は赤色のチャート製抉入削器以外に認められないが、小石刃を連続剝離したことを示す諏訪星ヶ台産黒曜石製石刃（第233図535）が組成する。石刃石器群は隣の石器集中22にも組成しており（同図523・524・534）、両集中部の関係を示唆している。他方、この集中部と重なるようにして細石刃石器群が検出されている（第236図）。

石器集中22（表62）

AG・AH33グリッドを中心に分布する石器群である。石器94点で構成され、ホルンフェルス43点を第1石材、ガラス質黒色安山岩17点を第2石材とし、箱根畑宿産黒曜石8点、諏訪星ヶ台産黒曜石5点、蓼科冷山産黒曜石5点、神津島恩馳島産黒曜石3点などを組成する。



第231図　第13地区　第Ⅷ文化層　器種別分布



凡例	
★	黒曜石　諏訪星ヶ台
●	黒曜石　蓼科冷山
♦	黒曜石　箱根畑宿
▲	黒曜石　天城柏峠
■	黒曜石　神津島恩馳島
×	黒曜石　測定/推定不可
△	ガラス質黒色安山岩
◇	流紋岩
○	ホルンフェルス
◇	チャート
☆	珪質頁岩
⊠	玉髄
□	その他の石材
等高線は BB0	

第232図　第13地区　第Ⅷ文化層　石材別分布

表61　第13地区　第Ⅷ文化層　石器集中21　石器組成

	黒曜石		流紋岩	ガラス質黒色安山岩	チャート	白滝頁岩	ホルンフェルス	計
	神津島恩馳島	諏訪星ヶ台						
抉入削器					1			1
石刃		1						1
微細剥離痕剥片	1							1
剥片	2		1	3	1	1	13	21
石核							1	1
計	3	1	1	3	2	1	14	25

表62　第13地区　第Ⅷ文化層　石器集中22　石器組成

	黒曜石						ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	箱根畑宿	天城柏峠	神津島恩馳島	測定/推定不可		
背部加工ナイフ形石器	1	1	1					
切出形石器			1					
尖頭器	2	1						
端削器				1			1	
側削器		1					1	
二次加工剥片						1	1	
微細剥離痕剥片	1							
剥片		2	5		1		10	1
細石刃	1							
砕片			1		2			
石核							4	
敲石								
磨-敲石								
計	5	5	8	1	3	1	17	1

	輝石安山岩	多孔質玄武岩	デイサイト	火山礫凝灰岩	珪質頁岩	中粒砂岩	ホルンフェルス	計
背部加工ナイフ形石器					2			5
切出形石器								1
尖頭器								3
端削器								2
側削器								2
二次加工剥片								2
微細剥離痕剥片								1
剥片			2		1	1	35	58
細石刃								1
砕片							6	9
石核		1		1			2	8
敲石	1							1
磨-敲石	1							1
計	2	1	2	1	3	1	43	94

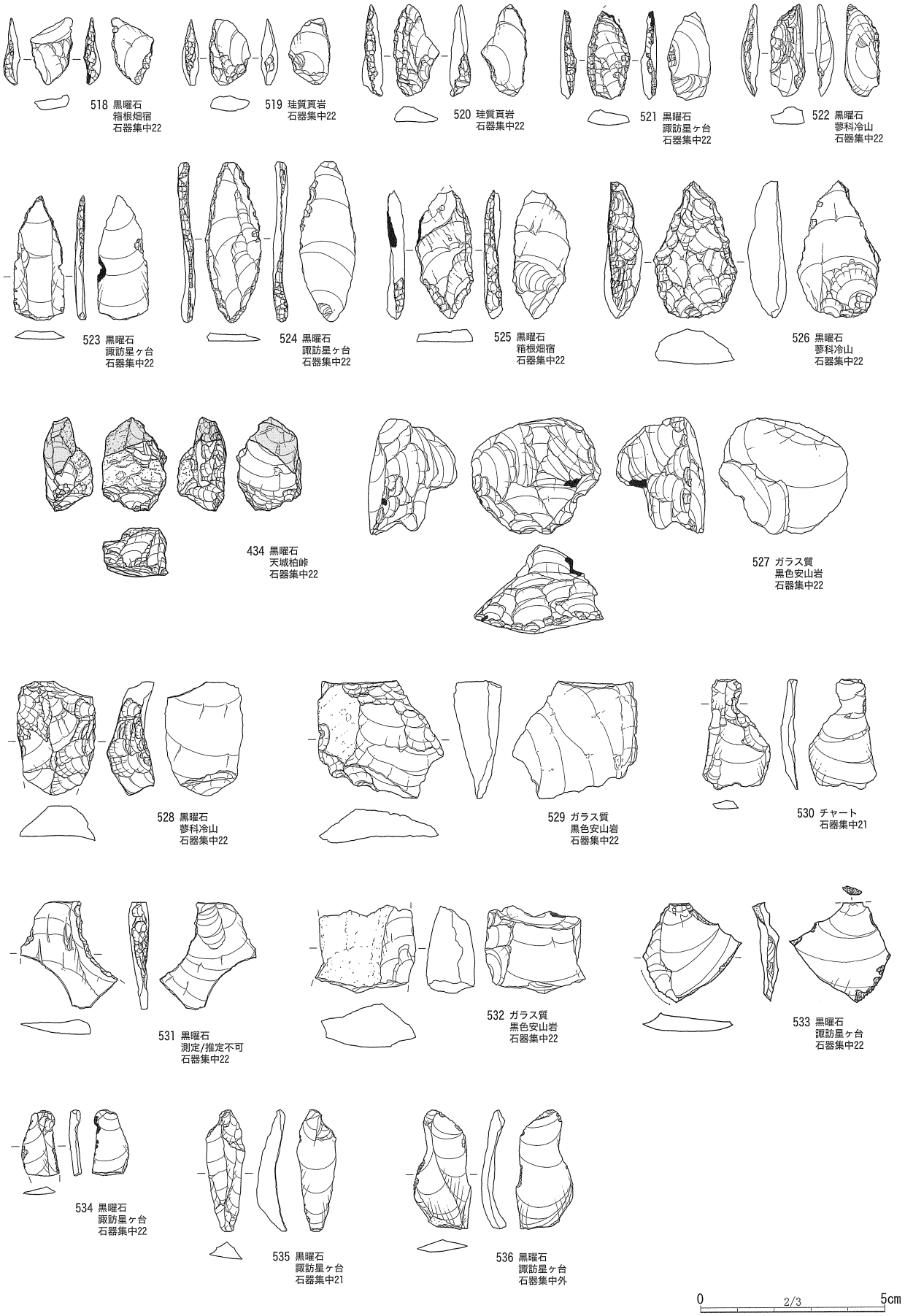
（２）出土石器の検討（第233-235・237図）

518はFBで検出された箱根畑宿産黒曜石製の切出形石器である。一般的剥片を斜位に用い、打面を切り取って基部となし、末端を急角度の剥離で斜めに切り取って弧状を呈する側縁を整形する。斜刃を残す。

519はYLで検出された珪質頁岩製の背部加工ナイフ形石器である。一般的な小型剥片を縦位に用い、左縁辺の打面に接する部位を裏面加工して基部を整形し、右縁辺の打面付近から端部にかけて急角度な剥離を施し、側縁を整形し、あわせて尖頭部を作出する。

520はKUで検出された珪質頁岩製の背部加工ナイフ形石器である。一般的剥片を横位に用い、打面を抉入状に切り取って基部となし、末端全体を切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。

521はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。一般的剥片を横位に用い、周辺のほぼ全体に平坦に近い剥離を施して左右対称形にするとともに尖頭部を作出する。



第233図　第13地区　第Ⅷ文化層の石器群（1）

522はYLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の尖頭器である。石核か大型の二次加工石器の調整剥片と推測される小型横長剥片を素材として、腹面側から打面を除去するようにして類鱗状の二次加工を施す。

523はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の尖頭器である。薄手の石刃を逆位に用い、打面とその付近の右縁辺を急角度の剥離で切り取り、また、この切り取り部に接する部位に微細な剥離を施して尖頭部を作出する。微細な剥離は鋭い縁辺を刃部とする背部加工ナイフ形石器の刃部に残る使用痕の可能性もある。

524はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、打面とこの付近の左縁辺を急角度の剥離で切り取って基部を整形し、また、右縁辺全体を基部から尖端部まで切り取って側縁を整形して、おそらくは尖頭部を作出する。残された鋭い縁辺には大小さまざまで不規則に並ぶ剥離痕が著しく、尖頭部には再加工痕と推測される二次加工痕が認められる。

525はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺の打面に接する部位を急角度な剥離で切り取って基部を整形し、左縁辺を打面部から末端部まで切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。

526はFBで検出された蓼科冷山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剥片を縦位に用い、打面とその付近の左右縁辺に平坦な剥離を施して基部を整形し、右縁辺の端部側を斜めに切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。裏面バルブ部は平坦な剥離で薄手に調整する。

434はBBOで検出された天城柏峠産黒曜石製の端削器である。

527はBBOで検出されたガラス質黒色安山岩製の端削器である。分厚い剥片の腹面を打面とし、背面の3/4周に刃部を作出する。

528はYLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の側削器である。厚手の縦長剥片の両側縁に平坦な剥離を施して刃部を作出する。

529はBBOで検出されたガラス質黒色安山岩製の側削器である。剥片の右縁辺に刃部を作出する。

530はYLで検出されたチャート製（赤色）の抉入削器である。一般的剥片の右縁辺の打面付近に抉入状の二次加工を施して刃部を作出する。

531はYLで検出された黒曜石製の二次加工剥片である。黒曜石の産地分析の結果は風化により測定不可となったが、斑晶が入り、灰色と暗黄色とが霜降り状に混交し、不透明を呈する特徴は箱根畑宿産黒曜石と同等である。一般的剥片の右縁辺の打面付近に急角度な剥離を施して内湾させる。端部は殆ど折れているので形状が推測できない。

532はBBOで検出されたガラス質黒色安山岩製の二次加工剥片である。背面に自然面の付く一般的剥片の打面部と右縁辺裏面に二次加工を施す。

533はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。幅広剥片の左右縁辺に微細剥離痕が観察される。

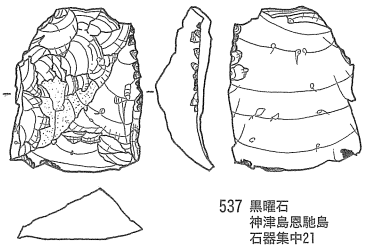
534はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。微細な打面調整痕が認められ、石刃核から剥離されたものと推定される。左右縁辺に微細剥離痕が観察される。

535はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の石刃である。石刃の連続剥離過程中に生産する。打面がたいへん小型である。

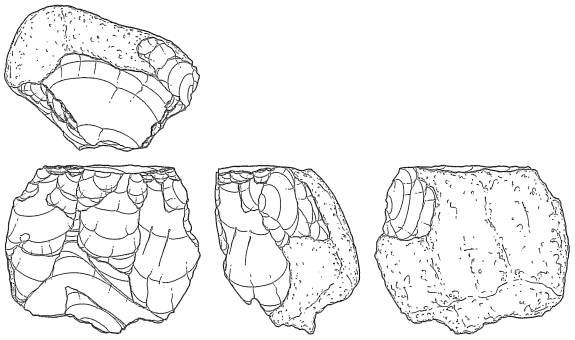
536はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。石刃生産中に得られた縦長剥片の左右縁辺に微細剥離痕が観察される。

537はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の微細剥離痕剥片である。一般的剥片の右縁辺に微細剥離痕が観察される。

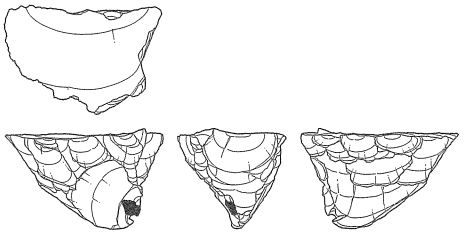
538はBBOで検出されたガラス質黒色安山岩の石核である。同一の打面から石核の周縁全体を作業面と



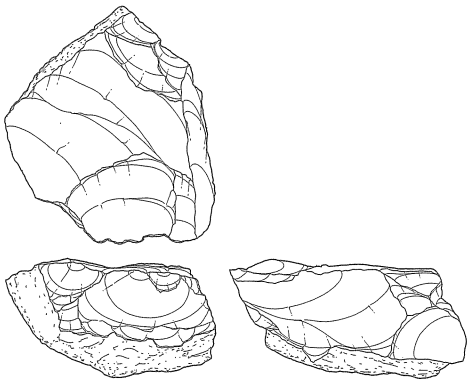
537 黒曜石
神津島恩馳島
石器集中21



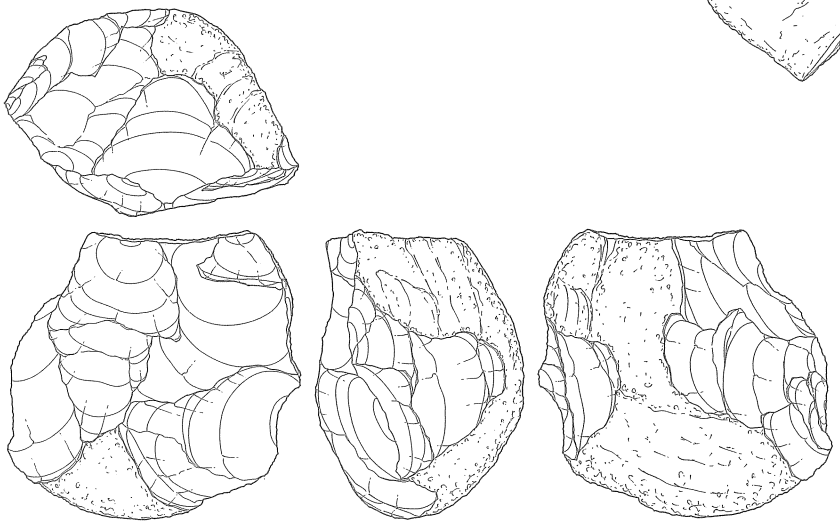
539 ガラス質
黒色安山岩
石器集中22



538 ガラス質
黒色安山岩
石器集中22



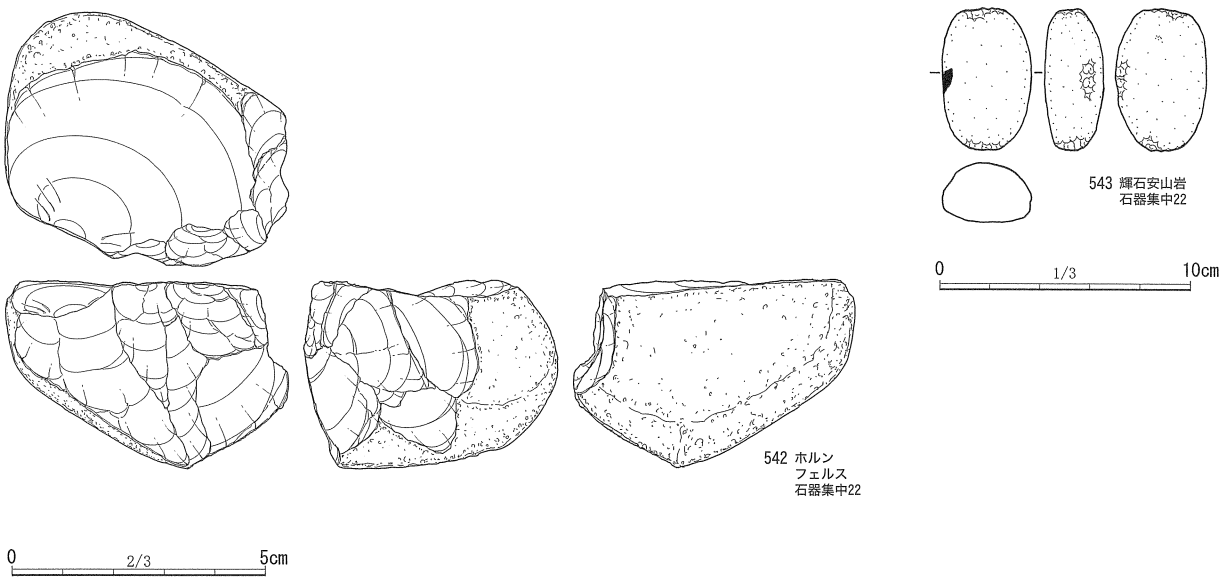
540 ガラス質
黒色安山岩
石器集中22



541 ホルン
フェルス
石器集中21

0　2/3　5cm

第234図　第13地区　第Ⅷ文化層の石器群（2）



第235図　第13地区　第Ⅷ文化層の石器群（3）

して小型剝片を剝離し、結果として船底形を呈する石核を残す。

539はYLで検出されたガラス質黒色安山岩の石核である。亜円礫の自然面を残す石核の上下に主要な打面を設定し、小型縦長剝片を剝離する。

540はYLで検出されたガラス質黒色安山岩の石核である。亜円礫の自然面を残す石核を交互剝離し、小型剝片を生産する。

541はYLで検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫の2面を半求心方向に交互剝離して縦長剝片を含む中型から小型の剝片を生産する。

542はYLで検出されたホルンフェルスの石核である。亜円礫を交互剝離して小型から中型の剝片を生産する。

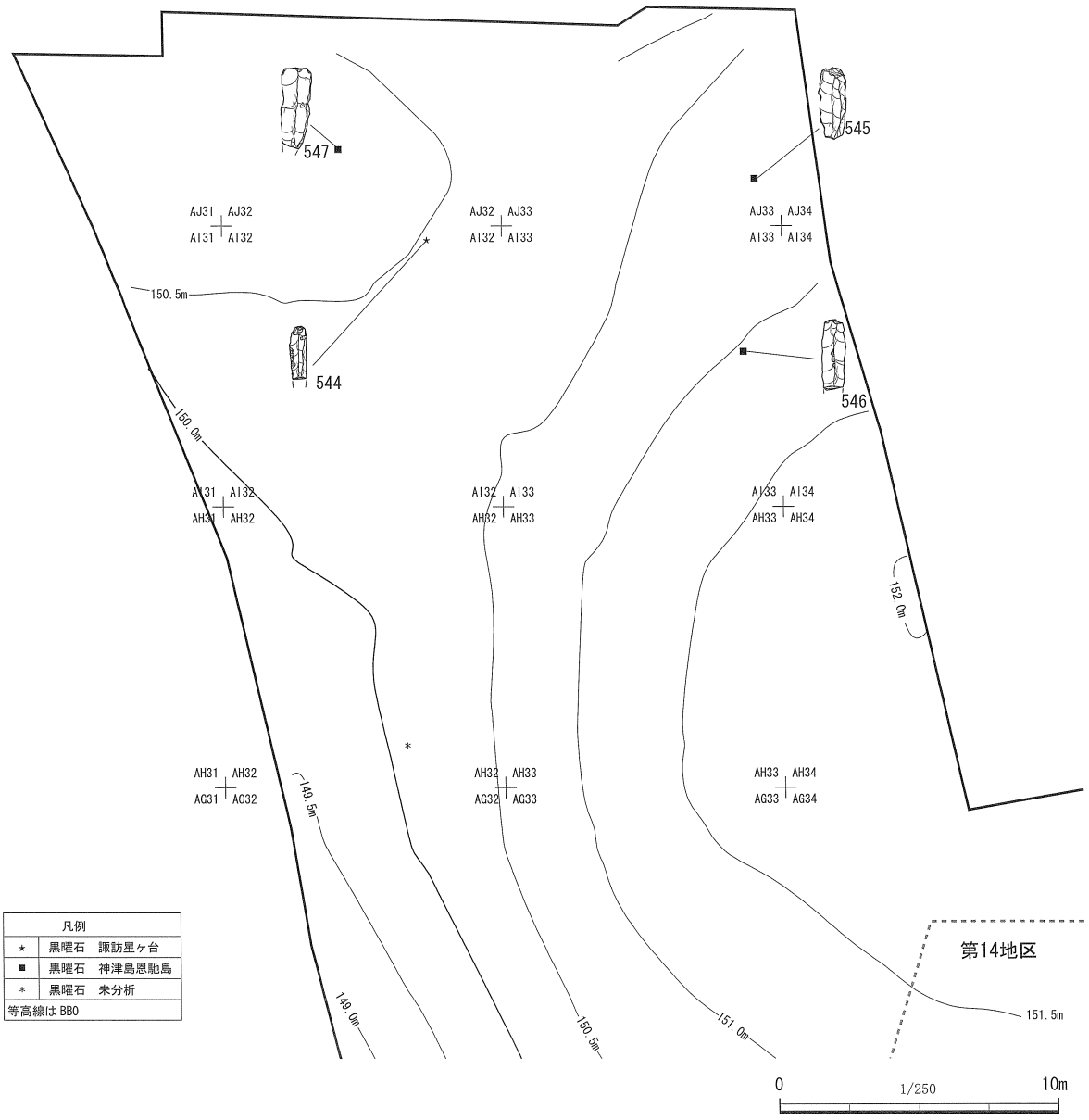
543はYLで検出された輝石安山岩製の敲石である。長軸両端部と側面の一部に敲打痕がついている。

544はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。左縁辺に連続的な微細剝離痕が観察される。末端が折れている。

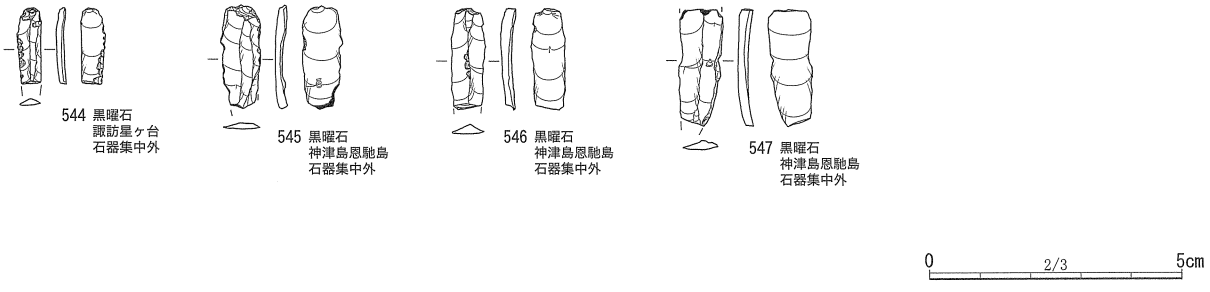
545はFBで神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。左縁辺に微細剝離痕が連続する。末端は発掘時に欠損した。

546はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剝離痕は観察されない。末端が折れている。

547はKUで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剝離痕は観察されない。打面と末端が折れている。



第236図　第13地区　第Ｘ文化層　細石刃石器群の分布



第237図　第13地区　第Ｘ文化層の石器群

14. 第14地区の石器群（第238-241図、表63・64）

調査区西部AC-AF35-37グリッドなどの谷部内の範囲で、石器集中26-29を含む。谷部の堆積は周囲からの流れ込みにより尾根部よりも厚く堆積しているが、流動的な堆積過程の影響を受けてか遺物も上下動しているようで、多時期の石器群が混在して出土した。

礫群は休場層中部を中心とするものが2基（30号、34号）検出され、これを第Ⅸ文化層とし、同上部を中心とするもの5基（31号、32号、33号、35号、46号）を第Ⅹ文化層とした。石器群もこれに準ずるものと推測しているが、上記のように混在しているので個別の位置付けは困難である。

分布図については、扱う範囲が広く、また石器数が多いので適宜分けて提示した。まず谷頭を含む北部に広がる石器集中26-28と石器集中29で分け、前者についてはさらにホルンフェルス製石器群（第240図）と神津島恩馳島産黒曜石製を中心とする細石刃石器群（第241図）を抽出して別図とした。

（１）石器集中

石器集中26（表65）

谷頭部にあたるAF35・36グリッドの休場層中部から上部を中心に分布し、石器54点で構成される。石材構成はホルンフェルス45点を第1石材として、ほかに諏訪星ヶ台産黒曜石3点、蓼科冷山産黒曜石3点などが組成する。

全体として石刃石器群の色彩が強い。ホルンフェルスは石刃核1点と石刃2点（591,592）を含み、また諏訪星ヶ台産黒曜石は厚手石刃の背部を弧状に加工し、基部を丸みのある凸状に整形する特徴的なナイフ形石器2点（555,556）を組成する。このナイフ形石器2点の技術形態的特徴は隣の石器集中27に組成する557と554にも共通し、同群であろう。ほかにガラス質黒色安山岩製の端削器（569）や切出形石器（558,565）が組成する。

石器集中27（表66）

石器集中27の南、AD・AE35・36グリッドの休場層中部から上部に分布し、石器146点で構成される。ホルンフェルス72点を第1石材として、これにガラス質黒色安山岩25点や諏訪星ヶ台産黒曜石17点などが続く。

ホルンフェルスは大型の両面加工尖頭器以外はほとんどが剝片で石刃が1点しか組成しない。この点は北に接する石器集中26と南に接する石器集中28と相違する特徴である。また、諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃（ないし小石刃）や削片、片刃礫器、さらに石器集中からは除外しているが神津島恩馳島産黒曜石製を主体とする細石刃石器群（野岳・休場型細石刃核を含む）を分布するなど異質な要素が多い。しかしナイフ形石器群（553,561,552,551,563）との層位的な上下関係は認められず、混在を解消するのは難しい。

石器集中28（表67）

石器集中27の南、AC35グリッドの休場層上部を中心に分布し、石器138点で構成される。ホルンフェルス60点を第1石材とし、ガラス質黒色安山岩42点、石英13点などが続く。

ホルンフェルスは大型石刃の組成からもわかるように石刃石器群の色彩が強く、石刃5点、稜付石刃1点を組成する。ただし石刃核はない。搬入原石をこの場所で消費しつくしていることを示す接合資料（接合64）が確認された。

ガラス質黒色安山岩も大型の石核が持ち込まれたとみられ、剝片類も大型のものが多い。

諏訪星ヶ台産黒曜石は4点と少ないが、うち2点がナイフ形石器、細石刃1点、楔形石器1点とすべてトゥールである。

表63　第14地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成（1）

	黒曜石																							
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	和田鷹山	箱根畑宿	天城柏峠	神津島恩馳島	測定/推定不可	未分析	流紋岩	ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	輝石安山岩	ガラス質デイサイト	瑪瑙	黄玉石	石英	チャート	珪質頁岩	硬質頁岩	珪質粘板岩	珪質シルト岩	細粒砂岩	ホルンフェルス	計
基部加工ナイフ形石器	2			1																				3
背部加工ナイフ形石器	7		1	1															1				2	12
切出形石器	1	1		2																				4
尖頭器										1							1						1	3
端削器		1								1													1	3
側削器										5								1					1	7
彫器	1																							1
石錐	1																							1
二次加工剝片	1	1																1						3
稜付石刃	1																						1	2
石刃	3									1													8	12
微細剝離痕剝片	2	1	1			1				2													3	10
剝片		1				5	1	1	7	53	6	2	1			11		2		1	1		135	227
細石刃核打面再生剝片																		1						1
細石刃	2					5		1																8
砕片	1	2	1			3	1			2	2			1		4						1	19	37
削片	1																							1
楔形石器	1																							1
石刃核																							1	1
石核					1					4	1				1								4	11
細石刃核	1					1																		2
計	25	7	3	4	1	15	2	2	7	69	9	2	1	1	1	15	1	5	1	1	1	1	176	350

表64　第14地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成（2）

	多孔質安山岩	輝石安山岩	多孔質玄武岩	計
片刃礫器		2		2
磨-敲石	1	2		3
敲石		1	2	3
計	1	5	2	8

表65　第14地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器集中26　石器組成

	諏訪 星ヶ台	黒曜石 蓼科冷山	箱根畑宿	ガラス質 黒色安山岩	多孔質 安山岩	ホルン フェルス	計
背部加工ナイフ形石器	2					1	3
切出形石器		1	1				2
端削器				1			1
石刃	1					2	3
剝片						31	31
砕片		2				8	10
石刃核						1	1
石核						2	2
磨-敲石					1		1
計	3	3	1	1	1	45	54

表66　第14地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器集中27　石器組成

	諏訪 星ヶ台	蓼科 冷山	黒曜石 和田 鷹山	箱根 畑宿	未分析	流紋岩	ガラス質 黒色安山岩	細粒 安山岩	輝石 安山岩	多孔質 玄武岩
基部加工ナイフ形石器	2									
背部加工ナイフ形石器	3		1	1						
切出形石器	1									
尖頭器							1			
端削器		1								
側削器							5			
彫器	1									
石錐	1									
二次加工剝片	1	1								
稜付石刃	1									
石刃	2						1			
微細剝離痕剝片	2	1	1				1			
剝片		1				5	17	3	2	
細石刃	1				1					
砕片	1		1							
削片	1									
石核										
片刃礫器									2	
敲石									1	2
磨-敲石									1	
計	17	4	3	1	1	5	25	3	6	2

	ガラス質 デイサイト	黄玉石	石英	チャート	珪質 粘板岩	硬質 頁岩	ホルン フェルス	計
基部加工ナイフ形石器								2
背部加工ナイフ形石器						1	1	7
切出形石器								1
尖頭器				1			1	3
端削器							1	2
側削器								5
彫器								1
石錐								1
二次加工剝片								2
稜付石刃								1
石刃							1	4
微細剝離痕剝片								5
剝片	1		2		1		66	98
細石刃								2
砕片								2
削片								1
石核		1					2	3
片刃礫器								2
敲石								3
磨-敲石								1
計	1	1	2	1	1	1	72	146

表67　第14地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器集中28　石器組成

	諏訪星ヶ台	黒曜石 箱根畑宿	天城柏峠	流紋岩	ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	輝石安山岩	瑪瑙	石英	珪質頁岩	珪質シルト岩	細粒砂岩	ホルンフェルス	計
基部加工ナイフ形石器		1												1
背部加工ナイフ形石器	2													2
切出形石器		1												1
側削器										1			1	2
二次加工剝片										1				1
微細剝離痕剝片					1								3	4
稜付石刃													1	1
石刃													5	5
剝片				2	36	3			9	2	1		38	91
細石刃	1													1
砕片					2	2		1	4			1	11	21
楔形石器	1													1
石核			1		3	1							1	6
磨-敲石							1							1
計	4	2	1	2	42	6	1	1	13	4	1	1	60	138

細石刃石器群（第241・256図、表68）

AD・AE35グリッドの休場層中部から上部を中心に分布し、石器19点で構成される。神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃と細石刃核が比較的まとまっていたことから、同産地の石材を一括して抽出した。また、これらに関連が深いと推測される珪質頁岩製細石刃核打面再生剝片も加えた。なお、諏訪星ヶ台産「細石刃」については石刃石器群の副産物の可能性が高いので除外した。

表68　第14地区　細石刃石器群　石器組成

	諏訪星ヶ台	黒曜石 神津島恩馳島	測定/推定不可	珪質頁岩	計
微細剝離痕剝片		1			1
剝片		5	1		6
細石刃核打面再生剝片				1	1
細石刃		5			5
砕片		3	1		4
細石刃核	1	1			2
計	1	15	2	1	19

（２）出土石器の検討（第242-256図）

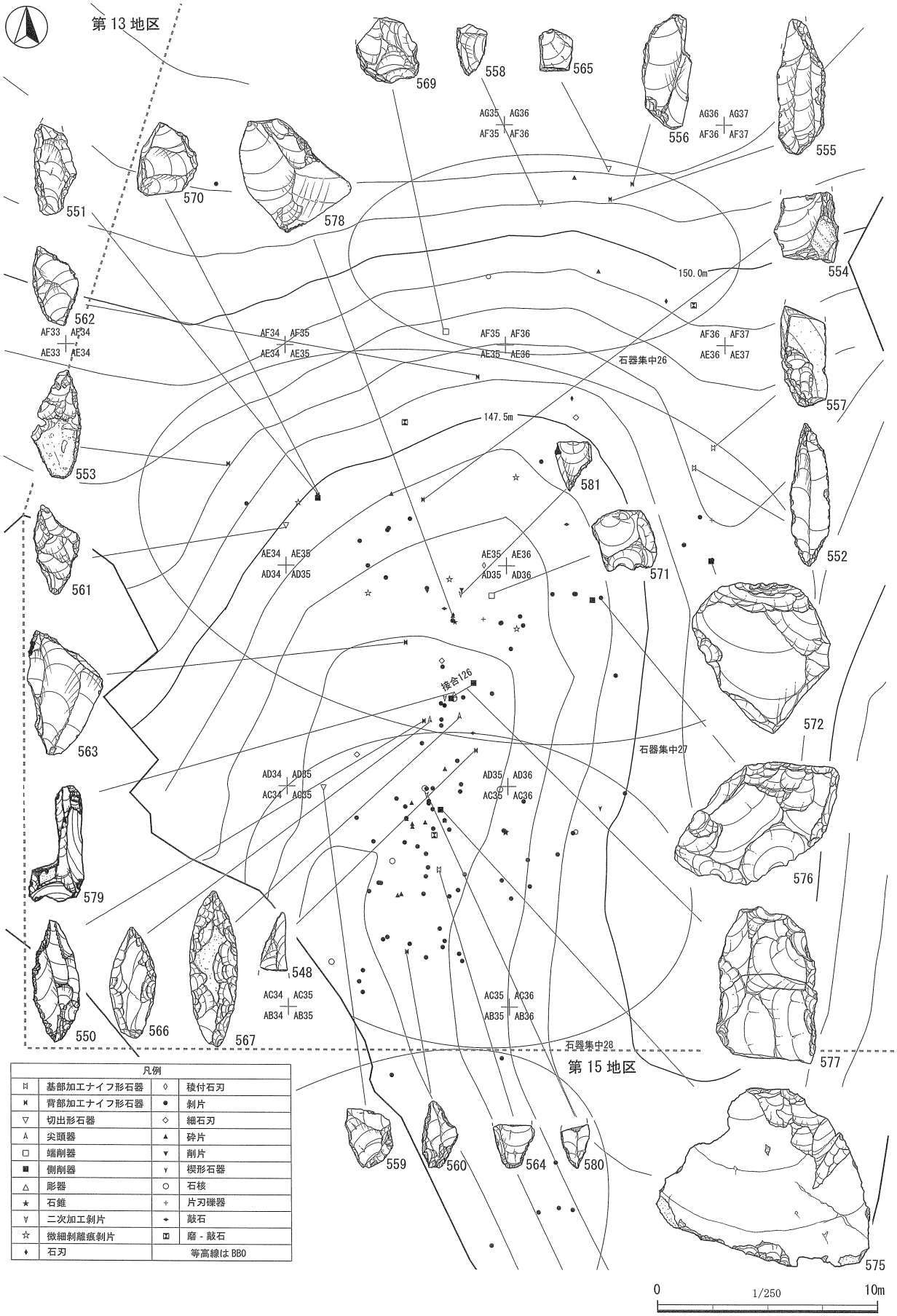
548はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺を急角度な剝離で切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。打面側が失われているので基部形態は不明である。

549はYLで検出されたホルンフェルス製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用いて、右縁辺の打面側を急角度な剝離で切り取って基部を整形し、左縁辺の打面から端部も切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。

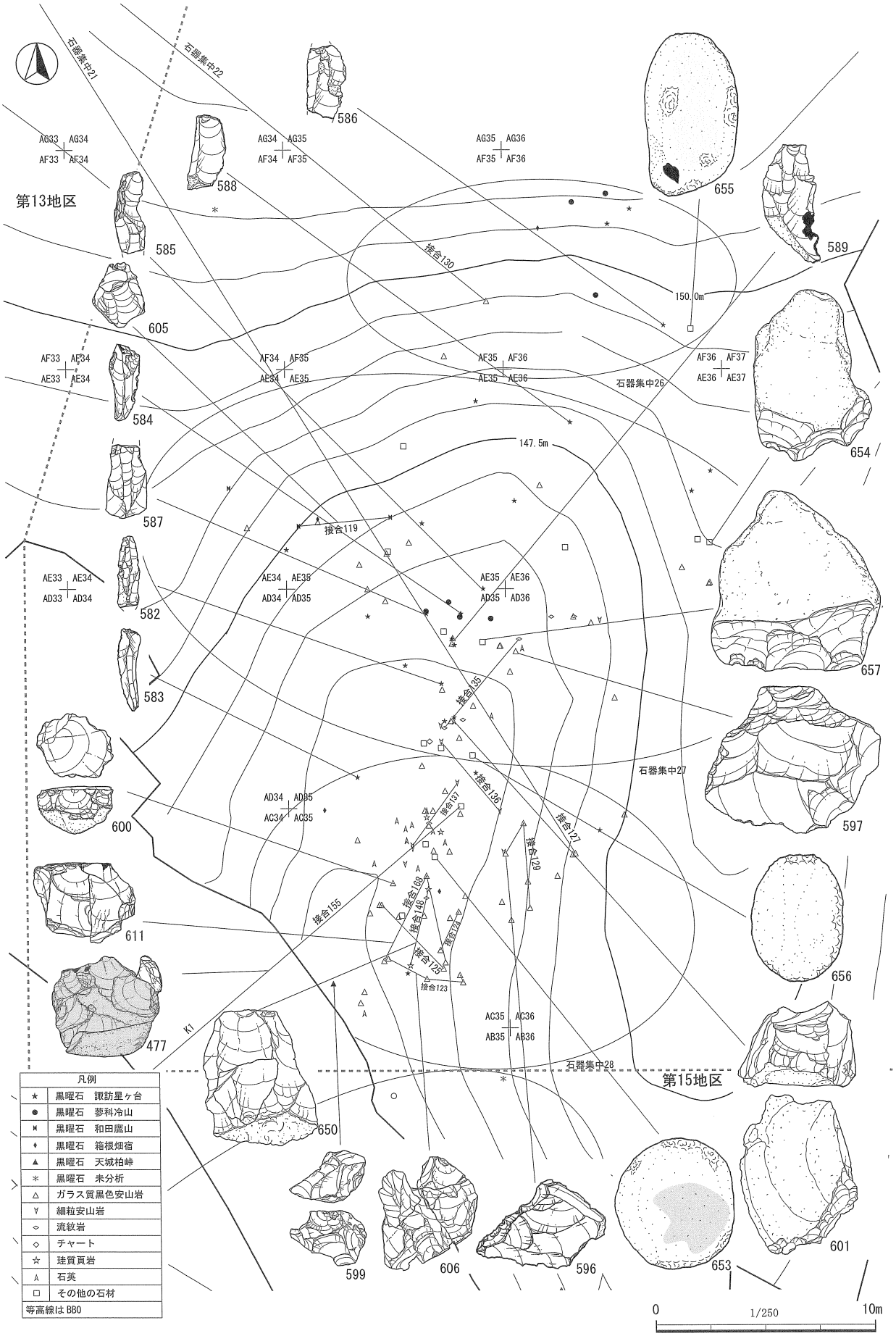
550はYLで検出された油脂状の光沢をもつ硬質頁岩製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用いて左縁辺を急角度の剝離で切り取って側縁を整形し、右縁辺の端部側を切り取って尖状の基部を整形する。

551はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。自然面打面の石刃を縦位に用い、右縁辺を急角度の剝離で内湾するように切り取って基部を整形し、左縁辺を打面から端部にかけて切り取って側縁を整形し、おそらくは尖頭部を作出する。

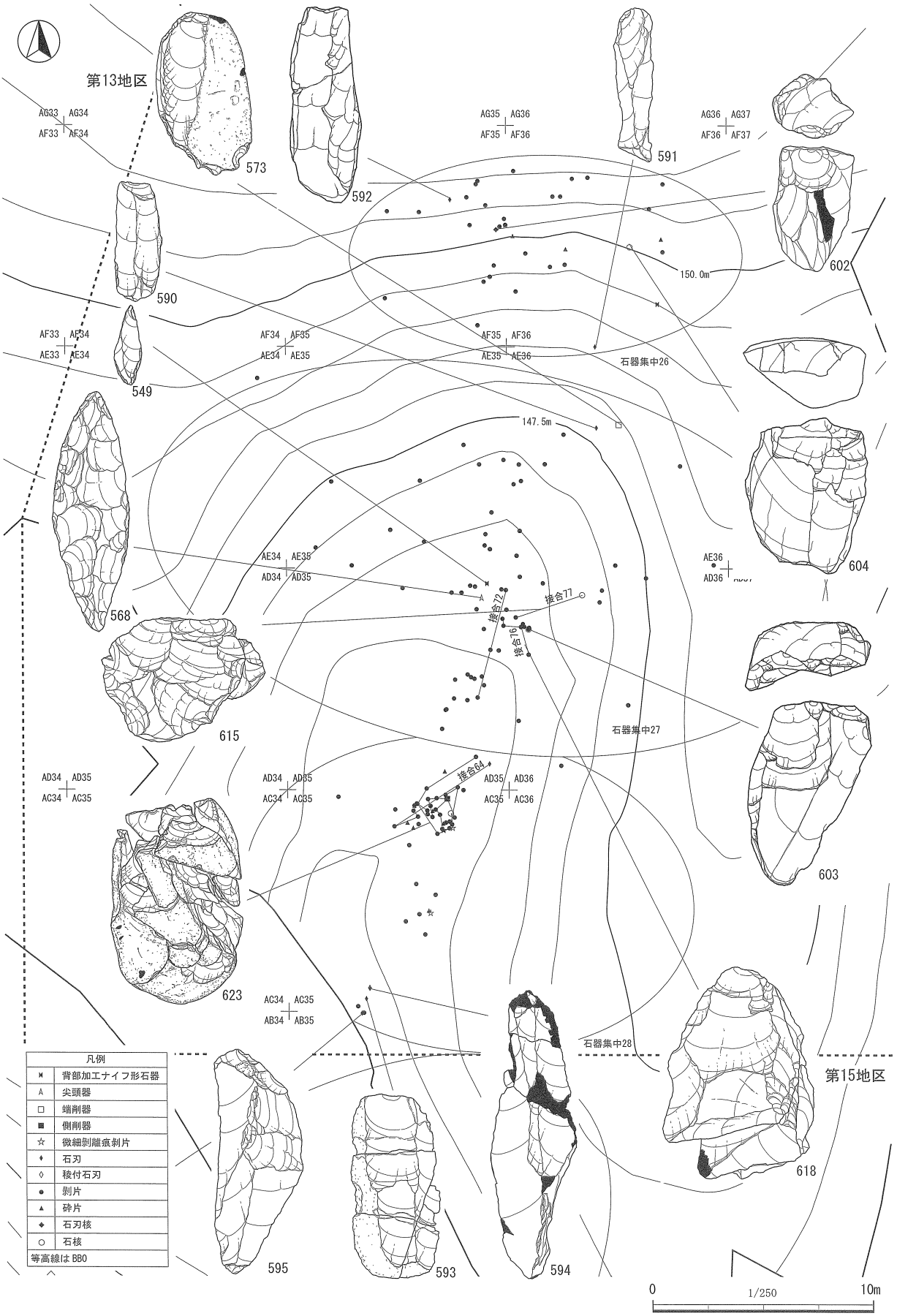
552はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。両設打面の石刃核から得られたと推測される石刃を素材として、急角度な剝離で打面を切り取り、尖状の基部を整形し、また、端部の片縁辺を急角度な剝離で切り取り尖頭部を作出する。尖頭部の稜上に見られる剝離痕は、この石器の正面観左側の剝離面に先行するものなので、素材となる石刃は稜付石刃と推定される。



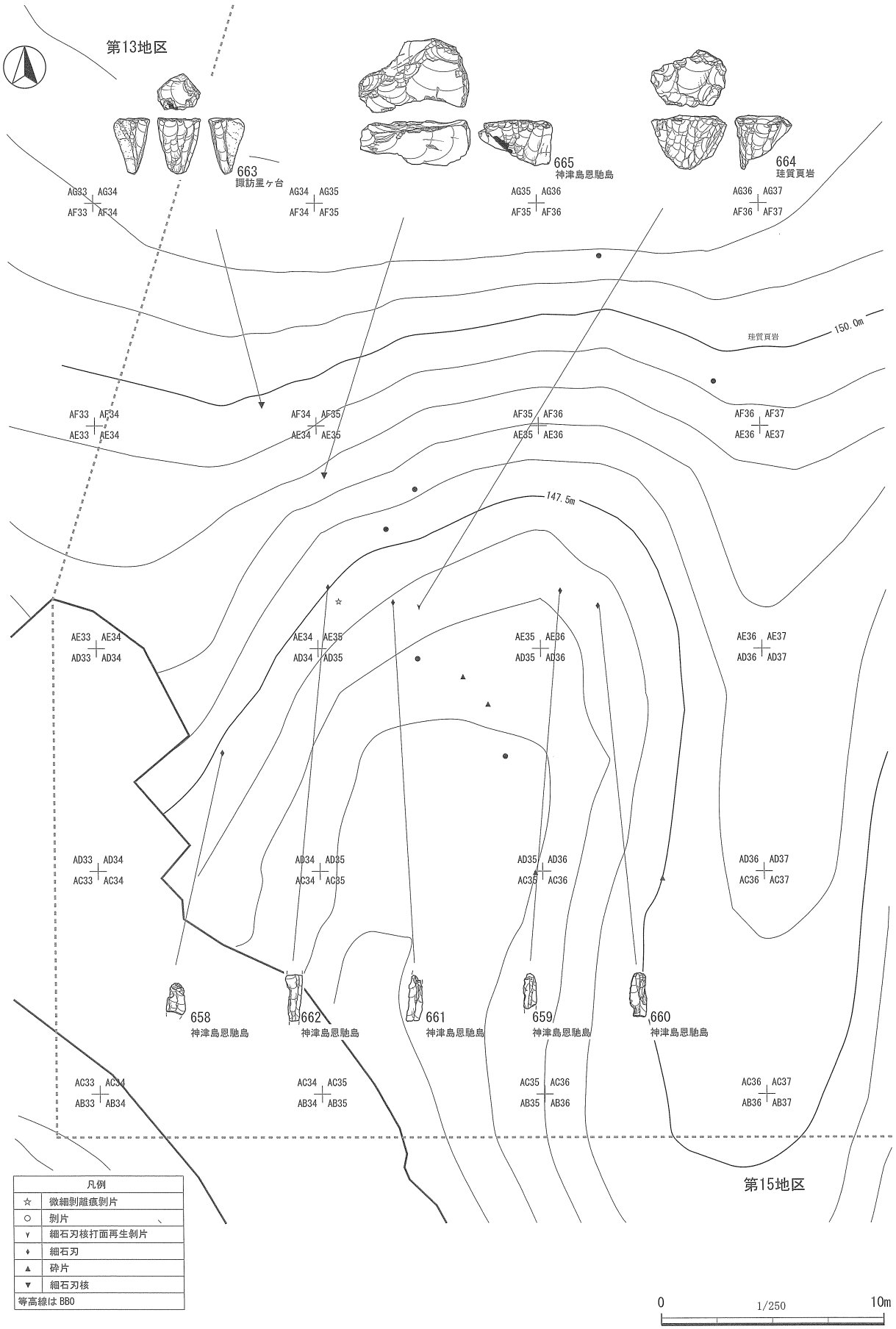
第238図　第14地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層　器種別分布（ホルンフェルス製石器群と細石刃石器群を除く）



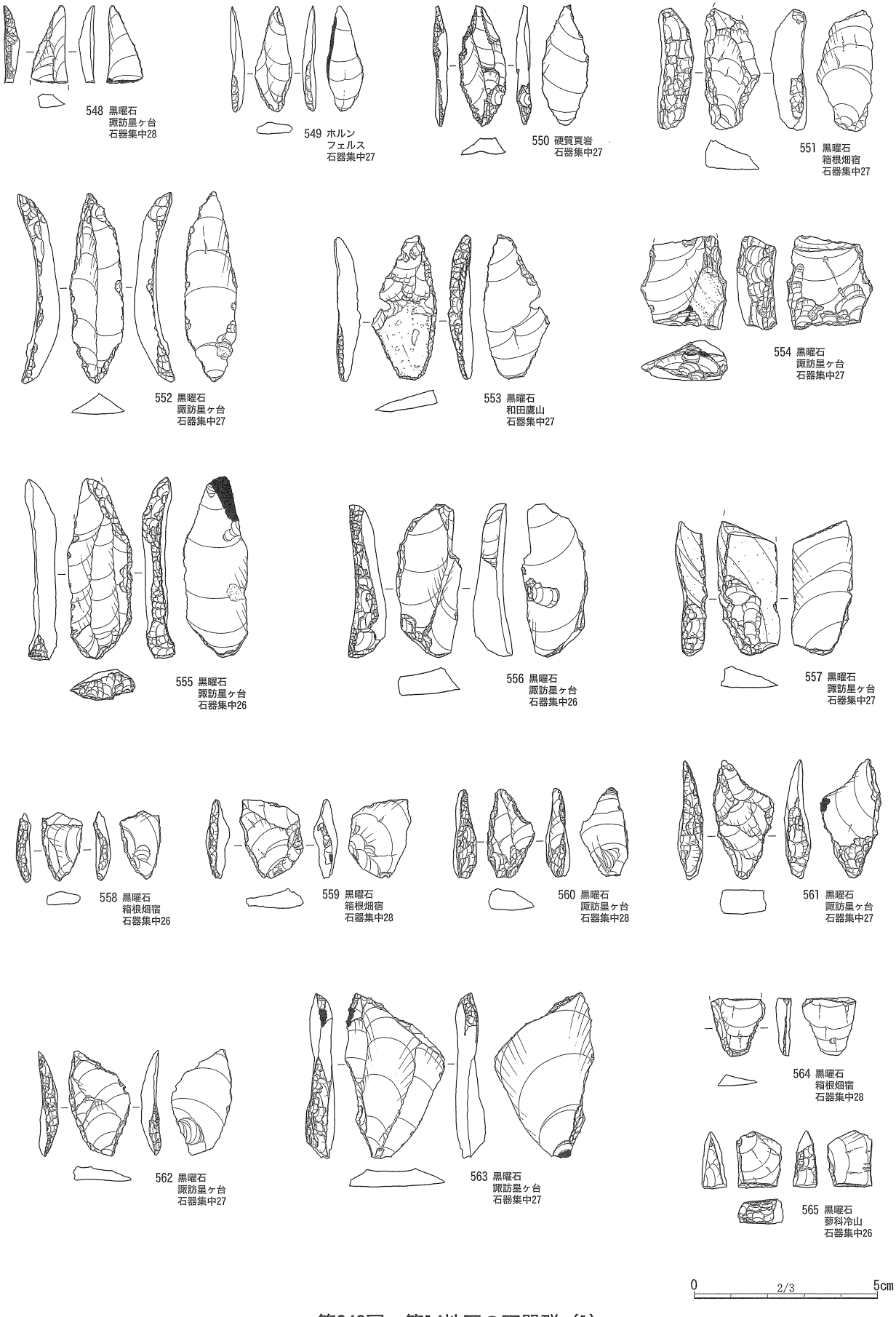
第239図　第14地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層　石材別分布（ホルンフェルス製石器群と細石刃石器群を除く）



第240図　第14地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層　ホルンフェルス製石器群　器種別分布



第241図　第14地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層　細石刃石器群　器種別分布



第242図　第14地区の石器群（1）

553はYLで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。自然面の大きく残る石刃を逆位に用い、左縁辺の末端を斜めに切り取って基部となし、また、右縁辺を末端から打面まで切り取って側縁となし、尖頭部を作出する。

554はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。背面に自然面が付く縦長剝片の右縁辺を急角度な剝離で切り取って右側縁を整形し、また、端部も急角度な剝離で切り取る。上部は尖頭部の折れ、下部は基部の再加工と推測される。

555はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、末端全体を端削器刃部状に弧状に切り取って基部を整形し、続いて右縁辺を尖端部まで切り取って側縁を整形し、尖頭部を作出する。

556はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、左縁辺の末端から打面部を急角度の剝離で切り取って側縁を整形する。尖端から右縁辺を削ぐようにして延びる細長い樋状の剝離痕は彫刀面の作出ともとることができるが、使用による衝撃剝離痕の可能性が高い。

557はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。節理面が大きく付いた縦長剝片を素材として、打面部とその付近の縁辺に急角度の剝離を施して基部を整形する。端部が折れているので全体形状は不明である。

558はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の切出形石器である。一般的剝片を横位に用い、打面と末端を急角度の剝離で切り取って尖状を呈する基部と側縁を整形し、斜刃を残す。

559はYLで検出された箱根畑宿産黒曜石製の切出形石器である。一般的剝片を横位に用い、打面左側に急角度の剝離を施して基部を整形、また、末端側全体を切り取って側縁を整形して斜刃を残す。

560はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。一般的剝片を縦位に用い，左縁辺の打面付近と右縁辺の全体に急角度の剝離を施して、それぞれ基部と側縁を整形し、また、残された鋭い縁辺の背面に平坦な剝離を施す。

561はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。一般的剝片を逆斜位に用い、末端を急角度の剝離で切り取って基部となし、また、打面側を大きく切り取って側縁をなすとともに尖頭部を作出する。基部裏面は、左側縁を打面として平坦な剝離を施して入念に整形する。

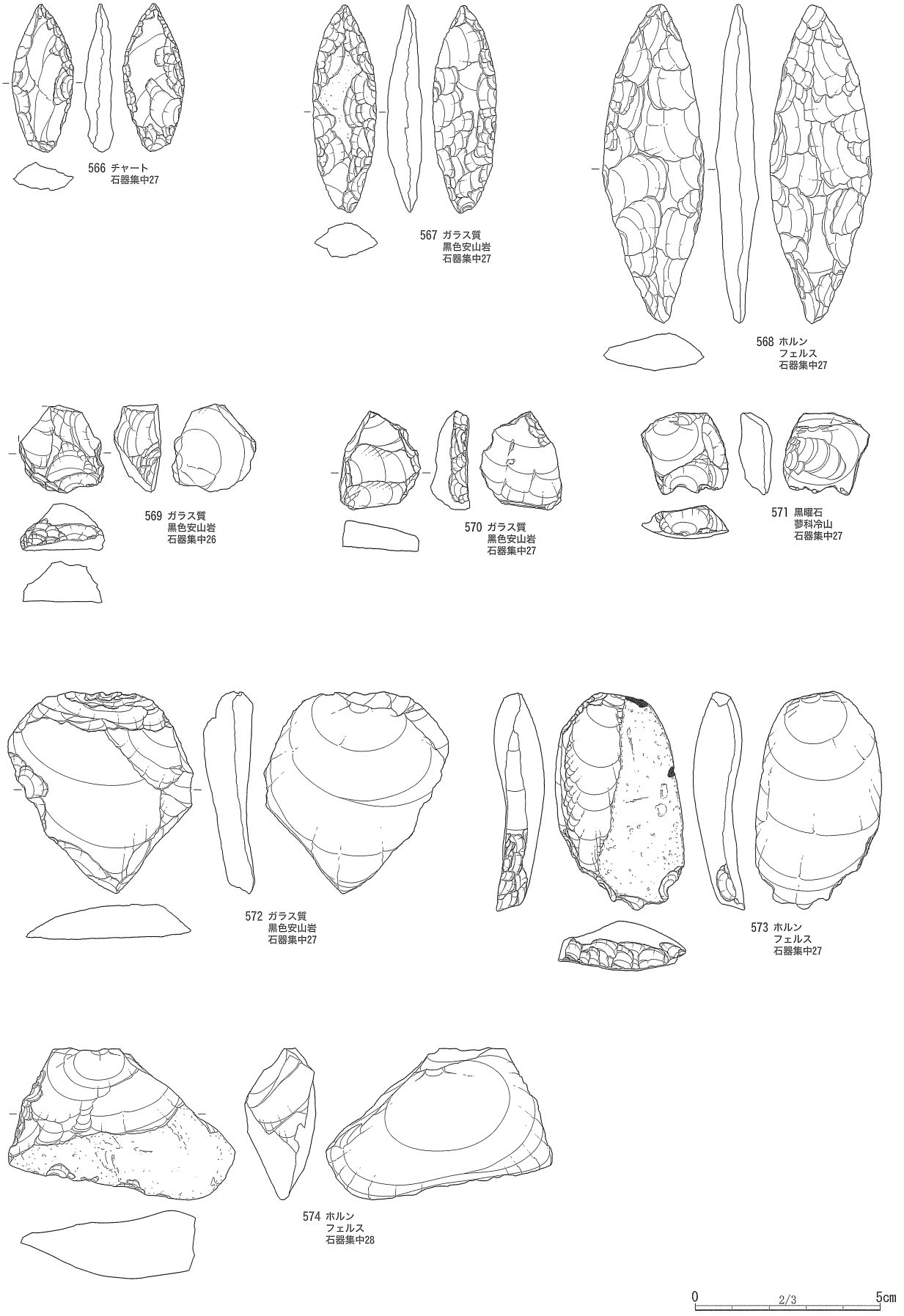
562はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剝片を斜位に用い、打面とその付近を急角度の剝離で切り取って基部を整形し、また、これと連続して左縁辺を端部まで切り取り、側縁を整形し、尖頭部を作出する。

563はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃剝離過程中に得られたと推測される幅広の剝片を斜位に用い、打面とこれに近い右縁辺を急角度な剝離で切り取って基部を整形し、また、末端の両縁辺にも急角度な剝離を施して尖頭部を作出する。石錐かもしれない。

564はKUで検出された箱根畑宿産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。縦長と推定される剝片を逆位に用い、端部とその付近に微細な剝離を施して基部を整形する。打面部側が大きく折れているため、全体形状は不明である。

565はYLで検出された蓼科冷山産黒曜石製の切出形石器である。一般的剝片を横位に用い、右縁辺を急角度な剝離で切り取って基部を整形し、また、打面側も切り取って側縁を整形する。刃部には微細剝離痕が認められる。

566はYLで検出された暗灰色のチャート製の尖頭器である。幅広剝片の周辺を平坦剝離で二次加工して木葉形に整形する。



第243図　第14地区の石器群（2）

567はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の尖頭器である。平坦剝離で両面を二次加工し木葉形に整形する。中心に厚みがあり両側縁がやや平行になる特徴は縄文時代草創期の尖頭器に似ている。

568はYLで検出されたホルンフェルス製の尖頭器である。平坦剝離で両面を二次加工し木葉形に整形する。基部をなす側縁が若干内湾する。

569はFBで検出されたガラス質黒色安山岩製の端削器である。求心剝離で得られた厚手の剝片の右縁辺から末端にかけて急角度に二次加工して刃部を作出する。

570はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の側削器である。一般的剝片の右縁辺に急角度な剝離を施して弧状の刃部を作出する。

571はFBで検出された蓼科冷山産黒曜石製の端削器である。一般的剝片の端部に大振りの剝離を施して、二つの隣り合った抉入状刃部を作出する。

572はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の側削器である。大型の幅広薄片の左縁辺の一部に大振りに二次加工を施して刃部を作出する。

573はYLで検出されたホルンフェルス製の端削器である。亜円礫の自然面を大きくつけた縦長の剝片の末端と左縁辺の打面寄りに急角度の二次加工を施して刃部を作出する。端部は鋸歯状を呈していることから機能的には掻器よりも削器と考えるほうがよいだろう。

574はYLで検出されたホルンフェルス製の側削器である。末端に自然面のついた横長剝片の左縁辺に刃部を作出する。末端には使用によると推測される疎らな微細剝離痕が認められる。

575はYLで検出された珪質頁岩製の側削器である。両面ともポジティブ面となる中型の幅広剝片の左縁辺裏側に刃部を作出し、その他の部位には使用によるものと思われる微細剝離痕が多数観察される。

576はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の側削器である。大型剝片の表裏に大振りの剝離を施して刃部を作出する。石核や両面加工尖頭器ブランクの可能性もある。

577はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の側削器である。大型剝片の両縁辺に急角度の剝離を施して刃部を作出する。中央部で折れている。

578はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の石錐である。背面に自然面のつく厚手の剝片の端部に微細な剝離を施して刃部を作出する。

579はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の彫器である。縦長剝片の打面側から彫刀面を作出する。剝片剝離時に中央から割れたものではない。

580はYLで検出された珪質頁岩製の二次加工剝片である。石刃の打面側に急角度な剝離を施して尖状に整形する。おそらくナイフ形石器の基部と推測されるが、大半が失われているのでわからない。

581はFBで検出された蓼科冷山産黒曜石製の二次加工剝片である。縦長剝片の右縁辺端部側を急角度の剝離で斜めに切り取る。

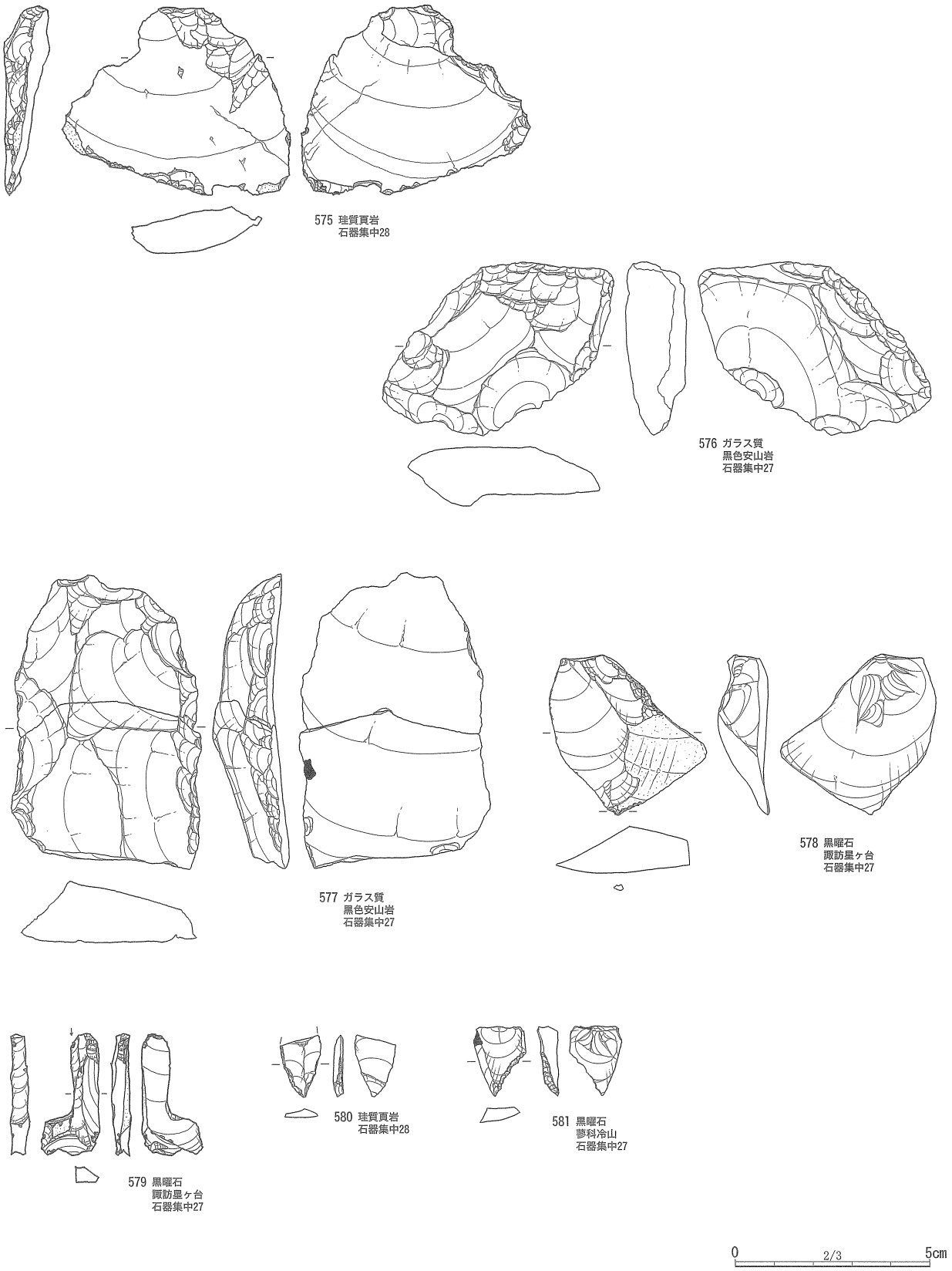
582はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。打面調整痕が認められる。石刃核から剝離されたものかもしれないが、背面の剝離痕は細石刃の連続剝離過程をあらわしている。

583はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。背面構成から、両設打面の石刃核から剝離されたものと推測される。

584はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の削片である。小口から縁辺を取り込んで剝離された。正面の左側が主剝離面で、裏面図は石核ないし彫器の主剝離面にあたる。微細剝離痕が観察される。

585はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の稜付石刃である。石刃核の稜上から左側面を剝離して稜を整形し、次いで小型石刃を剝離する。打面及び左縁辺に自然面が付着している。

586はYLで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の石刃である。石刃の連続剝離過程中に生産する。全体に薄型である。588と同一母岩の可能性が高い。



第244図　第14地区の石器群（3）

587はBB0で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の石刃である。打面側が折れているので形状が読み取りにくいが、頭部調整痕の末端らしき剝離面が観察されるので、もともと大きくなかった可能性が高い。

背面には石刃を連続剥離した痕跡を留め、端部は裏面側に大きく湾曲して肥大していることから、この石刃は有用な道具あるいはその素材として単独で持ち込んだものではなく、この場所での石刃生産を行った残滓であると推測できる。

588はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の石刃である。石刃の連続剥離過程中に生産する。打面に微細な石核調整痕が認められ、全体に薄形である。末端は折れている。

589はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の石刃である。打面調整を介在しながら同一方向に連続剥離する過程で生産する。

590はKUで検出されたホルンフェルス製の石刃である。

591はKUで検出されたホルンフェルス製の石刃である。この石材のものとしては細身である。

592はYLで検出されたホルンフェルス製の石刃である。591と同じく細身である。

593はYLで検出されたホルンフェルス製の石刃である。幅広ではあるが両側縁が平行に近い。精製の石刃剥離過程を窺わせる。

594はYLで検出されたホルンフェルス製の稜付石刃である。かなり大型の石刃核の作業面末端に稜上から石核右側面を剥離して稜を整形し、次いで石刃を剥離する。

595はYLで検出されたホルンフェルス製の石刃である。打面部が節理で大きく割れて失われているため形態がよくわからない。

596はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の微細剥離痕剥片である。幅広剥片の左縁辺に微細な剥離痕が連続的に観察される。

597はYLで検出されたガラス質黒色安山岩製の微細剥離痕剥片である。一般的剥片の左縁辺に連続的な微細剥離痕が観察される。

598はYLで検出された珪質粘板岩製の剥片である。縄文時代の石鏃生産に向けられた石材で、旧石器時代のものではないだろう。混在である。

599はYLで検出された天城柏峠産黒曜石の石核である。多方面に打面と作業面とを展開し、小型剥片を生産する。

600はYLで検出されたガラス質黒色安山岩の石核である。分厚い剥片の腹面を打面とし、背面の周縁のほぼ全体を作業面にして小型剥片を剥離する。

601はYLで検出された黄玉石の石核である。分厚い剥片の腹面を打面とし、背面の周縁のほぼ全体を作業面にして小型剥片を剥離する。打点がはっきりしないので熱破砕した可能性がある。

602はFBで検出されたホルンフェルスの石刃核である。同一打面の周縁を巡るように加撃し、連続的に石刃を生産する。石刃剥離が限界まで進行し、石核は角錐状を呈する。

603はYLで検出されたホルンフェルスの石核である。石核の用い方からすると石刃剥離を企図していたのではないかと思われる。

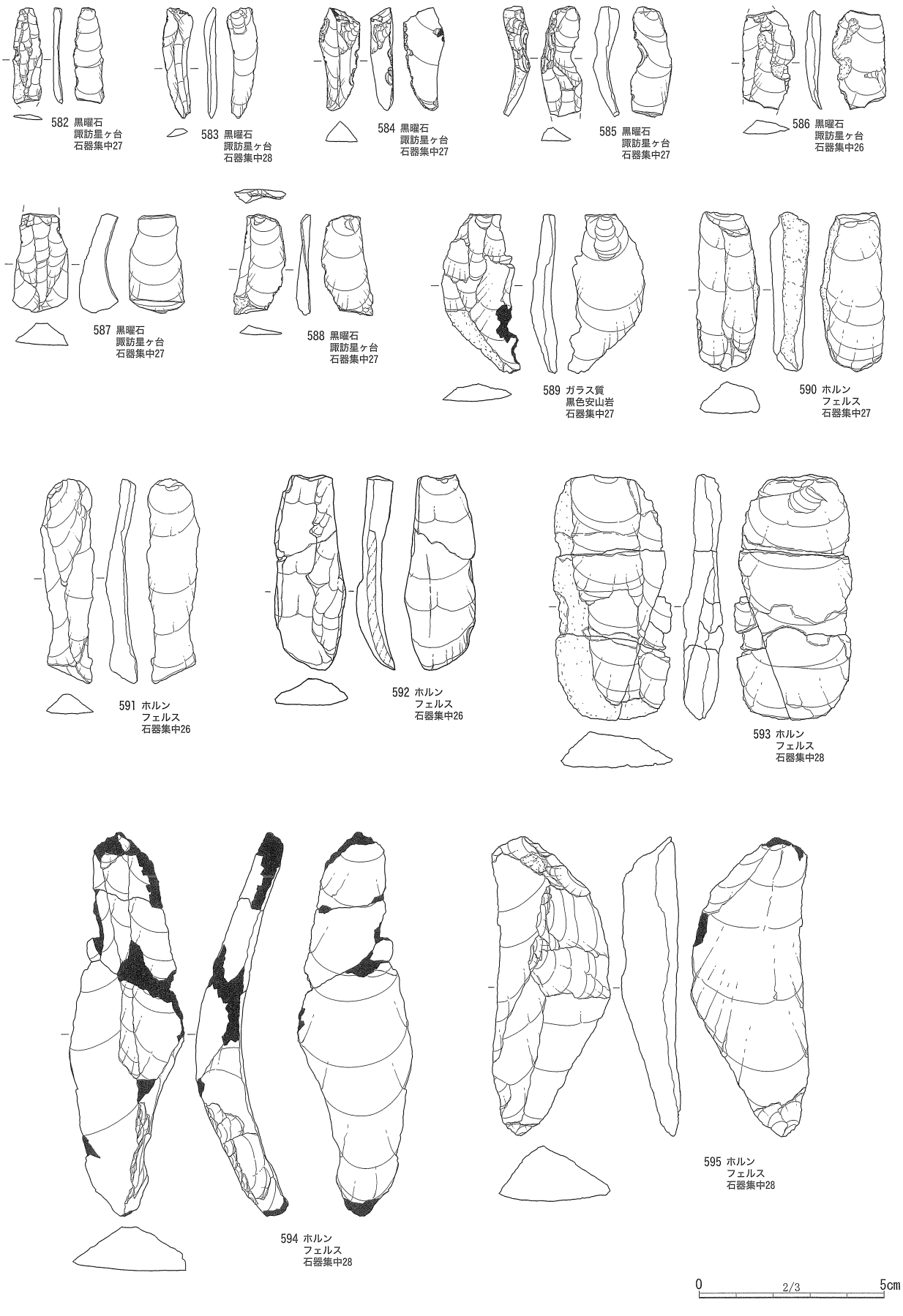
604はYLで検出されたホルンフェルスの石核である。同一方向への剥離を継続し、打面の奥行きを作業面長よりも著しく短くするのは石刃剥離と関連する技術的特徴のひとつである。

605はYLで検出された和田鷹山産黒曜石製の微細剥離痕剥片と砕片の接合資料である。

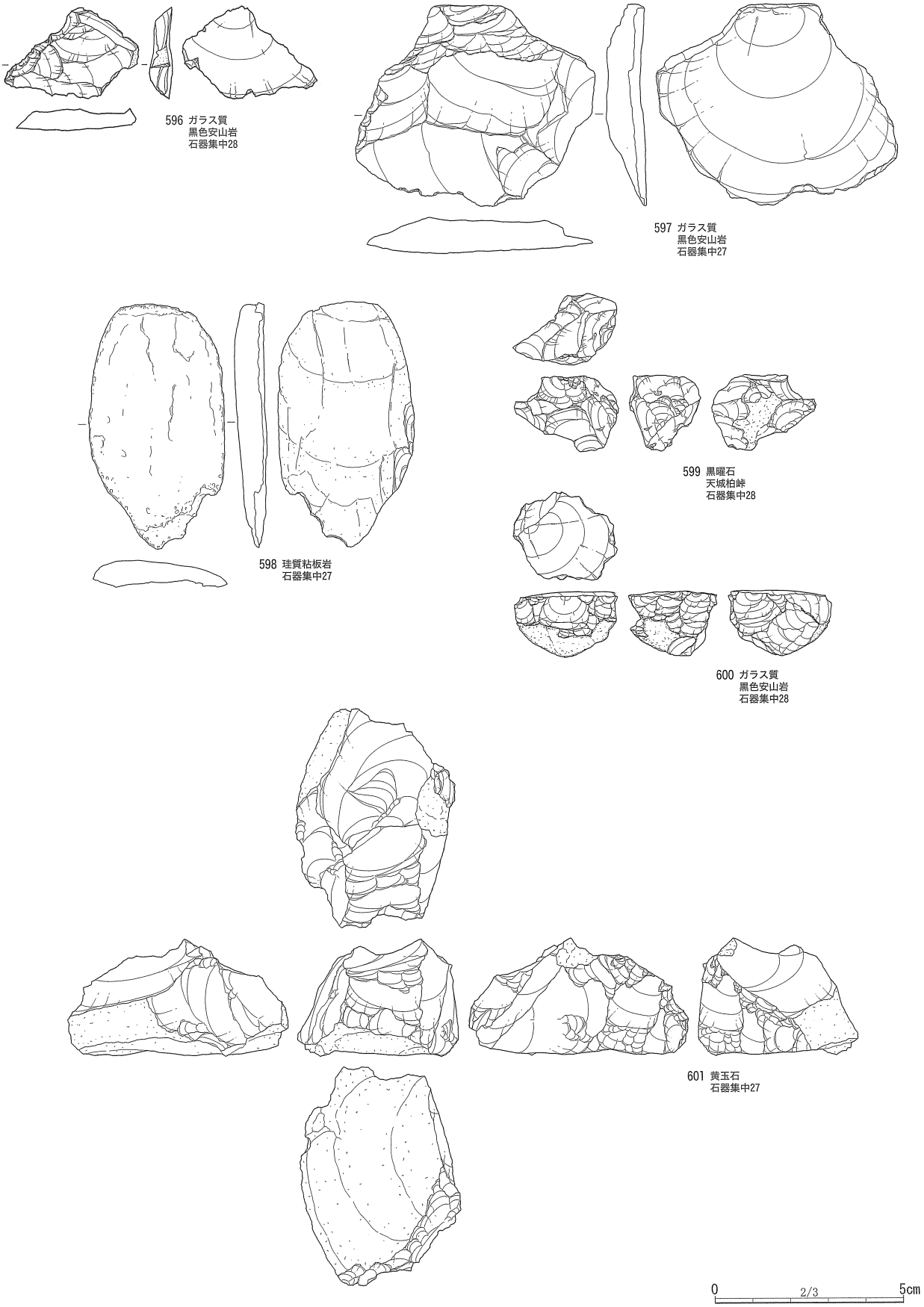
606はYLからFBで検出されたガラス質黒色安山岩製剥片4点（607-610）の接合資料である（接合123）。かなり大型の石核を多方向から打撃して幅広剥片を量産する。

611はYLからFBで検出されたガラス質黒色安山岩製剥片3点（612-614）の接合資料である（接合168）。半割した大型剥片の折れ面同士が主体であるが、背面等からは多打面転移型の剥離過程が推測される。

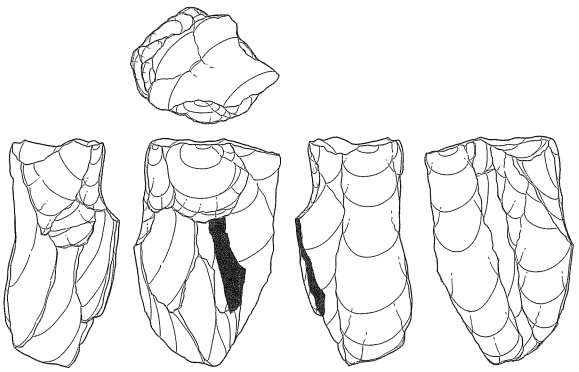
615はYLで検出されたホルンフェルス製剥片1点（616）と石核1点（617）の接合資料である（接合77）。多打面転移型石核から幅広剥片を量産する。



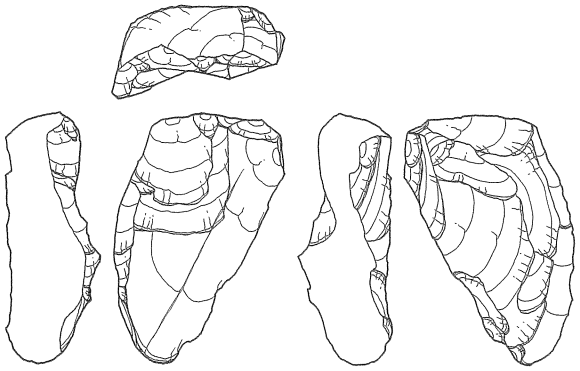
第245図　第14地区の石器群（4）



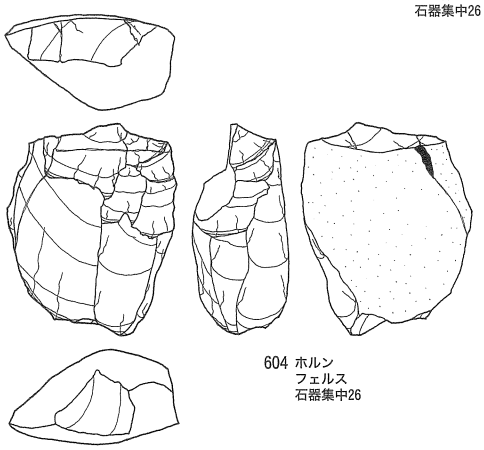
第246図　第14地区の石器群（5）



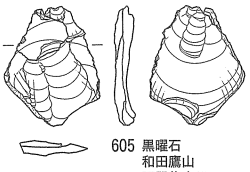
602 ホルン
フェルス
石器集中26



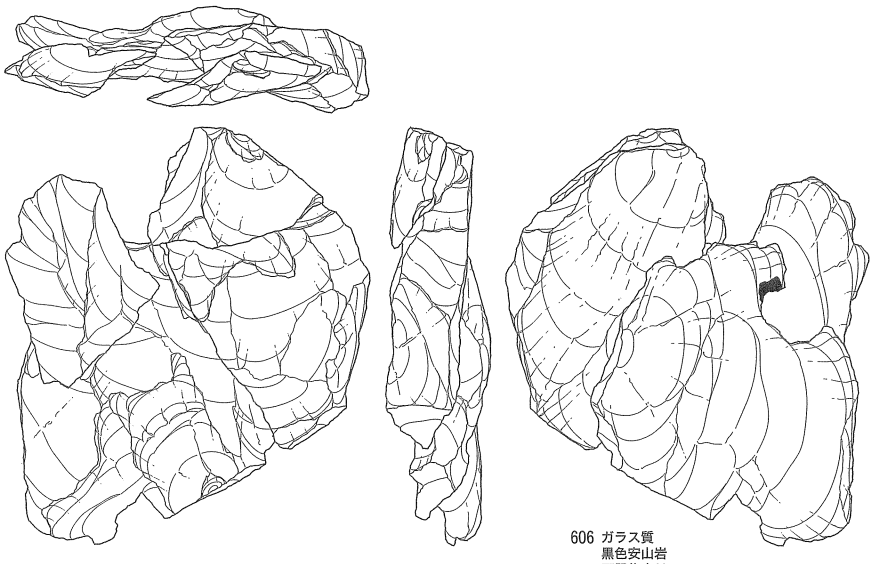
603 ホルン
フェルス
石器集中27



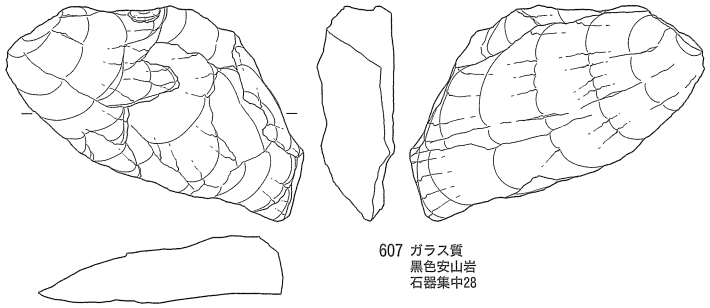
604 ホルン
フェルス
石器集中26



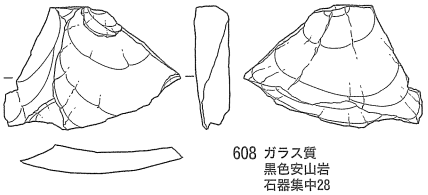
605 黒曜石
和田鷹山
石器集中27



606 ガラス質
黒色安山岩
石器集中28



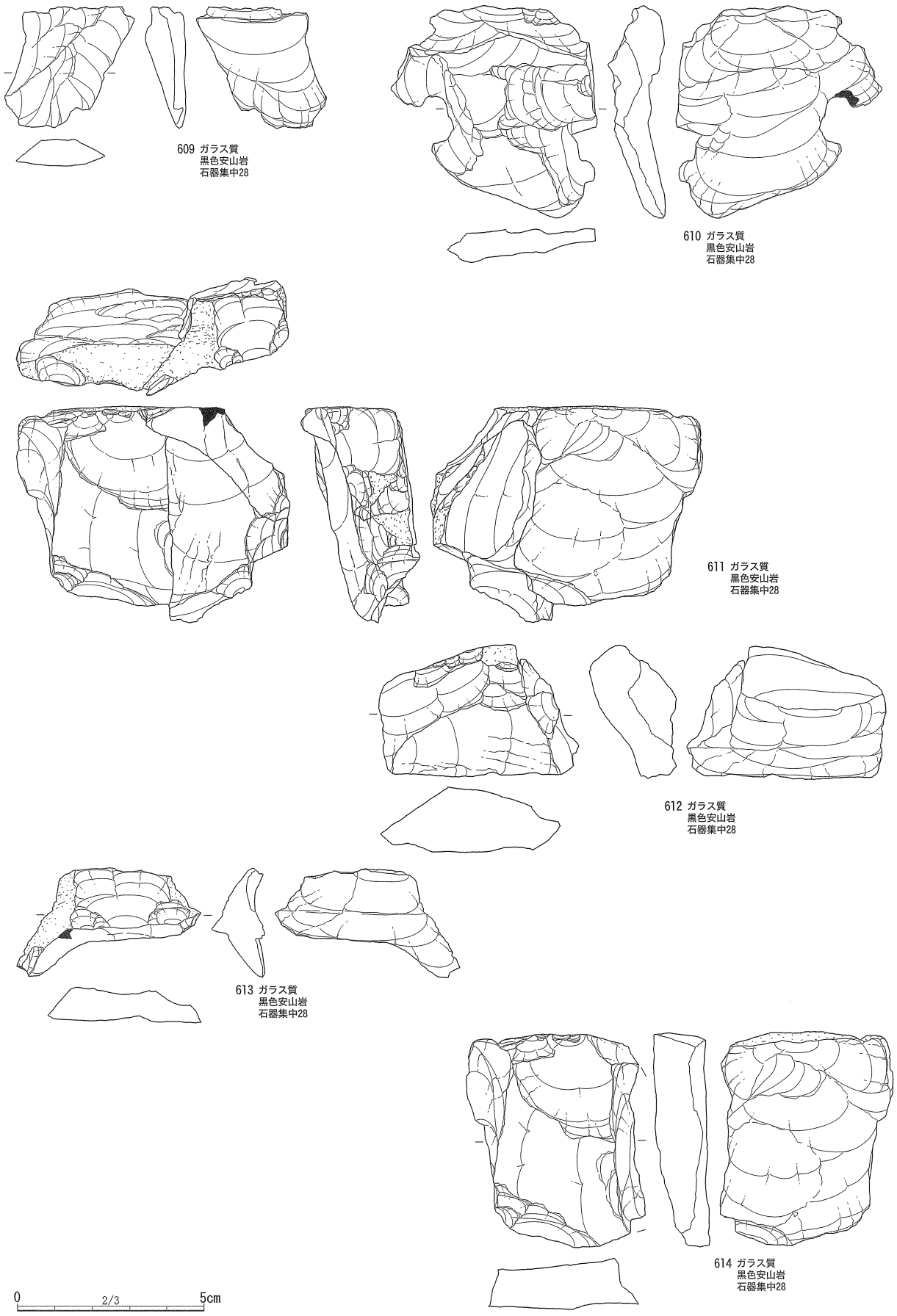
607 ガラス質
黒色安山岩
石器集中28



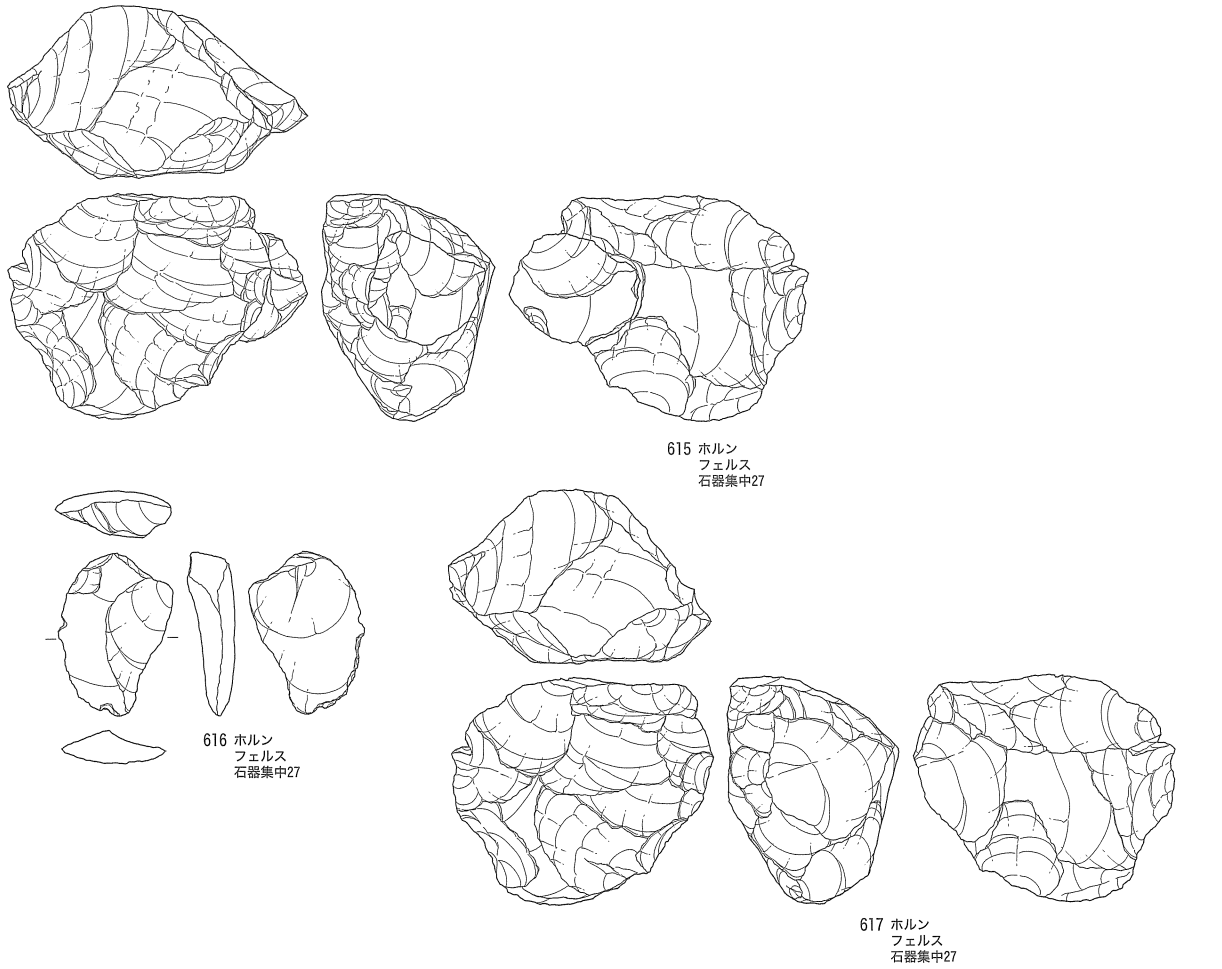
608 ガラス質
黒色安山岩
石器集中28

0　2/3　5cm

第247図　第14地区の石器群（6）



第248図　第14地区の石器群（7）



第249図　第14地区の石器群（8）

618はYLで検出されたホルンフェルス製剥片4点（619-622）の接合資料である（接合76）。多打面転移型の打面石核から大小の剥片を剥離する。

623はYLで検出されたホルンフェルス製側削器（574）、剥片23点（625-634,636-641,643,645-648）、微細剥離痕剥片2点（642,644）、石刃1点（635）および石核1点（649）の接合資料である（接合64）。交互剥離により幅広剥片を連続的に剥離する。二次加工石器は含まれていない。臨機的な道具としての剥片を量産した可能性が高い。石核はチョッピングトゥール状を呈する。

650はYLで検出された、チャート質の石理が多数入る珪質頁岩製の剥片2点（651,652）の接合資料である（接合148）。

653はYLで検出された輝石安山岩製の磨-敲石である。周囲に敲打痕がつく。

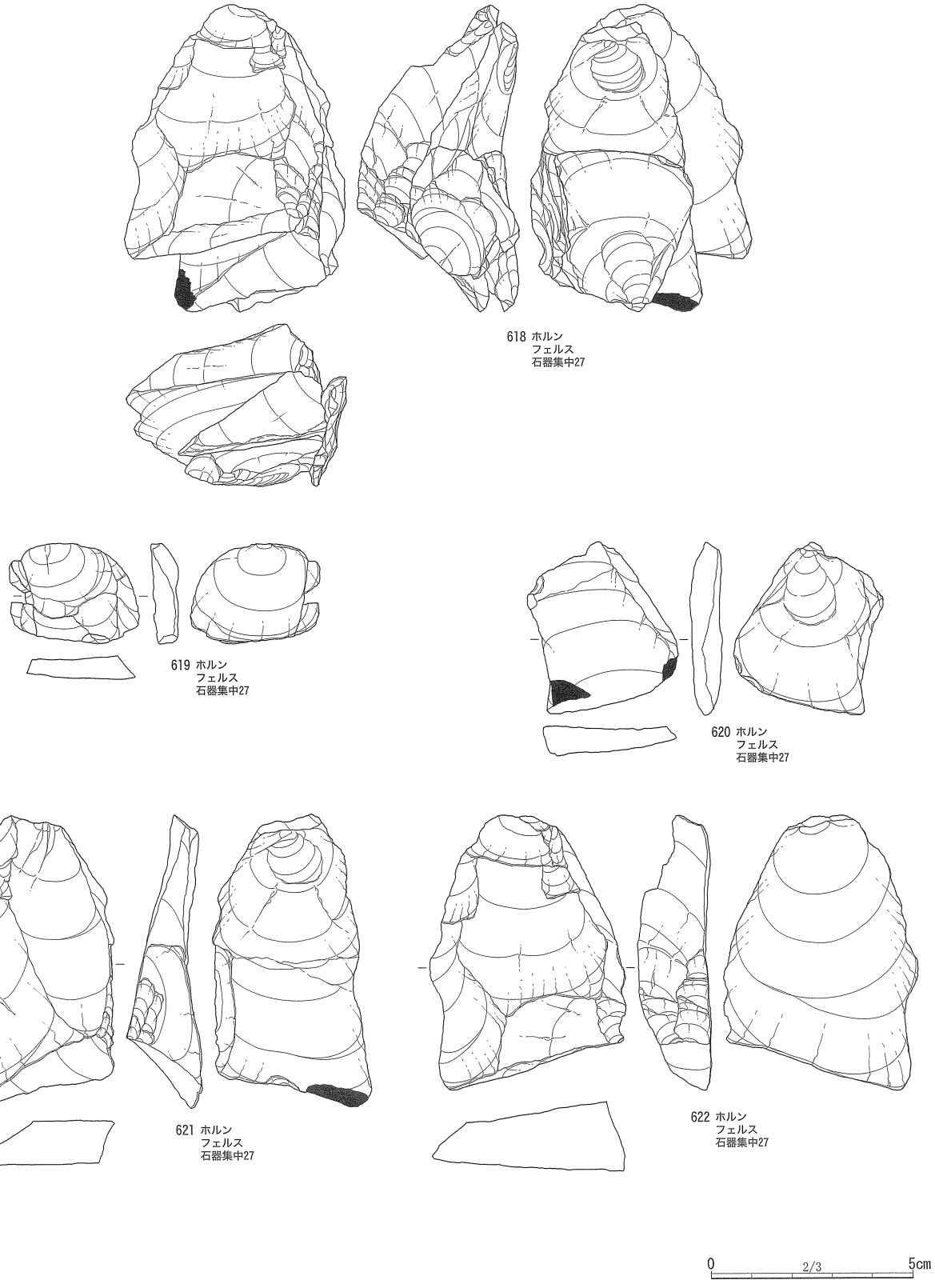
654はYLで検出された輝石安山岩製の片刃礫器である。板状礫の長軸端部に大振りな剥離で片刃を作出する。

655はYLで検出された多孔質安山岩製の磨-敲石である。端部と側面に敲打痕がつく。

656はYLで検出された多孔質玄武岩製の敲石である。端部と側面に敲打痕がつく。

657はYLで検出された輝石安山岩製の片刃礫器である。板状礫の1辺に大振りな剥離で片刃を作出する。

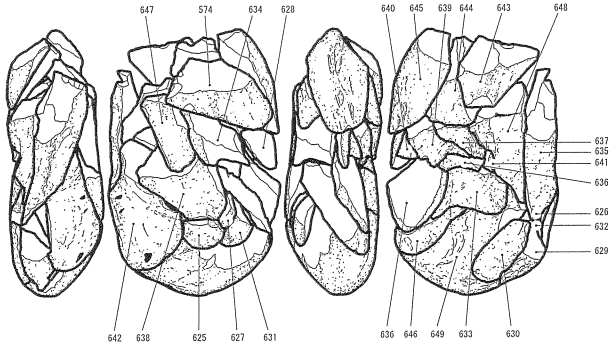
658はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。末端が

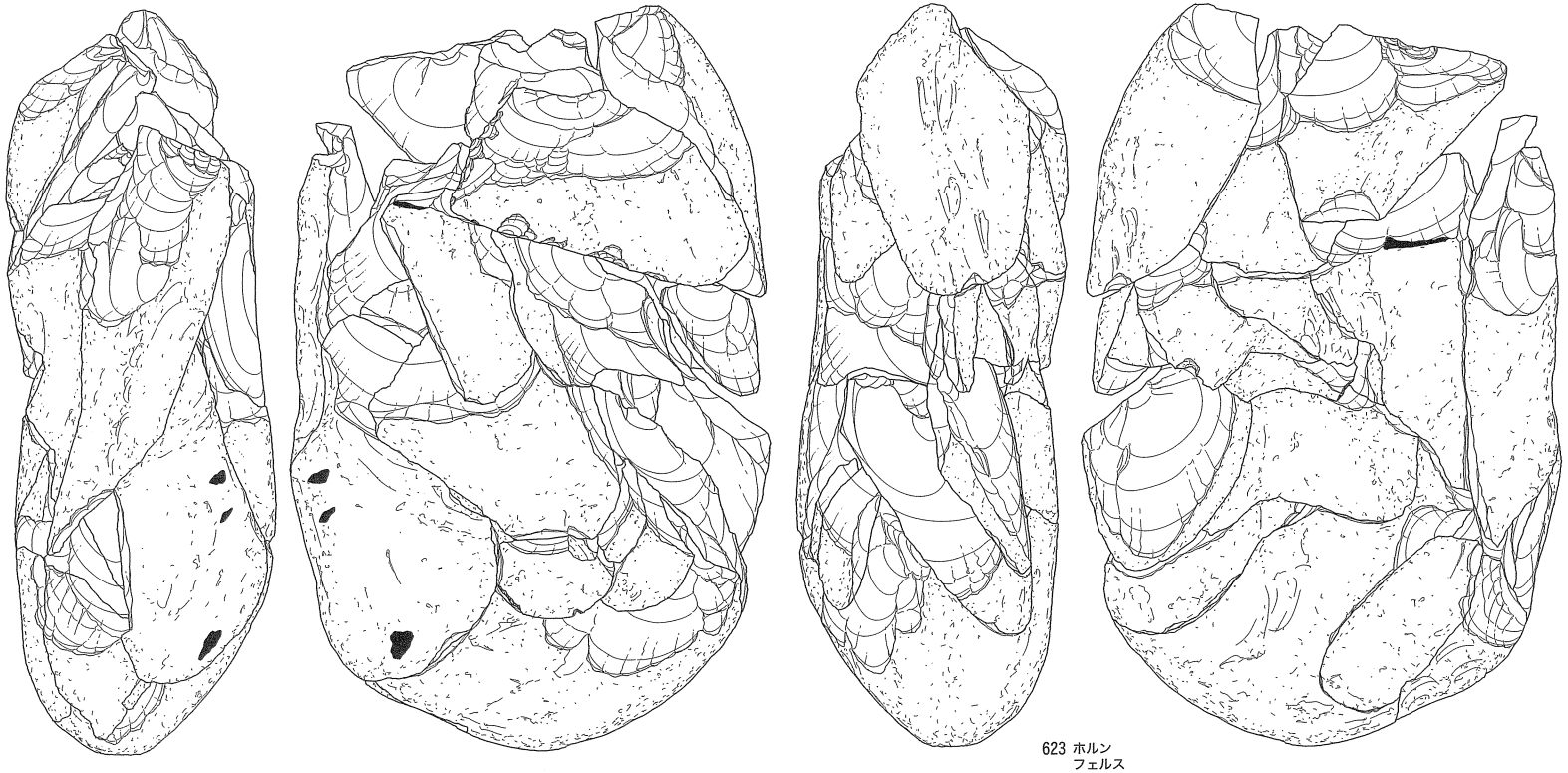


第250図　第14地区の石器群（9）

折れている。

659はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。末端は折れている。

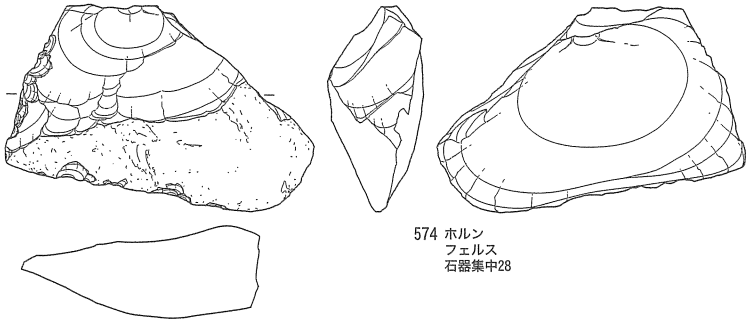


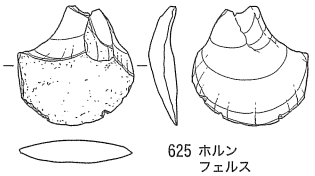


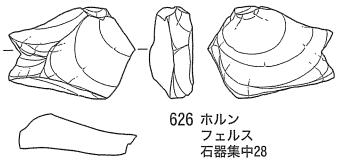
623 ホルン
フェルス
石器集中28

0　2/3　5cm

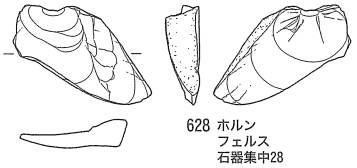
第251図　第14地区の石器群（10）

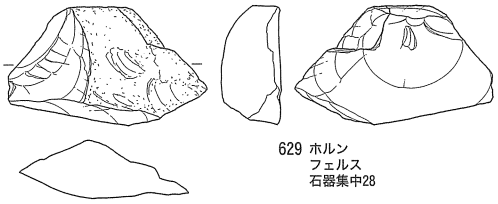

574 ホルン
フェルス
石器集中28

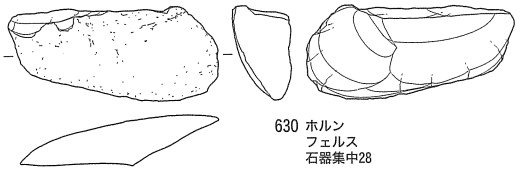

625 ホルン
フェルス
石器集中28

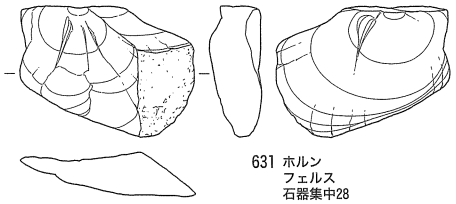

626 ホルン
フェルス
石器集中28

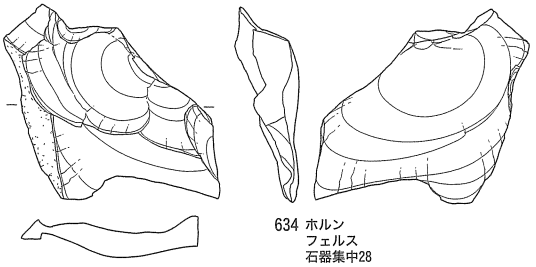
627 ホルン
フェルス
石器集中28

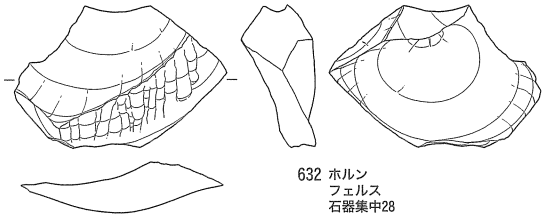

628 ホルン
フェルス
石器集中28

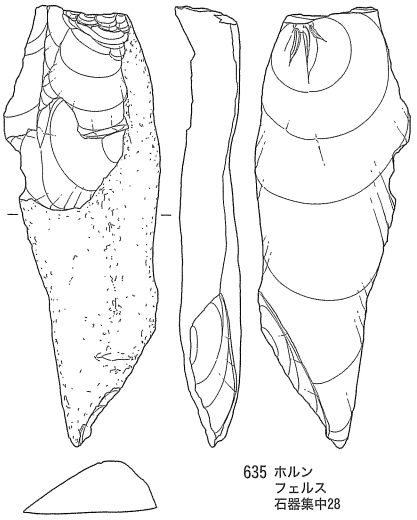

629 ホルン
フェルス
石器集中28

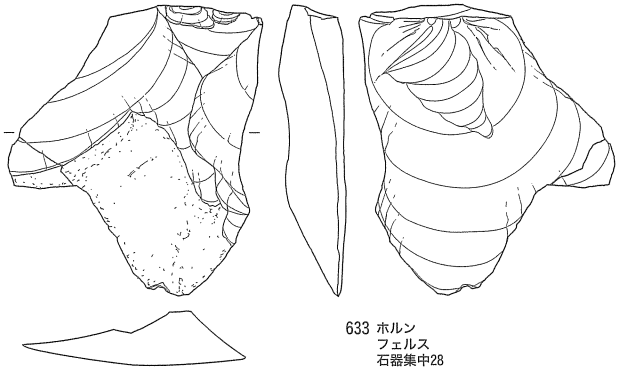

630 ホルン
フェルス
石器集中28

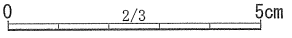

631 ホルン
フェルス
石器集中28


634 ホルン
フェルス
石器集中28

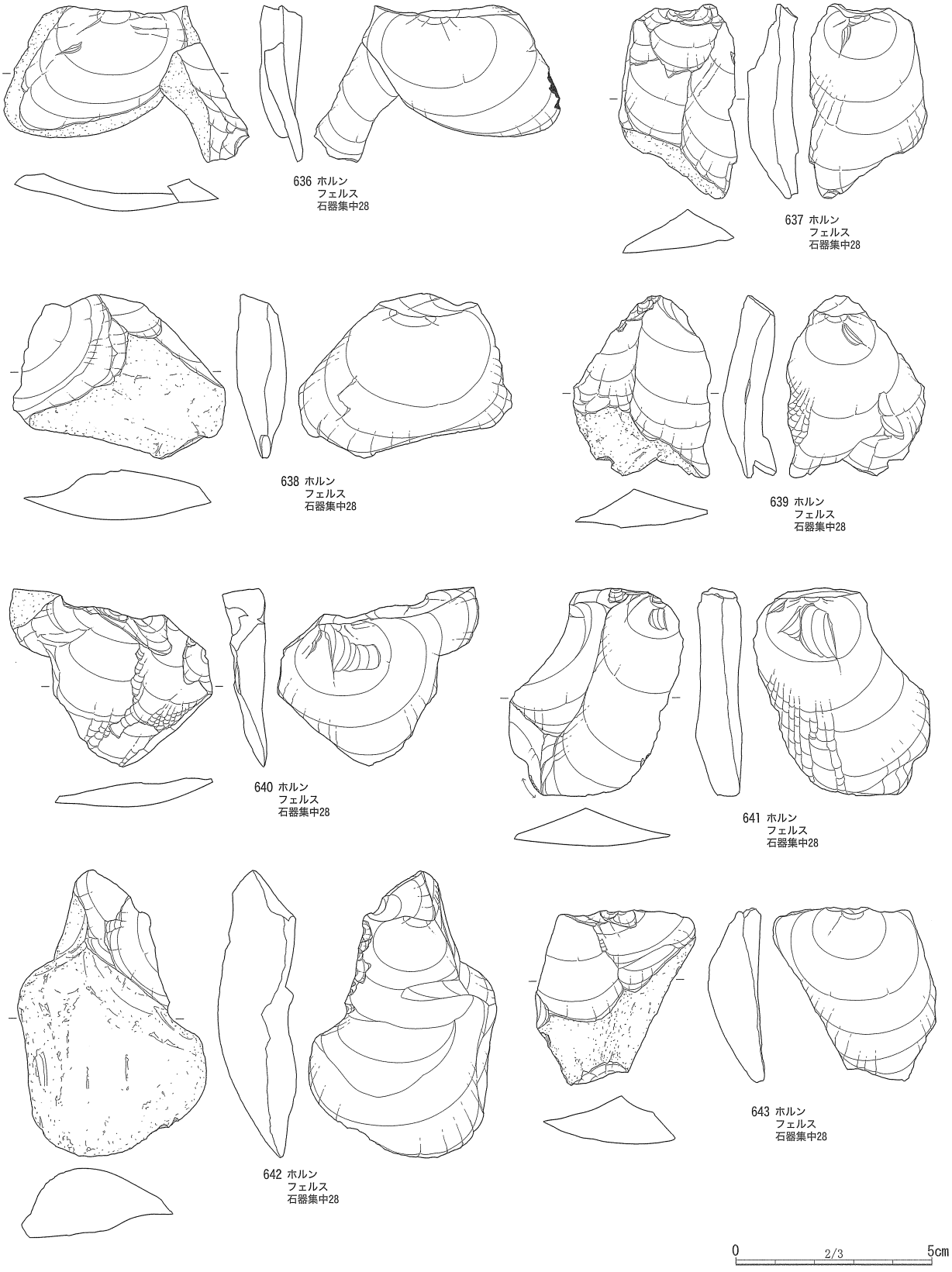

632 ホルン
フェルス
石器集中28


635 ホルン
フェルス
石器集中28

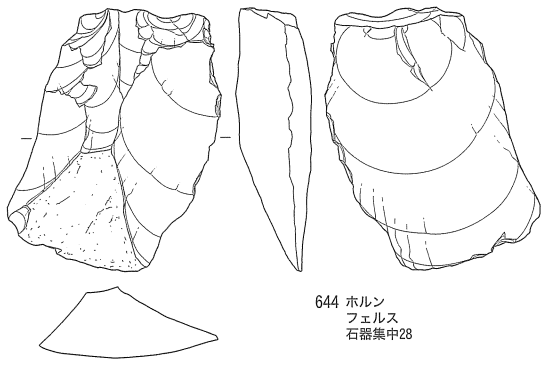

633 ホルン
フェルス
石器集中28



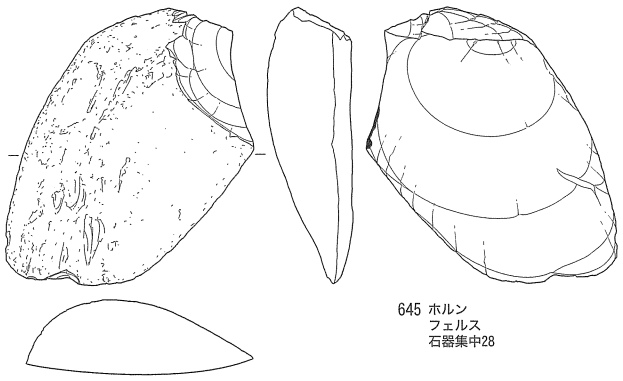
第252図　第14地区の石器群（11）



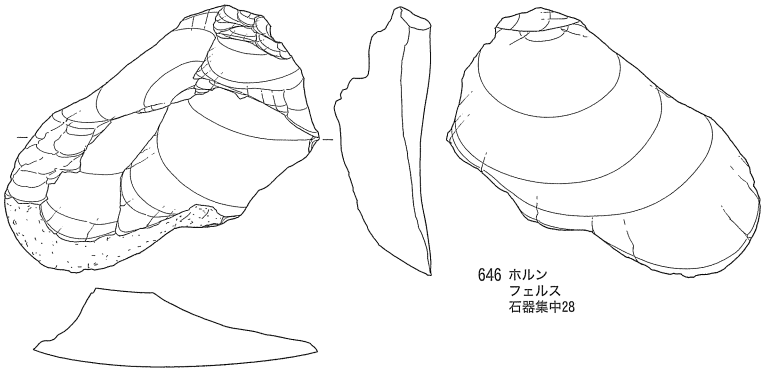
第253図　第14地区の石器群（12）



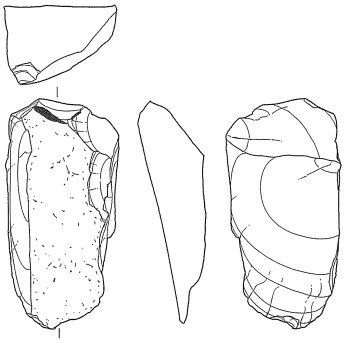
644 ホルン
フェルス
石器集中28



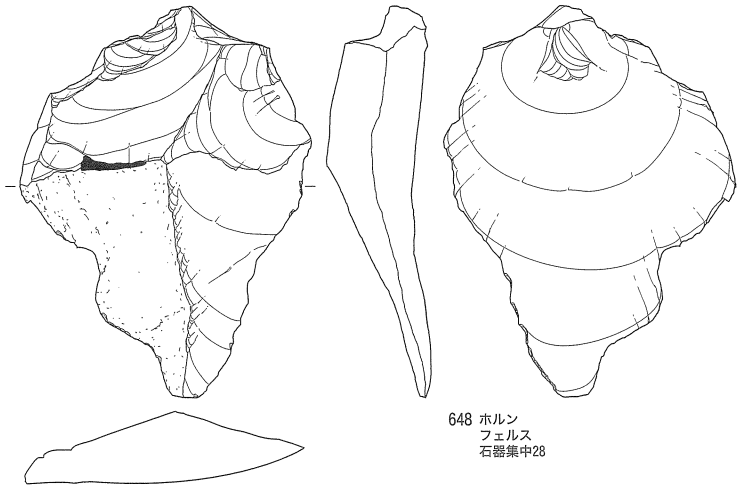
645 ホルン
フェルス
石器集中28



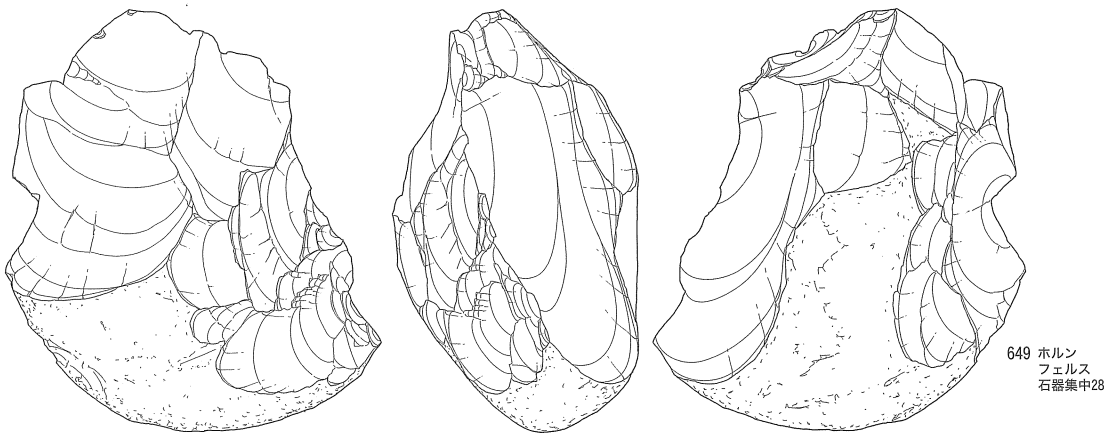
646 ホルン
フェルス
石器集中28



647 ホルン
フェルス
石器集中28



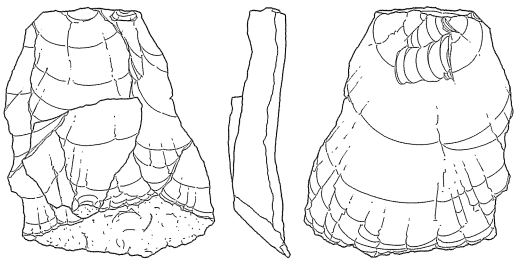
648 ホルン
フェルス
石器集中28



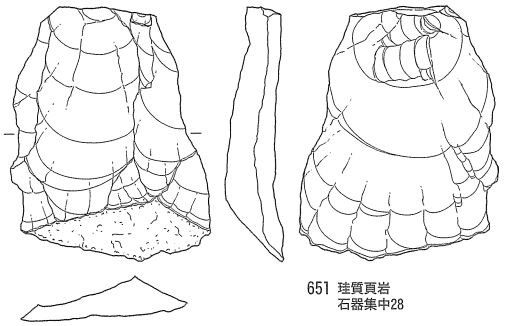
649 ホルン
フェルス
石器集中28

0　2/3　5cm

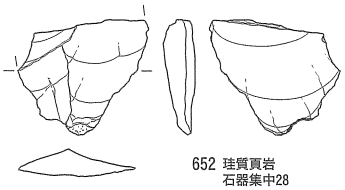
第254図　第14地区の石器群（13）



650 珪質頁岩
石器集中28

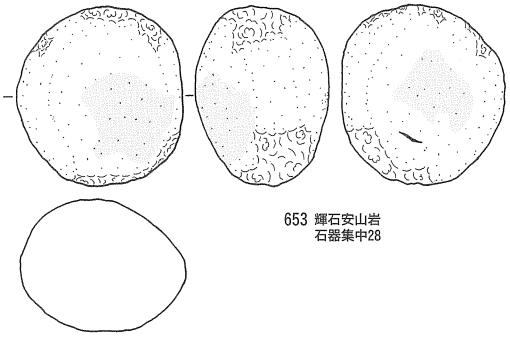


651 珪質頁岩
石器集中28

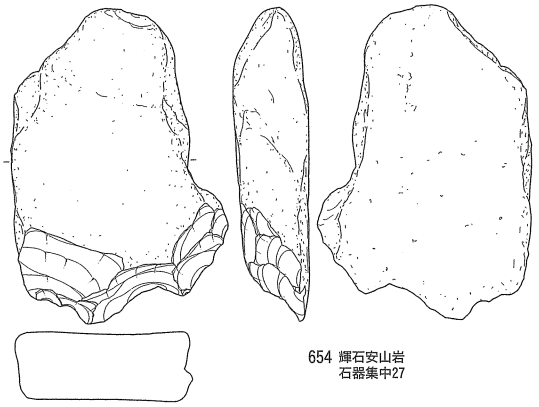


652 珪質頁岩
石器集中28

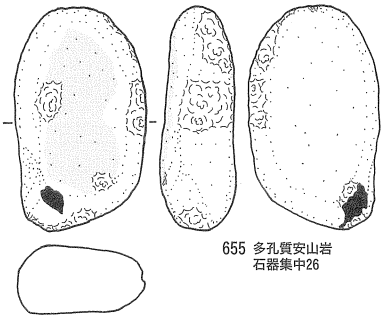
0　2/3　5cm



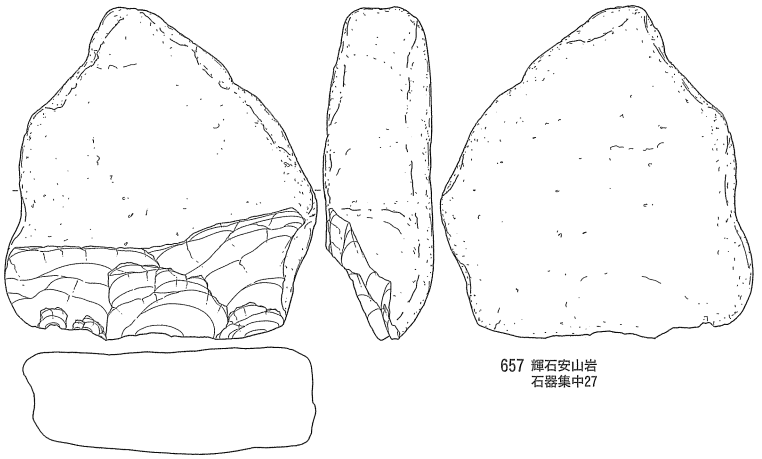
653 輝石安山岩
石器集中28



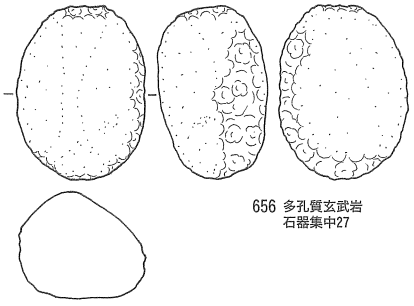
654 輝石安山岩
石器集中27



655 多孔質安山岩
石器集中26



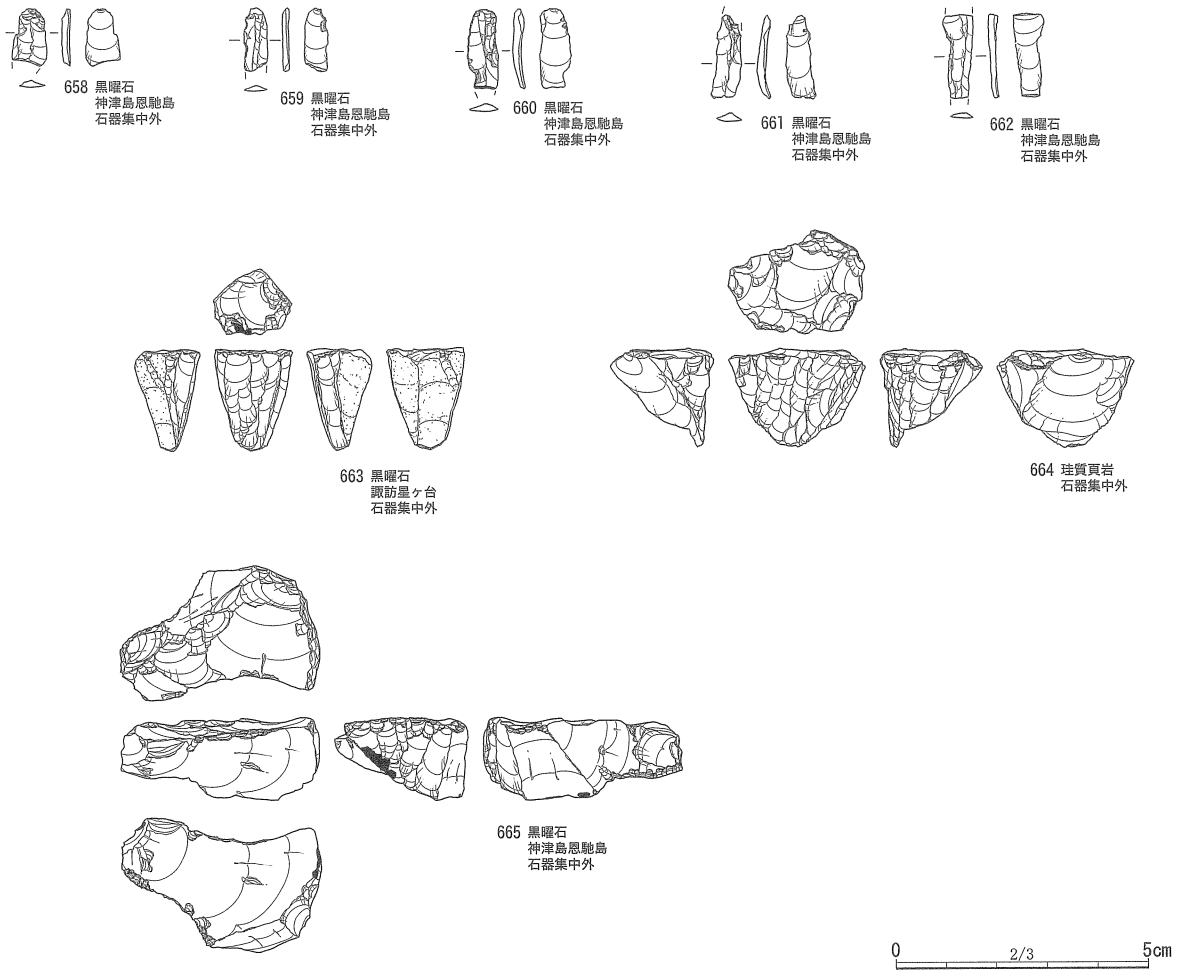
657 輝石安山岩
石器集中27



656 多孔質玄武岩
石器集中27

0　1/3　10cm

第255図　第14地区の石器群（14）



第256図　第14地区の石器群（15）

660はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。右側縁に平坦な剝離面が連続的に観察されるが、二次剝離面ではない。石核調整部位を取り込んでいるのかもしれないが、よくわからない。左縁辺に微細剝離痕が付く。

661はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剝離痕は観察されない。

662はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剝離痕は観察されない。打面と末端が折れている。

663はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石の細石刃核である。円錐形を呈する野岳・休場型である。

664はYLで検出された珪質頁岩製の細石刃核打面再生剝片である。求心方向に調整を施した打面周縁の少なくとも半周以上を押圧して連続的に細石刃を生産する細石刃核に、おそらく打面を再生する意図で加撃し、作業面もろとも剝がし取ってしまったものと推察される。しかし、同一母岩と思われるような細石刃および調整剝片などが検出されていないので、まだ有用な部位が残されていたのかもしれない。細石刃核は稜柱形を呈していると推測され、野岳・休場型とされるものに類しよう。

665はYLで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃核である。末端に向かって肥大する稜付剝片の端部を作業面にし、細石刃を連続剝離する。石核調整痕が全く認められない。また、石核の素材となる剝片の両縁辺には加工作業等による使用痕と思しき微細な剝離痕が多数観察される（細石刃剝離と加工作業との前後関係は読み取れない）。

15. 第15地区の石器群（第257・258図、表69）

第14地区の南部に石器の散漫な分布域がある。石器は28点分布し、最も多いのはホルンフェルス13点である。まとまった状態ではないので石器同士の関係はよくわからない。

（１）石器集中

石器集中29（表69）

AB36グリッドからZ33グリッドまで、北東から南西に長く延びて分布する石器群である。休場層の中部から上部に包含される。石器28点で構成される。ホルンフェルス13点を第1石材とし、数点ずつの黒曜石を組成する。ホルンフェルスには石刃1点が含まれる。和田鷹山産黒曜石製と珪質頁岩製の基部加工ナイフ形石器を1点ずつ組成するが、神津島恩馳島産黒曜石製細石刃も組成しており、石器集中26-28と同様、異なる時期の石器群が混在しているようである。

表69　第15地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層　石器集中29　石器組成

	和田鷹山	和田小深沢	黒曜石 箱根畑宿	神津島恩馳島	未分析	輝石安山岩	多孔質玄武岩	珪質頁岩	ホルンフェルス	計
基部加工ナイフ形石器	1							1		2
二次加工剥片		1								1
石刃									1	1
剥片			2		2				12	16
細石刃				1						1
砕片			1							1
楔形石器	1									1
石核			1							1
磨石							1			1
敲石						1				1
台石						2				2
計	2	1	4	1	2	3	1	1	13	28

（２）出土石器の検討（第259図）

666はFBで出土した和田鷹山産黒曜石製の基部加工ナイフ形石器である。自然面付きの一般的剥片を逆斜位に用い、急角度な剥離で打面と右縁辺を大きく切り取り、おそらくは尖端部を作出し、また対辺には基部を整形する。折れている尖端は、この方向からの衝撃によるものと推測される。

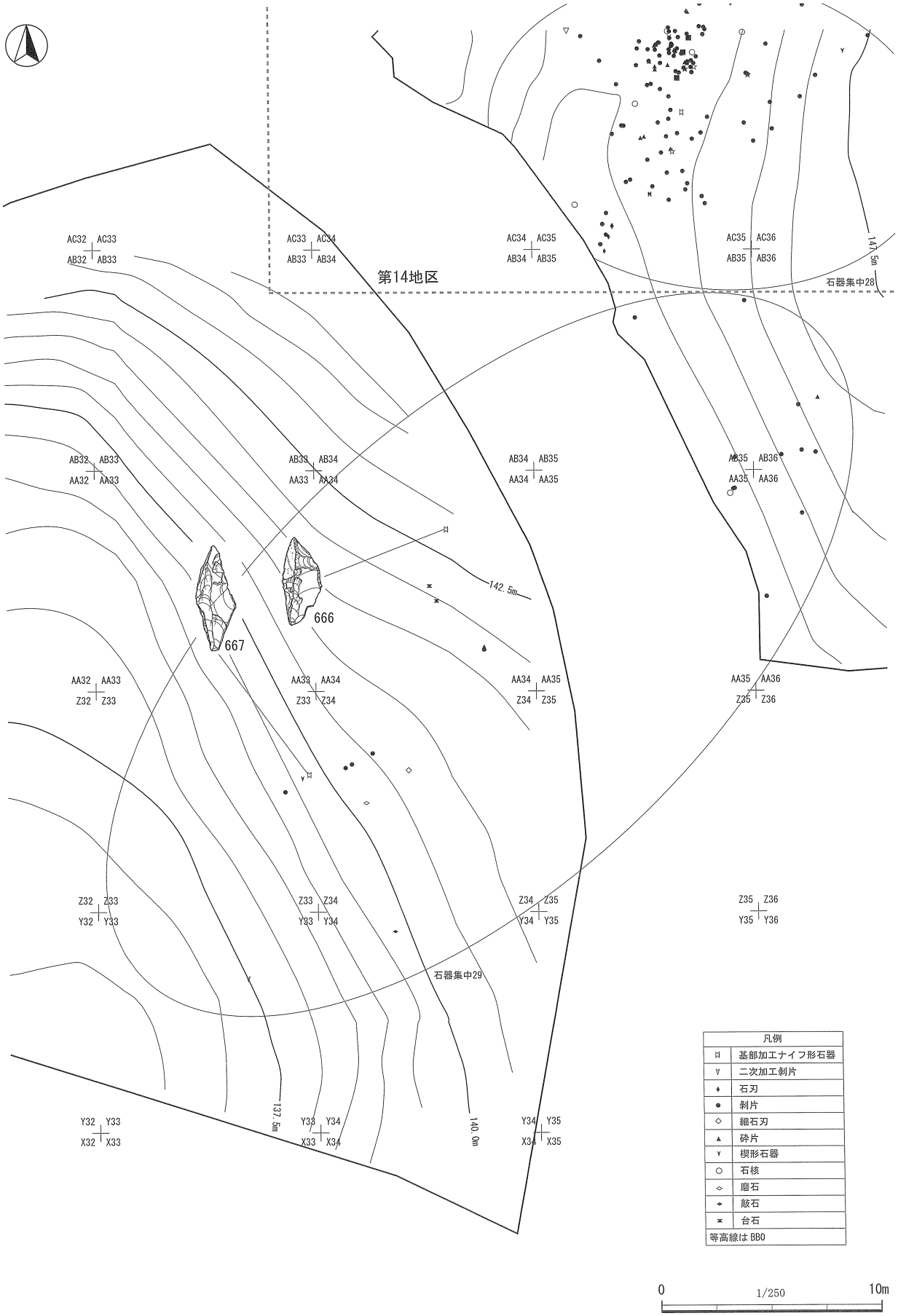
667はFBで検出された珪質頁岩製の基部加工ナイフ形石器である。打面部が節理割れで失われた石刃を素材として、右縁辺の打面側に急角度な剥離を施して基部を整形する。

668はYLで検出された和田小深沢産黒曜石製の二次加工剥片である。小型縦長剥片の左縁辺の表裏と右縁辺の端部に微細な二次加工痕が観察される。なんらかの微細剥離痕にも見えるが、上下が折れているので判定できない。

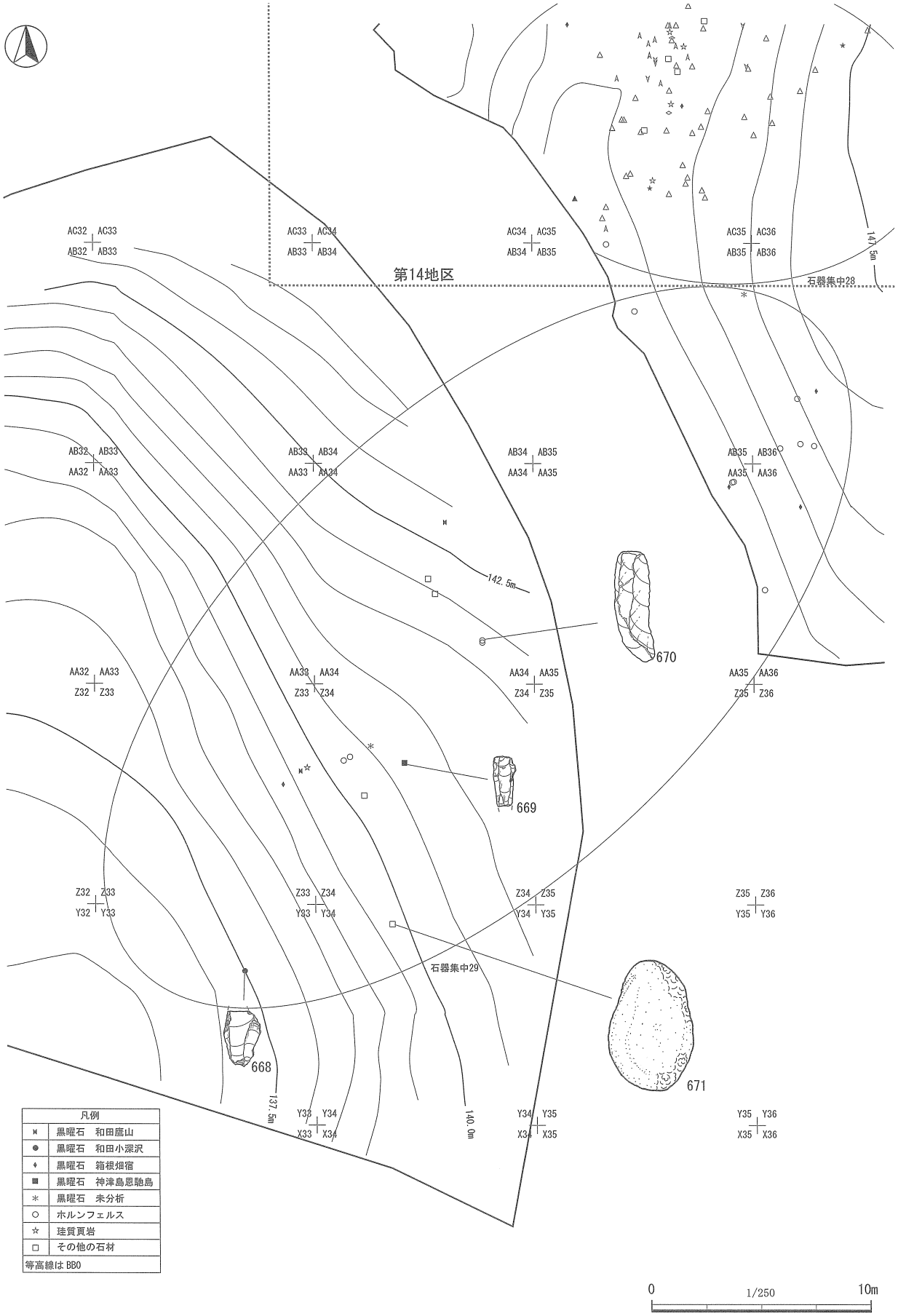
669はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されないが、右縁辺に端部から延びる樋状の細長い二次的剥離痕が認められる。

670はYLで検出されたホルンフェルス製の石刃である。

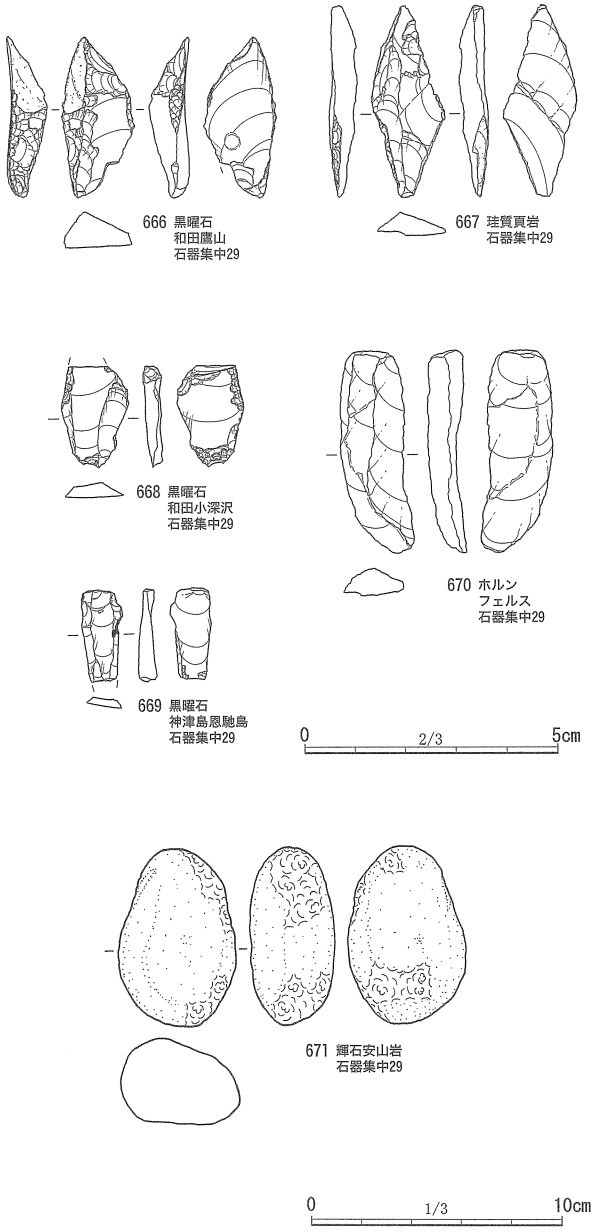
671はYLで検出された輝石安山岩製の敲石である。上下両端と側面の一部に敲打痕がつく。



第257図　第15地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層　器種別分布



第258図　第15地区　第Ⅸ・Ⅹ文化層　石材別分布



第259図　第15地区の石器群

表70　第16地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成

	黒曜石					
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	神津島恩馳島	未分析	流紋岩	計
背部加工ナイフ形石器	1	1			1	3
石刃				1		1
剝片				3		3
細石刃	1		1			2
計	2	1	1	4	1	9

16. 第16地区の石器群（第260・261図、表70）

AA20グリッドからAF19グリッドにかけて伸びる谷部に石器が散在する。石器は9点検出された。信州系黒曜石製と流紋岩製のナイフ形石器のほか、神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃も含まれる。

出土石器の検討（第262図）

672はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。大型の石刃を逆位に用い、右縁辺末端側を急角度な剝離で切り取って基部を整形し、左縁辺全体も切り取って側縁を整形する。また、基部の裏面には側縁及び基部の切断面を打面とする平坦剝離で入念な基部加工を施す。尖端部は衝撃剝離によって失われた可能性が高いが、右縁辺に残る多数の不規則な微細剝離痕は折れてしまった尖端部の縁辺にも及んでいることから、欠損後もなお継続使用されたことが示唆される。

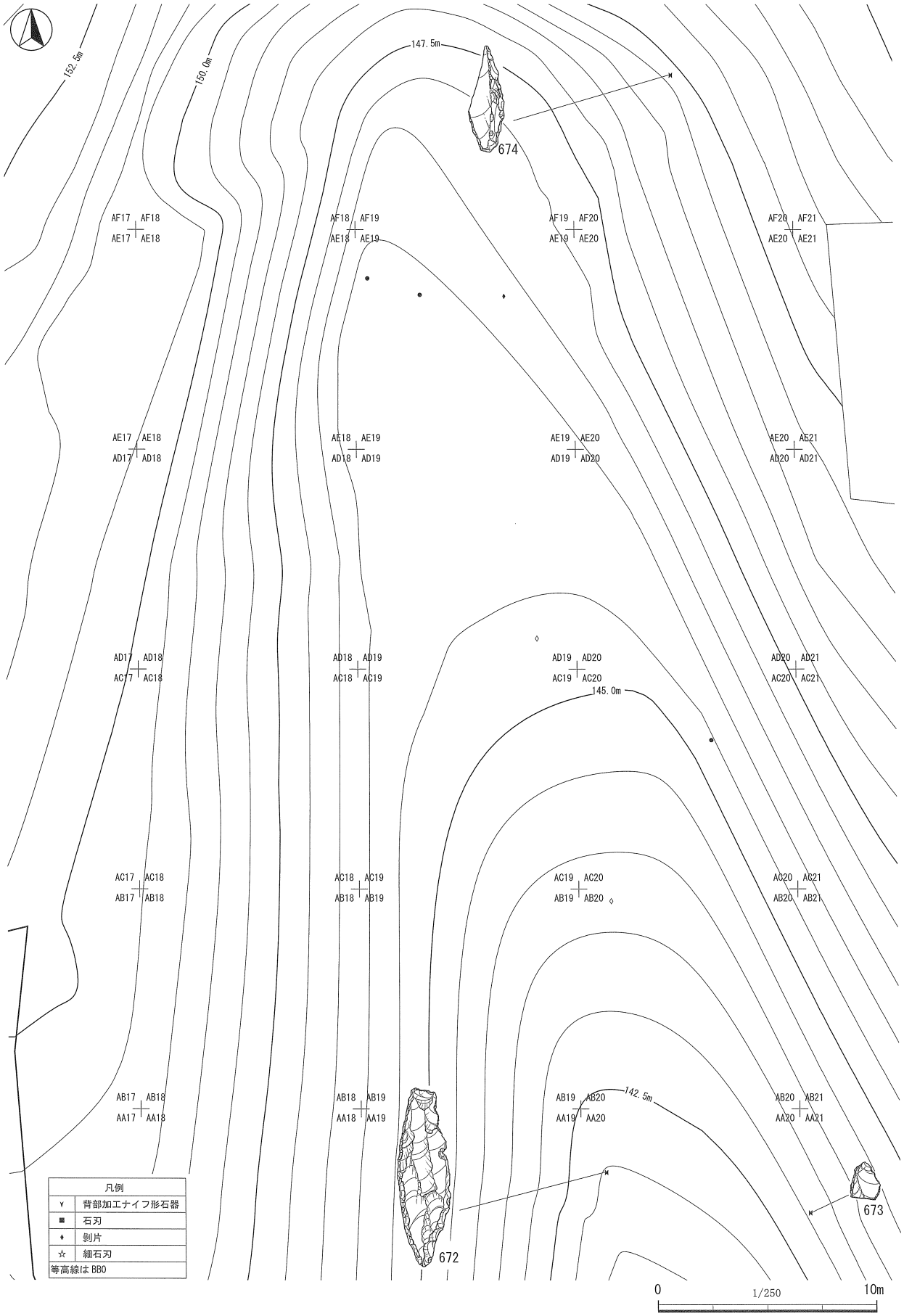
673はZNで検出された蓼科冷山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。素材剝片を逆斜位に用い、末端側を微細な剝離で切り取って基部を整形し、また、打面側を大きく切り取って側縁を整形する。素材剝片が一般的な形態である可能性と、刃部が斜刃を呈することなどから、切出形石器に分類できる可能性もある。ともあれ、基部を失っているのでその形態は不明である。

674はFBで検出された流紋岩製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺の打面を切り取って基部となし、また、左縁辺を打面から端部まで切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。

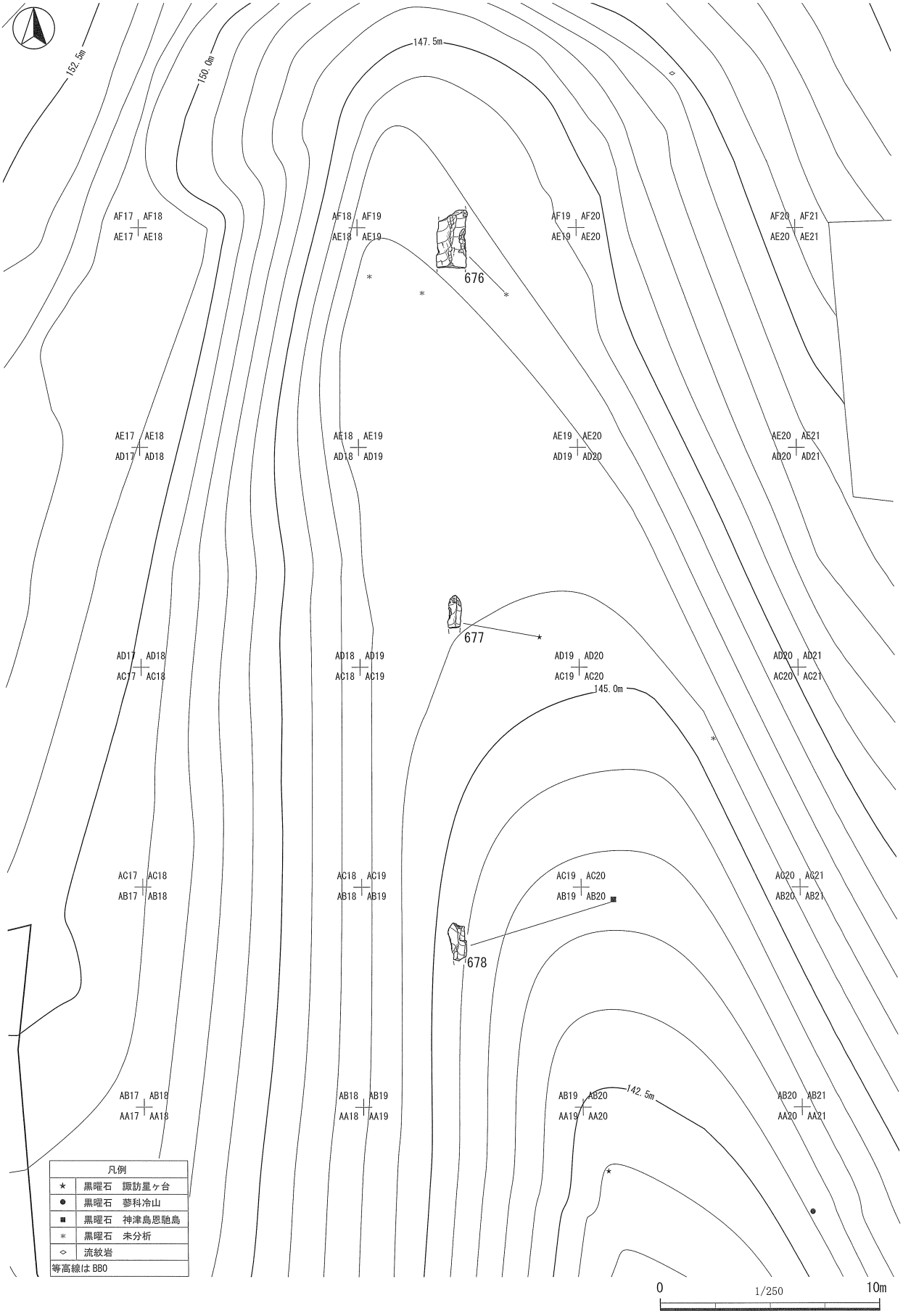
675はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の二次加工剝片である。幅広剝片の右縁辺と末端背面側に急角度の二次加工を施す。地区外に分布。

676はKUで検出された黒曜石製の石刃である。曇っているが透光性があり、斑晶が少し入る質の黒曜石製石刃である。打面と末端が折れている。

677はFBで検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。左縁辺に微細剝離痕が観察される。末端が折れている。

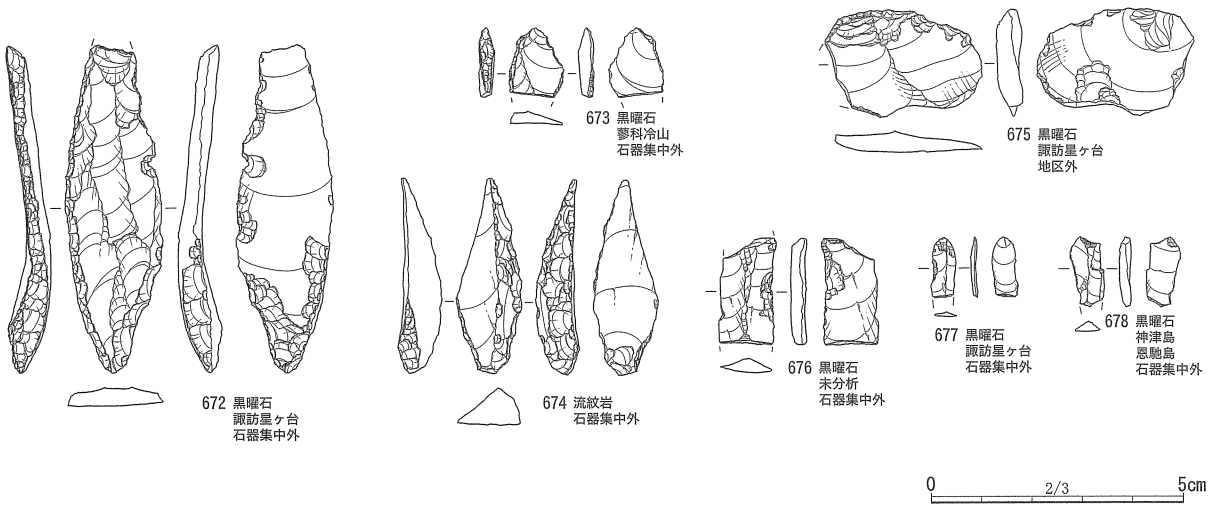


第260図　第16地区　器種別分布



第261図　第16地区　石材別分布

678はKUで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剥離痕は観察されない。末端が折れている。



第262図　第16地区の石器群

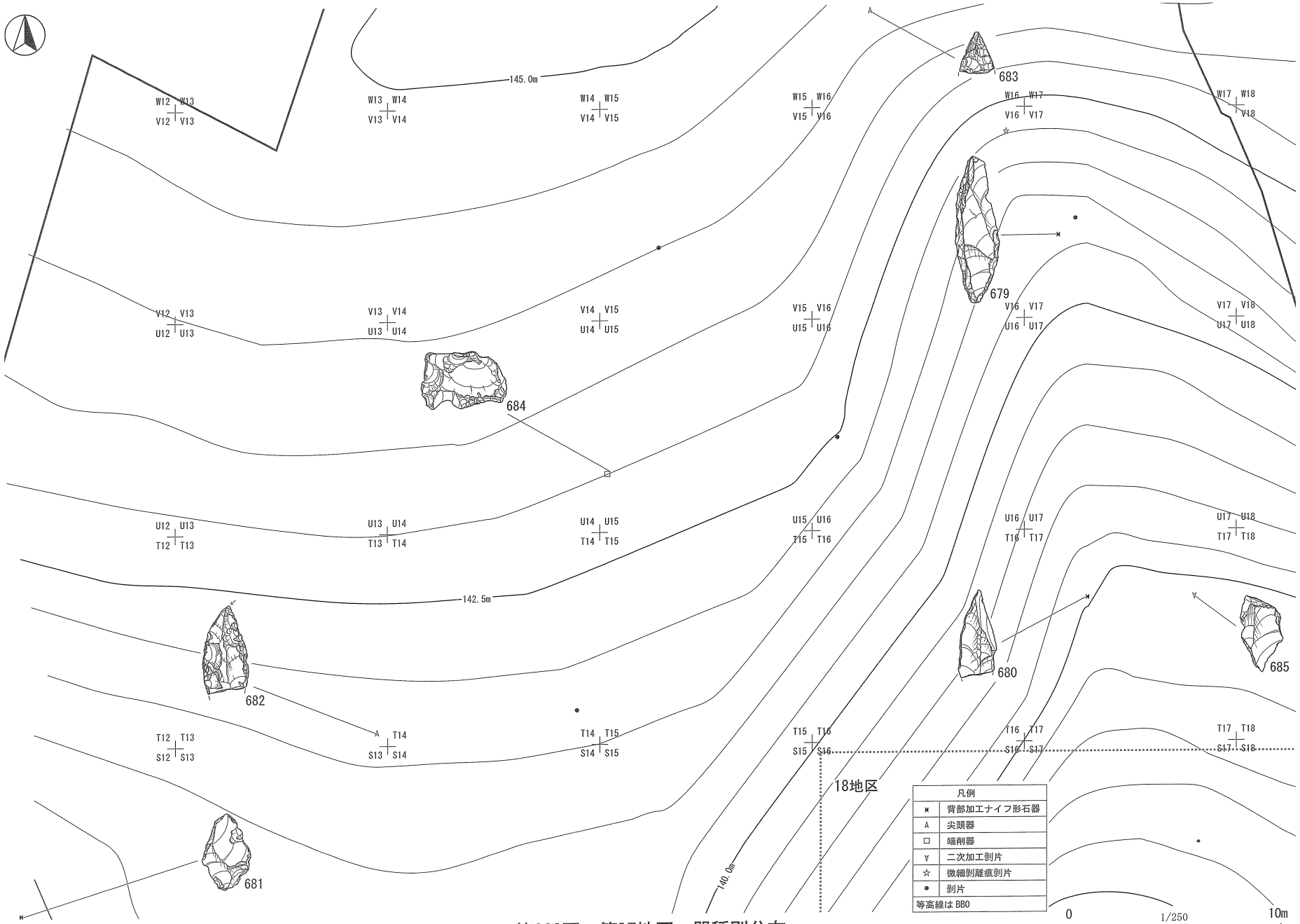
17. 第17地区の石器群（第263・264図、表71）

調査区中央の尾根とその東の谷部に石器が散在する。地形上は尾根部が第3地区、谷部が第18地区とそれぞれ繋がる。

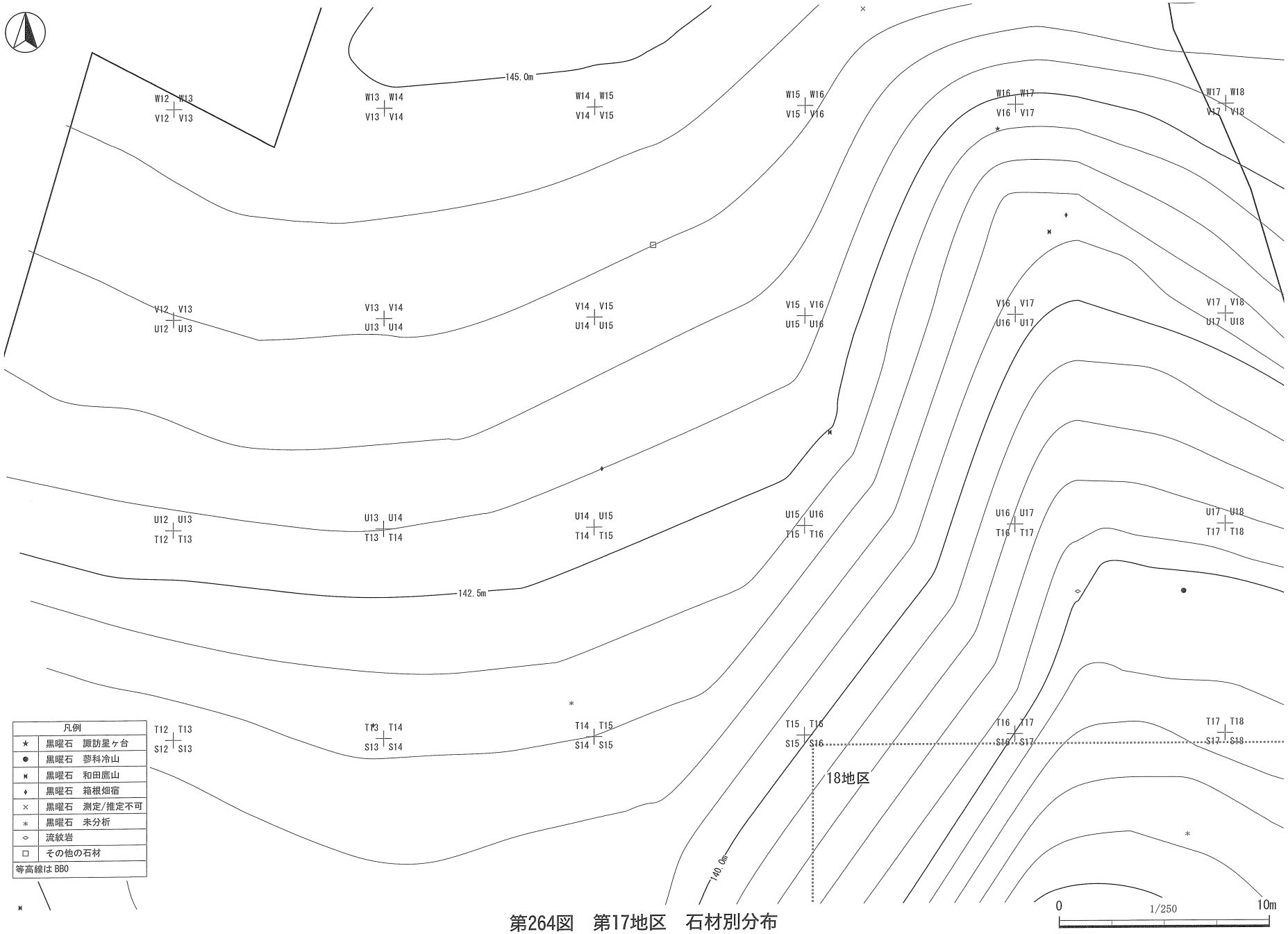
石器は12点検出され、このうち7点までもがナイフ形石器や尖頭器といった二次加工石器類である。剥片類等で構成される石器製作地点を伴わない出土状況は休場層下部上半から次第に一般化する傾向があり、主に愛鷹・箱根編年の第4期に特徴的である。

表71　第17地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成

	黒曜石						流紋岩	輝石安山岩	計
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	和田鷹山	箱根畑宿	測定/推定不可	未分析			
背部加工ナイフ形石器			2				1		3
尖頭器				1	1				2
端削器				1					1
二次加工剥片		1							1
微細剥離痕剥片	1								1
剥片			1	1		1		1	4
計	1	1	3	3	1	1	1	1	12



第263図　第17地区　器種別分布



第264図　第17地区　石材別分布

出土石器の検討（第265図）

679はYLで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左縁辺の打面側を急角度の剝離で切り取って基部となし、また、右縁辺を打面から端部まで切り取って側縁となし、尖頭部を作出する。尖頭部は僅かに折れている。

680はYLで検出された流紋岩製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺を端部まで切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。基部側が折れているのでその形態は不明である。

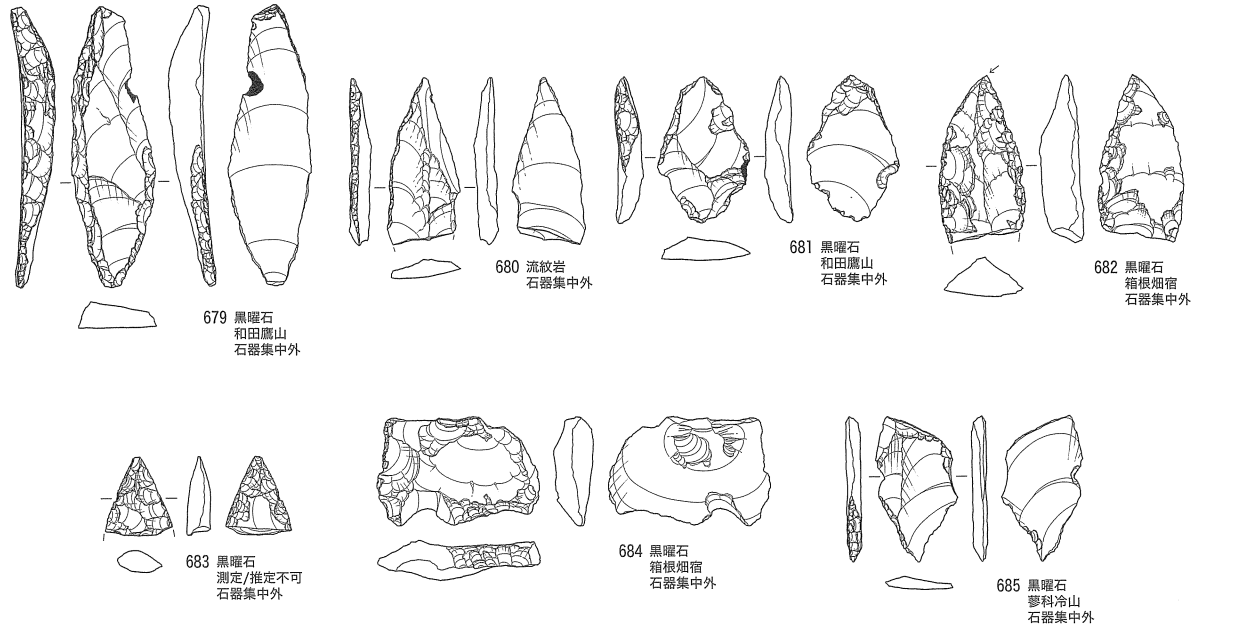
681はFBで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剝片を縦位に用い、右縁辺末端側を斜めに切り取り、また裏面側に彫刀面状の剝離を施して尖頭部を作出する。基部の剝離は二次加工ではなく頭部調整痕と推測される。

682はYLUで検出された箱根畑宿産黒曜石製の尖頭器である。背面と主剝離面の剝離方向が一致し、中央稜も主剝離面の軸と一致することから、石刃を素材とした可能性が高い。二次加工は周縁部に重点が置かれ、内奥に及ぶ剝離面は少ない。先端部には衝撃剝離の可能性がある樋状剝離が認められる。基部は折れている。

683はYLMで検出された黒曜石製の尖頭器である。黒曜石は表面の汚れが多かったためか、望月氏の蛍光X線分析で測定不可とされてしまったが、斑晶がなく雲がかった半透明の状態から信州系の可能性が高い。素材を平坦な剝離で両面加工する。基部側の大半が折れているので全体の特徴は分からない。

684はYLMで検出された箱根畑宿産黒曜石製の端削器である。打面に自然面の付いた一般的剝片の端部に連続的な二次加工を施し抉入状の刃部を作出する。左縁辺には微細剝離痕が多数観察される。

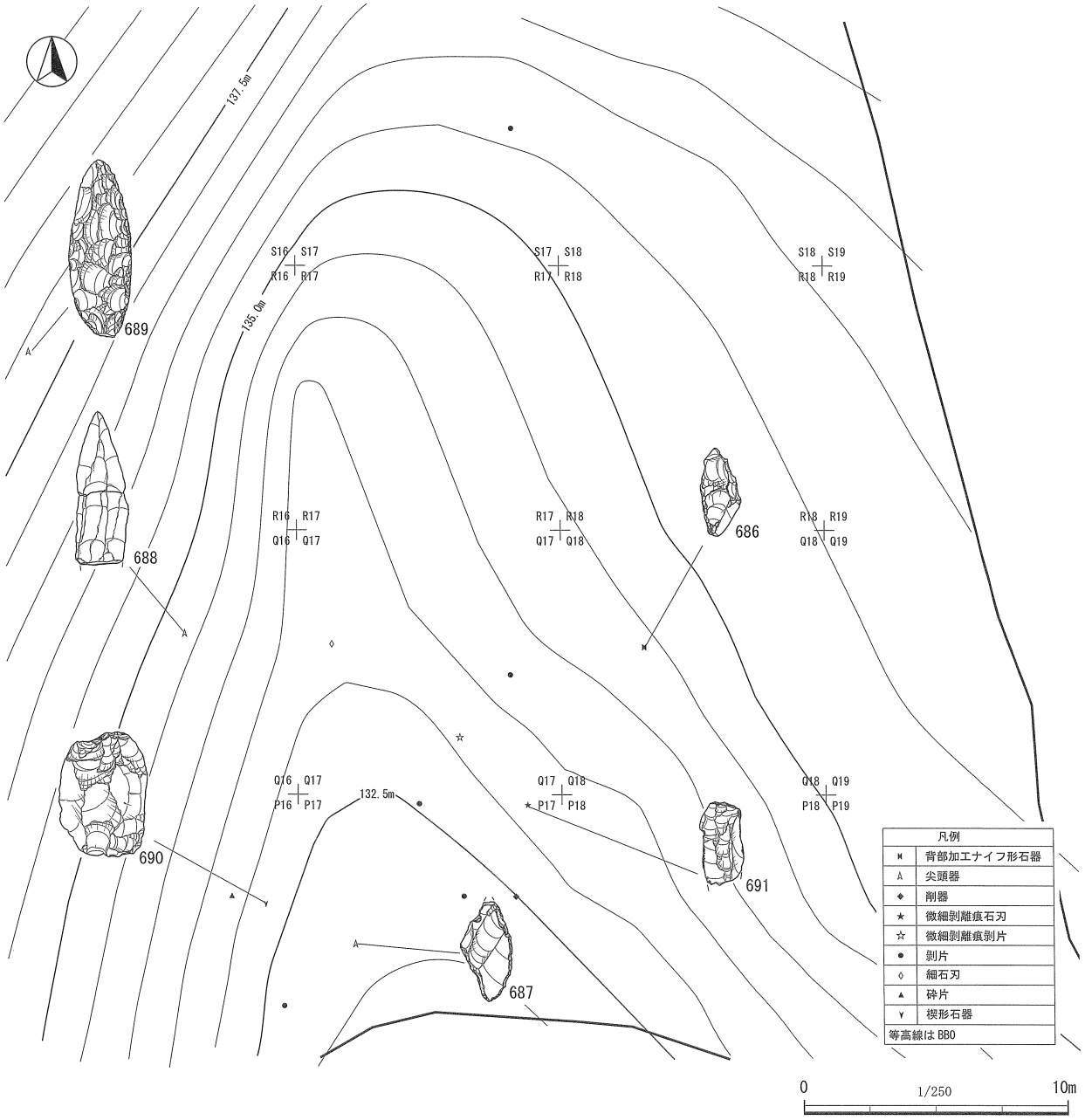
685はFBで検出された蓼科冷山産黒曜石製の二次加工剝片である。石刃の左縁辺端部に急角度の剝離を施して尖頭部を作出する。打面側が失われているので形状は不明であるが、石刃製ナイフ形石器の可能性が高い。



第265図　第17地区の石器群

18. 第18地区の石器群（第266・267図、表72）

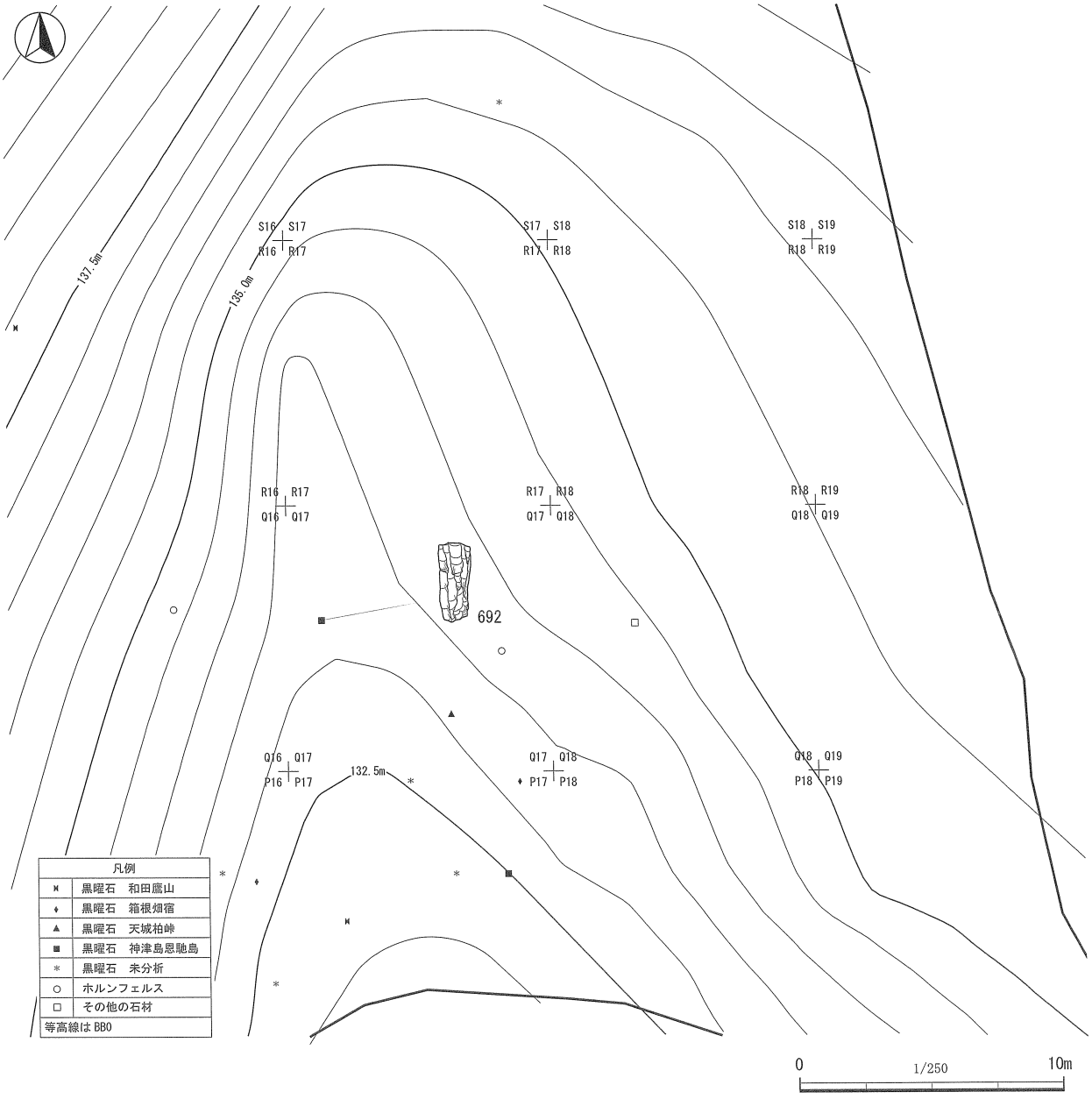
第17地区の谷部を南へ下った範囲にも石器が散在する。特定の時期や石器製作地点を同定できるような組成をなしていない。石器は15点検出されており、このうち5点までもが二次加工石器類である。



第266図　第18地区　器種別分布

表72　第18地区　第Ⅷ-Ｘ文化層　石器組成

	和田鷹山	箱根畑宿	黒曜石 天城柏峠	神津島恩馳島	未分析	瑪瑙	ホルンフェルス	計
背部加工ナイフ形石器						1		1
削器				1				1
尖頭器	2						1	3
微細剝離痕石刃		1						1
微細剝離痕剝片			1					1
剝片					4		1	5
細石刃				1				1
砕片					1			1
楔形石器		1						1
計	2	2	1	2	5	1	2	15



第267図　第18地区　石材別分布

出土石器の検討（第268図）

686はFBで検出された瑪瑙製の背部加工ナイフ形石器である。縦長剥片を縦位に用い、右縁辺の打面部付近に急角度な剥離を施し、さらにこの一連の二次加工部を打面にして左縁辺に樋状の剥離を施し、加えて稜にもわずかな剥離を施し、基部を整形する。また、左縁辺の端部に急角度な剥離を施して尖端部を作出する。

687はFBで検出された和田鷹山産黒曜石製の尖頭器である。一般的剥片を逆位に用い、打面と左縁辺を急角度の剥離で斜めに切り取って基部を整形し、左縁辺を打面部付近から端部までに弧状の側縁を整形する。裏面には右側縁を主体として平坦な剥離を施す。

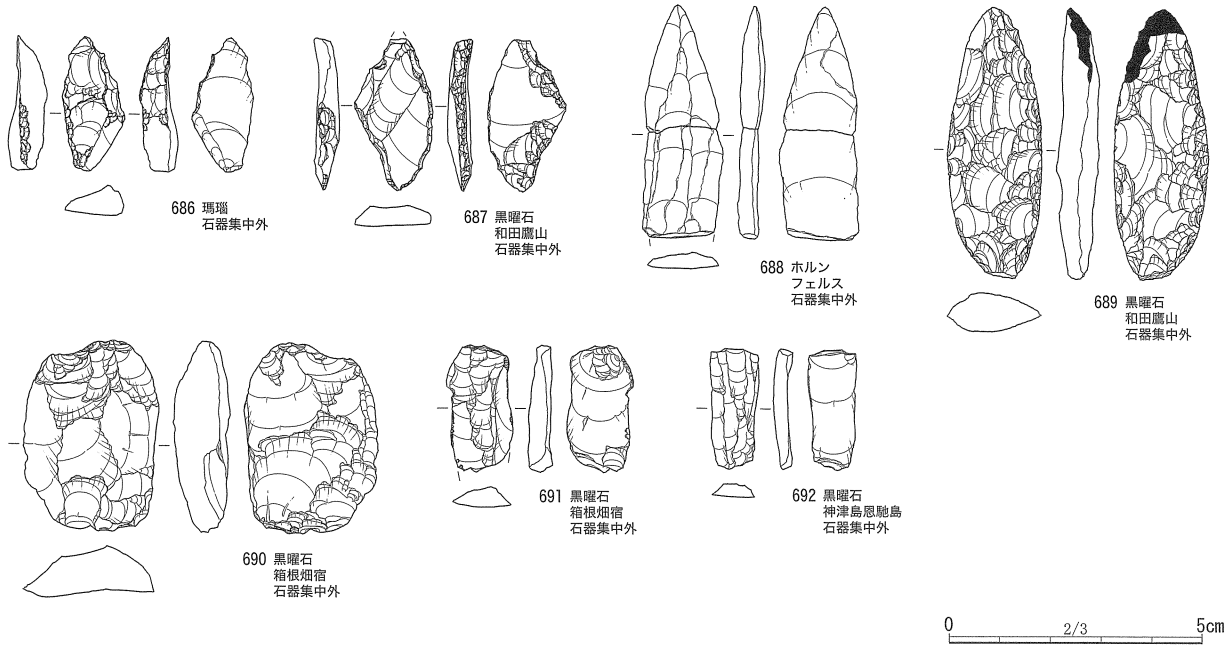
688はYLで検出されたホルンフェルス製の尖頭器である。風化が著しく表面の状態は良くない。石刃かもしれない。

689はYLで検出された和田鷹山産黒曜石製の尖頭器である。素材の両面に平坦な剥離を施し木葉形に整形する。二次加工は右側縁の表面と左側縁の裏面に著しい。基部に自然面を残す。

690はKUで検出された箱根畑宿産黒曜石製の楔形石器である。厚手の剥片に両極剥離を数回程度加える。

691はKUで検出された箱根畑宿産黒曜石製の微細剥離痕石刃である。打面調整を介在する剥片剥離過程から生産される石刃の左縁辺に微細剥離痕が観察される。

692はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。やや厚手である。微細剥離痕は観察されない。打面と末端が折れている。



第268図　第18地区の石器群

19. 第19地区の石器群（第270・271図、表73）

第3地区と第4地区とに挟まれた谷部に石器が散在していた。石器は5点であるが、背部加工ナイフ形石器、尖頭器、石刃、細石刃とトゥールの比率が高い。

表73　第19地区　第Ⅷ-Ⅹ文化層　石器組成

	黒曜石				
	和田 鷹山	和田 小深沢	神津島 恩馳島	ホルン フェルス	計
背部加工ナイフ形石器	1				1
尖頭器		1			1
石刃				1	1
細石刃			2		2
計	1	1	2	1	5

出土石器の検討（第269図）

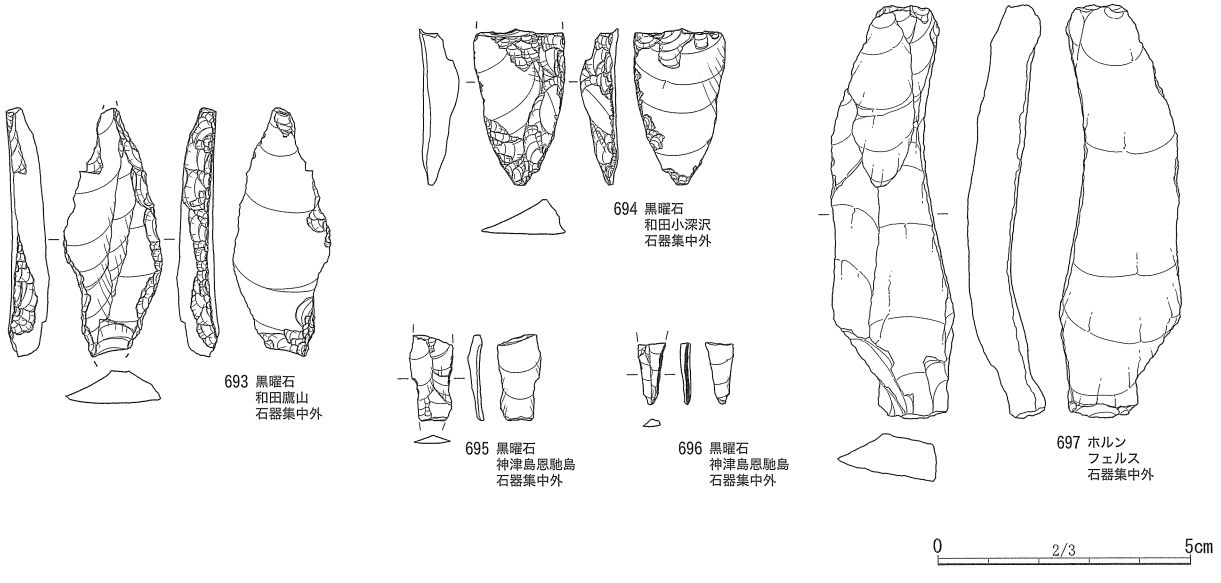
693はFBで検出された和田鷹山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、左縁辺の末端を抉入状に切り取って基部となし、また、右側縁を打面から末端まで弧状に切り取って側縁となし、あわせて尖頭部を作出する。基部裏面には、抉入部を打面とする平坦剝離を施して入念に整形する。尖頭部からは衝撃剝離に起因すると推測される彫刀面状の剝離痕が観察される。

694はYLUで検出された和田小深沢産黒曜石製の尖頭器である。石刃を縦位に用い、右縁辺を急角度な剝離と平坦な剝離とを併用して整形し左側縁となし、左縁辺の端部側を平坦な剝離で整形するとともに尖頭部を作出する。

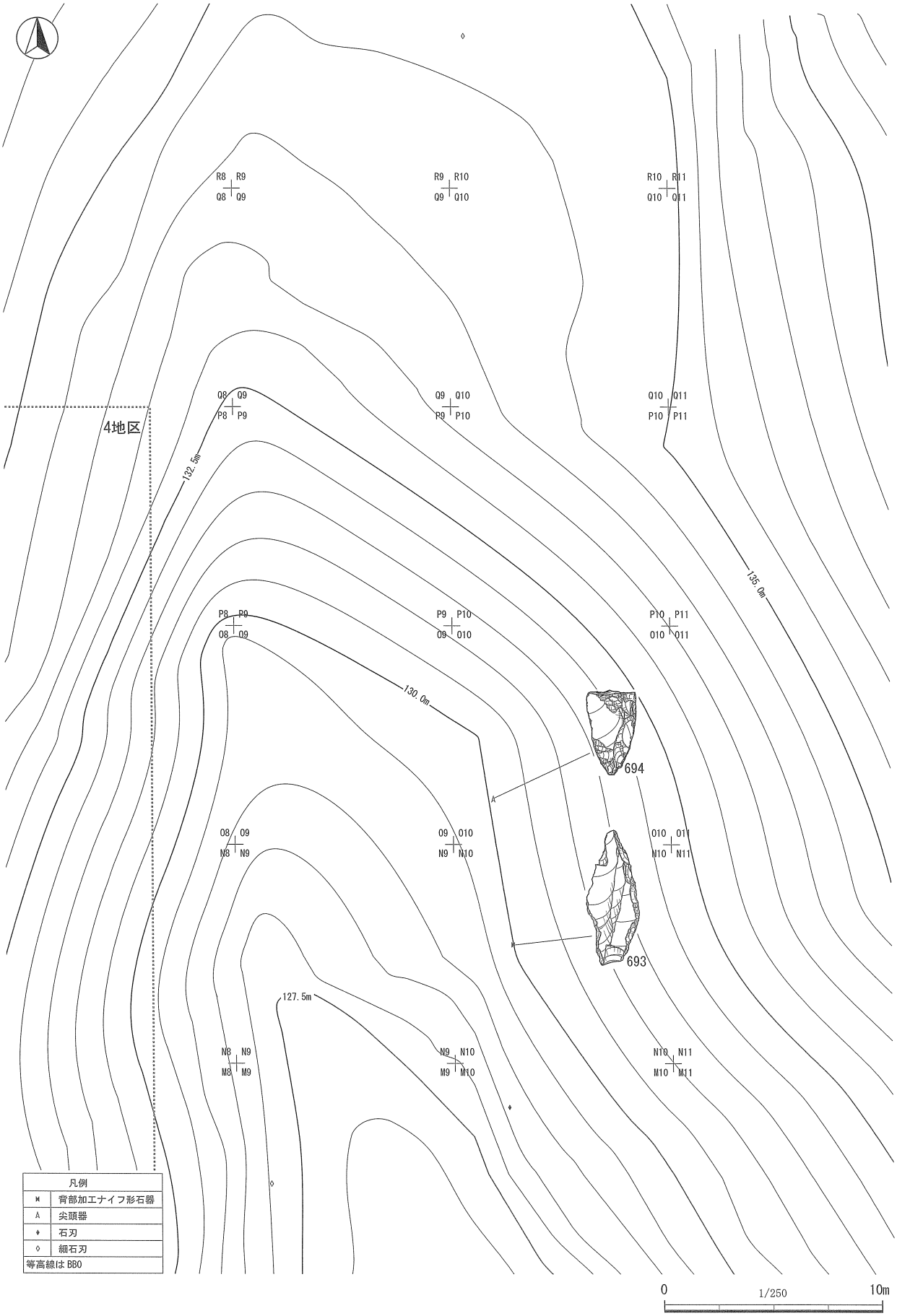
695はFBで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剝離痕は観察されない。打面と末端は発掘時に欠損した。

696はYLUで検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剝離痕は観察されない。打面が折れている。

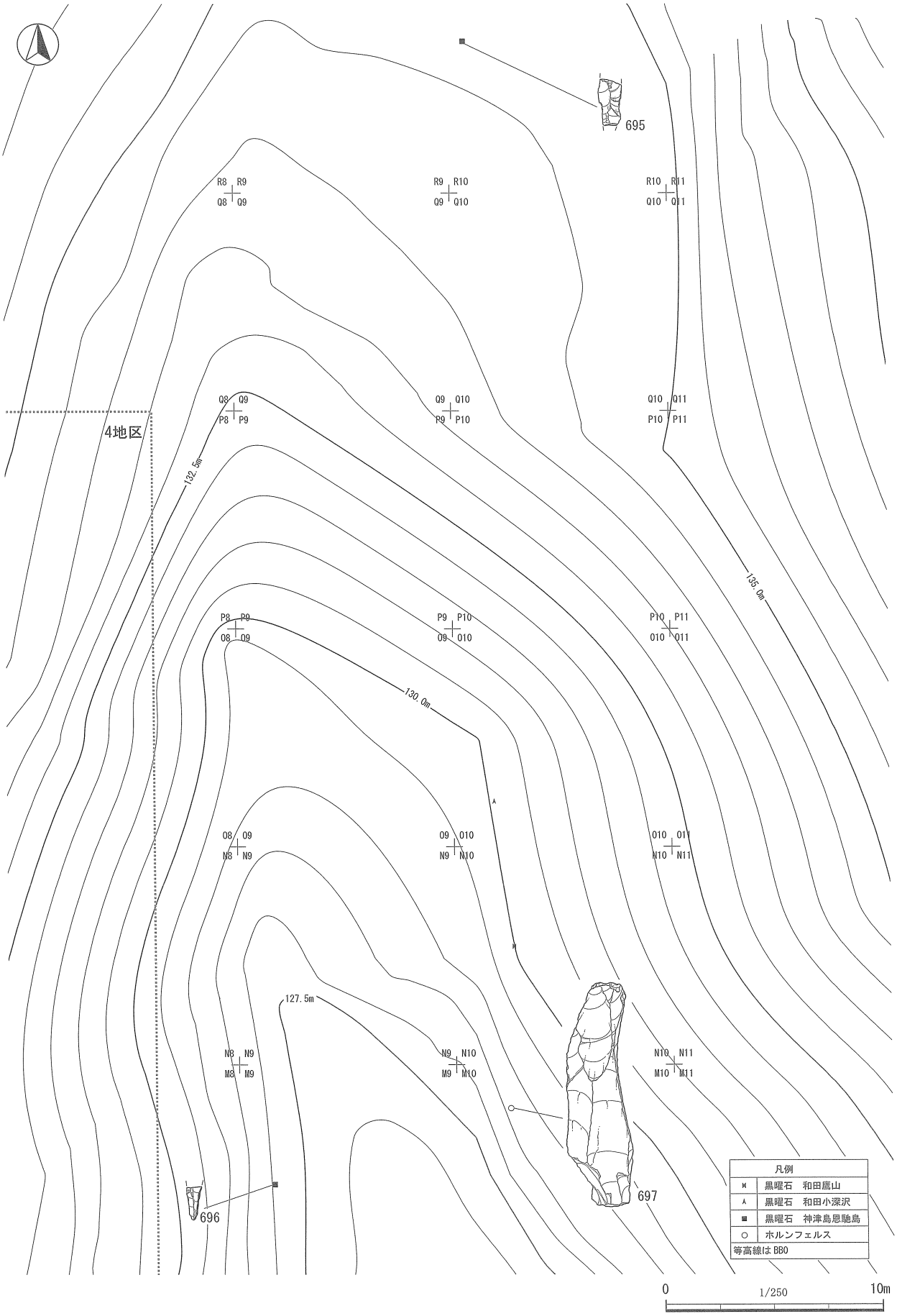
697はZNで検出されたホルンフェルス製の石刃である。両設打面の石刃核から剝離されたもので、末端には反対側の石核打面を取り込んでいる。



第269図　第19地区の石器群



第270図　第19地区　器種別分布



第271図　第19地区　石材別分布

20. その他の石器群（第272図、表74）

旧石器時代の石器であるが、以上の計20地区の外部に分布し、且ついずれの地区にも帰属させられない場所に分布していた石器、表面採集資料、撹乱出土資料などをここに一括して提示する。

698は5号古墳覆土内で検出されたホルンフェルス製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、右縁辺の打面側を急角度な剝離で斜めに切り取って基部を整形し、また、左縁辺の端部側も急角度な剝離で基部と平行してやや弧状に切り取って側縁を整形し、尖端部を作出する。

699は原位置不明の諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。一般的剝片を逆斜位に用い、自然面の残る末端を微細な剝離で整形し、また、打面側を急角度な剝離で大きく切り取り側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。

700は表面採集された諏訪星ヶ台産黒曜石製の切出形石器である。一般的剝片を横位に用い、末端を切り取って側縁を整形するとともに尖頭部を作出する。打面には微細な剝離痕が認められるが、主剝離面との接点がないため、二次加工かどうか判断できない。基部は折れている。

701は表土で検出された蓼科冷山産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、右縁辺末端の折れ面を打面として彫刀面作出に類似する剝離を施して基部を整形し、また、左縁辺の末端から打面までも切り取って側縁を整形し、尖頭部も作出する。

702は表土で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を縦位に用い、左右縁辺の打面部付近に急角度な剝離で基部を整形し、また、左縁辺に類鱗状の剝離を施して側縁を整形し、尖頭部も作出する。

703は原位置不明の諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、左側縁の端部側に急角度の剝離を施して抉入状の基部を整形し、また、右縁辺の打面側も切り取って側縁を整形して、おそらくは尖頭部を作出すると推測される。基部裏面は平坦剝離で入念に整形する。尖頭部は尖端からの衝撃剝離によって欠損した可能性が高い。

704は表土で検出された珪質頁岩製の背部加工ナイフ形石器である。石刃を逆位に用い、左縁辺の末端側を切り取って基部となし、また、右縁辺を末端から打面まで切り取って弧状を呈する側縁を整形し、併せて尖頭部を作出する。

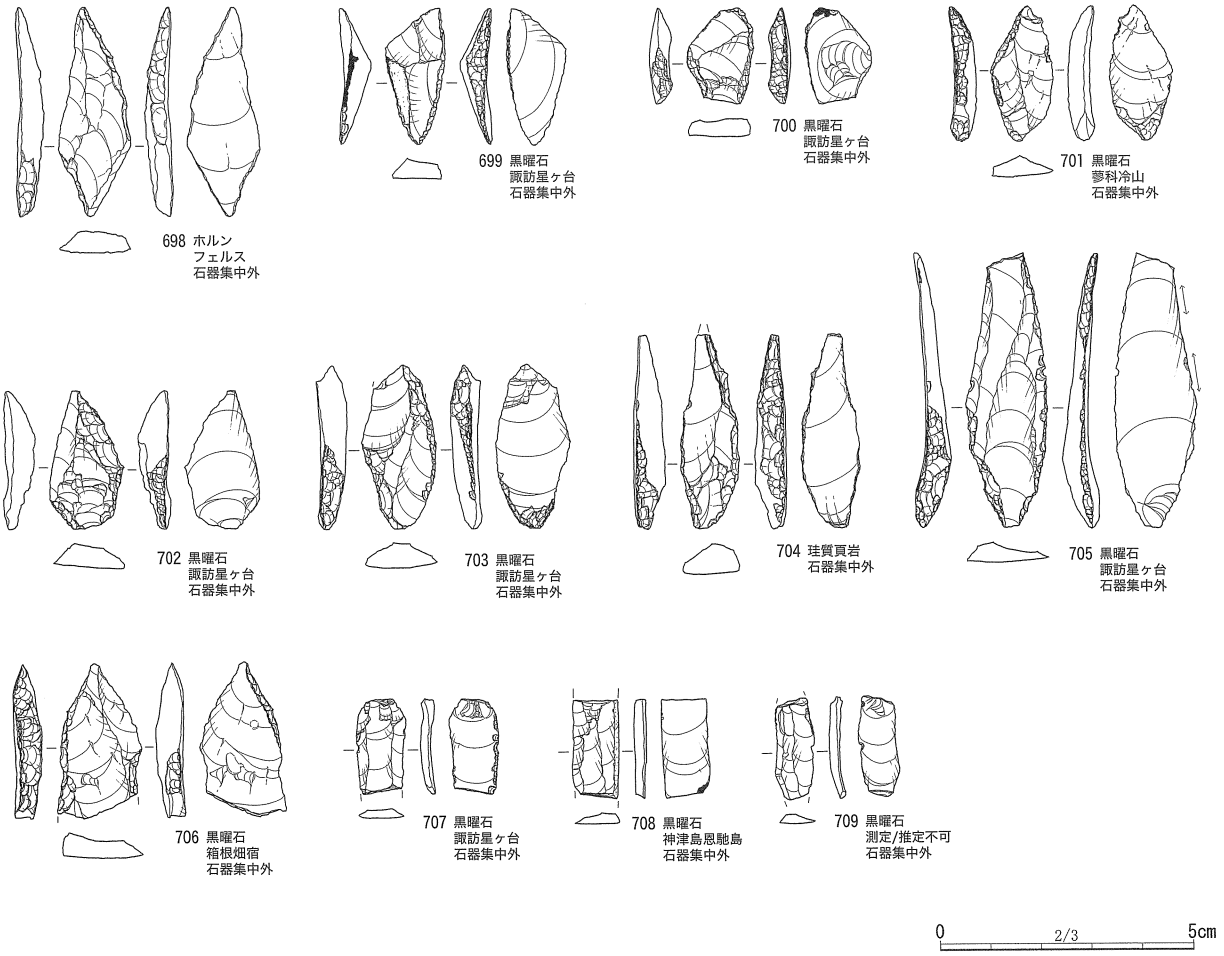
705は表土で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。180°打面転移する石刃核の剝離過程で得られたと推定される大型の石刃を縦位に用い、打面とその付近の右縁辺を急角度な剝離で切り取って基部を整形し、また、この基部加工に連続して左縁辺全体を切り取って側縁を整形し、おそらくは尖頭部を作出する。

706は4号溝の覆土内で検出された箱根畑宿産黒曜石製の背部加工ナイフ形石器である。一般的剝片を横位に用い、末端を急角度な剝離で切り取りやや内湾する基部を整形し、打面側全体を切り取って側縁を整形する。基部が折れているので全体形状は不明である。

707は表土で検出された諏訪星ヶ台産黒曜石製の細石刃である。打面調整痕が観察され、また幅広であることも考慮すると、石刃の剝離過程中に生産されたものと推測される。

708は表土で検出された神津島恩馳島産黒曜石製の細石刃である。微細剝離痕は観察されない。打面と末端が折れている。右縁辺に自然面を残す。

709は4号溝覆土で検出された黒曜石製の細石刃である。産地推定結果は測定/推定不可だったが、透光性が高く無斑晶の石質であることから、信州系の可能性がある。微細剝離痕は観察されない。打面と末端が折れている。



第272図　その他の石器群

表74　その他の石器群　石器組成

	黒曜石						ガラス質			
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	箱根畑宿	神津島恩馳島	測定/推定不可	未分析	黒色安山岩	珪質頁岩	ホルン フェルス	計
背部加工ナイフ形石器	3	1	1					1	1	7
二次加工剝片						1				1
切出形石器	2					1				3
石刃					1				1	2
剝片						2	1		7	10
細石刃	1			1	1					3
砕片						5				5
石刃核									1	1
計	6	1	1	1	2	9	1	1	10	32

表75　旧石器時代石器群　接合資料　器種組成

文化層	接合番号	石材	産地	個体番号	礫器加工ナイフ形石器	切出形石器	端削器	側削器	鋸歯縁削器	二次加工剥片	微細剥離痕剥片	稜付石刃	石刃	剥片	砕片	楔形石器	石核	敲石	石皿	計
II	31	ホルンフェルス		6										1			1			2
II	32	ホルンフェルス		7			1							1						2
II	33	ホルンフェルス		7							1			1						2
II	34	ホルンフェルス		10									1	1						2
II	35	ホルンフェルス		10										2						2
II	37	ホルンフェルス		12										3						3
II	39	ホルンフェルス		18										2						2
II	43	ホルンフェルス		19 A										1			1			2
II	45	ホルンフェルス		20										2						2
II	46	ホルンフェルス		20										2						2
II	47	ホルンフェルス		21										5			1			6
II	48	ホルンフェルス		21										3						3
II	49	ホルンフェルス		22										3						3
II	50	ホルンフェルス		22										3						3
II	51	ホルンフェルス		22										1			1			2
II	52	ホルンフェルス		23 A										2						2
II	53	ホルンフェルス		23 A										3						3
II	54	ホルンフェルス		23 A										2						2
II	55	ホルンフェルス		23 B						1				1						2
II	56	ホルンフェルス		23 B										6						6
II	57	ホルンフェルス		23 B										2						2
II	58	ホルンフェルス		23 B										1			1			2
II	59	ホルンフェルス		24										4						4
II	60	ホルンフェルス		24										2						2
II	61	ホルンフェルス		24										3			1			4
II	62	ホルンフェルス		24										2			1			3
II	63	ホルンフェルス		24										2			1			3
II	97	黒曜石	諏訪星ヶ台	2							1					1				2
III	23	黒曜石	天城柏峠	2										2						2
III	107	黒曜石	天城柏峠	1										2						2
III	108	黒曜石	天城柏峠	1										2			1			3
III	109	黒曜石	天城柏峠	1										1	1					2
III	110	黒曜石	天城柏峠	2										4						4
III	111	黒曜石	天城柏峠	2										2						2
III	112	黒曜石	天城柏峠	3										4						4
III	113	黒曜石	天城柏峠	4					1					1						2
IV	36	ホルンフェルス		12										2						2
IV	38	ホルンフェルス		13										2						2
IV	40	ホルンフェルス		19 A										4						4
IV	41	ホルンフェルス		19 A										2						2
IV	42	ホルンフェルス		19 A										2						2
IV	44	ホルンフェルス		19 B										2						2
VI	91	黒曜石	箱根畑宿	3										2						2
VII	1	粗粒玄武岩		1										1			1			2
VII	73	ホルンフェルス		54										2						2
VII	74	ホルンフェルス		62										1	1					2
VII	80	ホルンフェルス		100										1	1					2
VII	116	黒曜石	天城柏峠	6										2						2
VII	122	黒曜石	神津島恩馳島	3										1	1					2
VII	128	ガラス質黒色安山岩		13 A										1			1			2
VIII	65	ホルンフェルス		26										5			1			6
VIII	66	ホルンフェルス		29										2						2
VIII	78	ホルンフェルス		92										2						2
VIII	92	黒曜石	箱根畑宿	6										2						2
VIII	93	黒曜石	箱根畑宿	7										2						2
VIII	99	黒曜石	諏訪星ヶ台	26		1					3									4
VIII	100	黒曜石	諏訪星ヶ台	30										2						2
VIII	114	黒曜石	天城柏峠	6										1			1			2
VIII	115	黒曜石	天城柏峠	6						1							1			2
VIII	117	黒曜石	天城柏峠	7										2			1			3
VIII	118	黒曜石	天城柏峠	8			1							1						2
VIII	127	ガラス質黒色安山岩		9 A										1			1			2

文化層	接合番号	石材	産地	個体番号	礫器加工ナイフ形石器	切出形石器	端削器	側削器	鋸歯縁削器	二次加工剥片	微細剥離痕剥片	稜付石刃	石刃	剥片	砕片	楔形石器	石核	敲石	石皿	計
Ⅷ	130	ガラス質黒色安山岩		16										1			1			2
Ⅷ	157	チャート		1						1	1			3						5
Ⅷ	158	硬質細粒凝灰岩		9										2			1			3
Ⅷ	160	赤玉石		1										2			1			3
Ⅷ	164	黒曜石	諏訪星ヶ台	108										2	1					3
Ⅷ	165	黒曜石	諏訪星ヶ台	108							1			1						2
Ⅷ	167	デイサイト		0										2						2
Ⅸ	19	粗粒砂岩		0														5		5
Ⅸ	67	ホルンフェルス		39									1	1						2
Ⅸ	69	ホルンフェルス		40										1	1					2
Ⅸ	70	ホルンフェルス		40										2						2
Ⅸ	79	ホルンフェルス		100													2			2
Ⅸ	95	黒曜石	箱根畑宿	18							1			1						2
Ⅸ	132	ガラス質黒色安山岩		33										1			1			2
Ⅸ	152	珪質シルト岩		1 A										1			1			2
Ⅸ	153	珪質シルト岩		1 A										2						2
Ⅸ	166	黒曜石	箱根畑宿	13										1			1			2
Ⅷ–Ⅹ	75	ホルンフェルス		67									1	1						2
Ⅷ–Ⅹ	131	ガラス質黒色安山岩		19										2						2
Ⅷ–Ⅹ	133	ガラス質黒色安山岩		34								2								2
Ⅷ–Ⅹ	134	流紋岩		3										1			1			2
Ⅷ–Ⅹ	155	珪質シルト岩		5										2			1			3
Ⅷ–Ⅹ	159	緑色凝灰岩		5										2						2
Ⅷ・Ⅸ	20	輝石安山岩		0															2	2
Ⅷ・Ⅸ	68	ホルンフェルス		39										1			1			2
Ⅷ・Ⅸ	71	ホルンフェルス		45										2			1			3
Ⅷ・Ⅸ	85	ホルンフェルス		171										1			1			2
Ⅷ・Ⅸ	94	黒曜石	箱根畑宿	10										2						2
Ⅷ・Ⅸ	156	珪質シルト岩		7										2						2
Ⅷ・Ⅸ	163	黒曜石	諏訪星ヶ台	10	1					1										2
Ⅸ・Ⅹ	64	ホルンフェルス		25				1			2		1	22			1			27
Ⅸ・Ⅹ	72	ホルンフェルス		49 B										2						2
Ⅸ・Ⅹ	76	ホルンフェルス		92										4						4
Ⅸ・Ⅹ	77	ホルンフェルス		92										1			1			2
Ⅸ・Ⅹ	119	黒曜石	和田鷹山	24							1				1					2
Ⅸ・Ⅹ	123	ガラス質黒色安山岩		6 A										7						7
Ⅸ・Ⅹ	124	ガラス質黒色安山岩		6 A										2						2
Ⅸ・Ⅹ	125	ガラス質黒色安山岩		6 D										2						2
Ⅸ・Ⅹ	126	ガラス質黒色安山岩		8				2												2
Ⅸ・Ⅹ	129	ガラス質黒色安山岩		14 A										3						3
Ⅸ・Ⅹ	135	流紋岩		6										2						2
Ⅸ・Ⅹ	136	細粒安山岩		1										1			1			2
Ⅸ・Ⅹ	137	細粒安山岩		1										1	1					2
Ⅸ・Ⅹ	148	珪質頁岩		2										2						2
計					1	1	2	3	1	4	11	2	4	212	8	1	32	5	2	289

21. 礫群

概要

礫群は、礫の点数、集中密度、構成礫の大きさから認定した。休場層出土の礫群はその包含層準に応じて休場層下部を第Ⅷ文化層、休場層下部上半から休場層中部を第Ⅸ文化層、休場層上部を第Ｘ文化層とした。本章の「概要」にも記したが、休場層の文化層は基本的にこの礫群の包含層を基準に決定している。以下は文化層ごとに提示する。

（１）第Ⅷ文化層（第273図）

休場層下部または休場層下層（YLL）を中心に包含される礫群を14基識別した。すべてが同じ時期ではなく、一部が同層の中でも高い層準から検出され、複数の異なる時期の礫群が含まれている。

49号礫群（第274図）　第11地区Z2グリッドの南西隅に分布し、YLLの上部に集中する。礫15点で構成される。かなり近い場所に第Ⅸ文化層の48号・50号礫群も分布する。

38号礫群（第275図）　J0グリッドに分布し、YL下部の高い層準（つまりBB0上面から離れて）に集中する。礫19点で構成される。なお、この礫群の北部にもたくさんの礫が分布し、同層準から検出されているが、小型礫が多く、大型品が集中していなかったので遺構としては扱わなかった。

・第5地区4号・6号・7号・9号・10号礫群の分布（第276図）

5基の礫群が近い範囲に密集した状態で検出された。礫群同士の接合関係は乏しいが、これらの礫群に重複して石器集中が検出され、その内部の石器同士に接合関係がある。7号の一部が第Ⅶ文化層5号礫群と接合関係がある。時期をこえて礫の抜き取りがあったと推測される。

4号礫群（第277図）　第5地区K7グリッドに分布し、YL下部を底面とする。礫6点で構成される。ただし、半分は上位層に浮き上がっている。

6号礫群（第278図）　第5地区K5グリッド東南隅に分布し、YL下部の最下部に包含される。礫102点で構成される。H1グリッドに分布する礫と接合関係がある（礫接合7）。

7号礫群（第279図）　第5地区K5グリッド北部に分布し、YL下部の最下部に包含される。礫103点で構成される。第Ⅶ文化層5号礫群と接合関係がある（礫接合446）。

9号礫群（第280図）　第5地区K5グリッド中央部に分布し、YL下部の最下部に包含される。礫95点で構成される。

10号礫群（第281図）　第5地区K5グリッド南部に分布し、YL下部の高いところに分布する。礫23点で構成される。

22号礫群（第282図）　第3地区Q14グリッドに分布し、YL下部に集中する。礫4点で構成される。

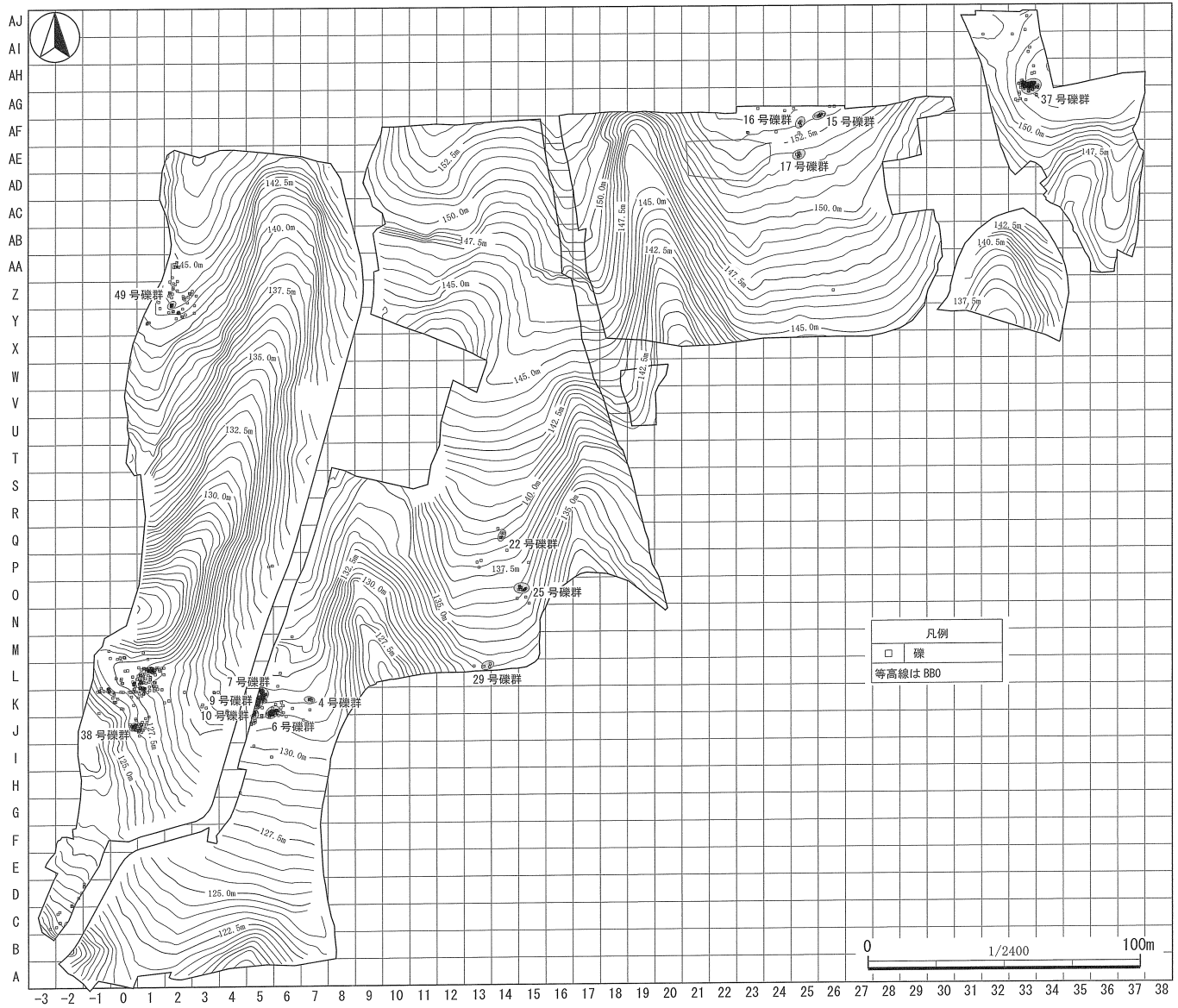
25号礫群（第283図）　第3地区O15グリッドに分布し、YL下部に集中する。礫15点で構成される。

29号礫群（第284図）　第3地区L13グリッドに分布し、YL下部に集中する。礫3点で構成される。

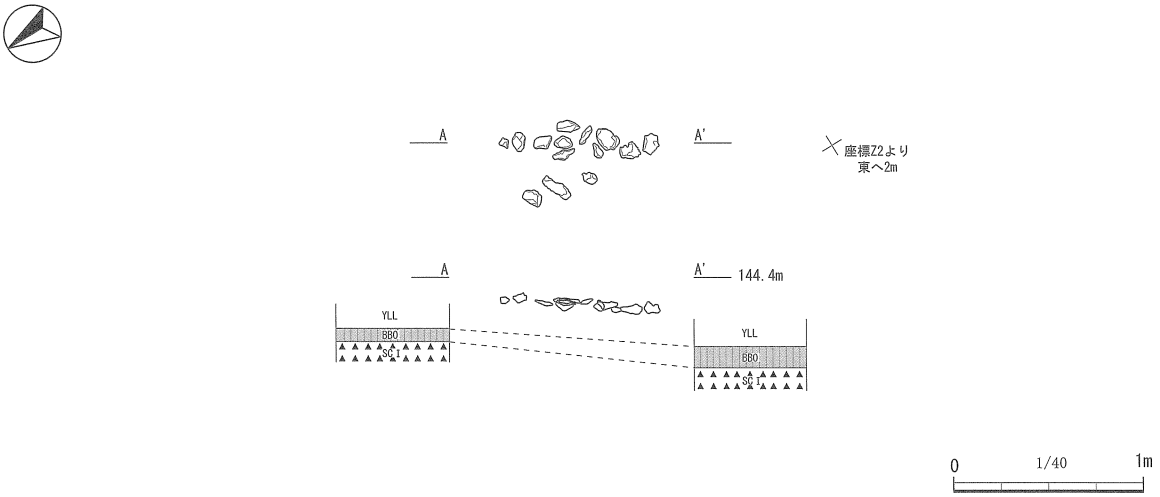
・第1地区15号・16号・17号礫群の分布（第285図）

この地区の礫群はどれも構成礫数が少ない。しかし同じ範囲に分布する石器群とは関係がありそうだ。「第6章まとめ」であらためて触れることになるが、第Ⅷ文化層にはこのようにわずかに層準が高く種類の異なる石器群が包括されている。

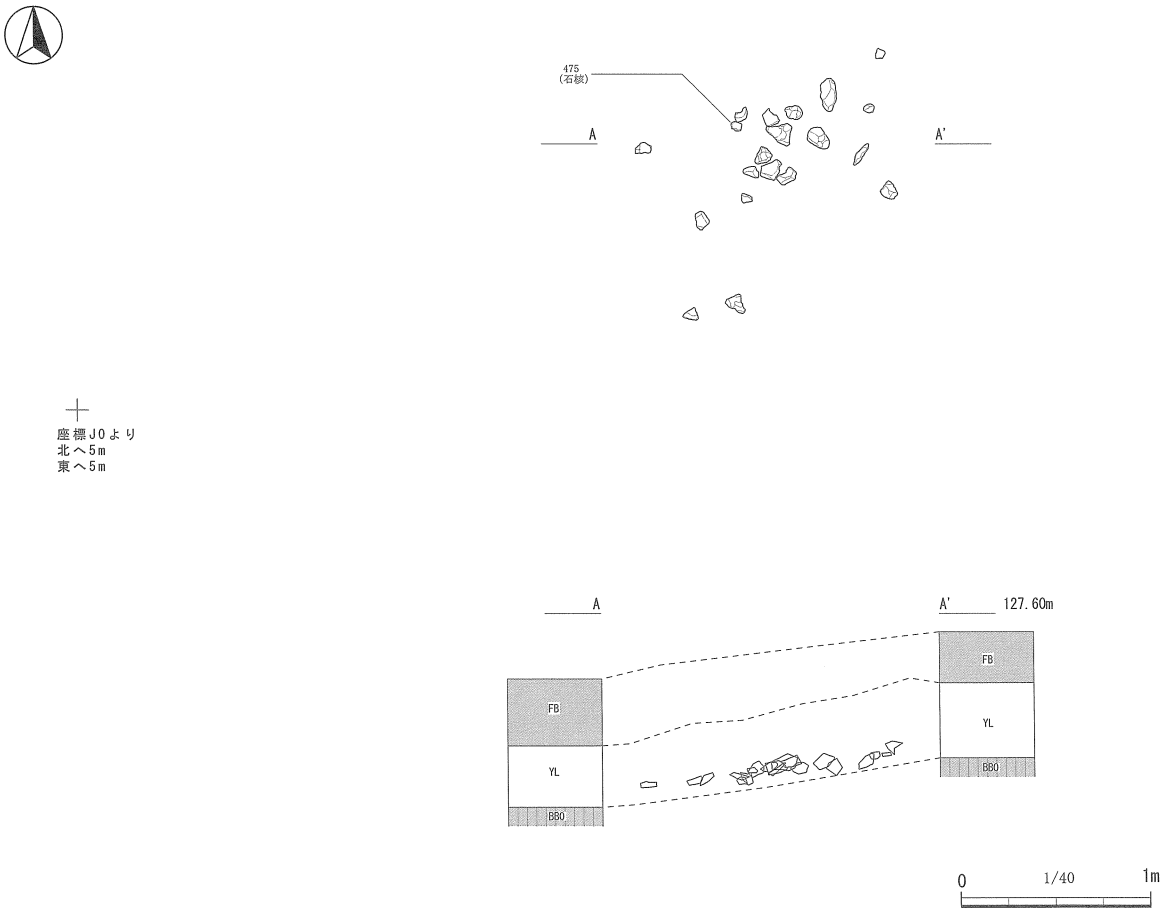
15号礫群（第286図）　第1地区AF26グリッドを中心に分布し、YLLの高い層準に集中する。礫9点で構成さ



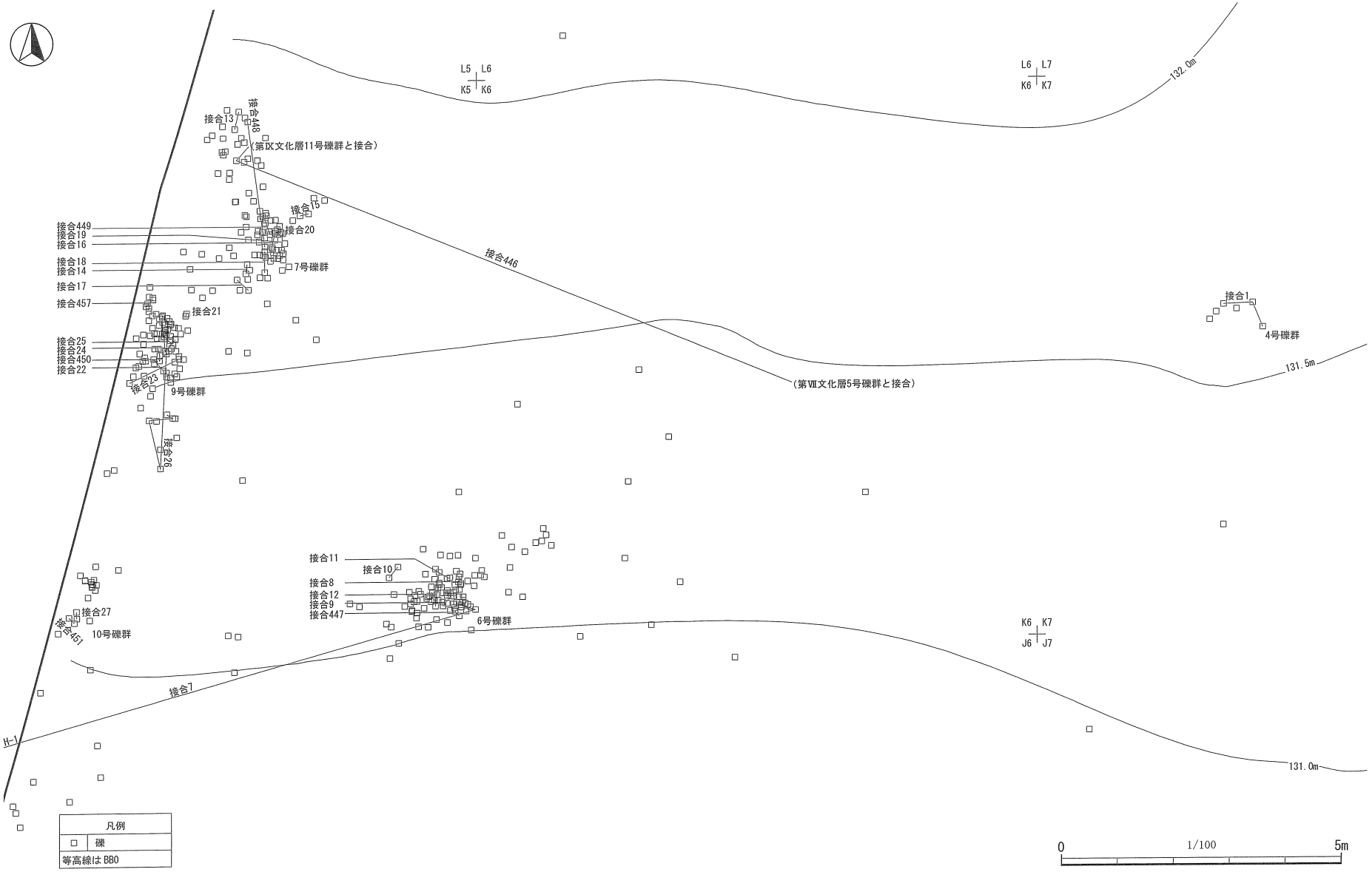
第273図　第Ⅷ文化層　礫分布



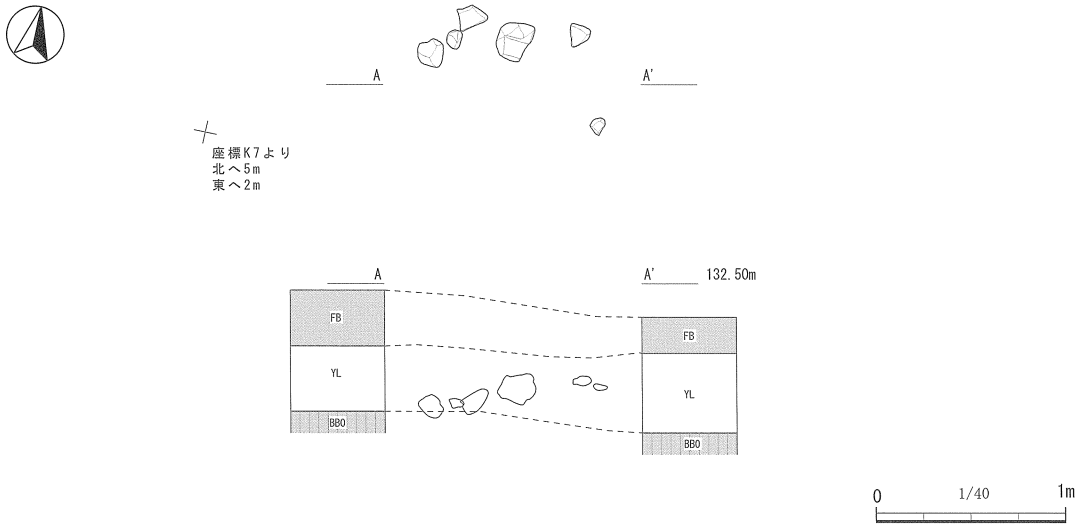
第274図　第Ⅷ文化層　49号礫群



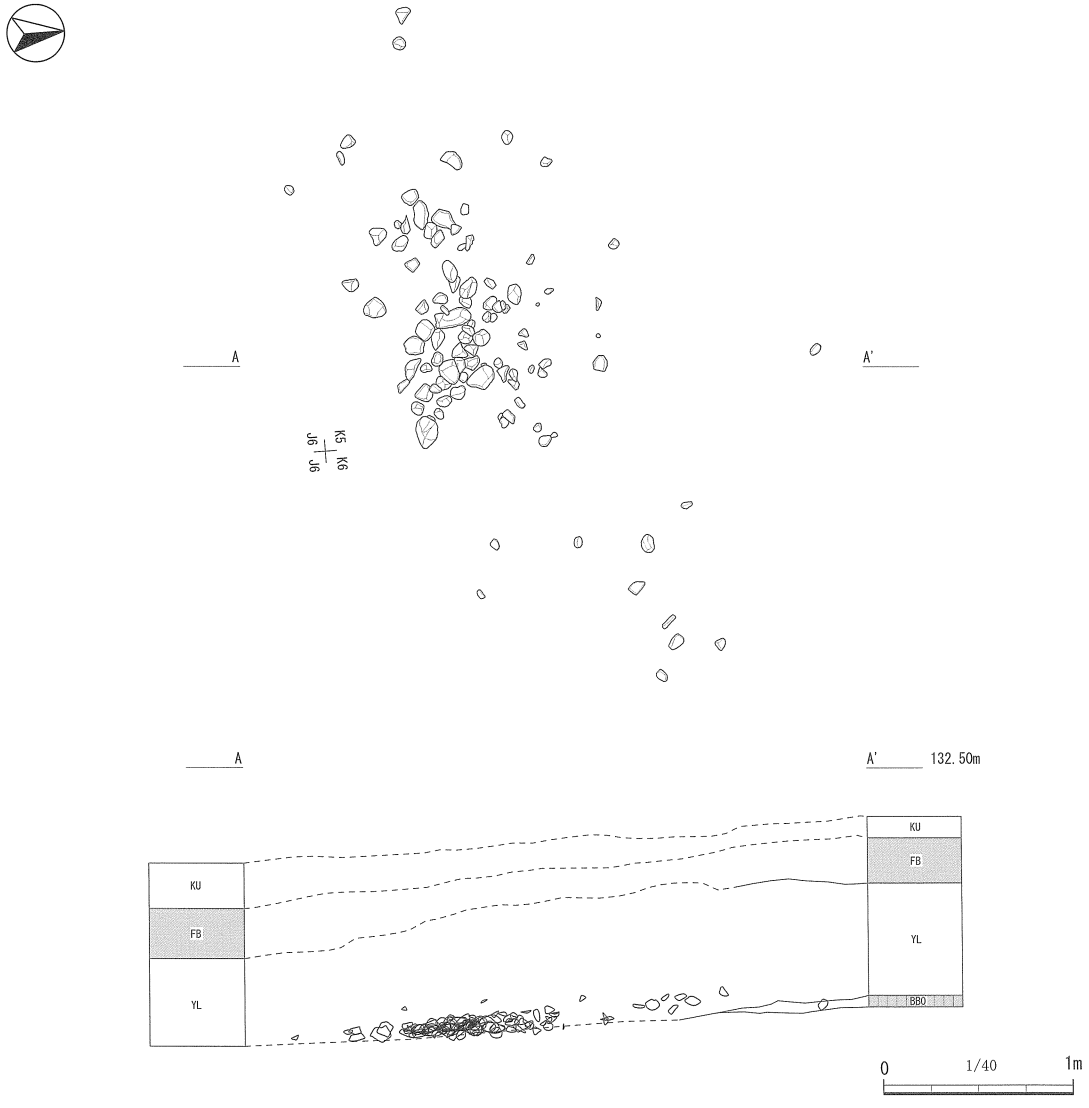
第275図　第Ⅷ文化層　38号礫群



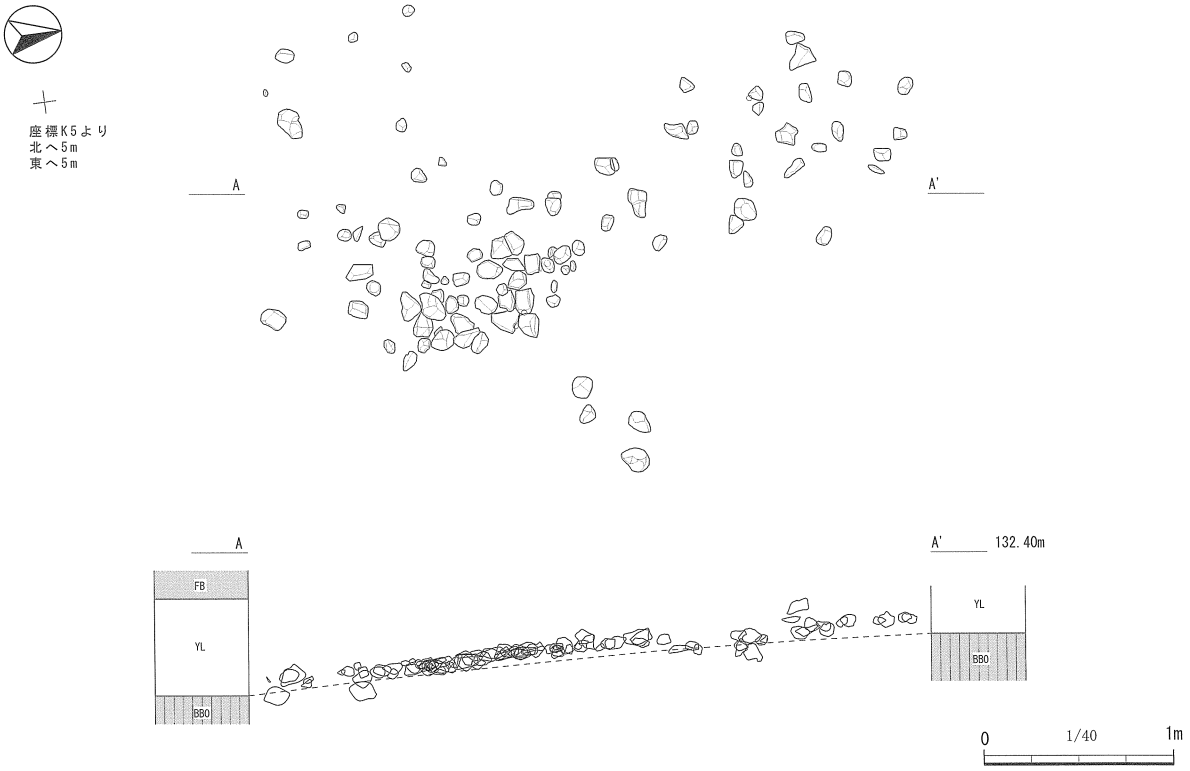
第276図　第5地区　4号・6号・7号・9号・10号礫群の分布



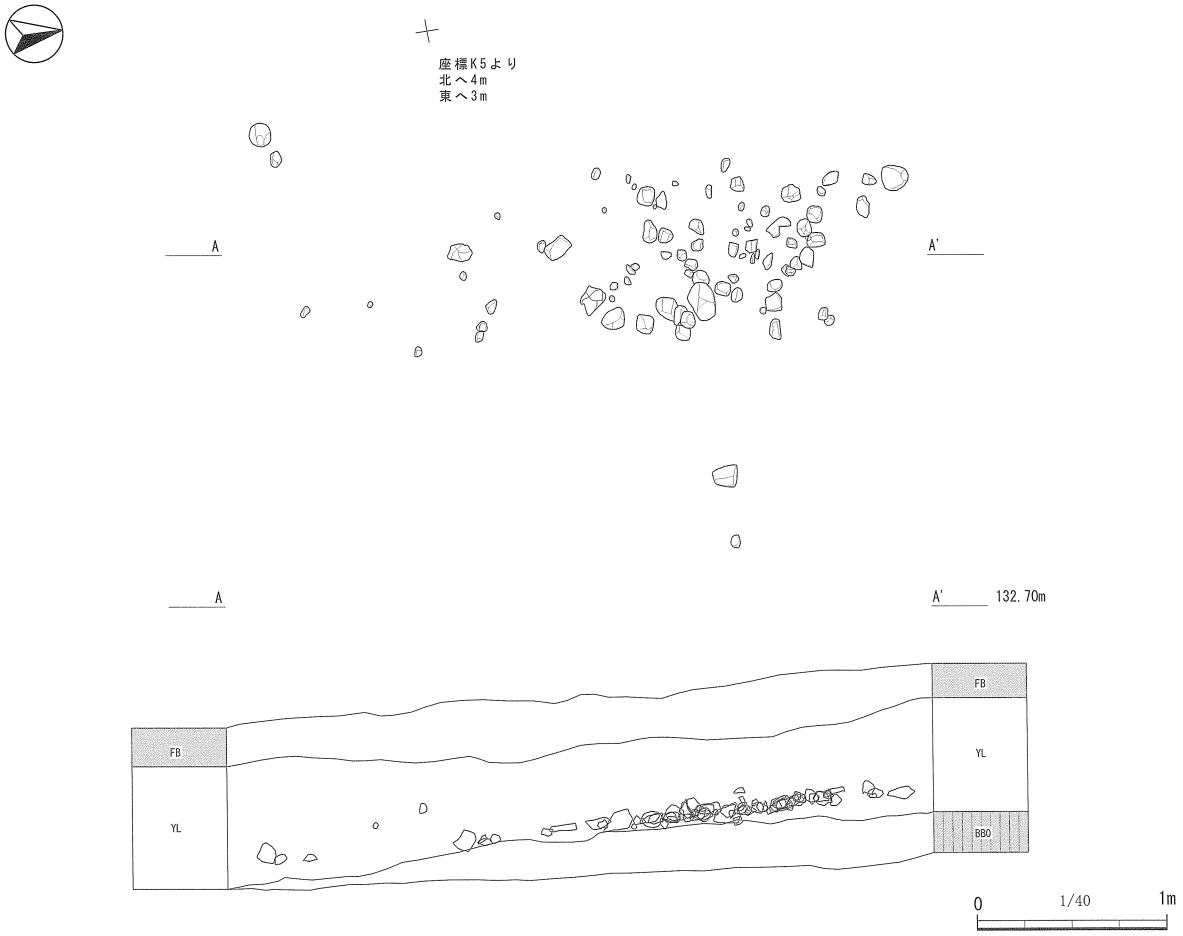
第277図　第Ⅷ文化層　4号礫群



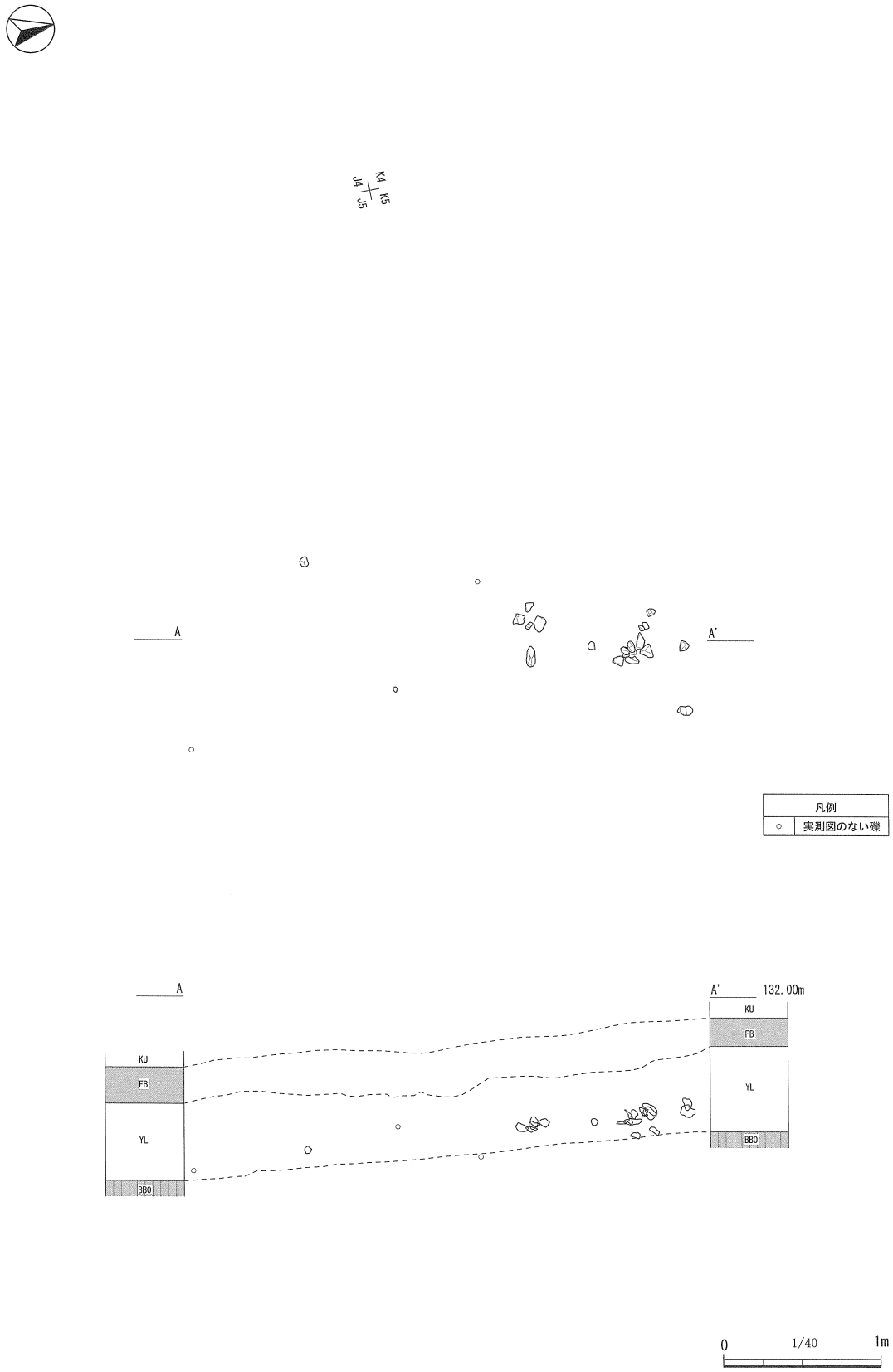
第278図　第Ⅷ文化層　6号礫群



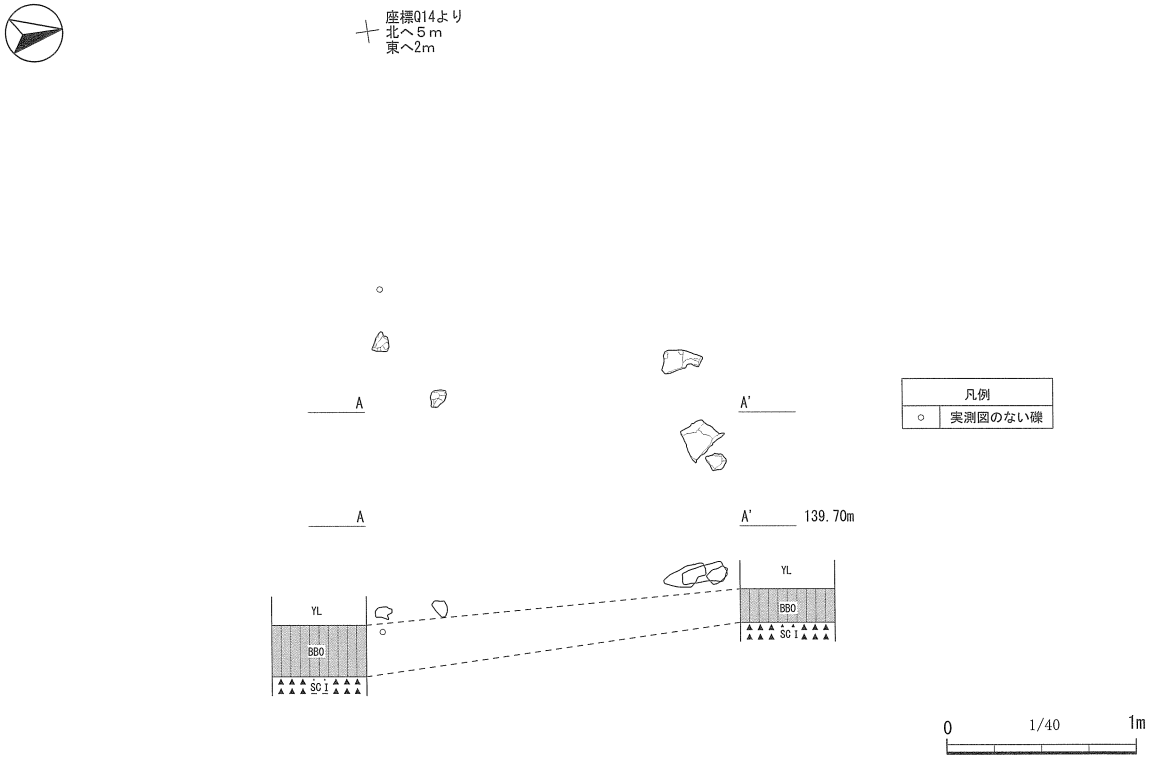
第279図　第Ⅷ文化層　7号礫群



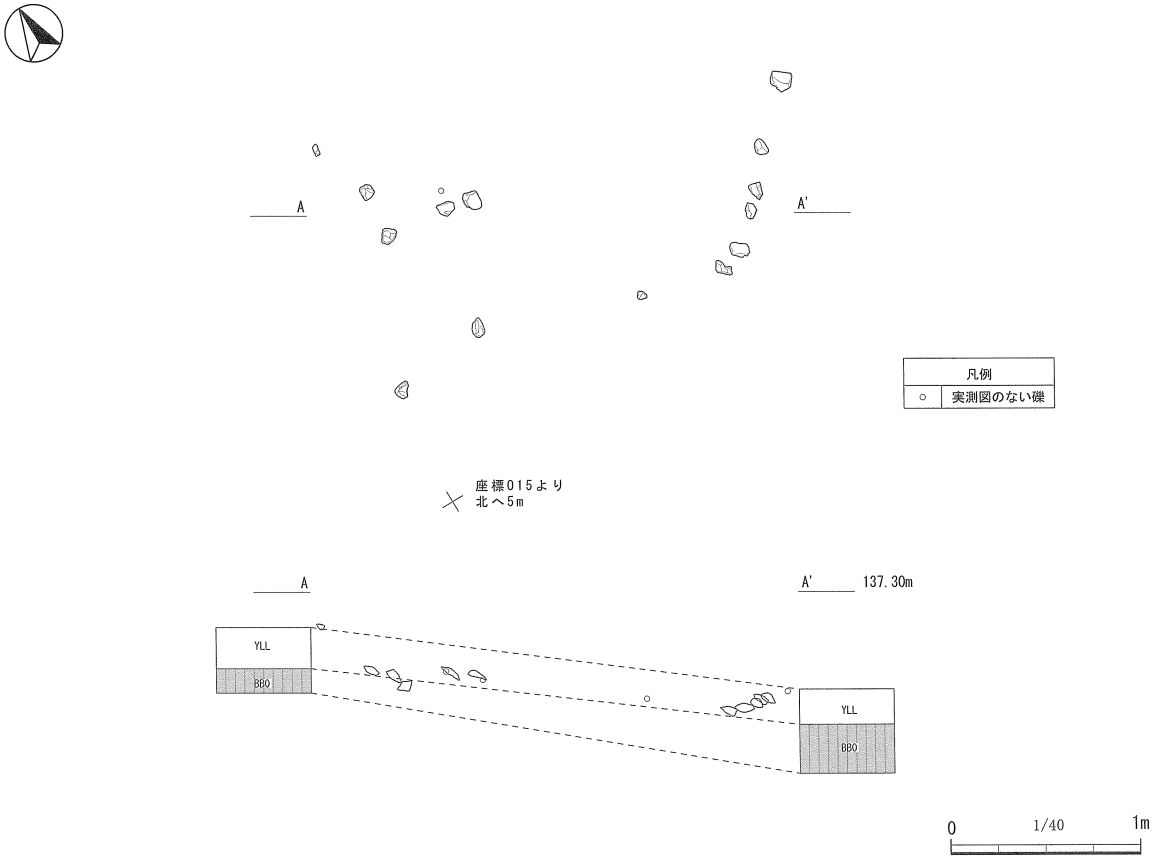
第280図　第Ⅷ文化層　9号礫群



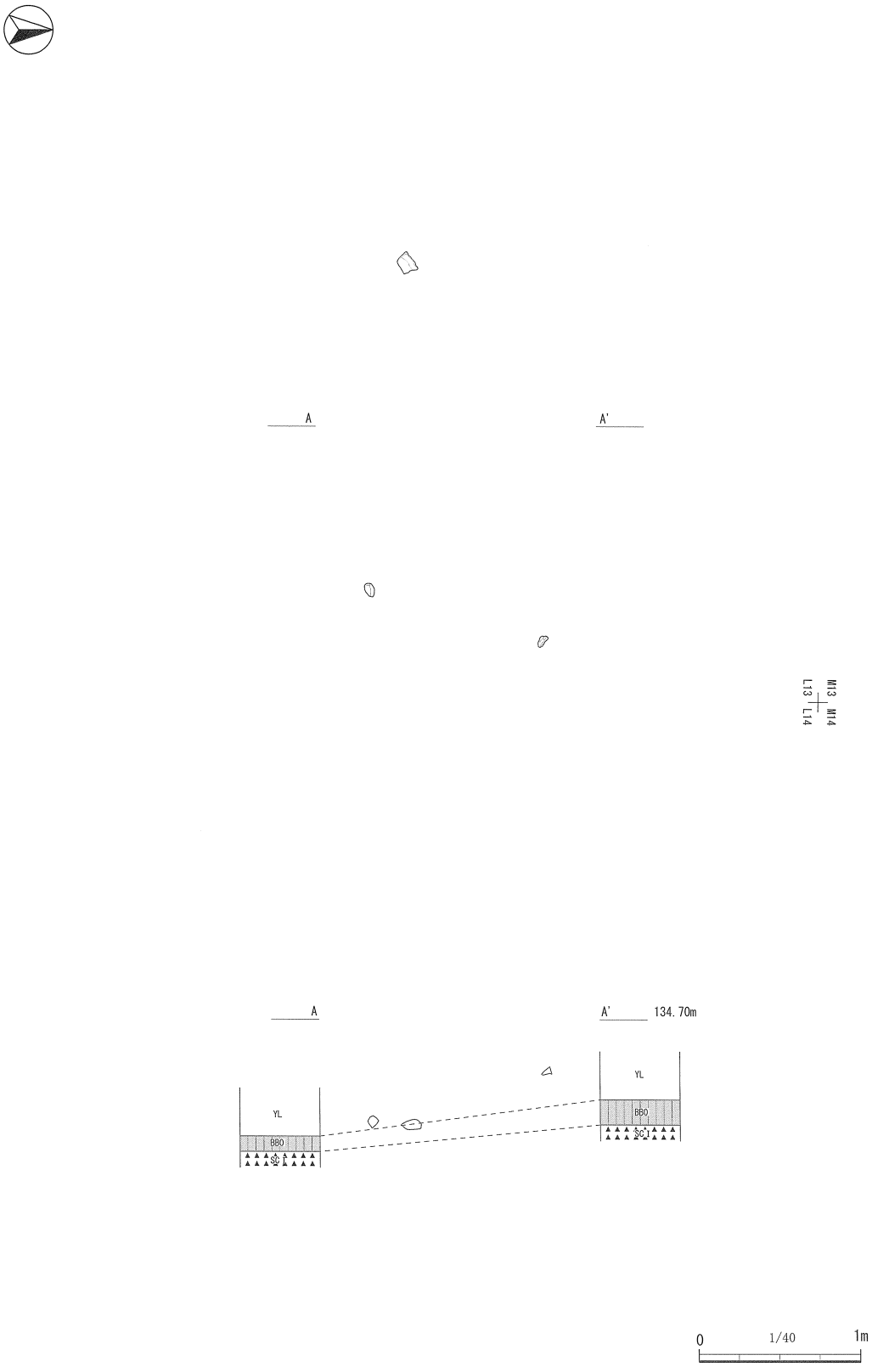
第281図　第Ⅷ文化層　10号礫群



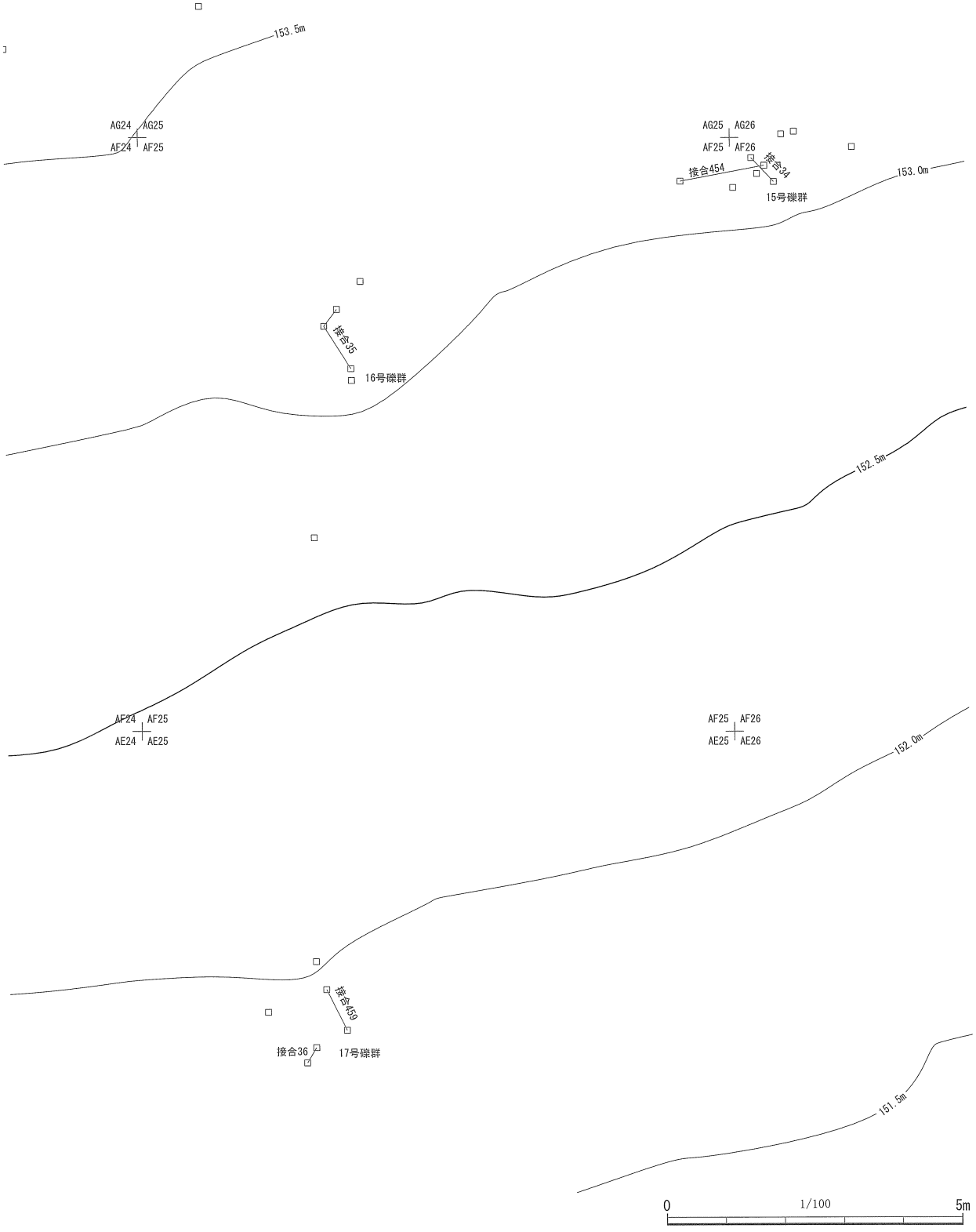
第282図　第Ⅷ文化層　22号礫群



第283図　第Ⅷ文化層　25号礫群



第284図　第Ⅷ文化層　29号礫群



第285図　第1地区　第Ⅷ文化層15号・16号・17号礫群の分布

れる。
17号礫群（第287図）　第1地区AE25グリッドに分布し、YLLの高い層準に集中する。礫6点で構成される。
16号礫群（第288図）　第1地区AF25グリッドに分布し、YLLの高い層準に集中する。礫4点で構成される。

37号礫群（第289図）　第13地区AG33グリッドの北東隅を中心に分布し、YL下部に集中する。礫99点で構成される。

（２）第Ⅸ文化層（第290図）

休場層中スコリア2（YLs2）から休場層中部または休場層下層（YLM）を中心に包含される礫群を19基識別した。
48号礫群（第291図）　第11地区Z2グリッドに分布し、YLs2に集中する。礫5点で構成される。
50号礫群（第292図）　第11地区Y1グリッドに分布し、YLs2に集中する。礫7点で構成される。
43号礫群（第293図）　第9地区F-1グリッドの北西隅を中心に分布し、YL中部に集中する。礫43点で構成される。
42号礫群（第294図）　第7地区A0グリッド東部を中心に分布し、YL中部に集中する。礫5点で構成される。また、磨-敲石2点、磨石2点、敲石1点が重なって分布する。

・第4地区8号・11号・12号礫群の分布（第295図）

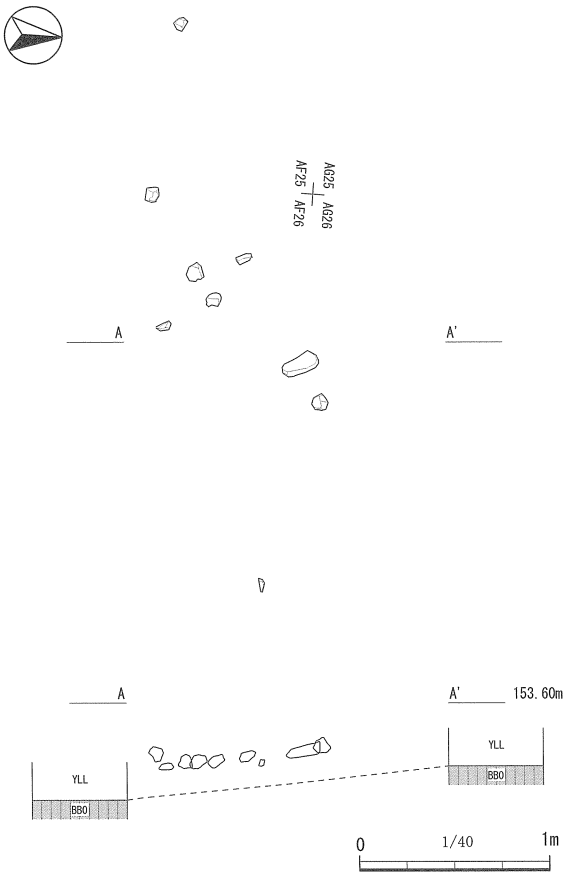
第Ⅸ文化層石器集中34と重複分布する礫群が3基ある。
8号礫群（第296図）　第4地区L6グリッドに分布し、YLの中部に集中する。礫4点で構成される。
11号礫群（第297図）　第4地区K5グリッドに分布し、YLMの下部に集中する。礫10点で構成される。
12号礫群（第298図）　第4地区L5グリッドを中心に分布し、YL中部に集中する。礫5点で構成される。

・第8地区13号・14号・3号礫群の分布（第330図）

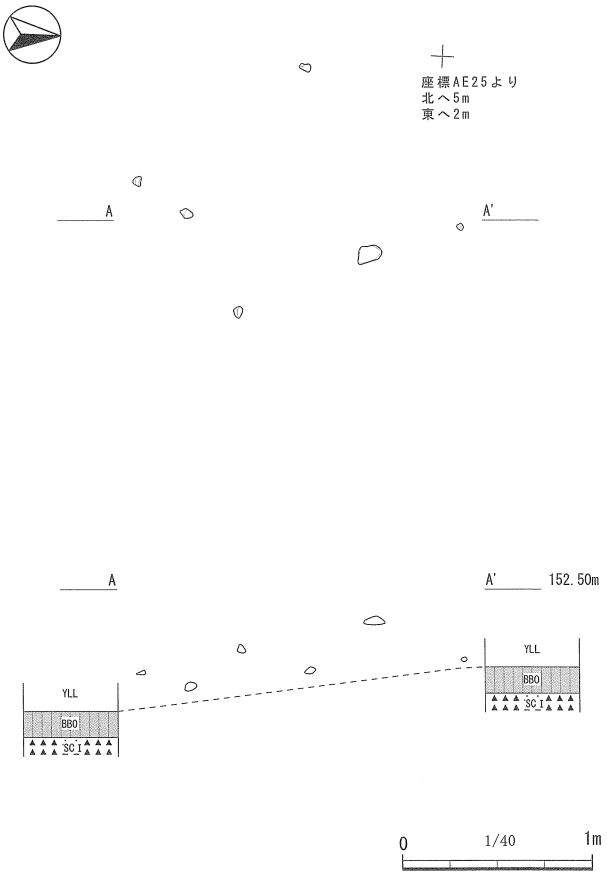
3号礫群を中心として第Ⅸ文化層石器集中30およびその北部に散在する石器群と関連する礫群である。
13号礫群（第299図）　第8地区AE11グリッドを中心に分布し、YL中部に集中する。礫25点で構成される。
14号礫群（第300図）　第8地区AE11グリッドを中心に分布し、YL下部から中部に集中する。13号礫群の南側に隣接している。礫39点で構成される。
3号礫群（第301図）　第8地区AD11グリッドを中心に分布し、YL中部に集中する。礫152点で構成される。石器集中30と重複する。

・第3地区23号・24号・25号礫群の分布（第302図）

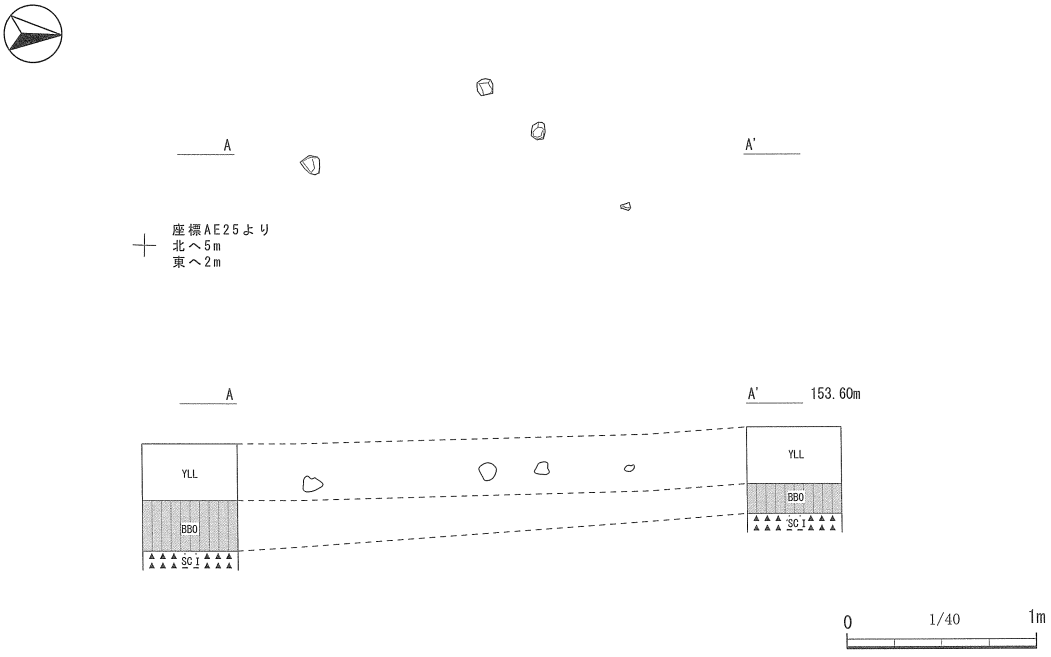
この地区の北部、YLL上部ないしYL中部にかけて5基の礫群（23号・24号・26号・27号・28号）が分布する。これらのうち23号と24号礫群は第Ⅸ文化層石器集中31・32と重複するか近い場所にあり、おそらく関係するだろう。なお、分布図にある25号礫群はYL下部を中心とする第Ⅷ文化層のものである。
23号礫群（第303図）　第3地区P13グリッドに分布し、YLの中部に集中する。礫は小型のものが大変多く、ある程度の大きさのあるものは僅か3点にすぎない。
24号礫群（第304図）　第3地区P14グリッドに分布し、YL中部に集中する。礫3点で構成される。
26号礫群（第305図）　第3地区N12グリッドに分布し、YLL上部ないしYL中部に集中する。23号礫群の南西に分布する。礫3点で構成される。
27号礫群（第306図）　第3地区N14グリッドに分布し、YL中部に集中する。礫3点で構成される。



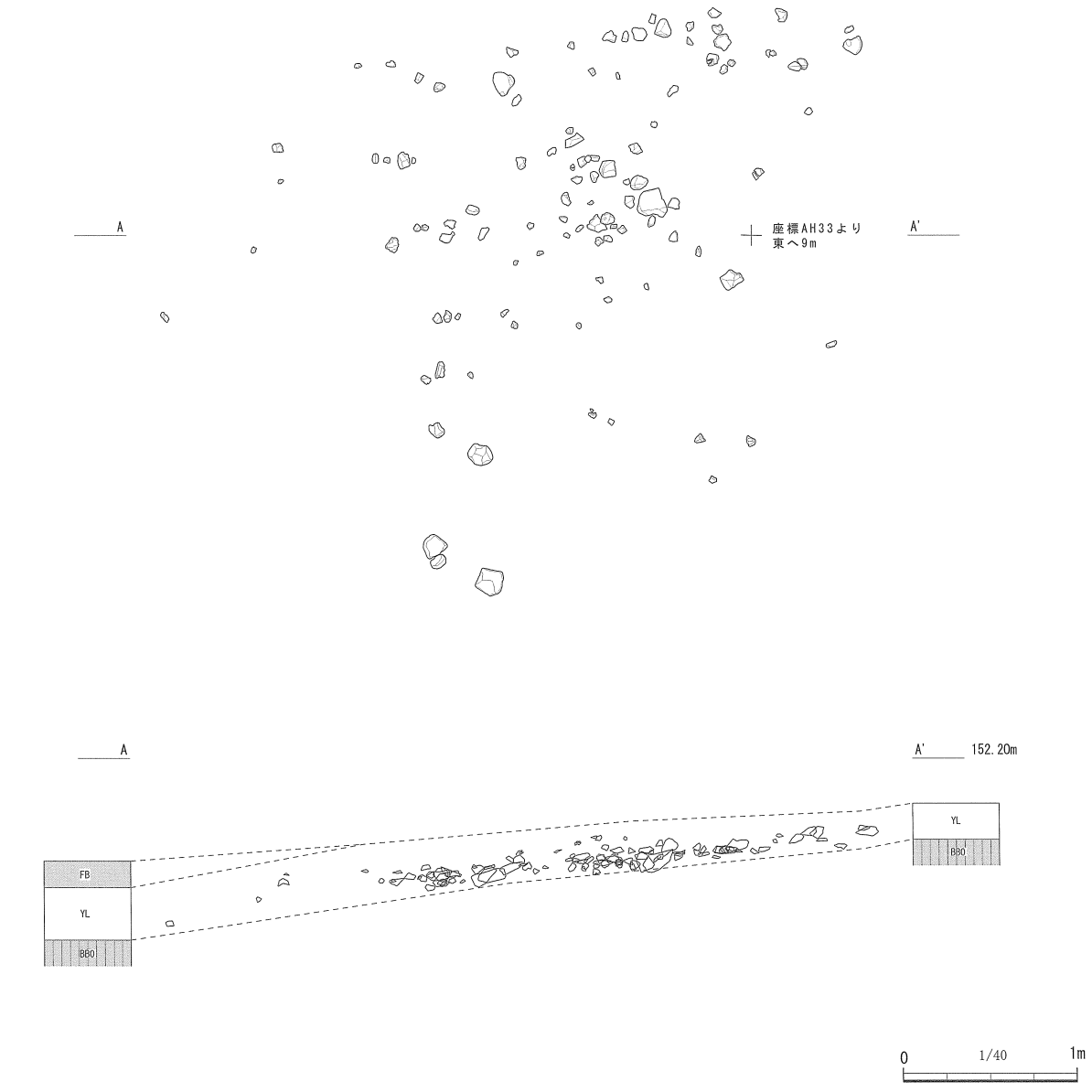
第286図　第Ⅷ文化層　15号礫群



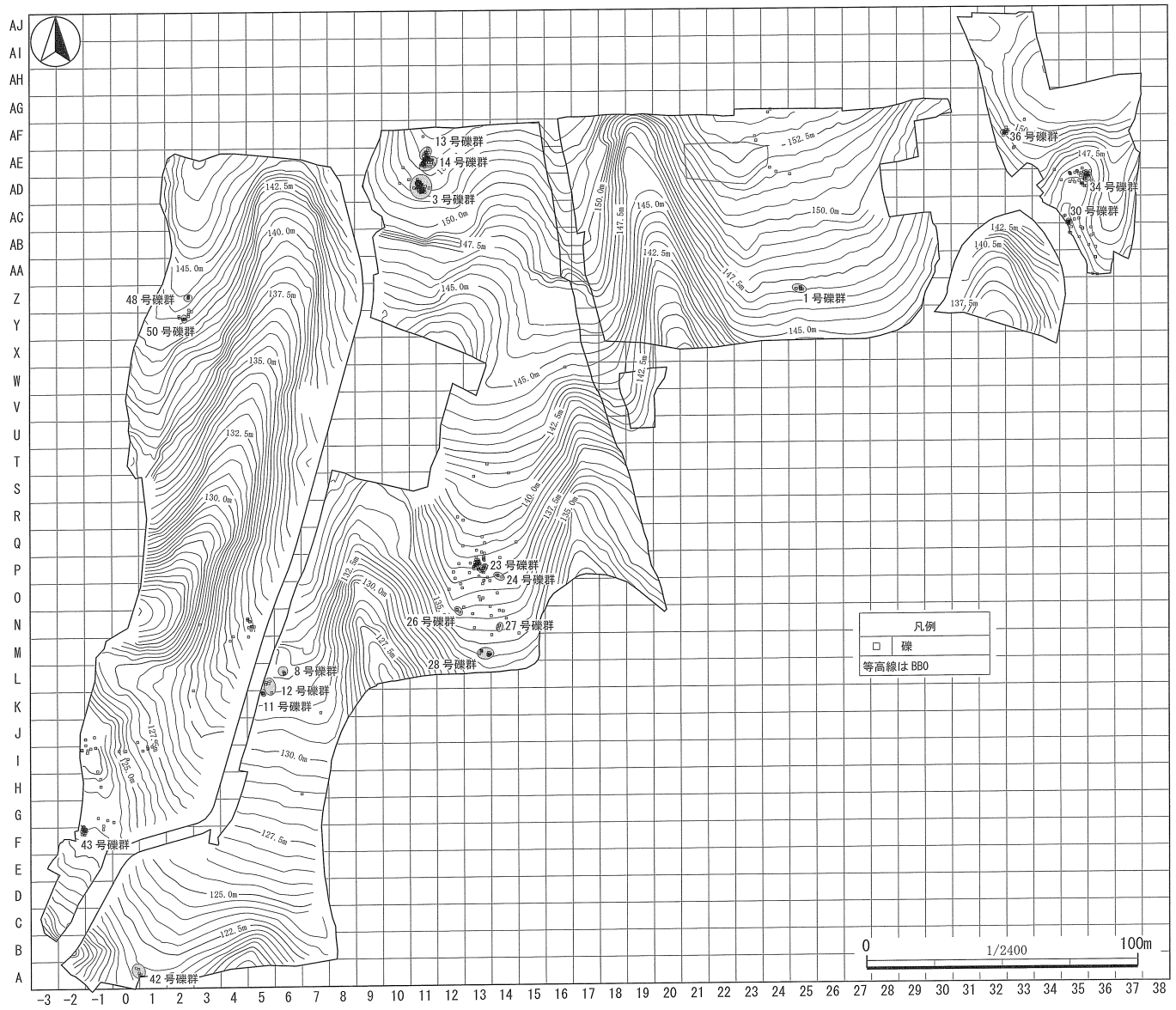
第287図　第Ⅷ文化層　17号礫群



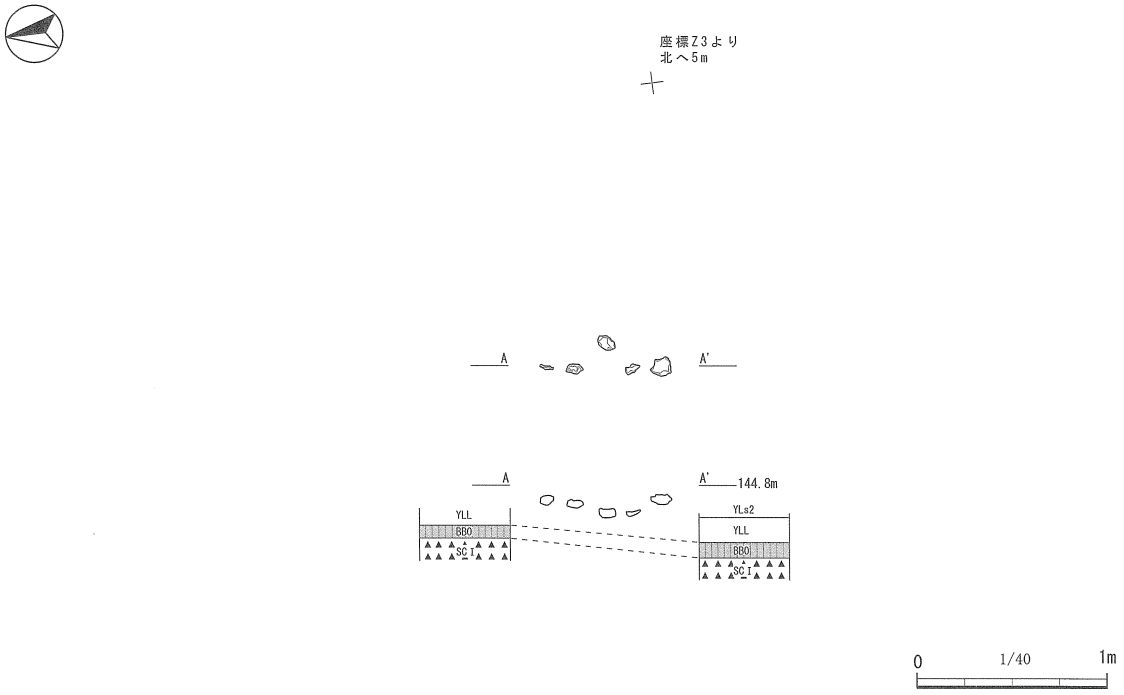
第288図　第Ⅷ文化層　16号礫群



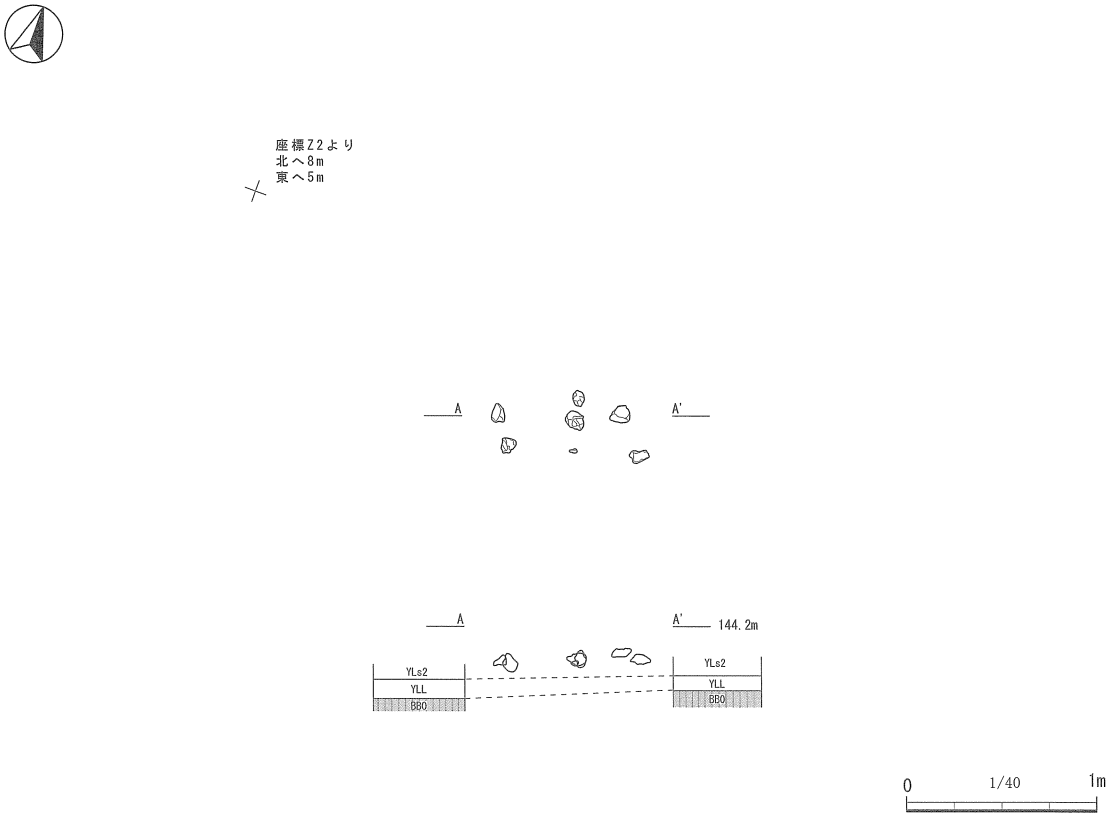
第289図　第Ⅷ文化層　37号礫群



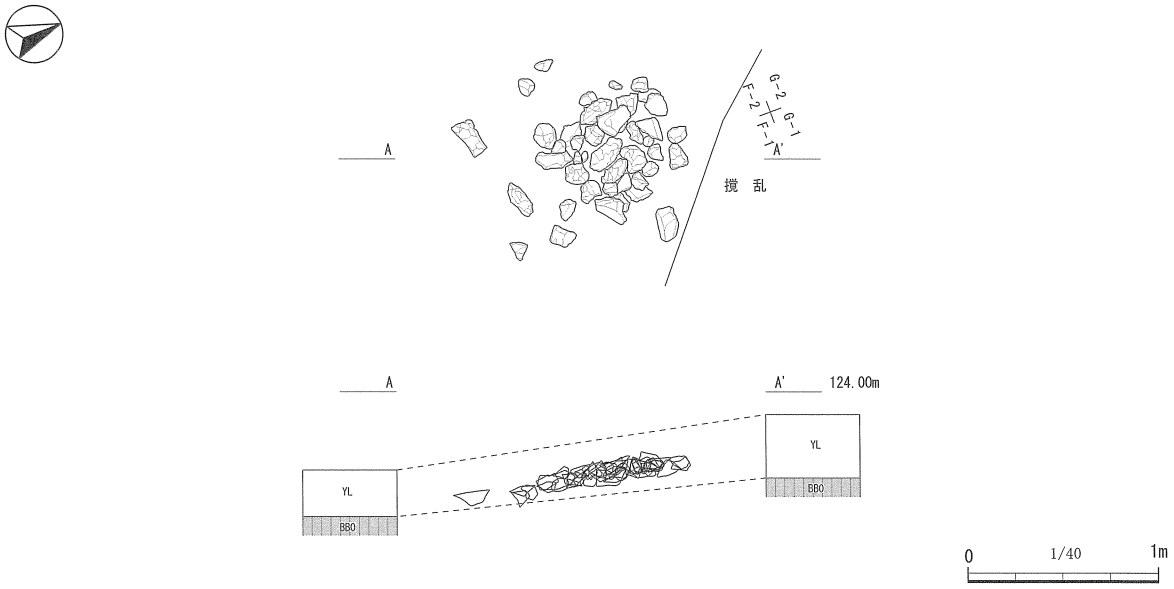
第290図　第Ⅸ文化層　礫分布



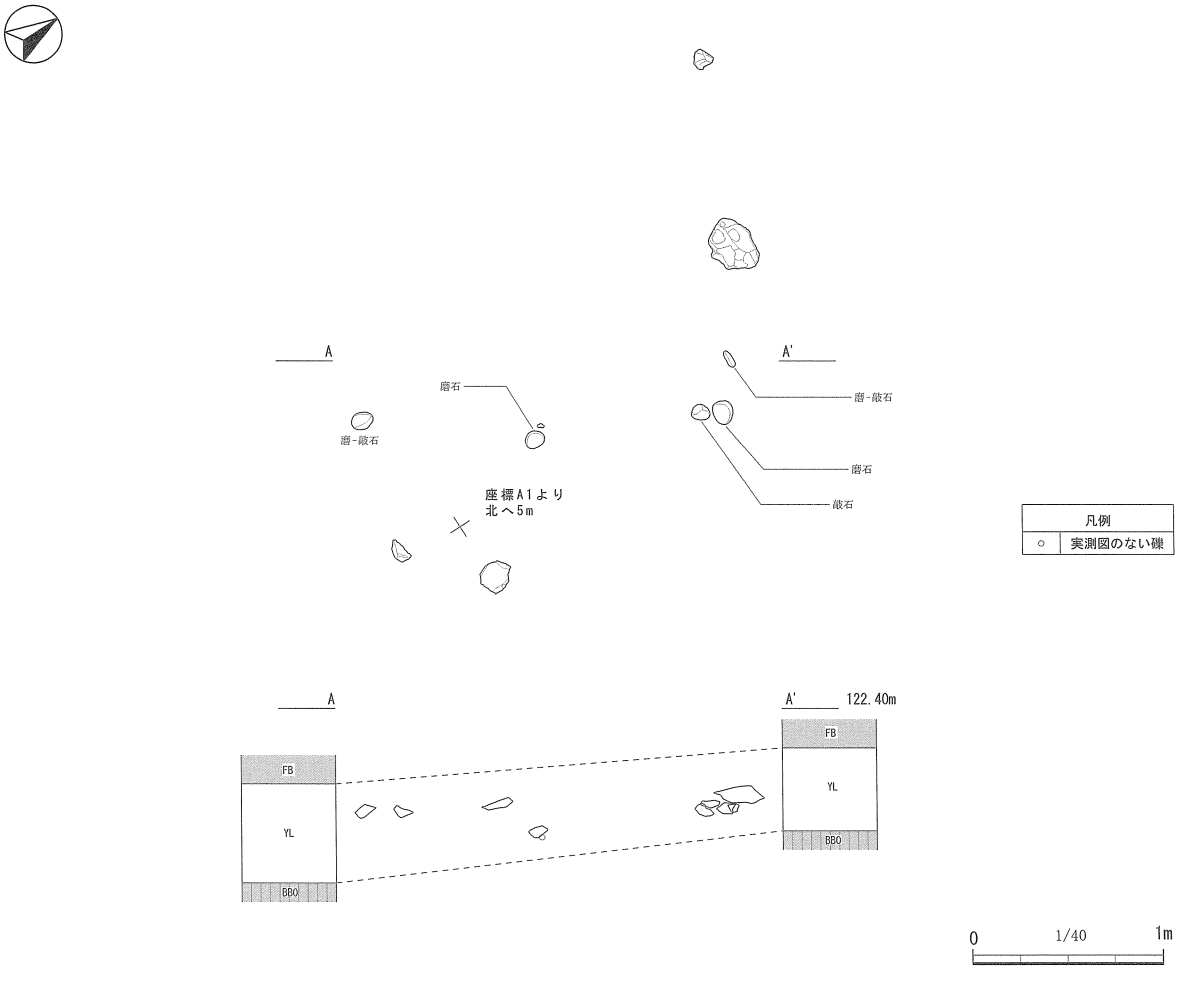
第291図　第IX文化層　48号礫群



第292図　第IX文化層　50号礫群

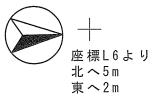


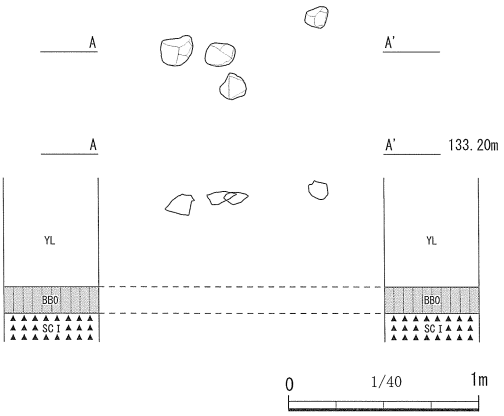
第293図　第IX文化層　43号礫群



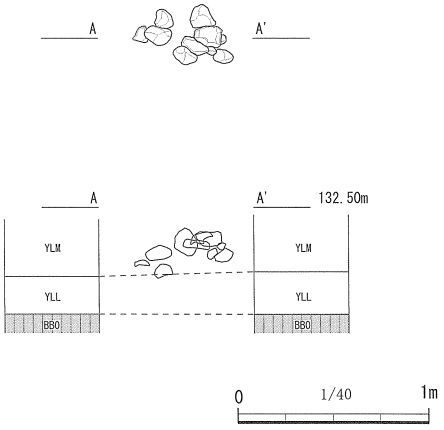
第294図　第IX文化層　42号礫群

第295図　第4地区　第Ⅸ文化層8号・11号・12号礫群の分布

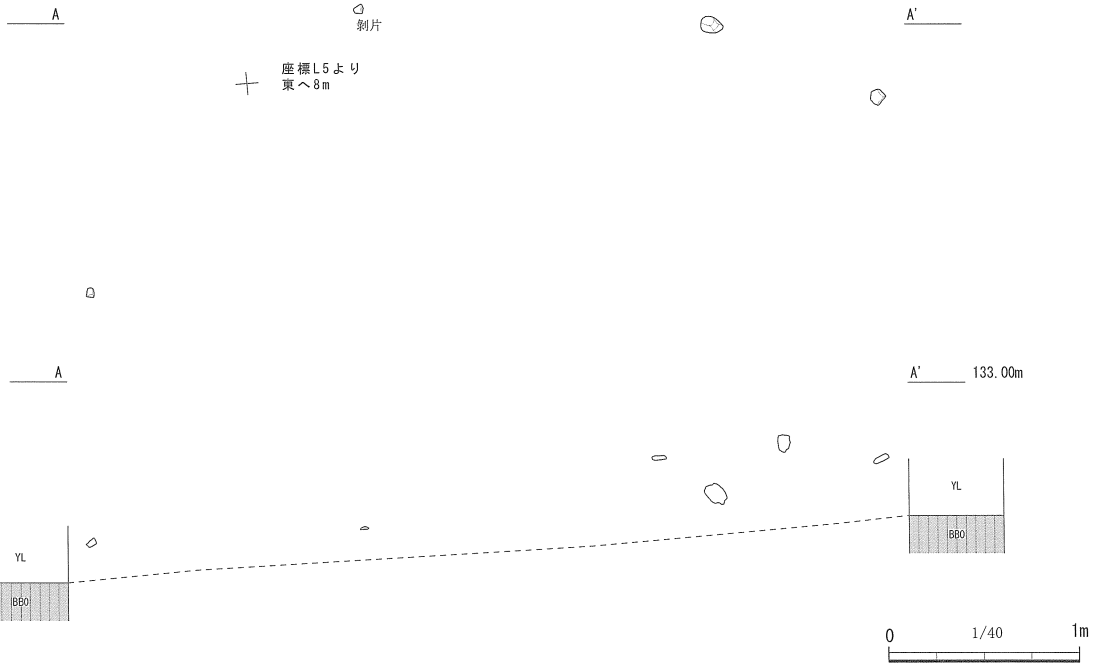




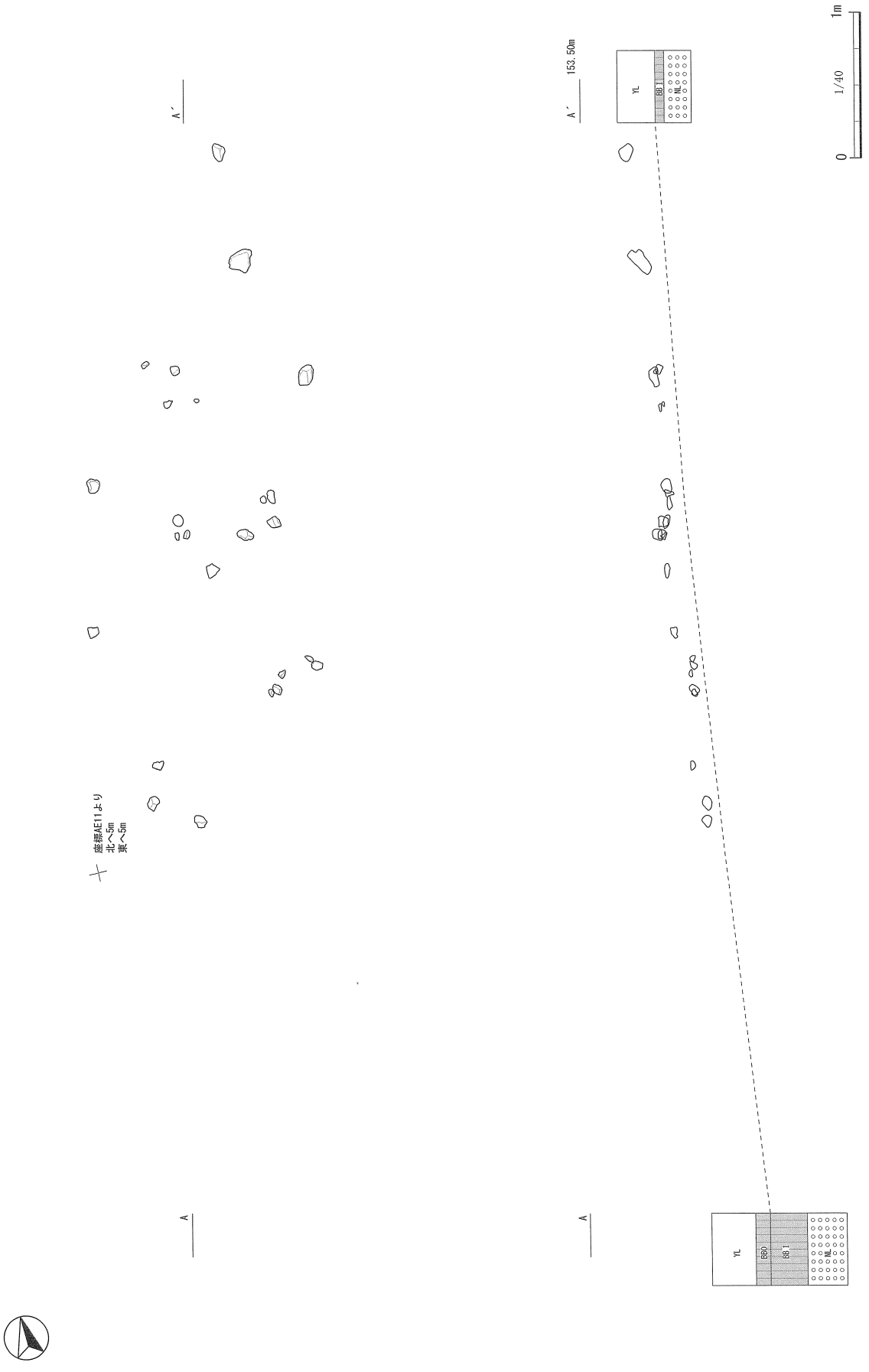
第296図　第IX文化層　8号礫群



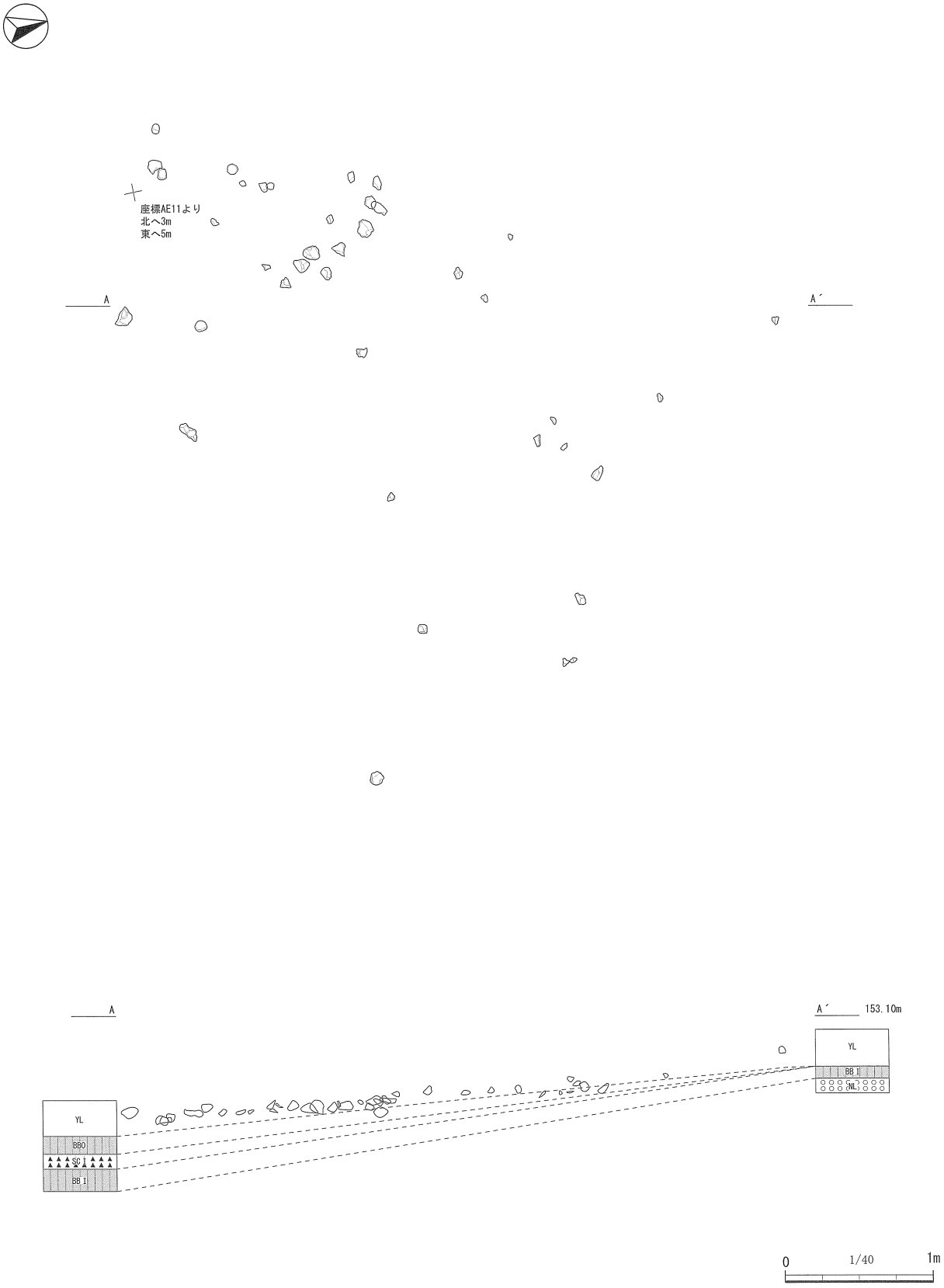
第297図　第IX文化層　11号礫群



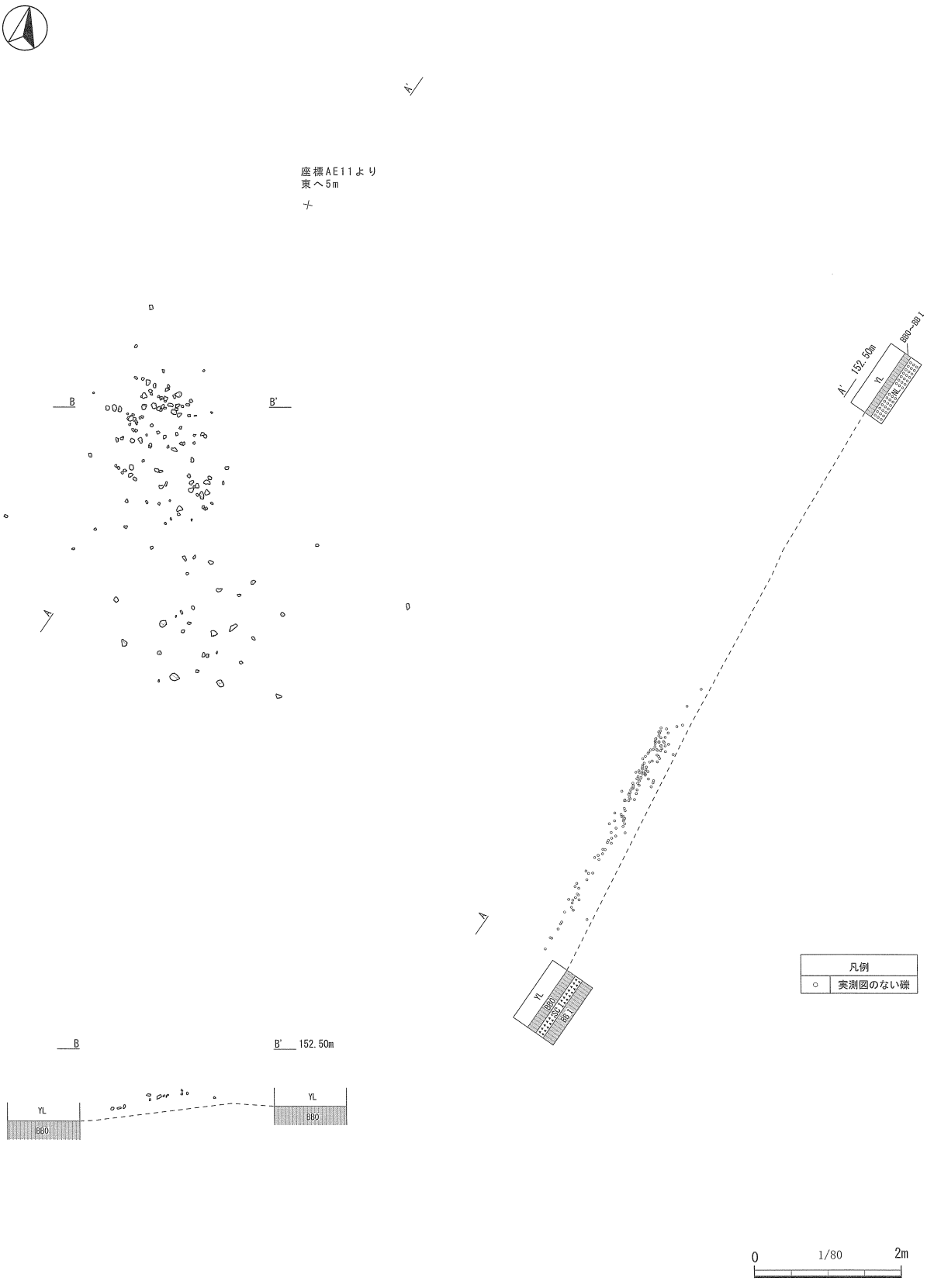
第298図　第IX文化層　12号礫群



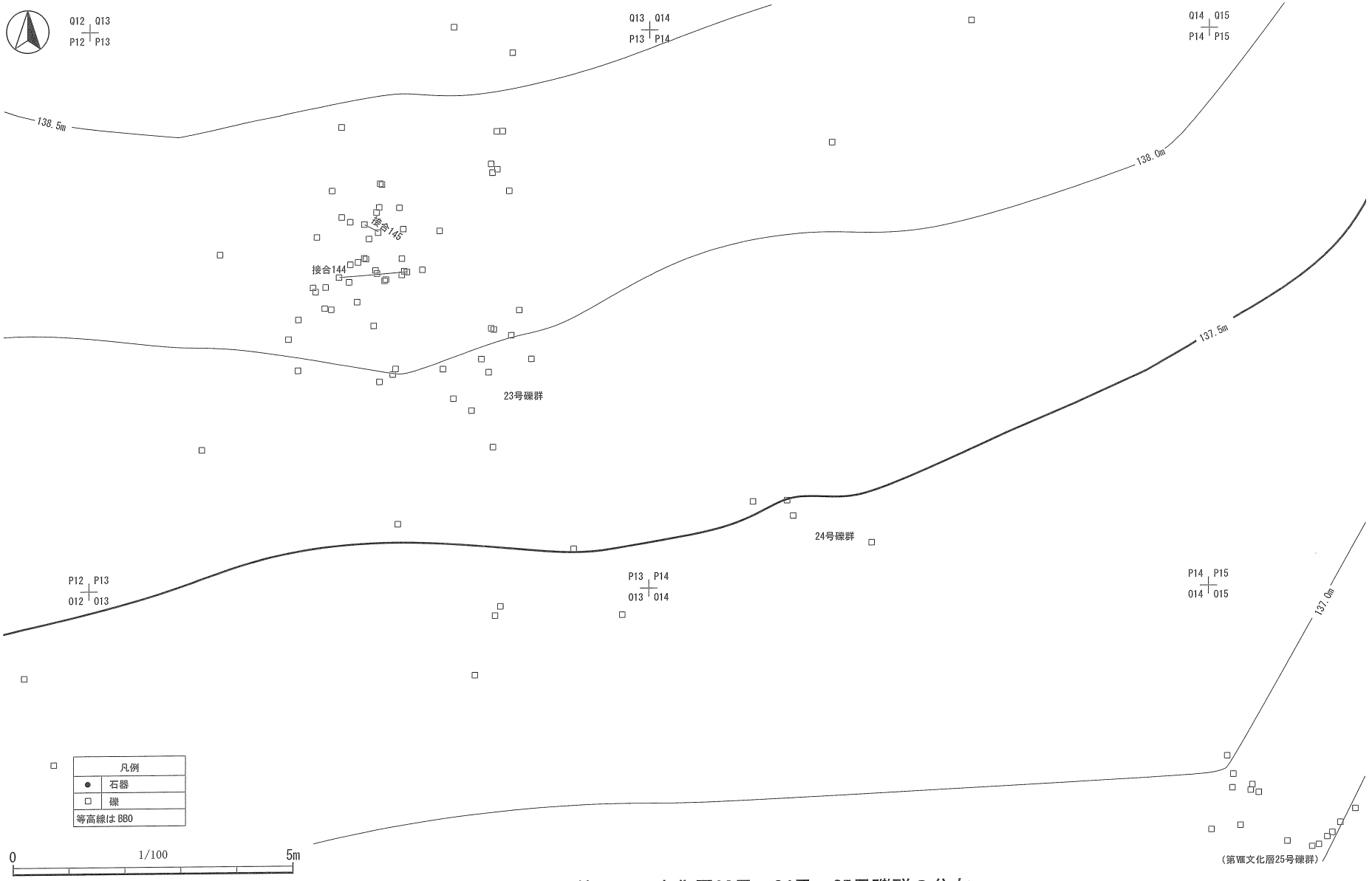
第299図　第IX文化層　13号礫群



第300図　第IX文化層　14号礫群



第301図　第Ⅸ文化層　3号礫群



第302図　第3地区　第Ⅷ・Ⅸ文化層23号・24号・25号礫群の分布

28号礫群（第307図）　第3地区M13グリッドに分布し、YL中部に集中する。礫13点で構成される。平面分布上は第Ⅷ文化層石器集中33（第170図）と近い場所にあるが、包含層準は礫群の方が高い。

1号礫群（第308図）　第2地区Z25グリッドに分布し、YL中部に集中する。平面分布上で石器集中25と重なっている。石器集中2は休場層の全体に広がっているが、1号礫群の検出層準を基準にすれば第Ⅸ文化層に帰属するのかもしれない。

36号礫群（第309図）　第13地区AF32グリッドに分布し、YL中部に集中する。礫13点で構成される。石器集中22の南西に数メートル離れて分布する。

34号礫群（第301図）　第14地区AD35・36グリッドに分布し、YL中部に集中する。YLs2の上位で検出されていることになっているが、YLs1が見られないままどうやってYLs2を識別したのかは定かでない。礫24点で構成される。石器集中27と重複する。

30号礫群（第311図）　第14地区AC35グリッドに分布し、YL中部に分布する。YLs1の下位にあることになっているが、YLs2とどう区別したのかは定かでない。礫18点で構成される。

（３）第Ⅹ文化層（第312図）

46号礫群（第313図）　第15地区AA34グリッドに分布し、YL上部に集中する。礫22点で構成される。

35号礫群（第314図）　第14地区AD36グリッドに分布し、YL中部から上部に集中する。礫15点で構成される。

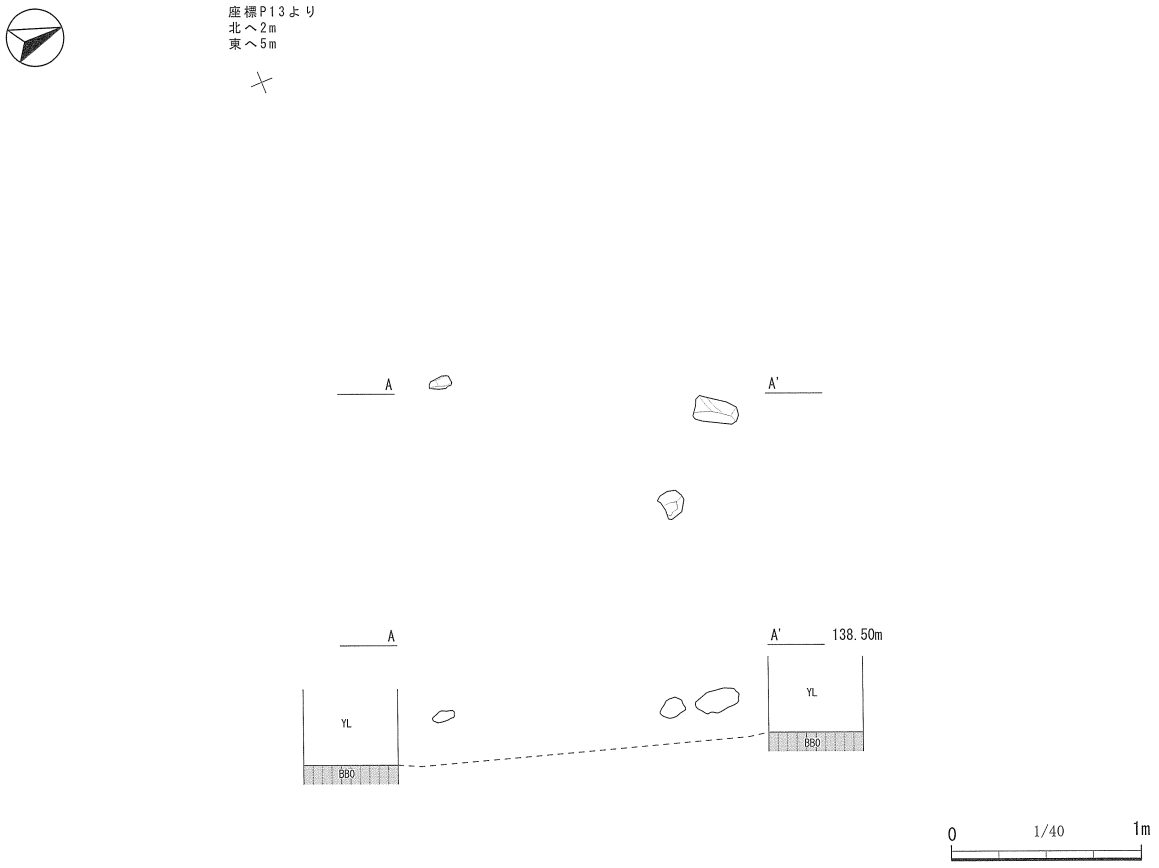
33号礫群（第315図）　第14地区AC35グリッドに分布し、YL上部に集中する。礫8点で構成される。

31号礫群（第316図）　第14地区AC35グリッドに分布し、YL上部に集中する。礫9点で構成される。

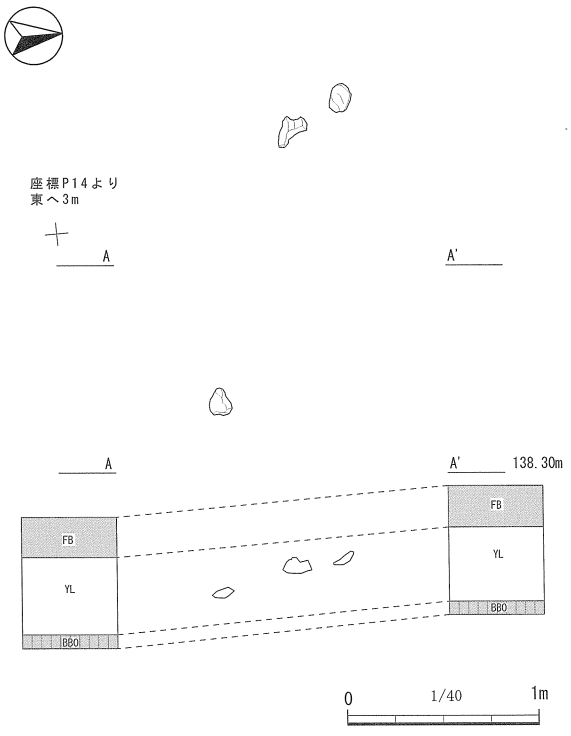
32号礫群（第317図）　第14地区AC35グリッドに分布し、YL上部に集中する。礫10点で構成される。

（４）第Ⅷ-Ⅹ文化層　その他の礫（第318図）

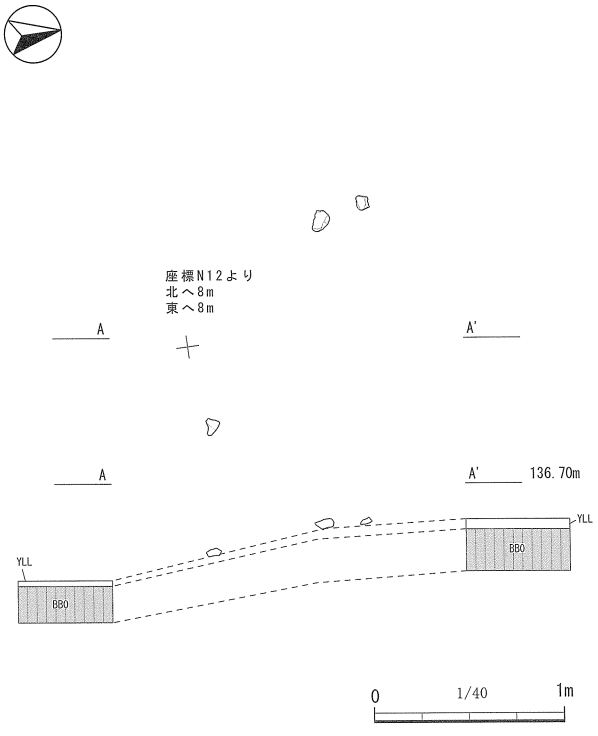
以上の礫群に含まれなかった礫の分布を第318図に示した。小礫が散在し、近くに帰属すべき安定的な大型礫の集合（遺構としての礫群）がなかったために明確な位置付けができなかったものである。この種の礫が最も多いのはAE/AF35グリッドを中心とする第14地区北部の範囲である。ほかは各地に数点ずつである。



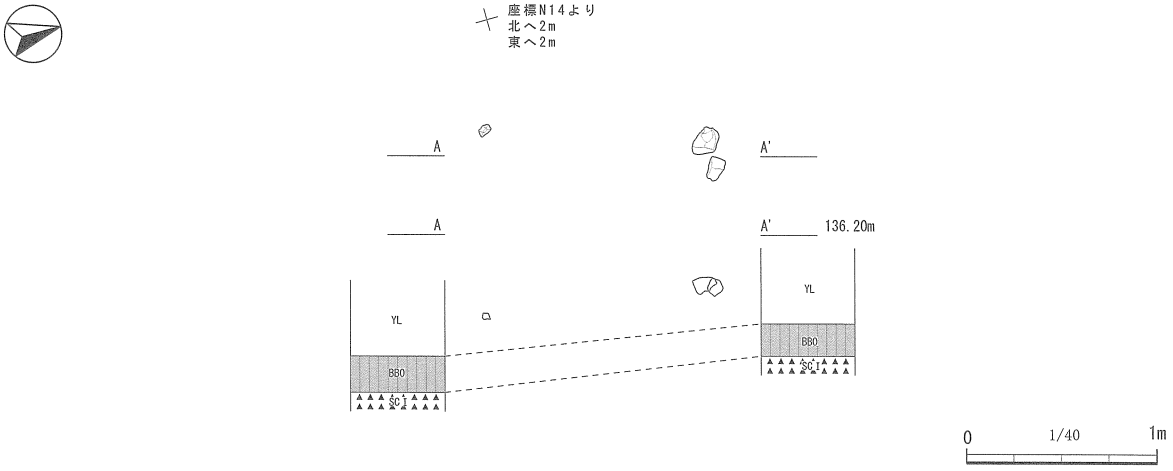
第303図　第IX文化層　23号礫群



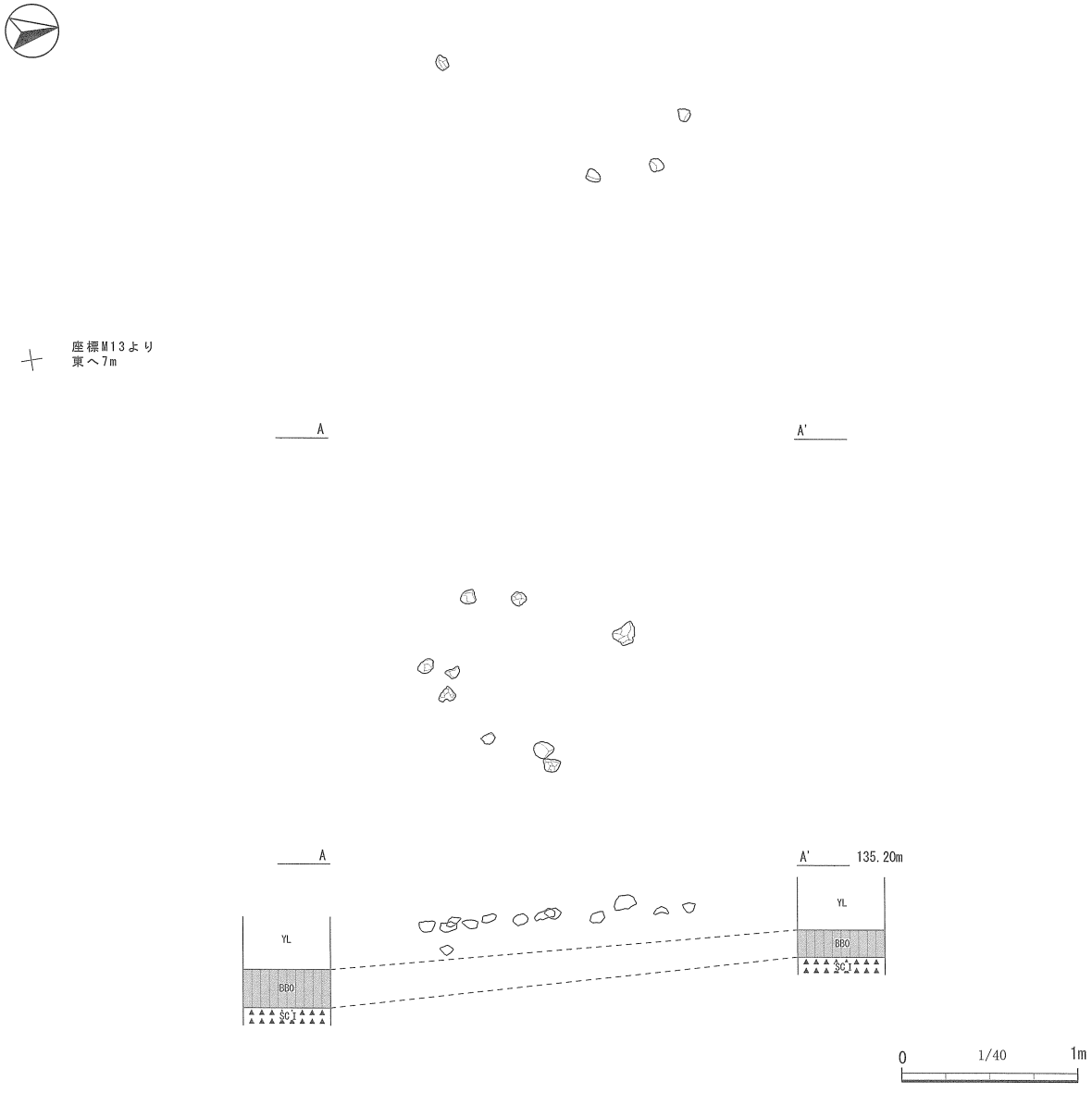
第304図　第IX文化層　24号礫群



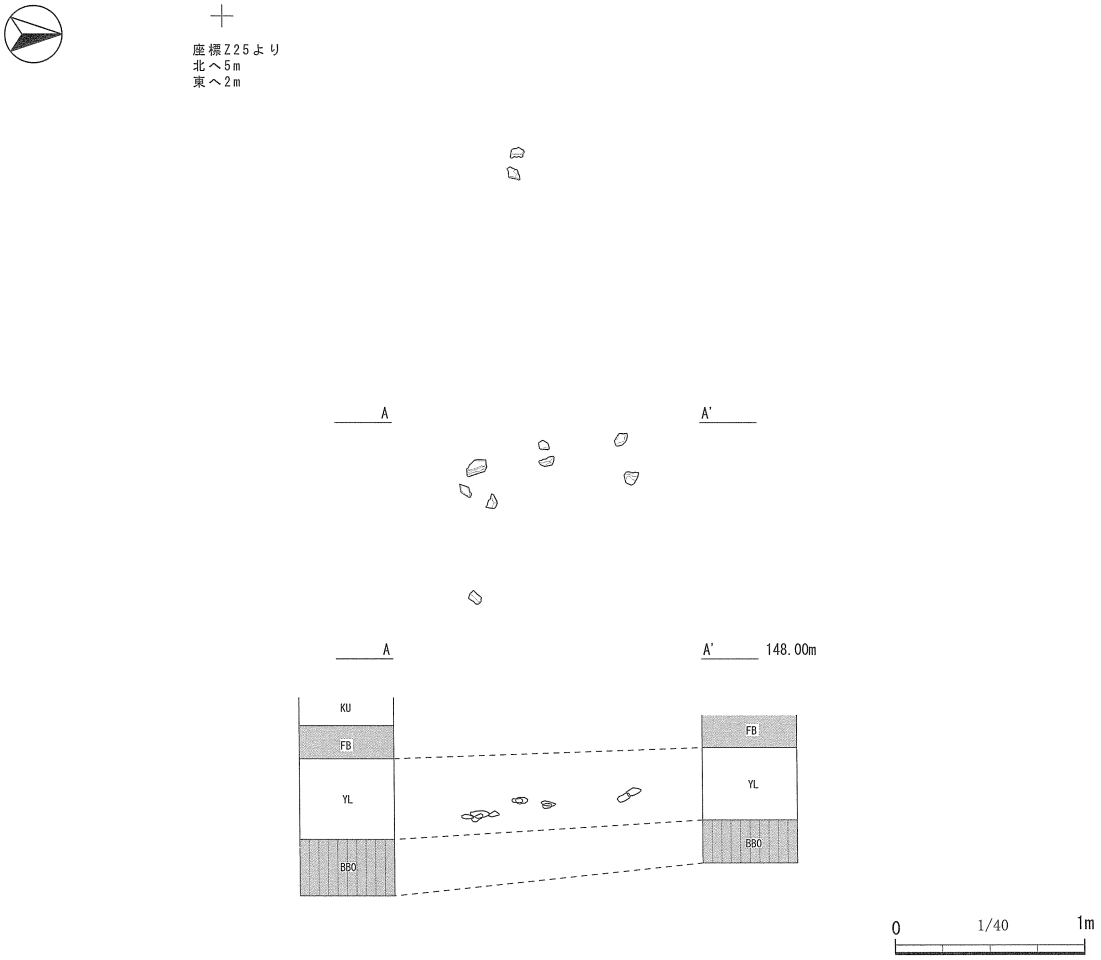
第305図　第IX文化層　26号礫群



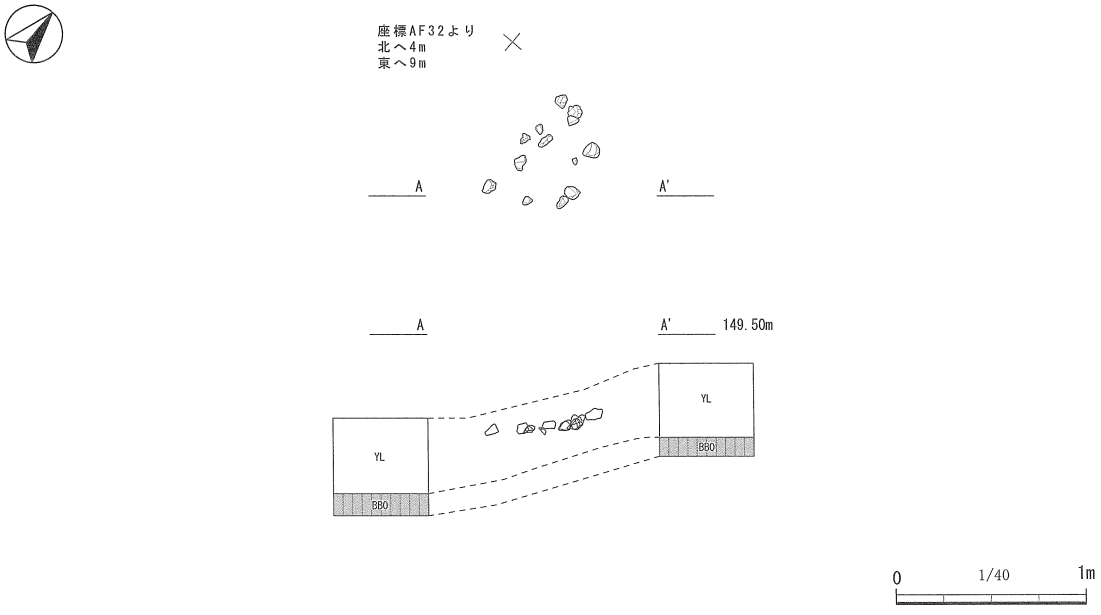
第306図　第IX文化層　27号礫群



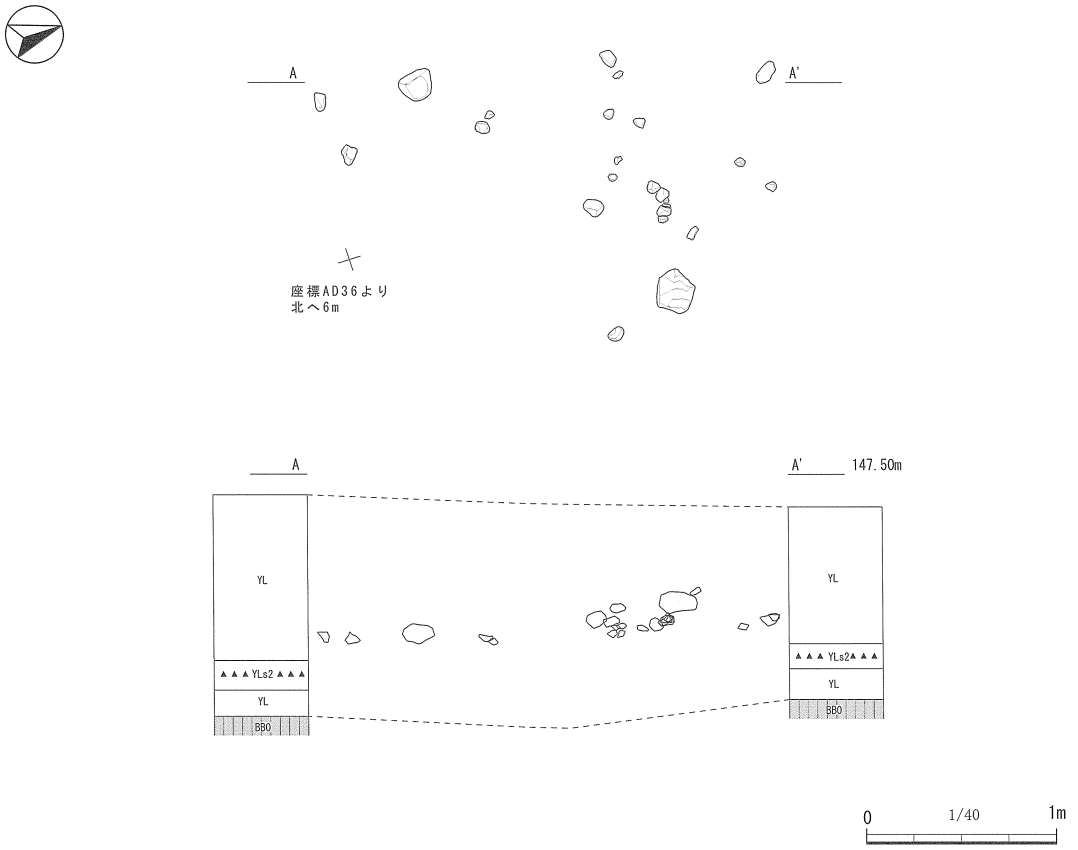
第307図　第IX文化層　28号礫群



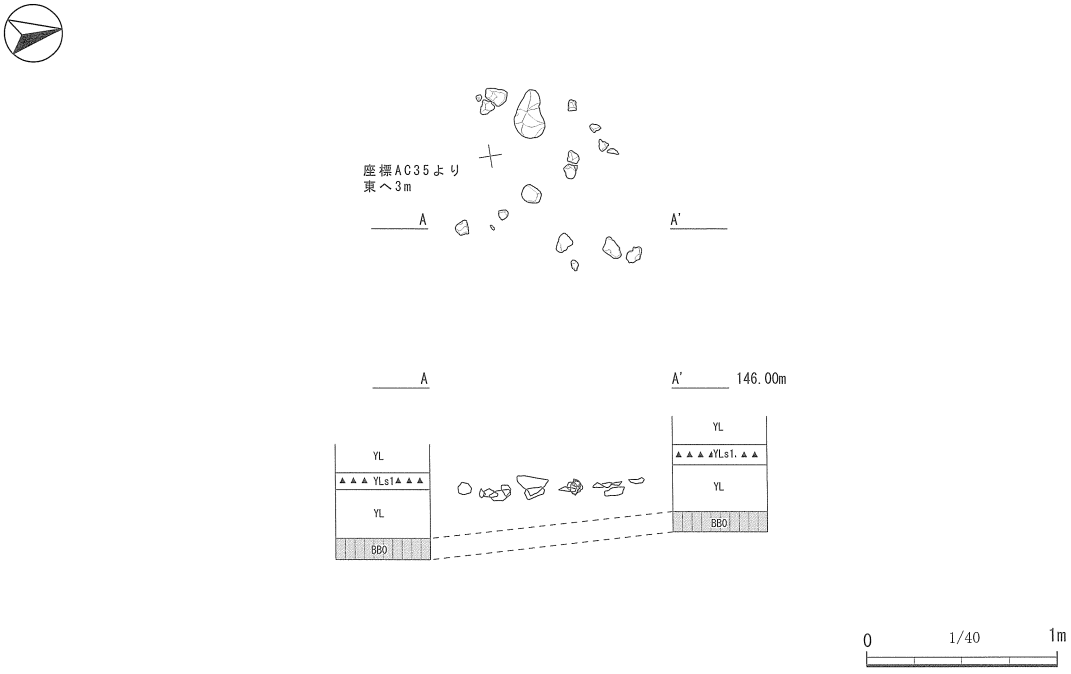
第308図　第IX文化層　1号礫群



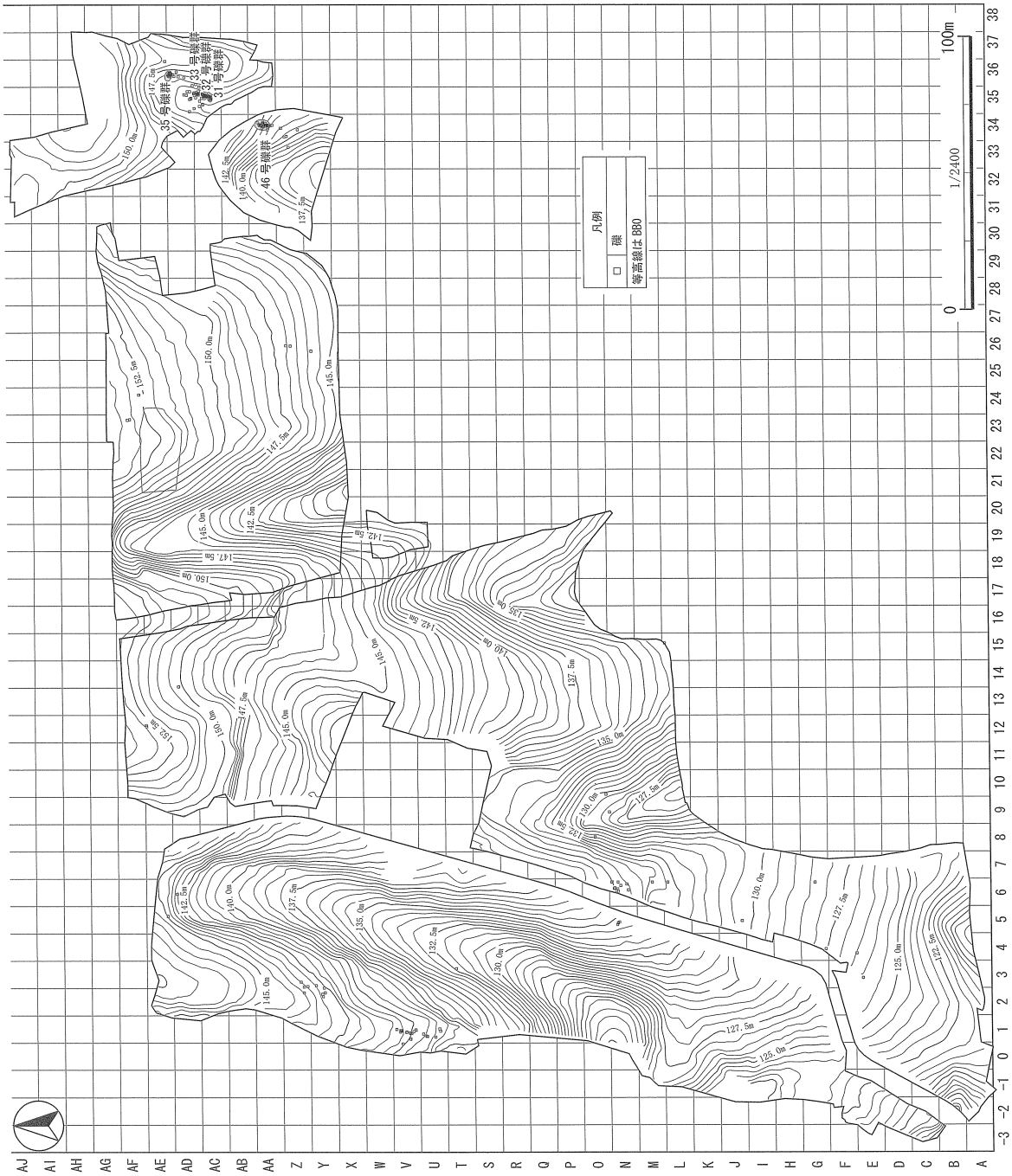
第309図　第IX文化層　36号礫群



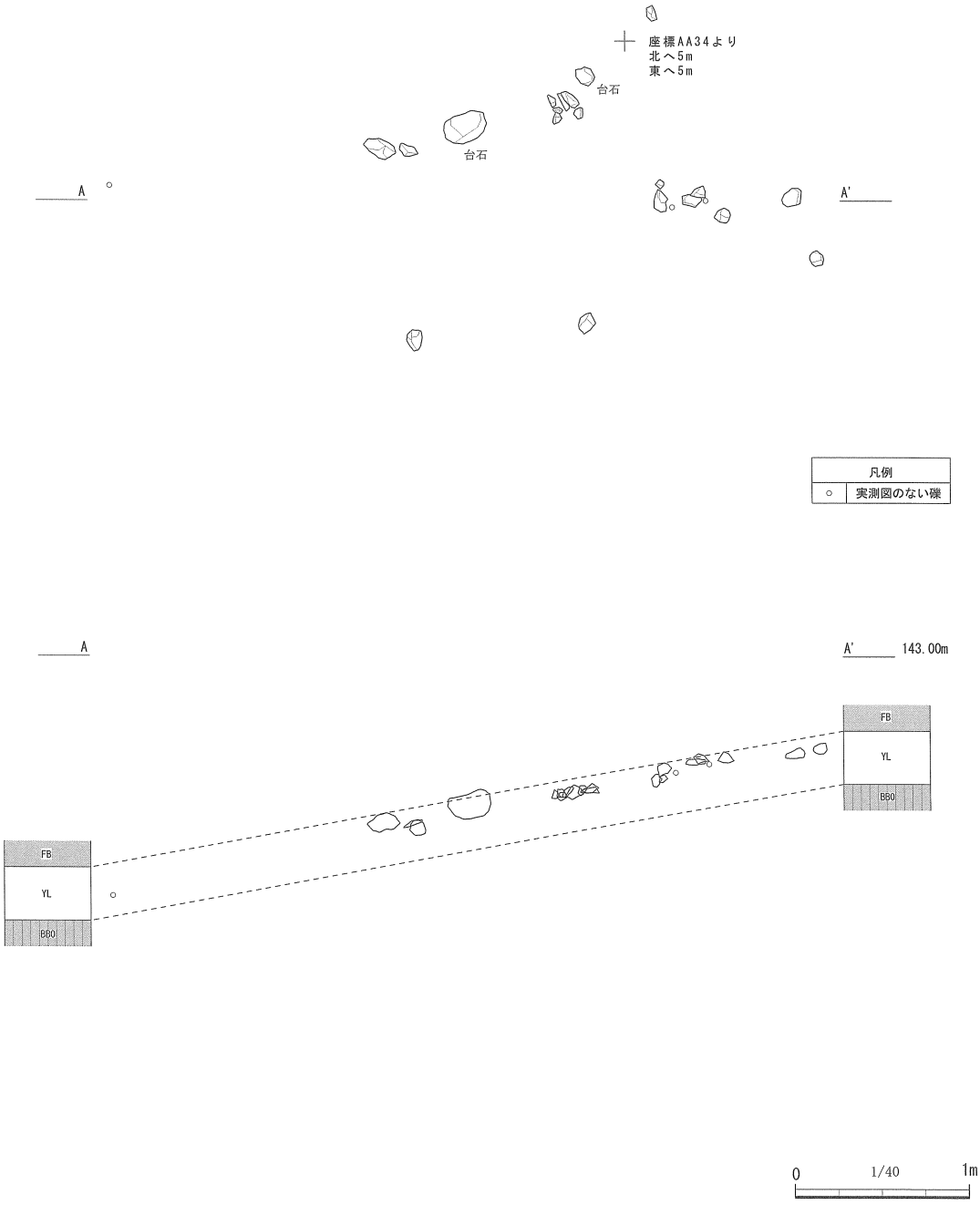
第310図　第IX文化層　34号礫群



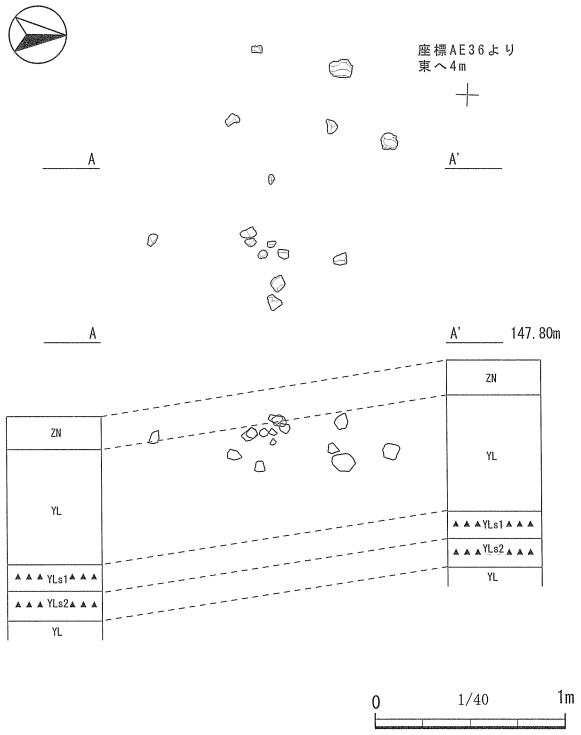
第311図　第IX文化層　30号礫群



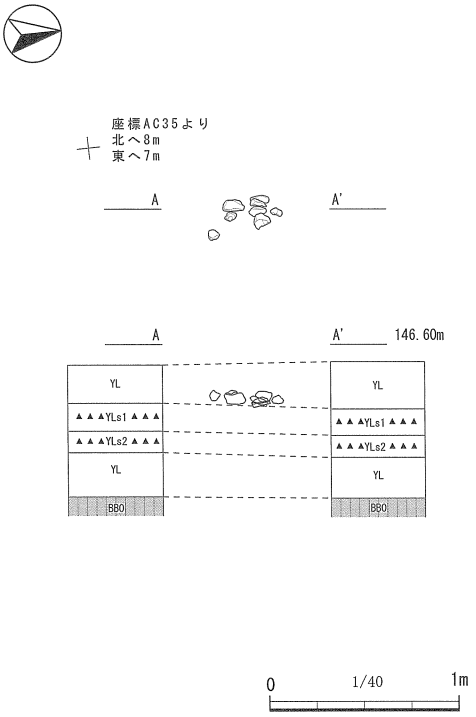
第312図　第Ⅹ文化層　礫分布



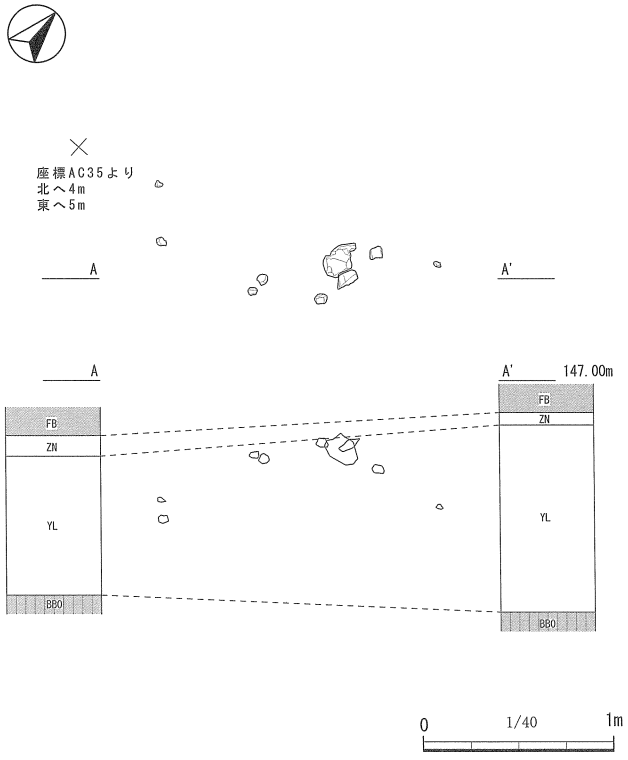
第313図　第Ｘ文化層　46号礫群



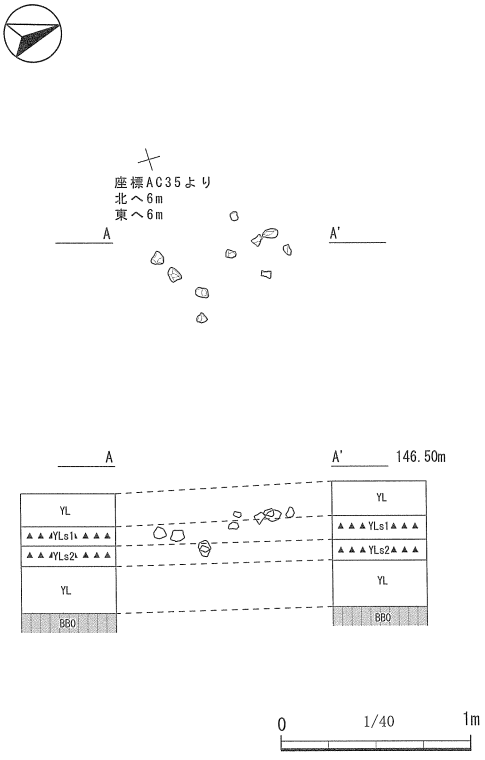
第314図　第Ｘ文化層　35号礫群



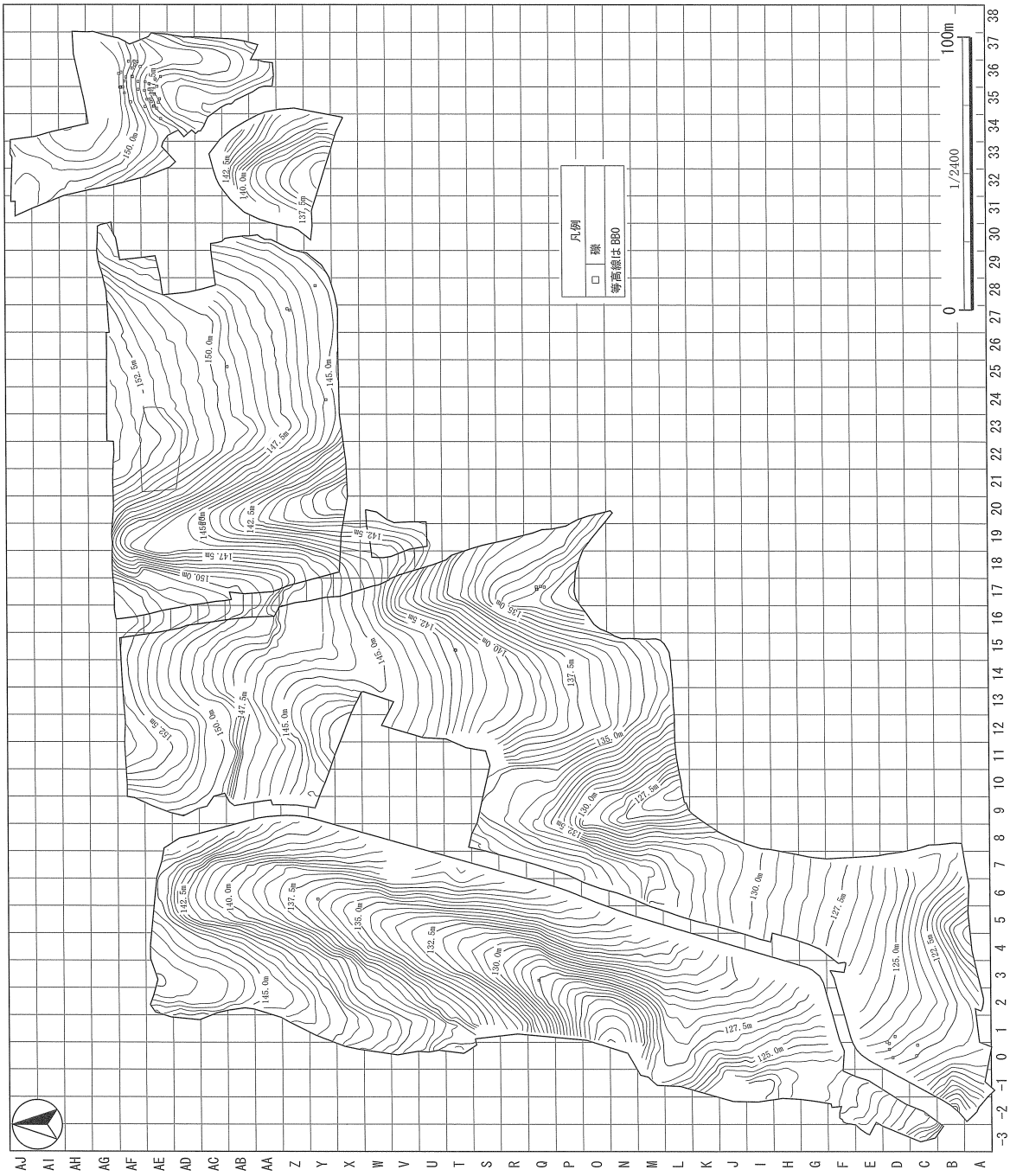
第315図　第Ｘ文化層　33号礫群



第316図　第Ｘ文化層　31号礫群



第317図　第Ｘ文化層　32号礫群



第318図　第Ⅷ-Ⅹ文化層　その他の礫分布

報 告 書 抄 録

ふ り が な	あきばばやしいせきいち
書 名	秋葉林遺跡Ⅰ　第二東名№25地点　(旧石器時代～縄文時代草創期編)
副 書 名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	沼津市－２（第１分冊）
シ リ ー ズ 名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シ リ ー ズ 番 号	第207集
編 著 者 名	阿部　敬
編 集 機 関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
所 在 地	〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23番20号　TEL　054-262-4261(代)
発 行 年 月 日	西暦2009年12月18日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町	遺跡番号					
あきばばやしいせき 秋葉林遺跡	沼津市青野字秋葉林831他	22203		世界測地系 35°11'09"	世界測地系 138°48'43"	1999.1 ～ 2001.2	63,240㎡	第二東名建設事業
				日本測地系 35°08'43"	日本測地系 138°49'05"			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
秋葉林遺跡	散布地	旧石器時代BBⅦ～休場層上部までに10枚の文化層	礫群55基	石器（尖頭器/ナイフ形石器類/切出形石器/端削器/側削器/彫器/角錐状石器/二次加工剥片/微細剥離痕剥片/彫器/削片/剥片/砕片/石刃/細石刃/石核/石刃核/細石刃核/楔形石器/磨石/敲石/台石）	後期旧石器時代初頭から終末の重層的石器製作址
	散布地	縄文時代草創期		石器（有舌尖頭器を含む尖頭器類）	

要約	**要約**　後期旧石器時代初頭から縄文時代草創期の石器群が検出された。旧石器時代ではAT以下で5枚、上位で5枚の文化層を識別。BBⅦに包含される第Ⅰ文化層はホルンフェルスの石核と剥片石器群から成る後期旧石器時代初頭の貴重な石器群。AT上位では、とくにYLLで検出された第Ⅷ文化層が、信州系黒曜石製の涙滴形を呈する横打剥片製側縁加工ナイフ形石器と柳葉形を呈する石刃製側縁加工ナイフ形石器から成り、砂川期への移行段階と推定される。YLUからFBで検出された細石刃石器群は神津島系黒曜石製を主体とし、黒曜石の野岳・休場型細石刃核とホルンフェルスの船野型細石刃核も検出された。縄文時代草創期は、土器は検出されていないが、有舌タイプを含む多量の尖頭器類で構成される。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第207集

秋　葉　林　遺　跡　Ⅰ

第二東名No.25地点

（旧石器時代～縄文時代草創期編）

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

沼津市－２

（第１分冊）

平成21年12月18日発行

編集・発行　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL 054－262－4261㈹
FAX 054－262－4266

印　刷　所　松本印刷株式会社
〒421-0303　静岡県榛原郡吉田町片岡2210
TEL 0548－32－0851㈹